

# **Oracle® WebCenter Sites**

管理者ガイド

11g リリース 1 (11.1.1)

部品番号 : B69409-01

2012 年 4 月

Oracle® WebCenter Sites: 管理者ガイド, 11g リリース 1 (11.1.1)

部品番号 : B69409-01

原本名 : Oracle® WebCenter Sites: Administrator's Guide, 11g Release 1 (11.1.1)

原本主著者 : Sean Cearley

原本協力者 : Kannan Appachi, Ravi Khanuja, Tatiana Kolubayev, Melinda Rubenau, Bonnie Sedotto

Copyright © 2012 Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次の Notice が適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are "commercial computer software" or "commercial technical data" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle America, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このソフトウェアまたはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション ( 人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む ) への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、それを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性 (redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアまたはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

Oracle および Java は Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、他社の商標の可能性がありま。

Intel および Intel Xeon は Intel Corporation の商標または登録商標です。すべての SPARC の商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc. の商標または登録商標です。AMD、Opteron、AMD ロゴ、AMD Opteron ロゴは、Advanced Micro Devices の商標または登録商標です。UNIX は、X/Open Company, Ltd のライセンスによる登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

# 目次

<b>このガイドについて</b>	<b>17</b>
対象読者	18
関連ドキュメント	18
このガイドの構成	18
このガイド内の図	19
表記規則	19
サード・パーティのライセンス	19

## 第 1 部 概要

<b>1 概要</b>	<b>23</b>
概要	24
オンライン・サイト	24
CM サイト	27
構成コンポーネント	28
要約	35
コンテンツ管理モデル	36
1:1 モデル	36
1:n モデル	36
x:n モデル	37
Oracle WebCenter Sites 環境	38
管理者の業務	39
コラボレーション	39
計画	40
開発	42
実装	44
このガイドの焦点	45
管理者の前提条件	45

<b>2 管理者のインタフェース</b>	<b>47</b>
Sites の管理者の種類	48
管理者のインタフェースへのログイン	49
管理者のタブ	53
「管理」タブ	55
「サイト管理者」タブ	58
「ワークフロー」タブ	58
非管理タブ	59
システム・デフォルト	59
サンプル・サイト	59
<b>3 サイト構成のガイドライン</b>	<b>61</b>
概要	62
サイトのレプリケーション・オプション	65
サイト構成の手順	65
前提条件	66
構成前の決定	66
開発システムでの構成手順	67
管理システムでの構成手順	68

## 第 2 部 CM サイトの構成手順

<b>4 ACL およびロールの使用</b>	<b>75</b>
概要	76
ACL	76
システム ACL	79
サンプル ACL	79
カスタム ACL	79
ACL の使用	80
新しい ACL の作成	80
カスタム ACL の編集	82
カスタム ACL の削除	83
カスタム表への ACL の割当て	84
WebCenter Sites ページ (SiteCatalog ページ・エントリ) への ACL の割当て	85
ACL 制限エラー・メッセージの設定	88
ロール	88
システム・ロール	89
サンプル・ロール	89
カスタム・ロール	89
ロールの使用	89
ロールの作成	89
ロールの編集	90
ロールの削除	90



<b>5 ユーザー・プロファイルおよび属性の構成</b>	<b>93</b>
概要	94
ユーザー管理操作	94
ネイティブの WebCenter Sites ユーザー・マネージャ	95
LDAP プラグイン	95
WebCenter Sites でのユーザーの構成	95
ユーザー・アカウントでの作業	96
新しいユーザーの作成	96
一般的なユーザー・タイプの作成	98
ユーザーの編集	103
システムからのユーザーの削除	103
ユーザー・プロファイルとユーザー属性の操作	105
ユーザー・プロファイルの作成および編集	105
ユーザー・プロファイルの削除	106
ユーザー属性の編集、追加および削除	106
<b>6 外部セキュリティの設定</b>	<b>109</b>
概要	110
ACL とセキュリティ	110
DefaultReader、secure.CatalogManager および secure.TreeManager	111
BlobServer とセキュリティ	112
セキュリティの目的	112
セキュリティの実装	113
セキュリティ設定を構成するプロパティ	113
ユーザーとパスワード	114
SSL とデジタル証明	115
URL と Web サーバー ( 配信システムのみ )	115
Sites フォームとページ ( 配信システムのみ )	115
セキュリティのテスト	117
すべてのシステムに対するセキュリティ・テスト	117
<b>7 CM サイトのアセンブル</b>	<b>119</b>
概要	120
サイトの使用	120
サイトの作成	120
サイトの構成情報の取得	123
サイトの編集	125
サイトの削除	125
サイト・ユーザーの割当てと管理	127
ユーザーへのサイトのアクセス権限の付与 ( ユーザーへのロールの割当て )	127
サイト・ユーザーの表示と、ロールの再割当て	130
サイトからのユーザーの削除	130
アセット・タイプの有効化と管理	131
サイトに対するアセット・タイプの有効化	131
サイトからのアセット・タイプの削除	134
ユーザー・インタフェースの編集と管理	135

<b>8 CM サイト・コンポーネントへのアクセスの管理</b>	<b>137</b>
概要	138
スタート・メニューによるアセット・タイプへのアクセスの管理	138
スタート・メニュー・アイテム	139
スタート・メニュー・アイテムの作成	140
アセットへのアクセス権限の設定	152
権限の構造	153
認可のタイプ	154
要約	155
アクセス権限の設定	155
アセット・タイプのその他のオプションの構成	159
ツリーへのアクセスの管理 (管理者用インタフェースのみ)	160
ツリーの表示および非表示	161
ツリー・タブの作成	162
ツリー・タブの編集	165
ツリー・タブの削除	166
ツリー・タブの順序の変更	167
タブのノードに表示するアイテムの数の構成	168
<b>9 ワークフロー・プロセスの作成と管理</b>	<b>169</b>
概要	170
ワークフローの参加者	170
ワークフロー状態	170
ワークフロー・ステップ: 状態から状態へのアセットの移動	171
アセットに対する複数のパス	172
デッドロックの管理	173
ワークフロー・グループ	175
割当ての委任と消去	175
ワークフローへのアセットの配置	176
ワークフロー内にあるアセットへのアクセスの制限	176
期限	178
期限計算のスケジュール	179
ワークフロー・プロセスの終了方法	179
ワークフロー・プロセスの構成に必要なロール	180
ワークフロー・プロセスの計画	181
I. スケッチからの開始	181
II. ロールと参加者の決定	182
III. 電子メール・オブジェクト、アクションおよび条件の決定	183
IV. 状態の決定	191
V. ステップの決定	192
VI. 機能権限の決定	195
VII. 追加のワークフロー・プロセスの詳細の決定	200
ワークフロー・プロセスの構成	200
概要	201
電子メール・オブジェクトの設定	202
ワークフロー・アクションと条件の設定	204
時間指定アクション・イベントの設定	207
状態の設定	209

ワークフロー・プロセスの設定.....	212
ワークフロー・プロセスのテスト.....	224
作業の移動 .....	226
ワークフローの割当ての消去.....	226
<b>10 CM サイトのレプリケート.....</b>	<b>229</b>
サイト・ランチャの概要 .....	230
レプリケーションの準備.....	230
レプリケーション要件へのソース・サイトの適合.....	230
新規サイトの計画.....	231
サイトのレプリケーション手順 .....	235
レプリケーション後のタスクとガイドライン.....	239

## 第 3 部 エクスポートおよびミラーリングのパブリッシュ

<b>11 Oracle WebCenter Sites を使用したパブリッシュ .....</b>	<b>243</b>
概要 .....	244
パブリッシュ方法.....	245
パブリッシュの宛先.....	247
承認システム.....	248
パブリッシュ・スケジュール.....	249
パブリッシュ・セッションで行われる処理.....	250
パブリッシュ・セッションに関する情報の取得 .....	251
<b>12 承認システム .....</b>	<b>253</b>
概要 .....	254
依存性分析の概要.....	255
用語と定義.....	258
承認：パブリッシュする意図とパブリッシュする権限の対比.....	258
承認依存性.....	260
承認状態.....	265
依存性分析のルール.....	269
承認依存性と親子関係.....	269
ディスクへのエクスポートのパブリッシュ.....	270
サーバーへのミラーリングのパブリッシュおよび XML への エクスポート.....	272
コンテンツのバージョンの一致の保証.....	273
パブリッシュされたコンテンツの評価.....	278
包括的なシナリオ .....	279
リファレンス：承認状態 .....	283
<b>13 ディスクへのエクスポートのパブリッシュの様々なトピックおよび 承認プロセス .....</b>	<b>285</b>
ディスクへのエクスポートのパブリッシュの用語.....	286
ページ.....	286
パブリッシュ・キー.....	286

パブリッシュ・キュー.....	287
プライマリ・アセット.....	287
承認およびディスクへのエクスポートのパブリッシュ.....	287
承認テンプレート.....	288
承認キュー.....	288
承認依存性.....	288
ディスクへのエクスポートのパブリッシュ.....	290
パブリッシュ時テンプレート.....	290
開始ポイント.....	290
構成依存性.....	290
よくある質問.....	291
承認テンプレートはどのように選択すればよいですか.....	291
データ・モデル依存性は何か関係ありますか.....	291
パブリッシュ時の構成依存性が追跡されるのはなぜですか.....	291
動作と機能.....	292
例 1: テンプレート依存性.....	292
例 2: 参照依存性.....	293
承認テンプレートとパブリッシュ時テンプレートが異なる場合.....	294
例 1:.....	294
例 2:.....	295
例 3:.....	295
サンプル・テンプレート.....	297
<b>14 ディスクへのエクスポートのパブリッシュ・プロセス.....</b>	<b>299</b>
ディスクへのエクスポートのページのレンダリング.....	300
ディスクへのエクスポートのパブリッシュの動作.....	300
パスの命名規則.....	302
エクスポート・パス変数と SIMPLEDIR.....	302
エクスポート・パスの構成.....	304
エクスポートされたファイル内のリンクのパス.....	308
ファイルの命名規則.....	308
エクスポート開始ポイント.....	312
ディスクへのエクスポートのパブリッシュに対するシステム構成.....	313
手順 1. バッチ・ユーザー・アカウントの作成 (存在しない場合).....	313
手順 2. ルート・エクスポート・ディレクトリの指定.....	315
手順 3. エクスポート先の構成.....	316
手順 4. Web サーバーの URL 接頭辞のマッピング.....	322
手順 5. エクスポート開始ポイントの作成.....	322
手順 6. アセットの承認.....	325
手順 7. 結果のパブリッシュおよびテスト.....	325
手順 8: スケジュールの設定.....	326
<b>15 サーバーへのミラーリングのパブリッシュ・プロセス.....</b>	<b>327</b>
サーバーへのミラーリングのパブリッシュ操作方法.....	328
サーバーへのミラーリングのパブリッシュを構成する前に.....	330
ユーザーとサーバーへのミラーリングのパブリッシュ.....	330
CacheManager.....	331
ミラーリング先の構成.....	331

ミラーリング先の構成を使用する場合.....	331
サーバーへのミラーリングのパブリッシュに対するシステム構成.....	332
手順 1: バッチ・ユーザー・アカウントの作成 (存在しない場合).....	333
手順 2: 配信システムの設定.....	333
手順 3: ソース・システムでのミラー・ユーザーの識別.....	334
手順 4: ソース・システムでのローカル・プロキシ・サーバーの識別 (存在する場合).....	335
手順 5: ミラーリング先の作成.....	336
手順 6: 宛先の初期化.....	340
手順 7: ミラーリング先の構成.....	342
手順 8: アセットの承認.....	345
手順 9: アセットのパブリッシュ.....	345
手順 10: 結果のテスト.....	345
手順 11: スケジュールの設定.....	346
手順 12: 配信システムでのアセットの無効化の解除.....	347
パフォーマンス向上のための承認問合せ.....	347
配信サイト・システムからのログの取得.....	349
<b>16 XML へのアセットのエクスポートのパブリッシュ・プロセス.....</b>	<b>351</b>
XML へのアセットのエクスポートのパブリッシュ方法.....	352
XML 出力.....	352
XML へのアセットのエクスポートに対するファイルの命名規則.....	354
XML へのアセットのエクスポートに対するシステムの構成.....	354
手順 1: バッチ・ユーザー・アカウントの作成 (存在しない場合).....	354
手順 2: ルート・エクスポート・ディレクトリの指定.....	355
手順 3: XML へのアセットのエクスポートの宛先の構成.....	355
手順 4: アセットの承認.....	357
手順 5: 結果のパブリッシュとテスト.....	357
手順 6: スケジュールの設定.....	358
<b>17 他のパブリッシュ手順.....</b>	<b>359</b>
あるシステムから別のシステムへのサイトの移行.....	360
開発システムから管理システムへのサイトの移動.....	360
配信システムへのサイトの移動.....	361
複数アセットの承認.....	362
宛先の作成.....	363
宛先の編集.....	363
宛先の削除.....	365
エクスポート開始ポイントの作成.....	365
パブリッシュ・イベントのスケジュール.....	365
スケジュールの略称の読取り.....	369
パブリッシュ・イベントの編集.....	370
スケジュールのオーバーライド.....	371
承認テンプレートまたはプレビュー・テンプレートの割当て.....	371
「パブリッシュ・コンソール」でのセッションの監視.....	374
パブリッシュの準備状況の検証.....	375
パブリッシュ履歴情報の管理.....	376
すべての承認済アセットのパブリッシュ.....	378

トラブルシューティング.....	379
パブリッシュ・システムのエラー・メッセージについて.....	379
数値メッセージ.....	380
システムまたは構成の問題を示す他のインジケータ.....	384

## 第 4 部 リアルタイム・パブリッシュ

<b>18 リアルタイム・パブリッシュの概要.....</b>	<b>389</b>
リアルタイム・パブリッシュの概要.....	390
リアルタイム・パブリッシュの動作.....	395
<b>19 リアルタイム・パブリッシュ・プロセスの構成.....</b>	<b>399</b>
概要.....	400
リアルタイム・パブリッシュに対するシステムの構成.....	401
手順 1: バッチ・ユーザー・アカウントの作成 (存在しない場合).....	402
手順 2: 配信システムの設定.....	402
手順 3: プロキシ・サーバーが存在する場合のソース・システムでの 識別.....	404
手順 4: ソース・システムでのリアルタイム宛先定義の作成.....	405
手順 5: 宛先データベースの初期化.....	409
手順 6: 宛先データベースへのサイト構成データのミラーリング.....	411
手順 7: パブリッシュ・プロセスのテスト.....	414
手順 8: パブリッシュされたサイトのテスト.....	414
手順 9: スケジュールの設定.....	416
手順 10: 配信システムでのアセットの無効化の解除.....	416
新規リアルタイム宛先定義の追加.....	417
サイト構成データの同期.....	418
パフォーマンスの強化.....	418
<b>20 リアルタイム・パブリッシュ・モードの使用.....</b>	<b>419</b>
完了および遅延パブリッシュ.....	420
パブリッシュ・コンソール.....	420
アクティブなパブリッシュ・セッションの使用.....	421
パブリッシュ・セッションの監視.....	421
遅延パブリッシュ・セッションの再開.....	424
パブリッシュ・セッションの取消し.....	427
スケジュール済パブリッシュ・セッションの使用.....	430
パブリッシュ・スケジュールの表示と編集.....	430
以前のパブリッシュ・セッションの使用.....	431
以前のパブリッシュ・セッションの表示.....	432
パブリッシュ・セッションの再実行.....	433
パブリッシュ・ログの使用.....	435
ログの表示と検索.....	435
ログのダウンロード.....	439
パブリッシュ履歴の削除.....	440

<b>21 オンデマンド・パブリッシュとアセットの非承認</b> .....	<b>443</b>
オンデマンド・パブリッシュの使用方法 .....	444
選択したアセットをパブリッシュ・セッションに対して非承認にする .....	449

## 第 5 部 システム構成手順

<b>22 ユーザー・インタフェースの構成</b> .....	<b>457</b>
WebCenter Sites インタフェースのロケールの設定 .....	458
Sites ユーザー向けのシステム・デフォルト・ロケール .....	458
システムのロケール・プロパティ .....	459
単一言語の制限 .....	461
ロケールとアセット・タイプ .....	461
ロケールと記事アセット・タイプ .....	462
サイト・デスクトップ .....	462
概要 .....	463
サイト・デスクトップの Word アセット・タイプの構成 .....	465
ユーザー・アカウントとサイト・デスクトップ .....	471
サイト・デスクトップのクライアント・アプリケーションの インストール .....	472
クライアント・アプリケーションに対するロケールの指定 .....	472
サイト・デスクトップ構成のテスト .....	473
Word アセット用 Word テンプレートの構成 .....	474
サイト DocLink .....	475
概要 .....	475
サイト DocLink のアセット・タイプの構成 .....	476
ユーザーとサイト DocLink .....	482
サイト DocLink のクライアント・アプリケーションのインストール .....	482
サイト DocLink 構成のテスト .....	483
Web モード .....	483
Web モードの有効化 .....	484
プレビューに対する個別のブラウザ・セッションの維持 .....	485
<b>23 Lucene 検索エンジンの構成</b> .....	<b>487</b>
概要 .....	488
検索のための索引付け機能 .....	488
WebCenter Sites の検索機能 .....	488
検索索引の設定 .....	491
Lucene 検索エンジンの有効化 .....	492
検索索引へのアセット・タイプの追加 .....	492
アセット・タイプ索引の属性の構成 .....	495
バイナリ・ファイルの索引付け .....	497
Lucene 検索エンジンの無効化 .....	499
検索索引の維持 .....	499
索引付けの一時停止と再開 .....	500
索引の再作成 .....	503
索引データの削除 .....	505

検索索引の問合せコードの記述.....	507
---------------------	-----

## 24 リビジョン追跡 ..... 509

概要 .....	510
トラッカ表とストレージ・ディレクトリ.....	510
RTInfo 表.....	511
リビジョン追跡と 2 つのアセット・モデル.....	511
暗黙的チェックインと明示的チェックイン、および明示的 チェックアウト.....	512
リビジョン追跡とアセット以外の表.....	512
バージョンの数.....	513
リビジョン追跡の有効化 .....	514
アセットに対するリビジョン追跡の有効化.....	514
アセット以外の表に対するリビジョン追跡の有効化.....	514
リビジョン追跡設定の編集.....	515
リビジョンの削除.....	516
リビジョン追跡の無効化 .....	518
アセット・タイプのリビジョン追跡の無効化.....	518
アセット以外の表に対するリビジョン追跡の無効化.....	519
リビジョンのロック解除.....	519
アセットに対するチェックアウトの消去.....	520
アセット以外の表のバージョンのロック解除.....	520
アセット以外の表に対する追加リビジョン追跡機能.....	521
ロック.....	521
コミット.....	521
解放.....	522
ロールバック.....	522
履歴.....	522

## 第 6 部 パフォーマンス拡張機能

## 25 inCache フレームワーク ..... 525

inCache とは .....	526
inCache の仕組み .....	526
ノードの再起動.....	528
リアルタイム・パブリッシュ時のページの再生成.....	529
ダブルバッファ・キャッシング.....	529
リモートの Satellite Server の inCache 機能 .....	530
ページ伝播.....	530
バックグラウンドでのページの再生成.....	530
要約.....	530
次の手順.....	530



<b>26 inCache によるページのキャッシング</b>	<b>531</b>
概要	532
inCache によるページ・キャッシングのためのシステムの構成	533
チューニング・オプション	538
ディスク・キャッシュのストライプ化	538
リアルタイム・パブリッシュ時のページの再生成の構成	539
ページ伝播の設定	541
バックグラウンドでページレットを再生成するための構成	544
<b>27 inCache によるアセットのキャッシング</b>	<b>545</b>
アセットのキャッシングの概要	546
AssetCache コンテナ	546
アセットのキャッシング操作	548
アセットのロード	548
アセットのキャッシングと inCache のページ・キャッシングの比較	550
AssetCache のフラッシュ	551
アセットのキャッシングのタイプ	551
アセットのキャッシングのカスタマイズ	552
アセットのキャッシングの無効化	553
キャッシュ管理ツール	553

## 第 7 部 診断ユーティリティ

<b>28 システム・ツール</b>	<b>557</b>
Log4j の構成	558
Apache log4j の設定	558
ログ出力の表示	559
ログ出力レベルの変更	561
新しいログ出力の追加	563
システム情報	565
WebCenter Sites 情報	565
データベース情報	568
スレッド情報	571
キャッシュ管理	573
「概要」画面	574
「ページ」画面	576
「依存性」画面	577
「アセット・キャッシュ」画面	578
「クラスタ情報」画面	579
ログ・ビューア	579
ログの表示	580
ログの末尾の表示	581
ログのダウンロード	581
ログの検索	581
ファイル・システムのテスト	584
結果セットのキャッシュ	589

inCache を使用した結果セットのキャッシングの有効化と構成.....	589
キャッシュ情報の表示.....	590
キャッシュの操作.....	593

## 付録

<b>A. システム・デフォルト .....</b>	<b>597</b>
ACL .....	598
権限.....	598
ACL へのアクセス.....	599
システム ACL .....	600
デフォルト・ユーザーの ACL .....	604
カスタム・ユーザー用の必須の ACL .....	605
システム・ロール .....	606
システム・アセット・タイプ .....	607
デフォルトのツリー・タブ .....	610
<b>B. システム・データ : WebCenter Sites データベース .....</b>	<b>611</b>
キャッシュ管理の表 .....	612
承認システムの表.....	612
パブリッシュ・システムの表 .....	613
ワークフローの表.....	613
ベーシック・アセットの行 .....	614
フレックス・アセットの表.....	614
訪問者の表 (Oracle WebCenter Sites: Engage).....	615
属性の表の管理.....	616
セッション・オブジェクトの表の管理 (scratch) .....	617
不要な .class ファイルの削除.....	617
<b>C. LDAP-統合 Sites システムでのユーザー、サイト、およびロールの管理 ....</b>	<b>619</b>
概要 .....	620
LDAP スキーマ.....	620
サイトおよびロール管理に対する LDAP の接続性.....	621
LDAP ユーザーと LDAP サーバーに対する彼らの権限.....	622
LDAP 統合操作.....	623
ユーザー管理操作.....	623
ACL の作成.....	625
ACL の編集.....	626
ACL の削除.....	626
表への ACL の割当て .....	626
WebCenter Sites ページ (SiteCatalog ページ・エントリ) への ACL の 割当て.....	627
ユーザーの作成 (アクセス権限のための ACL の付与) .....	628
ユーザーの編集.....	628
ユーザーの削除.....	629
ユーザー・プロファイルの作成 / 編集 .....	630

ユーザー・プロファイルの削除.....	630
ユーザー属性の作成.....	631
ユーザー属性の編集 / 削除 .....	631
サイトおよびロールの管理操作 .....	632
フラットスキーマ LDAP サーバーでの操作.....	632
階層スキーマ LDAP サーバーでの操作.....	633
サイトの作成.....	634
サイトの編集.....	635
サイトの削除.....	635
サイトのアクセス権のユーザーへの付与.....	636
サイトへのユーザーのアクセス権の削除.....	637
ロールの作成.....	638
ロールの編集.....	639
ロールの削除.....	639
 手順の索引 .....	641
 索引 .....	645



## このガイドについて

このガイドは、Admin インタフェースからアクセスできる Oracle WebCenter Sites 管理者環境について説明しています。まず、Oracle WebCenter Sites の概要、そのアドオン製品、コンテンツ管理の概念、およびコンテンツ管理 (CM) フレームワークの作成のためのプロセスから説明します。

これ以降で、管理者の主なタスク、つまり作成者、編集者およびその他のコンテンツ・プロバイダがコンピュータ上でコンテンツを作成および管理し、ワークフローでコラボレートし、さらにオンライン・サイトにパブリッシュできるように、Oracle WebCenter Sites を構成する方法について説明します。その他の項では、Oracle WebCenter Sites インストールのチューニングおよび維持に使用する Oracle WebCenter Sites のデータベースおよびユーティリティについて説明します。

このガイドに記載されている Oracle WebCenter Sites アプリケーションは、以前の FatWire 製品です。

- Oracle WebCenter Sites は、以前は *FatWire Content Server* と呼ばれていたアプリケーションの現在の名前です。このガイドでは、Oracle WebCenter Sites を *WebCenter Sites* と呼ぶこともあります。
- Oracle WebCenter Sites: *Satellite Server* は、以前は *FatWire Satellite Server* と呼ばれていたアプリケーションの現在の名前です。このガイドでは、Oracle WebCenter Sites: *Satellite Server* を *Satellite Server* と呼ぶこともあります。
- *Sites Explorer* は、以前は *FatWire CS Explorer* と呼ばれていたアプリケーションの現在の名前です。
- *サイト DocLink* は、以前は *CS-DocLink* と呼ばれていたアプリケーションの現在の名前です。このガイドでは、*サイト DocLink* を *DocLink* と呼ぶこともあります。
- *サイト・デスクトップ* は、以前は *FatWire CS-Desktop* と呼ばれていたアプリケーションの現在の名前です。このガイドでは、*サイト・デスクトップ* を *デスクトップ* と呼ぶこともあります。
- Oracle WebCenter Sites: *Engage* は、以前は *FatWire Engage* と呼ばれていたアプリケーションの現在の名前です。このガイドでは、Oracle WebCenter Sites: *Engage* を *Engage* と呼ぶこともあります。

- *Oracle WebCenter Sites: Web* エクスペリエンス管理フレームワークは、以前は *FatWire Web* エクスペリエンス管理フレームワークと呼ばれていたアプリケーションの現在の名前です。このガイドでは、*Oracle WebCenter Sites: Web* エクスペリエンス管理フレームワークを **WEM** フレームワークと呼ぶこともあります。

## 対象読者

このリファレンスは、特に管理者を対象としています。管理者は、その企業のビジネス・ニーズを明確に把握し、開発プロセスにおける管理者の役割についての基本を理解しているものと想定しています。このガイドは、データ・モデル、プレゼンテーション・テンプレート、セキュリティ・システムおよびキャッシュ・オプションを設計およびコーディングすることにより管理者とコラボレートする開発者にも役立ちます。

管理者にはプログラミングの経験は必要ありませんが、技術的なバックグラウンドはあると見なされます。一方、開発者には、Java、JavaScript ページ、XML および HTML の知識が必要です。

## 関連ドキュメント

詳細は、次のドキュメントを参照してください。

- *Oracle WebCenter Sites ユーザーズ・ガイド*
- 『*Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド*』
- *Oracle WebCenter Sites* プロパティ・ファイル・リファレンス

## このガイドの構成

このガイドの情報はいくつかの部で構成され、各部には、特定のタスクまたは機能に関連する一連の章があります。

[パート 1「概要」](#)では、*Oracle WebCenter Sites* の概要、そのアドオン製品、使用するインタフェース、およびコンテンツ管理 (CM) フレームワークの作成のためのプロセスについて説明します。

[パート 2「CM サイトの構成手順」](#)では、*Oracle WebCenter Sites* の管理環境について説明します。ここでは、ユーザーの作成および管理、コンテンツ管理サイト (オンライン・サイトのバックエンド) の構成、ユーザーの CM サイトへのアクセスの管理、ワークフロー・プロセスの作成およびサイトのレプリケートの手順を説明します。

[パート 3「エクスポートおよびミラーリングのパブリッシュ」](#)では、*Oracle WebCenter Sites* のパブリッシュ・システムと承認システムについて説明します。特に、ディスクへのエクスポートのパブリッシュについて詳しく説明します。この部では、サーバーへのミラーリング、ディスクへのエクスポートおよび XML へのエクスポートの各パブリッシュ・プロセスの構成手順についても説明します。

[パート 4「リアルタイム・パブリッシュ」](#)では、*Oracle WebCenter Sites* のリアルタイム・パブリッシュ方法について説明します。リアルタイムの宛先の構成手順や、リアルタイム・パブリッシュ・インタフェースの使用方法が含まれます。

パート5「システム構成手順」では、ユーザー・インタフェースの構成、パブリッシュ・システムの管理、リビジョン追跡および検索エンジンの実装について説明します。

パート6「パフォーマンス拡張機能」では、inCache フレームワークと、ページおよびアセットのキャッシングをサポートするフレームワークの構成について説明します。

パート7「診断ユーティリティ」では、管理者が Oracle WebCenter Sites システムを診断できるようにするシステム・ツールについて説明します。たとえば管理者は、log4j ログの構成、ログ・ファイルのコンテンツの検索、ページ・キャッシュおよびアセット・キャッシュの管理、共有ファイル・システムのパフォーマンスのテストなどが可能です。

最後の部、「付録」には、システム・デフォルト、Oracle WebCenter Sites データベース、および LDAP 認証とデプロイメントのオプションに関するリファレンス情報が含まれています。

このガイドの最後には、標準的な索引のほかに、管理者のインタフェースから管理タスクを実行するための手順をすばやく見つけることのできる手順の索引があります。

このガイドを読む際には、Oracle WebCenter Sites プロパティ・ファイル・リファレンスのコピーを手元に置いておいてください。プロパティ・ファイル・リファレンスでは、このガイドで言及しているプロパティについて詳細に説明しています。

## このガイド内の図

このガイドの多くの手順では、その手順を完了するために使用するダイアログ・ボックスおよび類似ウィンドウのスクリーン・キャプチャを示しています。スクリーン・キャプチャは、手順を理解しやすくするために記載しています。パラメータ値、選択するオプション、製品バージョン番号など特定の情報を示すことは目的としていません。

## 表記規則

このガイドでは、次の表記規則を使用します。

- **太字**は、ユーザーが選択するグラフィカル・ユーザー・インタフェース要素を示します。
- *斜体*は、ドキュメントのタイトル、強調、またはユーザーが特定の値を指定する変数を示します。
- 等幅フォントは、ファイル名、URL、サンプル・コード、または画面に表示されるテキストを示します。
- 等幅太字フォントは、コマンドを示します。

## サード・パーティのライセンス

Oracle WebCenter Sites およびそのアプリケーションには、サード・パーティのライブラリが含まれています。詳細は、Oracle WebCenter Sites 11gR1: サード・パーティのライセンスを参照してください。





## 第 1 部

# 概要

この部では、Oracle WebCenter Sites、コンテンツ管理システム、基本的な概念と構成、実装方法について説明します。さらに、この部の各章では、Oracle WebCenter Sites インタフェースでオンライン・サイトをモデリングしたり、Oracle WebCenter Sites 環境で定期的に行う構成タスクを計画するためのガイドラインも提供します。

この部は、次の章で構成されています。

- [第 1 章「概要」](#)
- [第 2 章「管理者のインタフェース」](#)
- [第 3 章「サイト構成のガイドライン」](#)



## 第 1 章

# 概要

Oracle WebCenter Sites のコンテンツ管理システムへようこそ。この章では、Oracle WebCenter Sites 環境内の CM サイトについて説明します。サイトは、ビジネス・ユーザーが電子アセットを作成、管理し、これらを対象読者に配信するための作業場所である、オンライン・サイトのバック・エンドと考えられます。

管理者は、サイトの構成、レプリケート、日々の使用の管理など、業務全体にわたって CM サイトで作業を行います。これらは業務の重要な部分であるため、CM サイトとは何か、およびオンライン・サイトとどのように関連するのかを理解する必要があります。この章では概要を示します。

この章では、さらに、Oracle WebCenter Sites 環境での管理者の業務の概略を示し、構成タスクの計画のためのガイドラインを提供します。

この章は、次の項で構成されています。

- [概要](#)
- [オンライン・サイト](#)
- [CM サイト](#)
- [コンテンツ管理モデル](#)
- [Oracle WebCenter Sites 環境](#)
- [管理者の業務](#)
- [このガイドの焦点](#)
- [管理者の前提条件](#)

## 概要

Oracle WebCenter Sites の管理者としての業務は、オンライン・サイトの基礎 (特にバック・エンド) を築くことです。バック・エンドはそれ自体、Oracle WebCenter Sites インストール内のサイト (またはサイトのセット) です。このサイトは、ビジネス・ユーザーが電子アセットを作成、管理し、これらを対象読者に配信するための作業場所です。バック・エンドの構築には、ビジネス・ユーザーの構成、これらのユーザーのコンテンツ・エントリ・フォームやその他オーサリング・ツールへのリンク、およびオンライン・サイトをブラウザに表示するためのユーザーへのパブリッシュ・システムおよび配信システムの提供が含まれます。

バック・エンドが構成されると、そのユーザーはログオンしてコンテンツ・エントリ・フォームに入力します。入力したコンテンツは、Oracle WebCenter Sites データベース内の表に保存されます。配信の準備が整うと、コンテンツがプログラムによりデータベース表から取得され、書式設定されて、オンライン・サイトとしてブラウザに表示されます。図 1 および 2 に、サーバーへのミラーリングのパブリッシュ・シナリオを使用したプロセス・フローを示します。

このシナリオで、図 1 には、バック・エンドとして機能する最小単位 (Oracle WebCenter Sites データベースへの書込みおよびパブリッシュ / 配信システムの起動の権限を持つユーザー) が示されています。Oracle WebCenter Sites では、この単位を CM サイトとして定義します。Oracle WebCenter Sites は、オンライン・サイトのバック・エンドに対して構成できる CM サイトの数、またはサイトを構成する方法の数を制限しません。

Oracle WebCenter Sites 管理者は、CM サイトの構成、レプリケート、日々の使用の管理など、業務全体にわたって CM サイトで作業を行います。これらは業務における重要な部分であるため、CM サイトの定義方法、これらの構成方法、およびオンライン・サイトとどのように関連するのかを理解する必要があります。この章では概要を示します。

## オンライン・サイト

ほとんどのインターネット・ユーザーは、オンライン・サイトの定義を必要としませんが、Oracle WebCenter Sites によって支えられているオンライン・サイトがどのようなものであるかを説明することは重要です。この章の後半では、オンライン・サイトが CM サイトによってどのようにモデル化されるかを説明します。

Sites によって支えられているオンライン・サイトは、Oracle WebCenter Sites を介して組織が顧客、クライアントおよび一時的な訪問者といったターゲットとなる読者に表示するページのセットです。オンライン・サイトは、だれでもアクセスできるようにすることも、パスワードで保護されたサイトにすることもできます。プライベート・ドメイン内で厳密に運用し、企業イントラネットや部門内ネットワークなどのように完全に排他的なサイトにすることもできます。

その性質に関係なく、オンライン・サイトは、選択するモデルに応じて、単一の CM サイトまたは多数の CM サイトに由来します。すべての製品ガイドにおいて、オンライン・サイトという用語は一般的に Web サイトに言及するために使用されています。

図 1: CM サイト

このコンテンツは、ユーザーが次のコンテンツ・エントリ・フォームのいずれかを入力することで作成されました。

フォーム・モード: コンテンツ・エントリ・フォーム

**Article: 25 Nevada Resorts Serving Snow**

\*Name: 25 Nevada Resorts Serving Snow

Template: ArticleLayout

Category: Skiing articles

Headline: All 25 Nevada Resorts Serving Up Great Snow

Sub-headline: No sign of mild weather to slow down the Ski Season

Abstract: With the crisp cold temperatures, you know you are up north and r

Author: CASEY THOMAS

Post Date: Jan 10, 2012 2:25:03 PM

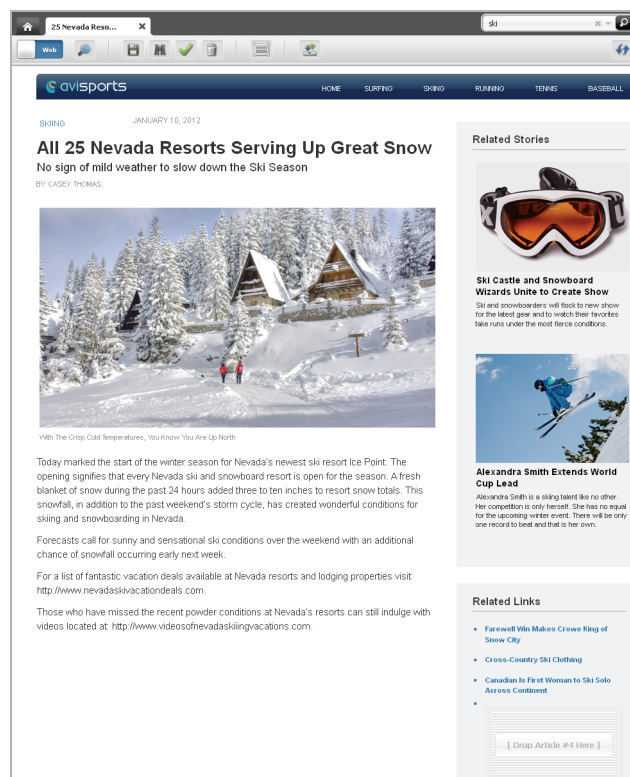
Main Image: Lodge

Body: Today marked the start of the winter season for Nevada's newest ski resort Ice Point. The opening signifies that every Nevada ski and snowboard resort is open for the season. A fresh blanket of snow during the past 24 hours added three to ten inches to resort snow totals. This snowfall, in addition to the past weekend's storm cycle, has created wonderful conditions for skiing and snowboarding in Nevada. Forecasts call for sunny and sensational ski conditions over the weekend with an additional chance of snowfall occurring early next week. For a list of fantastic vacation deals available at Nevada resorts and lodging properties visit: <http://www.nevadaskivacationdeals.com>. Those who have missed the recent powder conditions at Nevada's resorts can still indulge with videos located at: <http://www.videosofnevadaskiing-vacations.com>.

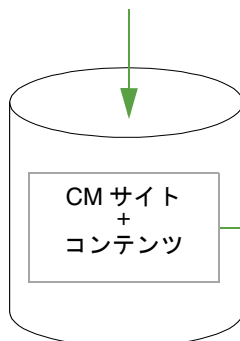
Related titles: Ski Castle and Snowboard Wizards Unite to Create Snow, Alexandra Smith Extends World Cup Lead

Related Links: Veteran Skier Says Goodbye, Cross-Country Ski Clothing, Canadian Is First Woman to Ski Solo Across Continent

Web モード: コンテンツ・エントリ・フォームの Web ページ・ビュー

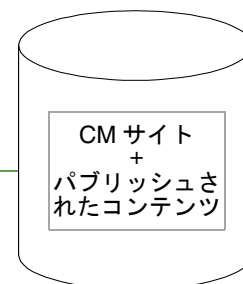


1. コンテンツ・エントリ・フォームに (フォーム・モードまたは Web モードで) 入力されたコンテンツは、(管理システムのデータベース内に) CM サイトのアセットとして格納されます。



管理システム・データベース

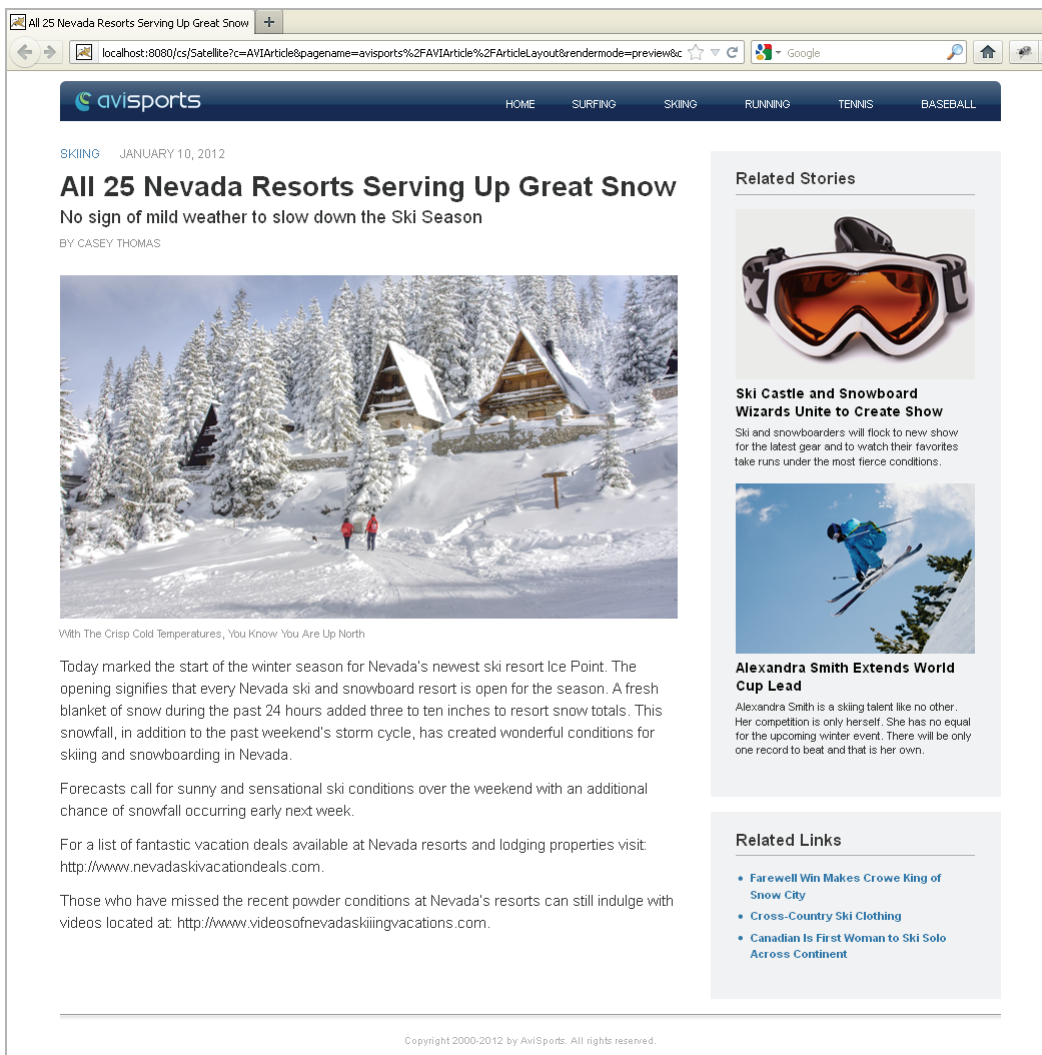
2. リアルタイム・パブリッシュの際に、CM サイトは配信システム・データベースに移行されます。コンテンツは配信システム・データベースにパブリッシュされます。



配信システムデータベース

図 2: オンライン・サイト

この単一ページのオンライン・サイトは、図 1 で示したアセットから作成されました。



3. パブリッシュされたコンテンツは、テンプレートにより書式設定およびレイアウトされて、オンライン・サイトに配信されます。

## CM サイト

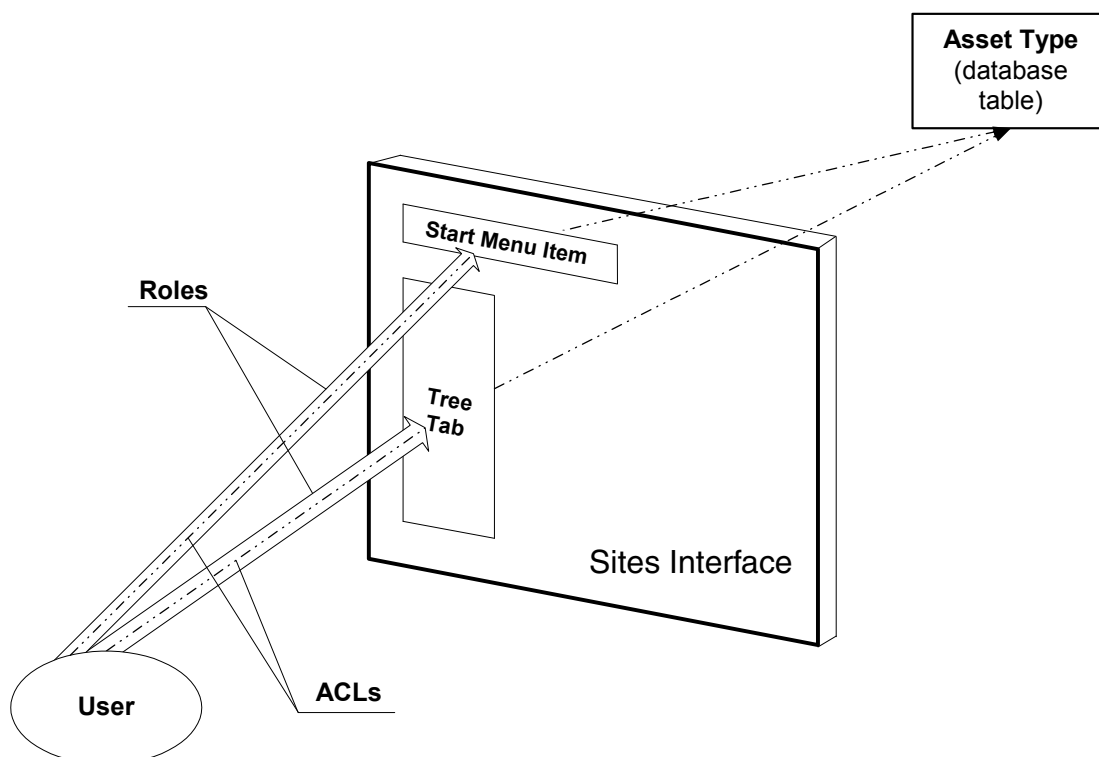
CM サイトは、Oracle WebCenter Sites 内のコンテンツ管理単位です。これは、オンライン・サイトのコンテンツのソースで、オンライン・サイト全体を表すことも、そのセクションのいずれかを表すこともできます。

### 注意

今後、サイトという用語が修飾語句なしで使用される場合、これは CM サイトを意味します。

サイトは、(1) オンライン・サイトの作成者および管理者を定義し、(2) 権限と必要なコンテンツ管理ツール (コンテンツ・エントリ・フォーム、コンテンツ・レンダリング・テンプレート、ワークフロー・プロセス、スタート・メニュー・アイテム、パブリッシュ方法および配信システム) を彼らに提供するために構成する必要があるオブジェクトです。サイトの構成プロセスには、サイト・コンポーネントの作成のみでなく、コンポーネント同士の関連付けも含まれます。アソシエーションを作成することによって、図 3 に示すようなサイトが定義されます。

図 3: CM サイト



サイトは名前 (これも管理者によって構成されます) で識別され、Oracle WebCenter Sites のデータベースに格納され、権限のあるユーザーのインタフェースにリストされます。適切なロールを持つユーザーは、サイトにアクセスできます。サイト内で、ロールは Oracle WebCenter Sites インタフェースの特定の機能 (スタート・メニュー・アイテムなど) へのユーザー・アクセスを管理し

ます。ACL はコンテンツ ( データベース表 ) に対するユーザーの権限を管理します。( ロールによってアクセス可能となった ) インタフェース機能を介して、ユーザーは ( ACL で定義された ) 権限を作動させることができ、特定のタイプのコンテンツを作成および管理するためのデータベース表での処理が可能です。

一般に、Oracle WebCenter Sites システムには、それぞれが機能および構成において固有の数多くのサイトがあります。ユーザーは、Oracle WebCenter Sites にログインする際に、作業するサイトを選択することも必要です。サイトは他のサイトから独立していることもあれば、共通のユーザー・セットがある場合には他のサイトとアセットを共有することもあります。

### 注意

このリリースで、Oracle WebCenter Sites は、サイト作成プロセスを高速化する、サイト・ランチャと呼ばれるサイト・レプリケーション・ユーティリティを提供します。サイトを最初から作成するのではなく、必要に応じて構築済のサイトをレプリケートし、そのレプリケートを修正して、Oracle WebCenter Sites 環境内で新しいサイトとしてスピンオフさせることができます。

## 構成コンポーネント

サイトの構成では、Oracle WebCenter Sites の管理者インタフェースを使用して、システム規模の構成プールにアクセスし、サイトを構成するコンポーネントを選択 ( または作成 ) して、コンポーネント同士を関連付け、それらが一緒に機能してオンライン・サイトまたはそのいずれかのセクションを生成できるようにします。

表 1 に、サイト・コンポーネントをリストします。これらのほとんどは必須です。オプションのコンポーネントは、ビジネス・ニーズやユーザーの好みによって異なります。開発者がコードベースのコンポーネントを担当し、管理者がその他すべてのコンポーネントを担当します。

サイト・コンポーネントは一般に複雑な構造で、特にデータ・モデルは複雑です。これについては、後続の項で説明します。データ・モデリングの詳細は、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』を参照してください。

表 1: サイト・コンポーネント

コンポーネント	必須	作成者	参照ページ
CM サイト定義	✓	Sites 管理者	29
データ・モデル	✓	開発者	29
ユーザー	✓	Sites 管理者	30
ロール	✓	Sites 管理者	32
スタート・メニュー・アイテム	✓	Sites または Sites の管理者	33
ワークフロー・プロセス	–	Sites 管理者	33
パブリッシュ・システム	✓	Sites 管理者	34



表 1: サイト・コンポーネント ( 続き )

コンポーネント	必須	作成者	参照ページ
ユーザー・インタフェース・オプション	－	Sites 管理者	34

## CM サイト定義

CM サイト定義は、CM サイトのコンポーネントの 1 つです。これは、サイト名とオプションの説明で構成され、どちらも管理者によって指定されます。サイト名は、オンライン・サイト、ビジネス・トピック、部門の業務またはその他のタイプのコンテンツを表すことができます。いずれの場合でも、サイト名によって、サイト内のユーザーが開発および保守を担当するビジネス・テーマが設定されます。

サイト名を指定すると、Oracle WebCenter Sites はそのインタフェース内のサイトを表すノードを作成します。さらに、サイトにコンポーネントをリンクするため、いくつかのデフォルト・サブノードを追加します。「アセット・タイプ」サブノードはサイトへのデータ・モデルのリンク用、「ユーザー」サブノードはサイトへのユーザーのリンク用で、ほかにオプションのユーザー・インタフェース、デスクトップと DocLink を有効にする 2 つのノードがあります。これらのコンポーネントについては、次の項で説明します。

コンテンツ・プロバイダにとって、サイトは表示制御メカニズムです。サイトによって、権限のあるユーザーは、Oracle WebCenter Sites インストール内の特定のコンテンツにアクセスできます。サイトが適切に構成されている場合、その名前はコンテンツ・プロバイダのインタフェースに表示され、コンテンツ・プロバイダはそのサイトを選択し、ロールおよび権限に従ってサイト内を移動できます。

## データ・モデル

データ・モデルはサイトのコンポーネントです。これは、アセット・タイプ (データベース表) と、コンテンツ・プロバイダが使用するため開発者によりコード化されたアセット・タイプ定義のセットで構成されます。開発者がコンテンツ・プロバイダに可能なかぎり幅広いコンテンツ管理オプションを備えられるように、Oracle WebCenter Sites では 3 種類のアセット・タイプをサポートしています。

- **コンテンツ・アセット・タイプ**: コンテンツ用にデザインごとに構造化されたリポジトリで、サイト定義で設定されたビジネス・テーマを反映しています。たとえば、「社会的な出来事」というサイトを定義した場合、適したコンテンツ・アセット・タイプは、サイト名が意味するテーマにふさわしいものであるため、「厳選された歴史上の瞬間」、「20 世紀最大の出来事」などになります。

開発者は、アセット・タイプからアセット・タイプ定義をコード化します。これらはコンテンツ・エントリ・フォームとして Sites インタフェースで表示され (図 1 のコンテンツ・エントリ・フォームなど)、そのフィールドでオンライン・サイトに配信する情報 (または、必要に応じて内部で使用するために保存する情報) をユーザーに要求します。フィールドのセットはアセット・タイプを定義し、ユーザーのフィールド・エントリはアセット (アセット・タイプのインスタンス) を定義します。

- デザイン・アセット・タイプ: テンプレート・アセットをコード化するために開発者によって使用され、コンテンツ・アセットをレンダリングします。(プレゼンテーション・コードをコンテンツと区別するため、テンプレート・アセットはコンテンツ・アセットと区別します。)
- 管理アセット・タイプ: コンテンツ・プロバイダがそのコンテンツを管理するために役立つ簡単な検索やデータベース問合せなどのツールを作成するため、開発者によって使用されます。

通常、開発者は作成したアセット・タイプをテストしてから管理者に渡し、管理者がこれらをサイト定義にリンクして(「アセット・タイプ」ノードより)、サイト構成プロセスの別の手順を実行できるようにします。

### 注意

Oracle WebCenter Sites は多くのデフォルト・アセット・タイプを提供し、開発者が独自のアセット・タイプを作成できるようにします。アセット・タイプ、その定義およびアセット自体は、Oracle WebCenter Sites データベースに表または表エントリとして格納され、このガイドでは大まかにコンテンツと呼ばれます。

データ・モデリングについては、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』を参照してください。管理者はこのガイドを読んで、アセット・タイプの基本を理解することをお勧めします。

## ユーザーとその表レベルの権限

ユーザーはサイト・コンポーネントです。このガイドでは、しばしばコンテンツ・プロバイダと呼ばれ、開発者のデータ・モデルを使用してコンテンツを作成および管理します。

コンテンツ・プロバイダは SME (対象分野の専門家) です。次のような場合があります。

- オンライン・コンテンツの作成者。コピーライターやデザイナーがこのグループに入ります。
- レビューア。他のユーザーが送信してきたコンテンツを確認して編集し、その品質を保証します。コンテンツ・レビューアには、送られてきたコピーやデザインをレビューおよび修正するアート・ディレクタやエディタなどが含まれます。
- コンテンツ・パブリッシャ。コンテンツがオンライン・サイトに配信される準備が整っていることを確認し、コンテンツの配信を承認します。チーフ・エディタがコンテンツ・パブリッシャとなる場合もあります。
- コンテンツ・マネージャ。作成、レビューおよびパブリッシュ・プロセスを監督します。

各コンテンツ・プロバイダは、ユーザー・アカウントにより Oracle WebCenter Sites に識別される必要があります。ユーザー・アカウントは、ユーザー名、パスワードおよび Oracle WebCenter Sites のセキュリティ・システムの基盤であるアクセス制御リスト (ACL) で構成されます。

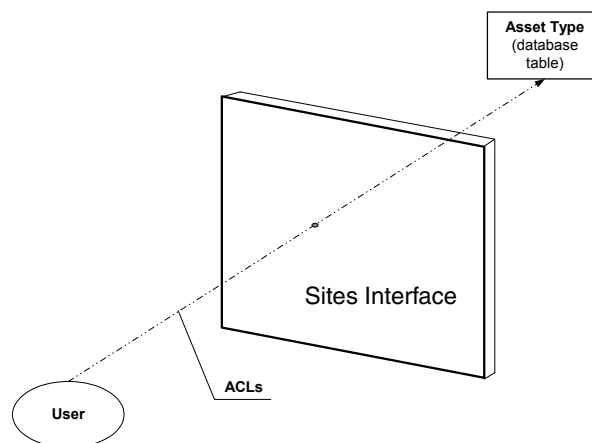
ACL はデータベース表に対する権限のセットです。同じ ACL が表とユーザーの両方に割り当てられると、権限 (読取り、書込みなど) が付与されます。ACL が

表とユーザーで共通ではない場合、表に対する権限はユーザーに付与されません。

たとえば、SystemUsers というシステム表には、ユーザー・アカウント情報が含まれています。表には、SiteGod、UserReader および UserEditor の 3 つの ACL が割り当てられています。ユーザーにいずれかの ACL (この例では UserReader) が割り当てられていると、ユーザーは表を読み取ることができます。同じユーザーに 2 つ目の ACL、UserEditor が割り当てられていると、そのユーザーは表を編集することもできます。ユーザーにどの ACL も割り当てられていない場合、そのユーザーに表に対する権限は付与されません。

ACL はユーザーに表を操作する **権限**を与えますが、ユーザーに表を操作する **手段**を与えるわけではないことに注意してください。たとえば、前のシナリオで、ユーザーの表の読取りおよび編集権限は、Oracle WebCenter Sites インタフェースの表示および編集機能を使用する権限になります。ただし、同じロールがユーザーと機能の両方に割り当てられていなければ、その機能はユーザーに表示されません。(ロールについては、次の項、[32 ページの「ロール」](#)を参照してください。)

ACLs give the user permission (but not the means) to operate on database tables



一般に、Oracle WebCenter Sites は次の 2 つのレベルで ACL を使用します。

- システム・セキュリティ・レベル: 認証機能を提供し、ハッカーが Oracle WebCenter Sites 環境に入れないようにします。
- インタフェース・レベル: データベース表に対するユーザー権限を制御し、権限が作動されるインタフェース機能を (表示ではなく) 使用できるかどうかを制御します。

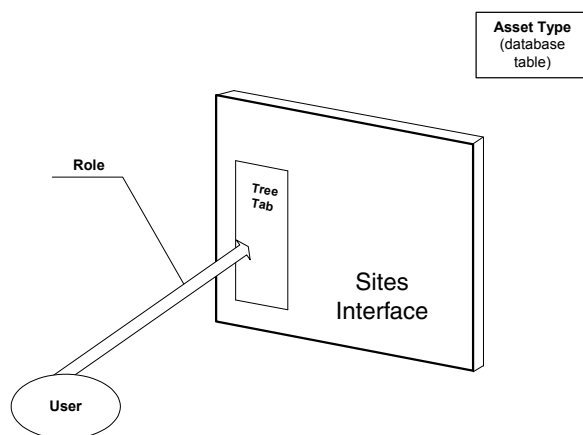
Oracle WebCenter Sites は多くのデフォルトのシステム ACL を用意しており、これらを事前にシステム表に割り当てます。必要に応じて、ACL を再利用することも、独自に構成してカスタム表に割り当てることもできます。ACL の詳細は、[第 4 章「ACL およびロールの使用」](#) および [付録 A「システム・デフォルト」](#) を参照してください。

## ロール

ACL がユーザーにデータベース表での操作権限を与える一方で、ロールはユーザーにデータベース表での操作手段を提供します。ロールは、ユーザーがサイトへのアクセス権を持つかどうか、および編集、削除、ワークフローの開始などのインタフェース機能をユーザーのインタフェースに表示するかどうかを決定します。これらの機能が表示されない場合、(ACL で指定された) データベース表に対するユーザーの権限を作動させることはできず、ユーザーは表での操作ができないままとなります。ロールは、作成者、エディタなどのユーザー・グループも定義します。これらは、サイト、サイトのコンテンツ、付随アイテム (コンテンツ作成および検索用のスタート・メニューなど) およびワークフロー・プロセスに対するグループの権限を記述するために使用されます。

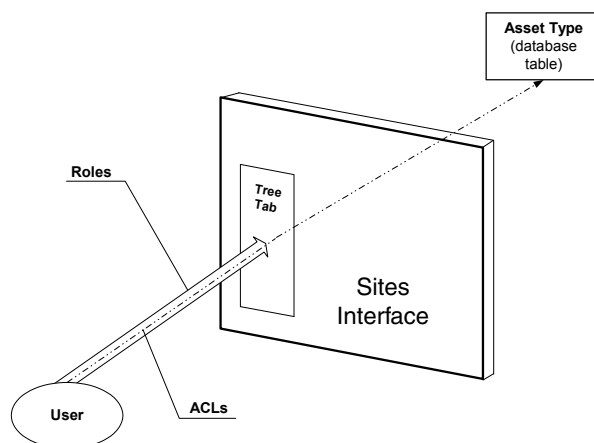
ロールは ACL と同様に実装されます。つまり、ユーザーのインタフェースに機能が表示されるようにするには、機能とユーザーに同じロールを割り当てる必要があります。説明のため、前のシナリオ (31 ページ) を続けます。ここでユーザーは、UserReader および UserEditor ACL により、SystemUser 表への編集権限を与えられています。これらの権限を実行するには、ユーザーは Oracle WebCenter Sites インタフェースの「編集」機能へのアクセス権が必要です。「編集」機能は、「管理」タブにあります。ただし、「管理」タブを表示するには、ユーザーにそのタブと同じロールが割り当てられている必要があります。デフォルトでは、このタブには GeneralAdmin ロールが割り当てられています。同じロールをユーザーにも割り当てる必要があります。

**Roles, without ACLs, give the user the means (but not the permission) to operate on database tables**



要約すると、ユーザーは、表の ACL と「管理」タブのロールの両方が割り当てられている場合にのみ、データベース表へのフル・アクセス権を取得します。実際には、このシナリオのように、ロールと ACL が互換的に割り当てられる必要があります。ロールの割当ては、ACL 割当てにより付与される権限をサポートする必要があります。

**ACLs + roles give the user the permission and the means to operate on database tables**



サイト・ユーザーへのインタフェース機能の表示のほかに、ロールは、サイトでの役割に応じてユーザーをグループ化する方法を提供します。類似した役割を持つユーザーには、同じロー

ルを割り当てることができます。たとえば、管理ユーザーには「管理」タブへのアクセス権が必要です。すべての管理者に **GeneralAdmin** ロールを割り当てることができ、それによって「管理」タブへのアクセス権を付与できます。

Oracle WebCenter Sites はいくつかのデフォルトのシステム・ロールを定義し、これらはすべて、Sites インタフェース内の様々な機能に事前に割り当てられます。Oracle WebCenter Sites では、独自のロールを構成し、割り当てることもできます。ロール名を選択する際は、サイトにおけるユーザーの役割を考慮し、それに従ってロール名を選択します。(データベース表にマップされている) ACL とは異なり、ロールはサイトおよびサイト上の機能にマップされる (つまり、ロールはユーザーごと、サイトごとに割り当てる必要がある) ことに注意してください。

### 注意

ACL とは異なり、ロールは、別のコンテンツ・プロバイダをワークフロー・プロセスに参加させるため、コンテンツ・プロバイダに公開されます。

## スタート・メニュー

スタート・メニューはサイト・コンポーネントです。メニュー上のアイテムは、サイトで使用するアセット・タイプをユーザーと結び付ける方法を提供します。この結合はロールによって行われます。

Oracle WebCenter Sites はいくつかのスタート・メニューを定義します。「新規」では、サイト上でアセットを作成できます。「検索」では、サイト上でアセットを検索し、編集できます。「サイト・デスクトップ」のスタート・メニューは、Sites のコンテンツ・エントリ・フォームの代替インタフェースとして Microsoft Word を有効にします。「サイト DocLink」のスタート・メニューは、ドキュメント管理インタフェースを有効にします。

スタート・メニュー・アイテムは、次を指定します。

- スタート・メニュー・アイテムが適用されるサイト
- サイト上のユーザーが使用できるアセット・タイプ
- これらのタイプのアセットの作成または検索が可能なロール
- ロールが参加できるワークフロー・プロセス (ある場合)

つまり、スタート・メニュー・アイテムは、サイトで特定のタイプのアセットを作成および検索できるロールや、そのロールが参加できるワークフロー・プロセスを決定します。

Oracle WebCenter Sites は自動的にスタート・メニュー・アイテムを作成しますが、管理者が独自に構成することも可能です。

## ワークフロー・プロセス

ワークフロー・プロセスはオプションの構成で、ビジネス・ニーズがある場合のみ必要とされ、コンテンツ・プロバイダ間のコラボレーションを規制するために使用されます。

ワークフロー・プロセスは、権限のあるユーザーが専門知識を補完し合うようにして、コンテンツ・アセットの作成から始まる一連の処理を実行し、アセットのレビューを推進して、最終的にアセットの承認に至らせます。承認されると、アセットはいずれかのユーザーにより配信システムにパブリッシュされ、コンテンツとしてオンライン・サイトに配信されます。

ワークフローが構成されると、これらを、新しく作成されたアセットが保存されたときに自動的に開始されるプロセスとして、スタート・メニュー・アイテムに指定できます。ワークフロー・プロセスは、スタート・メニュー・アイテムから外し、必要に応じてユーザーにより起動されるようにすることもできます。ワークフロー・プロセスの詳細は、[第 9 章「ワークフロー・プロセスの作成と管理」](#)を参照してください。

## パブリッシュ・システム

パブリッシュ・システムはサイト・コンポーネントです。パブリッシュ・システムは、ユーザーに、サイトおよびそのコンテンツをシステムから別のシステムに移行する手段を提供します。構成できるパブリッシュ方法には、リアルタイム、サーバーへのミラーリング、ディスクへのエクスポート、および XML へのエクスポートがあります。サイトの構造 (つまり、データベース・スキーマ) は、サーバーへのミラーリングまたはリアルタイムのいずれかのパブリッシュ方法で移行されます。コンテンツ自体は、管理者の裁量でパブリッシュできます。

## ユーザー・インタフェース・オプション

Oracle WebCenter Sites は、ユーザーがコンテンツを操作できる多くのオプション・インタフェースをサポートしています。

- **Oracle WebCenter Sites デスクトップ (サイト・デスクトップ):** Oracle WebCenter Sites のネイティブ・フォームであるコンテンツ・エントリ・フォームの代替として、馴染みのある Microsoft Word インタフェースをユーザーに提供します。ユーザーは MS-Word ドキュメントでコンテンツを作成し、その Word ドキュメントをアセットとして Sites データベースにインポートし、そこからドキュメントを呼び出して編集することが可能です。

サイト・デスクトップでは、Word ドキュメントのコンテンツは構造化される必要があります。たとえば、Oracle WebCenter Sites デスクトップを使用してコンテンツを作成する際、ユーザーは Word ドキュメントを開き、コンテンツを入力して、同等なコンテンツ・エントリ・フォームで定義されるものと同じフィールド名でタグ付けすることによりコンテンツを構造化します。タグ付けユーティリティは Word インタフェースに組み込まれ、フィールドの選択は管理者によって決定されます。Word ドキュメントが保存されると、そのフィールド内のコンテンツは適切なデータベース表に解析されます。

- **Oracle WebCenter Sites DocLink ( サイト DocLink):** フレックス・アセット・ファミリの構造化されていないコンテンツをサポートします。

サイト DocLink は、構造化されていないコンテンツ ( フレックス・アセットとして管理されるドキュメント、グラフィックまたはその他の単一バイナリ・ファイル ) をアップロードおよびダウンロードするドラッグアンドドロップ・インタフェースを提供します。また、サイト DocLink は、Oracle WebCenter Sites データベース内のフレックス・アセット・ファミリの階層構造を、Windows Explorer アプリケーションのフォルダおよびファイルとして表します。

- **Contributor インタフェースの Web モード:** レンダリングされたページでのコンテンツの直接の編集をサポートします。使用頻度の高い Oracle WebCenter Sites ユーザーはコンテキスト内で迅速に編集でき、使用頻度の低いユーザーは Oracle WebCenter Sites インタフェースを学ばなくても作業を遂行できます。

## 要約

サイトのコンポーネントがサイト固有ではなく、これらのコンポーネントのアソシエーションがサイト固有であることを理解することが重要です。

サイト・コンポーネントは、システム規模のプールに存在するか、作成する必要のある構成です。このプールから、サイトを形成するために相互にやり取りする必要のあるコンポーネントを選択し、これらのコンポーネントを互いに関連付け、サイト名を割り当てます。コンポーネントはシステム規模であるため、再利用が可能です。つまり、あるサイトの形成に使用されるコンポーネントを別のサイトの形成に使用できます。

コンテンツ・プロバイダには、サイト・コンポーネントはサイト固有に見えることに注意してください。ただし、サイト上でコンテンツ・プロバイダが作成するアセットは、確かにそのサイトに固有です。アセットは他のサイトにコピーしたり、他のサイトと共有できます。

サイト・コンポーネントの共有およびコピーのオプションは、オンライン・サイトのモデリングおよびレプリケーションにおいて重要な役割を果たします。これについては、次の項、「[コンテンツ管理モデル](#)」で説明します。



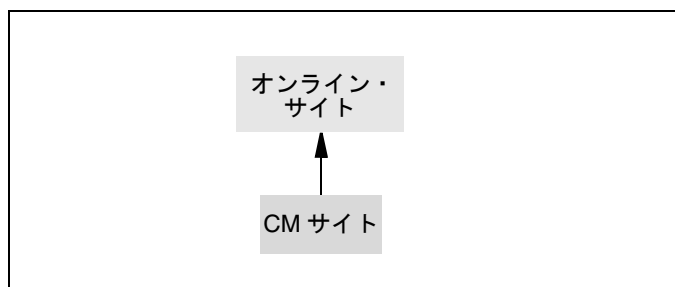
## コンテンツ管理モデル

管理者として ( 単独で決定するか、コラボレータとともに決定するかによらず ) 最も大きな決定の1つが、Oracle WebCenter Sites インタフェースでオンライン・サイトをモデル化する方法 ( 単一のサイトとしてモデル化するか、サイトのセットとしてモデル化するか ) です。どのコンテンツ管理モデルを選択するかは、オンライン・サイトのサイズとそのコンテンツの性質に大きく依存します。

### 1:1 モデル

1:1 モデルは、オンライン・サイトを直接単一の CM サイトにマップします。CM サイトはオンライン・サイトの唯一のソースです。

1:1 モデルは、コンテンツが限定的かつ均一で数人のユーザーによって管理される小さなオンライン・サイトで効果的に機能します。ただし、エンタープライズレベルのサイトの場合は、ページがしばしば数百万に達し、対象分野、コンテンツ、プレゼンテーションおよびスコープが大きく異なります。大きなサイトを編成するには、タスクの複雑さに対応できるモデルが必要となります。

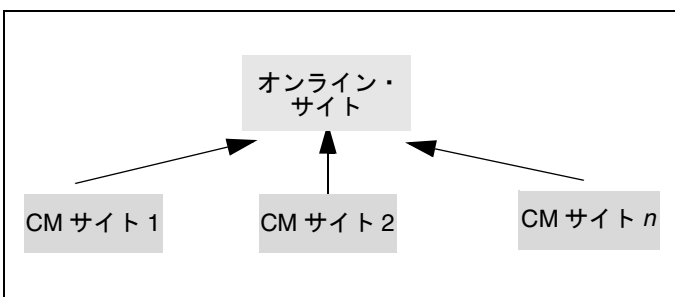


### 1:n モデル

1:n モデルは、オンライン・サイトを複数の CM サイトにマップします。オンライン・サイトの各セクションは、論理セクションか物理セクションに関係なく、そのソースとして特定の CM サイトにマップします。CM サイトは、互いに独立して機能させることも、コンポーネントおよびコンテンツを共有することにより互いに重複させることもできます。

たとえば、あるカタログ・サイトで、家庭用品に関するデータを入力するコンテンツ・コントリビュータは、園芸用品に関するデータを入力することはありません。したがって、家庭用品と園芸用品を表すには、2つの別個のサイトが使用されます。同様に、ライターが互いに独立して作業を行うパブリケーション・サイトでは、スポーツ・ライターはスポーツ・ニュース・セクションを表示するサイトを持ち、ファイナンシャル・ライターは金融関係のニュース・セクションを表示する別のサイトを持ちます。各デザインにおいて、2つのサイトが1つのオンライン・サイトに寄与します。

1:n モデルでは、各サイトが固有で、独自のコンテンツ・タイプ、テンプレート、コンテンツ・プロバイダ、ロール、ワークフロー・プロセスおよびパブリッ





シュ・メカニズムを持っています。各サイトは、対応するオンライン・セクションのコンテンツのソースです。

1:n モデルを使用している場合、管理者はサイトを互いに独立するように構成することも、コンポーネントやコンテンツを共有することで互いに重複するように構成することもできます。独立モデルは、特定のコンテンツを他のコンテンツから分離する必要がある場合に役立ちます。たとえば、コンテンツの機密性が高く、特定のコンテンツ・プロバイダのみが処理する必要がある場合や、コンテンツが異質であるため、別の専門家が処理する必要がある場合などがこれに当たります。

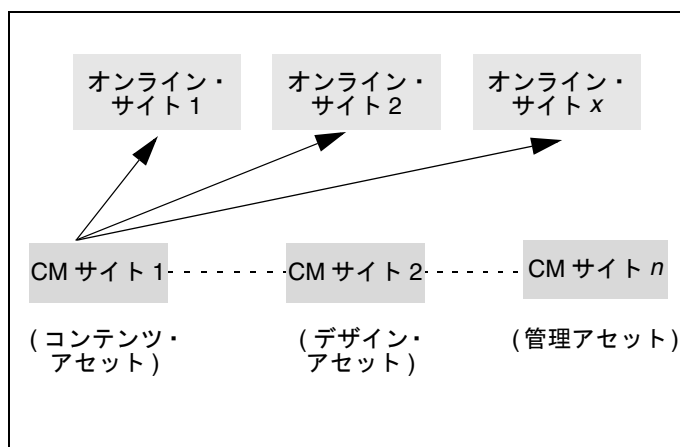
一方、サイトの重複は、関連の薄いコンテンツ・プロバイダ（異なる部署または事業部門など）間でのコラボレーションをサポートするために使用されます。

たとえば、次のようなシナリオを考えます。成長しつつある登山専門の E-Business では、登山関連のニュースを発信し、写真アルバムを公開しています。用具一式の販売や FAQ の回答も行っています。そのオンライン・サイトは、ニュース、写真、用具および FAQ の 4 つのセクションに明確に分割されています。しかし、多くの場合、ニュースと写真のセクションは写真のコンテンツを共有します。このシナリオでは、選択肢の 1 つとして、ニュース、写真、用具および FAQ の 4 つのサイトを、ニュースと写真がコンテンツを共有するように作成する方法があります。（別の選択肢として、ニュースと写真、用具、FAQ の 3 つの独立したサイトを作成する方法もあります。）

## x:n モデル

x:n モデルは、複数のオンライン・サイトを複数の CM サイトにマップします。3 つのモデルの中では、このモデルが最も複雑ですが、エンタープライズレベルの E-Business では、最もメリットが大きくなります。

このモデルでは、コンテンツ・アセットは特定のサイトでローカライズされ、デザイン・アセットと管理アセットはそれらが共有されるその他のすべてのサイトとは別のサイトで構成されます。このタイプのデザインでは、管理者がコンテンツをプレゼンテーションおよびビジネス・ロジックから分離できます。



### 注意

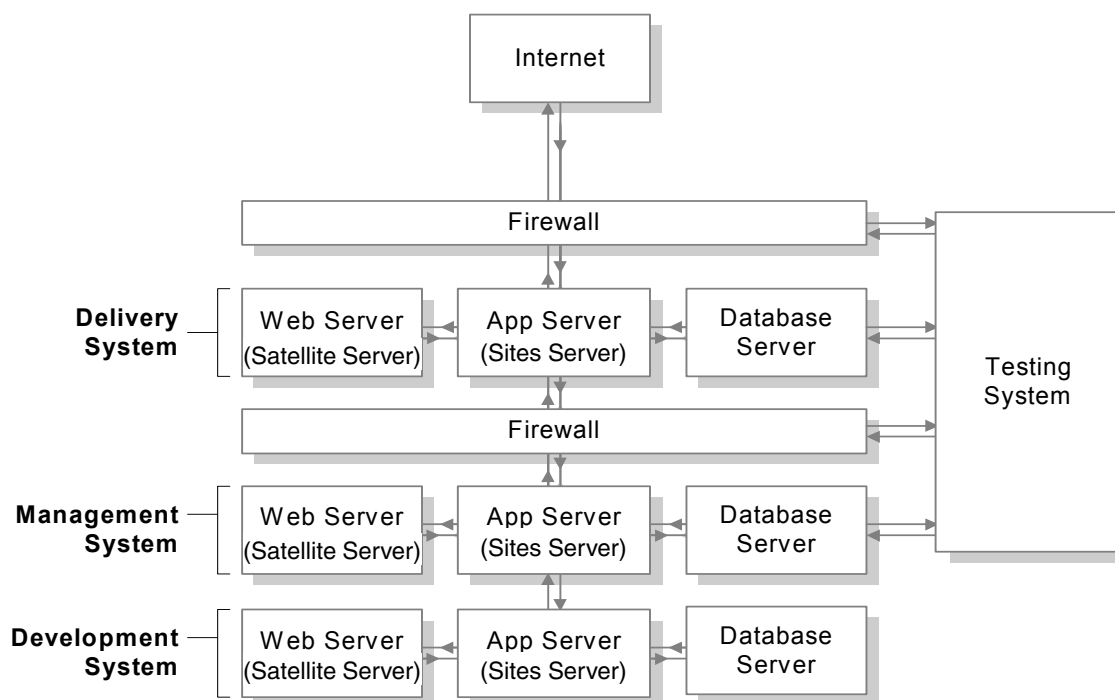
管理者やその他のユーザーが、サイトおよび、サイトとオンライン・サイトとの関係を理解するために役立つよう、Oracle WebCenter Sites では、avisports および FirstSiteII という名前のサンプル・サイトを用意しています。各サンプル・サイトは、そのオンライン・サイトに 1:1 でマップしています。サンプル・サイトがインストールされている場合、第2章のログイン手順に従って、このサイトにログインできます。

## Oracle WebCenter Sites 環境

サイト構成は、分離された Oracle WebCenter Sites システムではなく、Oracle WebCenter Sites 環境で行われる協調的なプロセスです。エンタープライズレベルの環境は通常、図 4 のとおり、Sites によって支えられている、開発、管理、配信およびテストの 4 種類のシステムで構成されています。各システムは、独自のデータベースで実行され、ある点において別のシステムとやり取りをします。システムの 1 つであるテストは、一般的に大規模な組織が品質の向上のためにインストールするオプションのシステムです。

Sites 管理者は、なんらかの機会にこのシステムすべてを扱うことになります。コラボレータは、開発者です。開発者は、開発システムのみで管理者や管理者がコラボレータとして指名するユーザーとともに作業します。この項では、考えられるシステムとそれぞれのシステムでの管理者の役割をまとめます。

図 4: Oracle WebCenter Sites 環境



### 注意

Sites 環境でのシステムの名前は、このガイドで使用している名前とは異なる場合があります。一般に、管理システムはステージング、配信システムは本番、テスト・システムは QA または QA テストとも呼ばれます。

- 開発システムは、オンライン・サイトのフレームワーク (CM サイトで使用されるデータ・モデルおよびデータ・プレゼンテーション・テンプレート) の計画および作成を担当します。
- 管理システムはステージング領域で、サイト・コンポーネント (データ・モデル以外) の構成、コンポーネント (データ・モデルを含む) のサイトへのアセンブル、ユーザーに対するサイトの有効化、およびサイトにおけるユーザーの日々のアクティビティの管理を担当します。ユーザーの担当は、オンライン・サイトへの配信に向けたコンテンツの開発と管理です。
- 配信システムは本番領域で、オンライン・サイトのコンテンツを管理システムから受け取り、対象読者にこれを提供します。
- テスト・システムでは、運用を開始する前に、QA が管理システムおよび配信システムとオンライン・サイト自体をテストします。テスト・システムがない場合は、開発システムがテスト・システムの役割も果たします。

この章の残りの部分では、コラボレータ、計画の方針、および各システムでの管理者の役割について説明します。

## 管理者の業務

### コラボレーション

開発を開始する前に、管理者は一般に、次のような様々な多くの専門家で構成されるチームとコラボレートします。

- サイト・デザイナー
- XML および JSP 開発者
- Java アプリケーション開発者
- データベース管理者
- システム・ネットワーク管理者
- マーケティング担当者および広告担当者
- ビジネス・マネージャ
- 製品マネージャ (商用サイトを開発している場合)
- コンテンツ・プロバイダ

チームの業務は、管理システムおよび配信システムの機能的な要件を設定し、次のような仕様を設計することです。

- ページ・デザイン
- キャッシュの方針
- セキュリティ方針
- 形式とコンテンツ
- データ・モデル
- コンテンツ管理モデル

前述の情報の多くは、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』の第 1 章に概要が示されています。この情報は、この『管理者ガイド』の管理者の業務についてのコンテキストに示されています。

## 計画

管理者とそのコラボレータの決定により開発者がどのようにシステム・セキュリティ、データ・モデルおよび配信システムをコード化するかが決まるため、計画は重要です。開発者の業務は特に管理システムに関係します。これについて、次に説明します。

計画のステージにおいて、管理者の業務は、コラボレータ（普通はビジネス・マネージャ）とともに、要件および管理システムのデザインを設定し、その情報を開発者に伝えることです。考慮する項目を次にリストします。このリストは、完全に網羅することを意図するものではなく、開発サイクルを首尾よく開始するために最も重要な情報の収集および編成を開始できるように管理者を支援するためのものです。

- コンテンツ管理モデル
  - どのモデル (1:1、 $n:1$  および  $x:n$ ) が処理に最も適しているかを決定します。
  - どのコンテンツ・アセットを共有し、どのコンテンツ・アセットをコピーする必要があるかを決定します。テンプレート・アセットに対しても同じように決定します。
- サイト・レプリケーション

サイトをレプリケートするかどうかを決定します。レプリケートする場合は、そのレプリケーション・プロセスによって設定される要件を満たすようにソース・サイトを構成する必要があります。

開発者は、正しくコード化するために、管理者の決定を把握する必要があります。たとえば、サイトがレプリケートされる場合、新しいサイトにコピーされるテンプレートの名前はハードコードできません。
- データ・モデリング
  - 作成する必要があるアセットのタイプ
  - リビジョン追跡を使用する必要があるアセットのタイプ
  - どのユーザーがどのサイトのどのアセット・タイプへのアクセス権を持つ必要があるか
  - 開発者が作成する必要があるテンプレートのタイプ
- ユーザー管理方法

ネイティブのユーザー・マネージャに加えて、Oracle WebCenter Sites は階層スキーマとフラットスキーマの両方の LDAP プラグインをサポートします。環境に適した方法を決定してください。(このガイドの手順では、全体を通して Oracle WebCenter Sites のネイティブのユーザー・マネージャ・システムを使用しています。)
- ユーザー管理モデル

次を決定します。

  - 必要なユーザー数

- ユーザーはだれか
- データベース表に対するどの権限をユーザーに付与する必要があるか
  - ユーザーにはどのシステム ACL を割り当てる必要があるか (ACL がない場合、ユーザー・アカウントは作成できません。)
  - カスタム ACL を作成する必要があるかどうか  
(特定のデータベース表へのアクセスを制限するため、オンライン・サイトの訪問者に割り当てる ACL を作成する必要がある場合もあることに注意してください。)
- 必要なロール数
  - 必要なロールのタイプ (ライター、エディタ、イラストレータ)。ロールはユーザーの ACL と互換性があるようにしてください。
  - そのロールを割り当てる必要のあるユーザー。
- ワークフロー・プロセス  
新しく作成されたそのタイプのアセットが自動的にワークフローに加わるように、オプションで、ワークフロー・プロセスをアセット・タイプに添付できます。
  - ワークフローを実装する必要があるかどうか
  - 実装する必要がある場合、どのアセット・タイプがワークフロー・プロセスを必要とするか
  - どのようにワークフロー・プロセスを設計する必要があるか
  - ワークフロー・プロセスに参加する必要があるユーザーおよびロール
- パブリッシュ・システム・オプション
  - 構成する必要があるパブリッシュのタイプ
  - パブリッシュ・スケジュールを承認する必要があるかどうか
- ユーザー・インタフェース・オプション  
ユーザーに必要なインタフェースを決定します。
  - Contributor (Web モードおよびフォーム・モード)
  - Admin
  - WEM Admin
  - サイト・デスクトップ
  - DocLink

これらの決定には、このドキュメントと 『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』の両方を使用してください。

## 開発

オンラインおよびサイトの仕様が設定されると、作業を開始する準備が整います。Oracle WebCenter Sites 管理者は、開発ステージにおいて、Sites 環境内のすべてのシステムを扱います。(ただし、オンライン・サイトが運営されると、管理者はほとんどの時間を管理システムおよび、配信システムの一部に費やし、開発システムに費やす時間はありません。)

管理者には各システムで特定の業務があります。開発者がデータ・モデルとその他のコードベースのコンポーネントを担当する一方で、管理者はその他すべての面を担当します。

### 開発システムでの業務

開発システムでは、コーディングが行われます。

- 管理者の業務は、開発者に管理システムの仕様を提供し、サイトの作成など、コンテンツ管理処理を支援することです。
- 開発者の業務は次のとおりです。
  - 管理システムで使用される名前と同じ名前でサイトを作成する。
  - データ・モデルをコード化する(次のサイト・レプリケーション要件に留意)。
    - コンテンツ・アセット・タイプ
    - デザイン・アセット・タイプ
    - 管理アセット・タイプ
  - 各タイプのサンプル・アセットを作成する。
  - データ・モデルをテストする。
  - テンプレートおよび、一般的にはオンライン・サイトのフレームワークをコード化する。

データ・モデルが完成し、テストしてすべてのコラボレータの満足が得られると、開発者はこのコードを管理システムに移行します。

#### 注意

WebCenter Sites 環境で、開発者はデータ・モデルを移行するのではなく、管理システムでデータ・モデルを再作成することを選択する場合があります。

一度開発が完了すると、開発システムは処理を継続します。継続される機能の 1 つは、オンライン・サイト訪問者、コンテンツ・プロバイダおよび管理者からの変化する要求に応じたデータ・モデルの修正です。

## 管理システムでの業務

コーディングを必要としない構成タスクは、一般的に管理システムで行われます。ここでは、管理作業は意図的に協調しないかぎり協調的ではありません。たとえば、管理システムではデータ・モデリングやコーディングが行われなため、開発者からの支援が必要ありません。ただし、システムの特定のサイトまたはワークフロー・プロセスを管理するため、開発者（またはその他ユーザー）をサイト管理者またはワークフロー管理者に指名できます。

### 注意

Oracle WebCenter Sites のインタフェースのツリー・タブにカスタム機能を追加する場合など、場合によっては、開発者の支援が必要となります。

管理システムでの管理者の業務は次のとおりです。

- サイトを作成する

### 注意

このリリースの Oracle WebCenter Sites では、サイト・ランチャ機能を使用してソース・サイトをレプリケートすることにより、新しいサイトを迅速にスピンオフできます。その後、必要に応じてそのレプリケートを変更できます。サイト・レプリケーションおよび、適切なソース・サイトの選択または作成については、[第 10 章「CM サイトのレプリケート」](#)を参照してください。

- ユーザーを構成する
  - 必要に応じて Oracle WebCenter Sites で ACL を作成する
  - Oracle WebCenter Sites か、LDAP プラグインなどの外部ユーザー・マネージャにより、ユーザー・アカウントを作成する
  - 必要に応じて Oracle WebCenter Sites でロールを作成する
  - サイトごとにユーザーにロールを割り当てる
- 次の操作によりサイトをアSEMBLする
  - ユーザーをサイトと関連付ける
  - 適切なアセット・タイプおよびパブリッシュ・システムをサイトと関連付ける
- 次の操作によりユーザーを有効にする
  - サイトごとにユーザーにロールを割り当てる
  - ロールを使用して、ユーザーおよびアセット・タイプをスタート・メニュー・アイテムと関連付ける
  - ロールを使用して、ユーザーをツリー・タブなどのインタフェース機能と関連付ける
  - 必要に応じてツリー・タブを作成する

- ワークフローを作成および管理する
- リビジョン追跡を有効にする
- 必要に応じて、サイト管理者およびワークフロー管理者を構成する
- パブリッシュ・プロセスを構成する
- 必要に応じてユーザーのインタフェースを構成する

## 配信システムでの業務

配信システムは開発者によって構成され、一般的にはシステムが使用できるようになるまで管理者は関与しません。サーバーへのミラーリングおよびリアルタイムの配信の場合、配信システムは Oracle WebCenter Sites インストール全体となります。ディスクへのエクスポートおよび XML へのエクスポートの配信の場合、配信システムは Oracle WebCenter Sites インストールの Web サーバー・コンポーネントのみとなります。

## テスト・システムでの業務

テスト・システムでは、運用を開始する前に、QA アナリストが管理システムおよび配信システムとオンライン・サイト自体のパフォーマンスをテストします。テスト・システムがない場合は、開発システムがテスト・システムの役割も果たします。通常、管理者はテストには関与しません。

## 実装

管理システムおよび配信システムが使用中で、オンライン・サイトが実行中の場合、管理者はほぼ管理システムのみで作業を行います。ここで管理者が実行する操作は次のとおりです。

- ユーザーを管理する
  - ユーザーの権限をデータベース表に合わせる
  - ユーザーを追加、削除および再編成する
  - ワークフローを作成する
  - ユーザーのインタフェースを構成する
- パブリッシュ・システムを管理する
- その他、オンライン・サイト訪問者、コンテンツ・プロバイダおよび E-Business のニーズに応じる



## このガイドの焦点

このガイドは、[42 ページの「開発」](#)で説明しているとおり、開発ステージにおいて管理システムで管理者が実行する構成タスクに焦点を当てています。構成タスクを開始するまでに、データ・モデルは管理システムに配置されているものとします。

## 管理者の前提条件

前の項で説明した業務で役割を果たすため、管理者は、ある程度の情報を備えている必要があります。この項では、把握しておく、また精通しておく必要のある情報をまとめます。

- コンテンツ管理の技術面

プログラミングやシステム・アーキテクチャの特殊な技術的知識は必要ありませんが、基本的な次の知識があることが望まれます。

- Java
- JSP
- パブリッシュ
- データベースとデータベースの管理
- ブラウザ

- コラボレータ

詳細は、[39 ページの「コラボレーション」](#) および *『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』* を参照してください。

- オンライン・サイトの仕様

オンライン・サイトの仕様は、一般的にサイト・デザインまたは企業通信部門により準備され、サイトの対象読者、サイトのサイズ、そのメッセージと目的、コンテンツの性質およびプレゼンテーション・スタイルを定義します。オンライン・サイトについて理解すると、オンライン・サイトのモデル化、サイトの計画および開発者との効果的なコラボレーションに役立ちます。

- Oracle WebCenter Sites 環境

Oracle WebCenter Sites 管理者は、開発、管理、配信およびテストの最大 4 種類のシステムを使用する可能性があります。システムと、各システムでの管理者の役割をよく理解しておいてください。詳細は、「[Oracle WebCenter Sites 環境](#)」および「[管理者の業務](#)」(どちらもこの章)と、*『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』* を参照してください。

- Oracle WebCenter Sites の管理インタフェースおよびシステムのデフォルト

管理インタフェースは、サイト構成ツールや、ACL、ロール、アセット・タイプなどのシステム・デフォルトへのアクセスを提供します。管理インタフェースについては、[第 2 章「管理者のインタフェース」](#)を参照してください。システム・デフォルトについては、[付録 A「システム・デフォルト」](#)および[付録 B「システム・データ : WebCenter Sites データベース」](#)を参照してください。



## 第 2 章

# 管理者のインタフェース

Oracle WebCenter Sites では 3 種類の管理者を定義しており、管理者ごとに異なる範囲の管理権限を持ちます。この章では、管理者について概説し、全体管理者として Oracle WebCenter Sites にログインする方法を示します。管理者のインタフェースとそのタブ、サイト管理用のタブ内のノード、およびインタフェースまたはバックエンドからアクセスできる重要なシステム・デフォルトについて説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [Sites の管理者の種類](#)
- [管理者のインタフェースへのログイン](#)
- [管理者のタブ](#)
- [非管理タブ](#)
- [システム・デフォルト](#)
- [サンプル・サイト](#)

## Sites の管理者の種類

Oracle WebCenter Sites では、3 種類の管理者を定義しています。

- 全体管理者：このガイドの対象読者です。  
全体管理者は、通常は WebCenter Sites 環境内のすべてのシステムを管理するため、各システムのインタフェースに無制限でアクセスできます。各システムでの全体管理者の仕事については、[第1章「概要」](#)で概説しています。
- サイト管理者：管理システムの特定のサイトのみを管理します。
- ワークフロー管理者：管理システムでワークフロー・プロセスを作成します。

各管理者には、Sites のインタフェースの該当部分に対しての権限が与えられます。

このガイドの手順は、全体管理者固有のものです。サイト管理者またはワークフロー管理者が手順を実行する場合には、このガイドを見れば、どの手順かがわかります。

つまり、このガイドは Sites の環境の特定のシステムに制限されるものではありません。ここに含まれる概念および手順は、Sites 環境内のすべてのシステムで有効です。

### 注意

このガイドは全体管理者を対象としているため、ガイド内での操作の主体はあくまで全体管理者です。

## 管理者のインタフェースへのログイン

この項では、全体管理者として Oracle WebCenter Sites にログインする方法を示します。

### 注意

全体管理者以外で、サイト管理者またはワークフロー管理者としてログインする必要がある場合には、次の手順を実行する前に、全体管理者からユーザー名とパスワードを入手してください。Oracle WebCenter Sites のインタフェースに対する権限はロールにより制限されているので、自分に関係するのはこのガイドの特定部分のみであるということも心に留めておいてください。


全体管理者として Oracle WebCenter Sites にログインするには：

1. ブラウザを開きます。
2. ページを訪れるたびに、格納されているページの新しいバージョンを確認するようにブラウザを設定します。
3. 次の URL に移動します。

`http://<server>:<port>/<context>/login`

ここで、**<server>** は Oracle WebCenter Sites を実行しているマシンのホスト名または IP アドレス、**<port>** はサーバーのポート番号、**<context>** は Oracle WebCenter Sites Web アプリケーションのコンテキスト・パスです。システムの設定によっては、ポート番号を含める必要がある場合があります。WebCenter Sites 環境のシステムには、開発システム、管理システム、配信システム、テスト・システムまたは別のシステムがあります。

Oracle WebCenter Sites には、次のログイン・フォームが表示されます。



The screenshot shows the Oracle WebCenter Sites login interface. At the top, it says 'ORACLE WebCenter Sites' and 'Version: 11gR1'. The main heading is 'Secure User Login'. On the left is the 'ORACLE' logo. On the right, there are input fields for 'Username' and 'Password'. Below the password field is a link that says 'Forgot password?'. At the bottom right is a 'Login' button and a checkbox labeled 'Remember me'.

4. ユーザー名およびパスワードを入力します。

#### 注意

以前に管理者のいない新規インストールの全体管理者の場合には、デフォルトのシステム・ユーザー (ユーザー名 **fwadmin** およびパスワード **xceladmin**) としてログインし、すぐにパスワードを変更してください。パスワードの変更手順については、[96 ページ](#)の「新しいユーザーの作成」に記述されている手順を参照してください。

デフォルトの管理者としてログオンしたため、REST\_Admin セキュリティ・グループの一員であることに加えて、ユーザー名に **xceladmin** ACL (アクセス制御リスト) が割り当てられています。ユーザー・アカウントとその ACL については、[第5章「ユーザー・プロファイルおよび属性の構成」](#)を参照してください。

別の全体管理者を作成した場合、その全体管理者は **xceladmin** ACL が割り当てられ、REST\_Admin セキュリティ・グループの一員である必要があります。

5. 「ログイン」をクリックします。
6. WebCenter Sites は、そのインタフェースに作成されたサイト数に従って応答します。続行するには、次の手順のうちの1つを完了します。
  - サイトが作成されていない場合には、ドロップダウン・リストに一覧表示される **AdminSite** にログインする必要があります ( サイトがないという状況はまれです。ほとんどの新規インストールでは、**Oracle WebCenter Sites** とともに提供されるサンプル・サイトが実行されます)。[手順7](#)に進んでください。
  - 作成されたサイトが1つの場合でも、リストからそのサイトを選択してログインする必要があります。[手順7](#)に進んでください。
  - 作成されたサイトが複数の場合には、インストールの際にインストール・エンジニアが選択したサンプル・サイトと一緒に、それらのサイトが **Sites** インタフェースに一覧表示されます。
    - a) 作業するサイトを選択してください。
    - b) [手順7](#)に進んでください。

7. サイトを選択すると、2つのアイコンが表示されます。左側のアイコンは **Admin** インタフェースにログインするためのアイコンで、右側のアイコンは **Contributor** インタフェースにログインするためのアイコンです。



クリックして、**Admin** インタフェースに入ります。

**AdminSite** を選択した場合は、少し違ったアイコンになります。

8. この時点では、選択したサイトにログインしています。別のサイトに切り替えるまで、完了したすべてのタスクはこのサイトに付属します。唯一の例外は、「管理」タブから実行した一連の管理タスクで、これはサイト固有ではありません。「管理」タブには、システム内のすべてのサイトのデータが含まれています。

選択したサイト内では、**Oracle WebCenter Sites** により管理者のインタフェースが表示されます。このインタフェースは、次の図に示す3つのフレームで構成されます。

## 上のフレーム：ボタン・バー

WebCenter Sites に移動するためのアイコンとボタンが表示されます。

**タブ**

**ノード**

**New**

Please select the asset type that you want to create:

Type	Name
Attribute Editor	<a href="#">New Attribute Editor</a>
Content Attribute	<a href="#">New Content Attribute</a>
Content Definition	<a href="#">New Content Definition</a>
Content Filter	<a href="#">New Content Filter</a>
Content Parent Definition	<a href="#">New Content Parent Definition</a>
CSElement	<a href="#">New CSElement</a>
Dimension	<a href="#">New Dimension</a>
DimensionSet	<a href="#">New DimensionSet</a>
Document Attribute	<a href="#">New Document Attribute</a>
Document Definition	<a href="#">New Document Definition</a>
Document Filter	<a href="#">New Document Filter</a>
Document Parent Definition	<a href="#">New Document Parent Definition</a>
Media Attribute	<a href="#">New Media Attribute</a>
Media Definition	<a href="#">New Media Definition</a>
Media Filter	<a href="#">New Media Filter</a>

## 左のフレーム：WebCenter Sites ツリー

WebCenter Sites ツリーは、ノードのあるタブの集まりです。各ノードがサイトの構築ブロックです。

## 右のフレーム：CM サイト構築フォーム

このフレームには、左のフレームからノードを選択したときに WebCenter Sites がコールするフォームが表示されます。各フォームは、選択したノードにデータを入力し、そのデータを管理するために使用されます。

## 注意

この時点で、サイト選択後初めてログインし、「新規」画面が表示され、アセット・タイプを新規作成するように求められます。



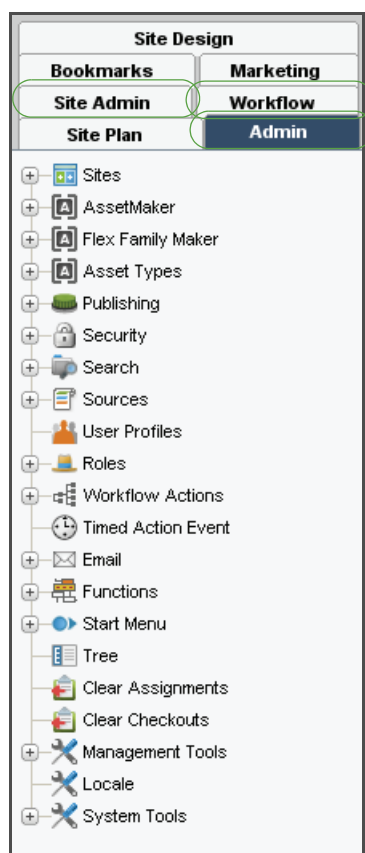
Sites を初めて使用する場合は、次の機能に習熟しておくことをお勧めします。

- 管理者のインタフェース、特に「管理」タブ。このガイド全体を通して、サイトの作成、構成および管理のためにほぼ例外なく「管理」タブを使用します。詳細は、[53 ページの「管理者のタブ」](#)を参照してください。
- ACL などのシステム・デフォルト。ユーザーやそのアクセス権などの構成に必要となります。システム・デフォルトの詳細は、[付録 A「システム・デフォルト」](#)を参照してください。

## 管理者のタブ

Oracle WebCenter Sites のツリーには、管理者のタブを最大 3 つまで表示できます。

- 管理
- サイト管理者
- ワークフロー



タブは権限に基づきます。ユーザーに表示されるようにするには、次の ACL とロールがユーザーに付与されている必要があります。

タブ	ACL	ロール
管理	xceladmin	GeneralAdmin
サイト	xceladmin	SiteAdmin
ワークフロー	xceladmin	WorkflowAdmin

ACL およびロールについては、93 ページの「ユーザー・プロファイルおよび属性の構成」および 597 ページの「システム・デフォルト」でさらに詳しく説明します。

タブも、作業しているサイトのタイプにより条件が異なります。

- サイトが作成されていない Oracle WebCenter Sites インストールにログインする場合は、AdminSite サイトにログインする必要があります。ここに表示されるタブは、「管理」、「サイト管理者」、「ワークフロー」のみです。
- カスタム・サイトにログインした場合は、「管理」タブと「サイト管理者」タブの両方がインタフェースに表示されます。「管理」タブは、システム全体で共通のままです。「サイト管理者」タブは、ログインしたサイトに固有です。そのため、これは「管理」タブのサブセットです。
- ワークフロー・プロセスが (デフォルト・サイト以外の) 任意のサイトのために作成された場合、インタフェースには「ワークフロー」タブも表示されます。「ワークフロー」タブには、システム内のすべてのサイトのために構成されたすべてのワークフロー・プロセスが一覧表示されます。

管理者のタブが他のユーザーに表示されるかどうかは、関連する ACL およびロールをユーザーに割り当てたかどうかによります。ACL およびロールの詳細は、第4章「ACL およびロールの使用」を参照してください。

## 「管理」タブ

「管理」タブは、サイトの作成、構成および管理に使用される中心的な管理タブです。「管理」タブは、Oracle WebCenter Sites インストールのすべてのコンテンツ管理コンポーネントを占めています。

「管理」タブに表示されるノードは次のとおりです。

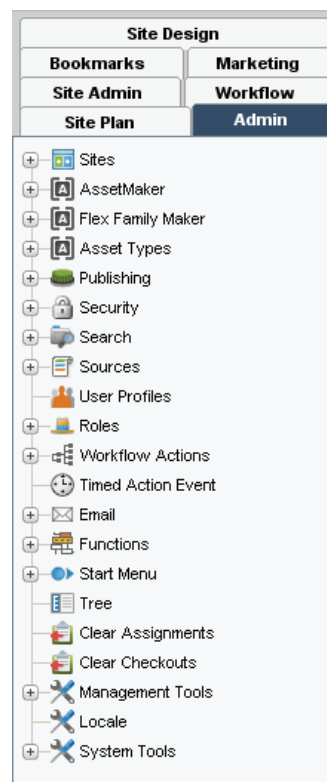
- **サイト**: つまり CM サイト (第1章「概要」に記述) です。

「サイト」ノードには次の機能があります。

- システム内に作成されたサイトを一覧表示します。
- サイトを定義し、システム全体の構成プールのコンポーネントをサイトに関連付け、「サイト」ノード下に配置できます。Oracle WebCenter Sites には、学習ツールとしていくつかのサンプル・サイトが用意されています。

構成プールを構成するノードは次のとおりです。

- **AssetMaker**: サイト開発者用。ベーシック・アセット・データ・モデルを使用して、アセット・タイプを作成します。詳細は、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』を参照してください。
- **フレックス・ファミリー・メーカー**: サイト開発者用。フレックス・ファミリーおよびフレックス・アセット・タイプを新規作成します。詳細は、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』を参照してください。
- **アセット・タイプ**: アセット・タイプ構成用。その目的は次のとおりです。
  - ベーシック・アセット・タイプ用のサブタイプまたはアセットのアソシエーションを追加するため。
  - 「新規」メニューおよび「検索」メニューに表示されるアセット・タイプ用のスタート・メニュー・アイテムを作成するため。
  - 特定のアセット・タイプのリビジョン追跡を有効化または無効化するため。詳細は、第24章「リビジョン追跡」を参照してください。
  - サイト・デスクトップのアセットを有効化するため。詳細は、第22章「ユーザー・インタフェースの構成」を参照してください。
  - サイト DocLink のアセットを有効化するため。詳細は、第22章「ユーザー・インタフェースの構成」を参照してください。
- **パブリッシュ**: 開発システムおよび管理システムにパブリッシュ・システムを設定する際に使用します。静的パブリッシュおよび動的パブリッシュについては、第3部「エクスポートおよびミラーリングのパブリッシュ」を参照



してください。対話型動的パブリッシュについては、第4部「リアルタイム・パブリッシュ」を参照してください。

- **セキュリティ**: セキュリティ・グループの構成およびそのグループへのユーザーの割当てを行う際に使用します。セキュリティ・グループへのユーザーの追加は、WebCenter Sites インタフェースに関連します。詳細は、第6章「外部セキュリティの設定」および『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』を参照してください。
- **検索**: アセット・タイプを構成し、サポートされているサード・パーティの検索エンジン・モジュールのいずれかを使用している場合に、そのアセット・タイプに索引が正しく付けられるようにします。詳細は、第23章「Lucene 検索エンジンの構成」を参照してください。
- **ソース**: 新規コンテンツ・ソースを使用するようにアセット・タイプが設計されている場合に、全体管理者またはサイト開発者が、そのコンテンツ・ソースを追加するために使用します。詳細は、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』を参照してください。
- **ユーザー・プロファイル**: ユーザーの電子メール・アドレスを指定するために使用します。詳細は、第5章「ユーザー・プロファイルおよび属性の構成」を参照してください。
- **ロール**: ワークフロー割当ての受信者の決定、および Oracle WebCenter Sites のインタフェースの機能へのユーザーのアクセス制御のために使用します。
- **ワークフロー・アクション**: アクションと呼ばれるワークフロー構築ブロックと条件を作成するために使用します。これらのアイテムは、どのワークフロー・プロセスでも使用できます。詳細は、第9章「ワークフロー・プロセスの作成と管理」を参照してください。
- **時間指定アクション・イベント**: ワークフロー中のアセットの期日を計算する頻度を構成するために使用します。詳細は、第9章「ワークフロー・プロセスの作成と管理」を参照してください。
- **電子メール**: どのワークフロー・プロセスからでも使用できるワークフロー電子メール・メッセージを作成するために使用します。詳細は、第9章「ワークフロー・プロセスの作成と管理」を参照してください。
- **機能**: 管理者が Oracle WebCenter Sites のインタフェースで、すべてのユーザーまたは選択したユーザーに対して有効化または無効化できます。
- **スタート・メニュー**: ユーザーが Oracle WebCenter Sites のインタフェースで「新規」ボタンまたは「検索」ボタンをクリックしたときに表示されるフォームのリンクを作成するために使用します。このリンクは、新規アセットの作成または既存のアセットの検索のために使用します。スタート・メニュー・アイテムは、サイト・デスクトップ・インタフェースおよびサイト DocLink インタフェースへのアクセスを管理するために作成することもできます。詳細は、第8章「CM サイト・コンポーネントへのアクセスの管理」を参照してください。

### 注意

今回のリリースの Sites では、スタート・メニュー・アイテムである「新規」および「検索」の自動作成がサポートされています。

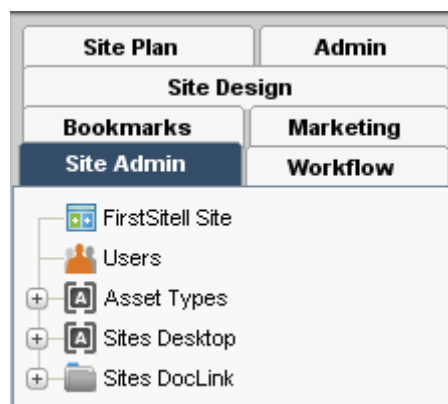
- **ツリー**: 既存のツリー・タブへのアクセス制御、新規ツリー・タブの作成、または **Contributor** インタフェースでのツリー内のアセット表示のために使用します。詳細は、第8章「**CM サイト・コンポーネントへのアクセスの管理**」を参照してください。
- **割当てのクリア**: ワークフロー割当てをクリアするために使用します。詳細は、第9章「**ワークフロー・プロセスの作成と管理**」を参照してください。
- **チェックアウトのクリア**: 特定のユーザーがチェックアウトしたアセットに対し、ロック解除およびデータベースへの再チェックインを行うために使用します。詳細は、第24章「**リビジョン追跡**」を参照してください。
- **管理ツール**: アセット以外の表のリビジョン追跡を有効化または無効化し、WebCenter Sites のデータベースに対して他の様々な操作を実行するために、ACL およびユーザーを作成するために使用します。詳細は、第4章「**ACL およびロールの使用**」、第5章「**ユーザー・プロファイルおよび属性の構成**」および第24章「**リビジョン追跡**」を参照してください。
- **ロケール**: Sites システムにデフォルトのロケールを設定するために使用します。詳細は、第22章「**ユーザー・インタフェースの構成**」を参照してください。
- **システム・ツール**: 管理者のインタフェースから問題を直接トラブルシューティングするために使用します。log4j ロギングの構成、様々なタイプのシステム情報へのアクセス、キャッシュの管理、ログの検索、共有ファイル・システムのパフォーマンスのテストなどの機能があります。詳細は、第28章「**システム・ツール**」を参照してください。

## 「サイト管理者」タブ

「サイト管理者」タブはサイト固有です。これは、ログインしているサイトの管理に使用されます。

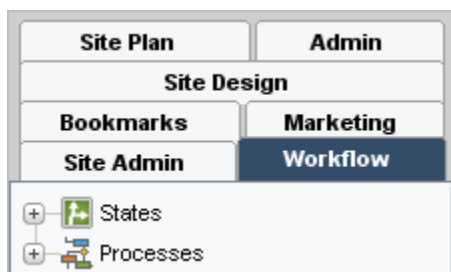
「サイト管理者」タブは、「管理」タブの管理機能のサブセットを保持します。アセット・タイプの有効化または無効化のみならず、サイトの既存ユーザーの管理もできます。ユーザー、アセット・タイプまたはサイトの作成はできません。

このタブにアクセスする他のユーザーには、xceladmin ACL、およびそのユーザーがログインするサイトの **SiteAdmin** ロールを割り当てる必要があります。



## 「ワークフロー」タブ

「ワークフロー」タブは、「管理」タブを使用して作成されたワークフロー構築ブロックからワークフロー・プロセスを構成するために使用されます。



### 注意

「ワークフロー」タブ自体はサイト固有ですが、そのコンテンツはサイト固有ではありません。

**タブ。**ユーザーがサイトを選択するとき、そのユーザーに xceladmin ACL およびそのサイトの **WorkflowAdmin** ロールが割り当てられていると、「ワークフロー」タブが表示されます。この点で、「ワークフロー」タブはサイト固有です。

**タブのコンテンツ。**「ワークフロー」タブには、システム全体の情報、つまり、インストールのすべてのサイトの、すべてのワークフロー・プロセスが表示されます。したがって、「ワークフロー」タブのコンテンツはサイト固有ではありません。

## 非管理タブ

インタフェースには、デフォルトの非管理タブが表示され、別の管理者が構成している場合にはカスタム・タブも表示されます。必要に応じて追加タブを作成できます。

デフォルトのタブについては、[610 ページの「デフォルトのツリー・タブ」](#)を参照してください。タブの作成および構成については、[160 ページの「ツリーへのアクセスの管理 \(管理者用インタフェースのみ\)」](#)を参照してください。

## システム・デフォルト

WebCenter Sites には、次に示すように、数多くのシステム・デフォルトがあります。

- 前の項で説明した非管理タブ
- ACL
- ロール
- ユーザー
- アセット・タイプ
- システム表

ユーザーおよびサイトを構成するために、デフォルトについて習熟する必要があります。システム・デフォルトについては、[付録 A「システム・デフォルト」](#) および [付録 B「システム・データ : WebCenter Sites データベース」](#) を参照してください。

## サンプル・サイト

WebCenter Sites をより良く理解するのに役立つよう、*avisports* および *FirstSiteII* という名前のサンプル・サイトが同梱されています。このサイトを使用して、自分のサイトに影響を及ぼすことなく、WebCenter Sites の学習および実験ができます。サンプル・サイトは、複雑度および目的に応じて様々です。開発者用のコード・サンプルの提供に加えて、サイトの構成方法を例示します。

インストール・エンジニアがサンプル・サイトのインストールを選択すると、サンプル・サイトがインタフェースに表示されます。

サンプル・サイトで作業するには、[49 ページの「管理者のインタフェースへのログイン」](#)の手順に従ってください。インストール・エンジニアから入手した各サイトの URL をブラウザで指定することにより、対応するオンライン・サイトにアクセスできます。





## 第 3 章

# サイト構成のガイドライン

WebCenter Sites でのサイト構成は、リレーショナル・システムに基づいています。このリレーショナル・システムでは、システム全体の構成プール内にあるコンポーネントを相互に関連付け、さらにサイト名と関連付けてサイトとして機能させる必要があります。正しいアソシエーションを作成することで機能するサイトを作成できます。機能するサイトとは、正しいユーザーをホストし、コンテンツの作成と管理のために正しいアセット・タイプを提供し、必要に応じてワークフローをサポートし、正しくパブリッシュし、承認済コンテンツを目的の利用者へ配信するものです。

この章では、管理者が最初にサイトを構成するための手順について説明します。さらに、経験豊富な管理者を対象に構築済サイトの管理と保守に役立つ推奨事項を紹介します。

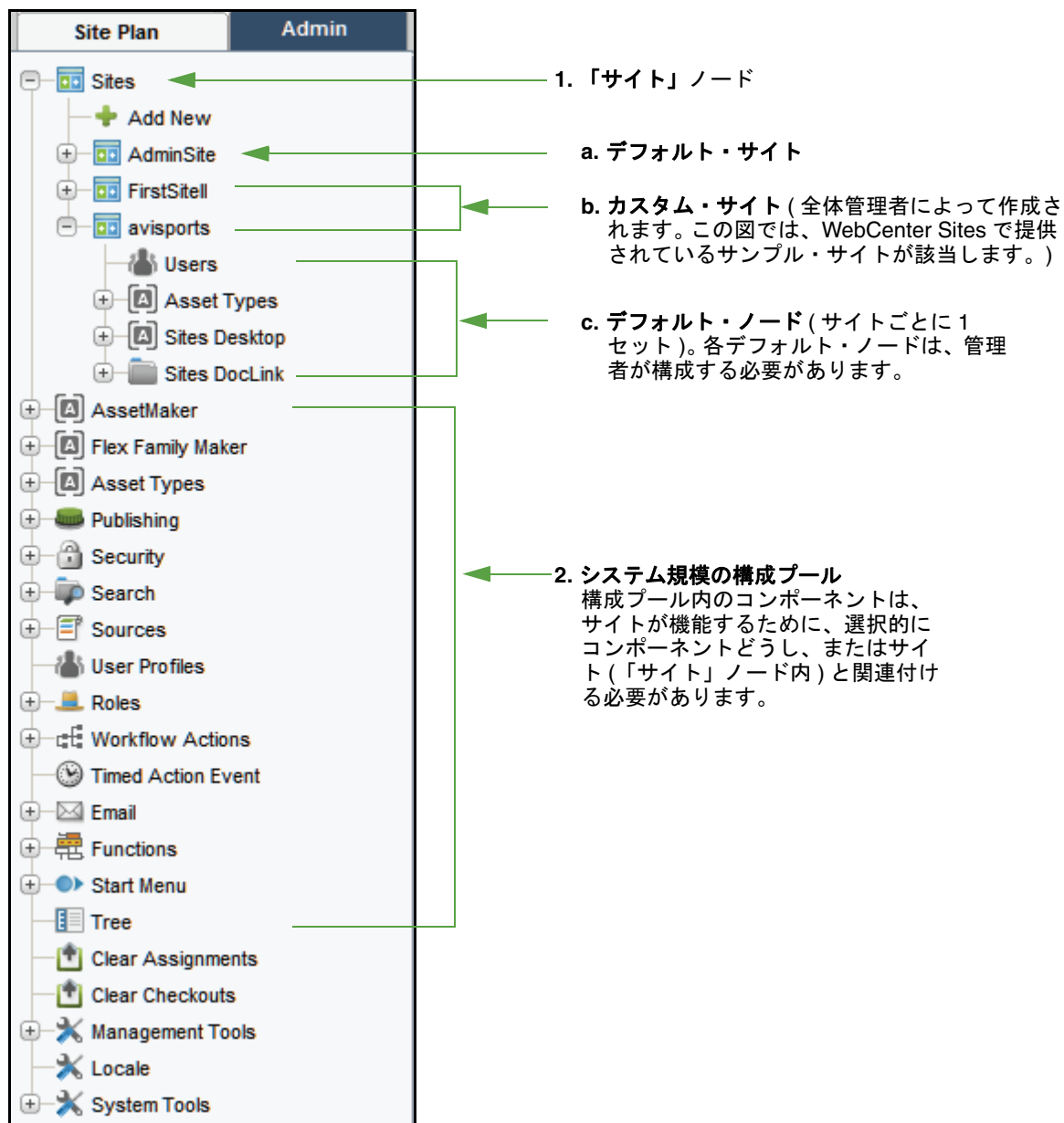
この章は、次の項で構成されています。

- [概要](#)
- [サイトのレプリケーション・オプション](#)
- [サイト構成の手順](#)

## 概要

サイトの作成および構成時は、次の図の「管理」タブを使用します。このタブは、論理的に次の 2 つのセクションに分かれています。(1)「サイト」ノード。これは、サイトが最初に構築される場所です。(2) システム全体の構成プール。これは、サイトのコンポーネントを作成し、互いに関連付けてさらに管理する場所です。この構成プールは、「AssetMaker」ノードから、「管理ツール」までが該当します。

最初に新しいサイトが定義され「サイト」ノードに追加されたとき、このサイトは空で機能しません。これは、サイトが構成プールとなんらかの方法で関連付けられていないためです。サイトを機能させるには、構成プールの様々なコンポーネントと関連付ける必要があります。コンポーネントはサイト間で共有できます。特定のサイトに関連付けられているコンポーネントは、必要な数だけ別のサイトに関連付けることができます。「サイト」ノードと構成プールの詳細は、次のページで説明します。



サイトは、「管理」タブの次に示す4つの基本的な手順によって構成されます。基本的を強調したのは、これらの手順が意図しているのが、サイト構成プロセスの概要の紹介のみであることを示すためです。詳細な手順は、このガイドの以降の章で説明します。

### 注意

次の手順の、手順1と2は入れ替え可能です。

手順	説明
<p>1. WebCenter Sites へサイトを追加します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>「管理」タブで、「サイト」を開き、「新規追加」をダブルクリックします。</li> <li>サイト名と説明を入力します。</li> <li>サイトのコンテンツをプレビューする(コンテンツの作成時)、プレビュー方法を選択します。</li> </ol>	<p>(構成プールではなく)「サイト」ノードをサイト作成の開始ポイントとして使用できます。</p> <p>手順1の実行時、WebCenter Sites によってサイトが「サイト」ノードに追加されます。<b>Contributor</b> と <b>Admin</b> インタフェースが自動的に、新しく追加されたサイトに割り当てられます。</p> <p>新しく追加したサイトに、サイト・コンポーネントを要求する一連のサブノードが作成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「ユーザー」サブノードではユーザーが要求されます。</li> <li>「アセット・タイプ」サブノードでは、アセット・タイプ(開発者が作成)が要求されます。</li> <li>「サイト・デスクトップ」サブノードでは、サイト・デスクトップの有効化が要求されます。</li> <li>「サイト DocLink」サブノードでは、サイト DocLink の有効化が要求されます。</li> </ul> <p>各サブノードにはリンク・メカニズムが備えられており、これによりサブノードおよびサイトを構成プールのデータと関連付けることができます。このリンク・メカニズムにより、サブノードを削除したり、サブノードにカスタム・サブノードを補充することはできません。サブノードが要求するすべてのデータは、次に説明する構成プールに入力する必要があります。</p>
<p>2. 構成プールへユーザー、アセット・タイプおよびロールなどのコンポーネントを移入します。</p>	<p>構成プールは、<a href="#">62 ページ</a>の図のとおり、「<b>AssetMaker</b>」ノードから、「<b>管理ツール</b>」までです。</p> <p>構成プールでは、サイトのコンポーネントを選択および作成でき、コンポーネントどうしを関連付けることができます。構成プール内に作成したデータは、サイトに関連付けるまで、いずれのサイトにも属しません(したがって、ユーザーからアクセスできません)。</p>

手順	説明
<b>3.</b> 構成プールのコンポーネントをサイトに関連付けて有効化します。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>a.</b> 「管理」タブで、「サイト」を開き、目的のサイトをダブルクリックします。</li> <li><b>b.</b> サイトにユーザーとアセット・タイプを追加します。</li> <li><b>c.</b> スタート・メニュー・アイテム、アクセス権限およびツリー・タブへの権限によってユーザーとアセット・タイプを有効にします。</li> </ul>	<p>「サイト」ノードは、サイトの構築プロセスのエンドポイントです。この手順では、再度「サイト」ノードを使用して、今度は、構成プール内のコンポーネントを手順1で追加したサイトに関連付けます。</p> <p>構成プール内のコンポーネントは再使用可能です。必要な数のサイトに関連付けることができます。</p>

## サイトのレプリケーション・オプション

コンテンツや構造が似ているサイトを多数作成する予定の場合は、サイトの作成プロセスを短縮できます。適当なソース・サイトを構成し、次にそのサイトを必要な回数レプリケートして、最後に必要に応じてレプリケートされたサイトを変更します。ソース・サイトは、特定のレプリケーションの要件に適合する必要があります。詳細は、[第10章「CMサイトのレプリケート」](#)を参照してください。

## サイト構成の手順

サイトの構成プロセスでは、構成プールの特定のコンポーネントが他のコンポーネントから要求されるため、さかのぼって実施する手順をできるだけ少なくする場合は、そのコンポーネントを先に作成する必要があります。たとえば、ユーザーを作成するには、それらの ACL が先に存在する必要があります。

一般にサイト構成プロセスの手順の順番は入れ替え可能です。1つの有効な手順を次に示します(「[前提条件](#)」以降)。重要なサイト・コンポーネントを先に作成し、サイトにアセンブルして、使用可能にします。オプションのコンポーネント(ワークフローを除く)は、パブリッシュ・プロセスを構成した後、最後に検討します。

初めて管理者となる場合、構成プロセスの基本概念の理解とすべての必要な情報の収集のために、次の手順について理解しておくことをお勧めします。サイトの構成方法を理解すれば、要求に合わせて手順を変更できます。

また、次の手順をコピーして、サイトの構成時にすぐに参照できるようにすることをお勧めします。各手順は、このガイド(または『*Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド*』)の項を参照しているため、ここで特定の手順について詳細情報を確認できます。

## 前提条件

ここでは、管理者と開発者が、開発システムでデータ・モデルをコード化し、テストが正常に終了した後に、データ・モデルを管理システムに移行する予定であることを前提としています。管理システムでは、管理者がサイトの構成タスクを完了し、管理システムをテストし、最後にシステムをデプロイします。構成タスクを始める前に、WebCenter Sites の概念、コンポーネントおよびコンテンツの管理モデルの基本概念を理解するために、[第1章「概要」](#)を通読してください。

## 構成前の決定

### 手順 1. ユーザー管理方法の決定

管理方法は、WebCenter Sites のネイティブ・ユーザー・マネージャ、LDAP プラグインまたは外部のマネージャから選択できます。

このガイドは、ネイティブの WebCenter Sites ユーザー・マネージャに基づいていますが、LDAP 統合システムのシステム動作も説明しています。詳細は、[付録 C「LDAP-統合 Sites システムでのユーザー、サイト、およびロールの管理」](#)を参照してください。LDAP でのユーザーの構成の詳細は、LDAP 製品のドキュメントを参照してください。

### 手順 2. ユーザーの表レベルの権限 (ACL) の決定

実装するユーザー管理方法に関係なく、WebCenter Sites では ACL を定義する必要があります。システム ACL (および作成されている場合はカスタム ACL) のリストを確認して、ユーザーに割り当てる ACL と、追加の ACL を作成する必要があるかどうかを決定します。通常はシステム ACL で十分です。ACL の一般的な情報は、[第4章「ACL およびロールの使用」](#)を参照してください。仕様については[付録 A「システム・デフォルト」](#)を参照してください。

### 手順 3. ユーザー・ロールの決定

WebCenter Sites では、いくつかのシステム・ロールとサンプル・サイト用の追加ロールが定義されています。これらのロールを実際に使用するサイトで再利用するか、独自のロールを作成できます。通常は、特定のサイトに対するユーザーの役割をすべて包含するロールを作成する必要があります。

ロールの詳細は、次を参照してください。

- 一般的な情報は、[第1章「概要」](#) および [89 ページの「ロールの使用」](#)を参照してください。
- システム・ロールのリストとそれらの仕様は、[付録 A「システム・デフォルト」](#)を参照してください。

### 手順 4. 構成するサイトをレプリケートするかどうかの決定

構成するサイトをレプリケートする予定がある場合、ソース・サイト (現在構成中のサイト) のテンプレート・コーディングおよびその他の要件を満足しているか確認してください。サイト・レプリケーションの概要およびレプリケーションのオプションと要件は、[第10章「CM サイトのレプリケート」](#)を参照してください。

### 手順5. システム・セキュリティの決定

開発者がオンライン・サイトの設計や管理システムのユーザー・インタフェースの変更の検討を開始する前に、管理者はセキュリティ・プロトコルを決定し、実装する必要があります。セキュリティに関する決定は、開発者によるオンライン・サイトのコード化や実装の方法に影響します。セキュリティの詳細は、[第6章「外部セキュリティの設定」](#)を参照してください。

## 開発システムでの構成手順

開発システムでの構成手順は、『*Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド*』の第3章「Oracle WebCenter Sites の開発プロセス」でも詳しく説明されています。開発システムでのコーディングが終了したら、データ・モジュールをサイトの構成が終了した管理システムに移行します。

### 手順1. 管理システムで使用されるサイトを作成する

この手順では、管理システムで使用される名前のサイトを作成します。サイト作成の情報と手順は、[第7章「CM サイトのアセンブル」](#)を参照してください（特に [120 ページの「サイトの作成」](#)）。

### 手順2. データ・モデル（アセット・タイプとその定義）を作成する

開発者が管理システムで使用するデータ・モデルや任意のサイトを作成する場合、開発者を、できれば管理者ユーザーとして、開発システムで作成および構成する必要があります。この詳細は [68 ページの「管理システムでの構成手順」](#)を参照してください。そして開発者のシステムで管理者を作成してください。

1. コンテンツのアセット・タイプを作成します。
2. デザイン・アセット・タイプ（テンプレート）を作成します。サイト・レプリケーション要件がある場合はそれらに留意します。
3. 管理アセット・タイプを作成します。
4. 各タイプのサンプル・アセットを作成します。

アセット・タイプの作成方法の詳細は、『*Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド*』を参照してください。

### 手順3. データ・モデルをテストする

### 手順4. 管理システムへデータ・モデルを移行する

データ・モデルを移行するには、管理システムにこれをパブリッシュします。この手順は、[第4部「リアルタイム・パブリッシュ」](#)を参照してください。

## 管理システムでの構成手順

### 手順 1. ACL を作成する (必要時)

ACL の作成手順は、第4章「[ACL およびロールの使用](#)」を参照してください (特に 80 ページの「[新しい ACL の作成](#)」)。

#### 注意

- システム ACL はどのような状況でも、変更または削除しないでください。
- データベース表。** データ・モデルを管理システムに移行するときは、必要に応じてカスタム・データベース表 (アセット・タイプ) に ACL を割り当てます。ACL をデータベース表に割り当てる手順は、第4章「[ACL およびロールの使用](#)」を参照してください (特に 84 ページの「[カスタム表への ACL の割当て](#)」)。
- WebCenter Sites ページ・エントリ。** 通常、アセットやインタフェース機能へのアクセスの制御にはロールを使用するため、管理システムの WebCenter Sites ページ・エントリに ACL を割り当てる必要はありません。ただし、WebCenter Sites ページ・エントリに ACL を割り当てる手順が必要な場合には、85 ページの「[WebCenter Sites ページ \(SiteCatalog ページ・エントリ\) への ACL の割当て](#)」を参照してください。

### 手順 2. 外部ユーザー・マネージャを使用する場合は、これを構成する

LDAP サーバーを構成する手順は、*Oracle WebCenter Sites のサポート・ソフトウェア用構成ガイド*を参照してください。

### 手順 3. ロールを作成する

ロールの作成手順は、第4章「[ACL およびロールの使用](#)」を参照してください (特に 89 ページの「[ロールの作成](#)」)。

### 手順 4. ユーザー (コンテンツ・プロバイダ) を作成する

WebCenter Sites でのユーザー・アカウントの作成手順は、96 ページの「[新しいユーザーの作成](#)」を参照してください。外部マネージャでユーザー・アカウントを作成している場合は、製品のドキュメントを参照してください。

### 手順 5. ユーザー・プロフィールを作成する (必要時)

次を使用するユーザーにはユーザー・プロフィールが必要です。

- サイト・コンテンツ・アプリケーション (Engage、分析)
- 言語パックとデフォルトの言語の設定
- ワークフロー・プロセス。ここで電子メール・メッセージを送信し、ワークフロー参加者に割当てを通知します。ユーザー・プロフィールは、ユーザー名を電子メール・アドレスにマップして、ワークフロー・アクションをサポートします。



ユーザー・プロファイルは、WebCenter Sites で作成する必要があります。この手順は、[105 ページの「ユーザー・プロファイルとユーザー属性の操作」](#)を参照してください。

#### 手順 6. ユーザー属性を設定する（必要時）

ユーザーの属性として、ユーザー・プロファイルに指定されているロケールや電子メール属性以外のものが必要な場合、属性を作成できます。この手順は、[106 ページの「ユーザー属性の編集、追加および削除」](#)を参照してください。

#### 手順 7. アセット・タイプのワークフロー・プロセスを作成する（必要時）

ワークフロー・プロセスの実装は、業務上の判断であり、WebCenter Sites の要件ではありません。ワークフロー・プロセスを作成する必要がある場合は、次の手順を実行します。

1. サイトに「ワークフロー」タブがない場合は、これを作成します。この手順は、[163 ページの「新しいツリー・タブの作成」](#)を参照してください。
2. ワークフロー・プロセスを図に描いて計画します。この手順は、[第9章「ワークフロー・プロセスの作成と管理」](#)を参照してください。描いた図やメモは、この項を通して参照してください。
3. これを行っていない場合は、そのワークフロー・プロセスに必要なロールを作成します。手順が必要な場合には、[89 ページの「ロールの作成」](#)を参照してください。
4. ユーザーがワークフローに効果的に参加できるように設定します。
  - a. ワークフローに参加するユーザーに、ユーザー・プロファイルが作成されていることを確認します。作成されていない場合、ワークフロー・プロセスからの電子メール・メッセージを受信できません。
  - b. 共有アセットについて、アセットを共有するすべてのサイトのユーザーをワークフロー候補のプールに含める場合、サイト間割当て機能を有効にします。詳細は、[183 ページの「サイト間の割当てと参加者」](#)を参照してください。
5. アクションに必要な電子メール・オブジェクトを作成し、futuretense\_xcel.ini ファイルの xcelerate.emailnotification プロパティを有効化します。この手順は、[第1章「概要」](#)を参照してください。
6. 必要なステップ・アクション、時間指定アクション、デッドロック・アクション、グループ・デッドロック・アクションおよび委任アクションを作成します。この手順は、[204 ページの「ワークフロー・アクションと条件の設定」](#)を参照してください。
7. 状態に期限がある場合は、アセットの期限を定期的に計算して、適切な時間指定アクションがあれば、これをタイムリーに起動するように、時間指定アクション・イベントを構成します。この手順は、[207 ページの「時間指定アクション・イベントの設定」](#)を参照してください。
8. 状態を作成します。この手順は、[209 ページの「状態の設定」](#)を参照してください。

9. プロセスを作成します。ワークフロー・プロセスを作成しながら、そのプロセスの手順を作成します。状態が適切な順序で発生するように、手順でこれらの状態を結合します。さらに、プロセスの作成の際、必要な機能の権限も構成します。この手順は、[212 ページの「ワークフロー・プロセスの設定」](#)を参照してください。
  10. ワークフロー・プロセスをテストします。この手順は、[224 ページの「ワークフロー・プロセスのテスト」](#)を参照してください。
- 作成したワークフロー・プロセスが自動的にアセットに割り当てられるように、スタート・メニュー・ショートカットを設定します。スタート・メニュー・アイテムの詳細は、[140 ページの「スタート・メニュー・アイテムの作成」](#)を参照してください。

#### 手順 8. 開発システムで作成されたサイトを再作成する

サイト作成の情報と手順は、[119 ページの「CM サイトのアセンブル」](#)を参照してください (特に [120 ページの「サイトの作成」](#))。

#### 手順 9. データ・モデルを移行する (行っていない場合)

ここで、残りの大半の手順を完了するためにデータ・モデルが必要です。[第4部「リアルタイム・パブリッシュ」](#)の手順を使用して、リアルタイムにデータ・モデルを開発システムから管理システムへとパブリッシュします。

#### 手順 10. カスタム表へカスタム ACL (存在する場合) を割り当てる (行っていない場合)

ACL をデータベース表に割り当てる手順は、[第4章「ACL およびロールの使用」](#)を参照してください (特に [84 ページの「カスタム表への ACL の割当て」](#))。

#### 手順 11. サイトをアセンブルする

1. サイトへのアクセス権限をユーザーへ付与します。この手順は、[127 ページの「ユーザーへのサイトのアクセス権限の付与 \(ユーザーへのロールの割当て\)」](#)を参照してください。
2. アセット・タイプをサイトに関連付けることにより、サイトでアセット・タイプを有効化します。この手順は、[131 ページの「サイトに対するアセット・タイプの有効化」](#)を参照してください。

#### 注意

この手順によって、有効化するアセット・タイプの「スタート・メニュー」アイテムが WebCenter Sites で自動的に作成されるようにするオプションを選択できます。サイト・ユーザーは、「スタート・メニュー」アイテムの「新規」および「検索」アイテムによって、該当するタイプのアセットを作成および検索できます。また、独自の「スタート・メニュー」アイテムを次の手順のとおりにも作成することもできます。

#### 手順 12. サイト・コンポーネントをユーザーに対して使用可能にする

1. 各種アセット・タイプに対して独自の「スタート・メニュー」アイテムを作成する場合は、[138 ページの「スタート・メニューによるアセット・タイプへのアクセスの管理」](#)の手順を参照してください。

2. アセットにアクセス権限を設定します。この手順は、[152 ページの「アセットへのアクセス権限の設定」](#)を参照してください。
3. WebCenter Sites のツリー内のタブへのアクセス権限をユーザーに付与します。この手順は、[160 ページの「ツリーへのアクセスの管理 \(管理者用インタフェースのみ\)」](#)を参照してください。

### 手順 13. Sites のパブリッシュ・プロセスを構成する

1. 管理システムで実行するパブリッシュのタイプを決定します。
  - リアルタイム
  - ディスクへのエクスポート
  - サーバーへのミラーリング
  - XML へのアセットのエクスポート
2. コンテンツ・プロバイダが作成する情報が配信システムで利用できるように、パブリッシュ・プロセスを構成します。

パブリッシュ・プロセスの構成に関する一般的な情報と手順は、[第3部「エクスポートおよびミラーリングのパブリッシュ」](#)を参照してください。リアルタイム・パブリッシュ・プロセスの詳細は、[第4部「リアルタイム・パブリッシュ」](#)を参照してください。

### 手順 14. ユーザー・インタフェースを構成する (必要時)

ユーザー・インタフェースのオプションには、「Contributor」、「管理」、WEM Admin、「サイト・デスクトップ」および「サイト DocLink」があります。これらのインタフェースをコンテンツ・プロバイダが利用できるようにする手順は、[第22章「ユーザー・インタフェースの構成」](#)を参照してください。

### 手順 15. 検索エンジンのアセット・タイプを有効化する (必要時)

アップグレードなど、特定のケースでは、アセット・タイプを検索するように構成し、正しく索引付けして、使用している検索エンジンから検出可能にすることが必要な場合があります。アセット・タイプの構成手順は、[第23章「Lucene 検索エンジンの構成」](#)を参照してください。

### 手順 16. リビジョン追跡を設定する (必要時)

リビジョン追跡は、アセットが複数のユーザーから一度に編集されることを防止します。データベース表のリビジョン追跡を有効化すると、WebCenter Sites ではその表の複数のバージョンのアセットが維持されます。リビジョン追跡の設定手順は、[第24章「リビジョン追跡」](#)を参照してください。

### 手順 17. 配信システムを設定する

詳細は、『*Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド*』の第2章「Oracle WebCenter Sites の開発プロセス」を参照してください。

### 手順 18. すべてのシステムをテストする

### 手順 19. Sites インストールの URL とログイン情報をユーザーに提供する



## 第 2 部

# CM サイトの構成手順

この部では、WebCenter Sites システムのサイトを構成およびレプリケートするための詳細な手順について説明します。

この部は、次の章で構成されています。

- 第 4 章「ACL およびロールの使用」
- 第 5 章「ユーザー・プロファイルおよび属性の構成」
- 第 6 章「外部セキュリティの設定」
- 第 7 章「CM サイトのアセンブル」
- 第 8 章「CM サイト・コンポーネントへのアクセスの管理」
- 第 9 章「ワークフロー・プロセスの作成と管理」
- 第 10 章「CM サイトのレプリケート」



## 第 4 章

# ACL およびロールの使用

ACL、ユーザー・アカウント、ユーザー・プロフィール、ロール、サイトなどのユーザー管理コンポーネントは、WebCenter Sites システムへのアクセスを制御するために使用されます。サイト構成自体は、ACL、ユーザー・アカウントおよびロールの作成から開始します。

ACL は、管理システムと配信システムの両方で使用できます。ただし、この章では主に管理システムでのユーザー管理について説明します。配信システムでのユーザー管理については、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』のサイトの開発に関する項を参照してください。

この章は、次の項で構成されています。

- [概要](#)
- [ACL](#)
- [ACL の使用](#)
- [ロール](#)
- [ロールの使用](#)

## 概要

ACL とロールは、WebCenter Sites において最も重要です。

- ACL は、WebCenter Sites システムへのエントリを規制するために使用されます。ユーザー、データベース表および WebCenter Sites ページへの ACL の割当てによって、WebCenter Sites のデータベース表でのユーザーの操作権限が決まります。ユーザーの ACL がデータベースの ACL と一致すると、ユーザーにはデータベース表での特定の操作権限 (ACL により定義されます) が与えられます。そのため、ACL はセキュリティおよびユーザー管理モデルの基盤としての役割を果たします。ACL がない場合、ユーザー・アカウントは作成できません。
- ロールは、サイトおよびそのコンポーネントへのアクセスを管理するために使用されます。特定のサイトでのユーザーおよびインタフェース機能へのロールの割当てによって、ユーザーに対してインタフェース機能を有効にするか、無効にするかが決まります。ユーザーのロールがインタフェース機能に割り当てられたロールと一致すると、その機能がそのユーザーに対して有効になります。一致しないと、その機能は無効となります。

ユーザーを設定する前に、ユーザーにどの ACL およびロールを割り当てる必要があるかを決定する必要があります。LDAP プラグインを使用してユーザー・アカウントを作成する予定であっても、ACL およびロールがまだ存在しない場合には、WebCenter Sites でこれらを作成する必要があります。

この項では、ACL とロールの基本を説明し、ACL とロールを作成、変更および削除する方法を示します。

## ACL

アクセス制御リスト (略称 **ACL**) は、読取り、書込み、作成、取得などの指定された一連のデータベース操作権限です。WebCenter Sites (および WebCenter Sites のコンテンツ・アプリケーション) のすべてが、1 つ以上のデータベース表に、1 つ以上の行で表されるため、すべての Sites システムのユーザー管理は ACL から始まります。

ACL により、次のアイテムへのアクセスを制限できます。

- 個々のデータベース表
- 個々の WebCenter Sites ページ

WebCenter Sites およびそのコンテンツ・アプリケーションは、ACL を使用し、これらのアプリケーションの様々な機能を表すデータベース表へのユーザーのアクセス権を制御することで、これらの機能に対するアクセスを制限します。どのようにするのでしょうか。その機能の実行を試みるユーザーのユーザー・アカウントに、データベース表に割り当てられたものと同じ ACL が割り当てられていることを確認します。

たとえば、ユーザー・アカウント情報は、SystemUsers と SystemUserAttrs というシステム表に含まれています。特定の ACL がこれらのシステム表に割り当てられているため、ユーザー・アカウントに同じ ACL が割り当てられているユーザーのみが、新しいユーザーを作成したり、既存のユーザー情報を編集できます。



ACL は、許可機能を提供することによって、Sites システムにおけるセキュリティおよびユーザー管理モデルの基盤として機能します。ユーザー情報の格納に LDAP などの外部のユーザー・マネージャを使用している場合でも、WebCenter Sites の ACL を使用する必要があります。

Sites ページを表示するには、ユーザーは必ず、少なくとも Browser ACL を持っている必要があります。ただし、追加の ACL の制限が適用されるのは、futuretense.ini ファイル内の cc.security プロパティが true に設定されている場合のみです。cc.security プロパティについては、プロパティ・ファイル・リファレンスの futuretense.ini に関する項を参照してください。Sites システムでのセキュリティの構成については、[第6章「外部セキュリティの設定」](#)を参照してください。

ACL は、ユーザー・アカウント、データベース表、および SiteCatalog 表のページ・エントリ (つまり、WebCenter Sites ページ) の3つに割り当てられます。

### 注意

**配信システムにおけるユーザー管理。**配信システムでのユーザー管理も ACL に基づきます。訪問者がそのサイトの領域にアクセスするには登録またはログインが必要となるようにオンライン・サイトを設計している場合は、配信システムで必要となる ACL を作成し、それらを該当するデータベース表に割り当てます。

一般的には、サイト・デザイナーが WebCenter Sites ページへの ACL の割り当てを行います。『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』では、配信システムでのユーザー管理プロセスの設計方法について説明し、訪問者をサイトにログインさせたり、訪問者の ID を検証するページのコード・サンプルを提供しています。

## ユーザー・アカウント

各ユーザーには、少なくとも1つの ACL が割り当てられる必要があります。ユーザーに割り当てられた ACL により、そのユーザーの Sites システムへのアクセス権が定義されます。

ユーザーにユーザー・アカウントが1つと ACL が1セットあれば、アクセスするサイトがいくつあっても、ユーザーは、サイトごとに異なるロール・セットを持つことができます。したがって、ユーザーには、サイト固有のすべてのロールを実行するために必要な権限を与えるために必要となるすべての ACL が割り当てられる必要があります。

たとえば、そのロールを持つユーザーがテンプレート・アセットを作成できるようにするロールを作成する場合、テンプレートの作成では ElementCatalog 表にデータを書き込むため、そのロールを割り当てられたユーザーには、ElementEditor ACL も割り当てる必要があります。

## データベース表

表内のデータへのアクセスを制限するには、「管理」タブから利用できる **WebCenter Sites データベースフォーム** により、ACL をこの表に割り当てます。これで、同じ ACL を持つユーザーのみが、この表のデータにアクセスできるようになります。

複数の ACL を 1 つの表に割り当てる場合、表にアクセスするためにユーザーが必要とする ACL はこのうちの 1 つのみです。ユーザーのその表に対するアクセス権 (読取り、書込み、作成など) は、その ACL で定義されているものとなります。

WebCenter Sites システムのすべての表 ( および Sites のコンテンツ・アプリケーションのいくつかの表 ) には、ACL の制限があります。SystemInfo 表には、WebCenter Sites データベース内のすべての表とそれらに割り当てられている ACL がリストされています。

### 注意

WebCenter Sites Explorer アプリケーションを使用して、ACL をデータベース表に追加しないでください。「管理」タブの **WebCenter Sites データベースフォーム** を使用してください。

WebCenter Sites データベースで外部の表を登録する場合を除き、たとえ変更が可能な ACL を持つユーザー・アカウントであっても、SystemInfo 表の情報は変更しないでください。

参照先:

- データベース表への ACL の割当てについては、[84 ページの「カスタム表への ACL の割当て」](#) を参照してください。
- 外部の表の登録については、『*Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド*』の「データベース」の章を参照してください。

## SiteCatalog 表のページ・エントリ

SiteCatalog 表には、オンライン・サイト (つまり、配信システムから配信しているサイト) に表示されるページおよび、Sites のコンテンツ・アプリケーションに表示されるすべてのページのページ・エントリが含まれます。ページへのアクセスを制限する場合は、これに ACL を割り当てます。

一般的には、サイト開発者が配信システムでのページ制限の構成方法を決定します。ただし、管理システムでユーザー・インタフェースをカスタマイズしている場合は、管理者が ACL を使用してカスタム・ページへのアクセスを制限する必要があります。

## システム ACL

WebCenter Sites とそのコンテンツ・アプリケーションでは、多くのシステム ACL を使用して、その機能へのユーザー・アクセスを制御します。これらの ACL の様々な組合せをユーザーに割り当てる必要があります。システム ACL とその権限については、付録 A「システム・デフォルト」を参照してください。

## サンプル ACL

新たにインストールした WebCenter Sites システムには、システム ACL のみが含まれています。WebCenter Sites とともにパッケージ化されているサンプル・サイトに対して追加の ACL は作成されていません。

## カスタム ACL

WebCenter Sites では、包括的な ACL のセットを提供しているので、独自に作成する必要が生じることはほとんどありません。ただし、管理システムまたは配信システムでのユーザー管理ニーズにより ACL を作成する必要が生じる場合があります。たとえば、次のような場合があります。

- オンライン・サイトでユーザー登録が必要な場合、サイト訪問者の ACL のセットを作成する必要が生じることがあります。
- 開発者が新しい機能を作成し、これらを新しいタブに配置して管理システムをカスタマイズする場合、その新しい機能とタブをサポートするには、追加の ACL (またはロール) を作成する必要が生じることがあります。

ACL の作成と適用は管理タスクですが、まずは、サイト・デザイナーや開発者とともに、必要となる ACL とそれらの適用方法を決定する必要があります。ACL を決定したら、この章で後述する手順に従ってこれらを作成してください。

## ACL の使用

この項では、ACL の作成、カスタム ACL の編集と削除、データベース表および WebCenter Sites ページへの ACL の適用、および「アクセスが制限されました」のメッセージのカスタマイズの方法を示します。

### 注意

LDAP 統合オプションを使用している場合、ユーザーおよびサイト管理操作に対するシステム・レスポンスに注意してください。システム・レスポンスについては、[付録 C「LDAP-統合 Sites システムでのユーザー、サイト、およびロールの管理」](#)を参照してください。

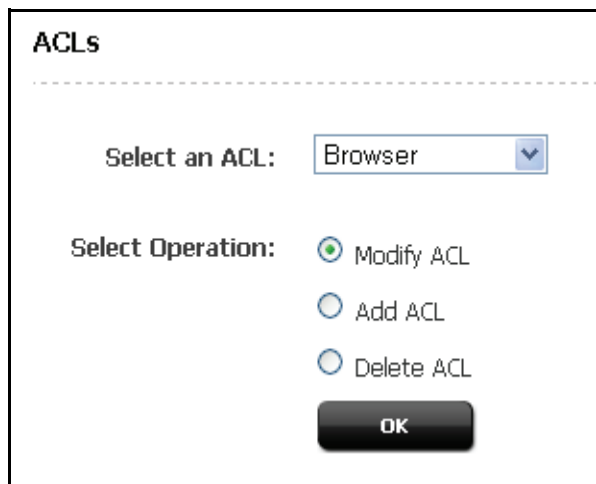
## 新しい ACL の作成

### 注意

ACL を作成する際、ACL がロールと釣り合うように、使用するロールを考慮してください。たとえば、ユーザーがテンプレート・アセットを作成できるようにするロールを作成する場合、テンプレートの作成では ElementCatalog 表にデータを書き込むため、そのロールを割り当てられたユーザーには、ElementEditor ACL も割り当てる必要があります。

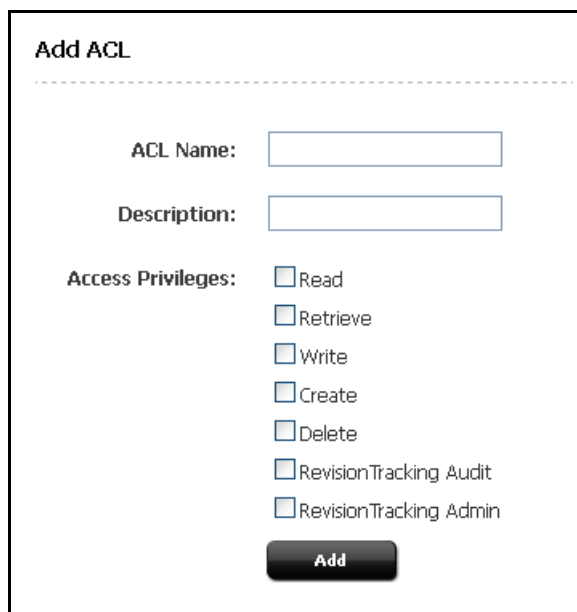
新しい ACL を作成するには：

1. 「管理」タブで、「管理ツール」を開き、「ACL」をダブルクリックします。「ACL」フォームが表示されます。



2. 「ACL の追加」を選択し、「OK」をクリックします。「ACL を選択してください」の値は関係ありません。

「ACL の追加」フォームが表示されます。



**Add ACL**

ACL Name:

Description:

Access Privileges:

- ☐ Read
- ☐ Retrieve
- ☐ Write
- ☐ Create
- ☐ Delete
- ☐ RevisionTracking Audit
- ☐ RevisionTracking Admin

**Add**

3. 「ACL 名」フィールドに、一意の名前を入力します。
4. この ACL に割り当てるアクセス権限を選択します。各権限については、[598 ページの「権限」](#)を参照してください。
5. 「追加」をクリックします。

WebCenter Sites は ACL を作成し、SystemACL 表にこれを書き込みます。この手順の[手順 2](#)で説明したフォームのドロップダウン・リストに、新しい ACL が表示されます。
6. LDAP を使用している場合、作成した ACL に一致するグループを (LDAP サーバーで) 作成します。グループを作成したら、適切なユーザーにこれを割り当てます。

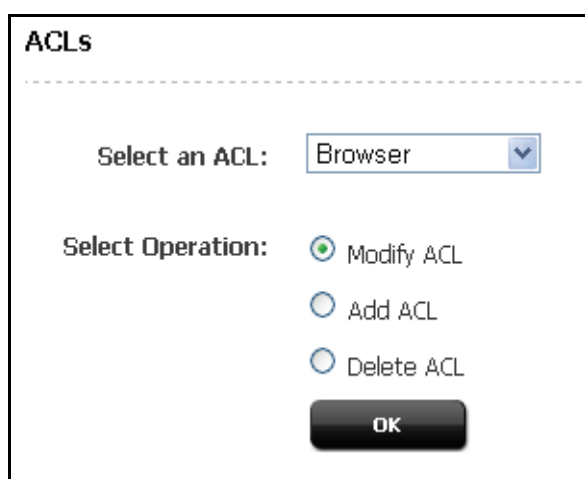
## カスタム ACL の編集

### 注意

システム ACL は変更できません。これらの ACL のリストは、[600 ページの「システム ACL」](#)を参照してください。

カスタム ACL を編集するには：

1. 「管理」タブで、「管理ツール」を開き、「ACL」をダブルクリックします。  
「ACL」フォームが表示されます。



2. 「ACL を選択してください」フィールドで、編集する ACL を選択します。
3. 「ACL の修正」を選択し、「OK」をクリックします。  
選択した ACL がシステム ACL の場合、アラートが表示されます。システム ACL は変更しないでください。
4. 「ACL の修正」フォームで、「説明」と「アクセス権限」に必要な変更を加えます。表示されるオプションについては、[598 ページの「権限」](#)を参照してください。
5. 「修正」をクリックします。  
WebCenter Sites は、変更を SystemACL 表に書き込みます。

## カスタム ACL の削除

### 注意

システム ACL は削除できません。これらの ACL のリストは、[600 ページの「システム ACL」](#)を参照してください。

#### カスタム ACL を削除するには：

1. LDAP を使用している場合、削除する ACL に対応するグループを (LDAP サーバーから) 削除します。
1. 「管理」タブで、「管理ツール」を開き、「ACL」をダブルクリックします。「ACL」フォームが表示されます。

#### ACLs

-----

Select an ACL:

Select Operation:

☒ Modify ACL

☐ Add ACL

☐ Delete ACL

2. 「ACL を選択してください」フィールドで、削除する ACL を選択します。
3. 表示されるフォームで、ドロップダウン・リストから目的の ACL を選択し、「OK」をクリックします。  
WebCenter Sites に警告メッセージが表示されます。
4. 「OK」をクリックします。  
ACL が削除されます。

## カスタム表への ACL の割当て

管理者またはサイト・デザイナーが新しい表を作成する場合、管理者は ACL をこれらの表に割り当てることによってこれらの表へのアクセスを制限する必要があることがあります。一般的には、新しい表を作成するときに、これらに ACL を割り当てます。( 詳細は、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』を参照してください。)

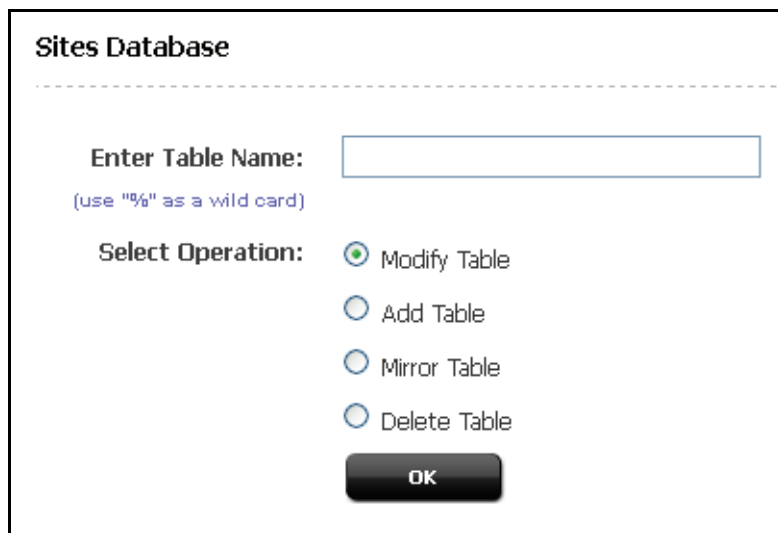
### 注意

追加 ACL (デフォルトで割り当てられている以外の ACL) を、システムやコア製品の表に割り当てないでください。

ACL を既存の表に割り当てるには：

1. 「管理」タブで、「管理ツール」を開き、「サイト・データベース」をダブルクリックします。

WebCenter Sites に次のフォームが表示されます。



2. ACL を割り当てる表の名前を入力します。使用する表の名前がわからない場合は、次のいずれかを行います。
  - フィールドを空のままにします。WebCenter Sites はデータベース内のすべての表のリストを返します。
  - 名前の一部を入力し、最後にワイルドカード文字 (%) を付けます。WebCenter Sites は、条件に近い名前の表のリストを返します。
3. 「表の修正」を選択し、「OK」をクリックします。
4. 表のリストで、目的の表を選択します。

WebCenter Sites にカタログの修正フォームが表示されます。



5. 「ACL」フィールドで、選択した表に割り当てる ACL を選択します。複数の ACL を選択するには、目的の各 ACL を [Ctrl] キーを押しながらクリックします。範囲内の最初と最後の ACL をシフトクリックすることにより、ACL の範囲を選択することもできます。

#### 注意

「ファイル・ストレージ・ディレクトリ」フィールドの値は変更しないでください。このフィールドについては、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』の defdir プロパティに関する項を参照してください。

6. 「修正」をクリックします。

## WebCenter Sites ページ (SiteCatalog ページ・エン트리) への ACL の割当て

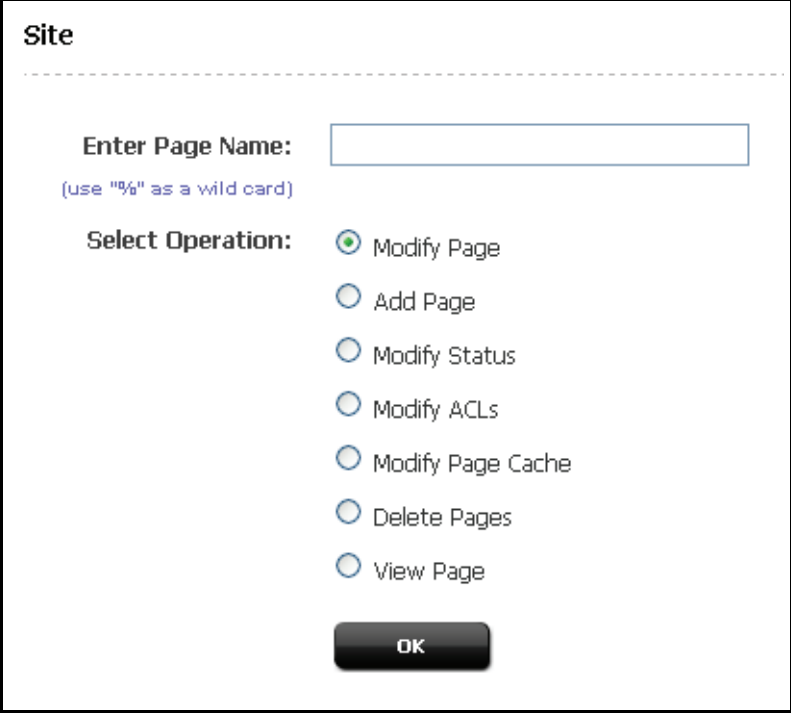
SiteCatalog ページ・エントリに ACL を割り当てる方法は、少なくとも 2 つあります。

- 開発者が SiteEntry またはテンプレート・アセットを作成する際、「作成」または「編集」フォームのフィールドから、そのアセットに対して作成されたページ・エントリに ACL を割り当てられます。
- SiteEntry またはテンプレート・アセットに関連付けられていないページ・エントリの場合、開発者は管理ツールを使用できます。

**SiteEntry またはテンプレート・アセットに関連付けられていないページ・エントリに ACL を割り当てるには：**

1. 「管理」タブで、「管理ツール」を開き、「サイト」をダブルクリックします。

WebCenter Sites に次のフォームが表示されます。



The image shows a web form titled "Site". It contains two main sections. The first section is labeled "Enter Page Name:" and includes a text input field. Below the input field is a small note in parentheses: "(use \"%\" as a wild card)". The second section is labeled "Select Operation:" and contains a list of seven radio button options: "Modify Page", "Add Page", "Modify Status", "Modify ACLs", "Modify Page Cache", "Delete Pages", and "View Page". The "Modify Page" option is selected, indicated by a filled green radio button. At the bottom of the form is a black button with the text "OK" in white.

2. ACL を割り当てるページのフルパスと名前を入力します。使用するページの名前がわからない場合は、次のいずれかを行います。
  - フィールドを空のままにします。WebCenter Sites は、SiteCatalog 表のすべてのページ・エントリのリストを返します。
  - 名前の一部を入力し、最後にワイルドカード文字 (%) を付けます。WebCenter Sites は、条件に近い名前 of ページのリストを返します。
3. 「ACL の修正」を選択し、「OK」をクリックします。

「ACL の修正」画面が表示されます。

**Modify ACLs**

**Select the ACL:**

Browser

ContentEditor

ElementEditor

ElementReader

PageEditor

PageReader

RemoteClient

SiteGod

TableEditor

UserEditor

**Select the pages to modify:**

All

None

Page Name	ACL	Apply?
AlloyUI/Tree/Util/placePage_XML		<input type="checkbox"/>
AlloyUI/Tree/loadAssetTree		<input type="checkbox"/>
AlloyUI/Tree/loadSitePlanTree		<input type="checkbox"/>
AlloyUI/Tree/placePage		<input type="checkbox"/>

4. フォームの一番上にあるスクローリング・リストで、1 つ以上のページに割り当てる ACL を選択します。複数の ACL を選択するには、目的の各 ACL を **[Ctrl]** キーを押しながらクリックします。範囲内の最初と最後の ACL をシフトクリックすることにより、ACL の範囲を選択することもできます。
5. ページのリストで、[手順 4](#) で選択した ACL を割り当てる各ページの横にある「適用しますか。」チェック・ボックスを選択します。現在各ページに割り当てられている ACL が、「ACL」列に表示されます。(リスト内のすべてのページを選択するには、「すべて」をクリックします。リスト内のすべてのページを選択解除するには、「なし」をクリックします。)
6. 画面の下にある「適用」をクリックします。

## ACL 制限エラー・メッセージの設定

ユーザーが適切な権限のないページにアクセスを試みると、WebCenter Sites はエラー・メッセージを表示します。このメッセージは、次のファイルに格納されています。

```
<cs_install_dir>/futuretense_cs/formpriv.html
```

このメッセージおよび futuretense\_cs ディレクトリにあるその他のエラー・メッセージ・ページは、次の制限を使用してカスタマイズできます。

- ファイルの名前を変更しない。
- ファイル内に出現する {0} 文字列を変更しない。WebCenter Sites では、{0} 文字列を使用して、これらのエラー・メッセージを自動的に生成します。

## ロール

ユーザー管理には、ロールの概念が含まれます。ロールは、次のようにしてユーザーを補完します。

- ユーザー定義 (アカウント) が ACL により基礎となる Sites 機能 (データベース表) への個々のアクセスを記述しているのに対し、ロールは WebCenter Sites インタフェース機能へのサイト固有のアクセスを管理するために使用されます。
- ロールは、業務の説明または、コンテンツ・プロバイダ、エディタ、サイト・デザイナー、管理者など、類似機能を持つ個々の役職を表します。
- 作成されたサイト数に関係なく、各 Sites ユーザーには1つのユーザー定義 (アカウント) があります。ただし、ユーザーのロールはサイトごとに異なる場合があります。
- サイトに対してユーザーを有効にすると、そのユーザーは、そのサイトに対して実行できるロールのコンテキスト内で有効になります。

サイトに対してユーザーに割り当てられるロールにより、次のことが決定されます。

- そのサイトでユーザーが作成できるアセット。
- そのサイトでユーザーが検索できるアセット。
- ユーザーがサイトにログインしたときにツリーに表示されるタブ。
- ユーザーがワークフロー・プロセスに加わることが可能かどうか、および可能な場合、それはワークフロー・プロセスのどのステップか。
- ワークフロー・プロセスを進める際に、ユーザーがアセットで実行できる機能と実行できない機能。
- ユーザーがワークフロー・プロセスを管理できるかどうか、あるいはそのサイトでワークフロー・グループを作成または変更できるかどうか。

## システム・ロール

いくつかのシステム・ロールは WebCenter Sites によりインストールされます。Sites のコンテンツ・アプリケーションを機能させるには 1 つのロールが必要となり、WebCenter Sites 管理者を機能させるには 3 つのロールが必要となります。詳細は、606 ページの「システム・ロール」を参照してください。

## サンプル・ロール

1 つ以上のサンプル・サイトをインストールした場合、そのサイトに含まれる多くのサンプル・ロールにアクセスできます。ロールによって、サンプル・サイトのユーザーは様々なツリー・タブへのアクセスが許可されます。独自のサイトでアクセス制御を構成する方法の例として、サンプル・ロールを使用できます。

## カスタム・ロール

ACL とは異なり、ロールは通常、サイトにおける全範囲のユーザーの役割に対応するために作成する必要があるオブジェクトです。ロールを作成するには、次の「[ロールの使用](#)」の項の手順に従ってください。

## ロールの使用

この項では、ロールの作成、編集および削除方法を示します。

### 注意

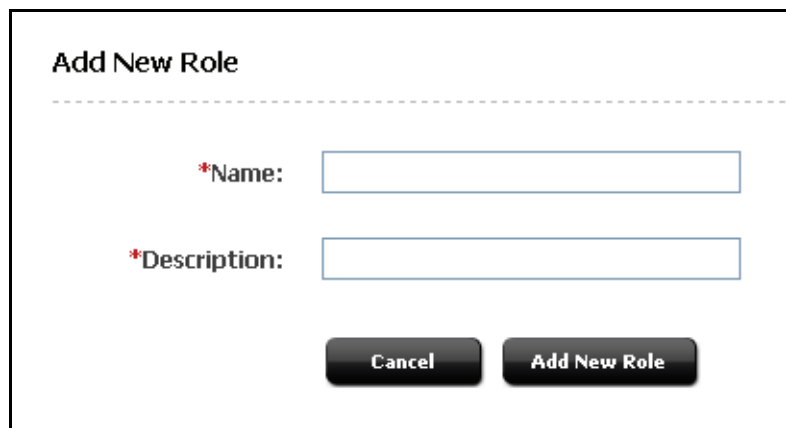
LDAP を使用している場合、ユーザーおよびサイト管理操作に対するシステム・レスポンスに注意してください。システム・レスポンスについては、付録 C「[LDAP-統合 Sites システムでのユーザー、サイト、およびロールの管理](#)」を参照してください。

## ロールの作成

新しいロールを作成するには：

1. 「管理」タブで、「ロール」を開き、「新規追加」をダブルクリックします。

WebCenter Sites に「新規ロールの追加」フォームが表示されます。

The image shows a web form titled "Add New Role". It has a dashed horizontal line below the title. There are two input fields: the first is labeled "\*Name:" and the second is labeled "\*Description:". Below these fields are two buttons: "Cancel" and "Add New Role".

**Add New Role**

-----

\*Name:

\*Description:

2. 「名前」フィールドに、最大 32 文字の一意の名前を入力します。
3. 「説明」フィールドに、255 文字以下の短い説明を入力します。
4. 「新規ロールの追加」をクリックします。
5. 必要に応じて、デフォルトのツリー・タブ（「ワークフロー」、「ブックマーク」、「サイト管理者」、「管理」、「サイト・プラン」およびアクティブ・リスト）にロールを追加します。手順については、[165 ページの「ツリー・タブの編集」](#)を参照してください。

## ロールの編集

ロールを作成した後にそのロールの名前を変更することはできませんが、ロールの説明は編集できます。

**ロールの説明を編集するには：**

1. 「管理」タブで、「ロール」をダブルクリックします。すべてのロールのリストがメイン・ウィンドウに表示されます。
2. ロールのリストで、編集するロールに移動し、その「編集」（鉛筆）アイコンをクリックします。
3. 「ロールの編集」フォームで変更を行い、「保存」をクリックします。

## ロールの削除

### 注意

システムのデフォルト・ロール、GeneralAdmin、SiteAdmin、WorkflowAdmin、AdvancedUser および SitesUser は削除しないでください。

**ロールを削除するには：**

1. 「管理」タブで、「ロール」をダブルクリックします。すべてのロールのリストがメイン・ウィンドウに表示されます。
2. ロールのリストで、削除するロールに移動し、その「削除」(ゴミ箱)アイコンをクリックします。

WebCenter Sites に確認メッセージが表示されます。

3. 「ロールの削除」をクリックします。  
ロールが削除されます。





## 第 5 章

# ユーザー・プロフィールおよび属性の構成

ユーザーは、WebCenter Sites のネイティブのユーザー・マネージャ ( 管理者のインタフェース内 ) または LDAP のいずれかを使用して作成できます。ただし、ユーザー・プロフィールおよび属性を構成するには、管理者のインタフェースを使用する必要があります。

この章では、ユーザーを作成するためのオプションについて概要を説明します。また、この章では、WebCenter Sites でのユーザーの作成方法とそのプロフィールおよびユーザー属性の構成方法も示します。外部ソースでのユーザーの作成の詳細は、製品のドキュメントを参照してください。

この章は、次の項で構成されています。

- [概要](#)
- [ユーザー管理操作](#)
- [WebCenter Sites でのユーザーの構成](#)
- [ユーザー・アカウントでの作業](#)
- [ユーザー・プロフィールとユーザー属性の操作](#)

## 概要

Sites ユーザーは、WebCenter Sites のネイティブのユーザー・マネージャ、WEM Admin、LDAP などの外部ユーザー・マネージャを使用して作成できます。

各 Sites ユーザーは次のデータのセットで定義されます。

- ユーザー・アカウント。これにより、ユーザーに WebCenter Sites システムとそのデータベース表へのアクセスを付与します。
- ユーザー・プロフィール。これは、ユーザーが次にに関する作業をするために必要です。
  - Sites アプリケーション
  - 言語パックとデフォルトの言語の設定
  - ワークフロー・プロセス。ここで電子メール・メッセージを送信し、ワークフロー参加者に割当てを通知します。ユーザー・プロフィールは、ユーザー名を電子メール・アドレスにマップして、ワークフロー・アクションをサポートします。
- ユーザー属性 (ユーザー・プロフィールの電子メールおよびロケールの属性に加えて)。ワークフローに加えてアクションおよびイベントがサポートされている必要があります。

ユーザーを作成および構成したら、ロールを使用して、作業するサイトと関連付ける必要があります。この章では、ユーザーの作成および構成方法について説明します。ユーザーをサイトと関連付ける手順は、[第 7 章「CM サイトのアセンブル」](#)に記載しています。

## ユーザー管理操作

WebCenter Sites のディレクトリ・サービス API により、認証情報、ユーザー情報などが保存されている外部ディレクトリ・サーバーまたはユーザー・マネージャに接続できます。次の接続オプションを使用できます。

- ネイティブ・システム : WebCenter Sites のネイティブのユーザー・マネージャです。ネイティブの WebCenter Sites ユーザー管理表である SystemUsers および SystemUserAttrs が使用されます。
- LDAP プラグイン : このオプションでは、ユーザー名および属性が、WebCenter Sites データベース以外のディレクトリ・サーバーに格納されます。

WebCenter Sites のセキュリティは ACL を基盤としているため、外部ユーザー管理システム (LDAP など) は、WebCenter Sites ACL と一致するように構成する必要があります。

プラグインの構成の詳細は、オラクル社のガイドである *サードパーティ製ソフトウェアの構成*に記載されています。プラグインを構成するプロパティは、futuretense.ini ファイル (「認証」タブ)、ldap.ini および dir.ini ファイル

にあります。これらのファイルについては、*プロパティ・ファイル・リファレンス*に説明があります。

### 注意

このガイドでは、一貫してネイティブの WebCenter Sites ユーザー・マネージャを使用します。

## ネイティブの WebCenter Sites ユーザー・マネージャ

ネイティブの WebCenter Sites ユーザー・マネージャを使用している場合、[第 3 章「サイト構成のガイドライン」](#)のガイドラインに従い、ユーザーを作成および構成し、管理システムへのアクセス権を付与します。

## LDAP プラグイン

LDAP を使用して、管理システムまたは配信システムのユーザーを管理している場合、WebCenter Sites 管理者のインタフェースではなく LDAP でユーザー・アカウントを作成します。ただし、依然として、管理者のインタフェースを使用して WebCenter Sites データベースに ACL およびロールを作成する必要があります (WEM Admin を使用してロールを作成することもできます)。LDAP と統合されている WebCenter Sites 管理システムへのアクセス権をユーザーに付与する手順は、オラクル社のガイドである *Oracle WebCenter Sites サポート・ソフトウェアの構成ガイド*に記載されています。

## WebCenter Sites でのユーザーの構成

各 WebCenter Sites ユーザーは、ユーザー・アカウント、ユーザー・プロフィール、および必要に応じてユーザー属性で完全に定義されています。

- ユーザー・アカウントは、WebCenter Sites で作業するすべての人に必要です。
- ユーザー・プロフィールは、WebCenter Sites モジュールおよび製品の作業、デフォルト言語の設定、および電子メール・メッセージを送信するワークフロー・プロセスへの参加をする予定のユーザーに必要です。
- 運用のために、ユーザー・プロフィールのロケールおよび電子メールの属性に加えてユーザー属性も必要な場合があります。その場合、追加の属性を作成できます。

ユーザーを作成したら、そのユーザーが作業する予定のサイトごとにそのユーザー名にロールを割り当てることで、適切なサイトに対してそのユーザーを有効化する必要があります。ユーザーの作成後の有効化の詳細は、[127 ページの「ユーザーへのサイトのアクセス権限の付与 \(ユーザーへのロールの割当て\)」](#)を参照してください。

新しいユーザーを作成して有効化した後、そのユーザーに次の情報を必ず指定してください。

- ユーザー・アカウントのユーザー名とパスワードの組合せ。

- WebCenter Sites の URL:

`http://<server>:<port>/<context>/login`

ここで

`<server>` は、WebCenter Sites を実行するマシンのホスト名または IP アドレスです。システムの設定によっては、ポート番号 (たとえば、`server:8080`) も必要になる場合があります。

`<context>` は、同じサーバー上の Web アプリケーションの名前です。

この章の残りの部分では、ユーザー・アカウント、プロフィール、および属性の作成方法と、それらの変更および削除方法を説明します。

## ユーザー・アカウントでの作業

この項では、WebCenter Sites でのユーザー・アカウントの作成、編集および削除方法を示します。

### 注意

この項では、WebCenter Sites 管理者のインタフェースでユーザーを作成、編集、および削除する手順について説明します。LDAP を使用している場合は、その LDAP 製品のドキュメントを参照してください。WEM Admin を使用している場合は、*Oracle WebCenter Sites Web エクスペリエンス管理フレームワーク用管理者ガイド*を参照してください。

また、そのガイドを読むときは、ACL という語を **group** という語に置き換え、それらの名前でグループに属するユーザーを作成してください。

## 新しいユーザーの作成

### 注意

この項では、WebCenter Sites 管理者のインタフェースでユーザーを作成する方法について説明します。LDAP を使用している場合は、その LDAP 製品のドキュメントを参照してください。WEM Admin を使用している場合は、*Oracle WebCenter Sites Web エクスペリエンス管理フレームワーク用管理者ガイド*を参照してください。

### ユーザーを作成する前に

1. ユーザーを作成する前に、ユーザーについて次の事項を決定します。
  - ログイン名
  - パスワード
  - ACL。これにより、WebCenter Sites のデータベース表へのユーザーのアクセスが制限されます。
    - ユーザーに必要な ACL を決定するには、[605 ページの「カスタム・ユーザー用の必須の ACL」](#)を参照してください。

- ユーザーの追加のシステム ACL を決定するには、600 ページの「システム ACL」を参照してください。
- ユーザーがアクセスする必要があるデータベース表にどの ACL が割り当てられているのかを判別するには、84 ページの「カスタム表への ACL の割当て」の手順に従います。

**ユーザーを作成するには：**

2. 「管理」タブで、「管理ツール」を開き、「ユーザー」をダブルクリックします。
3. 表示されるフォームで、「ユーザーの追加」を選択し、「OK」をクリックします。

「OK」をクリックする前にユーザー名を追加できます。それは、次の画面の「ログイン名」フィールドに自動入力されて表示されるようになります。

4. 「ユーザーの追加」フォームに次のように入力します。

**Add User**

\*Login Name:

\*Access Privileges: 

- Browser
- ContentEditor
- ElementEditor
- ElementReader
- PageEditor
- PageReader
- RemoteClient
- SiteGod
- TableEditor
- UserEditor

\*Password:

\*Re-enter Password:

**Add**

- a. 「ログイン名」フィールドに、一意の名前を入力します。空白や特殊文字（記号など）は含めないでください。アンダースコア文字（\_）は使用できます。
- b. 「アクセス権限」リストで、ユーザーの ACL を選択します。複数の ACL を選択するには、目的の各 ACL を [Ctrl] キーを押しながらクリックします。また、範囲内の最初と最後の ACL を [Shift] キーを押しながらクリックすることで、特定の範囲の ACL を選択することもできます。

- c. 「パスワード」と「パスワードの再入力」のフィールドに同じパスワードを入力します。
- d. 「追加」をクリックします。  
ユーザーが作成されます。
- e. 全体管理者を作成できます。ユーザーを管理者またはコンテンツ・コントリビュータにする場合の詳細は、[98 ページの「一般的なユーザー・タイプの作成」](#)を参照してください。

#### 作成後の手順を完了するには：

- 5. ユーザーが、次のオプションのいずれかを実装する予定である場合、
  - Oracle WebCenter Sites: Engage などの Oracle WebCenter Sites 製品
  - 言語パックおよび様々な言語
  - 電子メール・メッセージを送信するワークフロー・プロセスそのユーザーのプロファイルを作成します。手順については、[105 ページの「ユーザー・プロフィールの作成および編集」](#)を参照してください。
- 6. ユーザーが、ロケールおよび電子メール（ユーザー・プロフィールで指定される）に加えて、またはそのかわりに属性を必要としている場合は、属性を作成します。手順については、[106 ページの「ユーザー属性の編集、追加および削除」](#)を参照してください。
- 7. ユーザーを完全に定義したら、ロールを使用してそのユーザーをサイトに関連付ける必要があります。
  - a. これをまだ行っていない場合は、そのユーザーのロールを作成し、[89 ページの「ロールの作成」](#)の手順に従います。
  - b. ユーザーをサイトに関連付けるには、サイトを作成し、ユーザーをそのサイトに追加します。手順については、[120 ページの「サイトの作成」](#)および [127 ページの「ユーザーへのサイトのアクセス権限の付与（ユーザーへのロールの割当て）」](#)を参照してください。

## 一般的なユーザー・タイプの作成

ユーザーを作成するときは、そのユーザーが別の Web サイトで持つ予定のロールを考慮することが重要です。多くの場合、ユーザーはあるサイトでは管理者になり、別のサイトではコンテンツ・コントリビュータになります。この項では、各ユーザーを特定のタイプのユーザーにする方法について説明します。

この項で説明するトピックは次のとおりです。

- [99 ページの「ユーザーを全体管理者にする」](#)
- [100 ページの「ユーザーをサイト管理者にする」](#)
- [100 ページの「ユーザーをワークフロー管理者にする」](#)
- [101 ページの「ユーザーをコンテンツ・コントリビュータにする」](#)

## ユーザーを全体管理者にする

サイトの全体管理者は、そのサイトのすべての局面を制御します。ユーザーが全体管理者である場合、その管理アクションは特定の 1 つのサイトにログインしている場合にのみ制御できますが、ログインしているときはすべてのサイトを管理できることに注意してください。

1. 新しく作成したユーザーについて、正しい ACL が割り当てられているかどうかをダブルチェックします。

ユーザーの ACL を決定するには、605 ページの「カスタム・ユーザー用の必須の ACL」を参照してください。そこに記載されている表をみると、全体管理者の ACL が Browser、Element Reader、PageReader、UserReader、xceleditor、xceladmin、TableEditor、UserEditor、および VisitorAdmin であることがわかります。

2. 「管理」タブで、「セキュリティ」を開き、「グループへのユーザーの割当て」を開き、「新規追加」をダブルクリックします。「ユーザーへのグループの割当て」画面が表示されます。

3. 全体管理者にするユーザーを選択し、「グループ」フィールドで **RestAdmin** を選択します。

[Ctrl] キーを押しながらクリックすると、複数のユーザーまたはグループを選択できますが、全体管理者は少数にする可能性が高いため、誤ってユーザーを **RestAdmin** グループに追加しないように、一度に 1 つずつ追加することをお勧めします。

4. 「サイト」ツリーでそのサイトを選択し、ユーザーをここに追加します。

5. 「ユーザー」をクリックし、「ユーザー・ロールの管理」画面を開きます。

その特定のサイトにログインしている場合、この画面は、「サイト管理者」タブで「ユーザー」をダブルクリックしても表示できます。

6. ユーザーのログイン情報を入力して「編集」アイコンをクリックし、ユーザーのロールの編集画面を開きます。**GeneralAdmin** およびこの Web サイトでそのユーザーに設定する他のロールをすべて選択します。

### 注意

このドキュメントで使用されるロールの名前は、インストールされる FirstSiteII サンプル Web サイトで使用されているロールの名前です。パブリッシュする Web サイトには、別のロールまたはロール名を使用することもできます。

サイトに全体管理者を追加するときは、その同じ人に別のサイトで別のロールを設定するかどうかを考慮する場合があります。そのユーザーがこのような別のロールを割り当てるサイトにログインするときには、そのユーザーにこれらのロールを割り当てる必要があります。

ユーザーが全体管理者権限を持っている場合、彼らがその全体管理者ロールを持っている Web サイトにログインしているときにのみ「管理」タブが表示されます。



## ユーザーをサイト管理者にする

1. 新しく作成したユーザーについて、正しい ACL が割り当てられているかどうかをダブルチェックします。  
ユーザーの ACL を決定するには、605 ページの「カスタム・ユーザー用の必須の ACL」を参照してください。そこに記載されている表をみると、サイト管理者の ACL が Browser、Element Reader、PageReader、UserReader、xceleeditor、および xceladmin であることがわかります。
2. 「サイト」ツリーでそのサイトを選択し、ユーザーをここに追加します。
3. 「ユーザー」をクリックし、「ユーザー・ロールの管理」画面を開きます。  
その特定のサイトにログインしている場合、この画面は、「サイト管理者」タブで「ユーザー」をダブルクリックしても表示できます。
4. ユーザーのログイン情報を入力して「編集」アイコンをクリックし、ユーザーのロールの編集画面を開きます。
5. サイト管理者にするユーザーを選択し、「グループ」フィールドで **SiteAdmin\_AdminSite** を選択します。  
[Ctrl] キーを押しながらクリックすると、複数のユーザーまたはグループを選択できますが、サイト管理者は少数にする可能性が高いため、誤ってユーザーを SiteAdmin\_AdminSite グループに追加しないように、一度に 1 つずつ追加することをお勧めします。
6. **SiteAdmin** および **Advanced User** と、この Web サイトでそのユーザーに設定する他のロールをすべて選択します。**SiteAdmin** ロールによってそのユーザーに「サイト管理者」タブへのアクセス権が付与され、**AdvancedUser** ロールによって **Admin** インタフェースへのアクセス権が付与されます。

### 注意

このドキュメントで使用されるロールの名前は、インストールされる FirstSiteII サンプル Web サイトで使用されているロールの名前です。パブリッシュする Web サイトには、別のロールまたはロール名を使用することもできます。

サイトにサイト管理者を追加するときは、その同じ人に別のサイトで別のロールを設定する必要があるかどうかを考慮する場合があります。そのユーザーがこのような別のロールを割り当てるサイトにログインするときには、そのユーザーにこれらのロールを割り当てる必要があります。

ユーザーがサイト管理者権限を持っている場合、彼らがそのサイト管理者ロールを持っている Web サイトにログインしているときにのみ「サイト管理者」タブが表示されます。

## ユーザーをワークフロー管理者にする

1. 新しく作成したユーザーについて、正しい ACL が割り当てられているかどうかをダブルチェックします。



ユーザーの ACL を決定するには、605 ページの「カスタム・ユーザー用の必須の ACL」を参照してください。そこに記載されている表をみると、ワークフロー管理者の ACL が Browser、Element Reader、PageReader、UserReader、xceleeditor、および xceladmin であることがわかります。

2. 「サイト」 ツリーでそのサイトを選択し、ユーザーをここに追加します。
3. 「ユーザー」 をクリックし、「ユーザー・ロールの管理」画面を開きます。  
その特定のサイトにログインしている場合、この画面は、「サイト管理者」タブで「ユーザー」をダブルクリックしても表示できます。
4. ユーザーのログイン情報を入力して「編集」アイコンをクリックし、ユーザーのロールの編集画面を開きます。
5. **WorkflowAdmin** および **AdvancedUser** と、この Web サイトでそのユーザーに設定する他のロールをすべて選択します。**WorkflowAdmin** ロールによってそのユーザーに「ワークフロー」タブへのアクセス権が付与され、**AdvancedUser** ロールによって **Admin** インタフェースへのアクセス権が付与されます。

### 注意

このドキュメントで使用されるロールの名前は、インストールされる FirstSiteII サンプル Web サイトで使用されているロールの名前です。パブリッシュする Web サイトには、別のロールまたはロール名を使用することもできます。

サイトにワークフロー管理者を追加するときは、その同じ人に別のサイトで別のロールを設定するかどうかを考慮する場合があります。そのユーザーがこのような別のロールを割り当てるサイトにログインするときには、そのユーザーにこれらのロールを割り当てる必要があります。

ユーザーがワークフロー管理者権限を持っている場合、彼らがそのワークフロー・ロールを持っている Web サイトにログインしているときにのみ「ワークフロー」タブが表示されます。

## ユーザーをコンテンツ・コントリビュータにする

1. 新しく作成したユーザーについて、正しい ACL が割り当てられているかどうかをダブルチェックします。

ユーザーの ACL を決定するには、605 ページの「カスタム・ユーザー用の必須の ACL」を参照してください。そこに記載されている表をみると、すべてのユーザーの ACL が Browser、Element Reader、PageReader、UserReader、および xceleeditor であることがわかります。そのユーザーが寄与するようにするコンテンツのタイプに応じて、コンテンツ・コントリビュータに必要な他の ACL を追加できます。

たとえば、PageEditor ACL では、ユーザーにサイトへのページの追加、および定義済エレメントに基づいたコンテンツの変更が許可されます。ElementEditor ACL では、コントリビュータにテンプレートの作成が許可されます。特定の ACL の詳細とコントリビュータの編集アクセスにそれらがど

のように影響するのは、601 ページの「システム ACL とその説明」を参照してください。

ユーザーがページ上の既存のコンテンツの編集のみを行うようにする場合は、追加の ACL は必要ありません。単純な編集は、割り当てられたロールに含まれています。

2. 「サイト」ツリーでそのサイトを選択し、ユーザーをここに追加します。

3. 「ユーザー」をクリックし、「ユーザー・ロールの管理」画面を開きます。

その特定のサイトにログインしている場合、この画面は、「サイト管理者」タブで「ユーザー」をダブルクリックしても表示できます。

4. ユーザーのログイン情報を入力して「編集」アイコンをクリックし、ユーザーのロールの編集画面を開きます。そのロールに対して **SitesUser** を選択します。

ロールがアセットにどのように接続されているのかに応じて、別のロールの追加が必要な場合もあります。アセットは作成されるときに、ロールに接続されます。そのアセットにアクセスできるロールは、これらのロールのみです。

### 注意

通常、ユーザーを同じ Web サイトの SitesUser ロールと AdvancedUser ロールには割り当てません。SitesUser ロールによって Contributor インタフェースへのアクセス権が付与され、AdvancedUser ロールによって Admin インタフェースへのアクセス権が付与されます。

このドキュメントで使用されるロールの名前は、インストールされる FirstSiteII サンプル Web サイトで使用されているロールの名前です。パブリッシュする Web サイトには、別のロールまたはロール名を使用することもできます。

様々なアセットをどのように設定しているかに応じて、大部分のコンテンツ・コントリビュータには、Web サイトに対して SitesUser を超えるロールを割り当てません。コンテンツ・コントリビュータは、管理者が使用する Admin インタフェースではなく、Contributor インタフェースのみを使用してコンテンツを変更します。

## ユーザーの編集

### 注意

この項では、WebCenter Sites 管理者のインタフェースでユーザーを編集する方法について説明します。LDAP を使用している場合は、その LDAP 製品のドキュメントを参照してください。

ユーザーを編集するには：

### 注意

WebCenter Sites システム・ユーザーの名前または ACL (DefaultReader、ContentServer、xceladmin) を変更しないでください。

1. 「管理」タブで、「管理ツール」を開き、「ユーザー」をダブルクリックします。
2. 表示されるフォームで、操作するユーザーの名前を入力します。ユーザー名がわからない場合は、そのフィールドを空白のままにします。WebCenter Sites によってシステム内のすべてのユーザーのリストが返されます。
3. 「ユーザーの修正」を選択し、「OK」をクリックします。
4. ユーザーのリストで、作業対象のユーザーを選択します。
5. 「ユーザーの修正」フォームで目的の変更を行い、「修正」をクリックします。

## システムからのユーザーの削除

### 注意

この項では、WebCenter Sites 管理者のインタフェースを使用して WebCenter Sites ユーザーを削除する方法を示します。LDAP を使用している場合は、その LDAP 製品のドキュメントを参照してください。

ユーザーをシステムから削除するには：

### 注意

WebCenter Sites システム・ユーザー (fwadmin または管理者として使用されるユーザー、ContentServer、または DefaultReader) を削除しないでください。

1. 106 ページの「ユーザー・プロフィールの削除」に示すようにユーザー・プロフィールを削除し、次の手順に進みます。

2. 次のようにユーザーを削除します。
  - a. 「管理」タブで、「管理ツール」を開き、「ユーザー」をダブルクリックします。
  - b. 表示されるフォームで、削除するユーザーの名前を入力します。ユーザー名がわからない場合は、そのフィールドを空白のままにします。WebCenter Sites によってシステム内のすべてのユーザーのリストが返されます。
  - c. 「ユーザーの削除」を選択し、「OK」をクリックします。
  - d. ユーザーのリストで、削除対象のユーザーの横にある「削除」ラジオ・ボタンを選択します。
  - e. 「削除」をクリックします。  
WebCenter Sites に警告メッセージが表示されます。
  - f. 「OK」をクリックします。  
そのユーザーが削除されます。

## ユーザー・プロフィールとユーザー属性の操作

ユーザー・プロフィールは、次に関する作業をするすべてのユーザーに必要です。

- サイト・モジュールおよび製品
- 言語パック (および言語が有効化されている必要があります)
- ワークフロー参加者にその割当てを通知するために電子メール・メッセージが送信されるワークフロー・プロセスユーザー・プロフィールは、ユーザー名を電子メール・アドレスにマップして、ワークフロー・アクションをサポートします。

ユーザー・プロフィールには、一連のユーザー属性が保持されます。デフォルトでは、ユーザー・プロフィールに保持されるユーザー属性は次のもののみです。

- **電子メール属性。** ワークフロー・アクションをサポートするために使用され、値としてユーザーの電子メール・アドレスを取ります。(ワークフロー参加者に割り当てられたアセットに関する電子メールをその参加者に送信するワークフロー・アクションを作成できます。)
- **ロケール属性。** WebCenter Sites システムに言語パックがインストールされている場合に、どの言語を使用するかを決定するために使用されます。この属性は、値としてユーザーの優先場所を取ります。

ユーザーが WEM で作成された場合、アバターも属性として付加されます。必要に応じて、ユーザー属性を追加し、WebCenter Sites ユーザー管理表にそれらの値を格納できます。ただし、WebCenter Sites インタフェースでこれらの値を使用するには、ユーザー・プロフィールのフォームを表示するエレメントをカスタマイズする必要があります。WebCenter Sites ユーザー・インタフェースのエレメントのカスタマイズの詳細は、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』を参照してください。

## ユーザー・プロフィールの作成および編集

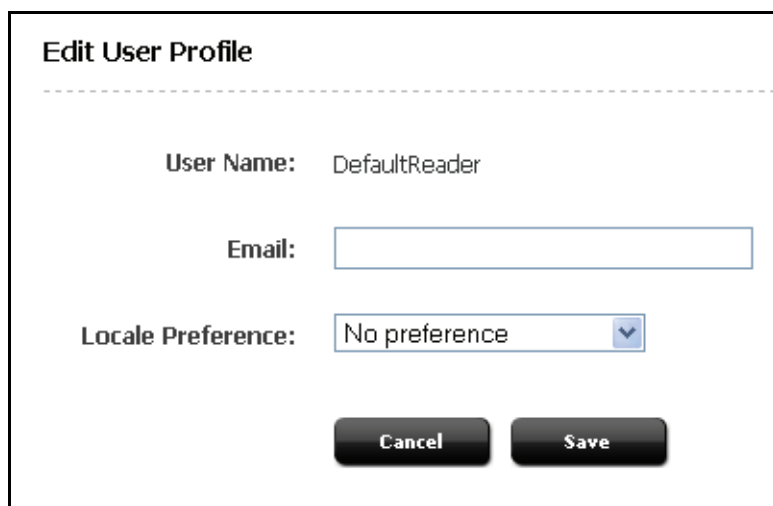
### 注意

LDAP を使用している場合、ユーザーおよびサイト管理操作に対するシステム・レスポンスに注意してください。システム・レスポンスの詳細は、[付録 C 「LDAP-統合 Sites システムでのユーザー、サイト、およびロールの管理」](#) を参照してください。

ユーザー・プロフィールを作成または編集するには：

1. 「管理」タブで、「ユーザー・プロフィール」をダブルクリックします。  
WebCenter Sites に「ユーザー・プロフィール管理」フォームが表示されます。
2. そのフォームで、目的のユーザー名を入力し、「選択」をクリックします。  
WebCenter Sites に、選択したユーザーのプロフィールが表示されます。
3. 「編集」アイコンをクリックします。

WebCenter Sites に「ユーザー・プロファイルの編集」フォームが表示されます。



4. 「電子メール」フィールドに、そのユーザーの電子メール・アドレスを入力します。
5. (オプション) Sites システムに 1 つ以上の言語パックがインストールされている場合は、「ロケール設定」ドロップダウン・リストからこのユーザーのロケール設定を選択します。
6. 「保存」をクリックします。
7. このユーザーが作業する必要があるサイトに対してこのユーザーを有効化します。手順については、[127 ページの「ユーザーへのサイトのアクセス権限の付与 \(ユーザーへのロールの割当て\)」](#)を参照してください。

## ユーザー・プロファイルの削除

ユーザー・プロファイルを削除するには：

1. 「管理」タブで、「ユーザー・プロファイル」をダブルクリックします。
2. 「ユーザー・プロファイル管理」フォームで、「削除」をクリックします。  
WebCenter Sites に警告メッセージが表示されます。
3. 「ユーザー・プロファイルの削除」をクリックします。  
WebCenter Sites に、削除を確認するメッセージが表示されます。

## ユーザー属性の編集、追加および削除

デフォルトでは、Sites コンテンツ・アプリケーションに必要なユーザー属性は、電子メール・アドレスとロケール設定のみです。WEM で作成されたユーザーは、そのほかにアバター属性を持つようになります。[105 ページの「ユーザー・プロファイルの作成および編集」](#)に示すように、ユーザー・プロファイル機能を使用して、これらの属性をユーザーに割り当てます。必要に応じて、LDAP を使

用している場合であっても、この表でユーザーの追加のユーザー属性を格納および使用できます。

「ユーザー属性の修正」オプションで、ユーザー・プロフィールで使用されている属性を変更できます。また、属性を追加および削除することもできます。

#### ユーザーの属性を変更するには：

1. 「管理」タブで、「管理ツール」を開き、「ユーザー」をダブルクリックします。

表示されるフォームで、操作するユーザーの名前を入力します。ユーザー名がわからない場合は、そのフィールドを空白のままにします。WebCenter Sites によってシステム内のすべてのユーザーのリストが返されます。

2. リストで、属性を変更するユーザー名をクリックします。「ユーザー属性」フォームが表示されます。
3. 「ユーザー属性」フォームに次のように入力します。

**User Attributes:DefaultReader**

Attribute Name	Attribute Values
<input type="text"/>	<input type="text"/> <a href="#">Add new attribute and value .</a>

**Modify**

必要に応じて、次のいずれかを実行します。

- 「属性値」フィールドの内容を編集することで、属性に割り当てられている現在の値を変更します。
  - フォームの下部にあるフィールドに、その名前と少なくとも 1 つの値を入力することで新しい属性を追加します。
  - 不要な属性は (「属性値」フィールドで) その関連付けられた値を削除することで削除します。
4. 「修正」をクリックします。  
変更内容がデータベースにコミットされます。





## 第 6 章

# 外部セキュリティの設定

セキュリティ・プロトコルを何にするかの決定とそれらの実装は、**Sites** 管理者の重要な役割です。テンプレートのコーディングやアセット・タイプ的设计を始める前に、管理者とサイト開発者は、セキュリティを管理システムと配信システムの両方に構成する方法を検討し、決定する必要があります。

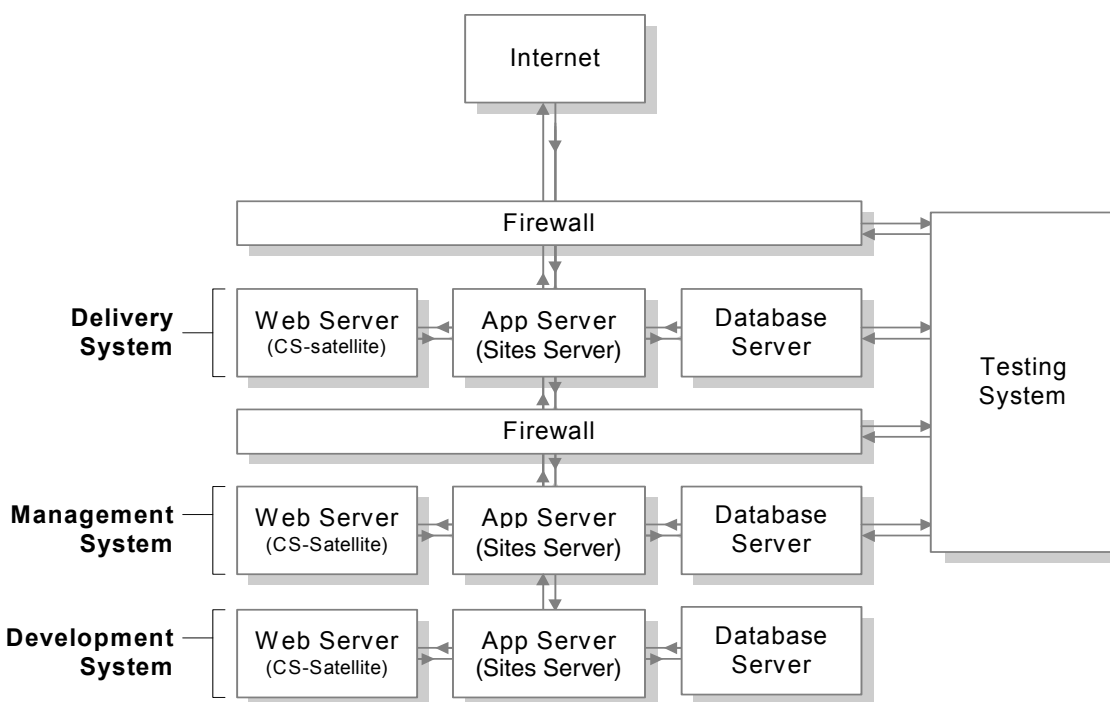
この章は、次の項で構成されています。

- [概要](#)
- [セキュリティの実装](#)
- [セキュリティのテスト](#)

## 概要

開発者がオンライン・サイトの設計や管理システムのユーザー・インタフェースの変更の検討を開始する前に、管理者はセキュリティ・プロトコルを決定し、実装する必要があります。セキュリティ構成に関する決定は、オンライン・サイトのコード化および実装方法に影響を与えます。

定期的にシステムを確認し、それらが期待どおりに機能しているかどうかを判断する必要があります。次の図は、セキュアな Sites システムの例を示しています。



## ACL とセキュリティ

第4章「[ACL およびロールの使用](#)」で説明したように、ACL (アクセス制御リスト) は、Sites システムでセキュリティおよびユーザー管理モデルの基盤として機能します。ACL は、データベース表および WebCenter Sites ページの両方へのアクセスを制限する権限のセットです。

ACL の制限は、futuretense.ini ファイル内の cc.security プロパティおよび security.checkpagelets プロパティが true に設定されている場合にのみ実施されます。これらのプロパティは、デフォルトで true に設定されています。なんらかの理由でセキュリティを無効にする必要がある場合は、プロパティ・エディタを開き、cc.security プロパティを false に設定します。ただし、サイトの開発が確実にセキュリティを有効にした状態で行われるようにするため、このプロパティはすべてのシステムで true のままにすることをお勧めします。

システムのセキュリティ対策を計画する際には、デフォルトの ACL ( [付録 A「システム・デフォルト」](#) を参照 ) のリストを調べ、追加の ACL が必要かどうかを判断します。開発者が新しい表の作成またはユーザー・インタフェースへの追加を計画している場合には、システム ACL とは異なる権限の組合せで ACL を作成する必要が生じる場合があります。

### 注意

どのような状況においても、システムのデフォルト ACL を変更したり、WebCenter Sites のシステム表または Sites のコンテンツ・アプリケーションの表に割り当てられた ACL を変更しないでください。

## DefaultReader、secure.CatalogManager および secure.TreeManager

WebCenter Sites とそのコンテンツ・アプリケーションには、いくつかのデフォルトのユーザー・アカウントが付属しており、その 1 つが DefaultReader というものです。このアカウントは権限のないすべてのサイト訪問者に割り当てられます (WebCenter Sites にホストされるサイトのすべての訪問者に WebCenter Sites のユーザー ID が必要なため)。

DefaultReader ユーザー・アカウントには、デフォルトで、Browser および Visitor の ACL があります。Visitor により、統計目的の Engage アセット訪問者の追跡が有効になります。データベース表の多くにも Browser ACL が割り当てられており、様々な Engage 表には Visitor ACL が割り当てられているため、セキュリティの問題が生じます。これにより、DefaultReader アカウントを使用していれば、だれでもその表内の情報を調べることが可能となります (ただし、このユーザーとして表に書き込むことはできません)。DefaultReader ユーザー・アカウントを使用して WebCenter Sites データベース内の表を閲覧できないようにするには、futuretense.ini ファイル内の次のプロパティを true に設定します。

- secure.CatalogManager
- secure.TreeManager

これらのプロパティが true に設定されている場合、DefaultReader ユーザーは、読取り専用データであっても、CatalogManager および TreeManager サブレットにはアクセスできません。

### 注意

Oracle WebCenter Sites の詳細 : Engage ACL (Visitor および VisitorAdmin) については、[付録 A「システム・デフォルト」](#) を参照してください。各 ACL に関連付けられる権限については [表 A-2](#) を、ACL の説明は [表 A-3](#) を参照してください。

## BlobServer とセキュリティ

BLOB にセキュリティを実装する場合は、BlobServer サブレットのセキュリティ機能を有効にする必要があります。このためには、`futuretense.ini` ファイル内の `bs.security` パラメータを `true` に設定します。

`bs.security=true` の場合、BLOB の URL にその要求者が有効なユーザーとして認証されていることの証拠が含まれていなければ、BlobServer はその BLOB の提供を拒否します。証拠とは、URL 内にある、`csblobid` というセッション変数と値が一致する `csblobid` パラメータからの値です。したがって、BlobServer セキュリティが有効な場合、開発者は、通常とは異なる方法で、BLOB へのリンクをコード化する必要があります。

これらのリンクをコード化する方法については、『*Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド*』を参照してください。

## セキュリティの目的

一般的には、Sites システム ( 開発システム、管理システムおよび配信システム ) ごとに、異なるセキュリティの目的があります。

### 開発システムのセキュリティの目的

開発システムは一般的にはファイアウォールの内側にありますが、開発システムにおいても、開発者が設計対象とするシステム ( 管理または配信 ) で実装されるものと同じセキュリティ構成を実装する必要があります。なぜでしょうか。両方のシステムで条件を同じにすることで、コードがターゲット・システムで適切に機能するようにするためです。

- 配信システムで BlobServer セキュリティの使用を計画している場合、BLOB の URL を作成するテンプレートは異なる方法でコード化する必要があります。したがって、開発システムでも BlobServer セキュリティを有効にする必要があります。
- オンライン・サイトで、訪問者が自分自身を識別することが要求される場合、開発システムには、配信システムで使用するものと同じセキュリティ構成が必要です。

### 管理システムのセキュリティの目的

管理システムのセキュリティには、次の 2 つの主な概念が含まれています。

- 有効な Sites ユーザーのみがシステムにアクセスできるようにする ( この章で説明します ) 。
- 有効なユーザーが、そのユーザーに適した機能のみにアクセスできるようにする。詳細は、[第4章「ACL およびロールの使用」](#)を参照してください。

### 配信システムのセキュリティの目的

サイトを一般に配信する際には、訪問者はサイト上のコンテンツにアクセスできるようにする一方、ハッカーが公開しない領域にアクセスできないようにすることも必要なため、元来配信システムでの警戒はより厳しいものとなります。

配信システムを構成する際には、WebCenter Sites のユーザー・インタフェースを無効にし、このインタフェースや開発者ツールを使用してアセットやコードを追加できないようにします。さらに、一部の WebCenter Sites サブレットへのアクセスを制限します。

## セキュリティの実装

この項では、実装することになったセキュリティ対策を構成するために必要な手順を説明します。これには、プロパティの設定、デフォルトのユーザー・アカウントのパスワードの変更、企業ネットワーク外にアクセスできるシステムに対する SSL の使用、特定の WebCenter Sites サブレットの URL のマッピング、および配信システム上のアプリケーションの特定部分の無効化があります。

各項では、どのシステムでどの手順を実行するのかが示されています。

### セキュリティ設定を構成するプロパティ

この項では、様々なセキュリティを実装する `futuretense.ini` ファイル内のプロパティを構成する方法を説明します。

#### すべてのシステム対象

プロパティ・エディタを使用して、`futuretense.ini` ファイルを開き、次のプロパティが `true` に設定されていることを確認します。

- `cc.security`
- `security.checkpagelets`
- `secure.CatalogManager`
- `secure.TreeManager`

BlobServer セキュリティの使用を計画している場合は、次のプロパティを `true` に設定します。

`bs.security`

セッション・タイムアウト値が各システムに適した値になるよう、次のプロパティも設定します。

`cs.timeout`

開発システムおよび管理システムでは、支障なく設定できると考えられるかぎり長いタイムアウト値を設定します。配信システムでは、訪問者にフラストレーションを感じさせることなく可能なかぎり短いタイムアウト値を設定します。

#### 配信システムの場合

前の項で説明したプロパティに加え、配信システムでは、もう 1 つのプロパティ、`cs.wrapper` を指定します。

ラッパーとは、Web サーバー上の `futuretense_cs` ディレクトリにある HTML ファイルです。このディレクトリには、`Dev` というサブディレクトリも含まれ、これは配信システムから削除する必要があります。

ただし、配信システム上の Web サーバーから futuretense\_cs ディレクトリ全体を削除する場合は、cs.wrapper プロパティを false に設定する必要があります。

詳細は、115 ページの「Sites フォームとページ (配信システムのみ)」を参照してください。

## ユーザーとパスワード

Sites のインストール後にすべてのシステムでデフォルトのユーザー・アカウントがセキュアになったことを確認してください。

### すべてのシステム対象

すべてのシステム (開発、管理および配信) で、次の手順を実行します。

- fwadmin ユーザー・アカウントのデフォルトのパスワードを変更します (管理者インタフェースの「管理」タブにある「管理ツール」の下の「ユーザー」ノード)。
- インストール時に作成された WebCenter Sites ユーザーが ContentServer という名前の場合、そのパスワードがデフォルトのパスワード (password) ではないことを確認します。使用しているパスワードがデフォルトのパスワードの場合は、これを変更します (管理者インタフェースの「管理」タブにある「管理ツール」の下の「ユーザー」ノード)。
- アプリケーション・サーバーのデフォルトの管理者ユーザー名およびパスワードを変更します。
- Web サーバーのデフォルトの管理者ユーザー名およびパスワードを変更します。
- サンプル・サイトがインストールされている場合、サーバーへのミラーリングのパブリッシュ方法に対してミラー・ユーザーが作成されています (名前: mirroruser、パスワード: mirroruser)。このユーザーのパスワードを変更します。
- SiteGod ACL を持つユーザー・アカウントの場合、頻繁にパスワードを変更してください (管理者インタフェースの「管理」タブにある「管理ツール」の下の「ユーザー」ノード)。SiteGod ACL を持つユーザー・アカウントは、UNIX root ユーザーのように対処してください、

#### 注意

DefaultReader ユーザーのデフォルト・パスワードは変更しないでください。

### 管理システムおよび配信システムの場合

AviSports および FirstSiteII 以外のサンプル・サイトが管理システムまたは配信システムにインストールされている場合、エディタを含むすべてのサンプル・ユーザーを削除しますが、xceditor ACL は削除しないでください。また、fwadmin ユーザーは削除しないでください。さらに、mirroruser ユーザーのパスワードを変更します。

## 配信システムの場合

配信システムでは、そのシステムのシステム管理者以外のユーザーに、xceleeditor ACL を割り当てないでください。WebCenter Sites のコンテンツ・アプリケーションがその配信システムにインストールされている場合、この ACL により、このコンテンツ・アプリケーションへのアクセスが可能になります。

## SSL とデジタル証明

リモートの従業員でもアクセスできる管理システムなど、企業ネットワーク外からアクセス可能なシステムや専用データを含むシステムでは、SSL を使用して、暗号化されたセキュアな接続を確立することをお勧めします。

自己署名証明書ではなく、**信頼できる機関により承認されたデジタル証明書を使用する必要があります**。自己署名証明書を使用すると、次のような結果になる場合があります。

- Java によるシステムへの内部コールが失敗する可能性がある。
- 左側のナビゲーション・ツリーやパブリッシュなど、ユーザー・インタフェースの一部の機能が正常に動作しない可能性がある。

## URL と Web サーバー ( 配信システムのみ )

配信システムの Web サーバーでは、次の WebCenter Sites サブレットのみにアクセス権を与えるようにします。どのようにするのでしょうか。それらの URL のみをアプリケーション・サーバーにマップします。

- ContentServer
- BlobServer
- Satellite
- CookieServer

その他の WebCenter Sites サブレットのアプリケーション・サーバーには、URL をマップしないでください。かわりに、次のサブレットの URL は、「404 見つかりません」ページなどのエラー・ページにマップします。

- HelloCS
- CatalogManager
- TreeManager
- DebugServer
- CacheServer
- Inventory

## Sites フォームとページ ( 配信システムのみ )

配信システムでは、必ずサイト・アプリケーションの次のピースを無効にするか、完全に削除してください。

- **Web** サーバーから futuretense\_cs/Dev ディレクトリを削除します。このディレクトリには開発者にとって便利なフォームが含まれており、配信システムではこれらは不要です。

#### 注意

このディレクトリは、アプリケーション・サーバーからは削除しないでください。削除するのは **Web** サーバーからのみです。

- Web サーバーから futuretense\_cs ディレクトリ全体を削除することもできます。(アプリケーション・サーバーからは、これを削除しないでください。)
- この場合、futuretense.ini ファイルの cs.wrapper プロパティは、必ず false に設定してください(ラッパーはそのフォルダの HTML ファイルです)。これを行わない場合、サイトの訪問者には、システム・エラー・メッセージではなく、404 ページが見つかりませんが表示されます。
- SiteCatalog/OpenMarket/Xcelerate/UIFramework に移動し、すべてのページの名前を変更します。最低でも、LoginPage と LoginPost の名前は変更してください。



## セキュリティのテスト

セキュリティ対策を実装したら、システムをテストします。

### すべてのシステムに対するセキュリティ・テスト

開発、管理および配信の各システムで、次の手順を実行します。

1. Sites Explorer で、デフォルトのユーザー・アカウントを使用して、データベースへのログインを試みます。
  - DefaultReader  
パスワードに SomeReader を使用してログインできる場合、`secure.CatalogManager` および `secure.TreeManager` プロパティは `false` に設定されています。これらは `true` に変更してください。
  - ContentServer  
パスワードに `password` を使用してログインできる場合は、このパスワードをただちに変更してください。
  - editor  
パスワードに `xceleditor` を使用してログインできる場合は、このパスワードをただちに変更してください。
  - fwadmin  
パスワードに `xceladmin` を使用してログインできる場合は、このパスワードをただちに変更してください。
2. 管理システムと配信システムには、サンプル・サイト・ユーザーが存在しないことを確認します。
3. 次の `CatalogManager` URL を使用して、`ContentServer/password` でログインできないことを確認します。  
`http://<server>:<port>/<context>/CatalogManager?ftcmd=login&username=ContentServer&password=password`
4. 次の `CacheServer` URL を使用して、`ContentServer/password` でキャッシュ全体をフラッシュできないことを確認します。  
`http://<server>:<port>/<context>/CacheServer?all=true&authusername=ContentServer&authpassword=password`
5. デフォルトの管理者ユーザーとしてアプリケーション・サーバーにログインできないことを確認します。
6. デフォルトの管理者ユーザーとしてデータベースにログインできないことを確認します。
7. デフォルトの管理者ユーザーとして Web サーバーにログインできないことを確認します。



## 第 7 章

# CM サイトのアセンブル

CM サイトは、基本的なコンポーネントを作成すれば、アセンブルできます。基本的なコンポーネントには、ユーザー（ユーザーの ACL とロールを含む）とデータ・モデルがあります。オプションで、サイト DocLink やサイト・デスクトップなどの補助的なユーザー・インタフェースを有効化できます。この章では、サイトの操作方法（サイトの作成、編集および削除）、サイト・ユーザーの管理方法（ユーザーの追加、編集および削除）およびこのサイトのアセット・タイプの管理方法（アセット・タイプの有効化と除去）を示します。

この章は、次の項で構成されています。

- [概要](#)
- [サイトの使用](#)
- [サイト・ユーザーの割当てと管理](#)
- [アセット・タイプの有効化と管理](#)
- [ユーザー・インタフェースの編集と管理](#)

## 概要

サイトのアセンブリでは、ユーザーをサイトに割り当て、コンテンツ (アセット・タイプ) をサイトに割り当てて、さらにオプションでサイト・デスクトップおよびサイト DocLink インタフェースを有効化する必要があります。この章では、サイトを作成し、ユーザーをサイトに割り当てて、さらにアセット・タイプをサイトに割り当てます。以降の章では、サイト・ユーザーの権限をサイトのコンテンツに合わせてチューニングすることで、各サイトを開発します。

## サイトの使用

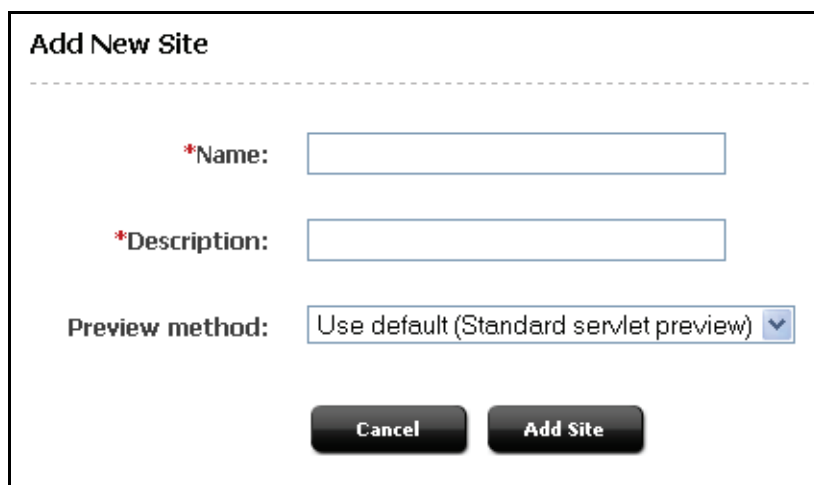
- サイトの作成
- サイトの構成情報の取得
- サイトの編集
- サイトの削除

## サイトの作成

サイトの作成とは、サイト名、説明、およびサイトで表示するコンテンツのレビュー方法を指定することを意味します。

サイトを作成するには：

1. 「管理」タブで、「サイト」を開き、「新規追加」をダブルクリックします。  
「新規サイトの追加」フォームが表示されます。



The image shows a web form titled "Add New Site". It contains three input fields: a text field for "Name" (marked with a red asterisk), a text field for "Description" (marked with a red asterisk), and a dropdown menu for "Preview method" with the selected option "Use default (Standard servlet preview)". At the bottom, there are two buttons: "Cancel" and "Add Site".


2. 「名前」フィールドに、最大 255 文字の一意の名前を入力します。


**注意**


サイトの正しい名前を入力したことを確認してください。サイトの説明は編集できますが、サイトの名前は作成後に変更できません。

3. 「説明」フィールドに、WebCenter Sites のインタフェースに表示するサイト名を入力します (最大 64 文字)。この表示名は、ユーザー・インタフェース全体でサイトのリストに使用されます。
4. 「プレビュー方法」フィールドでは、サイトのコンテンツをプレビューする方法を選択します。
5. 「サイトの追加」をクリックします。  
「サイト」フォームが表示されます。このフォームでは、サイトの調査、編集または削除、ユーザーの管理、サイトをレプリケートするためのサイト・ランチャの構成など、様々な操作を実行できます。

**Site: LoafersBakery**

 Inspect

 Edit

 Delete

**Name:** LoafersBakery

**Description:** Loafers Bakery

**Publication ID:** 1333670710396

**Preview method:** Use default (Standard servlet preview)

**Wrapper page:**

**Users:** [Manage users for this site](#)

**Enabled Asset Types:** No Asset Types are enabled for this site  

[Enable Asset Types...](#)[Disable Asset Types...](#)

[List all Start Menu items for this site](#)

**Workflow Processes:** [List all Workflow Processes for this site](#)

**Sites Desktop:** [Configure Sites Desktop for this site](#)

**Site Launcher:** [Configure Site Launcher for this site](#)

[List all sites](#)

「サイト」ノードに新しいサイトを追加すると、サイト名の下に、サイト・コンポーネントを要求する一連のサブノードが作成されます。

- サイト・ユーザーを管理するには、「このサイトのユーザーの管理」をクリックします。
- Web サイトのアセット・タイプを選択するには「アセット・タイプの有効化」をクリックします。アセット・タイプを削除するには、「アセット・タイプの無効化」をクリックします。アセット・タイプは開発者が作成します。

- サイトに作成されたスタート・メニュー・アイテムを表示するには、「このサイトのすべてのスタート・メニュー・アイテムのリスト」をクリックします。
- サイトのワークフローを管理するには、「このサイトのすべてのワークフロー・プロセスのリスト」をクリックします。
- サイト・デスクトップの構成と有効化を要求する「このサイトのサイト・デスクトップの構成」をクリックします。
- サイト・ランチャの構成と有効化を要求する「このサイトのサイト・ランチャの構成」をクリックします。

各サブノードにはリンク・メカニズムが備えられており、これによりサブノードおよびサイトを構成プールのデータと関連付けることができます。このリンク・メカニズムにより、サブノードを削除したり、サブノードにカスタム・サブノードを補充することはできません。サブノードを選択すると、次に説明するとおり、構成プールに入れる必要がある、サブノードに必要なすべてのデータを作成できます。

前述の手順は、新規サイトの追加のみです。

- サイトを使用可能にするには、ユーザーとアセット・タイプ (開発者が作成) をサイトに関連付ける必要があります。ワークフロー・プロセスを使用するように計画している場合は、そのプロセスも作成する必要があります。
- サイトを他の WebCenter Sites システムにコピーまたは移行するには、リアルタイム・パブリッシュの方法を使用します。第4部「リアルタイム・パブリッシュ」を参照してください。

## サイトの構成情報の取得


特定の状況では、サイトが構成された方法を把握する必要があります。たとえば、どのアセット・タイプとワークフロー・プロセスが有効化されているかや、どのようなサイト・ユーザーがいるかなどです。


**サイトの構成情報を取得するには：**


1. 「管理」タブで、「サイト」を開き、目的のサイトをダブルクリックします。

2. 「サイト」フォームで、確認する情報を提供するオプションを選択します。

**Site: LoafersBakery**

 **Inspect**

 **Edit**

 **Delete**

**Name:** LoafersBakery

**Description:** Loafers Bakery

**Publication ID:** 1333670710396

**Preview method:** Use default (Standard servlet preview)

**Wrapper page:**

**Users:** [Manage users for this site](#)

**Enabled Asset Types:** No Asset Types are enabled for this site

**Enable Asset Types...**

**Disable Asset Types...**

[List all Start Menu items for this site](#)

**Workflow Processes:** [List all Workflow Processes for this site](#)

**Sites Desktop:** [Configure Sites Desktop for this site](#)

**Site Launcher:** [Configure Site Launcher for this site](#)

[List all sites](#)



## サイトの編集

サイトの編集は、サイトの説明やプレビュー方法を変更することを意味します。サイトの名前を変更する必要がある場合、サイトを削除して、新しいサイトを正しい名前で作成する必要があります。

**サイトの説明を編集するには：**

1. 「管理」タブで、「サイト」を開き、目的のサイトをダブルクリックします。
2. 「サイト」フォームで、「編集」をクリックします。
3. 「編集」フォームで、次の手順を実行します。
  - a. 「説明」フィールドに、適当な変更を加えます。
  - b. 「プレビュー方法」フィールドで、必要に応じて、別のプレビュー方法を選択します。
4. 「保存」をクリックします。

## サイトの削除

サイトを削除すると、そのサイトのすべての構成情報が削除されるか、共有が解除（サイトがデータを他のサイトと共有していた場合）されます。次の構成情報は、サイトの削除の影響を受けます。

- サイトに対して有効にされていたスタート・メニュー・アイテムは削除されるか共有が解除されます。
- SmartLists は削除されるか共有が解除されます。
- パブリッシュの宛先は共有が解除されます。
- ユーザーはサイトから削除されます。
- 共有されていたワークフローは、共有が解除されるか削除されます。
- 共有されていたテンプレート・アセットでは、SiteEntry が削除されます。
- サイトとツリー・タブに対して有効化されていたアセット・サブタイプは、削除されるか共有が解除されます。



このため、サイトを削除する前に、維持する必要があるアセットが共有されていることを確認してください。

**サイトを削除するには：**

1. 「管理」タブで、「サイト」をダブルクリックします。
2. サイトのリストで、削除するサイトに移動し、そのサイトの「削除」アイコンをクリックします。

サイト・コンポーネントが削除されることを通知する警告が表示されます。警告では、該当するコンポーネントが示され、そのサイトを削除する意思があるか確認を求められます。

**Delete Site**

 This action will permanently delete assets that belong to the site exclusively. It will delete all site configuration information, including start menus, workflow processes, workflow groups, and tree tabs which are configured solely for this site. It will permanently remove the site. Are you sure that you want to delete this site? 

**Name:** LoafersBakery

**Description:** Loafer's Bakery and Restaurant

**Description:** Loafer's Bakery and Restaurant

**Publication ID:** 1328442563990

**Cancel** **Delete Site**

3. 「サイトの削除」をクリックします。

## サイト・ユーザーの割当てと管理

この項では、WebCenter Sites ユーザーにサイトへのアクセス権限を与える方法、サイト・ユーザーの表示方法、サイトでのユーザー・ロールの割当てを変更する方法およびサイトからのユーザーの削除方法を示します。

### ユーザーへのサイトのアクセス権限の付与 (ユーザーへのロールの割当て)

ユーザーがサイトへのアクセス権限を取得するには、そのサイトでユーザーにロールが少なくとも1つ割り当てられている必要があります。割り当てられたロールによって、ユーザーがサイトに関連付けられ、そのユーザーはサイトへログインが可能になります。ユーザーに割り当てられたロールの1つが、サイトのインタフェース機能にも指定されている場合は、ユーザーにインタフェース機能へのアクセス権限が付与されます。

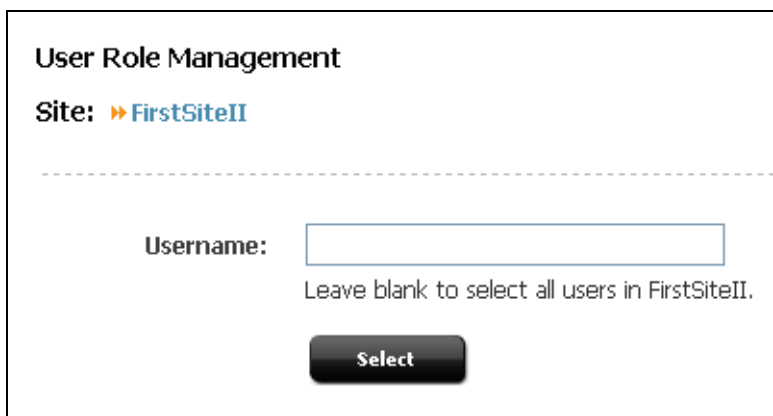
#### 注意

この項では、1人以上のユーザーと1つのロールおよび1つのサイトが作成済であると仮定します。いずれかの作成が必要な場合は、次の手順に従ってください。

- 96 ページの「新しいユーザーの作成」
- 89 ページの「ロールの作成」
- 120 ページの「サイトの作成」

サイトへのアクセス権限をユーザーに付与するには：

1. 「管理」タブで、「サイト」を開き、次に目的のサイトを開きます。
2. 「ユーザー」をダブルクリックします。  
「ユーザー・ロールの管理」フォームが表示されます。



User Role Management

Site: >FirstSiteII

---

Username:

Leave blank to select all users in FirstSiteII.

Select

3. 目的のユーザー名を入力して、「選択」をクリックします。

「ユーザー・ロールの管理」フォームにユーザー名が表示されます。ユーザー名の下にロールは表示されません。

### 注意

システム全体のユーザーのリストを参照する必要がある場合は、次の手順でリストを開きます。

「管理ツール」を開き、「ユーザー」をダブルクリックします。「ユーザー名の入力」フィールドを空白のままにして、「ユーザーの修正」を選択し、「OK」をクリックします。

4. ユーザー名の横の「編集」アイコンをクリックします。

WebCenter Sites に「ロールの編集」フォームが表示されます。

**Edit Roles for User: Coco**

---

User Name: Coco

Site: FirstSiteII

\*Roles:

- AdvancedUser
- Analyst
- Analytics
- Approver
- ArtworkAuthor
- ArtworkEditor
- Author
- Checker
- ContentAuthor
- ContentEditor

Cancel Save

5. リストから1つ以上のロールを選択します。複数のロールを選択するには、目的の各ロールを **[Ctrl]** キーを押しながらクリックします。特定の範囲のロールを選択するには、その範囲の最初と最後のロールを **[Shift]** キーを押しながらクリックします。

#### 注意

- ユーザーのタイプを考慮してください。全体管理者、サイト管理者および通常のユーザーには、異なるシステム定義ロールが必要です。たとえば、通常のユーザーには、コンテンツ・コントリビュータのインタフェースへのアクセス権が必要です。この場合は、**SitesUser** ロールを選択します。システム定義ロールの選択方法の詳細は、[606 ページの「システム・ロール」](#)を参照してください。
- ロールの選択によって、ユーザーは、[手順1](#)で使用するよう選択したサイトのメンバーになります。ユーザーが、必ずしもサイトのコンテンツを管理できるようになるわけではありません。コンテンツを管理するには、ユーザーにサイトのインタフェース機能（「[検索](#)」など）へのアクセス権限を付与する必要があります。  
ユーザーのサイトで、どのロールがどのインタフェース機能を起動可能であるかがわかっている場合は、この手順で該当するロールを選択します。不明な場合は、ここで選択したロールを、ユーザーが必要とするインタフェース機能にも（以降の章で）指定します。この機能には、スタート・メニュー・アイテム、ツリー・タブ、ワークフロー・プロセス、アセットの承認とパブリッシュ機能などがあります。  
ユーザー・ロールの割当ての詳細は、[89 ページの「ロールの使用」](#)を参照してください。[第8章「CM サイト・コンポーネントへのアクセスの管理」](#)と、ワークフローおよびパブリッシュに関する章も参照してください。

6. 「保存」をクリックします。
7. [第8章「CM サイト・コンポーネントへのアクセスの管理」](#)の手順に従って、ユーザーにサイト・コンポーネントへのアクセス権限を付与します。

#### 注意

ユーザーのロールで使用可能な機能があっても、ユーザーにデータベース表を操作する適切な ACL 権限がなければ、その機能を操作できません。（ロールがインタフェース機能へのアクセスを可能にする一方で、ACL がデータベース表へのアクセスを許可することでその機能が有効になります。）ロールとそれらの ACL との関係の詳細は、[32 ページ](#)を参照してください。

## サイト・ユーザーの表示と、ロールの再割当て

特定のサイトのユーザーとそれらのロールのリストを表示し、ロールを再割当てするには：

1. 「管理」タブで、「サイト」を開き、次に目的のサイトを開きます。
2. 目的のサイトで「ユーザー」をダブルクリックします。
3. 「ユーザー・ロールの管理」フォームで、ユーザー名のフィールドを空白のままにし、「選択」をクリックします。

WebCenter Sites に、選択したサイトで現在ロールが割り当てられているすべてのユーザーのリストが表示されます。

User Role Management

Site: [HelloAssetWorld](#)

Select the user to modify:

User Name	Roles
Bobo	AdvancedUser, WorkflowAdmin, SitesUser, GeneralAdmin
Coco	HelloDesigner, AdvancedUser, SitesUser, GeneralAdmin
Flo	AdvancedUser, SitesUser, HelloEditor
fwadmin	HelloDesigner, AdvancedUser, SiteAdmin, WorkflowAdmin, SitesUser, HelloEditor, HelloAuthor, GeneralAdmin
Joe	AdvancedUser, SitesUser, HelloAuthor
Moe	AdvancedUser, SitesUser, HelloAuthor

[Manage users for this site](#)

4. (オプション) ユーザーのロールを再割当てする場合には、次の手順を実行します。
  - a. 目的のユーザー名に移動し、そのユーザーの「編集」アイコンをクリックします。
  - b. 「ロールの編集」フォームで、リストから1つ以上のロールの選択(または選択解除、あるいはそれら両方)を行って、「保存」をクリックします。
  - c. 必要に応じて、追加ユーザーのそれぞれに手順 a と b を繰り返します。

## サイトからのユーザーの削除

ユーザーは、システムから削除することなく、サイトから削除できます。

ユーザーをサイトから削除するには：

1. 「管理」タブで、「サイト」を開き、次に目的のサイトを開きます。
2. 目的のサイトで「ユーザー」をダブルクリックします。
3. 「ユーザー・ロールの管理」フォームで、目的のユーザー名を入力し、「選択」をクリックします。
4. 表示されたフォームで、ユーザーの横の「削除」(ゴミ箱)アイコンをクリックします。

WebCenter Sites に警告メッセージが表示されます。

5. 「サイトからのユーザーの削除」をクリックします。

## アセット・タイプの有効化と管理

この項では、サイトにアセット・タイプを追加(アセット・タイプを有効化)する方法と、サイトからこれらを削除する方法を示します。

### サイトに対するアセット・タイプの有効化

アセット・タイプの有効化は、アセット・タイプを選択された1つ以上のサイトに関連付けることを意味します。この割当てを一度行えば、[第8章「CM サイト・コンポーネントへのアクセスの管理」](#)に示すように、スタート・メニュー・アイテムやツリー・タブなどのインタフェース機能によってアセット・タイプ自体をユーザーが使用できるようになります。

#### 注意

次の手順は、アセット・タイプを使用可能にする方法を説明しています。サイト・デスクトップでアセット・タイプを使用可能にする方法は、[465 ページの「サイト・デスクトップの Word アセット・タイプの構成」](#)を参照してください。

サイトに対してアセット・タイプを有効化するには：

1. 「管理」タブで、「サイト」を開き、次に目的のサイトを開きます。

#### 注意

SiteAdmin role ロールはあるが、GeneralAdmin ロールはない場合、「サイト管理者」タブを選択します。

2. 目的のサイトで、「アセット・タイプ」を開いて、「有効化」をダブルクリックします。

「アセット・タイプの有効化」フォームが表示され、そのサイトで有効化されていないアセット・タイプが示されます。

**Enable Asset Types: LoafersBakery**

---

**Name:** LoafersBakery

**Description:** Loafer's Bakery and Restaurant

**Publication ID:** 1328442563990

**Enable Asset Types:**

Name	Description
<input type="checkbox"/> Article	Article
<input type="checkbox"/> AArticles	Article Flex
<input type="checkbox"/> AttrTypes	Attribute Editor
<input type="checkbox"/> CSElement	CSElement
<input type="checkbox"/> Collection	Collection
<input type="checkbox"/> Content_C	Content
<input type="checkbox"/> CAttributes	Content Attribute
<input type="checkbox"/> Content_A	Content Attribute
<input type="checkbox"/> ContentTmpls	Content Definition
<input type="checkbox"/> Content_CD	Content Definition

3. このサイトに対して有効化するアセット・タイプを選択します。
4. 「アセット・タイプの有効化」をクリックします。



5. (オプション) 次に表示されるフォームで、作成する各スタート・メニュー・アイテムの横にあるチェック・ボックスを選択します。(スタート・メニュー・アイテムの詳細は、138 ページの「スタート・メニューによるアセット・タイプへのアクセスの管理」を参照してください。)

**Enable Asset Types: LoafersBakery**

---

Start Menu selection

Asset Type	<input type="checkbox"/> Available Start Menus
Article	<input type="checkbox"/> Enable Find Article for this site? <input type="checkbox"/> Enable New Article for this site? <input type="checkbox"/> Enable New Columnist Article for this site?
Content Attribute	<input type="checkbox"/> Enable Find Content Attribute for this site? <input type="checkbox"/> Enable New Content Attribute for this site?
Content Attribute	<input type="checkbox"/> Enable Find Content Attribute, FirstSiteII for this site? <input type="checkbox"/> Create New start menu for Content Attribute

この時点で、スタート・メニュー・アイテムを生成しないように選択した場合は、後から、手動で作成する必要があります。有効化したばかりのアセット・タイプのアセットは、対応するスタート・メニュー・アイテムが作成されるまで作成できません。

6. 「アセット・タイプの有効化」をクリックします。
7. アセット・タイプが、サイトに対して有効になります。それらのスタート・メニュー・アイテムを作成する必要がある場合は、続けて 138 ページの「スタート・メニューによるアセット・タイプへのアクセスの管理」の手順を実行してください。

### 注意

Contributor インタフェースのツリー(「サイト・ツリー」、「コンテンツ・ツリー」および「ワーク」ツリー)でアセットを表示するには、アセットのツリー・タブも手動で作成する必要があります。

## サイトからのアセット・タイプの削除

サイトからアセット・タイプを削除するには：

1. 「管理」タブで、「サイト」を開き、次に目的のサイトを開きます。

### 注意

SiteAdmin role ロールはあるが、GeneralAdmin ロールはない場合、「サイト管理者」タブを選択します。

2. 目的のサイトで、「アセット・タイプ」を開いて、「無効化」をダブルクリックします。

「アセット・タイプの無効化」フォームが表示され、選択したサイトで有効化されているアセット・タイプが示されます。

**Disable Asset Types: LoafersBakery**

Name: LoafersBakery

Description: Loafer's Bakery and Restaurant

Publication ID: 1328442563990

Disable Asset Types:

	Name	Description
<input type="checkbox"/>	Article	Article
<input type="checkbox"/>	CAttributes	Content Attribute
<input type="checkbox"/>	Content_A	Content Attribute

CancelDisable Asset Types

3. サイトから削除するアセット・タイプを選択します。
4. 「アセット・タイプの無効化」をクリックします。

### 注意

サイトで無効にしたアセット・タイプのスタート・メニュー・アイテムまたはワークフロー・プロセスが存在する場合は、それらに変更が反映されるようにスタート・メニュー・アイテムまたはワークフロー・プロセスを編集します。

## ユーザー・インタフェースの編集と管理

特定のサイトのユーザーに対してサイト・デスクトップまたはサイト DocLink インタフェースを有効化する予定の場合は、[第 22 章「ユーザー・インタフェースの構成」](#)の手順に従ってください。



## 第 8 章

# CM サイト・コンポーネントへのアクセスの管理

この章では、サイト・コンポーネントへのアクセスの管理方法を示します。ユーザーにはこれらのコンポーネントを含むサイトにアクセスする権限がすでに与えられているものとします。

この章は、次の項で構成されています。

- [概要](#)
- [スタート・メニューによるアセット・タイプへのアクセスの管理](#)
- [アセットへのアクセス権限の設定](#)
- [ツリーへのアクセスの管理 \( 管理者用インタフェースのみ \)](#)

## 概要

ユーザーにサイトへアクセスする権限を付与したら (第 7 章「[CM サイトのアセット](#)」を参照)、サイトのコンテンツを使用できるかどうかを次の項目によって管理します。

- スタート・メニュー。ユーザーが割り当てられたサイトで、特定のタイプのアセットの作成、検索および編集を可能にするかどうかを決定します。
- (ワークフロー・プロセスには含まれていない) アセットへの権限。このようなアセットには、アセットでどのルールにどの機能を実行する権限があるかを定義するポリシーを作成できます。
- WebCenter Sites ツリーへの権限。ツリー、ツリー内のタブ、タブ内のノードおよびノード内のアイテムへのユーザー権限を制御できます。

ルールは、インタフェース機能およびユーザーが管理する必要があるコンテンツに、ユーザーを関連付けるために呼び出すコンポーネントです。

## スタート・メニューによるアセット・タイプへのアクセスの管理

スタート・メニューは、[図 5](#) のように、ハイパーリンク付きアセット・タイプのリストです。

**図 5:** Admin インタフェースの「新規」および「検索」スタート・メニュー

New		Search		
Please select the asset type that you want to create:				
Type	Name	Type	Name	
Attribute Editor	<a href="#">New Attribute Editor</a>	Attribute Editor	<a href="#">Find Attribute Editor</a>	(Advanced search)
Content Attribute	<a href="#">New Content Attribute</a>	Content Attribute	<a href="#">Find Content Attribute</a>	(Advanced search)
Content Definition	<a href="#">New Content Definition</a>	Content Definition	<a href="#">Find Content Definition</a>	(Advanced search)
Content Filter	<a href="#">New Content Filter</a>	Content Filter	<a href="#">Find Content Filter</a>	(Advanced search)
Content Parent Definition	<a href="#">New Content Parent Definition</a>	Content Parent Definition	<a href="#">Find Content Parent Definition</a>	(Advanced search)
CSElement	<a href="#">New CSElement</a>	CSElement	<a href="#">Find CSElement</a>	(Advanced search)
Dimension	<a href="#">New Dimension</a>	Dimension	<a href="#">Find Dimension</a>	(Advanced search)
DimensionSet	<a href="#">New DimensionSet</a>	DimensionSet	<a href="#">Find DimensionSet</a>	(Advanced search)
Document Attribute	<a href="#">New Document Attribute</a>	Document Attribute	<a href="#">Find Document Attribute</a>	(Advanced search)
Document Definition	<a href="#">New Document Definition</a>	Document Definition	<a href="#">Find Document Definition</a>	(Advanced search)
Document Filter	<a href="#">New Document Filter</a>	Document Filter	<a href="#">Find Document Filter</a>	(Advanced search)
Document Parent Definition	<a href="#">New Document Parent Definition</a>			

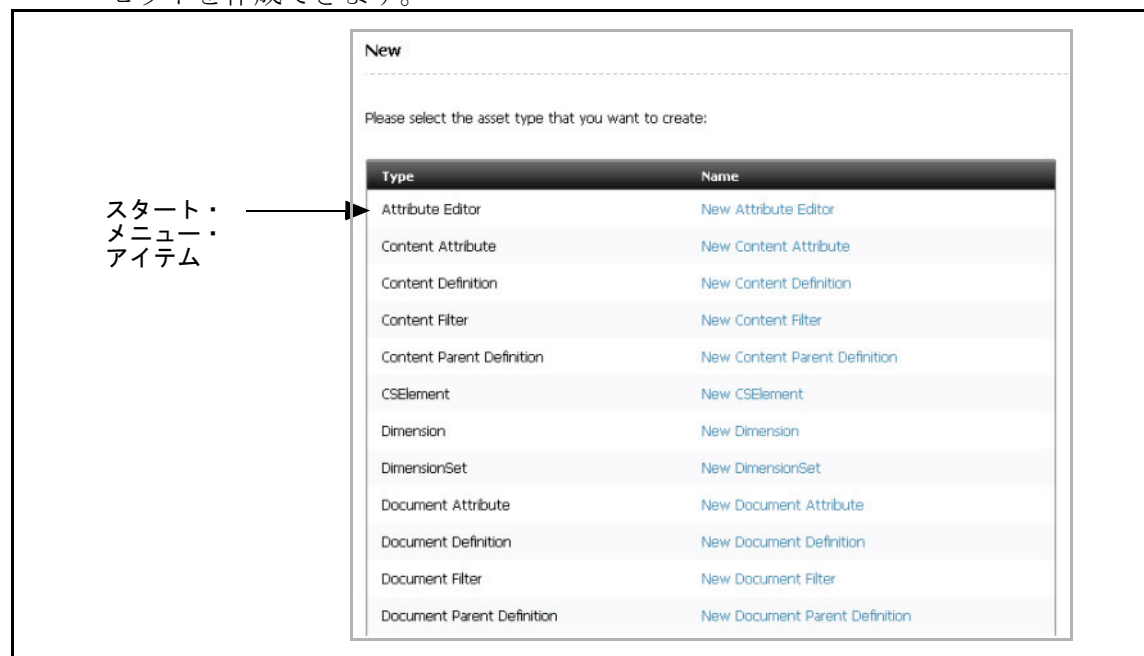
アセット・タイプ名をクリックすることで、選択したタイプのアセットの作成または検索のフォームが開きます。たとえば、「新規」スタート・メニューでアセット・タイプをクリックすると、選択したタイプのアセットを作成するフォームが開きます。「検索」スタート・メニューでアセット・タイプをクリックする

と、選択したタイプのアセットを検索および編集するために使用するフォームが開きます。

図 5 に示すスタート・メニューは、Admin インタフェースで、ユーザーが左上にある「新規」および「検索」ボタンをクリックすることでアクセスできます。管理者は、ユーザーとスタート・メニュー・アイテムに同じロールを割り当てることで、ユーザーにスタート・メニュー・アイテムへの権限を付与します。

## スタート・メニュー・アイテム

スタート・メニュー・アイテムはスタート・メニューのオプションです。スタート・メニュー・アイテムは、ユーザーが作成、コピーまたは検索可能なアセットのタイプを指定します。たとえば、次の「新規」スタート・メニューは、Admin インタフェースに属し、ユーザーに使用が許可された 16 のスタート・メニュー・アイテムを表示します。ユーザーは、メニューに示されたタイプのアセットを作成できます。



Admin インタフェースでは、ユーザーがボタン・バーの「新規」または「検索」をクリックすると、リストにスタート・メニュー・アイテムが表示されます。

スタート・メニュー・アイテムを構成し、これらを使用して作成される新規アセットについて次の項目を決定します。

- どのサイトのどのロールにスタート・メニュー・アイテムへのアクセス権限を付与するか。ロールの指定により、指定されたサイトで、どのコンテンツ・プロバイダが特定のタイプのアセットを作成または検索できるかを制御します。
- フィールド / 値のペア。特定のフィールドに値を入力することで、コンテンツ・プロバイダがショートカットから新規アセットを作成するたびに、そのフィールドに自動的に値が入力されます。

たとえば、ベーシック・アセットの場合、スタート・メニュー・アイテムで事前定義の値を「ディメンション」、「説明」、「終了日」、「開始日」、「サブタイプ」、テンプレートまたは「ユーザー」フィールド（あるいは、これらの組

合せ)に設定するようにすると便利な場合があります。ベーシック・アセットのアソシエーションが、アセットのサブタイプに基づいて異なる可能性がある場合、「新規」フォームに適切なアソシエーションのみが表示されるように新規アセットのサブタイプを設定するスタート・メニュー・アイテムを作成してください。

フレックス・アセットの場合、新規フレックス・アセットのフレックス定義を設定するスタート・メニュー・アイテムを用意すると、コンテンツ・プロバイダの手順が減るため便利です。

- スタート・メニュー・アイテムによって作成される新規アセットに、どのワークフロー・プロセスをデフォルトで割り当てるか、およびそのワークフロー・プロセスに参加するユーザー。

スタート・メニュー・アイテムは、ツリー・タブ (Admin インタフェース内) に表示されるアセット・タイプで特定の処理を実行可能にするかどうかにも決定します。ツリー・タブに表示されるアセット・タイプに、スタート・メニュー・アイテムが作成されていない場合、そのアセット・タイプのコンテキスト・メニューに表示されるオプションは、「リフレッシュ」、「編集」および「調査」のみです。「新規」オプションをコンテキスト・メニューに含めるには、「新規」スタート・メニュー・アイテムをアセット・タイプに対して作成する必要があります。

### 異なる種類のユーザーへの対応

コンテンツ・プロバイダに、異なる種類のコンテンツを作成する異なるグループが存在する場合、スタート・メニュー・アイテムをタイプごとに作成できます。

たとえば、ビジネス記事を作成するライターグループが存在すると仮定します。新規記事を作成し、カテゴリをビジネスに設定して、テンプレートをビジネス・ページの記事用の正しいテンプレートに設定し、ビジネス記事のワークフローに記事を配置するスタート・メニュー・アイテムを作成できます。さらに、ビジネス・ライターのロールを作成する場合、ビジネス・ライターのロールを持つユーザーのみがスタート・メニュー・アイテムを使用できるように、そのスタート・メニュー・アイテムを構成できます。

### フレックス・アセットへの対応

フレックス・アセットの場合、スタート・メニュー・アイテムを使用してフレックス・アセットの定義を設定できます。

たとえば、パブリック・サイトが家庭用品のカatalogで、フレックス・アセットが製品であるとして、新しいトースター製品には製品定義を `toaster` に設定する `Toaster` という名前のスタート・メニュー・アイテムを作成し、新しいガラス製品には該当する製品定義を設定する `glassware` という名前のスタート・メニュー・アイテムを作成するなどが可能です。この方法でフレックス定義を設定するスタート・メニュー・アイテムにより、コンテンツ・プロバイダの手順が削減され、間違っていて正しくないフレックス定義が選択される可能性が減少します。

## スタート・メニュー・アイテムの作成

サイトのアセット・タイプへのユーザー・アクセスを管理するには、アセット・タイプのスタート・メニュー・アイテムを作成する必要があります。スタート・メニュー・アイテムは、特定のサイトで、どのユーザーに対して特定のタイプの



アセットの作成および検索を可能にするかを決定します。WebCenter Sites では、4 種類のスタート・メニュー・アイテムがサポートされています。

- **新規:** ボタン・バーの「新規」をクリックしたときに表示されるリストのアセット・タイプにリンクを作成します。サイトに対して有効化されているアセット・タイプに「新規」アイテムを作成しなかった場合、いずれのユーザーもそのタイプのアセットを作成できなくなります。「新規」スタート・メニュー・アイテムの作成方法の詳細は、[141 ページの「「新規」スタート・メニュー・アイテムの作成」](#)を参照してください。
- **検索:** ボタン・バーの「検索」をクリックしたときに表示されるリストのアセット・タイプにリンクを作成します。サイトに対して有効化されているアセットに「新規」アイテムを作成しなかった場合、いずれのユーザーもそのタイプのアセットをどのサイト・インタフェースでも検索および編集できなくなります。「検索」スタート・メニュー・アイテムの作成方法の詳細は、[146 ページの「「検索」スタート・メニュー・アイテムの作成」](#)を参照してください。
- **サイト・デスクトップ:** ブラウザベースのインタフェースのいずれかではなく、サイト・デスクトップ・インタフェースを使用するコンテンツ・プロバイダに対して、アセット・タイプを使用可能にします。「サイト・デスクトップ」スタート・メニュー・アイテムの作成方法の詳細は、[465 ページの「サイト・デスクトップの Word アセット・タイプの構成」](#)を参照してください。
- **サイト DocLink:** ブラウザベースのインタフェースのいずれかではなく、サイト DocLink インタフェースを使用するコンテンツ・プロバイダに対して、アセット・タイプを使用可能にします。「サイト DocLink」スタート・メニュー・アイテムの作成方法の詳細は、[476 ページの「サイト DocLink のアセット・タイプの構成」](#)を参照してください。

## 「新規」スタート・メニュー・アイテムの作成

スタート・メニュー・アイテムの作成を開始する前に、次の点を考慮してください。

- スタート・メニュー・アイテムは、サイトに対して有効化されたアセット・タイプのみに作成します。アセットが有効化されていない場合は、[第 7 章「CM サイトのアセンブル」](#)に戻り、[131 ページの「サイトに対するアセット・タイプの有効化」](#)の手順を完了してください。
- デフォルトのワークフロー・プロセスを指定する場合は、先にワークフロー・プロセスを作成します。ワークフローの詳細は、[第 9 章「ワークフロー・プロセスの作成と管理」](#)を参照してください。
- 開発者に依頼して、オンライン・サイトの問合せ、コレクション、その他の設計エレメントで使用されるフィールドを確認します。この方法により、それらのフィールドの実用的なデフォルト値を指定できます。
- 開発者にサイトが変更される特定の日付を確認し、サイト・プレビューに適したデフォルトの開始および終了日によってスタート・メニュー・アイテムを作成できるようにします。また、パブリッシュ済アセットでは、終了日によって Web サイトで自動的にアセットが失効する日付が決定されることにも注意してください。終了日のデフォルトを指定するとき、開発者に開発側の要求を確認してください。

- 開発者に確認し、スタート・メニュー・アイテムを作成するアセット・タイプの様々なサブタイプに適したテンプレートを見つけます。
- 次の種類のフィールドに値を設定することは**できません**。
  - アップロード・フィールドやデータを URL 列に書き込むフィールド。
  - 複数の値を受け付けるフィールド。
  - アソシエーション・フィールド。
  - フレックス・アセットおよびフレックス親アセットのフレックス属性フィールド。

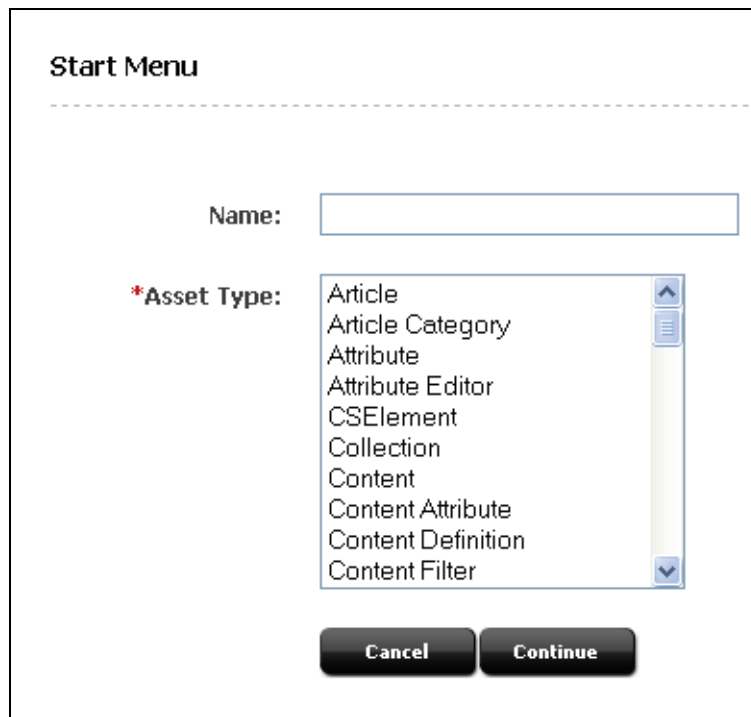
たとえば、次のアセット・タイプは、スタート・メニューに値を設定できません。

- 訪問者属性
- CS エlement
- ディメンション
- ディメンション・セット
- フレックス属性
- フレックス子定義
- フレックス・フィルタ
- フレックス親定義
- 履歴属性
- 履歴定義
- ページ属性
- ページ定義
- ページ・フィルタ
- SiteEntry
- テンプレート
- 属性エディタ

**「新規」スタート・メニュー・アイテムを作成するには：**

1. 「管理」タブで、「スタート・メニュー」を開き、「新規追加」をダブルクリックします。

2. 「スタート・メニュー」フォームで、次の手順を実行します。



- a. 「名前」フィールドに、最大 64 文字のアイテムの名前を入力します。必須ではありませんが、名前を New の単語で始めることをお勧めします (たとえば、New Article や New Template)。これは、ユーザーが後から、そのスタート・メニュー・アイテムを新規アセット用であると認識するのに役立ちます。  
「説明」フィールド (手順 4 で説明) が空白のままの場合、「新規」フィールドで使用されている名前が「新規」および「検索」画面に表示されます。
  - b. 「アセット・タイプ」フィールドで、スタート・メニュー・アイテムを作成しているアセットのタイプを選択します。
  - c. 「続行」をクリックします。
3. フレックス・アセット・タイプを選択した場合、「フレックス定義」フィールドが表示されます。フレックス・アセット・タイプを選択していない場合は、手順 4 に進んでください。
- a. 「フレックス定義」フィールドで、アセット・サブタイプを選択します。
  - b. 画面が自動的にリロードされない場合は、「続行」をクリックします。

4. 次の「スタート・メニュー」フォームで、次の説明のとおりに入力します。

Start Menu

---

\*Name:

Description:

Type:

Asset Type: [Article](#)

Flex Definition: Article

Default Values

Field:

Value:

\*Sites :

- Any
- FirstSite1
- AdminSite
- avisports
- LoafersBakery

\*Roles:

- Any
- AdvancedUser
- Analytics
- Approver
- ArtworkAuthor
- ArtworkEditor
- ContentAuthor
- ContentEditor

Workflow Process:

- 「説明」フィールドに、最大 255 文字で短い説明を入力します。説明フィールドに入力された名前は、「新規」および「検索」画面に表示されます。
- 「タイプ」フィールドで、「新規」を選択します。
- 「アセット・タイプ」フィールドは、前の画面でのアセット・タイプの選択を表示する情報のみのフィールドです。

- d. (オプション) コンテンツ・プロバイダがこのスタート・メニュー・アイテムによってアセットを作成するとき、フィールド値が自動的に設定されるようにする場合は、「デフォルト値」セクションで次の手順を実行します。
- 1) 「フィールド」 ドロップダウン・リストからフィールドを選択します。このリストには、このタイプのアセットのすべてのフィールドが表示されます (カテゴリ、ソース、テンプレートなど)。
  - 2) 「値」 フィールドで値を入力または選択します。

#### 注意

- すべての値は大文字と小文字が区別されます。
- WebCenter Sites では、値を設定したフィールドに対して、その値を検証しません。したがって、適切な値が入力されていることを確認する必要があります。

- 3) 「追加」 矢印をクリックし、フィールドに値を追加します。
- 4) 必要に応じて、前の 3 つの手順を繰り返します。

#### 注意

スタート・メニュー・アイテムによりフィールド値を設定するとき、そのフィールドは読み取り専用フィールドにはなりません。つまり、「スタート・メニュー」フォームにどのような値を設定しても、その値は、スタート・メニュー・アイテムを使用してアセットを作成するコンテンツ・プロバイダによりオーバーライドされる可能性があります。値は便宜上設定されるのみです。

- e. 「サイト」 フィールドで、このスタート・メニュー・アイテムを使用できるサイトを選択します。複数のサイトを選択するには、[Ctrl] キーを押しながらクリックします。
- f. 「ロール」 フィールドで、スタート・メニュー・アイテムにアクセスできるロールを選択します。複数のロールを選択するには、[Ctrl] キーを押しながらクリックします。

#### 注意

デフォルトのワークフローにこのスタート・メニュー・アイテムを割り当てている場合、この手順で選択するロールは、ワークフロー・プロセスの開始手順に対して許可されている (または許可される予定の) ロールと一致する必要があります。

- g. (オプション) このスタート・メニュー・アイテムで作成されたアセットのワークフロー・プロセスの詳細を構成するには、次の手順を実行します。

- 1) 「ワークフローの選択」をクリックします。
- 2) 「ワークフローの選択」フォームで、ドロップダウン・リストから適切なワークフロー・プロセスを選択し、「ワークフローの選択」をクリックします。
- 3) 「参加者の設定」フォームで、表示されるロールごとに 1 つ以上のユーザーを選択し、「参加者の設定」をクリックします。
- 4) 「続行」をクリックします。

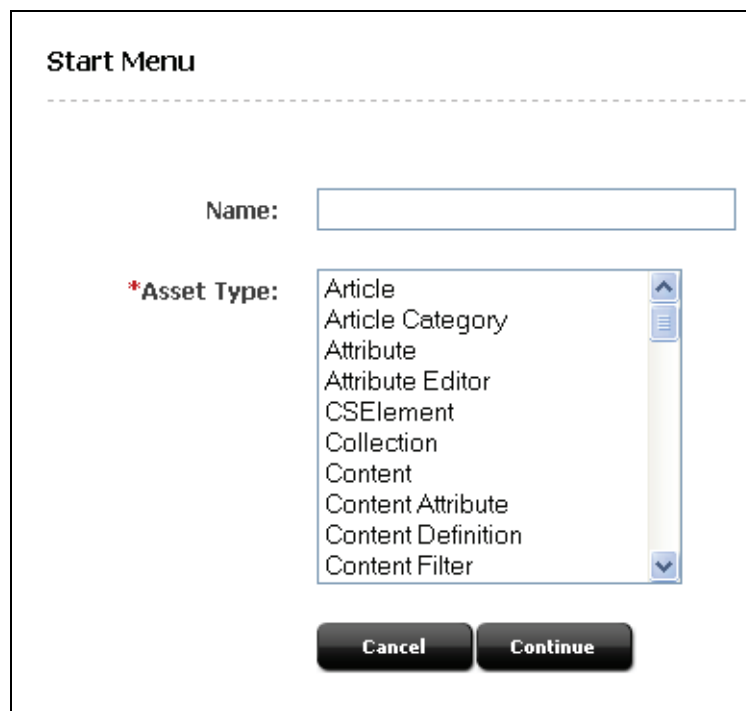
ワークフロー情報が保存され、「スタート・メニュー」フォームが再表示されます。

5. 「保存」をクリックします。

## 「検索」スタート・メニュー・アイテムの作成

「検索」スタート・メニュー・アイテムを作成するには：

1. 「管理」タブで、「スタート・メニュー」を開き、「新規追加」をダブルクリックします。
2. 「スタート・メニュー」フォームで、次の手順を実行します。



Start Menu

Name:

\*Asset Type: 

- Article
- Article Category
- Attribute
- Attribute Editor
- CSElement
- Collection
- Content
- Content Attribute
- Content Definition
- Content Filter

- a. 「名前」フィールドに、最大 64 文字のアイテムの名前を入力します。必須ではありませんが、名前を Find の単語で始めることをお勧めします (たとえば、Find Article や Find Template)。この名前は、「検索」リストに表示されます。

- b. 「アセット・タイプ」フィールドで、スタート・メニュー・アイテムを作成しているアセットのタイプを選択します。
        - c. 「**続行**」をクリックします。
3. フレックス・アセット・タイプを選択した場合、「**フレックス定義**」フィールドが表示されます。フレックス・アセット・タイプを選択していない場合は、[手順 4](#)に進んでください。
  - a. 「**フレックス定義**」フィールドで、アセット・サブタイプを選択します。
  - b. 画面が自動的にリロードされない場合は、「**続行**」をクリックします。

4. 次の「スタート・メニュー」フォームで、次の説明のとおりに入力します。

**Start Menu**

**\*Name:**

**Description:**

**Type:**

New

**Asset Type:**

Article

**Flex Definition:**

Article

**Default Values**

Field: abstract(S)

Value: [Value]

Add

Remove

**\*Sites :**

Any  
FirstSite1  
AdminSite  
avisports  
LoafersBakery

**\*Roles:**

Any  
AdvancedUser  
Analytics  
Approver  
ArtworkAuthor  
ArtworkEditor  
ContentAuthor  
ContentEditor

**Workflow Process:**

Select Workflow...

Cancel

Save

5. 「説明」フィールドに、最大 255 文字で短い説明を入力します。



6. 「タイプ」フィールドで、「検索」を選択します。
7. 「アセット・タイプ」フィールドは、アセット・タイプの選択を表示する情報のみのフィールドです。
8. (オプション) コンテンツ・プロバイダがこのスタート・メニュー・アイテムによってアセットを作成するとき、フィールド値が自動的に設定されるようにする場合は、「デフォルト値」セクションで次の手順を実行します。
  - a. 「フィールド」ドロップダウン・リストからフィールドを選択します。このリストには、このタイプのアセットのすべてのフィールドが表示されます(カテゴリ、ソース、テンプレートなど)。
  - b. 「値」フィールドで値を入力または選択します。

#### 注意

- すべての値は大文字と小文字が区別されます。
- WebCenter Sites では、値を設定したフィールドに対して、その値を検証しません。したがって、適切な値が入力されていることを確認する必要があります。

- c. 「追加」矢印をクリックし、フィールドに値を追加します。
- d. 必要に応じて、前の 3 つの手順を繰り返します。

#### 注意

スタート・メニュー・アイテムによりフィールド値を設定するとき、そのフィールドは読取り専用フィールドにはなりません。つまり、「スタート・メニュー」フォームにどのような値を設定しても、その値は、スタート・メニュー・アイテムを使用してアセットを作成するコンテンツ・プロバイダによりオーバーライドされる可能性があります。値は便宜上設定されるのみです。

9. 「サイト」フィールドで、このスタート・メニュー・アイテムを使用できるサイトを選択します。複数のサイトを選択するには、[Ctrl] キーを押しながらクリックします。
10. 「ロール」フィールドで、スタート・メニュー・アイテムにアクセスできるロールを選択します。複数のロールを選択するには、[Ctrl] キーを押しながらクリックします。

#### 注意

デフォルトのワークフローにこのスタート・メニュー・アイテムを割り当てている場合、この手順で選択するロールは、ワークフロー・プロセスの開始手順に対して許可されている(または許可される予定の)ロールと一致する必要があります。

11. (オプション) このスタート・メニュー・アイテムで作成されたアセットのワークフロー・プロセスの詳細を構成するには、次の手順を実行します。
  - a. 「ワークフローの選択」をクリックします。
  - b. 「ワークフローの選択」フォームで、ドロップダウン・リストから適切なワークフロー・プロセスを選択し、「ワークフローの選択」をクリックします。
  - c. 「参加者の設定」フォームで、表示されるロールごとに 1 つ以上のユーザーを選択し、「参加者の設定」をクリックします。
  - d. 「続行」をクリックします。  
ワークフロー情報が保存され、「スタート・メニュー」フォームが再表示されます。
12. 「保存」をクリックします。

## スタート・メニュー・アイテムの編集

スタート・メニュー・アイテムを編集するには：

1. 「管理」タブで、「スタート・メニュー」を開き、目的のスタート・メニュー・アイテムが存在するノードを開きます。目的のスタート・メニュー・アイテムをダブルクリックします。  
「スタート・メニュー・アイテム」画面が表示されます。
2. 「編集」をクリックします。

「スタート・メニュー」フォームとアイテムの格納された情報が表示されます。

**Start Menu**

**\*Name:**

Find Article Flex

**Description:**

Find Article Flex

**Type:**

Search

**Asset Type:**

Article Flex

**Flex Definition:**

[Any]

**\*Sites :**

Any

FirstSite1

AdminSite

**\*Roles:**

Any

AdvancedUser

Analyst

Analytics

Approver

ArtworkAuthor

ArtworkEditor

Author

**ID:**

1330554014955

Cancel

Save

3. アイテムへ変更を加えます。

4. 「保存」をクリックします。

## サイト・デスクトップ用のスタート・メニュー・アイテムの作成

「サイト・デスクトップ」スタート・メニュー・アイテムの作成方法の詳細は、[465 ページの「サイト・デスクトップの Word アセット・タイプの構成」](#)を参照してください。

## サイト DocLink 用のスタート・メニュー・アイテムの作成

「サイト DocLink」スタート・メニュー・アイテムの作成方法の詳細は、[476 ページの「サイト DocLink のアセット・タイプの構成」](#)を参照してください。

## すべてのスタート・メニュー・アイテムのリストの表示

サイト・システムに存在するアセット・タイプごとに表示される個別のスタート・メニュー・ノードのほかに、「管理」タブには、最上位の「スタート・メニュー」ノードが存在します。このノードは、システム内にあるすべてのスタート・メニュー・アイテムのリストを参照するときに使用します。

さらに、個々のスタート・メニュー・アイテムの「調査」フォームに、すべてのスタート・メニュー・アイテムのリストへのリンクがあります。

## アセットへのアクセス権限の設定

WebCenter Sites では、ワークフロー・プロセスに含まれないアセットへのアクセス権限を設定できるシステムが提供されています。このようなアセットにはポリシーを作成し、そのポリシー内でどのロールにどの機能を実行する権限があるかを定義できます。たとえば、コピー機能のポリシーでは、アセットのコピーを許可されるロールを指定できます。別のコピーのポリシーでは、アセットのコピーが拒否されるロールを指定できます。フレックス・アセットの場合、継承可能ポリシーを親に設定できます。これは、ポリシーが子に継承されることを意味します。

アセットに対してデフォルトで実行できる機能は次のとおりです。チェックアウト、コピー、編集、削除、ロールバック、共有、承認および作成。(機能の定義は、[195 ページの「VI. 機能権限の決定」](#)を参照してください)。

前述の機能はすべて、futuretense\_xcel.ini ファイル (プロパティ・エディタを使用している場合は「認可」タブにあります) に xcelerate.authorizefunction プロパティの値として定義されています。追加の機能 (「認可」タブに示されます) を指定できます。

要約すると、アクセス権限は、次の 3 つの目的に使用します。

- ワークフロー機能権限システムを拡張し、アセットがワークフローにない場合に、そのアセットに権限を設定できるようにします。
- ワークフローにないアセットのコンテンツを表示する新しい機能 (認可、調査およびプレビュー) を導入します。
- ワークフローにないアセットに階層化された権限の継承モデルを導入します。

### 注意

アクセス権限機能は、ページレットなどの他のエンティティには適用されません。

## 権限の構造

権限の構造は、ロールが実行可能な機能（編集や表示など）を決定します。ユーザーの権限は、機能を実行できるロールをユーザーに割り当てることで管理されます。WebCenter Sites では、3 レベル権限構造の付与、拒否および継承が実装されています。付与と拒否は明示的な権限を意味し、機能を実行する権限を付与または拒否します。継承は、権限が付与も拒否もされていないことを意味します。かわりに、権限は、親アセットのポリシーが存在する場合、そこから継承されます。親のポリシーが存在しない場合は、アセットの権限が親の親のポリシーから継承され、親の親にポリシーが存在しない場合もさらにその親からというように処理されます。

権限にあいまいさがある場合は、次の考慮事項によってあいまいさを解決できる場合があります。

- ユーザーのロールの少なくとも 1 つが権限を付与する場合、権限が付与されます。
- 付与は、拒否より優先されます。あるロールが権限を付与し、他のロールが同じ権限を拒否する場合、その権限は付与されます。
- ユーザーのロールの少なくとも 1 つが権限を拒否し、他のユーザーのロールのいずれも権限を付与しない場合、権限は拒否されます。

前述のシナリオを次の表にまとめます。

	ロール 1	ロール 2	結果
権限	付与		付与
	付与	拒否	付与
	拒否		拒否

- アセットは、権限を親アセットから継承できます。

たとえば、Money Market Funds という名前の親アセットが削除権限を Editor という名前のロールに付与し、Bob というユーザーにそのロールが割り当てられている場合、Bob は Money Market Funds アセットとすべての子アセットを削除できます。

- アセットの権限は、親アセットの権限をオーバーライドできます。

Prime Money Market semi-annual report アセットは特定のロールに対して削除権限を拒否しています。同じロールには、Prime Money Market 親アセットで削除権限が付与されています。これは、親アセットが削除権限を付与しても、Bob はレポートを削除できないことを意味します。

- 特定のアセットに適用可能な権限がない場合、管理者がこの権限の futuretense\_xcel.ini ファイルを確認する必要があります。futuretense\_xcel.ini ファイルでは、特定の機能への権限が 1 つのアセットではなく、すべてのアセットに設定されています。

futuretense\_xcel.ini での権限の設定の詳細は、[158 ページの「futuretense\\_xcel.ini からアクセス権限を設定するには:」](#)を参照してください。

- アセットの権限は、futuretense\_xcel.ini 設定をオーバーライドします。  
たとえば、futuretense\_xcel.ini ファイルに権限 xcelerate.copy.grant が存在し、アセット A を削除する権限が取り消された場合、アセット A の削除権限は拒否されます。

## 認可のタイプ

特定の機能および特定のアセットには、futuretense\_xcel.ini で、ワークフロー機能権限、アクセス権限および認可プロパティの 3 種類の認可を互いに独立して定義できます。(ワークフロー機能権限の詳細は、第 9 章「ワークフロー・プロセスの作成と管理」を参照してください。)

ユーザーがアセットで機能の実行を試みると、その機能についての一連の認可チェックが次の順序で実行されます。

ワークフロー内のアセットの場合：

1. アセットが投入されたワークフロー・プロセスの機能に対するワークフロー機能権限がチェックされます。
2. 機能権限が、その機能に定義されていない場合は、アセットのアクセス権限インタフェースで定義されたとおり、その機能に対してアクセス権限ポリシーがチェックされます。
3. 手順 2 で定義したアクセス権限 (親のポリシーの継承を含む) が機能に対して設定されていない場合、futuretense\_xcel.ini で認可のプロパティがチェックされます。
4. 前述のタイプの認可がいずれも定義されていない場合、デフォルトでアセットに機能を実行するための権限が付与されます。

### 注意

前述のタイプの認可は、記載されている順番でチェックされます。複数の許可のタイプが拒否されている場合、最初に検出された認可が他のすべてのタイプの認可をオーバーライドします。たとえば、編集などの特定の機能に対して、ワークフロー機能の権限とアクセス権限の両方がアセットに定義されている場合、編集への機能権限が編集へのアクセス権限より優先されます。

ワークフローに含まれていないアセットの場合：

1. アセットのアクセス権限インタフェースに定義された、機能のアクセス権限ポリシーがチェックされます。
2. アクセス権限 (親のポリシーの継承を含む) が機能に対して設定されていない場合、futuretense\_xcel.ini で認可のプロパティがチェックされます。
3. 前述のレベルの認可がいずれも定義されていない場合、デフォルトでアセットに機能を実行するための権限が付与されます。

## 要約

前述の様々なタイプの認可は互いに独立しています。これは、いずれの機能でも常に 1 つのタイプの認可しかアセットに適用できないことを意味します。次のガイドラインは、どのタイプの認可を使用するか決定に役立ちます。

1. 機能に認可が必要ない場合、いずれの認可のタイプも使用しないでください。すべてのロールにその機能を実行する権限が付与されます。
2. 複数のアセットにわたって単純な認可ポリシーが必要な場合は、`futuretense_xcel.ini` で認可プロパティを設定します。
3. 特定のアセットで単純な認可ポリシーが必要な場合は、アクセス権限を設定します。
4. ワークフローがアセットの権限を制御可能な、より複雑な認可タイプが必要な場合、ワークフロー機能権限を設定します。

## アクセス権限の設定

アクセス権限を設定するということは、アセットに実行できる機能とロールを指定することによりアセットのポリシーを作成するということです。

アセットにアクセス権限を設定する方法はいくつかあります。

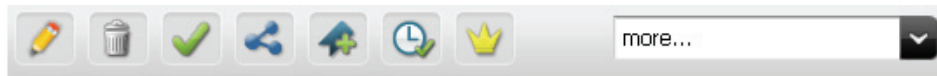
- 管理者のインタフェースを使用して個々のアセットに権限を設定する。
- `futuretense_xcel.ini` ファイルを使用して、すべてのアセットに一度に権限を設定する。

### 注意

アセットが、機能権限が定義されたワークフローに投入された場合、機能権限はアセットのアクセス権限より優先されます。機能権限の詳細は、[第 9 章「ワークフロー・プロセスの作成と管理」](#)を参照してください。

## アセット・ツールバー

アセットを表示すると、アセットの使用に役立つツールバーが上部に表示されます。ここでは、各アセットに特定の機能を実行できます。



ツールバー内のアイコンが実行するアクションを左から順に説明します。

- **編集**: このアイコンをクリックすると、アセットの「編集」画面が開きます。
- **削除**: このアイコンをクリックするとアセットが削除されます。
- **パブリッシュの承認**: このアイコンをクリックすると、アセットに対してパブリッシュが承認され、このアセットの次のパブリッシュが発生します。詳細は、「[リアルタイム・パブリッシュ](#)」を参照してください。
- **コンテンツの共有**: このアイコンをクリックすると、システム管理者によって有効化されたコンテンツを他のサイトと共有できます。

- **ブックマークに追加** : このアイコンをクリックすると、「ブックマーク」タブに現在のアセットのブックマークを追加します。アセットがすでに「ブックマーク」タブに追加されている場合、この機能は使用できません。
- **ステータス** : このアイコンをクリックすると、アセットのワークフローの承認状態の詳細を表示する画面が開きます。
- **アクセス権限** : このアイコンをクリックすると、アセットの「アクセス権限」画面が開きます。詳細は、「[管理者インタフェースでのアクセス権限の設定](#)」を参照してください。
- **ドロップダウン・メニュー** : このメニューでは、コピーや新規アセットの作成にアセットを使用したり、まったく新しいアセットを作成したり、他のアセットを検索するなど、アセットをその他の方法で操作できます。

## 管理者インタフェースでのアクセス権限の設定

管理者インタフェースでアクセス権限を設定するには :

1. アクセス権限を設定するアセットを検索します。
2. アセットの「調査」フォームで、アイコン・メニュー・バーの「アクセス権限」を選択します。
3. いずれかのラジオ・ボックスを選択し、「ロール別に表示」または「機能別に表示」をクリックします。この例では、「機能別に表示」を使用します。

Attribute Editor:CKEditor

Name: CKEditor

Description: CKEditor

Status: Created

Created: Monday, February 12, 2007 8:19:37 AM PST by firstsite

Modified: Monday, February 12, 2007 8:19:37 AM PST by firstsite

Permissions: ☐ View by role ☒ View by function

**Functions**

Approve for F  
Build  
Checkout  
Copy  
Delete  
Edit  
Inspect  
Preview  
Rollback  
Share Assets

**Roles**

Inherited

Granted

Denied

Grant

Deny

Remove

Remove

Cancel Save



**注意**

この手順では、「**機能別に表示**」を使用します。これにより、機能を選択し、その機能を実行する権限を付与または拒否するロールを指定できます。「**ロール別に表示**」を選択した場合は順番が反対になり、先にロールを選択してから付与または拒否する機能を指定します。

**4. 機能を 1 つ選択します。**

その機能を実行可能なロールが、デフォルトで「**継承**」リスト・ボックスに表示されるようになります。「**継承**」は、アセットが親、親の親またはそれら以上の親 (階層内のポリシーが存在するアセットによって異なる) から継承した権限ポリシーを参照します。

**5. 機能を実行する権限を拒否または付与する 1 つ以上のロールを選択します。**  
(ロールを範囲で選択するには、範囲の最初と最後を **[Shift]** キーを押しながらクリックします。隣接しないロールを選択するには、それぞれのロールを **[Ctrl]** キーを押しながらクリックします)。**6. 「付与」または「拒否」のいずれかを選択し、ロールでの機能の実行を許可または禁止します。**

- 「**付与**」は、選択したロールが特定のアセットで選択した機能を実行することを明示的に許可します。その他すべてのロールは、明示的に権限を付与しないかぎり、そのアセットで選択された機能を実行する権限が拒否されます。
- 「**拒否**」は、選択したロールが特定のアセットで選択した機能を実行することを明示的に禁止します。その他すべてのロールは、明示的に権限を付与しないかぎり、そのアセットで選択された機能を実行する権限が拒否されます。
- 「**付与**」と「**拒否**」のどちらも選択しない場合、「**継承**」リスト・ボックス内のロールで、アクセス権限が継承されたことを示す表示が維持されます。

**7. 権限を付与または拒否する必要がある、あるいは必要と思われる機能とロールごとに、[手順 4-6](#) の手順を繰り返します。**

機能とロールの選択を完了したら、アクセス権限画面は次のように表示されます。

#### 8. 終了したら「保存」をクリックします。

このアセットへ現在アクセスしているユーザーは、ロールで許可されている機能を実行できるようになります。

## プロパティ・ファイルからのアクセス権限の設定

**futuretense\_xcel.ini** からアクセス権限を設定するには：

**futuretense\_xcel.ini** で、次のプロパティを設定することにより権限を付与または拒否します。

- `xcelerate.grant.functionname = rolelist`
- `xcelerate.deny.functionname = rolelist`

ここで

**functionname** は、機能の名前であり、**futuretense\_xcel.ini** ファイルに示されています。プロパティ・エディタを使用している場合は、「認可」タブにあります。

**rolelist** は、権限を付与または拒否するロールのカンマ区切りリストです。

**futuretense\_xcel.ini** で付与または拒否されている権限は、すべてのアセットに対して付与または拒否されます。これらの権限は、**WebCenter Sites** のアクセス権限機能を使用してアセット単位で明確にアクセス権限を設定することによってオーバーライド可能です。

## アセット・タイプのその他のオプションの構成

「管理」タブにはそのほかにも、いくつかのアセット・タイプを構成するアイテムがあります。それらのアイテムは、アセット・タイプの設計や実装を支援するものです。したがって、通常は開発者が使用します。管理者は通常これらのアイテムを管理しません。

ただし、アセット・タイプの設計およびインストール後は、次のアイテムを管理するように依頼される可能性があります。

- ソース
- カテゴリ
- サブタイプ
- アソシエーション
- MIME タイプ

これらのアイテムの詳細と、作成および編集手順は、『*Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド*』のデータ設計に関する項を参照してください。

## ツリーへのアクセスの管理 (管理者用インタフェースのみ)

管理者用インタフェースの左側のパネルに表示されるツリーは、いくつかの方法で構成できます。

- ツリーをデフォルトでメイン・ウィンドウに表示するか、またはデフォルトで非表示にするかを構成できます。
- ツリーを非表示にしたユーザーが、ツリーを表示するように切り替えることを許可するかどうかを制御できます。
- ツリー内では、タブを構成して、タブにアイテムまたは機能を追加したり、ユーザーのロールに基づいてタブへのアクセス権限を与えるユーザーを決定できます。
- タブのノードを構成して、特定のノードに表示するアイテムの数を指定できます。

WebCenter Sites では、ツリー・タブの 2 つの一般カテゴリがサポートされています。

- システム・デフォルト・タブでは、管理機能 (「管理」、「サイト管理者」、「ワークフロー」) が提供され、さらに個々のアセット (「履歴」、「ブックマーク」、「サイト・プラン」) へのアクセスが可能です。

アセットおよびアセット・タイプは、開発者による使用が意図されており (例、テンプレート)、Contributor インタフェースでは、調査にのみ使用できるか、またはアクセスできません。逆に、すべてのフレックス・アセットとそれらの親アセット、すべてのベーシック・アセット、Engage アセット (推奨、セグメント、プロモーションなど)、問合せ、コレクションおよびページ・アセットなどは、Contributor インタフェースのみでしか使用できません。

- カスタム・タブ
  - 様々なロールのユーザーが頻繁に使用するアセット・タイプをより簡単に作成できるように、管理者が作成するタブ。
  - カスタマイズされた動作や新規機能を提供するために、開発者が作成するタブ。

### 注意

「ワークフロー・グループ」タブは、システム・デフォルト・タブとカスタム・タブが混成されたものです。「ワークフロー・グループ」タブはデフォルトではインストールされず、使用するには作成する必要がありますが、そのロジックを提供するエレメントはインストールされます。つまり、このタブは手動で作成する必要がありますが、開発者が新しいエレメントをコード化する必要はありません。

この項では、ルールをシステム・デフォルト・タブに追加する方法、アセット・タイプへアクセスできるベーシック・ツリー・タブの作成方法、およびデフォルトでツリーを表示するかどうかを構成する方法について説明します。

新規機能を実装するカスタム・ツリー・タブの作成方法は、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』のシステム機能の管理に関する項を参照してください。

## ツリーの表示および非表示

メイン・ウィンドウで作業中のアセットの表示にさらにスペースが必要な場合やさほどスペースが必要ない場合には、いつでもすべてのユーザーがツリーの表示と非表示を切り替えることができます。

必要ならば、ユーザーが最初にシステムにログインしたときに、デフォルトでツリーが非表示になるように Sites システムを構成できます。また、ユーザーがツリーを表示するように切り替えることを許可するかどうかを制御できます。

アセットを使用するための WebCenter Sites の機能は、タブ上のコンテキスト・メニュー、ウィンドウ上部のアイコンおよび Admin インタフェースのみで管理される個々のアセットの「新規」、「編集」および「調査」フォームに表示されるアクション・バーで利用できます。したがって、コンテンツ・プロバイダにツリーを表示することは必須ではありません。ただし、管理機能は「管理」、「サイト・プラン」および「ワークフロー」タブでしか使用できないため、管理ユーザーは常にツリーへアクセスできる必要があります。

### ツリーの表示と表示切替えの権限を構成するには：

1. プロパティ・エディタを起動し、futuretense\_xcel.ini ファイルを開きます。
2. プリファレンスタブを選択します。
3. ユーザーが最初に管理者のインタフェースにログインするとき、デフォルトでツリーが非表示になるように指定するには、xcelerate.showSiteTree の値を false に設定します。
4. (オプション) 管理ユーザー (ユーザー・アカウントに xceladmin ACL が割り当てられたユーザー) のみに、ツリーの表示への切り替えを許可するようにシステムを構成するには、xcelerate.restrictSiteTree プロパティを true に設定します。
5. プロパティ・ファイルを保存し、プロパティ・エディタを閉じます。
6. アプリケーション・サーバーを再起動します。

## ツリー・タブの作成

- [新しいツリー・タブの作成](#)
- [「ワークフロー・グループ」タブの作成](#)

ツリー・タブは、管理者のインタフェースの左側パネルに表示されるタブです (「管理」など)。ツリー・タブへのアクセスは、ロールによって制御します。

ツリー・タブのいくつかは、WebCenter Sites の中核となるものです。新規ツリー・タブを作成する前に、デフォルト・タブを確認して、WebCenter Sites の既存の機能に関する理解を深めてください。デフォルト・ツリー・タブは次のとおりです。

- **ブックマーク**: ブックマークに選択して追加したアセットが表示されます。すべてのユーザーは、「**ブックマークに追加**」ボタンを使用してブックマークにアセットを追加すると、即座にこれを表示できます。
- **管理**: システム内のすべてのサイトに影響する管理機能が表示されます。デフォルトでは、**GeneralAdmin** というデフォルトのシステム・ロールのあるユーザーのみが、このタブにアクセスできます。
- **デザイン**: サイトでページを作成するためのソースとして使用できます。これらのソースには、テンプレート、製品定義、コンテンツ定義、およびページ作成のためのその他のソースがあります。
- **履歴**: 現在のセッションで使用したアセットが表示されます。このタブは、すべてのユーザーに対して、最初のアセットの作成、調査、編集またはコピー直後に表示されます。**このタブは構成できません。**
- **サイト管理者**: 管理機能の一部が含まれ、それらの機能は現在ログインしているサイトのみに適用されます。デフォルトでは、**SiteAdmin** というデフォルトのシステム・ロールのあるユーザーのみが、このタブにアクセスできます。このタブは、既存ユーザーの個々のサイトへのアクセス権限は管理するが、新規ユーザーまたは新規サイトを作成する必要のない管理ユーザーが存在する場合に役立ちます。
- **サイト・プラン**: 配信システムで利用可能にしているオンライン・サイトを構成するページ、コレクション、問合せおよびコンテンツ・アセットをグラフィカルおよび階層的に表示します。デフォルトでは、このタブへのアクセス権限はすべての **FirstSiteII** サンプル・サイト・ロールおよびシステム・デフォルト・ロールによって付与されます。
- **ワークフロー**: ワークフロー構成機能が含まれています。デフォルトでは、**Workflow Admin** ロールのあるユーザーのみが、このタブにアクセスできます。

## 新しいツリー・タブの作成

### 注意

ツリー・タブを作成する前に、デフォルトのツリー・タブをよく理解して、機能が重複しないようにしてください。デフォルト・ツリー・タブの詳細は、[162 ページ](#)を参照してください。

### 新規ツリー・タブを作成するには：

1. 「管理」タブで、「ツリー」をダブルクリックします。
2. 「ツリー・タブ」フォームで、「新規ツリー・タブの追加」をクリックします。

**Tree Tabs**

	Title	Tooltip
	Admin	Administrative Functions
	Articles	
	Artwork	Artwork
	Bookmarks	Bookmarks
	Content	Content
	Design	Administrative Assets
	Dev	Developer Assets
	Documents	Documents
	Marketing	Marketing
	Media	Media
	Products	Products
	Site Admin	Site Administration
	Site Design	Site Design
	Site Plan	Site Plan Tab
	Visitors	Visitors
	Workflow	Workflow Administration

**Add New Tree Tab** **Order Tree Tabs**

## 3. 「新規ツリー・タブの追加」フォームに入力します。

### Add New Tree Tab

---

**\*Title:**

**Tooltip:**

**\*Sites:**

Any  
FirstSite  
**AdminSite**  
avisports  
LoafersBakery

**\*Required Roles:**

Any  
AdvancedUser  
Analytics  
Approver  
ArtworkAuthor

**Tab Contents:**

Available

- Article
- Article Category
- Attribute
- Attribute Editor
- CSElement
- Collection
- Content
- Content Attribute

Selected

Display Order

Add Selected Items

Remove

- To create a custom section, enter the section name and element name, click "Add New Section", then Save. When the tree tab is reloaded, this element will be called.
- To edit an existing custom section, select the custom section name (in the Selected area above), make the changes, click Edit, then Save.

Section Name:

Element Name:

Add New Section

Edit Section

Cancel

Save

- 「タイトル」フィールドに、最大 64 文字で短い説明的な名前を入力します。
- 「ツールチップ」フィールドに、最大 255 文字で短い説明を入力します。この説明は、マウス・カーソルをタブの上に重ねたときに表示されます。
- 「サイト」フィールドで、このタブを表示するサイトを選択します。
- 「必須ロール」フィールドで、このタブにアクセスできるロールを選択します。
- 「タブ・コンテンツ」フィールドで、タブに表示されるアセット・タイプを選択し、「選択したアイテムの追加」をクリックします。



- f. (オプション) このタブにカスタム機能を追加する場合は、フォームの下部にある「セクション名」および「エレメント名」フィールドを使用します。この手順には開発者の支援が必要です。詳細は、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』も参照してください。
4. 「保存」をクリックします。  
ツリーに新しいタブが表示されます (必要に応じて、表示をリフレッシュしてください)。

## 「ワークフロー・グループ」タブの作成

「ワークフロー・グループ」タブには、サイトに対して存在するワークフロー・グループと、そのグループに含まれるアセットが表示されます。ワークフロー・グループの詳細は、[175 ページの「ワークフロー・グループ」](#)を参照してください。このタブはデフォルトでは表示されません。このタブを使用する場合は、作成する必要があります。

### 「ワークフロー・グループ」タブを作成するには：

1. 「管理」タブで、「ツリー」をダブルクリックします。  
WebCenter Sites に「ツリー・タブ」フォームが表示されます。
2. そのフォームで、「新規ツリー・タブの追加」をクリックします。
3. 「タイトル」フィールドに、最大 64 文字で短い説明的な名前を入力します。  
例：ワークフロー・グループ
4. 「ツールチップ」フィールドに、最大 255 文字で短い説明を入力します。  
例：ワークフロー・グループ
5. 「サイト」フィールドで、このタブを表示するサイトを選択します。
6. 「必須ロール」フィールドで、このタブにアクセスできるロールを選択します。
7. 「タブ・コンテンツ」領域で、セクション領域まで下へスクロールします。  
「セクション名」フィールドで、Groups という名前をこの表示のとおりに入力します。
8. 「エレメント名」フィールドで、OpenMarket/Gator/UIFramework/LoadWorkflowGroups の名前をこの表示のとおりに入力します。
9. 「新規セクションの追加」をクリックします。  
Groups という単語が「選択済」列に表示されます。
10. 「保存」をクリックします。

## ツリー・タブの編集

ツリー・タブを編集するということは、次の操作が可能であることを意味します。

- ツリー・タブの名前の変更
- ツールチップの編集

- 別の一連のサイトに対するツリー・タブの有効化
- 別の一連のロールに対するツリー・タブの表示
- ツリー・タブに対する別の一連のコンテンツの選択、コンテンツの表示順の並替え、またはこれら両方の実行

#### 注意

- ツリー・タブは、2 つの条件を満足する場合に、ユーザーのインタフェースに表示されます。
  - ツリー・タブがユーザーのサイトで有効化されている。
  - ツリー・タブとユーザーの両方に、少なくとも 1 つ共通のロールがある。
- サイト・ユーザーを新しいロールで作成する場合、デフォルトのツリー・タブで新しいロールを選択して、ユーザーにアクセス権限が付与されるようにする必要があります。( デフォルトのツリー・タブは、新規ロールに対して自動的に有効化されません。 ) デフォルト・タブのリストは、[162 ページ](#)を参照してください。

#### ツリー・タブを編集するには：

1. 「管理」タブで、「ツリー」をダブルクリックします。
2. 「ツリー・タブ」フォームで、目的のタブに移動し、「編集」アイコンをクリックします。
3. ツリー・タブの編集フォームで必要な変更を行います。  
次に例を示します。
  - ツリー・タブを新規サイトに対して有効化する場合は、「サイト」リストからサイトを選択します。
  - 新規サイトに、新規ロールを持つユーザーがあり、それらのユーザーに対してツリー・タブを有効化する場合、「ロール」リストでユーザーのロールを選択します。
4. 「保存」をクリックします。

## ツリー・タブの削除

#### ツリー・タブを削除するには：

1. 「管理」タブで、「ツリー」をダブルクリックします。
2. 「ツリー・タブ」フォームで、目的のタブに移動し、「削除」アイコンをクリックします。  
WebCenter Sites に警告メッセージが表示されます。
3. 「ツリー・タブの削除」をクリックします。  
ツリー・タブが削除されます。

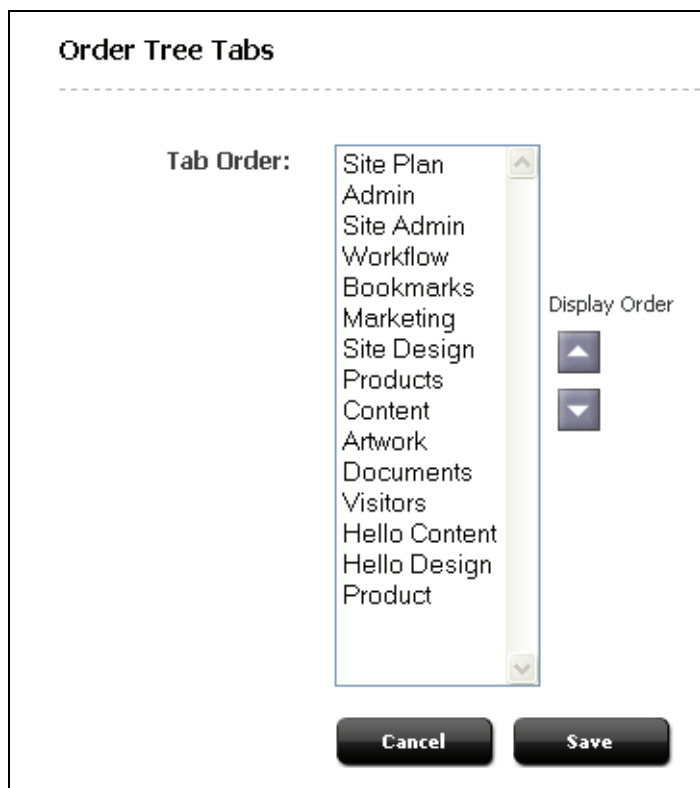
## ツリー・タブの順序の変更

ツリー・タブの表示順序は変更できます。

ツリー・タブの順序を変更するには：

1. 「管理」タブで、「ツリー」をダブルクリックします。
2. 「ツリー・タブ」フォームの下部で、「ツリー・タブの順序」をクリックします。

WebCenter Sites に「ツリー・タブの順序」フォームが表示されます。



The image shows a dialog box titled "Order Tree Tabs". It contains a list of tabs under the heading "Tab Order:". The tabs are: Site Plan, Admin, Site Admin, Workflow, Bookmarks, Marketing, Site Design, Products, Content, Artwork, Documents, Visitors, Hello Content, Hello Design, and Product. To the right of the list are two arrow buttons labeled "Display Order". At the bottom of the dialog are "Cancel" and "Save" buttons.

このフォームには、ツリーに表示される順序でタブが示されます。

ツリーではタブが横方向に整列されます。横 1 列で対応可能な数よりもタブが多い場合、背後に追加の列が形成されます。各列のタブは、左から右の順序で並べられます。各列は手前から後ろに並べられます。

3. タブをツリーに移動するには、リストでタブを選択し、矢印ボタンを使用してタブを正しい位置に移動します。移動するタブごとに、この手順を繰り返します。
4. 「保存」をクリックします。

ツリーにタブが新しい順序で表示されます ( 必要に応じて、表示をリフレッシュしてください )。

## タブのノードに表示するアイテムの数の構成

WebCenter Sites の応答時間を最適化するには、ツリー・タブの該当するノードに表示されるアセットの数を制限できます。特に、WebCenter Sites データベースにいずれか 1 つのタイプのアセットが多数格納されている場合、すべてのアセットをロードして、タブのノードにそれらを表示するために時間がかかる場合があります。ロード時間を最小限に抑えるには、しきい値を設定してノードに表示されるアイテムの数を制限します。ノードに対するアセット (またはその他のアイテム) の数がしきい値を超え、ユーザーがそのアセットにアクセスしようすると、管理者のインタフェースで、返されるアイテムの数を制限する検索条件の入力を求められます。

たとえば、ノードに 300 を超える記事が含まれており、表示しきい値が 100 に設定されているとします。ユーザーが記事を表すノード・アイコンを開くと、小さな検索条件のフォームが表示され、返す記事の数を制限するために使用する値の入力を求められます。

**ツリー・タブのノードに表示されるアイテムの数を構成するには：**

1. プロパティ・エディタを起動し、futuretense\_xcel.ini ファイルを開きます。
2. プリファレンスタブを選択します。
3. xcelerate.treeMaxNodes プロパティを選択し、値を指定します。デフォルトでは、このプロパティは 100 に設定されています。つまり、100 件までのアイテムはノードに表示可能です。
4. プロパティ・ファイルを保存して閉じます。
5. アプリケーション・サーバーを再起動します。

## 第 9 章

# ワークフロー・プロセスの作成と管理

ワークフローは、WebCenter Sites によって提供されている機能であり、アセットの作成に複数の人が参加している場合にその作業を管理するために使用します。たとえば、特定のタイプのアセットをパブリッシュ用に承認する前に、編集者または法定代理人によるレビューが必要な場合、ワークフロー機能でそれらのアセットを適切な人々に適切なときにルーティングできます。

この章は、次の項で構成されています。

- [概要](#)
- [ワークフロー・プロセスの計画](#)
- [ワークフロー・プロセスの構成](#)
- [ワークフロー・プロセスの構成](#)
- [作業の移動](#)
- [ワークフローの割当ての消去](#)

## 概要

すべてのコンテンツ・プロバイダにとって、最終目標はコンテンツ・アセットをパブリッシュすることです。アセットは、パブリッシュする前にパブリッシュ用に承認する必要があります。ワークフロー機能により、作成から承認までアセットを誘導する**ワークフロー・プロセス**で必要な一連のタスクすべてが、アセットに対して実行されます。

ワークフロー・プロセスは、組織でその作業の遂行手順を反映するために必要な任意の数のタスクで構成できます。アセットが割り当てられたこと、および期限が近づいていることや期限を過ぎていることをユーザーに通知するために

WebCenter Sites から送信される電子メッセージを構成できます。

考えられる構成が数多くあるため、複数のアセット・タイプに1つのプロセスを作成するのではなく、ワークフローを使用する予定のアセット・タイプごとに個別のワークフロー・プロセスを作成することが一般的です。

## ワークフローの参加者

ワークフロー・プロセスの作成を開始するとき、一般的に最初に考えることは、このタイプのアセットに対して作業する人々の役職は何かということです。たとえば、作成者、編集者、マーケティング担当者、グラフィック・アーティスト、製品マネージャ、弁護士などでしょうか。

ワークフロー・プロセスに参加する人々の役職は、WebCenter Sites インタフェースでは**ロール**とみなされます。ロールは、そのサイトでの個々の機能を説明します。サイトに対してユーザーを有効にすると、そのユーザーに、そのサイトに対して実行するロールを割り当てます。

ワークフロー・プロセスを作成するときに、タスクごとにどのロールが適しているのか判別します。個々のアセットがワークフロー・プロセスを通過していく際に、適切なロールを持つユーザーのみがそのタスクの実行を許可されます。任意の時点で適切なロールを持つユーザーのプールから選択された個々のユーザーは、ワークフロー**参加者**と呼ばれます。

## ワークフロー状態

次に考慮することは、このタイプのアセットに対して実行されるタスクは何かということです。たとえば、執筆、価格付け、編集、ファクトのチェック、法的レビューなどです。

これらのタスクをワークフロー**状態**と呼びます。状態は、その時点でのアセットのステータスを表すワークフロー・プロセス内のポイントです。たとえば、記事の執筆、イメージのレビュー、法的レビューなどです。参加者は、アセットがその状態にある間に状態が表す作業を完了します。

参加者が作業する（または作業すると想定されている）アセットは**割当て**と呼ばれます。ユーザーの**割当てリスト**は、管理者のインタフェースの「割当て」フォームに表示されます。アセットは、ユーザーがワークフロー参加者として実行するロールを持つ状態になるとすぐに、そのユーザーの割当てリストに表示されます。

特定の状態にあるアセットを、特定の期間のみ、その状態に保つ必要があるでしょうか。その場合は、その状態に期限を割り当てます。その後、ワークフロー・プロセスを構成して、その期限が近づくか期限を過ぎたときに、参加者に

通知する電子メール・メッセージを送信することができます。これらの電子メール・メッセージは**時間指定アクション**の例です。

各状態に1つ以上の時間指定アクションを作成できます。

## ワークフロー・ステップ：状態から状態へのアセットの移動

次は、アセットをどのようにして状態から状態に移動するかです。マーケティング・ライターが、趣意書のアセットを法的レビューアに送信しますか。グラフィック・アーティストが、イメージ・アセットを編集者に送信しますか。その後はどうなりますか。

状態間のアセットの移動は**ステップ**と呼ばれます。プロセス内のステップを作成すると、状態が特定の順序でつながり合わされるため、ワークフロー・プロセス内のステップを作成することで、プロセスが編成されます。

プロセス内のステップを作成する際、ステップによってどの状態からアセットが移動されるのか (**開始状態**)、ステップによってどの状態にアセットが移動されるのか (**終了状態**)、およびどのロールがステップを実行できるのかを指定します。

## ステップの仕組み

ステップにより、アセットはある状態に置かれ、適切なロールの参加者に通知されます。この処理により、割当てが作成されます。次に、それらのロールの参加者がアセットを次の状態に移動するためのステップが必要です。つまり、前のステップによって通知されたロールが、次のステップを実行するよう認可されたロールです。例を示します。



ユーザーはワークフロー・プロセスのステップをどのように実行するのでしょうか。これは、ユーザーが割当てを終了したことを指定することによって実行します (開始ステップは例外です。これについては次で説明します)。ユーザーが割り当てられているアセットに対して「**割当ての終了**」オプションを選択すると、そのオプションによってステップが呼び出され、アセットが次の状態に移動され、次の参加者に割り当てられます。

同じ状態の1つのアセットに複数の参加者が割り当てられている場合、「**割当ての終了**」オプションを使用することは**投票**とも呼ばれます。各参加者は、投票して、アセットを次の状態に移動します。

ワークフロー・プロセスの最初のステップが、**開始ステップ**です。開始ステップは、開始状態がないステップです。つまり、開始ステップによってワークフロー・プロセスが始まり、そのアセットが一連の状態のうちの最初の状態に移動します。これは、ワークフロー・プロセスがアセットに割り当てられたときに呼び出されるステップです。開始ステップに対して認可されたロールを持つユーザーのみが、アセットに対してワークフロー・プロセスを開始できます。

## ステップ・アクションと条件

**ステップ・アクション**は、ステップが完了したときに発生するイベントです。たとえば、ステップが行われると、アセットは参加者に割り当てられます。アセットが割り当てられたことを、その参加者に通知する必要がありますか。必要な場合は、ステップ・アクションを構成し、電子メール・メッセージをその新しい参加者に送信できます。各ステップに1つ以上のステップ・アクションを指定できます。

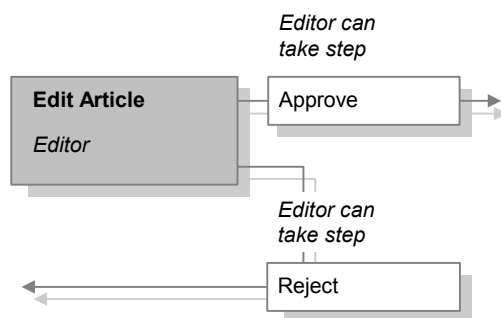
ステップ・アクションのもう1つの例が **ApproveForPublish** アクションです。これは、アセットを承認するデフォルトのアクションであり、**WebCenter Sites** に付属しています。通常、このアクションはワークフロー・プロセスの最終ステップで使います。

最後に、ステップによってアセットを次の状態に移動するために、その前に、ある状態にあるアセットに対して満たす必要がある要件はありますか。ある場合は、そのステップに**ステップ条件**を構成して割り当てます。たとえば、次の状態に進む前に、アセットのすべてのアソシエーション・フィールドにデータが入力されていること(必要な関連付けられたイメージが記事に含まれていること)を確認する条件を構成できます。

## アセットに対する複数のパス

ワークフロー・プロセスに、人がアセットをレビューする状態が含まれている場合、通常、そのワークフローには1つのアセットに対して考えられるパスが複数あります。これは、レビューアがそれをそのまま受け入れる場合と拒否する場合があるためです。

そのような場合、レビュー状態からアセットを移動するステップを2つ作成します。アセットがその状態にあるとき、「割当ての終了」フォームには両方のオプションがリストされ、参加者は割当てを終了するときに該当するステップを選択します。例を示します。



複数の参加者が同じ状態の同じアセットをレビューしていて、異なるステップを選択する(つまり、異なる投票をする)場合はどうなるでしょうか。それは、各ステップをどのように構成したのかによって異なります。次のようないくつかの可能性がります。

- 割当て(投票)を最初に終了した参加者によってアセットの進む方向が決定されるようにステップを構成する。



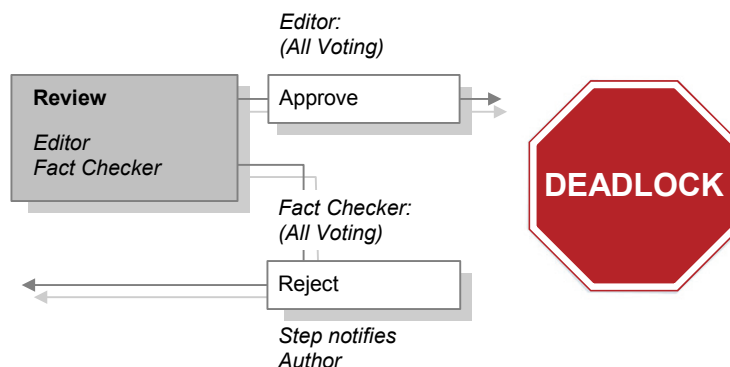
- アセットがいずれかの方向に進むためにはすべての参加者が同じステップを選択する（同じように投票する）必要があるようにステップを構成する。ステップを完了するにはその前にすべての参加者が選択する必要があるステップはすべて**投票ステップ**と呼ばれます。このオプションは、次の項で説明するように**デッドロック**になることがあります。
- 前述の方法を組み合わせる。すべて投票ステップ（すべての参加者が同意する必要がある）を1つ構成し、さらにそれ以外のステップを構成して、それを選択した参加者がいた場合に、そのステップが実行されアセットがそのパスをたどるようにします。

## デッドロックの管理

デッドロックは、次の条件が満たされると発生します。

- 1つの状態からのステップが複数ある。
- 2つ以上のステップで、参加者がそのステップを実行する必要がある。つまり、これらはすべて投票ステップです。
- その状態のアセットが複数の参加者に割り当てられている。
- 参加者が割り当てを終了するときすべて投票の異なるステップを選択する。

この図はデッドロックを表しています。



ステップのうちの1つがすべて投票ではなく、参加者がそのステップを選択しても、そのアセットはデッドロックになりません。

## デッドロックの解決

デッドロック状態にあるアセットは、デッドロックが解決されるまでワークフロー・プロセスを進めることはできません。デッドロックを解決するには、参加者同士で協議し、アセットが進むパスについて同意する必要があります。その後、選択内容を変更する必要がある参加者が次のいずれかを実行することでデッドロックを解決できます。

- 割り当てを終了し、全員が同意したステップを選択します。
- アセットの「ステータス」フォームの「ワークフロー・コマンド」ドロップダウン・リストから「投票の棄権」オプションを選択します。

## デッドロックの防止

デッドロックになる可能性があるワークフロー・プロセスを構成する前に、その状態からの考えられるすべてのステップについて、完全な同意が絶対に必要であることを確認します。この説明から明らかなように、デッドロックはすべての参加者に追加作業が生じるため、この機能は必要な場合にのみ使用してください。

たとえば、考えられるステップとして「改訂のために戻す」と「パブリッシュ用に承認する」の2つがあるレビュー状態を考えてみます。「改訂のために戻す」には全員一致の投票は必要ないが、「パブリッシュ用に承認する」にはそれが必要となるようにステップを構成すると、デッドロックのリスクがない適切な制御(すべてのレビューアは、アセットがパブリッシュされる前に同意する必要がある、拒否されるとアセットのパブリッシュは停止される)が作成されます。

## デッドロックの発生時における参加者への通知

デッドロックになる可能性があるワークフロー・プロセスを作成する必要がある場合は、必ず、デッドロックを発生させる可能性があるステップごとに、デッドロックを参加者に通知する**デッドロック・アクション**を構成して割り当ててください。デフォルトのデッドロック・アクションは、ステップでデッドロックが発生したときに、該当する参加者に WebCenter Sites から送信される電子メール・メッセージです。

## ワークフロー・グループ

いくつかのアセットが密接に関連していて一組の作業とみなす必要があったり、それらを同時に承認する必要があるような状況はありませんか。そのような場合は、**ワークフロー・グループ**機能を使用できます。

### ワークフロー・グループの使用法

ワークフロー・グループによって、コンテンツ・プロバイダは、ワークフローを介して一緒にアセットの定義済セットを送信できます。ワークフロー・グループの作成とグループに割り当てるアセットの選択はコンテンツ・プロバイダが行いますが、管理者は、ワークフロー・グループにどの種類のアセットが含まれるのかを把握する必要があります。なぜでしょうか。それによって、ワークフロー・プロセスを適切に構成できるようになるからです。

たとえば、グループ内のアセットごとに終了時に次の状態に進むことを許可するワークフロー・ステップを構成したり、グループ内のすべてのアセットがそのポイントに到達しないとそれらのいずれも進むことができないステップを構成することができます。(この2番目の例は**同期ステップ**と呼ばれており、次で説明します。)

### 同期ステップの追加

ワークフロー・グループで使用するワークフロー・プロセスを作成する場合、通常は、そのプロセスが1つの同期ステップのみを持つように構成することをお勧めします。同期ステップが複数あると、それらのアセットに対する作業が必要以上に時間がかかるようになる可能性があります。ワークフロー・プロセスによって反映されるビジネス・プロセスを評価し、どのステップに本当に同期が必要である(たとえば、すべてのアセットを一括して法的レビューに進める必要がある、またはすべてのアセットを同時にパブリッシュ用に承認する必要がある)のかを判断します。

### グループ・デッドロックの管理

ワークフロー・グループと使用するワークフロー・プロセスを作成し、そのいずれかのステップがデッドロックになる可能性がある場合は、必ず、グループ・デッドロックがあったときに参加者に通知する**グループ・デッドロック・アクション**を構成し、それをそのプロセスに割り当てます。

## 割当ての委任と消去

人は休暇を取ったり、新しいワーク・グループに再割当てされたり、別の仕事に異動したりします。彼らが作業をしていたアセットはどうなるのでしょうか。そのような場合、その割当てを適切なロールを持つ他の参加者に**委任**できます。

さらに、各ワークフロー・プロセスには**ワークフロー管理者**を設定できます。ワークフロー・プロセスの管理者は、他の参加者のかわりに割当てを委任できます。

アセットが新しい参加者に委任されるとき、その参加者が電子メール通知を受信する必要がありますか。これが必要な場合、**委任アクション**を構成して、アセットが新しい割当て先に委任されたときに、電子メール・メッセージをその割当て

先に送信します。各ワークフロー・プロセスに1つ以上の委任アクションを指定できます。

アセットを割り当てる必要がなくなった場合または割当てを消去して最初からやり直すほうが簡単な場合は、「管理」タブの「割当てのクリア」機能を使用できます。

## ワークフローへのアセットの配置

アセットは、次の方法のいずれかでワークフロー・プロセスへの参加を開始します。

- ユーザーがそのアセットの「ステータス」フォームの「ワークフロー・コマンド」フィールドからワークフロー・プロセスを選択する。

ワークフロー・プロセスを選択すると、そのプロセスの開始ステップが呼び出され、それによってアセットが最初の状態に配置されます。

- ユーザーが、アセットを作成し、そのタイプのアセットのスタート・メニューの「新規」アイテムが、デフォルトのワークフロー・プロセスが存在するように構成される。

この場合、アセットを保存すると、そのプロセスの開始ステップが呼び出され、それによってアセットが最初の状態に自動的に配置されます。

ステップは特定のロールに対して有効化されているため、プロセスの開始ステップに割り当てられているロールを持つユーザーのみがそのプロセスを選択できます。したがって、スタート・メニュー・アイテムを使用してワークフローにアセットを配置する場合、そのスタート・メニュー・アイテムに割り当てられているロールがデフォルトのワークフローの開始ステップに割り当てられているものと同じロールであることを確認してください。

## ワークフロー内にあるアセットへのアクセスの制限

ワークフローによってアセットはビジネス・プロセスを通り、適切なときに適切なユーザーに送られますが、アセットが特定のユーザーに割り当てられることによって、他のユーザーがこれを修正または削除できなくなるわけではありません。

誰がワークフロー内のアセットにアクセスできるかを制限する場合は、**機能権限**と呼ばれるワークフロー機能を使用します。これらは、ワークフロー状態とワークフロー・ロールのコンテキストで、編集、コピー、承認、削除、バージョンの表示などの機能に対して設定される制限です。

機能権限には、次の3つの部分があります。

- 制限される機能。
- その機能の実行を許可されるまたは許可されないロール。
- それらのロールを持つユーザーがその機能の実行を許可されるまたは許可されない状態。

機能権限が有効になっているということは、次の条件を満たす場合にのみユーザーがその機能を実行できることを意味します。

- そのユーザーが適切なロールを持っている。
- そのアセットが適切な状態にある。

- そのアセットがそのユーザーに割り当てられている。

これは、ユーザーが適切なロールを持っていて、かつアセットが適切な状態にある場合でも、そのアセットがそのユーザーに割り当てられていなければ、そのユーザーはそのアセットに対してその機能を実行できないことを意味します。

## 機能権限とステップ・アクション

機能権限によって、機能へのアクセスがそのユーザー・インタフェースからのみに制限されます。つまり、その時点でどの機能権限が設定されているのかに関係なく、ステップが実行されたときに機能呼び出すステップ・アクションをプログラミングできます。

ApproveForPublish ステップ・アクションが1つの例です。ユーザーがそのユーザー・インタフェースから「承認」オプションを使用することを禁止する機能権限を指定しても、ワークフロー・ステップによって「パブリッシュの承認」アクションが呼び出され、そのユーザーがそのステップを実行するための適切なロールを持っていると、同じそれらのユーザーがそのワークフロー・ステップでアセットを承認できます。

つまり、機能権限を使用することでユーザーが誤ってアセットを選択および変更することを防止し、アクションを使用して高度な制御方法でそれらの機能呼び出すことができます。

## 機能権限：すべてまたはなし

特定のロールに対して機能へのアクセスを許可または制限する機能権限を1つでも作成する場合は、その機能に対して他のすべてのロールを対象とする機能権限を作成する必要があります。

たとえば、削除機能のみを制限する(記事がレビュー状態にあるときにのみ、編集者のみが記事アセットを削除できるようにする)とします。レビュー状態にある記事アセットの削除を編集者に許可する機能権限を作成するが、その他の機能権限を作成しない場合、レビュー状態での削除機能へのアクセスを他のロールに明示的に付与するまで、レビュー状態になっている記事アセットをほかには誰も削除できません。

さらに、レビュー状態にあるアセットに対する削除機能へのアクセスを編集者に対して拒否する機能権限を作成すると、レビュー状態での削除機能へのアクセスを他のロールに明示的に付与するまで、レビュー状態になっている記事アセットをどのユーザーも削除できません。

## 期限

ワークフロー期限には、次の2種類があります。

- **割当て期限**: アセットが個々の状態に留まる期間の長さを指定します。状態の「予測時間」フィールドに値を設定すると、アセットがその状態にあるときにワークフロー参加者に割り当てられるアセットの期限が作成されます。
- **プロセスの期限**: アセットがプロセス全体を通過するためにかかる時間の長さを指定します。

これらの異なるタイプの期限は、相互に対話することではなく、個別に計算され、相互に排他的です。多くの場合、同じワークフロー・プロセスではどちらか一方の種類を使用し、両方を使用することはありません。

## 状態の期限の設定とオーバーライド

ワークフロー状態を作成するとき、それに対して予測時間を設定し、割当てが、その予測時間から計算された期限を過ぎたときに通知電子メールを送信するかどうかを決定できます。

状態を使用するワークフロー・プロセスを作成するとき、アセットをその状態に移動するステップをユーザーが実行したときにその状態の予測時間を変更(オーバーライド)できるかどうかを指定します。

期限が変更可能な場合、その実行を禁止する機能権限を構成しないかぎり、ステップを実行する参加者は誰でもその期限をオーバーライドできます。ワークフロー・プロセスに対して管理者ロールとして指定されたロールを持つ参加者は誰でも割当て期限をいつでもオーバーライドできます(その期限が変更可能である場合)。

## プロセスの期限の設定

ワークフロー・プロセスを作成するときに、プロセスの期限を設定可能かどうかを決定します。プロセスの期限は、アセットがワークフローに最初に配置されるときに「ワークフローの選択」フォームで設定します。ただし、割当て期限とは異なり、プロセスを構成してプロセスの期限が近づいたときに通知電子メールを送信することはできません。

プロセスの期限を設定可能な場合、その実行を禁止する機能権限を構成しないかぎり、ワークフローにアセットを配置する参加者は誰でもそのアセットのプロセスの期限を設定できます。さらに、ワークフロー・プロセスに対して管理者ロールとして指定されたロールを持つ参加者は誰でもプロセスの期限をいつでも設定できます(期限が設定可能である場合)。

## 期限計算のスケジュール

次の2種類のアクションがあります。

- ステップによって呼び出されるアクション。これらのアクションは、ステップが実行されるときに WebCenter Site によって完了されるイベントです。
- 期限によってトリガーされるアクション。これらのアクションは、キューに入れられており、WebCenter Sites によってそのアセットの期限が計算され、どの時間指定アクション (存在する場合) を呼び出すか決定された後にのみトリガーされます。

**時間指定アクション・イベント**を構成することで期限の計算頻度を指定します。これは、すべての期限のバックグラウンド計算プロセスを呼び出すイベントです。これは、バックグラウンド承認計算プロセスを呼び出すパブリッシュ・イベントと同様です。

パブリッシュ・プロセスによって承認が計算されてどのアセットをパブリッシュするのかが決定されるのと同様に、**時間指定アクション・イベント**によって呼び出される期限計算プロセスによってワークフロー・プロセスに参加しているすべてのアセットに対する期限が計算され、割当て期限について通知メッセージを送信するかどうか決定され、アセットに対して割当てリストの「期限」および「プロセスの期限」列に表示される時間が決定されます。

管理システム上で「**時間指定アクション・イベント**」を構成し、必要な回数だけ実行できます。

## ワークフロー・プロセスの終了方法

ワークフロー・プロセスは、アセットが進む先の状態がなくなったときに終了します。これは、最後の参加者がワークフロー・プロセスの**終了ステップ**を実行したときに起こります。

終了ステップは、開始状態はあるが終了状態はない開始ステップの反対です。ユーザーが終了ステップを実行すると、それはステートレス状態に移動します。これはアセットがすでにワークフロー内にはないことおよび、そのワークフロー・プロセスに対して設定されている機能権限が適用されなくなったことを意味します。

## ワークフロー・プロセスの構成に必要なロール

ワークフロー構築ブロックは、管理者のインタフェースにある次の2つのツリー・タブに配置されています。

- **管理**: 電子メール・オブジェクト、アクション、条件、および時間指定アクション・イベントを保持します。
- **ワークフロー**: ワークフロー状態およびプロセスを保持します。

「管理」タブにアクセスするには、自身に **GeneralAdmin** ロールが割り当てられていることおよび、ユーザー・アカウントに **xceladmin ACL** が割り当てられていることが必要です。「ワークフロー」タブにアクセスするには、ワークフロー・プロセスの作成対象となるサイトに対する **WorkflowAdmin** ロールが自身に割り当てられていることが必要です。

WebCenter Sites のインタフェースのアクセス権の詳細は、第4章「[ACL およびロールの使用](#)」および第5章「[ユーザー・プロファイルおよび属性の構成](#)」を参照してください。



## ワークフロー・プロセスの計画

ワークフロー・プロセスを作成するときは、そのプロセスの状態をつなぎ合わせるステップを作成します。つまり、ワークフロー・プロセスを作成する前に、自身または他の人がワークフロー・コンポーネント(ロール、電子メール・メッセージ、各種アクション、ステップ条件、および状態)を作成する必要があります。

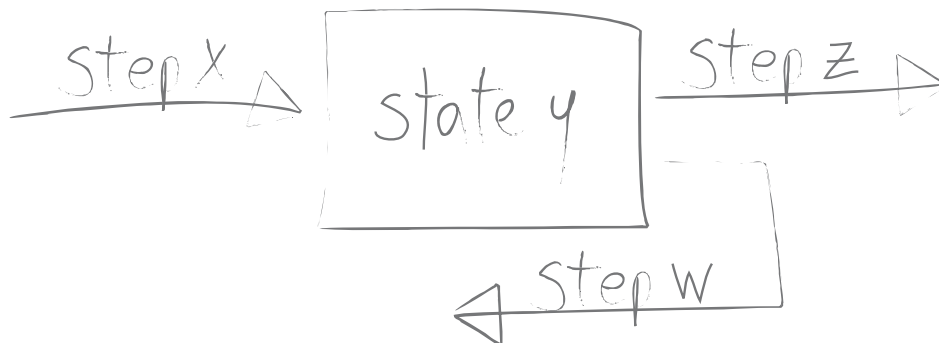
この項では、ワークフロー・プロセスを計画および実装できるように、各ワークフロー・コンポーネントの構成を詳しく説明します。ワークフローを計画する際は、次を実行します。

- I. スケッチからの開始
- II. ロールと参加者の決定
- III. 電子メール・オブジェクト、アクションおよび条件の決定
- IV. 状態の決定
- V. ステップの決定
- VI. 機能権限の決定
- VII. 追加のワークフロー・プロセスの詳細の決定

### I. スケッチからの開始

どこから始めますか。ワークフロー・プロセスとして実装する必要があるビジネス・プロセスの次のようなスケッチからです。

- ボックスを使用して、状態を表します。
- 矢印を使用して、状態を接続するステップを表します。



この項の説明を読みながら、スケッチに、そのプロセス内の各状態またはステップに対してどのロール、アクション、条件、期限などが適切であるかについて詳細を書き込みます。

次に、200 ページの「ワークフロー・プロセスの構成」の説明のように管理者のインタフェースを使用しながらスケッチを参照してワークフロー・プロセスを作成します。

## II. ロールと参加者の決定

ワークフロー・プロセスの計画を開始する際は、まずロールから始めます。ワークフローにはどのような種類の機能グループが参加しますか。次に、それらのロールの個々のユーザーがどのように特定のアセットのワークフロー・プロセスの参加者になるのかを決定します。

### ロールの計画

プロセスに対して作成する必要があるロールを決定するには、自分自身に次の質問を問いかけます。

- **Sites** 管理システムを使用しているコンテンツ・プロバイダの役職またはロールは何か。
- 各ロールの人々は何を実行するか。(彼らが実行するタスクを状態にマッピングできます。)
- ロールはどのように編成されているか。たとえば、サブジェクト別に編成されたコンテンツ・プロバイダからなるいくつかのグループ(たとえば、スポーツ・ライター、ファイナンシャル・ライター、マーケティング・ライターなど)以外に、すべてをレビューするレビューアのグループが1つがありますか。
- 特定のグループの人々は特定のアセット・タイプの作業を行い、それ以外のタイプの作業は行わないのか。その場合、どのロールが、ワークフロー・プロセスを作成する予定の各アセット・タイプに対するアクセス権を持つようにしますか。
- ワークフローに参加していない人に、ワークフロー内のアセットのステータスに関して通知する必要があるか。その場合、ステップまたは時間指定アクションによってその人に電子メール・メッセージを送信できるように、その人にはロールが必要です。

ワークフロー・プロセスのスケッチで、各状態でアセットを割り当てるロールの名前を書き込みます。

ロールの作成の詳細は、[第4章「ACLおよびロールの使用」](#)を参照してください。

### 個別の参加者の選択

ワークフロー・プロセスを構成するとき、ワークフローを通過する個々のアセットごとにどの特定のユーザーがそのワークフローに参加するのかを決定するにはいくつかの方法があります。

- ワークフローを割り当てるとき。  
最初にワークフローをアセットに割り当てる人が、参加予定のすべてのユーザーを選択する必要があるように、プロセスを構成できます。彼らは、各状態についてリストからユーザーを選択します。このリストには、その状態に対して適切なロールを持つすべてのユーザーが含まれています。
- 参加者がその割当てを終了するとき。  
各参加者が、その割当てを終了するときに次の参加者を誰にするのか決定するようにプロセスを構成できます。その参加者は、次の状態に対して適切なロールを持つすべてのユーザーを含むリストからユーザー名を選択します。

このステップを構成するときに参加者をどのように選択するのかを指定します。

## サイト間の割当てと参加者

サイト間でアセットを共有することができます。共有されているアセットがワークフロー・プロセスに入る場合、そのアセットへのアクセス権を持つ、すべてのサイトのユーザーをそのワークフローに参加する候補者と見なす必要がありますか。見なす必要がある場合は、サイト間割当て機能を有効にします。

サイト間割当て機能を使用すると、ユーザーが現在どのサイトにログインしているのかに関係なく、そのユーザーに対して、彼らがアクセス権を持つすべてのサイトから彼らへのすべての割当てが彼らの割当てリストに表示されます。1つの統合された割当てリストを持つことは、ユーザーにとって大変便利です。

ただし、ユーザーがサイトによって異なるロールを持っていて、ワークフロー・プロセス内で機能権限が使用されていると、彼らはその割当てリストに表示されているアセットに対して作業できない場合があることに注意してください。たとえば、ユーザーの中に1つのサイトでは作成者ロールを持っていて、別のサイトでは編集者ロールを持っている人がいるとします。機能権限を使用して編集作業を特定のサイトの編集者に制限すると、作成者として機能するサイトに彼らがログインしたときにその割当てリストに編集を許可されていないアセットが表示されることがあります。

この機能を有効化するには、`xcelerate.crosssiteassign` プロパティの値を `true` に設定します。このプロパティは、`futuretense_xcel.ini` プロパティ・ファイルにあります。このプロパティの詳細は、*Oracle WebCenter Sites* プロパティ・ファイル・リファレンスを参照してください。

## III. 電子メール・オブジェクト、アクションおよび条件の決定

アクションは、次の3つのうちのいずれかの方法でトリガーされるイベントです。

- ステップが呼び出す (ステップ・アクション)。
- 期限がトリガーする (時間指定アクション)。
- ワークフローの状況がトリガーする (デッドロック、グループ・デッドロック、および委任アクション)。

**条件**は、ステップが試みられるときに評価されるイベントです。条件が満たされない場合、そのステップは完了できません。

アクションまたは条件を作成するときは、エレメントを識別します。**エレメント**は、`ElementCatalog` 表に格納されている名前の付いたコードの断片です。アクションによって表される機能呼び出すのがエレメントです。変数または引数を取るようにエレメントをコード化する場合は、アクションを作成するときにそれらの値を識別します。すると、それらの変数はアクションがトリガーされたときにそのエレメントに渡されます。

管理者は、エレメントのコード化を担当しません。提供されたデフォルト・ワークフロー・エレメントでワークフローのニーズを満たせない場合は、開発者が必要な機能をコード化できます。ワークフローのカスタマイズの詳細は、『*Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド*』を参照してください。

WebCenter Sites には、次のデフォルト・ワークフロー・エレメントが用意されています。

エレメント名	期待される変数
OpenMarket/Xcelerate/Actions/Workflow/StepActions/ApproveForPublish	target アセットを承認する対象となるパブリッシュの宛先の名前。
OpenMarket/Xcelerate/Actions/Workflow/StepActions/SendEmailToAssignees	emailname 送信する電子メール・オブジェクトの名前。
OpenMarket/Xcelerate/Actions/Workflow/StepConditions/ExampleStepCondition	
OpenMarket/Xcelerate/Actions/Workflow/AssignmentActions/SendEmail	emailname 送信する電子メール・オブジェクトの名前。
OpenMarket/Xcelerate/Actions/Workflow/DeadlockActions/SendEmailToAssignees	emailname 送信する電子メール・オブジェクトの名前。
OpenMarket/Xcelerate/Actions/Workflow/GroupActions/SendEmailToAssignees	emailname 送信する電子メール・オブジェクトの名前。

これらのエレメントの詳細は、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』を参照してください。

ApproveForPublish と ExampleStepCondition を除いて、これらのエレメントは emailname という変数を取り、その変数によって識別される電子メール・メッセージを送信します。

emailname 変数の値はどのように決定するのでしょうか。ワークフロー電子メール・オブジェクトを作成することによって決定します。WebCenter Sites 管理者のインタフェースの「管理」タブで作成する電子メール・オブジェクトの名前は、電子メール・メッセージを送信するアクションを作成するときに emailname 変数で引数として指定する名前です。

## 電子メール・オブジェクトについて

電子メール・オブジェクトは、アクションから切り離されている構築ブロックであるため、複数のアクションで使用できます。たとえば、デフォルト・デッドロック・アクションおよびデフォルト・グループ・デッドロック・アクションでは同じ電子メール・メッセージ(デッドロック・メッセージという名前)が使用されます。

電子メール・オブジェクトは、名前、説明、件名の行、本文テキストを指定することで作成します。メッセージが送信されるときに、件名に指定したテキストが件名の行に配置され、本文に指定したテキストがメッセージの本文に配置されます。

### ワークフロー電子メールの変数

件名の行および本文テキストで使用でき、受信者ごとにパーソナライズされた電子メール・メッセージの作成を容易にするいくつかの変数があります。

次の表に、どの電子メール・メッセージでも使用できるデフォルト・ワークフロー変数をリストします。

変数名	説明
Variables.assetname	アセットの名前。 この変数は、すべての電子メール・メッセージで使用します。それにより、受信者はどのアセットについて述べているのかがわかります。
Variables.assigner	電子メールを受信する人にアセットを割り当てた参加者のユーザー名。 この変数は、参加者に新しいアセットが割り当てられたことを通知するステップ・アクションの電子メール・メッセージで使用します。
Variables.time	状態について「予測時間」フィールドで指定される時間。 この変数は時間指定アクションに対して使用します。
Variables.instruction	前の参加者がその割り当てを終了したときに「割り当ての終了」フォームの「 <b>実行するアクション</b> 」フィールドに入力したテキスト。 この変数は、参加者に新しいアセットが割り当てられたことを通知するステップ・アクションの電子メール・メッセージで使用します。

カスタム電子メール変数の例については、デッドロック・メッセージという名前の電子メール・オブジェクトと OpenMarket/Xcelerate/Actions/Workflow/DeadlockActions/SendEmailToAssignees という名前の対応するデッドロック・アクション・エレメントを参照してください。

### デフォルトのワークフロー電子メール・オブジェクト

デフォルトのワークフロー電子メール・オブジェクトは次のとおりです。

- 割当て期限リマインダ: アセットおよびその期限を指定します。
- 割当てメッセージ: アセット、そのアセットを割り当てた人、および「割り当ての終了」フォームの「**実行するアクション**」ボックスのメッセージを指定します。
- デッドロック・メッセージ: ユーザーおよびユーザーが実行したステップをリストすることで、デッドロックがどのように発生したのかを説明します。

- 拒否メッセージ: 割当てメッセージと同様ですが、アセットが前の参加者 (割当て者) によって拒否されたことが示されています。

### 電子メール・オブジェクトの計画

作成する必要がある電子メール・オブジェクトを判別するには、オブジェクトに保持される電子メール・メッセージを送信するアクションも決定する必要があります。件名および本文の中で電子メール変数を使用することで、同じ電子メール・オブジェクトを複数の時間指定アクションまたはステップ・アクションで利用できる可能性があります。

通常、次の種類のものを指定する電子メール・メッセージを作成する必要があります。

- 参加者にアセットが割り当てられたこと。(ステップ・アクションの場合。)
- 新しい参加者にアセットが委任されたこと。(委任アクションの場合。)
- アセットの期限が近づいていること。(時間指定アクションの場合。)
- アセットの期限が過ぎていること。(これも時間指定アクションの場合。)
- アセットがデッドロックの状態であること。(デッドロック・アクションの場合。)
- アセットのグループがデッドロックの状態であること。(グループ・デッドロック・アクションの場合。)

「管理」タブで、「電子メール」をダブルクリックします。デフォルトの電子メール・オブジェクトを調査し、それらを使用できるかどうかを確認します。デフォルト・メッセージを変更するか、独自の電子メール・メッセージを作成できます。

ワークフロー・プロセスのスケッチの1つの隅に、そのワークフローに必要な電子メール・メッセージをリストします。

### 時間指定アクションについて

時間指定アクションは、状態の期限に基づいたアクションです。状態に対して期限を指定する場合、期限について参加者に通知するために時間指定アクションを指定できます。

時間指定アクションを作成するには、名前と説明を指定し、エレメントを指定し、必要に応じてそのエレメントに引数値を指定します。

期限に関する電子メール通知を送信する時間指定アクションを作成するには、OpenMarket/Xcelerate/Actions/Workflow/AssignmentActions/SendEmail エレメントを指定し、「引数」フィールドを使用して、どの電子メール・メッセージを送信するのかを指定します。

状態を作成する場合は、どの時間指定アクションを使用するのかと、それらをいつトリガーするのかを状態に指定された期限を基準にして指定します。各状態に複数の時間指定アクションを指定できます。

時間指定アクション・イベントが実行されて、現在ワークフローに参加しているすべてのアセットの期限が計算されると、適切な時間指定アクションがトリガーされます。

### デフォルトの時間指定アクション

デフォルト時間指定アクションは1つあります。電子メールの送信です。これは、OpenMarket/Xcelerate/Actions/Workflow/AssignmentActions/SendEmail エレメントを使用して、割当て期限リマインダ電子メール・メッセージを送信します。

### 時間指定アクションの計画

時間指定アクションを計画する場合、次のワークフロー・コンポーネントも考慮する必要があります。

- 作成する状態。これらのアクションは、状態に対して設定する期限に関連してトリガーされるためです。
- 作成する必要がある電子メール・オブジェクト。時間指定アクションによって電子メール・メッセージが送信される可能性があるためです。

時間指定アクションがトリガーされる時間は、アクション自体の外部で決定される(管理者が状態のフォーム内で行う)ため、少数の汎用時間指定アクション(それらによって送信される電子メール・メッセージのみが異なる)を作成し、それらを複数の状態で繰り返し使用できる可能性があります。

「管理」タブで、「ワークフロー・アクション」を開き、次に「時間指定アクション」を開きます。「電子メールの送信」アクションを調査し、それらを使用できるかどうかを確認します。デフォルト時間指定アクションを変更するか、独自のものを作成できます。

ワークフロー・プロセスの各スケッチで、電子メール・メッセージのリストの近くに、そのプロセスに必要な時間指定アクションをリストします。

### 委任アクションについて

ワークフロー・プロセスに委任アクションを割り当てると、そのアクションは参加者(またはワークフロー管理者)が割当てを別の参加者に委任するたびにトリガーされます。

委任アクションを作成するには、名前と説明を指定し、エレメントを指定し、必要に応じてそのエレメントに引数値を指定します。

ワークフロー・プロセスごとに1つの委任アクションを指定できます。

### デフォルトの委任アクション

用意されているデフォルト委任アクションはありません。

### 委任アクションの計画

委任アクションによって、割当ての委任先の参加者に電子メール・メッセージが送信される可能性があります。その場合、電子メールを送信するデフォルト・ワークフロー・エレメントのいずれかを使用する委任アクションを作成し、そのエレメントが送信する新しい電子メール・オブジェクトを作成できます。

ワークフロー・プロセスのスケッチごとに、そのプロセスに使用する委任アクションの名前を書き込みます。(プロセスごとに1つ割り当てることができます。)

## ステップ・アクションについて

ステップにステップ・アクションを割り当てると、参加者がそのステップを実行するときにそのアクションがトリガーされます。

ステップ・アクションを作成するには、名前と説明を指定し、エレメントを指定し、必要に応じてそのエレメントに引数値を指定します。

ステップ・アクションには一般的なカテゴリが2つあります。機能を完了するカテゴリと、そのステップによってアセットを割り当てられる参加者に電子メール・メッセージを送信するカテゴリです。

ステップ・アクションは、機能権限に関係なく実行されます。つまり、WebCenter Sites 機能を実行するステップ・アクションを作成した場合、そのアクションによってそのステップを実行する参加者の機能権限がチェックされることはありません。これは、ユーザー・インタフェースから機能へのアクセスを制限し、参加者に特定の機能（たとえば、パブリッシュ用の承認）を実行するためにワークフロー内のステップを使用するように要求できることを意味します。

各ステップに1つ以上のステップ・アクションを指定できます。

## デフォルトのステップ・アクション

デフォルトのステップ・アクションは次のとおりです。

- パブリッシュの承認: OpenMarket/Xcelerate/Actions/Workflow/StepActions/ApproveForPublish エレメントを使用してアセットを承認します。その後、次にパブリッシュ・プロセスが実行されたときに、アセットがパブリッシュされます（その依存性もすべて承認されている場合）。  
ワークフロー・プロセスにこのアクションを使用するには、targets 引数を使用することで、アセットを承認する対象となるパブリッシュの宛先を指定する必要があります。
- 割当て電子メールの送信: OpenMarket/Xcelerate/Actions/Workflow/StepActions/SendEmailToAssignees エレメントを使用して割当てメッセージ電子メール・オブジェクトを、そのアセットを割り当てられているすべての参加者（つまり、そのステップの「割当て方法」で指定されている人々）に送信します。
- 拒否電子メールの送信: OpenMarket/Xcelerate/Actions/Workflow/StepActions/SendEmailToAssignees エレメントを使用して、拒否メッセージ電子メール・メッセージを新しい割当て先（そのステップの「割当て方法」で指定されている参加者）に送信します。

## ステップ・アクションの計画

作成する必要があるステップ・アクションの種類を判別するには、次のワークフロー・コンポーネントを考慮する必要があります。

- プロセスに対して作成するステップ。人々は、ステップによってアセットが割り当てられたことを通知される必要があるでしょうか。その必要がある場合、電子メール・メッセージを送信するステップ・アクションが必要です。
- ステップによってアセットが移動される先の状態。状態は、機能の完了後のアセットを表しますか。表す場合、その機能を実装するステップ・アクションが必要です。



「管理」タブで、「ワークフロー・アクション」を選択し、次に「ステップ・アクション」を選択します。これらのアクションを調査し、それらを使用できるかどうかを確認します。デフォルトのステップ・アクションを変更することも、独自のものを作成することもできます。

ワークフロー・プロセスのスケッチごとに、適切なステップの横にそのステップ・アクションの名前を書き込みます。各ステップに1つ以上のステップ・アクションを割り当てられます。

## ステップ条件について

ステップにステップ条件を割り当てると、そのステップが実行されるときにその条件が評価されます。その条件によって、そのステップを完了できるかどうかが決まります。

ステップ条件を作成するには、名前と説明を指定し、エレメントを指定し、必要に応じてそのエレメントに引数値を指定します。ワークフロー・プロセスで条件を使用する場合は、開発者にそのエレメントを通して実装する必要があるという条件について伝えてください。

各ステップに1つ以上の条件を指定できます。

### デフォルトのステップ条件

デフォルトのステップ条件は1つあります。「サンプル」ステップ条件です。これは、条件をチェックするためのエレメントのコード化方法を示す **hello world** スタイルの例です。管理者および開発者は、それを調査してその動作を把握し、その後、開発者が独自の条件エレメントを作成する必要があります。

### ステップ条件の計画

ステップ条件について検討するときは、ステップと状態を考慮する必要があります。ワークフロー・プロセスに条件が必要であると判断した場合は、開発者にそれらを作成するように依頼します。

ワークフロー・プロセスのスケッチごとに、適切なステップの横に必要なステップ条件の名前を書き込みます。

## デッドロック・アクションについて

デッドロックになる可能性があるステップにデッドロック・アクションを割り当てると、そのアクションはそのステップ中にアセットがデッドロックになるたびにトリガーされます。

デッドロック・アクションを作成するには、名前と説明を指定し、エレメントを指定し、必要に応じてそのエレメントに引数値を指定します。

各ステップに1つ以上のデッドロック・アクションを割り当てられます。

### デフォルトのデッドロック・アクション

デフォルトのデッドロック・アクションは1つあります。デッドロック電子メールの送信です。これは、OpenMarket/Xcelerate/Actions/Workflow/

DeadlockActions/SendEmailToAssignees エレメントを使用して、デッドロック・メッセージ電子メール・メッセージを送信します。

### デッドロック・アクションの計画

使用する可能性があるデッドロック・アクションについて検討する場合は、ワークフロー・プロセスに対して作成するステップを考慮する必要があります。デッドロックが発生しないようにステップを設計する予定である場合は、デッドロック・アクションを作成する必要はありません。

「管理」タブで、「ワークフロー・アクション」を開き、次に「デッドロック・アクション」を開きます。このアクションを調査し、それを使用できるかどうかを確認します。デフォルトのデッドロック・アクションを変更するか、独自のものを作成できます。

ワークフロー・プロセスのスケッチで、デッドロックになる可能性があるステップの横に適切なデッドロック・アクションの名前を書き込みます。

### グループ・デッドロック・アクションについて

グループ・デッドロック・アクションは、ワークフロー・グループがデッドロックになったときにトリガーされます。ワークフロー・グループの作成者が、グループ・デッドロック・アクションを選択します。グループごとに1つ以上を選択できます。

グループ・デッドロック・アクションは、そのワークフロー・プロセスの状態またはステップと関連付けられた他のアクションに追加して呼び出すことができます。

### デフォルトのグループ・デッドロック・アクション

デフォルトのグループ・デッドロック・アクションは1つあります。デッドロック電子メールの送信です。これは、デフォルト・デッドロック・アクションと同一です。

### グループ・デッドロック・アクションの計画

デッドロック・アクションの場合と同じ考慮事項が、グループ・デッドロック・アクションの場合にも適用されます。ただし、ワークフロー・グループに対してグループ・デッドロック・アクションを選択するのはコンテンツ・プロバイダであるため、グループ・デッドロック・アクションには必ず意味のある明確な名前を付けてください。

## IV. 状態の決定

状態を作成するときは、次の種類の情報を指定します。

- 名前と説明。状態の名前は意味のあるものとし、かつアセットがその状態にある間に実行される作業の種類を表す必要があります。
- この状態にアセットが留まっている時間の長さ(「予測時間」)。期限は、アセットがその状態になってからの時間数または日数について計算されます。  
予測時間(期限)は、特定の日付ではなく、時間数または日数で設定することに注意してください。これは、状態の期限はアセットが状態を通過するときに各アセットに対して計算されるためです。
- 起動される必要がある時間指定アクションおよびそれが起動されるタイミング。期限前または期限後の日数または時間数で示します。

すべてのサンプル・サイトで提供されているサンプルの状態はありますが、デフォルトの状態はありません。サンプル・サイト状態がどのように構成されているのかを調査するには、サンプル・サイトがインストールされているシステム上で、「ワークフロー」→「状態」を選択し、状態を選択してください。

## 状態の計画

作成する必要がある状態を決定するには、自分自身に次の質問を問います。

- 各状態に参加するのはどのロールか。スケッチで、状態の横にロールの名前を書き込みます。
- これらの状態の中に、複数のアセット・タイプに適用されるものがあるか。その場合、同じ状態を複数のワークフロー・プロセスに再利用できる可能性があります。
- 各状態を完了するためにどれくらいの時間がかかるか。
- この時間の長さは、アセット・タイプまたはサイトによって異なるか。異なる場合は、同じ状態を複数のワークフロー・プロセスで再利用したり、ワークフロー・プロセスを別のサイトと共有することはできません。
- 期限がある場合、期限が近づいたときに **WebCenter Sites** から参加者に通知する必要があるか。その場合、それはいつですか。前日ですか。数時間前ですか。そして、どの時間指定アクション(これにより、どの電子メール・メッセージかが決定される)を使用する必要がありますか。
- 期限を過ぎたときに通知する必要があるか。その場合、それはいつですか。そして、どの時間指定アクションを使用する必要がありますか。

ワークフロー・プロセスのスケッチで、各状態の横にこの情報をすべてリストします。

目的によっては、実際には終了しないワークフロー・プロセスの作成を検討することがあります。たとえば、**Hello Asset World** サンプル・サイト・ワークフロー・プロセスは、**HelloArticle** アセットが承認された後に終了します。ただし、このような場合、誰かが誤ってアセットを開いて保存する可能性があり、それはそのアセットがこの先承認されることはなくなり、パブリッシュされなくなることを意味します。

承認されてからパブリッシュされるまでにアセットが編集されないようにするには、承認後にアセットを保持する最終状態を作成し、その状態にすべての人にアセットの編集を禁止する機能権限を設定します。

このような状態を作成する場合は、そのアセットをワークフロー内の編集状態に戻すことができるステップを作成し、意図的にそれを編集できるようにしてください。

## V. ステップの決定

ステップをプロセス内に作成します。これらのステップを使用して、状態をつなぎ合わせます。これが、実際にプロセスを作成する方法です。

プロセス内のステップごとに次の種類の情報を指定します。

- **ステップの名前。** 名前は意味があるものとし、進むパスを説明するものにする必要があります。たとえば、レビューのための送信、承認のための送信などです。
- **開始状態。** ステップによってアセットが移動される前の状態です。ステップに**開始状態**がない場合、それはワークフロー・プロセスを開始する開始ステップです。**開始状態**は、開始ステップ以外の各ステップに必要です。
- **終了状態。** ステップによってアセットが移動された後の状態です。ステップに**終了状態**がない場合、それはワークフロー・プロセスを終了する終了ステップです。
- ステップに対してどのロールが認可されるのか。

これが最初のステップである場合、指定するロールによって、アセットに対してこのワークフローを選択できるユーザーが決定されます。スタート・メニュー・アイテムを使用して、アセットにワークフロー・プロセスを割り当てる場合、この最初の (開始) ステップに割り当てるロールが、スタート・メニュー・アイテムに割り当てられているロールに必ず一致するようにしてください。

最初の (開始) ステップの後の後続のステップについては、選択したロールは、前のステップによって通知されるように選択されたロールに一致するかそのロールのサブセットである必要があります。それ以外の場合、そのアセットに割り当てられている誰もそれを次の状態に移動することを許可されていないため、そのアセットはその状態から移動できません。

- そのアセットを次に (つまり、このステップが完了したときに) 取得するのは誰か。次の割当て方法の1つを選択することで終了状態の割当て先を指定します。
  - 割り当てられたユーザーを「開始状態」に維持。

このオプションは、その現在の割当て先 (このステップを完了するユーザー) にアセットを割り当てます。

このオプションは、同じ状態に戻る (反復状態を作成する) ステップを作成する場合、またはそれが開始ステップであり、そのアセットを (スタート・メニュー・アイテムを使用するか、「ステータス」フォームでそれを選択することによって) ワークフロー・プロセスを選択した人に割り当てる場合に便利です。
  - 割当てなし、機能権限を使用したアクションの制御。

このオプションは、ワークフロー・プロセス内にアセットを保持します。つまり、機能権限が適用されますが、アセットは実際は誰にも割り当てられません。

### 注意

アセットが現在の割当て先に割り当てられているとき(「割り当てられたユーザーを「開始状態」に維持」オプション)または誰にも割り当てられていないとき(「割当てがありません」オプション)、ワークフロー・システムによってそのステップのワークフロー履歴が記録されます。

- 参加者リストからの割当て。  
このオプションでロールを選択します。ユーザーがアセットにワークフロー・プロセスを割り当てると、選択したロールを持つユーザーのリストが表示されます。ユーザーがリストから1人以上のユーザーを選択すると、このステップによってアセットが移動された先の状態になったときにそれらのユーザーにそのアセットが割り当てられます。
- ステップ実行時に割り当てられるユーザーを選択。  
このオプションでもロールを選択します。このオプションは、ワークフロー・プロセス中に(割当てを完了することで)このステップを実行する人が、次にこのアセットが割り当てられるユーザーを、このステップ用に選択されたロールを持つユーザーのリストから選択することを意味します。
- このステップがアセットを移動する先の状態に対する予測時間(割当て期限と呼ぶ)を変更できるかどうか。
- 実行される必要があるすべてのステップ・アクション。
- 評価する必要があるすべてのステップ条件。
- ステップを複数のユーザー(割当て先)が実行できる場合、アセットが次の状態に移動するにはすべての割当て先がこのステップを実行する必要があるかどうか。(「割り当てられたすべてのユーザーが投票する必要あり」フィールド。)
- ステップがデッドロックになる可能性がある場合、どのようなデッドロック・アクションにする必要があるかどうか。
- このプロセスがワークフロー・グループに対して使用される場合、アセットのいずれかが次の状態に移動するには、そのグループ内のすべてのアセットがこのステップを完了する必要があるかどうか。(「ステップをグループ単位で同期」フィールド。)

すべてのサンプル・サイト・ワークフロー・プロセスにサンプル・ステップがあります。サンプル・サイトがインストールされているシステム上で、「ワークフロー」→「プロセス」を選択し、プロセスを調査して、そのサンプル・ワークフロー・ステップがどのように構成されているのかを把握します。

## ステップの計画

ステップをどのようなものにするか決定するときは、次の質問を考慮します。

- すべてのプロセスに開始ステップが必要です。開始ステップを作成する前に、最初にアセットをどのように作成するのかを決定してからワークフローに配置します。

最初の参加者がアセットを作成し、それをワークフローに配置し、そしてそのアセットの作業を続けますか。その場合は、開始ステップを実行する人にそのステップが割り当てられるようにステップを構成(「**割り当てられたユーザーを「開始状態」に維持**」オプションを選択)し、デフォルトでそのアセットにそのワークフローを割り当てるスタート・メニュー・アイテムを必ず作成します。

または、スーパーバイザがアセットを作成し、それを参加者に割り当てますか。その場合は、開始ステップを実行する人が割り当て先を選択する必要があるように開始ステップを構成します。

- 状態の順序はどのようにしますか。
- 各状態の間に必要なパスの数はいくつですか。この答えによって必要なステップ数が決定します。
- 反復状態を作成する必要がありますか。その場合は、ステップを実行している人にそれが割り当てられるように、その状態にアセットを戻すステップを構成します(「**割り当てられたユーザーを「開始状態」に維持**」オプションを選択します)。
- 複数の人がそのアセットに対して作業している状態からアセットを移動するステップの場合に、ステップを実行する前に、それらの参加者全員が彼らの割り当てを完了する必要がありますか。その場合は、すべて投票ステップになるようにそのステップを構成します。
- アセットに、1つの状態から実行可能なパスが複数ありますか。(つまり、同じ開始状態を持つ複数のステップにする必要がありますか。)その必要がある場合、その状態からのいずれかのステップで、そのアセットが進む前にすべての参加者が同じように投票する必要がありますか。その場合は、すべての参加者が同じように投票することを必要とするステップは、その状態から導かれるステップのうちの1つのみになるようにプロセスを設計してください。同じ状態からのすべて投票ステップが2つあると、デッドロックが発生する可能性があります。
- ステップごとに、ステップが完了してアセットが次の状態に進むときに、影響を受ける参加者に WebCenter Sites から通知する必要がありますか。その必要がある場合、そのステップでどのステップ・アクション(これにより電子メール・メッセージが決定される)を使用する必要がありますか。
- 関連付けられたアセットのグループは同時に作業する必要がありますか。その場合、1つのアセットとアセットのグループの両方に対して適切に機能するようにステップを構成できますか。できない場合、ワークフロー・グループに対して個別のワークフロー・プロセスを作成します。
- ワークフロー・グループに対して、そのグループ内のすべてのアセットが、同時に入る必要がある状態がありますか。(すべてのアセットが同時に承認される必要があるなど。)その場合は、同期ステップになるようにそのステップを構成します。ワークフロー・プロセスごとに同期ステップを1つのみ持つようにすることをお勧めします。
- 結局、アセットをパブリッシュしないことに決定した場合、そのアセットはどのようになりますか。取消しステップを設定する必要がありますか。必要な取消しステップの数はいくつですか。

ワークフロー・プロセスのスケッチで、ステップを表すボックスの右横に、ステップ・アクション、そのステップを実行できるロール、ステップが実行される時に通知される必要があるロール、ステップがすべて投票ステップであるかどうか、およびステップが同期ステップであるかどうかをリストします。

## VI. 機能権限の決定

管理者は、指定のサイトに対して機能（作成や編集など）を使用する権限をロールに付与または拒否します。権限が付与されると、それらのロールを持つサイト・ユーザーにその機能が表示されます。ユーザーは、アセットが権限によって指定されている状態になったときに、その機能呼び出すことができます。（デフォルトでは、機能権限は、指定のサイトのすべてのロールに付与されています。）

機能権限は、必要に応じてワークフロー・プロセスの機能ごとに設定できます。機能権限の設定の詳細は、[219 ページ](#)（「[手順 E: \(オプション\) 機能権限の構成](#)」）に記載されています。

次の表に、ワークフロー・プロセス中の実行をユーザーに許可または拒否できる機能をリストします。

機能	機能権限が付与されている場合
投票の棄権	ユーザーは、ワークフロー・ステップで投票しないことを選択できます。 「ステータス」フォームの「ワークフロー・コマンド」ドロップダウン・リストにオプションとして表示されます。
パブリッシュの承認	ユーザーは、アセットをパブリッシュ用に承認済としてマークできます。 アセットの「調査」および「ステータス」フォームの「詳細」ドロップダウン・メニューのオプションとして表示されます。
認可	ユーザーは、アセットに権限を構成できます。
作成	ユーザーは、コレクション・アセットを作成できます。 アセットの「調査」および「ステータス」フォームの「詳細」ドロップダウン・メニューのオプションとして表示されます。
チェックアウト	ユーザーは、そのアセット・タイプに対してリビジョン追跡が有効化されているかぎり、アセットをチェックアウトできます。 アセットの「編集」および「ステータス」フォームの最上部にある「チェックアウト」ボタンとして表示されます。

機能	機能権限が付与されている場合
コピー	ユーザーは、アセットをコピーできます。 アセットの「調査」および「ステータス」フォームの「詳細」ドロップダウン・メニューのオプションとして表示されます。
割当ての委任	ユーザーは、アセット（自分自身に割当て済）を別のユーザー（アセットがその状態にある間そのアセットに対して適切なロールを持っている）に委任できます。 「ステータス」フォームの「ワークフロー・コマンド」ドロップダウン・リストにオプションとして表示されます。
削除	ユーザーは、アセットを削除できます。 アセットの「調査」および「ステータス」フォームのアクション・バーにあるアイコンとして表示されます。リスト内のアセットの横にあるアイコンとしても表示されます。
編集	ユーザーは、「編集」フォームでアセットを開くことができます。 アセットの「調査」および「ステータス」フォームのアクション・バーにあるアイコンとして表示されます。リスト内のアセットの横にあるアイコンとしても表示されます。
調査	ユーザーは、「調査」フォームでアセットを開くことができます。 <b>注意：</b> アセットを調査する権限のないユーザーは、そのアセット・タイプに特有のデータを表示できません。かわりに、標準の無制限のフィールド（名前、説明、ID など）のみを表示する「調査」フォームの制限されたバージョンが表示されます。
翻訳のルートの作成	ユーザーは、アセットを翻訳のマスター・アセットとして設定できます。（多言語アセットにより使用されます。） 多言語アセットの「調査」フォームの「翻訳」フィールドの「マスターの作成」リンクとして表示されます。
ページの配置	ユーザーは「サイト・プラン」タブでページを配置できます。 ユーザーが「配置済ページ」を右クリックしたときに、「サイト・プラン」タブの右マウス・メニューのオプションとして表示されます。
プレビュー	ユーザーは、そのページのコンテキストでアセットを表示できます。 アセットのツールバーの「プレビュー」アイコンとして表示されます。



機能	機能権限が付与されている場合
グループからの除去	<p>ユーザーは、ワークフロー・グループからアセットを削除できます。</p> <p>「ステータス」フォームの「ワークフロー・コマンド」ドロップダウン・リストにオプションとして表示されます。</p>
ワークフローからの除去	<p>ユーザーは、ワークフロー・プロセスからアセットを削除できます。</p> <p>「ステータス」フォームの「ワークフロー・コマンド」ドロップダウン・リストにオプションとして表示されます。</p>
ロールバック	<p>ユーザーは、アセットを以前のバージョン(すべてリビジョン追跡システムに格納されている)のいずれかに戻すことができます。</p> <p><b>注意:</b> この機能は、リビジョン追跡が有効化されており、少なくともそのアセットの2つのバージョンが存在している場合に、アセットの「編集」および「ステータス」フォームの最上部にある「ロールバック」ボタンとして表示されます。</p>
エクスポート先パス / ファイル名の設定	<p>ユーザーは、アセットの「新規」および「編集」フォームの「パス」および「ファイル名」フィールドに入力できます。</p>
参加者の設定	<p>ユーザーは、ワークフロー・プロセスの参加者を設定できます。</p> <p>「ステータス」フォームの「ワークフロー・コマンド」ドロップダウン・リストにオプションとして表示されます。</p> <p>さらに、この機能によって、ワークフロー・プロセスが構成されたときにユーザーは参加者を選択するように要求されます。このようにして、割当てを終了するユーザーは、次の参加者(そのアセットを割り当てられる人)を選択する必要があります。</p>
プロセスの期限の設定	<p>ユーザーは、それまでにワークフロー・プロセスを完了する必要がある日付と時刻を示す期限を設定できます。</p> <p><b>注意:</b> この機能は、ワークフローが、そのユーザーにプロセス期限の設定を許可するように構成されている場合にのみ表示されます。その場合、この機能は、アセットの「ワークフローの選択」フォームのオプションとして、およびワークフロー・グループが作成または編集されるときに表示されます。</p>

機能	機能権限が付与されている場合
割当て期限の設定	<p>ユーザーは、それまでに次の状態を完了する必要がある日付と時刻を示す期限を設定できます。このオプションで設定される期限によって、そのワークフロー・プロセスでその状態に対して設定されている期限はすべてオーバーライドされます。</p> <p><b>注意：</b>この機能は、ワークフローが、そのユーザーに割当て期限の設定を許可するように構成されている場合にのみ表示されます。この機能は、アセットの「ワークフローの選択」フォームおよび「割当ての終了」フォームのオプションとして表示されます。</p>
共有アセット	<p>ユーザーは、別の CM サイトとアセットを共有できます。</p> <p>アセット・タイプが複数の CM サイトに対して有効化されている場合に、アセットの「編集」、「調査」および「ステータス」フォームの「詳細」ドロップダウン・メニューの「共有アセット」オプションとして表示されます。</p>
参加者の表示	<p>ユーザーは、現在アセットに割り当てられているワークフロー・プロセスの参加者のリストを表示できます。</p> <p>「ステータス」フォームの「ワークフロー・コマンド」ドロップダウン・リストにオプションとして表示されます。</p>
ステータスの表示	<p>ユーザーは、アセットの「ステータス」フォームを表示できます。</p> <p>アセットの「調査」および「ステータス」フォームの「詳細」ドロップダウン・メニューのオプションとして表示されます。</p>
バージョンの表示	<p>ユーザーは、リビジョン追跡システムに格納されているアセットの各バージョンに関する情報を表示できます。</p> <p>リビジョン追跡がこのアセット・タイプに対して有効化されている場合、アセットの「編集」および「ステータス」フォームの最上部にある「バージョンの表示」ボタンとして表示されます。</p>
ネスト・ワークフローの設定	<p>ユーザーは、既存のワークフロー内にワークフローを作成できます。</p> <p><b>注意：</b>管理者のインタフェースではネスト・ワークフローはサポートされていませんが、機能はタグの使用により取得できます。</p>
翻訳	<p>ユーザーは、マスター・アセットの翻訳を作成できます。(多言語アセットにより使用されます。)</p> <p>「編集」、「調査」および「ステータス」フォームの多言語アセットの「詳細」ドロップダウン・メニューのオプションとして表示されます。</p>

## 機能権限の計画

ワークフロー・プロセスごとに、アクセスを制限する機能、それらの機能を制限する期間となる状態、ロールに割り当てられているアセットがそれらの状態にあるときにそれらの機能にアクセスできるまたはできないロールを決定します。

ワークフロー・プロセスのスキッチの適切な状態の横に、適用する制限をすべてリストします。

機能権限で目的の制限を適用するには、機能権限で状態に対して指定されているユーザーのロールが、ワークフロー・プロセス自体でそれらの状態と関連付けられているユーザーのロールに一致している必要があることに留意してください。それらのロールが一致しない場合、誰もそのアセットを状態から移動できない状況になる可能性があります。これは、権限によってそのアセットの作業を許可されているユーザーが、状態によってそれを許可されないためです。

また、特定のロールに対して機能へのアクセスを許可または制限する機能権限を1つでも作成する場合は、その機能に対して他のすべてのロールを対象とする機能権限を作成する必要があることに留意してください。

## 単純化されたアクセス制御の実装

機能権限は、ワークフロー・プロセスと関連付けられているため、アセットがワークフロー・プロセスに参加している場合にのみ、個々のユーザーのアクセスを特定の機能に制限できます。

ワークフロー・プロセスの設計および実装は行わないが、特定の機能に対するアクセス制御が必要な場合は何ができるでしょうか。1つの状態を持つ単純化されたワークフロー・プロセスを作成し、「**割当てなし、機能権限を使用したアクションの制御**」割当て方法を使用します。

ステップによって、「**割当てがありません**」の割当て方法を使用して、アセットをある状態に移動する場合、そのアセットは誰の割当てリストにも表示されません。単にその状態に留まり、それは、その状態に割り当てられている機能権限があればそれが適用されることを意味します。

この方法でアクセス制御を実装するには、次の一般的な手順に従ってください。

1. 状態を作成します。状態には名前と説明が必要です。期限や時間指定アクションは必要ありません。
2. 新しいワークフロー・プロセスを作成します。制限を適用するすべてのロールと、このワークフロー・プロセスを使用するすべてのアセット・タイプを選択します。
3. 1つのステップ(それらのタイプのアセットをその状態に入れる開始ステップ)を作成します。そのステップに対して、「**割当てがありません**」オプションを選択します。このタイプのアセットを作成できるようにして、かつこのワークフローの割当て先となるロールに対してそのステップを有効化します。
4. 作成したその状態のアセットに対して適用する機能権限を構成します。
5. そのアセット・タイプに対してこのワークフロー・プロセスを自動的に割り当てるスタート・メニュー・アイテムを作成します。スタート・メニュー・アイテムを使用できるロールが、ワークフロー・プロセスの開始ステップに割り当てられているロールと一致することを確認します。

これで、ユーザーが「新規」を選択し、アセット・タイプを選択すると、新しいアセットが自動的に単一状態ワークフローに入れられます。このワークフローにあるのは、そのタイプのすべてのアセットを単一の状態に配置する開始ステップのみであるため、これらのアセットはその状態から移動することではなく、機能権限が常に適用されます。

## VII. 追加のワークフロー・プロセスの詳細の決定

ワークフロー・プロセスをスケッチし、アクション、条件、電子メール・メッセージ、状態、ステップ、および機能権限に関するすべての詳細を書き込んでいた場合、この時点までにワークフロー・プロセスの設計のほぼすべてを計画済です。

プロセスを作成するときの主要なタスクは、状態をつなぎ合わせるステップ（これがビジネス・プロセスを表す方法です）を作成することですが、ワークフロー・プロセスごとに次の種類の情報を指定することも必要です。

- その名前と説明。名前は内容を説明するものにして、ユーザーが適切なアセット・タイプに対して適切なワークフロー・プロセスを選択するようする必要があります。
- どのサイトがそのプロセスを使用できるのか。
- どのアセット・タイプがそのプロセスを使用できるのか。
- どのロールが参加できるのか。これは、ステップ内で指定されているすべてのロールのスーパーセットです。
- どのロールがワークフローの管理者の役割を果たすのか。ワークフロー管理者は、他の参加者のかわりに割当てを委任できます。
- プロセス期限を、このワークフロー・プロセスに参加するアセットに対して設定可能かどうか。
- 委任アクションは何か。
- ステップは何か。ステップごとに、192 ページの「V. ステップの決定」の項で説明する情報を指定します。
- 特定のロールのユーザーが特定の状態のアセットに作業する間、Sites のコンテンツ・アプリケーション機能のいずれかを彼らのみが実行できるように限定する必要があるかどうか。機能権限については、195 ページの「VI. 機能権限の決定」で説明する情報を指定します。

すべてのサンプル・サイトでサンプル・ワークフロー・プロセスが提供されています。それらは、次の項で詳しく説明します。

## ワークフロー・プロセスの構成

この項では、ワークフロー・プロセスのすべてのコンポーネントを作成する手順と、それらのコンポーネントをつなぎ合わせてワークフロー・プロセスにする手順について説明します。

電子メール・オブジェクト、アクション、および条件を作成したり、時間指定アクション・イベントをスケジュールするには、「管理」タブへのアクセス、つまり、GeneralAdmin ロールと xceladmin ACL が必要なことを忘れてないください。ワークフロー状態およびワークフロー・プロセスを作成するには、「ワー

クフロー」タブへのアクセスが必要です。つまり、WorkflowAdmin ロールが必要です。

## 概要

ワークフロー・プロセスを作成する前に、そのプロセスに必要な個々のワークフロー・プロセスを作成する必要があります。次に、実行する必要がある一般的な手順をその実行順に示します。

1. ワークフロー・プロセスを図に描いて計画します。この手順は、[181 ページの「ワークフロー・プロセスの計画」](#)の項を参照してください。描いた図やメモは、この項を通して参照してください。
2. ワークフロー・プロセスに必要なロールを作成します。この手順は、[第4章「ACL およびロールの使用」](#)を参照してください。ワークフローに参加するユーザーに、ユーザー・プロファイルが作成されていることを確認します。作成されていない場合、ワークフロー・プロセスからの電子メール・メッセージを受信できません。

### 注意

アセットを共有するすべてのサイトの人々を、ワークフローの参加者となる候補のユーザーのプールに含める場合、サイト間割当て機能を有効化してください。詳細は、[183 ページの「サイト間の割当てと参加者」](#)を参照してください。

3. アクションに必要な電子メール・オブジェクトを作成し、futuretense\_xcel.ini ファイルの xcelerate.emailnotification プロパティを有効化します。[202 ページの「電子メール・オブジェクトの設定」](#)を参照してください。
4. 必要なステップ・アクション、時間指定アクション、デッドロック・アクション、グループ・デッドロック・アクションおよび委任アクションを作成します。[204 ページの「ワークフロー・アクションと条件の設定」](#)を参照してください。
5. 状態を作成します。[209 ページの「状態の設定」](#)を参照してください。
6. プロセスを作成します。ワークフロー・プロセスを作成しながら、そのプロセスの手順を作成します。状態が適切な順序で発生するように、手順でこれらの状態を結合します。さらに、プロセスの作成の際、必要な機能の権限も構成します。[212 ページの「ワークフロー・プロセスの設定」](#)
7. 状態に期限がある場合は、アセットの期限を定期的に計算して、適切な時間指定アクションがあれば、これをタイムリーに起動するように、時間指定アクション・イベントを構成します。[207 ページの「時間指定アクション・イベントの設定」](#)
8. ワークフロー・プロセスをテストします。[224 ページの「ワークフロー・プロセスのテスト」](#)を参照してください。
9. 作成したワークフロー・プロセスが自動的にアセットに割り当てられるように、スタート・メニュー・ショートカットを設定します。スタート・メニュー・アイテムの詳細は、[140 ページの「スタート・メニュー・アイテムの作成」](#)を参照してください。

## 電子メール・オブジェクトの設定

電子メール・オブジェクトを作成し、ステップ・アクションおよび時間指定アクションからそれらを適切なときに適切な参加者に送信できるようにします。ワークフロー・プロセスのスケッチを調査し、必要な電子メール・メッセージを特定し、この項の手順を使用してそれらを作成および編集します。

電子メール・オブジェクトを作成するには、自身のユーザー・アカウントに「管理」タブへのアクセス権がある必要があります。

## 電子メール機能の有効化

ワークフロー・プロセスで電子メール・メッセージを正常に送信できるようにするには、次の条件を満たす必要があります。

- `futuretense.ini` ファイルで、「**電子メール**」タブのプロパティを構成し、使用している電子メール・サーバーに関する情報を提供するようにする必要があります。
- `futuretense_xcel.ini` ファイルで、`xcelerate.emailnotification` プロパティを `true` に設定する必要があります。

前述のプロパティおよびプロパティ・エディタの使用法の詳細は、[プロパティ・ファイル・リファレンス](#)を参照してください。

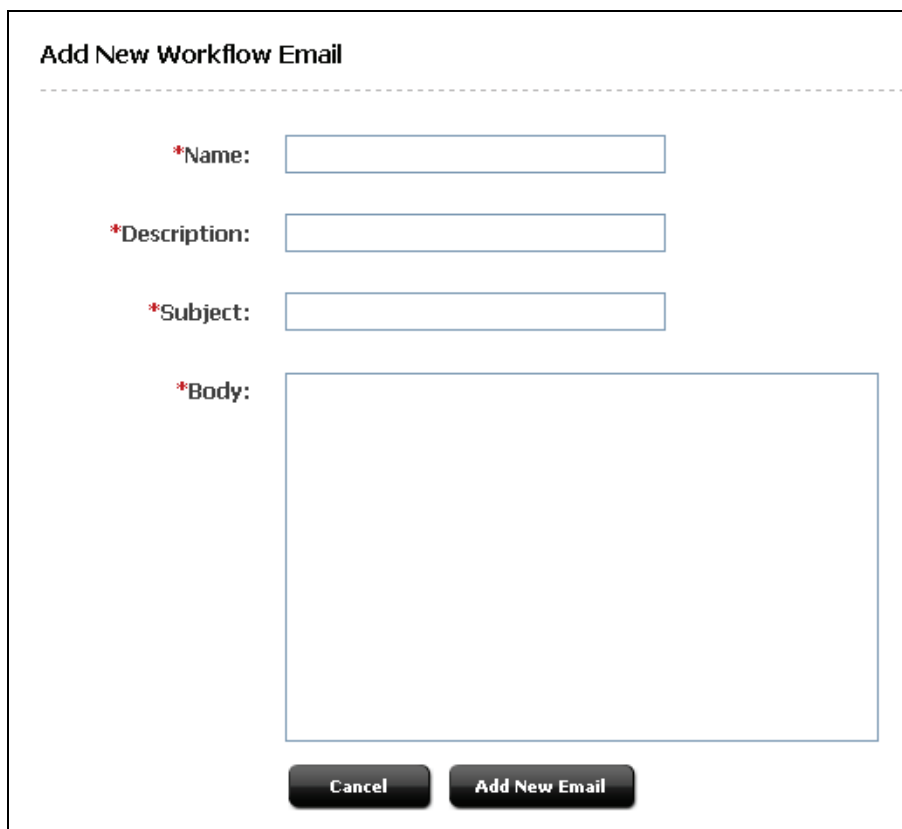
- ワークフロー参加者は、彼らのユーザー・プロファイルに電子メール・アドレスが指定されている必要があります。(ユーザー・プロファイルの作成の詳細は、[105 ページの「ユーザー・プロファイルとユーザー属性の操作」](#)を参照してください。)

## 電子メール・オブジェクトの作成

電子メール・オブジェクトを作成するには：

1. 「管理」タブで、「電子メール」を開き、「新規追加」をダブルクリックします。

WebCenter Sites に「新規ワークフロー電子メールの追加」フォームが表示されます。



2. 「名前」フィールドに、最大 36 文字の一意の名前を入力します。これは、この電子メール・オブジェクトをアクションで使用するときに emailname 変数に指定する名前です。
3. 「説明」フィールドに、最大 36 文字で短い説明を入力します。
4. 「件名」フィールドに、電子メール・メッセージの情報を伝える短い件名を入力します。(使用できる変数のリストは、[184 ページの「電子メール・オブジェクトについて」](#)を参照してください。)
5. 「本文」フィールドに、そのメッセージのテキストを入力します。(使用できる変数のリストは [184 ページの「電子メール・オブジェクトについて」](#)を参照してください。)
6. 「保存」をクリックします。

## 電子メール・オブジェクトの編集

電子メール・オブジェクトを編集するには：

1. 「管理」タブで、「電子メール」を開き、目的の電子メール・オブジェクトをダブルクリックします。
2. アクション・バーで、「編集」をクリックします。



3. 「ワークフロー電子メールの編集」フォームで必要な変更を行います。(使用できる変数のリストは、[184 ページの「電子メール・オブジェクトについて」](#)を参照してください。)
4. 「保存」をクリックします。

## 電子メール・オブジェクトの削除

電子メール・オブジェクトを削除するには：

1. 「管理」タブで、「電子メール」を開き、目的の電子メール・オブジェクトをダブルクリックします。
2. アクション・バーで、「削除」をクリックします。  
WebCenter Sites に警告メッセージが表示されます。
3. 「電子メールの削除」をクリックします。

## ワークフロー・アクションと条件の設定

いずれかの種類のアクションまたはステップ条件を作成する場合、エレメントを特定し、そのエレメントが取る変数の値を提供します。電子メール・メッセージを送信するアクションを作成している場合、emailname 変数でどの電子メール・オブジェクトを送信するのか特定します。

アクションまたはステップ条件の作成を開始する前に、必要なエレメントおよび電子メール・オブジェクトが揃っていることを確認します。WebCenter Sites には、いくつかのデフォルトのアクション・エレメントおよび電子メール・オブジェクトが用意されています。管理者のインタフェースを使用して、電子メール・オブジェクトを調査し、WebCenter Sites Explorer を使用して、ElementCatalog 表を調査します。どのエレメントを使用する予定であるのか決定し、それらのエレメントの名前全体を書き留めます。追加の電子メール・メッセージが必要である場合、前の項の [202 ページの「電子メール・オブジェクトの設定」](#)を参照し、必要な電子メール・メッセージを作成します。

次の手順は、ワークフロー・アクション(ステップ、時間指定、委任、デッドロック、およびグループ・デッドロックのアクション)およびステップ条件を作成、編集、および削除する方法を説明しています。アクションまたは条件を作成するには、自身のユーザー・アカウントに「管理」タブへのアクセス権があることが必要です。

## ワークフロー・アクションと条件の作成

ワークフロー・アクションおよび条件を作成するには：

1. 「管理」タブで、「ワークフロー・アクション」を開きます。
2. 「ワークフロー・アクション」の下で、作成するアクションを示すカテゴリを開き、「新規追加」をダブルクリックします。

使用可能なカテゴリは、「ステップ・アクション」、「ステップ条件」、「時間指定アクション」、「委任アクション」、「デッドロック・アクション」または「グループ・デッドロック時のアクション」です。



WebCenter Sites によって、選択したアクションのタイプに対応した「新規追加」フォームが表示されます。次の例は、「新規ステップ・アクションの追加」フォームを示しています。

**Add New Step Action**

---

**\*Name:**

**\*Description:**

**\*Element Name:**

**Arguments:**

Cancel

Add New Action

3. 「名前」フィールドに、最大 40 文字の一意の名前を入力します。
4. 「説明」フィールドに、最大 40 文字で短い説明を入力します。

5. 「エレメント名」フィールドに、エレメントの完全な名前を入力します。

たとえば、デフォルト・ワークフロー・エレメント `SendEmailToAssignees` を使用するには、次のように入力します。

```
OpenMarket/Xcelerate/Actions/Workflow/StepActions/  
SendEmailToAssignees
```

6. 「引数」フィールドに、次の表記規則を使用して、そのエレメントが適切に機能するために必要な引数または変数の値を指定します。

***name=value***

たとえば、`SendEmailToAssignees` エレメントの場合は、`emailname` 変数の値（つまり、電子メール・オブジェクトの名前）を指定する必要があります。次に例を示します。

```
emailname=AssignmentDueReminder
```

エレメントが複数の変数を取る場合は、名前と値のペアをアンパサンド (&) 文字で区切ります。次に例を示します。

```
name1=value1&name2=value2
```

7. 「新規アクションの追加」をクリックします。

## パブリッシュの承認ステップ・アクションの構成

承認プロセスによって、特定のパブリッシュの宛先に対してアセットが承認されます。ワークフロー・プロセスでデフォルトのパブリッシュの承認ステップ・アクションを使用するには、そのアクションによって承認されるアセットのパブリッシュの宛先を指定します。

すべてのワークフロー・プロセスのすべてのアセットが同じ宛先にパブリッシュされる場合、単に既存のパブリッシュの承認アクションを構成できます。ただし、いくつかのタイプのアセットが、他のものと異なる宛先にパブリッシュされる場合、パブリッシュの宛先ごとまたはパブリッシュの宛先の組合せごとに追加のパブリッシュの承認アクションを作成する必要があります。

パブリッシュの承認ステップ・アクションは、`targets` 変数を取る

```
OpenMarket/Xcelerate/Actions/Workflow/StepActions/
```

`ApproveForPublish` エレメントを使用します。この同じエレメントを、必要な数の追加の承認ステップ・アクションで使用できます。

デフォルトのパブリッシュの承認ステップ・アクションの場合は、`targets` 変数の値を指定します。`targets` 変数がかかることができる値は、この `Sites` システム上に作成済のいずれかのパブリッシュの宛先の名前です。

次に例を示します。

```
targets=serverX
```

複数のパブリッシュの宛先を指定するには、それぞれをカンマで区切ります。次に例を示します。

```
targets=serverX,serverY
```

#### 注意

targets 変数によって参照されるパブリッシュの宛先の名前が変更された場合、パブリッシュの承認ステップの targets 変数の値も変更する必要があります。

## ワークフロー・アクションと条件の編集

ワークフロー・アクションおよび条件を編集するには：

1. 「管理」タブで、「ワークフロー・アクション」を開きます。
2. 「ワークフロー・アクション」の下で、編集するアクションを示すカテゴリを開きます。  
使用可能なカテゴリは、「ステップ・アクション」、「ステップ条件」、「時間指定アクション」、「委任アクション」、「デッドロック・アクション」または「グループ・デッドロック時のアクション」です。
3. 選択したカテゴリの下で、編集するアクションをダブルクリックします。
4. アクション・バーで、「編集」をクリックします。
5. 変更を行い、「保存」をクリックします。

## ワークフロー・アクションと条件の削除

ワークフロー・アクションおよび条件を削除するには：

1. 「管理」タブで、「ワークフロー・アクション」を開きます。
2. 「ワークフロー・アクション」の下で、削除するアクションを示すカテゴリを開きます。  
使用可能なカテゴリは、「ステップ・アクション」、「ステップ条件」、「時間指定アクション」、「委任アクション」、「デッドロック・アクション」または「グループ・デッドロック時のアクション」です。
3. 選択したカテゴリの下で、削除するアクションをダブルクリックします。
4. アクション・バーで、「削除」をクリックします。  
WebCenter Sites に警告メッセージが表示されます。
5. 「アクションの削除」をクリックします。

## 時間指定アクション・イベントの設定

時間指定アクションをトリガーできるようにするには、その前に、通常の発生間隔で期限を計算するように時間指定アクション・イベントを構成する必要があります。

ます。時間指定アクションは Sites システムごとに 1 つのみ設定できることに注意してください。

### 時間指定アクション・イベントを設定するには：

1. 「管理」タブで、「時間指定アクション・イベント」をダブルクリックします。
2. アクション・バーで、「編集」をクリックします。

WebCenter Sites に「時間指定ワークフロー・アクション・イベントの編集」フォームが表示されます。

Edit Workflow Timed Action Event

Hours: All

Minutes: Every 5 Minutes of each selected hour

Dates: All

Days: All

Months: Monthly

☐ Enabled ☒ Disabled

Recurrence Pattern

Days of the week  Days of the month  Months

Select: All | None

Sunday

Monday

Tuesday

Wednesday

Thursday

Friday

Saturday

Information:

Event will run only on the selected days of the selected months.

Note: Selecting none and selecting all both have the same effect on the schedule.

Times of Recurrence

Hours

12

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

AM

12

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

PM

Minutes

0

5

10

15

20

25

30

35

40

45

50

55

Information:

Event will run only on the selected minutes during the selected hours.

Cancel

Save

3. 選択した間隔に応じて、月数、日数、時間数、分数で状態の期限を計算する頻度のスケジュールを設定します。

選択した値が青で強調表示されます。すべての値は個別に切り替わるため、**[Ctrl]** キーを使用して複数の値を選択する必要はありません。

時間指定アクション・イベントの設定方法は、パブリケーション・イベントの設定方法と似ています。詳細は、[367 ページの「スケジュールの例」](#)を参照してください。

4. 「有効な日時」フィールドで「有効」を選択します。
5. 「保存」をクリックします。

スケジュールのサマリーが表示されます。

WebCenter Sites では、時間指定アクション・イベントのスケジュールのサマリーに、パブリッシュ・イベントと同じ略称およびコードを使用します。スケジュールの読取り方法の詳細は、[369 ページの「スケジュールの略称の読取り」](#)を参照してください。

## 状態の設定

ワークフロー状態を作成する場合、期限を指定し、時間指定アクションを選択し、その時間指定アクションを実行するタイミングを構成します。したがって、ワークフロー状態の作成を開始する前に、必要な時間指定アクションを作成済であることを確認します。

ワークフロー状態を操作するには、操作しているサイトに対する WorkflowAdmin ロールが自身のユーザー名に割り当てられていることが必要です。

## ワークフロー状態の作成

ワークフロー状態を作成するには：

1. 「ワークフロー」 タブで、「状態」を開き、「新規追加」をダブルクリックします。

WebCenter Sites に「新規ワークフロー状態の追加」フォームが表示されます。

The screenshot shows a web form titled "Add New Workflow State". It contains the following elements:

- A title bar with the text "Add New Workflow State".
- A dashed horizontal line below the title bar.
- Four input fields:
  - \*Name: (text input)
  - \*Description: (text input)
  - Estimated Time: (with sub-inputs for "00 days" and "0 hours")
  - Timed Actions: (with a button "Add Timed Actions...")
- Two buttons at the bottom: "Cancel" and "Add New State".

2. 「名前」フィールドに、最大 40 文字の意味のある一意の名前を入力します。
3. 「説明」フィールドに、最大 40 文字で短い説明を入力します。
4. (オプション) 「予測時間」フィールドで、この状態のアセットの期限を構成します。期限は、日数、時間数、およびそれら 2 つの組合せで指定できます。

5. (オプション)「時間指定アクションの追加」をクリックし、次の手順を実行します。

**Add Timed Action to Workflow State: Workflow for Flex Assets**

---

**Name:** Flex Workflow

**Description:** Workflow for Flex Assets

**Estimated Time:** 10days:0hours

**\*Add Timed Action:**

Action to Take	Days	Hours	Offset
SendEmail	00	0	Before Deadline After Deadline

Cancel Add Timed Action

- 「実行するアクション」リストで、時間指定アクションを選択します。
  - 「オフセット」フィールドに、そのアクションを期限の前と後のどちらでトリガーするのかを指定します。
  - 「日間」フィールドまたは「時間」フィールド、あるいはその両方に、アクションをトリガーする期限(手順5で指定)の前または後の時間数または日数を指定します。
  - 「時間指定アクションの追加」をクリックします。
  - この状態に対して設定する時間指定アクションごとにこの手順全体を繰り返します。
6. 「新規状態の追加」をクリックします。

## ワークフロー状態の編集

ワークフロー状態を編集するには：

1. 「ワークフロー」タブで、「状態」を開き、編集する状態をダブルクリックします。
2. アクション・バーで、「編集」をクリックします。
3. 「編集」フォームで、目的の変更を行います。
4. (オプション) 時間指定アクションまたはそれを実行するようにスケジュールされた時間を変更するには、「時間指定アクションの追加」をクリックし、適切な変更を行い、「時間指定アクションの追加」を再度クリックします。
5. 「保存」をクリックします。

## ワークフロー状態の削除

ワークフロー状態を削除するには：

1. 「ワークフロー」タブで、「状態」を開き、削除する状態をダブルクリックします。
2. アクション・バーで、「削除」をクリックします。
3. WebCenter Sites に警告メッセージが表示されます。
4. 「状態の削除」をクリックします。

## ワークフロー・プロセスの設定

ワークフロー・プロセスを作成するときは、グローバル・プロセス情報を指定し、次にステップを作成し、ステップ・アクションを必要に応じてそれらに割り当てます。プロセス内のステップによって、状態が特定の順序でつなが合わされ、プロセスのフローが作成されます。

ワークフロー・プロセスの作成を開始する前に、ステップ・アクション、ステップ条件 (必要な場合)、および状態を作成しておく必要があります。

ワークフロー・プロセスを操作するには、操作しているサイトに対する WorkflowAdmin ロールが自身のユーザー名に割り当てられていることが必要です。

### 注意

コンテンツ・プロバイダがワークフロー・グループを使用する場合は、必ずそのグループに対して「ワークフロー・グループ」タブを有効にしてください。詳細は、[165 ページの「ワークフロー・グループ」タブの作成](#)を参照してください。

## ワークフロー・プロセスの作成

ワークフロー・プロセスを作成する場合は、グローバル・プロセス設定、ステップ、および機能権限の3つのカテゴリの情報を構成します。

### 手順 A: プロセスの名前付けおよびグローバル設定の設定

1. 「ワークフロー」タブで、「プロセス」を開き、「新規追加」をダブルクリックします。



WebCenter Sites にワークフロー・プロセス : ( 新規 ) フォームが表示されます。

**Workflow Process: (new)**

**\*Process Name:**

**\*Description:**

**\*Site:**

Any  
GE Lighting  
BurlingtonFinancial  
HelloAssetWorld

**\*Asset Type:**

Any  
Article Flex  
Image Flex  
Recommendation  
Article

**\*Roles:**

AdvancedUser  
Analyst  
Analytics  
Approver  
ArtworkAuthor

**\*Start Step:**

No process steps are currently defined.  
**Add New Step**

**Administration Roles:**

Any  
AdvancedUser  
Analyst  
Analytics  
Approver

**Process Deadline:**

☐ allowed  
☒ not allowed

**Delegate Actions:**

No delegate actions are currently defined.

**ID:**

(new)

**Cancel**

**Save**

2. 「名前」フィールドに、最大 25 文字の一意の名前を入力します。
3. 「説明」フィールドに、最大 64 文字で短い説明を入力します。
4. 「サイト」リストで、このワークフロー・プロセスを使用できるサイトを選択します。
5. 「アセット・タイプ」リストで、このワークフロー・プロセスの対象となるアセット・タイプを 1 つ以上選択します。
6. 「ロール」リストで、参加するロールを選択します。

7. 「**管理ロール**」リストで、アセットがこのワークフロー・プロセスを使用するときにこのワークフロー・プロセスの管理者として機能できるロールを選択します。
8. 「**プロセスの期限**」セクションで、ワークフロー管理者 (または他のユーザーにそれを許可する機能権限を構成する場合はそのユーザー) が、このワークフロー・プロセスに参加するアセットのプロセス期限を設定できるかどうかを指定します。
9. 1 つ以上の委任アクションを構成済である場合は、「**委任アクション**」リストで適切なアクションを選択します。
10. 「**開始ステップ**」セクションで、「**新規ステップの追加**」をクリックします。  
WebCenter Sites に「新規ワークフロー・プロセス・ステップの追加」フォームが表示されます。

## 手順 B: 開始ステップの作成

**Add New Workflow Process Step**

---

**Process Name:** sales\_workflow

**\*Step Name:**

**\*States:**

**From State**

none - (Start of Workflow)  
FSII: Approved and Locked  
FSII: Ready for Approval  
FSII: Ready to Edit

**To State**

none - (End of Workflow)  
FSII: Approved and Locked  
FSII: Ready for Approval  
FSII: Ready to Edit

**\*Authorized Roles:**

AdvancedUser  
Analytics  
Approver  
ArtworkAuthor

**\*Assignment Method:**

☐ Retain "From State" assignees  
☐ No assignments; control actions with function privileges  
☐ Assign from list of participants  
☐ Choose assignees when step is taken  
☐ Assign to Everyone

(Select Roles)  
Approver  
ArtworkAuthor  
ArtworkEditor

**Assignment Deadline:**

☐ Can change  
☒ Use default

**Step Actions:**

**Available Action(s)**

ApproveForPublish  
NotifyAllParticipants  
SendAssignmentEmail  
SendRejectionEmail  
SendRevisionNoticeEmail

**Selected Action(s)**

▲ ▼

Add Selected Items Remove

**Step Conditions:**

ExampleStepCondition

**Deadlock Actions:** Please add Deadlock Actions to choose from

**Voting:** ☐ All assignees must vote

**Workflow Groups:** ☐ Step is group synchronized

Cancel Save

Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド

1. 「ステップ名」フィールドに、最大 64 文字の意味のある一意の名前を入力します。
2. 次のように状態を構成します。
  - a. 「開始状態」リストで、何も選択しません (ワークフローの開始)。
  - b. 「終了状態」リストで、このワークフロー・プロセスの最初の状態の名前を選択します。
3. 「認可ロール」リストで、このワークフローをアセットに割り当てることによってこのステップの実行を許可されるロールを選択します。
4. 「割当て方法」セクションで、次のオプションのいずれかを選択し、アセットが割り当てられるロールを指定します。
  - 割り当てられたユーザーを「開始状態」に維持: 開始ステップの場合、これは、ワークフローをアセットに割り当てるユーザーにそのアセットが割り当てられることを意味します。
  - 割当てなし、機能権限を使用したアクションの制御
  - 参加者リストからの割当て
  - ステップ実行時に割り当てられるユーザーを選択

「参加者リストからの割当て」または「ステップ実行時に割り当てられるユーザーを選択」のいずれかを選択する場合、これらのオプションの右にあるリストから適切なロールを選択します。(このオプションの定義は 192 ページの「V. ステップの決定」を参照してください。)

  - 全員への割当て
5. 「割当て期限」セクションで、ワークフロー管理者 (または適切な機能権限を持つ別のユーザー) が、このステップがアセットの移動先の状態に対して設定されている予測時間 (期限) をオーバーライドできるかどうかを指定します。
6. (オプション) 「ステップ・アクション」リストで、このステップの実行時に呼び出す必要のある 1 つ以上のステップ・アクションを選択します。
7. (オプション) 「ステップ条件」リストで、必要に応じてステップ条件を選択します。
8. (オプション) 「投票」を選択し、承認するにはすべての割当て先が投票する必要があることを選択します。
9. (オプション) 「ワークフロー・グループ」を選択し、ステップ・グループが同期するようにします。
10. 「保存」をクリックします。

開始ステップが追加され、「ワークフロー・プロセスのステップ」フォームが表示されます。
11. 「保存」をクリックします。

プロセスが保存され、「調査」フォームに表示されます。このステップがフォームに「開始ステップ」として表示されます。
12. 次の手順に進みます。

**手順 C: 後続のステップの作成**

次の手順を使用して、終了ステップを含む残りの後続のステップを作成します。

1. ワークフロー・プロセスの「調査」フォームのアクション・バーで、「編集」をクリックします。
2. 「編集」フォームの下部で、「ステップの追加 / 編集」をクリックします。
3. 「ワークフロー・プロセスのステップ」フォームで、「新規ステップの追加」をクリックします。

WebCenter Sites に「新規ワークフロー・プロセス・ステップの追加」フォームが表示されます。

4. 「ステップ名」フィールドに、最大 64 文字の意味のある一意の名前を入力します。
5. 次のように状態を構成します。
  - a. 「開始状態」リストで、前のステップの「終了状態」として選択された状態の名前を選択します。
  - b. 「終了状態」リストで、このワークフロー・プロセスの次の状態の名前を選択します。(反復ステップを作成する場合、「開始状態」と「終了状態」リストで同じ状態を選択します。)
6. 「認可ロール」リストで、この割当てを終了することでこのステップの実行を許可されるロールを選択します。このリストから選択するロールは、このワークフロー・ステップの直前のワークフロー・ステップで「割当て方法」に対して選択したロールのサブセットに一致するかそれを含む必要があります。
7. 「割当て方法」セクションで、次のオプションのいずれかを選択し、アセットが割り当てられるロールを指定します。
  - 割り当てられたユーザーを「開始状態」に維持  
「開始状態」と「終了状態」が異なる場合、前のステップによって複数の参加者にこのアセットが割り当てられていても、最初にこのステップを実行する(割当てを終了する)人にアセットが割り当てられます。  
「開始状態」と「終了状態」が同じ場合、最後のステップによってこのアセットが割り当てられたすべてのユーザーに、このステップで再びアセットが割り当てられます。
  - 割当てなし、機能権限を使用したアクションの制御
  - 参加者リストからの割当て
  - ステップ実行時に割り当てられるユーザーを選択  
前述の最後の2つのオプションのいずれかを選択する場合、それらのオプションの右にあるリストから適切なロールを選択します。(これらのオプションの定義は [192 ページの「V. ステップの決定」](#) を参照してください。)
  - 全員への割当て
8. 「割当て期限」セクションで、ワークフロー管理者(または適切な機能権限を構成する場合は他のユーザー)がこのステップによってアセットの移動先の状態の予測時間(期限)をオーバーライドできるかどうかを決定します。
9. (オプション)「ステップ・アクション」リストで、このステップの実行時に呼び出す必要のある1つ以上のステップ・アクションを選択します。

10. (オプション)「ステップ条件」リストで、必要に応じてステップ条件を選択します。
11. ステップで、複数の参加者がアセットを操作していたある状態からアセットを移動する場合に、ステップが完了する前にすべての参加者がその割当てを終了するようにするには、「割り当てられたすべてのユーザーが投票する必要あり」オプションを選択します。
12. このプロセスに同じ「開始状態」を持つ他のステップがあり、それらのステップがどれもすべて投票ステップである(「割り当てられたすべてのユーザーが投票する必要あり」が選択されている)場合、「デッドロック・アクション」を選択します。デッドロックとその回避については、173 ページの「デッドロックの管理」および 187 ページの「委任アクションについて」を参照してください。
13. このワークフロー・プロセスがワークフロー・グループに対して使用される予定であり、すべてのアセットが同時に、この手順の手順 4 で選択した終了状態に進むようにする場合は、「ステップをグループ単位で同期」オプションを選択します。1つのプロセス内に作成する同期ステップは1つのみにすることを推奨します。
14. 「保存」をクリックします。  
ステップが保存され、「ワークフロー・プロセスのステップ」フォームが表示されます。
15. 「保存」をクリックします。  
プロセスが保存され、「調査」フォームに表示されます。
16. この手順を、終了ステップを除く、このプロセスに対して作成する各ステップに繰り返します。  
終了ステップを作成するには、次の手順に進みます。  
機能権限を構成するには、219 ページの「手順 E: (オプション) 機能権限の構成」に進みます。

#### 手順 D: (オプション) 終了ステップの作成

終了ステップによってワークフローが終了します。これは、アセットがすでにプロセス内になく、機能権限を使用している場合、そのアセットへのアクセスを制御する機能権限もすでにないことを意味します。次の手順を使用して、ワークフロー・プロセスの終了ステップを作成します。

1. ワークフロー・プロセスの「調査」フォームのアクション・バーで、「編集」をクリックします。
2. プロセスの編集フォームで、「ステップの追加 / 編集」(フォームの下部にあるボタン)をクリックします。
3. 「ワークフロー・プロセスのステップ」フォームで、「新規ステップの追加」をクリックします。  
WebCenter Sites に新規ワークフロー・プロセス・ステップフォームが表示されます。
4. 「ステップ名」フィールドに、最大 64 文字の意味のある一意の名前を入力します。
5. 次のように状態を構成します。

- a. 「開始状態」リストで、前のステップの「終了状態」として選択された状態の名前を選択します。
  - b. 「終了状態」リストで、何も選択しません(ワークフローの開始)。
  6. 「認可ロール」リストで、割当てを終了することでこのステップの実行を許可されるロールを選択します。このリストから選択するロールは、プロセス内のこのワークフロー・ステップの直前のワークフロー・ステップの「割当て方法」に対して選択したロールのサブセットに一致するかそれを含む必要があります。
  7. (オプション)「ステップ・アクション」リストで、このステップの実行時に呼び出す必要のある1つ以上のステップ・アクションを選択します。
  8. (オプション)「ステップ条件」リストで、必要に応じてステップ条件を選択します。
  9. ステップで、複数の参加者がアセットを操作していたある状態からアセットを移動する場合に、ステップが完了する前にすべての参加者がその割当てを終了するようにするには、「割り当てられたすべてのユーザーが投票する必要あり」オプションを選択します。
  10. このプロセスに同じ「開始状態」を持つ他のステップがあり、それらのステップのいずれかもすべて投票ステップである(「割り当てられたすべてのユーザーが投票する必要あり」が選択されている)場合、「デッドロック・アクション」を選択します。デッドロックとその回避については、[173 ページの「デッドロックの管理」](#)および [187 ページの「委任アクションについて」](#)を参照してください。
  11. このワークフロー・プロセスがワークフロー・グループに対して使用され、このステップをグループ内のすべてのアセットに同時に実行する場合は、「ステップをグループ単位で同期」オプションを選択します。プロセス内に作成する同期ステップは1つのみにすることをお勧めします。
  12. 「保存」をクリックします。  
開始ステップが追加され、「ワークフロー・プロセスのステップ」フォームが表示されます。
  13. 「保存」をクリックします。  
プロセスが保存され、「調査」フォームに表示されます。
- 機能権限を構成する必要がある場合、このワークフロー・プロセスは完了します。機能権限を構成する必要がある場合は、次の手順に進みます。

#### 手順 E: (オプション) 機能権限の構成

機能権限を構成するには：

1. 目的のワークフロー・プロセスを見つけ、その「調査」フォームを開きます。
2. アクション・バーで、「編集」をクリックします。
3. そのフォームの下部にある「機能権限の追加 / 編集」をクリックします。
4. 「ワークフロー・プロセスの機能」フォームで、権限を設定する機能まで下にスクロールします。

5. 目的の機能の横にある「新規」をクリックします。

WebCenter Sites に「機能権限の追加」フォームが表示されます。

**Add Function Privilege**

Process Name: FSII: Approval for Content

Function: Authorize

\*State:

- FSII: Approved and Locked
- FSII: Ready for Approval
- FSII: Ready to Edit

\*Role:

- Approver
- ContentAuthor
- ContentEditor

Allowed? ☒

Cancel Add New

6. 「状態」リストから適切な状態を選択します。
7. 「ロール」リストで、アセットがこの状態にあるときに、この権限の実行を許可されるまたはされないロールを選択します。
8. 次のいずれかを実行します。
- 選択したロールを持つユーザーに機能の実行を許可するには、「許可」チェック・ボックスを選択します。
  - 選択したロールを持つユーザーに機能の実行を禁止するには、「許可」チェック・ボックスを選択解除します。
9. 「新規追加」をクリックします。

WebCenter Sites により、その権限が保存され、「ワークフロー・プロセスの機能」フォームが再表示されます。

10. 構成する必要がある機能権限ごとに[手順 3-8](#)を繰り返します。機能権限の詳細は、[195 ページの「VI. 機能権限の決定」](#)を参照してください。
11. すべての機能権限を構成したら、「保存」をクリックします。

WebCenter Sites により、そのワークフロー・プロセスが保存され、「ワークフロー・プロセス」フォームが再表示されます。



ワークフロー・プロセスが完了します。

## ワークフロー・プロセスの編集

ワークフロー・プロセスを編集するには：

1. 「ワークフロー」タブで、「プロセス」を開き、編集するワークフロー・プロセスをダブルクリックします。
2. アクション・バーで、「編集」をクリックします。
3. 次のように変更を行います。
  - 名前、説明、またはその他のグローバル設定のいずれかを変更するには、フォーム内で直接変更を行います。
  - ステップを編集するには、221 ページの「ステップの編集」を参照してください。
  - 機能権限を編集するには、221 ページの「機能権限の編集」を参照してください。
4. 終了したら、「保存」をクリックします。

## ステップの編集

ワークフロー・ステップを編集するには：

1. 「ワークフロー」タブで、「プロセス」を開き、操作するワークフロー・プロセスをダブルクリックします。
2. アクション・バーで、「編集」をクリックします。
3. 「ワークフロー・プロセス」フォームで、「ステップの追加 / 編集」(フォームの下部にあるボタン)をクリックします。
4. 「ワークフロー・プロセスのステップ」フォームで、編集するステップの横にある「編集」をクリックします。
5. 「ワークフロー・プロセス・ステップの編集」フォームで変更を行い、「保存」をクリックします。  
プロセスが保存され、「調査」フォームに表示されます。

## 機能権限の編集

機能権限を編集するには、それを削除してから再作成します。

機能権限を編集するには：

1. 「ワークフロー」タブで、「プロセス」を開き、操作するワークフロー・プロセスをダブルクリックします。
2. アクション・バーで、「編集」をクリックします。

3. 「ワークフロー・プロセス」フォームで、「機能権限の追加 / 編集」( フォームの下部 ) をクリックします。
4. 「ワークフロー・プロセスの機能」フォームで、変更する機能の横にある「除去」をクリックします。
5. 表示されるポップアップ・ダイアログ・ボックスで、「OK」をクリックします。
6. 削除した機能の横にある「新規」をクリックします。
7. 「機能権限の追加」フォームで選択を行い、「保存」をクリックします。
8. 「ワークフロー・プロセスの機能」フォームで、「保存」をクリックします。  
ワークフロー・プロセスが保存され、「調査」フォームに表示されます。

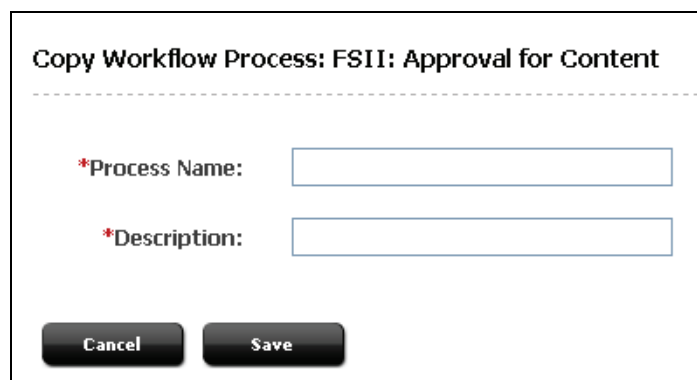
## ワークフロー・プロセスのコピー

ワークフロー・プロセスをコピーできます。これにより、追加のプロセスの構成においていくつかの手順を省略できます。

ワークフロー・ステップをコピーするには：

1. 「ワークフロー」タブで、「プロセス」を開き、コピーするワークフロー・プロセスをダブルクリックします。
2. アクション・バーで、ドロップダウン・リストから「プロセスのコピー」を選択します。

WebCenter Sites に「ワークフロー・プロセスのコピー」フォームが表示されます。



3. 「プロセス名」フィールドに、そのプロセスの一意の名前を入力します。
4. 「説明」フィールドに、そのプロセスの短い説明を入力します。
5. 「保存」をクリックします。
6. 必要に応じてプロセスを編集します。詳細は、次の手順を参照してください。
  - [221 ページの「ワークフロー・プロセスの編集」](#)
  - [221 ページの「ステップの編集」](#)
  - [221 ページの「機能権限の編集」](#)

## ワークフロー・プロセスの削除

ワークフロー・プロセスを削除するには：

1. 「ワークフロー」タブで、「プロセス」を開き、削除するワークフロー・プロセスをダブルクリックします。
2. アクション・バーで、「削除」をクリックします。  
WebCenter Sites に警告メッセージが表示されます。
3. 「プロセスの削除」をクリックします。  
プロセスが削除されます。

## ステップの削除

ワークフロー・ステップを削除するには：

1. 「ワークフロー」タブで、「プロセス」を開き、操作するワークフロー・プロセスをダブルクリックします。
2. アクション・バーで、「編集」をクリックします。
3. プロセスの編集フォームで、「ステップの追加 / 編集」(フォームの下部にあるボタン)をクリックします。
4. 「ワークフロー・プロセスのステップ」フォームで、削除するステップの横にある「除去」をクリックします。
5. 表示されるポップアップ・ダイアログ・ボックスで、「OK」をクリックします。
6. 「保存」をクリックします。

ワークフロー・プロセスが保存され、「調査」フォームに表示されます。

## 機能権限の削除

機能権限を削除するには：

1. 「ワークフロー」タブで、「プロセス」を開き、編集するワークフロー・プロセスをダブルクリックします。
2. アクション・バーで、「編集」をクリックします。
3. 「ワークフロー・プロセス」フォームで、「機能権限の追加 / 編集」(フォームの下部)をクリックします。
4. 「ワークフロー・プロセスの機能」フォームで、削除する機能権限の横にある「除去」をクリックします。
5. 「保存」をクリックします。

ワークフロー・プロセスが保存され、「調査」フォームに表示されます。

## ワークフロー・プロセスのテスト

ワークフロー・プロセスを管理システムに移動し、そのワークフロー・プロセスをそこで実装する前に、開発システムでこれをテストします。

ワークフロー・プロセスをテストするには：

- 管理者アクセス権を持つユーザーとしてログインし、必要に応じてワークフロー・プロセスをアセットに割り当てるスタート・メニュー・アイテムを構成します。
- ワークフロー・プロセスの開始ステップの実行を認可されたロールを持つユーザーとしてログインします。アセットを作成し、ワークフロー・プロセスを選択し(スタート・メニュー・アイテムによってそれが割り当てられていない場合のみ)、割当てを終了します。

- 現在割当てを持っている参加者としてログインします。割当てを終了し、次の参加者としてログインします。この方法でワークフロー全体を通して続行します。
- 送信する必要がある電子メール・メッセージが送信されていることを確認します。
- ワークフローによって、プロセスを通してアセットが適切に送信されていることを確認します。

## 作業の移動

一般的に、ワークフロー・プロセスは開発システム上で作成して調整を行い、必要とされているとおりにそれが完全に機能することを確認してから、管理システムにそのワークフロー・プロセスを導入します。

ワークフローがコンテンツ・プロバイダによって使用される準備が整ったら、ミラー・ターゲットの初期化機能を使用して、ワークフロー・コンポーネントを管理システムに移動します。

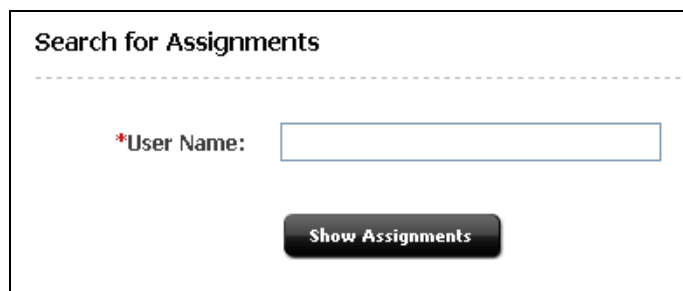
この機能の詳細は、[360 ページの「あるシステムから別のシステムへのサイトの移行」](#)を参照してください。

## ワークフローの割当ての消去

人は休暇を取ったり、新しいワーク・グループに再割当てされたり、別の仕事に異動したりします。それらの状況では、彼らのワークフローの割当てはどのようなになるでしょうか。元の割当て先によって終了できない作業割当てを処理するための1つの選択肢は、その割当てを誰か他の人に委任することです。ただし、管理者は、委任機能を持っていても、ユーザーの割当てリストから割当てを消去することを要求される場合があります。

**ユーザーの割当てを消去するには：**

1. 「管理」タブで、「割当てのクリア」をダブルクリックします。
2. 「割当ての検索」フォームで、目的のユーザー名を入力します。次に例を示します。



The screenshot shows a web form titled "Search for Assignments". Below the title is a dashed horizontal line. Underneath, there is a label "\*User Name:" followed by a text input field. At the bottom of the form is a button labeled "Show Assignments".

3. 「割当ての表示」をクリックします。  
WebCenter Sites に、そのユーザーに現在割り当てられているアセットのリストが表示されます。

例を示します。

### Clear Assignments

---

The following assets have been assigned to: **firstsite**.  
To clear an assignment, select the asset's check box and click Clear Assignments.

Type	Name	Description	Assigned to	Task Status	Clear
Page	<a href="#">FSIIHome</a>	Home	firstsite(Designer)	active	<input type="checkbox"/>
Page	<a href="#">Home (fr)</a>	Page Principale	firstsite(Designer)	active	<input type="checkbox"/>
Page	<a href="#">Home (de)</a>	Home (de)	firstsite(Designer)	active	<input type="checkbox"/>
Page	<a href="#">Home (es)</a>	Home (es)	firstsite(Designer)	active	<input type="checkbox"/>

Clear assignment comment:

Remove the asset from workflow if there are no other assignees for the asset:

☐ Yes  
☒ No

**Clear Assignments**

- 「割当てのクリア」フォームで、消去する各割当ての横にある「クリア」チェック・ボックスを選択します。
  - (オプション) 「割当てコメントのクリア」フィールドに、選択した割当てを消去する理由の簡単な説明を入力します。このフィールドに入力する説明は、そのアセットの「ステータス」フォームの「ワークフロー履歴」セクションにある「実行されたアクション」フィールドに表示されます。
  - 次のいずれかを行います。
    - アセットが他の誰にも割り当てられていない場合に、ワークフローからそれを削除するには「はい」を選択します。
    - そのアセットを割り当てられている他のユーザーの割当てリストにそのアセットを残しておく場合は、「いいえ」を選択します。
  - 「割当てのクリア」をクリックします。
- WebCenter Sites に、変更内容のサマリーを示す「割当てレポートのクリア」が表示されます。





## 第 10 章

# CM サイトのレプリケート

オンライン・サイトのデプロイメントを迅速化するために、WebCenter Sites では、サイト・ランチャが提供されています。この新機能によって、適切に準備された CM サイトをレプリケートでき、そのプロセスではコンポーネントを新規サイトで共有またはコピーできます。さらに、新規サイトを必要に応じて変更して、デプロイできます。この章では、サイト・ランチャの概要、レプリケーションのガイドライン、要件およびオプション、さらにサイト・ランチャを有効化および使用する手順について説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [サイト・ランチャの概要](#)
- [レプリケーションの準備](#)
- [サイトのレプリケーション手順](#)
- [レプリケーション後のタスクとガイドライン](#)

## サイト・ランチャの概要

WebCenter Sites では、新規サイトを作成する労力をできるだけ少なくするために、サイト・ランチャというサイトレプリケーション・ユーティリティを提供しています。このユーティリティは CM サイトのバックアップ用ではなく、CM サイトをスピノフさせるために設計されています。

たとえば、管理システムが、Products という名前の部門に専用の CM サイトをホストしているとします。最近 Services という新しい部門が設立され、迅速に公開する必要があります。Services は、サイズと構造が Products と類似していますが、メンバーは宣伝担当者ではなく、広報の専門家です。Services CM サイトを最初から作成するのではなく、管理システム上で Products CM サイトを直接レプリケートして、新しく設立された Services 部門に対応するようにレプリケートされたサイトを変更できます。

サイト・ランチャは、既存のデータベース・スキーマを再利用し、ソース・サイトをネイティブ WebCenter Sites システム上で直接レプリケートします。サイトが、すばやく簡単にレプリケートされ、コーディングも必要ありません。ただし、レプリケーション自体は、直接的で迅速な手順ですが、管理者の作業では事前準備と事後処理が必要になります。どの程度の負担になるかは、コンテンツ管理の要求によって異なります。

この章の以降の部分では、1:1、1:n、x:n など (36 ページの「コンテンツ管理モデル」を参照)、あらゆるコンテンツ管理モデルで使用できるように、正しくサイトをレプリケートするために従う必要がある手順を説明します。

### 注意

サイトのレプリケーションを実施できるのは全体管理者のみです。サイト管理者とワークフロー管理者は、サイト・ランチャへのアクセス権限がないため管理しているサイトをレプリケートできません。

## レプリケーションの準備

サイトのレプリケーションを試みる前に、サイトやレプリケートされたサイトの特性に関するいくつかの推奨事項を考慮する必要があります。さらに、コピーまたは共有するコンポーネントを決定する必要があり、最終的にはソース・サイトがレプリケーションのシステム要件を満たすようにする必要があります。この項では、推奨事項、選択できる方法およびシステム要件について概要を説明します。

## レプリケーション要件へのソース・サイトの適合

サイト・ランチャは、ほぼすべての CM サイトのレプリケートに使用できます。小規模、大規模、機能しているサイトや、不完全なサイト、他のサイトから独立したサイトおよびコンポーネントの共有により他のサイトと重複するものなどです。

ただし、サイト・ランチャを最も有効に使用するには、サイトが小規模で機能しており、必要なサイトと類似するものから開始することをお勧めします。一般的に、ソース・サイトにはスケルトンのサイトが適しています。つまり、構造とデ

ザインがあって、内容がほとんどないものです。この特徴が、レプリケートを容易にするだけでなく、リソースの節約やレプリケート時間の削減に役立ちます。

さらに、ソース・サイトが管理システムに配置されていることを確認します。  
(最初にレプリケート可能なソース・サイトを作成する必要がある場合は、[65 ページの「サイト構成の手順」](#)の手順に従ってください。)

## 新規サイトの計画

この項では、サイトのレプリケーション・オプションとシステム要件の概要を説明します。

### コピーと共有

ソース・サイトを指定するとき、特定のサイトのコンポーネントをコピーするか共有するかを決めておく必要があります。したがって、最初に、新規サイトがソース・サイトとの関連でどのように機能するか、すなわち複製かサブセットか、また独立したサイトか、重複したサイトかなどを決定します。(また、より広い範囲において、新規サイトがコンテンツ管理モデルの他のサイトとの関連でどのように機能するかを決定する必要があります。)

次の表は、ソース・サイトがレプリケートされるとき、多くのコンポーネントがデフォルトで共有されることを示しています。その他のコンポーネントは、任意に共有またはコピーできます。ユーザーは、コピーも共有もされません。

ソース・サイトのコンポーネント	レプリケーション方法
アセット・サブタイプ	共有
アセット・タイプ	共有
アセット	コピーまたは共有 (管理者により決定)
アソシエーション	共有
サイト・デスクトップとサイト DocLink の構成	コピー
パブリッシュの宛先	共有
ロール	共有
スタート・メニュー・アイテム	共有
テンプレート (デザイン・アセット)	コピーまたは共有 (管理者により決定)
ツリー・タブ	共有
ユーザー	共有もコピーもされない
ワークフロー・プロセス	共有

アセットのコピーおよび共有は、アセット・タイプ・レベルで選択できますが、アセット・レベルではできません。コピーする (または共有する) アセット・タイプを選択すると、そのタイプのすべてのアセットがコピー (または共有) されます。これはテンプレート (デザイン・アセット) についても同様です。

アセットとテンプレートに関して、管理者固有のタスクは、次の点について決定することです。

- アセットをコピーまたは共有する必要があるアセット・タイプはどれか。
- テンプレート・アセットをコピーまたは共有する必要があるか。
- 新規サイトでアセットを書式設定されたコンテンツとしてプレビューするか。

アセットとテンプレートをコピーまたは共有する必要があるかどうかを決定するには、次のガイドラインを使用してください。

- アセットを共有するために、アセットをレンダリングするテンプレートを共有する必要はありません。テンプレートはコピーできます。

アセットを共有するのかあるいはコピーするのかは、テンプレートのレンダリング・ロジックがアセット名をどのように処理するかによります。たとえば、テンプレート・ロジックを共有テンプレート (`render:satellitepage` および `render:callelement` タグで、明示的なテンプレート名で構成) と、コピー・テンプレート (`render:satellitepage` および `callelement` タグで、前に `Variables.site` を付けたテンプレート名で構成) のいずれかを仮定するように記述できます。

同じ論理が他のアセット・タイプにも適用されます。レンダリング・ロジックで、フレックス属性名やイメージ名などのアセット名を使用すると、テンプレート・ロジックがアセット・タイプを共有 (明示的な名前) またはコピー (構成された名前) のいずれかとして処理し、それに応じてソース・サイトを指定する必要があります。

テンプレート・アセットをコピーすると決定した場合、そのテンプレート・アセットにハードコードされたテンプレート名が含まれておらず、テンプレートがいずれのスタート・メニュー・アイテムの「デフォルト値」リストでも指定されていないことを確認します。

- アセットがサイト・ランチャによって新規サイトと共有されている場合、そのデータは変更されません。この唯一の例外はテンプレート・アセットです。テンプレート・アセットでは、そのアセットを共有するサイトごとに **SiteCatalog** エントリが維持されます。したがって、テンプレートが新規サイトで共有されると、**SiteCatalog** エントリのテンプレートのリストが更新されます (新規サイトが **SiteCatalog** エントリのリストに追加されます)。
  - 共有アセット内のデータが変更されないため、そのアセットのアセット参照も変更されないまま維持されます。したがって、アセット参照を持つアセットが共有される場合は、アセット参照も共有される必要があります。たとえば、**ImageFile** アセットへの参照を持つ記事アセットがある場合、次の操作が可能です。
    - 両方のアセット・タイプの共有
    - 両方のアセット・タイプのコピー
    - 記事のコピーと **ImageFile** の共有
- ただし、記事を共有し、**ImageFile** をコピーすることはできません。これを行うと、サイトのコピーを起動するときエラーが表示されます。
- スタート・メニューは、ソース・サイトとレプリケートされたサイト間で共有されます。したがって、ワークフロー・プロセスがソース・サイトのスタート・メニューで設定されている場合、そのワークフローはレプリケート・サイトでも設定されます。新規サイトでユーザーがアセットを作成する

ためにスタート・メニュー・アイテムを呼び出した場合、ワークフローが実行されます。

計画ステージでの決定は、インストール時の指定や、独自の WebCenter Sites 環境の管理方法によって左右されます。レプリケーションによって作成されたサイトは、最終的には、管理システムで構築中 (または構築済) のコンテンツ管理モデルに合わせる必要があります。たとえば、中心となるサイトと中央から管理されるサイトがある場合、新規サイトがこれらのサイトに対してどのように機能するかを決定する必要があります。サイトのモデリングの詳細は、[36 ページの「コンテンツ管理モデル」](#)を参照してください。

## アセットの命名

新規サイトにコピーされるアセットは、次のように接頭辞を使用し、アルゴリズムによって命名されます。

- ソースの接頭辞は、サイトをサイト・ランチャのソース・サイトとして設定するときに指定し、デフォルトではそのサイトの名前になります。
- 新規サイトの接頭辞は、サイト・ランチャ自体で指定し、デフォルトでは、新規サイトの名前です。接頭辞を指定するときには、短いものを指定してください。
- ソース・アセットに接頭辞がある場合、またはアセット・タイプに一意の名前が必要な場合、接頭辞が新規アセットの名前に使用されます。ソース・アセットに接頭辞がある場合、新規アセットでは、古い接頭辞にかわって新しい接頭辞が使用されます。
- ソース・アセットに接頭辞がない場合、新規アセットの名前を生成するためにアセット名の先頭に接頭辞が追加されます。

## ユーザーの計画

ユーザーがレプリケーション時に新規サイトでコピーまたは共有されない場合、手動でユーザーを新規サイトに追加する必要があります。

ユーザーがソース・サイトのユーザーと異なる場合、新規ユーザー・アカウントを作成する必要があります。このプロセスでは、新規サイトでのユーザーの機能、必要なロール、スタート・メニュー・アイテムへのアクセス、ワークフロー、ツリー・タブなどを検討してください。

コンポーネント間の元のアソシエーションは、新規サイトで維持されることを考慮してください。ユーザーの機能を再定義する場合、そのサイトでのその他のコンポーネントとのアソシエーションを再定義することが必要になる可能性があります。計画ステージで新規アソシエーションを考慮することは、レプリケーション後のワークロードを見積もり、さらに期待どおりの実用的なサイトを作成するために役立ちます。

## レプリケーション時間の選択

通常の処理がサイトのレプリケーションに影響を与えるため、ソース・サイトが頻繁に編集されていないときにサイト・ランチャを実行することをお勧めします。そうしない場合、レプリケート・サイトとソース・サイトの不一致が発生することもあります。さらに、レプリケーション前に、ソース・サイトのすべてのアセットがデータベースにチェックインされていることを確認してください。そうしないと、リビジョン追跡が有効で、共有するアセットがチェックアウトされている場合、アセットの共有に失敗します。

## サイトのレプリケーション手順

この項では、サイト・ランチャの有効化と使用方法を示します。この手順は、3つの基本的な手順から成ります。

I. レプリケーションの要件が満たされていることを確認する

235 ページの II. ソース・サイトをサイト・ランチャに対して有効化する

236 ページの III. ソース・サイトのレプリケート

これらの手順は、この章の以降の部分で詳しく説明します。

### I. レプリケーションの要件が満たされていることを確認する

1. レプリケーションの準備として、ソース・サイトと計画しているサイトが要件を満たしていることを確認します。詳細は、230 ページの「レプリケーションの準備」を参照してください。
2. 「II. ソース・サイトをサイト・ランチャに対して有効化する」の項に進み、ソース・サイトを有効化します。

### II. ソース・サイトをサイト・ランチャに対して有効化する

ソース・サイトをレプリケートするには、先にサイト・ランチャを構成する必要があります。

**サイト・ランチャを構成するには：**

1. 前述の手順（「I. レプリケーションの要件が満たされていることを確認する」）を完了していることを確認します。
2. この項の手順を完了すれば、次の「III. ソース・サイトのレプリケート」の項の手順をただちに実行する準備が整います。ただちに次の手順を実行して、ソース・サイトの状態が変更されないようにしてください。
3. 「管理」タブで、「サイト」を開き、レプリケートするサイトをダブルクリックします。これがソース・サイトになります。
4. サイトの「調査」フォームで、「このサイトのサイト・ランチャの構成」をクリックします（フォームの下部）。
5. 「サイト・ランチャの構成」フォームで、次の手順を実行します。
  - a. アセットをコピーする場合、「アセット接頭辞」フィールドに移動し、アセットの接頭辞を入力するか、デフォルト（ソース・サイトの名前）を受け入れます。
  - b. 「有効なアセット・タイプ」パネルで、そのアセットをコピーまたは共有するアセット・タイプを見つけて、「コピー」または「共有」ラジオ・ボタンをクリックします。

#### 注意

すべてのタイプのすべてのアセットをコピーまたは共有する場合は、「すべてコピー」または「すべて共有」ボタンをクリックします。

- c. 構成オプションを保存するには、「保存」ボタンをクリックします。

Configure Site Launcher: FirstSiteII

\*Asset prefix:  ☐ Disable Site Launcher

**i** All assets will be shared or copied to new site. Copied assets will be renamed using the asset prefix, if a unique name is required. All start menu items will be shared with new site. All Sites Desktop and Sites DocLink configuration information will be copied to the new site.

Enabled Asset Types:

Description	Asset Type	Skip Data	Copy	Share
Attribute Editor	AttrTypes	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
CSElement	CSElement	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
Content	Content_C	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
Content Attribute	Content_A	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
Segment	Segments	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
Site Visitor	FSIIVisitor	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
Site Visitor Attribute	FSIIVisitorAttr	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
Site Visitor Definition	FSIIVisitorDef	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
Site Visitor Parent	FSIIVisitorParent	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
Site Visitor Parent Definition	FSIIVisitorPDef	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
SiteEntry	SiteEntry	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
Template	Template	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
UI Configuration	FW_UIConfiguration	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>
Visitor Attribute	ScalarVals	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>

Workflow Process: **i** All workflow processes will be shared with new site.

Workflow

- FSII: Approval for Artwork
- FSII: Approval for Content
- FSII: Approval for Documents
- FSII: Approval for Products
- FSII: Approval for Promotions
- FSII: Approval for Structure

6. 次の項の「III. ソース・サイトのレプリケート」に進み、サイトのレプリケーション手順を完了します。

### III. ソース・サイトのレプリケート

ソース・サイトをレプリケーションできるようにしたら、サイト・ランチャを使用して必要な数だけソース・サイトのコピーを作成できます。

ソース・サイトをレプリケートするには：

1. 前述の手順（「I. レプリケーションの要件が満たされていることを確認する」および「II. ソース・サイトをサイト・ランチャに対して有効化する」）を完了していることを確認します。
2. 「調査」フォームの下部にある「コピーの起動」をクリックします。



3. 「サイト・ランチャ」フォームで、次の手順を実行します。
  - a. 「名前」フィールドに、新規サイトの名前を入力します。
  - b. 「説明」フィールドに、新規サイトの説明を入力します。
  - c. 「パブリッシュの宛先」領域で、次の手順を実行します。
    - 1) 新規サイトに使用するパブリッシュの宛先を選択します。
    - 2) 必要に応じてチェック・ボックスを選択し、宛先を初期化します。
  - d. 「サイトの追加」をクリックしてサイトをコピーします。

**Site Launcher: New Site from FirstSiteII (FirstSite II)**

---

\*Name:

\*Description:

\*Asset prefix:

Copied assets with names beginning with 'FSII' will be renamed with this value.

**Enabled Asset Types:**

Description	Asset Type	Skip Data	Copy	Share
Attribute Editor	AttrTypes		✓	
CSElement	CSElement		✓	
Content	Content_C		✓	
Content Attribute	Content_A		✓	
Content Definition	Content_CD		✓	
Content Filter	Content_F		✓	
Content Parent	Content_P		✓	
Content Parent Definition	Content_PD		✓	
Dimension	Dimension			✓
DimensionSet	DimensionSet			✓
Document	Document_C		✓	
Document Attribute	Document_A		✓	
Document Definition	Document_CD		✓	
Document Filter	Document_F		✓	
Document Parent	Document_P		✓	
Site Visitor Parent Definition	FSIIVisitorPDef		✓	
SiteEntry	SiteEntry		✓	
Template	Template		✓	
UI Configuration	FW_UIConfiguration		✓	
Visitor Attribute	ScalarVals		✓	

**Workflow Process:**

**Workflow**

- FSII: Approval for Artwork
- FSII: Approval for Content
- FSII: Approval for Documents
- FSII: Approval for Products
- FSII: Approval for Promotions
- FSII: Approval for Structure

**Publish Destinations:**

Enable?	Initialize
<input type="checkbox"/> Destination 1 (static)	<input type="checkbox"/> Set publish start point using 'FSIIHome'.
<input type="checkbox"/> Destination 2 (dynamic)	<input type="checkbox"/> As a production site.
	<input type="checkbox"/> As a management site.
<input type="checkbox"/> FSII Destination (RealTime)	<input type="checkbox"/> As a production site.
	<input type="checkbox"/> As a management site.
<input type="checkbox"/> FSII Destination (dynamic)	<input type="checkbox"/> As a production site.
	<input type="checkbox"/> As a management site.

新規サイトの作成後、WebCenter Sites に次の内容のサマリーが表示されます。

- どのアセットがコピーまたは共有されたか。共有されているアセットごとに、AssetPublication 表に新規サイトのサイト ID (パブリケーション ID) を示す行が追加されます。コピーされたアセットごとに、元のアセットが格納されている表にコピーが入力されます。
  - 新規サイトで共有されるスタート・メニュー・アイテムの数、ワークフロー・プロセスおよびパブリッシュの宛先。
4. この時点でユーザーを追加する必要があります。追加しない場合、新規サイトが適切に構成されていることを確認します。手順とガイドラインは、次の項の「[レプリケーション後のタスクとガイドライン](#)」を参照してください。

## レプリケーション後のタスクとガイドライン

新規サイトの作成後、次の手順を実行して新規サイトの構成を完了する必要があります。

1. 既存のユーザーを新規サイトに追加するのか、新規ユーザーを作成するのかは、新規サイトをどのように計画しているかによります。
  - 既存ユーザーを追加するには、次の [127 ページ](#)の「[ユーザーへのサイトのアクセス権限の付与 \(ユーザーへのロールの割当て\)](#)」の手順を実行してください。
  - 新規ユーザーを作成するには、[第 3 章「サイト構成のガイドライン」](#)のガイドラインに従ってください。
2. ワークフロー・プロセスが存在する場合は、正しいアセット・タイプとロールがスタート・メニュー・アイテムのプロセスに関連付けられていることを確認します。
3. 新規サイトをテストします。
4. 必要に応じて、サイト管理者を作成します。xceladmin ACL をユーザー・アカウントに割り当てて、ユーザーに新規サイトの SiteAdmin ロールを付与します。



## 第 3 部

# エクスポートおよびミラーリングの パブリッシュ

この部では、Oracle WebCenter Sites のエクスポートおよびミラーリングのパブリッシュ・システムと、パブリッシュするためのコンテンツを検証する承認システムについて説明します。また、これらのパブリッシュ方法を構成して管理する手順についても説明します。

この部は、次の章で構成されています。

- 第 11 章「Oracle WebCenter Sites を使用したパブリッシュ」
- 第 12 章「承認システム」
- 第 13 章「ディスクへのエクスポートのパブリッシュの様々なトピックおよび承認プロセス」
- 第 14 章「ディスクへのエクスポートのパブリッシュ・プロセス」
- 第 15 章「サーバーへのミラーリングのパブリッシュ・プロセス」
- 第 16 章「XML へのアセットのエクスポートのパブリッシュ・プロセス」
- 第 17 章「他のパブリッシュ手順」



## 第 11 章

# Oracle WebCenter Sites を使用したパブリッシュ

コンテンツは、管理システムから配信システムにコピーすることによって、オンライン・サイトの訪問者がアクセスできるようになります。コンテンツをあるシステムから別のシステムにコピーすることを、**パブリッシュ**と呼びます。

WebCenter Sites パブリッシュ・システムでは、ディスクへのエクスポート、サーバーへのミラーリング、および XML へのエクスポートの 3 つのパブリッシュ方法をサポートしています。また、パブリッシュするコンテンツを決定する承認システム、パブリケーション時刻を設定できるスケジュール機能、およびサイト固有のパブリッシュの宛先の構成ユーティリティを提供します。

この章では、パブリッシュ・システムおよび承認システムについて説明します。この章は、次の項で構成されています。

- [概要](#)
- [パブリッシュ方法](#)
- [パブリッシュの宛先](#)
- [承認システム](#)
- [パブリッシュ・スケジュール](#)
- [パブリッシュ・セッションで行われる処理](#)
- [パブリッシュ・セッションに関する情報の取得](#)

## 概要

アセットをパブリッシュするためには、管理者または WebCenter Sites のどちらかが、次の情報を決定する必要があります。

- WebCenter Sites が使用する必要がある**パブリッシュ方法** (ディスクへのエクスポート、サーバーへのミラーリング、または XML へのエクスポートのいずれか)。

管理者は、パブリッシュの宛先を構成する際に、宛先に対するパブリッシュ方法を指定します。詳細は、「[パブリッシュ方法](#)」を参照してください。

- 特定のセッション中に WebCenter Sites がパブリッシュする必要がある**パブリッシュの宛先**。

管理者は、システムに対してパブリッシュの宛先を構成します。詳細は、[247 ページの「パブリッシュの宛先」](#)を参照してください。

- 現在の宛先にパブリッシュすることが承認済でその準備ができているアセット。この情報は、**承認システム**が決定します。

コンテンツ・プロバイダは、パブリケーションの準備ができていると見なしたアセットに、特定のパブリッシュの宛先に対して承認済というマークを付けます。承認システムは、承認済ラベルを検証して、アセットのパブリッシュによってライブ・サイトに機能しないリンクが作成される可能性があるかどうかを判断します。その可能性がある場合、そのアセットの他のアセットに対する依存性が、ユーザーがそれらのアセットを承認することによって解決されるまで、そのアセットのパブリッシュ・セッションも保留されます。承認済アセットがどのアセットに対しても依存性を持たないか、またはその依存性が十分な場合、承認システムはそのアセットをパブリッシュ・システムにリリースします。

承認システムのプロセスは複雑で、パブリッシュ方法ごとに異なります。承認システムの機能の詳細は、[第 12 章「承認システム」](#) および [第 13 章「ディスクへのエクスポートのパブリッシュの様々なトピックおよび承認プロセス」](#)を参照してください。

- アセットをパブリッシュする必要がある日時。

管理者は、**パブリッシュ・スケジュール**を設定します。パブリッシュ・プロセスは、一定間隔で実行されるようにスケジュールされたバッチ・プロセスとして実行されます。必要に応じて、スケジュールを無視して、オンデマンドでパブリッシュすることもできます。パブリッシュ・スケジュールの詳細は、[249 ページの「パブリッシュ・スケジュール」](#)を参照してください。

パブリッシュ・セッション中は、セッション情報がログ・ファイルに記録されます。「[パブリッシュ・コンソール](#)」を使用してセッションを監視することによって、現在実行中のパブリッシュ・セッションのパブリッシュ履歴およびステータスの両方を特定できます。また、パブリッシュ・プロセスはバックグラウンドで実行されるので、ブラウザではその他の管理タスクを済ませることができます。パブリッシュ・セッション中に発生するイベントの詳細は、[第 11 章「パブリッシュ・セッションで行われる処理」](#)を参照してください。パブリッシュ情報の取得方法の詳細は、[第 11 章「パブリッシュ・セッションに関する情報の取得」](#)を参照してください。



## パブリッシュ方法

この項では、WebCenter Sites がサポートするパブリッシュ方法について説明します。246 ページの図 6 に、パブリッシュ方法をまとめます。

- **ディスクへのエクスポートのパブリッシュの場合**、Web サーバーが配信システムになります。このタイプのシステムへのパブリッシュは、次のように行われます。

CM システム・データベース内の承認済アセットは、テンプレートを使用して、HTML ファイルとしてレンダリングされます。レンダリングされたファイルはファイル・システムに保存された後、FTP などの転送プロトコルを使用して管理者により Web サーバーにパブリッシュされます。

この HTML ファイルは、サイト訪問者がパブリッシュされたコンテンツをリクエストすると、ページとしてブラウザに表示されます。

- **サーバーへのミラーリングのパブリッシュの場合**、WebCenter Sites システムが配信システムになります。このタイプのシステムへのパブリッシュは、次のように行われます。

承認済アセットとそれらのデータベース表が、CM システム・データベースから配信システム・データベースにミラーリングされます。パブリッシュ・セッションの間中、パブリッシュ・システムは配信システム上の **CacheManager** と通信し、連携して動作します。CacheManager は、システムのページ・キャッシュを管理する WebCenter Sites サーブレットです。CacheManager によって、ミラーリングされるアセットを参照するページレットまたはページがキャッシュされることが保証されます。パブリッシュ・セッションが終了すると、CacheManager はそれらのページを再生成して更新されたコンテンツを表示し、新しいページおよびページレットをキャッシュします。

パブリッシュされたコンテンツがサイト訪問者からリクエストされると、すぐにこれが提供されます。コンテンツは、テンプレートにより配信システムのデータベースから取得され、ブラウザに提供されて、最終的にページとしてレンダリングされます。

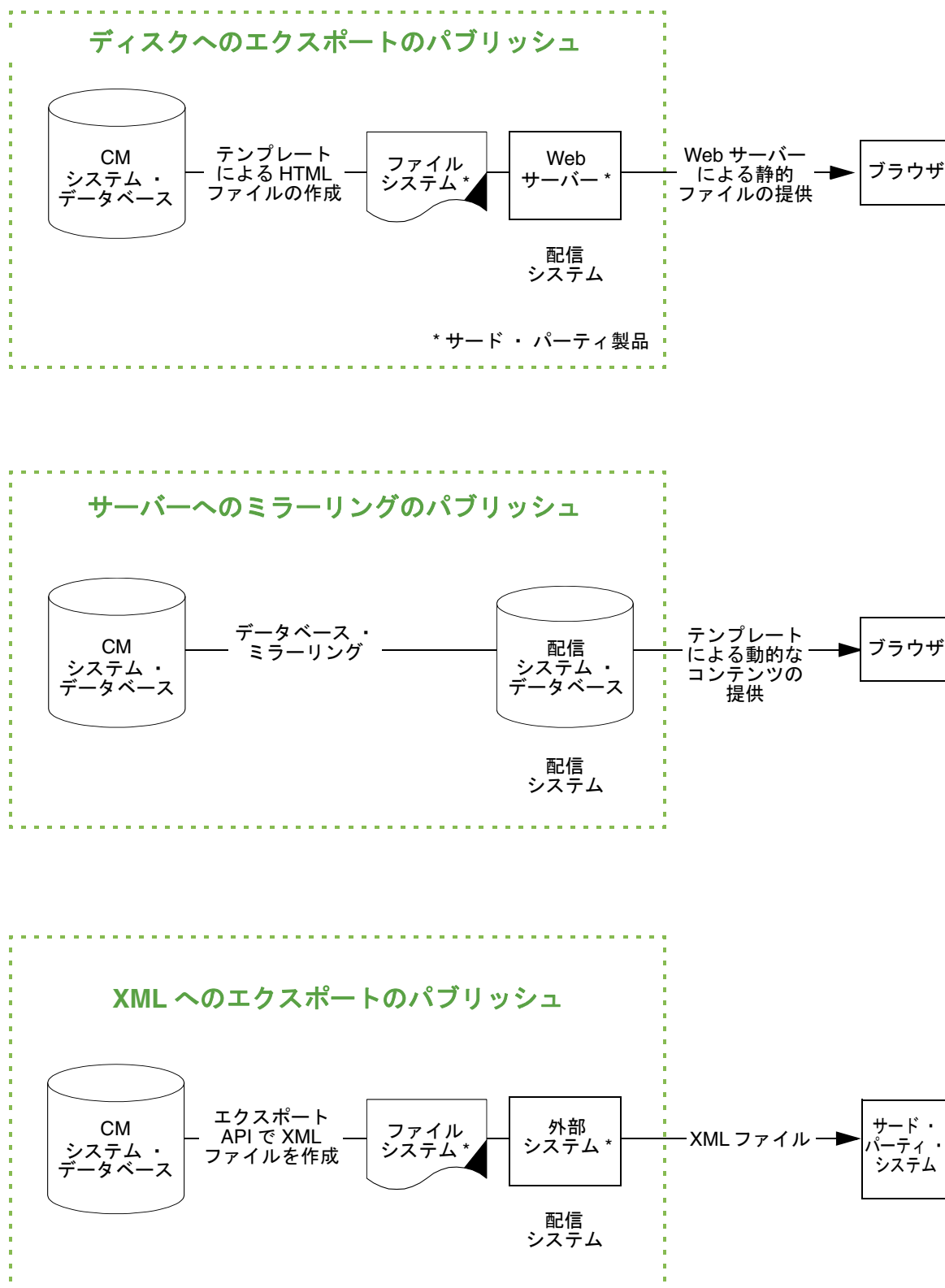
- **XML へのアセットのエクスポートの場合**、データベース、または WebCenter Sites 以外のアプリケーションを実行する外部システムが、配信システムになります。パブリッシュ方法は、XML ファイルを出力するデータ変換方法です。このパブリッシュ方法では、Web サーバーで表示可能なページを作成するのではなく、エクスポート API を使用して、承認済アセットごとに XML ファイルを 1 つ作成します。

パブリッシュされたコンテンツがサイト訪問者からリクエストされると、すぐにこれが提供されます。コンテンツは、テンプレートにより配信システムのデータベースから取得され、ブラウザに提供されて、最終的にページとしてレンダリングされます。

各パブリッシュ方法の詳細は、次の各章を参照してください。

- 第 13 章 「ディスクへのエクスポートのパブリッシュの様々なトピックおよび承認プロセス」
- 第 14 章 「ディスクへのエクスポートのパブリッシュ・プロセス」
- 第 15 章 「サーバーへのミラーリングのパブリッシュ・プロセス」
- 第 16 章 「XML へのアセットのエクスポートのパブリッシュ・プロセス」

図 6: WebCenter Sites のパブリッシュ方法



## パブリッシュの宛先

パブリッシュの宛先は、コンテンツのミラーリング先の WebCenter Sites データベースか、またはエクスポート先ディレクトリのどちらかです。パブリッシュの宛先は、次のパラメータを定義する名前付きオブジェクトとして表されます。

- パブリッシュ方法 ( ディスクへのエクスポート、サーバーへのミラーリング、または XML へのアセットのエクスポート )
- 場所
  - ディスクへのエクスポートのパブリッシュおよび XML へのアセットのエクスポートの場合、パブリッシュ・システムは承認済アセットを HTML ファイルまたは XML ファイルに変換します。場所は、ファイルが保存されるルート・ディレクトリです。このディレクトリは、futuretense.ini ファイルの cs.pgexportfolder プロパティで設定します。
  - サーバーへのミラーリングのパブリッシュの場合、宛先は、コンテンツの配信元として想定されるサーバーの **URL 形式によるサーバー名** ( ポート番号を含む ) です。 ( このサーバー名は 「宛先」 フォームの 「宛先アドレス」 フィールドに設定します。 )
- 宛先に対してパブリッシュ可能なアセットが存在する CM サイトの名前。

どのパブリッシュ方法でも、複数のパブリッシュの宛先を Sites システムに構成できます。開発者によるオンライン・サイトの設計方法によっては、静的コンテンツ (HTML ファイル、ディスクへのエクスポートを使用) および動的コンテンツ (サーバーへのミラーリングまたは XML へのエクスポートのパブリッシュ方法を使用してすぐに生成されるページ) を両方ともパブリッシュする必要がある場合があります。このような二重の実装を行う場合は、開発者に相談して、パブリッシュの宛先を構成する方法を決定してください。

このドキュメントでは、パブリッシュの宛先および構成について説明する際、次の用語を使用します。

- **ソース。** パブリッシュ・セッションでソースとして機能する WebCenter Sites データベース。任意の Sites システム間でアセットをミラーリングできるので、ソースは必ずしもコンテンツ管理システムではありません。
- **宛先。** ミラーリング先の WebCenter Sites データベースか、またはエクスポート先ディレクトリのどちらかです。

パブリッシュの宛先の作成の詳細は、[316 ページの「手順 3. エクスポート先の構成」](#) および [336 ページの「手順 5: ミラーリング先の作成」](#) を参照してください。

## 承認システム

特定の宛先へのパブリケーションに対してアセットが承認されると、WebCenter Sites は承認システムを起動して、各アセットのパブリッシュの準備ができていることを確認します。承認システムは、機能しないリンクや古いコンテンツが発生しないようにオンライン・サイトを保護するパブリケーション前プロセスを実行します。このプロセスでは、次の質問に対する回答を決定します。

1. パブリッシュの準備ができているのはどのアセットか。すなわち、ユーザーが承認済とマークを付けたアセットはどれか。
2. 承認済アセットに依存性があるか。すなわち、承認済アセットに他のアセットが付属する必要があるか。または、サイトのリンクがすべて正常に機能することを保証するために、宛先に他のアセットが存在する必要があるか。

たとえば、イメージ・ファイルを参照する記事アセットが存在するサイトが設定されているとします。非承認のイメージ・ファイルが関連付けられている承認済の記事は、イメージ・ファイルも承認されるまで、パブリッシュできません。

承認システムは、これらの質問に対する回答に応じて、パブリッシュ・システムに次のパブリッシュ・セッションで承認済アセットをパブリッシュすることを許可するか、または依存性テストに不合格のアセットのパブリケーションを保留します。

### 注意

- ディスクへのエクスポートのパブリッシュでは、テンプレートを選択することによって、アセットに承認システムをバイパスさせることができます。ディスクへのエクスポートのパブリッシュにおける承認システムの詳細は、[第 13 章 「ディスクへのエクスポートのパブリッシュの様々なトピックおよび承認プロセス」](#) を参照してください。
- 通常は、ワークフロー・プロセスに承認手順を組み込みます。ワークフローの詳細は、[第 9 章 「ワークフロー・プロセスの作成と管理」](#) を参照してください。
- アセットの承認方法の詳細は、*Oracle WebCenter Sites ユーザーズ・ガイド* のパブリッシュに関する章を参照してください。

承認システムの機能の詳細は、[第 12 章 「承認システム」](#) および [第 13 章 「ディスクへのエクスポートのパブリッシュの様々なトピックおよび承認プロセス」](#) を参照してください。

## パブリッシュ ・ スケジュール

パブリッシュ・セッションは(パブリッシュ方法に関係なく)、**パブリッシュ・イベント**と呼ばれるバックグラウンドのバッチ・プロセスとして実行されます。管理者は、パブリッシュ・イベントのスケジュールを構成します。

パブリッシュ・イベントは、毎日、毎週、毎時、15 分間隔、またはこれらの間隔を様々に組み合わせてスケジュールできます。複数のパブリッシュ・セッションをスケジュールする場合は、次のような様々なルールを考慮してください。

- 特定の宛先に対するパブリッシュは、逐次実行する必要があります。  
各パブリッシュ・セッションはバックグラウンド・イベントなので、特定の宛先では同時に 1 つのパブリッシュ・セッションのみサポートできます。特定の宛先で次のイベントがスケジュールされている時間に、その宛先に対してまだパブリッシュが実行中の場合は、スケジュールされているイベントは実行しようとして失敗し、その宛先に対して実行中のパブリッシュ・セッションが存在することを報告します。  
同様に、複数のソースを同一の宛先に同時にパブリッシュするように構成しないでください。そのような構成は、パブリッシュ・エラーおよびデータ整合性に関する問題の原因になります。
- 宛先システムが別の宛先へのパブリッシュを実行する可能性がある時間に、その宛先へのパブリッシュ・セッションをスケジュールしないでください。  
たとえば、開発システムから管理システムにパブリッシュし、管理システムから配信システムにパブリッシュするとします。この場合、管理システムから配信システムにパブリッシュしている間に、開発システムから管理システムへのパブリッシュ・セッションをスケジュールしないでください。
- 複数の宛先に対するパブリッシュは、同時に実行できます。複数の宛先に対してイベントを設定してすべて同じ時刻を選択することによって、複数の宛先に同時にパブリッシュできます。

パブリッシュ・イベントではデータベース・トランザクションを完了するので、パブリッシュ機能にユーザー・アカウントを指定する必要があります。このユーザーは**バッチ・ユーザー**と呼ばれ、futuretense\_xcel.ini ファイルの xcelerate.batchuser プロパティおよび xcelerate.batchpass プロパティを使用して、Sites システムのバッチ・ユーザー・アカウントを指定します。

### 注意

パブリッシュには、バッチ・ユーザーとは別に、ミラー・ユーザーも必要です。詳細は、[330 ページの「ユーザーとサーバーへのミラーリングのパブリッシュ」](#)を参照してください。

## パブリッシュ ・ セッションで行われる処理

パブリッシュ ・ システムが承認済アセットのパブリッシュを開始すると、WebCenter Sites は次の処理を実行します。

- PubSession 表に行を追加してパブリッシュ ・ セッションを作成し、PubSession ID という一意な ID をセッションに割り当てます。
- 問合せを実行して、パブリッシュ ・ セッションの宛先にパブリッシュされることが承認済で準備ができていすべてのアセットを収集します。
- 問合せによって返されたアセットをロックし、それらのアセットについて CacheManager に通知して、パブリッシュ ・ セッションの実行中は編集できないようにします。
- パブリッシュ方法に適したエレメントを起動し、パブリッシュする必要があるアセットのリストを渡します。

リストのアセットは、使用するパブリッシュ方法に応じて、ファイルにレンダリングされるか、または宛先データベースにミラーリングされます。ディスクへのエクスポート、サーバーへのミラーリングおよび XML へのアセットのエクスポートの各パブリッシュ方法で承認済アセットのリストに対して行われる処理の詳細は、次の章を参照してください。

- 第 14 章 「ディスクへのエクスポートのパブリッシュ ・ プロセス」
- 第 15 章 「サーバーへのミラーリングのパブリッシュ ・ プロセス」
- 第 16 章 「XML へのアセットのエクスポートのパブリッシュ ・ プロセス」

パブリッシュ ・ セッションが終了すると、パブリッシュ ・ システムはどのアセットがパブリッシュされたかを承認システムに通知し、次にそれがページ ・ キャッシュを更新します。

## パブリッシュ ・ セッションに関する情報の取得

WebCenter Sites は、各パブリッシュ ・ セッションに関する情報をログ ・ ファイルおよび WebCenter Sites データベースの様々な表に書き込みます。この情報の大半は、セッションのパブリッシュ履歴として「パブリッシュ ・ コンソール」に表示されます。「パブリッシュ ・ コンソール」を表示するには、メイン ・ ウィンドウの一番上のボタン ・ バーにある「パブリッシュ」ボタンをクリックします。[379 ページの「トラブルシューティング」](#)も参照してください。

### 注意

「パブリッシュ ・ コンソール」を表示するには、xcelpublish ACL が必要です。





## 第 12 章

# 承認システム

この章では、WebCenter Sites の承認システムの基本機能について説明します。ここでは、特定の操作を実行するための手順は説明しません。それよりも、管理者が承認システムのプロセスについて基本的な理解を得られるようにすることを目的としています。承認システムのプロセスは、特にディスクへのエクスポートのパブリッシュの場合、複雑で完全な対話型で行われるプロセスです。

この章の各項は、できるかぎり自己完結した形で記述され、概念を示す例を多数掲載しています。これらの項は、順番に読んで理解できるように編成されています。リファレンスとして使用する場合は、必要な項を参照してください。この章は、まず初歩的な内容（特に承認システムの用語と定義）について説明し、それに基づいて話を進めながら、最終的に承認システムがその機能を実行する仕組みを包括的に理解できるように構成されています。

### 注意

承認プロセスの概要は、[279 ページの「包括的なシナリオ」](#)を参照してください。

この章は、次の項で構成されています。

- [概要](#)
- [依存性分析の概要](#)
- [用語と定義](#)
- [依存性分析のルール](#)
- [包括的なシナリオ](#)
- [リファレンス：承認状態](#)

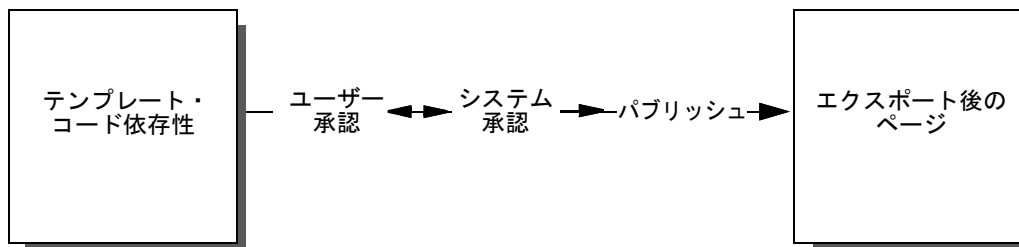
## 概要

パブリッシュ・セッションを開始するには、パブリッシュの宛先に対してアセットを承認する必要があります。これは、想像以上に複雑なタスクです。企業サイトでは膨大な数のアセットがホストされているので、依存性によって相互に関連付けられていて、パブリッシュするために一緒に承認する必要があるアセットをユーザーが追跡することは不可能です。その結果、ユーザーは通常、承認を必要とするアセットの一部しか承認していません。非承認アセットが存在すると、アセット間のリンクが機能しなくなるため、承認アセットの整合性が失われる恐れがあります。そこで、この部分を承認システムで処理します。

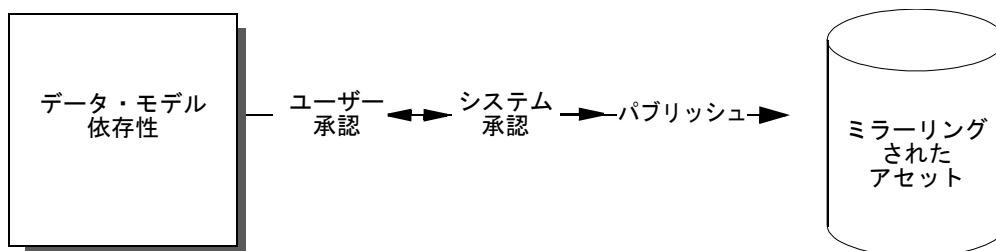
承認システムの最終目的は、パブリッシュされたコンテンツの整合性を保護することです。この目的を達成するために、承認システムはユーザー承認済アセットのパブリケーションを機械的には許可しません。かわりに、本当にパブリケーションの準備ができているのかを判断するために、ユーザー承認済アセットの状態を評価します。必要であれば、承認システムは、ユーザーによるサポート・アセットの承認を支援します。

承認システムの運用中は、テンプレートまたはデータ・モデルでエンコードされているアセットの依存性が承認済アセットの間で維持されることが保証されます。したがって、アセットがパブリッシュされた場合、パブリッシュの宛先でそれらの依存性を再現できます。承認済の一連のアセットに機能しないリンクが存在しない場合、パブリッシュされた一連のアセットにも機能しないリンクは存在しないと考えられます。承認済の一連のアセットのバージョンの一致が維持される場合、パブリッシュされた一連のアセットでもバージョンの一致が維持されると考えられます。

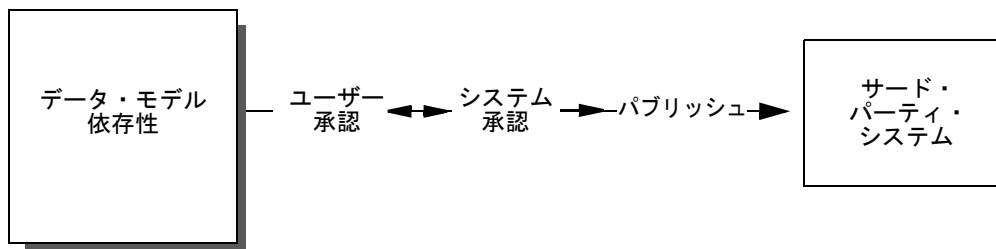
## ディスクへのエクスポートのパブリッシュ



## サーバーへのミラーリングのパブリッシュ



## XML へのエクスポート



## 依存性分析の概要

承認システムは、承認済アセットの機能しないリンクおよびバージョンの不一致を分析する際、依存性テストを実行します。

1. 承認システムは、ユーザー承認済アセット間の依存性が、テンプレート・コードまたはデータ・モデルのどちらかで指定されている依存性と一致するかどうかを、パブリッシュ方法を考慮しながら判断します。[261 ページの図 8](#)を参照してください。

- ディスクへのエクスポートのパブリッシュの場合、承認システムはテンプレート・コードに基づいて (承認済アセット間の) 依存性をテストします。テンプレートのコードを評価して、依存性を判断します。特定のタイプのアセットにデフォルト・テンプレートが割り当てられている場合は、そのテンプレートを使用して依存性を判断します。デフォルトのテンプレートがない場合、承認システムでは特定のアセットに指定されるテンプレートが使用されます。(承認およびディスクへのエクスポートのパブリッシュの詳細は、[第 13 章「ディスクへのエクスポートのパブリッシュの様々なトピックおよび承認プロセス」](#)を参照してください。)

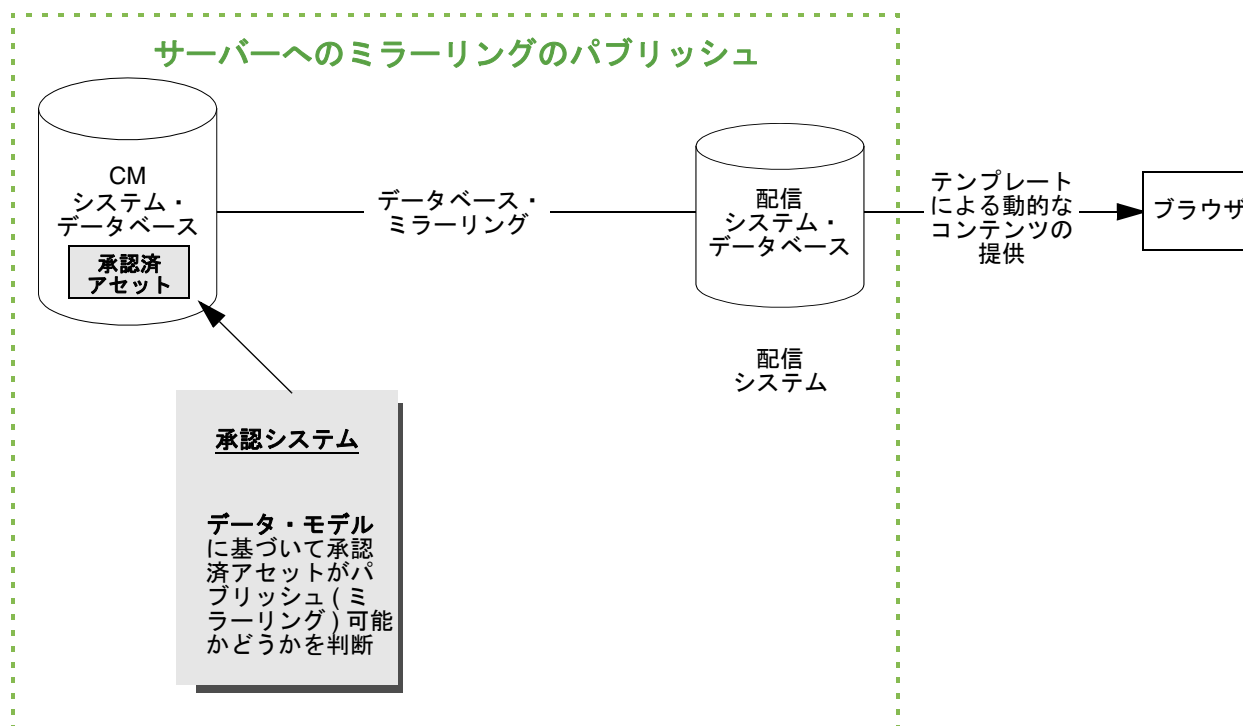
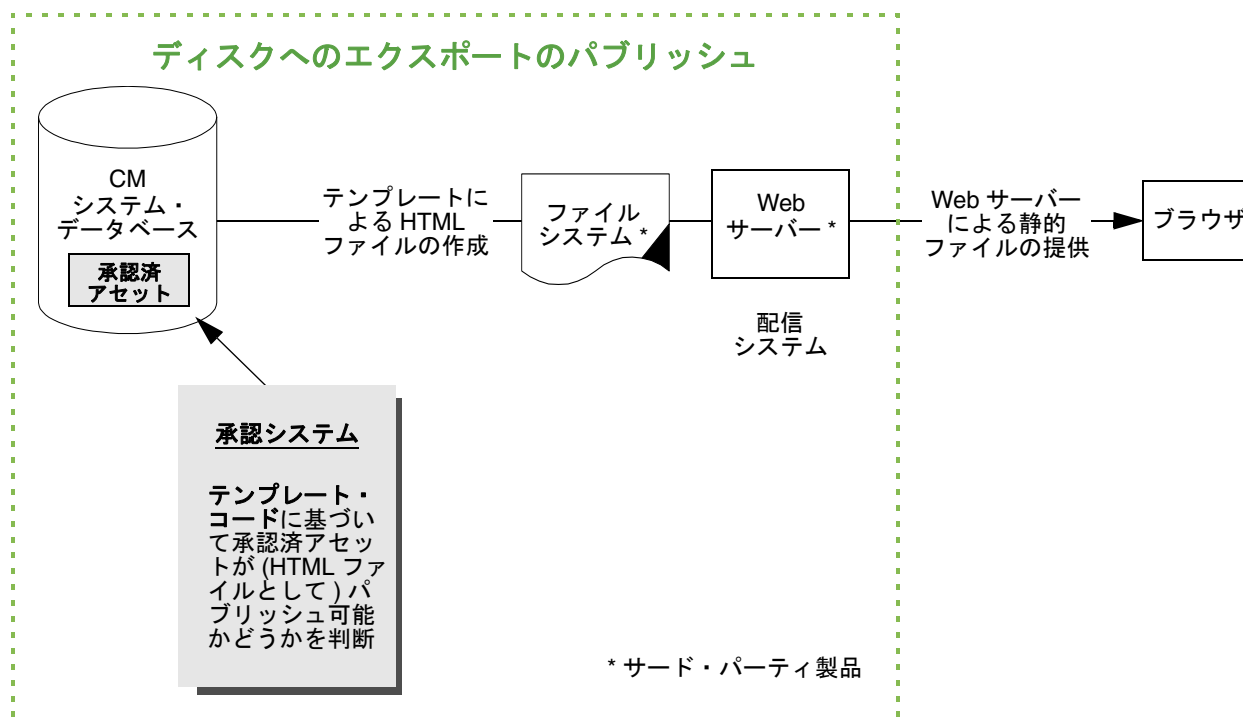
- サーバーへのミラーリングのパブリッシュおよび XML へのエクスポートの場合、承認システムはデータ・モデルに基づいて (承認済アセット間の) 依存性をテストします。
- 2. ユーザー承認済アセットに十分な依存性があることを検出した場合、アセットをパブリッシュすることを許可し、パブリッシュ・システムにリリースすることによって次のパブリッシュ・セッションの処理対象にします。  
一方、依存性が不十分なことを検出した場合は、それらの依存性がパブリケーション時に十分になるようなパブリッシュされたアセットを探し、パブリッシュされたコンテンツを参照します。PublishedAssets 表をスキャンして、ターゲット宛先に何がパブリッシュされているかを調べます。
- 承認を必要とするアセットがターゲット宛先に (該当する場合は正しいバージョンで) 存在しない場合、ユーザーにアセットを承認するように要求します。
- 承認を必要とするアセットがすでにターゲット宛先に (該当する場合は正しいバージョンで) 存在する場合、このアセットによりパブリケーション時に依存性が十分になるので、このアセットを承認 (および再パブリケーション) する必要はありません。

### 注意

バージョンの一致は、Sites 管理者が要求できます。その場合、(exists および exact と呼ばれる) 依存性基準を満たすには、ユーザー承認済アセットのバージョンがパブリッシュされているアセットのバージョンと一致する必要があります。

バージョンの一致は、サーバーへのミラーリングのパブリッシュの場合は、gator.ini の mwb.conservativedependencies プロパティで指定します。ディスクへのエクスポートのパブリッシュの場合は、テンプレート・コードで指定します。詳細は、[273 ページの「コンテンツのバージョンの一致の保証」](#)を参照してください。

図 7: 承認およびパブリッシュ方法



3. 承認システムは、すべてのユーザー承認済アセットの分析を完了すると、特定のアセットのパブリッシュを承認または禁止します。

承認システムは、パブリッシュを一括して承認または禁止するのではなく、分割してパブリッシュする方法をサポートします。依存性テストに合格したアセットはパブリッシュ・システムにリリースされ、次のパブリッシュ・セッションの処理対象になります。依存性テストで不合格だったアセットはパブリッシュ・システムで保留され、承認を必要とするアセットが追加されたことがユーザーに通知されます。このように、承認済アセット間の依存性は、パブリッシュ・セッションの処理量が想定より少なくなる原因になります。

承認済アセット間の依存性には、固有の処理および名前（承認依存性）があり、どちらも承認システムの動作を理解するために重要です。この章の残りの部分では、主に承認依存性について説明します。承認依存性は、同様に重要な用語である承認および承認状態とともに、258 ページの「用語と定義」で説明しています。（承認プロセスの概要は、279 ページの「包括的なシナリオ」を参照。）

## 用語と定義

承認、承認依存性および承認状態は、WebCenter Sites パブリッシュ・モデルで特に重要な 3 つの用語です。これらは、承認システムの動作を理解する上で重要な依存性に関連しています。このガイド全体で、さらに WebCenter Sites パブリッシュ・インタフェースでも、使用されています。これらの用語とその定義およびそれらを説明する例について、十分に理解してください。これらの用語の詳細は、次の項を参照してください。

- [承認：パブリッシュする意図とパブリッシュする権限の対比](#)
- [承認依存性](#)
- [承認状態](#)

### 承認：パブリッシュする意図とパブリッシュする権限の対比

アセットをパブリッシュするには、まずユーザーが承認し、次に承認システムが承認する必要があります。承認のタイプを区別するために、ここでは**ユーザー承認**と**システム承認**という用語を使用します。

- アセットのユーザー承認とアセットのシステム承認は、次の点で異なります。

アセットのユーザー承認は、ユーザーがアセットをパブリッシュする意図を示します。一方、アセットのシステム承認は、アセットをパブリッシュする権限をパブリッシュ・システムに付与します。

アセットのユーザー承認は、依存性テストを実行するためにアセットを承認システムに送信することと同等です。ユーザー承認済アセットに対するシステム承認は、(1) ユーザー承認済アセットが依存性テストに合格していることを確認し、(2) 次のパブリッシュ・セッションでパブリケーションするためにアセットをパブリッシュ・システムにリリースすることと同等です。

- ユーザーがアセットを承認する機会を得る前に、そのアセットを承認システムが承認することは決してありません。

アセットがシステム承認済であるということは、ユーザーはすでにそのアセットを承認済であるということです。

- ユーザーがアセットを承認する場合、常に特定のパブリッシュの宛先が対象になります。

アセットがユーザー承認済であるという場合、パブリッシュの宛先はわかっています (必要であれば明示的に特定されます)。

- システム承認は条件付きです。

ユーザーがアセットを承認する際にアセットに割り当てることができる状態は、「承認済」の 1 つのみです。承認システムはこれを仮の承認として扱い、確認を必要とする状態として対応します。承認システムは、依存性テストを完了して「承認済」状態が有効であることを確認したときのみ、アセットのパブリケーションを承認 (リリース) します。

しかし、「承認済」状態を確認できない場合は、その状態を却下し、アセットに独自の承認状態を割り当て、一緒に承認する必要があるサポート・アセットに関してユーザーに通知します。さらに、ユーザーがサポート・アセットを承認できるまで、現在のユーザー承認済アセットのパブリケーションを保留します。このように、ユーザー承認済アセットのシステム承認は、ユーザーがサポート・アセットも一緒に承認することを条件としています。条件付き承認は、承認依存性によって生じます。これについては、次の項で説明します。

- 承認システムは、アセットを非承認できます。

承認システムは、承認表を最新の状態に維持する方法の 1 つとして、アセット変更イベントを処理する承認キューをサポートしています。たとえば、アセットがパブリケーションを承認された後に変更された場合、承認キューでアセットを非承認にする、すなわちパブリッシュ・キューから拒否することによってこの変更を処理します。

ユーザーは承認キューにアクセスできません。承認キューは、デフォルトでは 5 分間隔で実行されます。ただし、承認機能を使用する機能 (「パブリッシュ」タブなど) を起動すると、承認情報を最新の状態に維持するために、画面がレンダリングされる前に承認キューが強制的に実行されます。

## 承認依存性

### 注意

この項を読む前に、ユーザー承認とシステム承認の 2 つの用語の違いを理解していることを確認してください。詳細は、[258 ページの「承認：パブリッシュする意図とパブリッシュする権限の対比」](#)を参照してください。

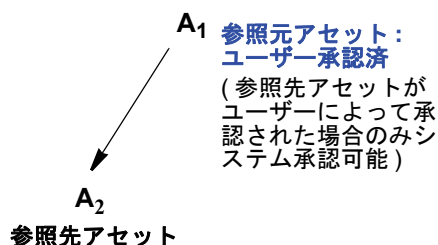
**承認依存性**は条件付き依存性であり、これによる結果は条件付き承認となります。

**条件 1.** 承認依存性は、コンテンツ用に別のアセットを参照するアセットをユーザーが承認した場合に作成されます。

**条件 2.** 承認依存性が作成されている場合、参照元アセットのシステム承認は、承認先アセットが承認されることが条件になります。

つまり、参照先アセットも承認されている場合のみ、承認システムは、参照元アセットを承認できます。このとき、参照元アセットは、参照先アセットに対する承認依存性があるといえます。

承認依存性 =  
条件付き依存性



### 注意

ここからは、参照元アセットを親アセットと定義します。参照先アセットは子アセットです。わかりやすくするために、親アセットは親としてのみ定義され、子アセットは子としてのみ定義されているとします。

承認依存性には、次のような重要な意味合いがあります。

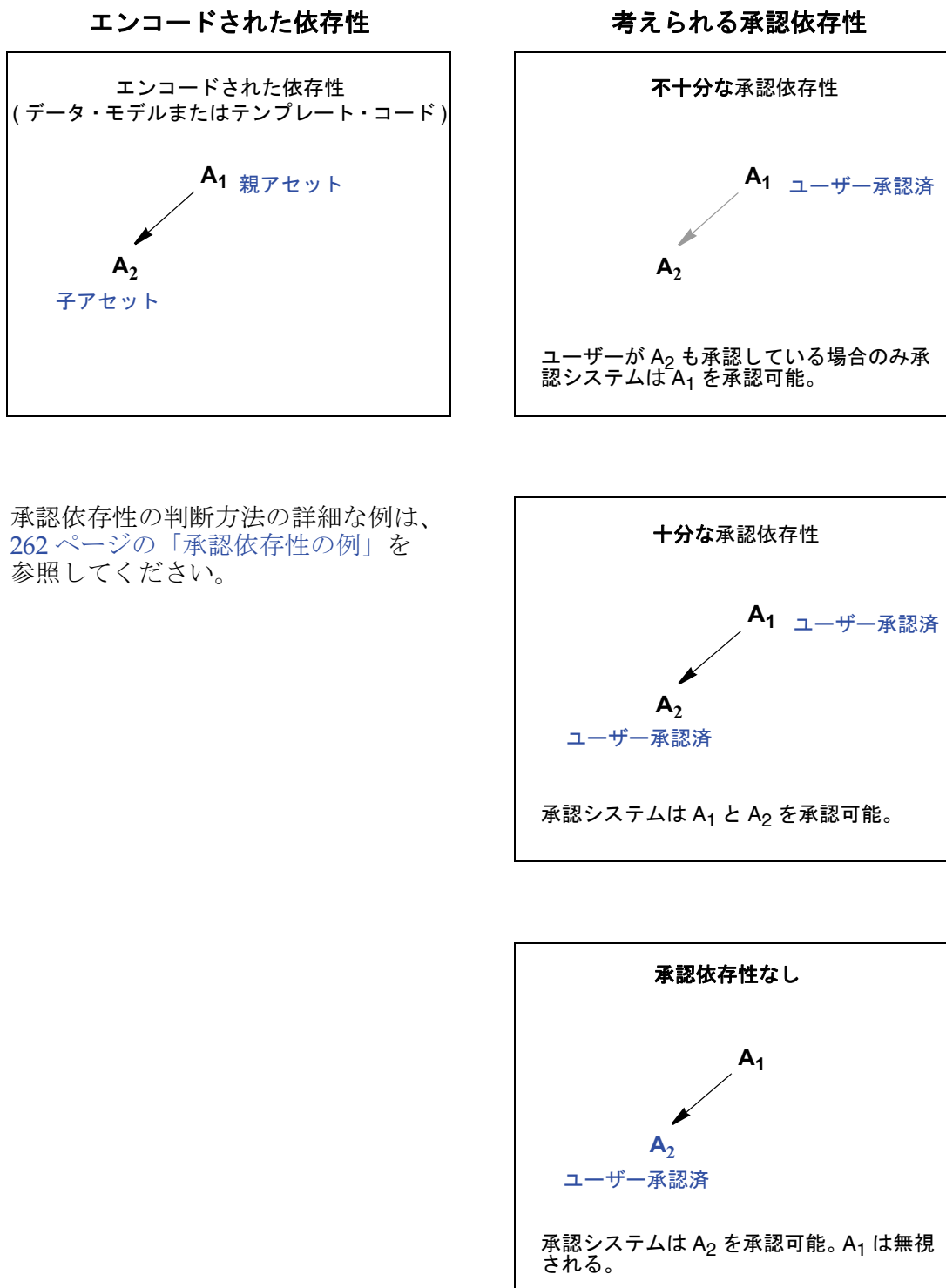
承認依存性は 2 つのソース (データ・モデルまたはテンプレート・コード) のどちらかで作成されますが、**承認依存性の数は必ずしもソースの依存性の数に等しいわけではありません。**[図 8](#) に示すように、ソースに依存性が存在する場合、承認の際に、不十分な承認依存性、十分な承認依存性または承認依存性なしのいずれかになる可能性があります。どれになるかは、次の 2 つの要因によって決まります。

- ユーザーが承認済のアセット。
- 承認システムによる承認依存性の処理方法。承認システムは、特定のアセットのペアに対して依存性が存在すると単純に判断するわけではありません。承認済アセットが親または子のどちらであるかをテストすることによって、依存性の方向を明確に決定します。親アセットが承認されていると判断した場合、承認依存性を記録します。子アセットが承認されていると判断した場合、承認依存性を記録しません。

承認依存性の判断方法の詳細な例は、[262 ページ](#)を参照してください。



図 8: エンコードされた依存性と承認依存性

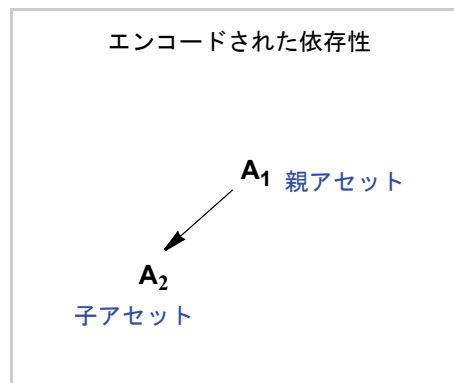


## 承認依存性の例

前の項 (特に 261 ページの図 8) を補足するために、この例では承認依存性の判断方法を詳細に示します。

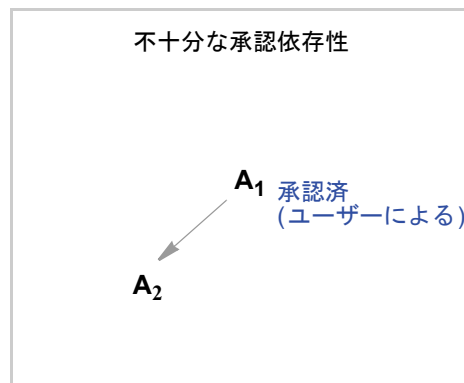
この例では、2 つのアセットが存在するデータ・モデルを使用します。アセット  $A_1$  はコンテンツ用にアセット  $A_2$  を参照します。データ・モデルで指定されている依存性は 1 つ ( $A_1 \rightarrow A_2$ ) ですが、ユーザーがアセットを承認する方法は 3 つあり、したがって、それぞれ異なる承認依存性が作成されます。

- 不十分な承認依存性
- 十分な承認依存性
- 承認依存性なし



### 1. 不十分な承認依存性

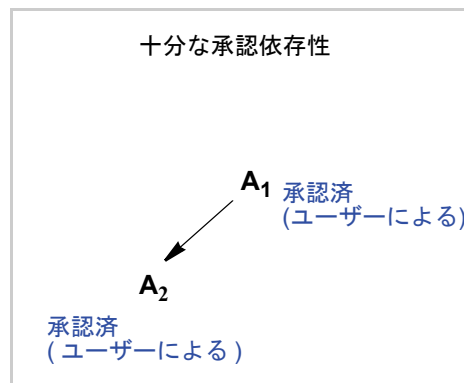
この例では、ユーザーは親アセット ( $A_1$ ) を承認していますが、その子 ( $A_2$ ) を承認していません。承認システムは、データ・モデルを (承認済アセットをシードとして) クロールし、 $A_1 \rightarrow A_2$  依存性を検出します。(ユーザーが  $A_1$  のみ承認していることから) この依存性は不十分であると判断すると、それを不十分な承認依存性として分類します。さらに、 $A_1$  の「承認済」状態を却下し、ユーザーが  $A_2$  も承認するまで  $A_1$  のパブリケーションを禁止し、ユーザーに  $A_2$  を承認する必要があることを通知します。



この例では、 $A_1$  のシステム承認は、 $A_2$  のユーザー承認が条件になります。 $A_1$  は、 $A_2$  に対する承認依存性があるといえます。(承認依存性が不十分なので承認システムがユーザーに通知します。)

## 2. 十分な承認依存性

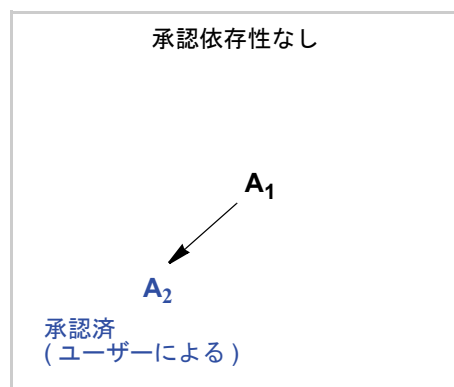
この例では、ユーザーは親アセットとその子の両方を承認しています。承認システムは、データ・モデルの依存性が (ユーザーが  $A_1$  と  $A_2$  の両方を承認していることから) 十分であることを検出して、依存性を十分な承認依存性として分類します。さらに、「承認済」状態であることを確認し、次のパブリッシュ・セッションの開始時の  $A_1$  と  $A_2$  の両方のパブリケーションを許可します。



前の例と同じように、 $A_1$  のシステム承認は、 $A_2$  のユーザー承認が条件になります。ただし、この例では、承認依存性は十分です。ユーザーには何も通知されません。アセットは、次のパブリッシュ・セッションでパブリッシュされます。

## 3. 承認依存性なし

この例では、ユーザーは子アセット ( $A_2$ ) を承認していますが、その親 ( $A_1$ ) を承認していません。この場合、( $A_2$  が  $A_1$  に対して依存性がないので) 承認システムは、承認依存性を認識しません。承認システムは、ユーザーの「承認済」状態を確認します。その結果、 $A_2$  はパブリッシュされます ( $A_1$  はパブリッシュされません)。



## 要約

- データ・モデルとテンプレート・コードでは指定する依存性のタイプが区別されますが(たとえば、アソシエーションと推奨アソシエーション)、承認システムはそれらの依存性を親子承認依存性として処理することによって単純化します。親は参照元アセットであり、コンテンツをその子に依存しています。

このルール(および依存性分析に関する他のルール)の詳細は、この章で後述しています。[269 ページの「依存性分析のルール」](#)を参照してください。

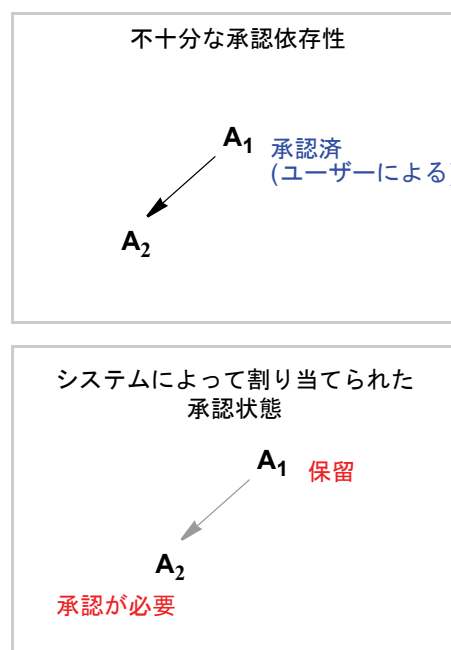
- データ・モデル依存性とテンプレート依存性は、開発者がどのアセットがコンテンツ用にどのアセットをどのように参照するかを指定するために作成しますが、承認依存性は、アセットを承認するユーザーが作成します。承認依存性は、承認システムによって分析され、どのユーザー承認済アセットがパブリケーションのためにリリース可能であり、どのユーザー承認済アセットがパブリケーションを保留する必要があるのか、どのアセットがまだユーザーによって承認されていないのか、どのアセットがパブリッシュ済なのか、などを示すために使用されます。
- データ・モデル依存性とテンプレート・コード依存性は、特定のデータ・モデルおよびテンプレートに対して固定されています。承認依存性は、一連のアセットおよび特定のパブリッシュの宛先が固定されていたとしても、変動する可能性があります。これは、承認するアセットの組合せが、承認のたびに異なるからです。

## 承認状態

承認システムは、承認依存性を検出すると、アセットごとにユーザーが設定した「承認済」ラベルを確認するか、またはアセットに独自の承認状態を設定するか、どちらかを実行する必要があります。**承認状態**は、承認システムによってユーザー承認済アセットに割り当てられたラベルであり、その承認ステータス、すなわちなぜ承認済アセットをパブリッシュできないのか、アセットは承認されてパブリッシュされているのか、アセットはパブリッシュ可能（承認済だがパブリッシュ・セッションがまだ開始されていないのでパブリッシュされていない）なのか、などを示します。承認状態の完全なリストは、[283 ページの表 2](#) を参照してください。

たとえば、右の図では、ユーザーがアセット  $A_1$  を「承認済」とマークしています。しかし、システムはこれを仮の承認として扱います。システムは、依存性分析の後で、 $A_1$  が（たとえ承認済であっても） $A_2$  に対する不十分な承認依存性があり、（ $A_2$  も承認されるまで）パブリケーションを保留する必要があると判断します。

システムは  $A_1$  に「保留」という承認状態を割り当てることによって、ユーザーによる  $A_1$  の承認をオーバーライドします。 $A_2$  には、「承認が必要」状態を割り当てます。



## 承認状態シナリオ

一連のアセットおよび特定のパブリッシュの宛先が固定されていたとしても、承認状態のリストは承認のたびに異なる可能性があります(通常は異なります)。これは、ユーザーによって承認されるアセットの組合せが、承認のたびに異なる傾向があるからです。説明のために、単純な依存性モデルと 3 つの承認シナリオを使用します。どのシナリオも同一のユーザーが実行します。

右の図では、それぞれの矢印が承認依存性を表します。4 つのアセットがすべてパブリッシュされるには、パブリケーション時に 4 つの承認依存性が十分である必要があります。

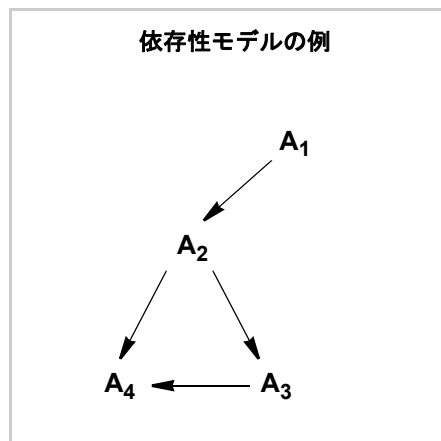
$A_1 \rightarrow A_2$   
 $A_2 \rightarrow A_3$   
 $A_2 \rightarrow A_4$   
 $A_3 \rightarrow A_4$

(どのアセットも一度もパブリッシュされていません。)

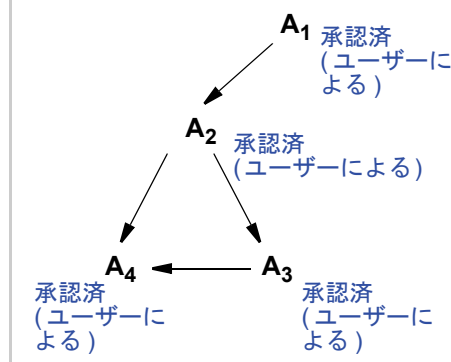
ここで、ユーザーが承認するアセットの組合せが異なる 3 つのシナリオについて考えます。

1. 最初の(そして理想的な)シナリオでは、ユーザーが 4 つのアセットをすべて承認することによって、同時に 4 つの十分な承認依存性が成立しています。

このシナリオでは、システムは、4 つの承認依存性を記録し、それらが十分な承認依存性があると判断します。アセットが承認済であることを確認し、次のパブリッシュ・セッションが開始されたときにパブリケーションすることを許可します。



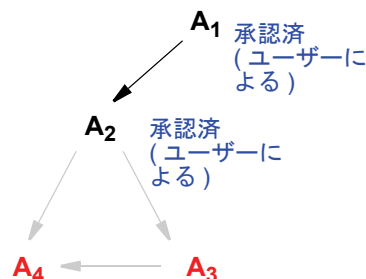
1. ユーザーが 4 つのアセットを承認し、承認システムはそれらのパブリケーションを許可する。



**2a.** 2 番目のシナリオでは、ユーザーは  $A_1$  と  $A_2$  の 2 つのアセットを承認し、これにより 4 つの承認依存性のうち 1 つが十分になります。次の 3 つの承認依存性は不十分なままです。

$A_2 \rightarrow A_3$   
 $A_2 \rightarrow A_4$   
 $A_3 \rightarrow A_4$

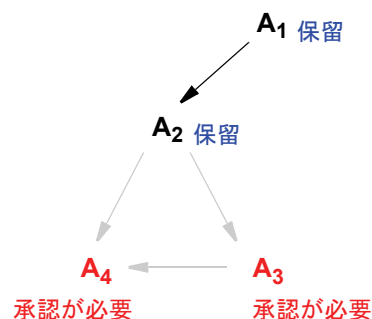
2a. ユーザーが 2 つのアセットを承認する。



**2b.** 承認システムは 3 つの不十分な承認依存性を記録します。すべてのアセットについてパブリケーションの準備ができていないと判断し、すべてのアセットに独自の承認状態を割り当てて、次のリストをユーザーに返します。

- $A_3$  と  $A_4$ 、「承認が必要」状態。
- $A_1$  と  $A_2$ 、「保留」状態。これらのアセットは、 $A_3$  と  $A_4$  が承認されるまでパブリッシュできません。

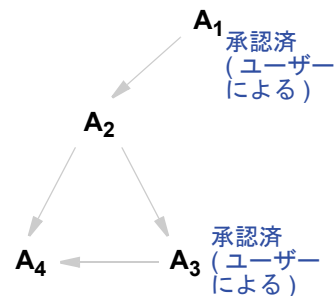
2b. システムが承認状態を割り当てる。



**3a.** 3 番目のシナリオでは、ユーザーは同じように 2 つのアセットを承認しますが、今回は  $A_1$  と  $A_3$  なので、次の 4 つの承認依存性はどれも不十分になります。

$A_1 \rightarrow A_2$   
 $A_2 \rightarrow A_3$   
 $A_2 \rightarrow A_4$   
 $A_3 \rightarrow A_4$

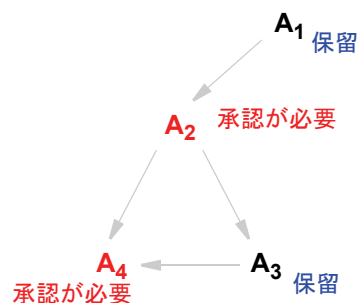
3a. ユーザーが 2 つのアセットを承認する。



**3b.** 承認システムは、4 つの不十分な承認依存性を記録し、すべてのアセットについてパブリケーションの準備ができていないと判断します。シナリオ 2 のリストとは異なるアセットと承認状態のリストを返します。今回のリストは次のとおりです。

- A<sub>2</sub> と A<sub>4</sub>、「承認が必要」状態。
- A<sub>1</sub> と A<sub>3</sub>、「保留」状態。

3b. システムが承認状態を割り当てる。



### 注意

ユーザーが承認するアセットの組合せが異なると、システムが判断する承認依存性が異なり、したがって関連するアセットに割り当てる承認状態も異なります。

- ユーザーが A<sub>2</sub> を承認した場合、この例ではデータ・モデルで 4 つの依存性が指定されているにもかかわらず、承認システムが判断するのは 3 つの承認依存性のみ (A<sub>2</sub> → A<sub>3</sub>、A<sub>2</sub> → A<sub>4</sub> および A<sub>3</sub> → A<sub>4</sub>) です。
- ユーザーが A<sub>3</sub> を承認した場合、承認システムは 1 つの承認依存性 (A<sub>3</sub> → A<sub>4</sub>) を判断します。
- ユーザーが A<sub>4</sub> を承認した場合、承認システムは承認依存性を 1 つも判断しません。

承認依存性の判断方法の詳細は、[260 ページ](#)の「承認依存性」を参照してください。



## 依存性分析のルール

この機能を実行するために、承認システムは様々なルールに従います。この項ではそれらのルールの概要を示し、その後の項で詳細に説明します。

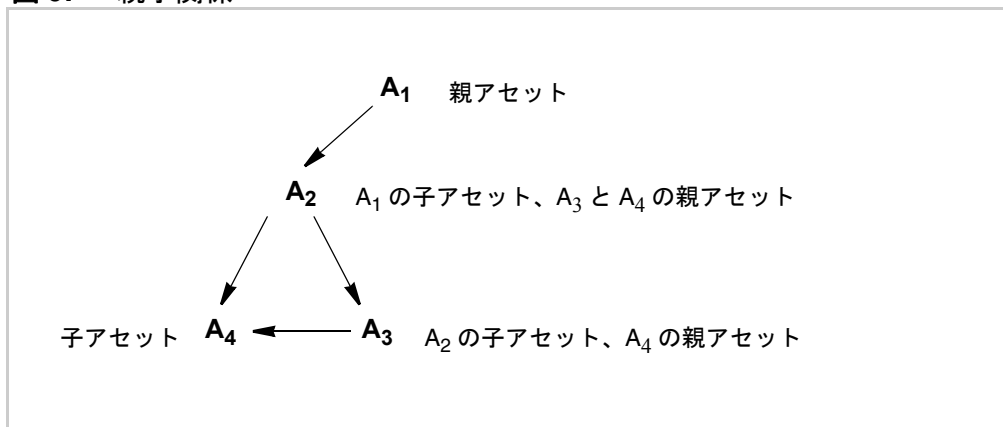
- 承認システムは、すべての承認依存性を親子関係として処理することによって単純化します。詳細は、[269 ページの「承認依存性と親子関係」](#)を参照してください。
- ディスクへのエクスポートのパブリッシュの場合、承認システムはテンプレート・コードに基づいて承認依存性をテストします。詳細は、[270 ページの「ディスクへのエクスポートのパブリッシュ」](#)を参照してください。
- サーバーへのミラーリングのパブリッシュおよび XML へのエクスポートの場合、承認システムはデータ・モデルに基づいて承認依存性をテストします。詳細は、[272 ページの「サーバーへのミラーリングのパブリッシュおよび XML へのエクスポート」](#)を参照してください。
- バージョンの一致を制御する必要がある場合、管理者は、exists、exact または none のいずれかの依存性を設定して、バージョンの一致を強制または取り消すことができます。詳細は、[273 ページの「コンテンツのバージョンの一致の保証」](#)を参照してください。
- 不十分な承認依存性があると判断すると、冗長な承認を回避するため、承認システムはパブリッシュされたコンテンツを検索します。詳細は、[278 ページの「パブリッシュされたコンテンツの評価」](#)を参照してください。

### 承認依存性と親子関係

承認システムは、データ・モデルとテンプレート・コードで指定されている様々なタイプの依存性（たとえば、アソシエーションと推奨アソシエーション）を単純化します。その由来やタイプに関係なく、すべての承認依存性を親子関係として分類し、次のルールに従います。

- 別のアセットを参照するアセットは常に親アセットになります。参照されるアセットは子アセットになります。[図 9](#)に、親子関係の例を示します。この例では、親としてのみ定義されるアセットが 1 つと子としてのみ定義されるアセットが 1 つあり、それ以外は親としても子としても定義されます。

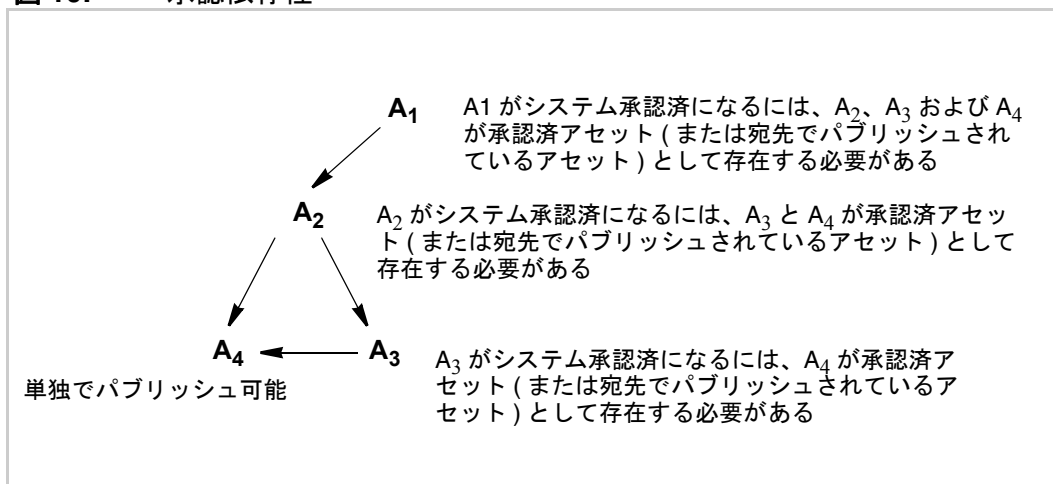
図 9: 親子関係



- 親アセットは、コンテンツを子アセットに依存しています。
- 承認システムは、子アセットがユーザー承認済であるか、またはすでにパブリッシュの宛先に存在する場合にのみ、親アセットを承認します。
  - 子アセットが親でもある場合、その子アセットを承認する必要があります (または宛先に存在する必要があります)、以下同様に繰り返されます。
  - パブリッシュ方法がサーバーへのミラーリングまたは XML へのアセットのエクスポートの場合、バージョンの一致を要件にできます (Sites 管理者の裁量によります)。その場合、承認システムは、アセットのバージョンをチェックします。バージョンの一致の詳細は、[275 ページの「Exists/Exact 依存性ルール」](#)を参照してください。
- 承認システムは、親アセットに関係なく、子アセットのパブリケーションを承認します。ライブ・サイトでは、親から子へのリンクが機能しないようには見えませんが、単に表示されないだけです。(この点で、親データが不注意でライブ・サイトから削除される可能性があります。)

図 10 に、4 つのアセット間の階層依存性を示し、同時に承認する必要があるアセット (承認依存性の結果として) および単独で承認できるアセットを示します。

図 10: 承認依存性



## ディスクへのエクスポートのパブリッシュ

ディスクへのエクスポートのパブリッシュの場合、承認システムはテンプレート・コードに基づいて承認依存性をテストします。

### 注意

承認テンプレートは、ディスクへのエクスポートのパブリッシュに対する開発者の承認方針を表します。ディスクへのエクスポートのパブリッシュの承認は複雑なので、[第 13 章「ディスクへのエクスポートのパブリッシュの様々なトピックおよび承認プロセス」](#)で別途説明します。この後の項では、基本概念について説明します。

## 承認依存性の評価

ディスクへのエクスポートを使用してパブリッシュされるフレックス・アセットとベーシック・アセットの場合、どちらにもテンプレートと参照の 2 つのタイプの承認依存性があります。

**テンプレート依存性**は、データ・モデルから厳密に独立しており、データ・モデルでアセットがどのように関連付けられているか (またはアセットが関連付けられているかどうか) には無関係です。たとえば、データ・モデルでは、記事とイメージのアソシエーションを指定できます。サーバーへのミラーリングのパブリッシュでは、記事はコンテンツをイメージに依存しており、イメージなしではパブリッシュできません。しかし、ディスクへのエクスポートのパブリッシュでは、アセットをレンダリングするために選択されているテンプレートで、独自の依存性が定義されます。この場合、次の可能性が考えられます。

- 承認テンプレート・コードで記事とイメージのアソシエーションを依存性として再作成し、それによってデータ・モデルに既存の関係をパブリッシュされたページに作成します。
- 承認テンプレート・コードでさらに別のアセット (オーディオ・ファイルなど) に対する依存性を作成し、それによってデータ・モデルには存在しないけれどもパブリッシュされたページには存在する関係を作成します。
- 承認テンプレート・コードでは 2 つのアセット間に依存性を作成しません。したがって、パブリッシュされたページでも関係を作成しません。それらのアセットは、データ・モデルでアソシエーションが指定されていたとしても、スタンドアロン・コンテンツとして処理され、互いに独立してパブリッシュされます。

テンプレート依存性を生成するタグは次のとおりです。

- `<asset:load>`
- `<asset:loadall>`
- `<assetset:setasset>`
- `<assetset:setlistedassets>`
- `<render:logdep>`

**参照依存性**は、あるページから別のページへのリンクが作成される際に生成されます。これらは、2 つのページのプライマリ・アセット間の参照依存性として登録されます。たとえば、アセット A の承認テンプレートから、アセット B がプライマリ・アセットであるページへのハイパーリンクを作成した場合、承認システムはこれをアセット A の B に対する参照依存性として登録します。このような依存性を生成するタグは次のとおりです。

- `<render:getpageurl>`
- `<render:gettemplateurl>`
- `<render:gettemplateurlparameters>`

ディスクへのエクスポートのパブリッシュの承認依存性は、複雑なトピックです。承認依存性の詳細は、[第 13 章「ディスクへのエクスポートのパブリッシュの様々なトピックおよび承認プロセス」](#)を参照してください。

## テスト・レンダリング

アセットがディスクへのエクスポートのパブリッシュの宛先に対してユーザー承認済である場合、承認システムは、アセットに割り当てられているテンプレートのコードを評価することによって、そのアセットの承認依存性を判断します。また、コンテンツがパブリッシュされる際に明示される構成依存性のテンプレート・コードを評価するテスト・レンダリングも実行します。

**構成依存性**は、アセットを使用して生成されたページのアセットに対する依存性です。これらはページのテンプレートのロジックによって決まります。テンプレートを作成し、承認時に承認依存性を作成するタグと同じタグで、パブリケーション時の構成依存性も作成します。

そのタイプのアセットにデフォルト・テンプレートが割り当てられている場合、承認システムはそのテンプレートを使用して依存性を判断します。デフォルトのテンプレートがない場合、承認システムでは特定のアセットに指定されるテンプレートが使用されます。

開発者がアセット・タイプのデフォルト・テンプレートを作成するのは、ディスクへのエクスポートのパブリッシュ方法で実際にアセットをパブリッシュする場合、必ずしもそのアセットに割り当てられているテンプレートが使用されるわけではなく、別のエレメントのコードによって、状況によっては別のテンプレートでそのアセットをレンダリングすることが決定される可能性があるからです。オンライン・サイトでそのような状況になる場合、テンプレートを作成した開発者が、承認システムが承認依存性を決定する際に使用するデフォルト・テンプレートも設計していることが考えられます。

管理者またはサイト・デザイナーは、アセット・タイプごとおよびパブリッシュの宛先ごとにデフォルト承認テンプレートを設定できます。[371 ページの「承認テンプレートまたはプレビュー・テンプレートの割当て」](#)を参照してください。

## サーバーへのミラーリングのパブリッシュおよび XML へのエクスポート

サーバーへのミラーリングおよび XML へのエクスポートのパブリッシュ方法では、承認システムはデータ・モデルに基づいて承認依存性をテストします。

### 注意

サーバーへのミラーリングのパブリッシュおよび XML へのエクスポートの場合、ライブ・サイトに不十分な**構成依存性**が存在する可能性があります。これは、サーバーへのミラーリングおよび XML へのエクスポートのパブリッシュの際、ページをレンダリングするテンプレートは評価されないからです。

構成依存性は、動的ページをアSEMBルしたときに現れます。構成依存性には、ページを生成するために使用する一連のアセットが含まれます。構成依存性の詳細は、[272 ページの「テスト・レンダリング」](#)および[第 13 章「ディスクへのエクスポートのパブリッシュの様々なトピックおよび承認プロセス」](#)を参照してください。

## コンテンツのバージョンの一致の保証

管理者が親アセットと子アセットのバージョンの一致を要求することによって、あらゆるパブリッシュ・セッション (たとえば 270 ページの図 10 のもの) の条件を厳しくして、それによって自己矛盾のないコンテンツを保証できます。バージョンに対する依存性は、データ・モデルまたはテンプレート・コードのどちらにもエンコードされません。

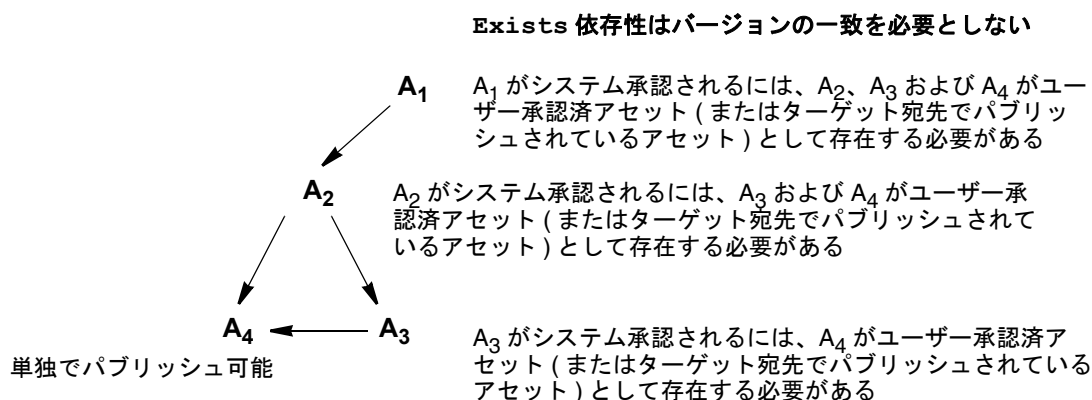
- サーバーへのミラーリングおよび XML へのエクスポートのパブリッシュの場合は、WebCenter Sites の `mwb.conservativedependencies` プロパティ (`gator.ini` ファイル) を `exists` または `exact` に設定することによって指定します。
- ディスクへのエクスポートのパブリッシュの場合は、該当するタグの `deptype` 属性を `exists`、`exact` または `none` に設定することによって指定します (タグのリストは 271 ページの「承認依存性の評価」を参照)。

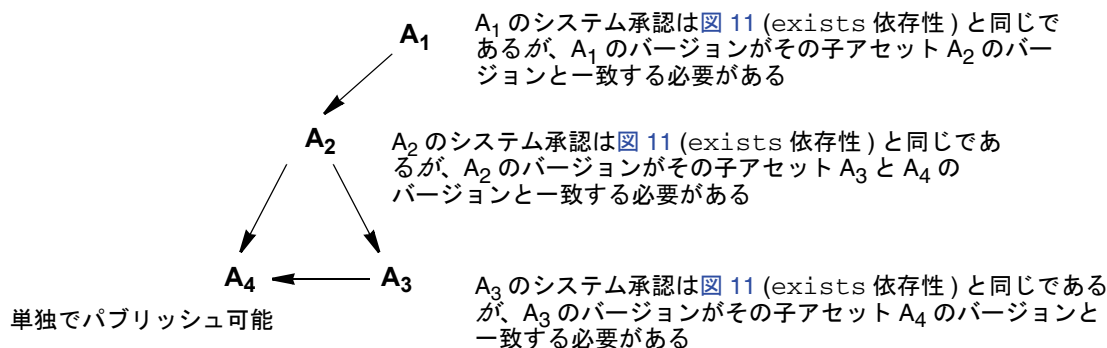
バージョンに対する依存性は、`exists`、`exact` または `none` の用語で修飾されます。

- **exists 依存性**は、バージョンの一致を必要としません。親をパブリッシュするには、単純に、その子アセットが承認済アセットまたはパブリッシュの宛先のパブリッシュされたアセットのいずれかとして存在する必要があります。親アセットのバージョンは、その子アセットのどのバージョンとも一致する必要はありません。
- **exact 依存性**は、バージョンの一致を必要とします。この依存性は、親のバージョンがその子アセットのバージョンと一致する必要がある (これはその依存性に関連するすべてのアセットのバージョンが互いに一致する必要があることを意味します) という点を除けば、`exists` 依存性と同じです。
- **none 依存性**の場合、それを使用しているタグでは承認依存性が指定されません。

`exists` 依存性と `exact` 依存性について、図 11 にまとめ、説明します。

図 11: Exists/Exact 依存性



**Exact 依存性はバージョンの一致を必要とする****サーバーへのミラーリングおよび XML へのエクスポートのパブリッシュの Exists 依存性と Exact 依存性**

フレックス・アセットのサーバーへのミラーリングおよび XML へのエクスポートのパブリッシュの場合、exists または exact のどちらの依存性が有効なのかは、gator.ini プロパティ・ファイルの mwb.conservativedependencies プロパティの値によって決まります。

- デフォルト値 (false) は、exists 依存性を示します。
- 値 true は、exact 依存性を示します。

**注意**

mwb.conservativedependencies が false (exists) に設定され、属性を使用している場合、その属性の「値タイプ」、「ストレージ・スタイル」、「外部 ID」、「外部表」および「外部列」の各フィールドはロックされ、変更できません。

mwb.conservativedependencies の値を変更した場合、その変更の影響を受けるアセットを再承認する必要があります。



## ディスクへのエクスポートのパブリッシュの Exists 依存性と Exact 依存性

ディスクへのエクスポートのパブリッシュの場合、開発者は、`getpageurl` および `assetload` といった適用可能なタグの `deptype` 属性を使用して、`exists`、`exact` または `none` に設定します。(タグのリストは、[272 ページの「テスト・レンダリング」](#)を参照してください)。

テンプレート依存性は、`exact` 依存性がデフォルトです。アセット B が変更されている場合、アセット A を承認するにはアセット B を承認する必要があります。参照依存性は、常に `exists` 依存性です。B を一度承認してパブリッシュした場合、A を再パブリッシュするために B を再承認する必要はありません。

いずれかのタグで `deptype="none"` が設定されている場合は例外です。その結果、タグによって承認依存性は一切作成されません。このことは、承認中に依存性のレコードが作成されないことを意味します。ディスクへのエクスポートのパブリッシュおよびライブ・サイトなど、他のすべてのコンテキストでは、`deptype` 属性は無視されます。

## Exists/Exact 依存性ルール

サーバーへのミラーリングまたは XML へのアセットのエクスポートの宛先にに対してアセットが承認されている場合、承認システムはデータ・モデルに基づいて承認依存性を判断します。

### 注意

この項を読む場合、承認依存性のコンテキストでは、依存アセットという用語は親アセットと同等であるという点に留意してください。承認依存性の親子関係を管理するルールの詳細は、[269 ページの「承認依存性と親子関係」](#)を参照してください。

## ベーシック・アセット・タイプ

ベーシック・アセットの場合、承認システムは次の依存性ルールに従います。

承認済アセットとの関係	依存性	
	Exists	Exact
アソシエーション	✓ exact として構成されている場合を除き、これがデフォルトです	
ページ・アセットのみの場合：サイト・プランの下位レベルの別のページ・アセット	✓	
埋込みリンク	✓	
埋込みページレット		✓

- アソシエーションのルール：
  - アセット・アソシエーションの設計方法に応じて、承認済アセットは、名前付きアセット・アソシエーションを通じて参照しているアセットに対して、exists 依存性または exact 依存性があります。
- ページ・アセットのルール：
  - 承認済ページ・アセットは、サイト・プランの階層 (SitePlanTree 表に反映されます) でそれ自体より下位にあるページ・アセットに対して、exists 依存性があります。
- 埋込みリンクのルール：
  - 承認済アセットは、埋込みリンクによって参照しているアセットに対して、exists 依存性があります。埋込みリンクの詳細は、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』を参照してください。
- 埋込みページレットのルール：
  - 承認済アセットは、埋込みページレットとして参照しているアセットに対して、exact 依存性があります。埋込みページレットの詳細は、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』を参照してください。

### CSElement アセットと SiteEntry アセット

SiteEntry アセットのルート・エレメントは、CSElement アセットにより表されます。次のルールが適用されます。

承認済 SiteEntry アセットは、参照している CSElement に対して、exists 依存性があります。

### フレックス・ファミリー

フレックス・ファミリー・メンバーの場合、承認システムは次の依存性ルールに従います。

承認済アセット	承認済アセットの依存性						
	フレックス親定義	フレックス親	フレックス定義	フレックス属性	フレックス・フィルタ	属性エディタ	テンプレート
フレックス親定義	exists			exists			
フレックス親	exists	exists		exists			
フレックス定義	exists			exists			
フレックス・アセット		exists	exists	exists			exists
フレックス属性					exists (デフォルト)	exists	

- フレックス親定義のルール：
  - 承認済フレックス親定義は、そのフレックス親定義およびフレックス属性に対して、exists 依存性があります。



- フレックス親のルール：
  - 承認済フレックス親は、そのフレックス親定義、フレックス親およびフレックス属性に対して、exists 依存性があります。
- フレックス定義のルール：
  - 承認済フレックス定義は、そのフレックス親定義、フレックス親およびフレックス属性に対して、exists 依存性があります。
- フレックス・アセットのルール：
  - 承認済フレックス・アセットは、そのフレックス親、フレックス・アセット定義、フレックス属性およびテンプレートに対して、exists 依存性があります。
- フレックス属性のルール：
  - 承認済フレックス属性は、フレックス・フィルタに対して、そのコード化方法に応じて、exists 依存性または exact 依存性があります。デフォルト・フレックス・フィルタは、exists 依存性用にコード化されています。属性のタイプがアセットの場合、そのアセットに対して exists 依存性または exact 依存性のどちらがあるかは、ユーザーが決定できます。
  - 承認済フレックス属性は、( 属性エディタが割り当てられている場合 ) その属性エディタに対して、exists 依存性があります。

フレックス・ファミリー・メンバー間の exists 依存性と exact 依存性の詳細は、[276 ページの「フレックス・ファミリー」](#)を参照してください。フレックス・ファミリー・メンバーの機能の詳細は、『*Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド*』の第 1 章を参照してください。

### Oracle WebCenter Sites: Engage 訪問者データ・アセット

承認システムは、次のルールを使用して、Engage 訪問者データ・アセット・タイプの承認依存性を判断します。

承認済アセット	承認済アセットの依存性				
	履歴定義	履歴属性	訪問者属性	推奨	関連フレックス・アセット
履歴定義		exact			
セグメント	exists		exists		
推奨					
プロモーション				exists	
フレックス・アセット					exists

- 履歴定義は、その履歴属性に対して、exact 依存性があります。
- セグメントは、使用している履歴定義および訪問者属性に対して、exists 依存性があります。
- プロモーションは、オーバーライドする推奨アセットに対して、exists 依存性があります。

- フレックス・アセットは、関連アイテムとして指定されている任意のアセットに対して、exists 依存性があります ( 関連アイテム推奨の場合 )。

## パブリッシュされたコンテンツの評価

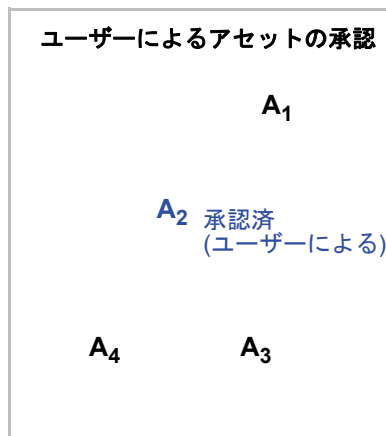
不十分な承認依存性があると判断すると、冗長な承認を回避するため、承認システムはパブリッシュされたコンテンツを検索します。

具体的に言うと、承認システムは、PublishedAssets 表を読み取ります。現在承認を必要とするアセットが、特定の宛先にパブリッシュ済としてリストされている場合、承認システムは、バージョンの一致は要求されていないと想定して、同じアセットを承認 ( および再パブリッシュ ) する必要はないと見なします。exact 依存性がデータ・モデルまたはテンプレート・コードで指定されている場合は、承認システムは、パブリッシュされているアセットのバージョンをチェックします。コンテンツのバージョンの一致の強制の詳細は、[273 ページ](#)を参照してください。

## 包括的なシナリオ

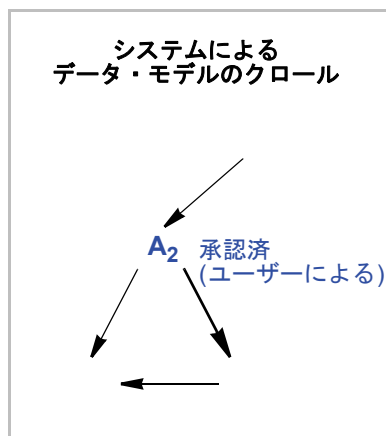
この項には、承認システムの仕組みを包括的に説明するシナリオが示されています。このシナリオでは、まずユーザーがアセットを承認し、次に承認システムが依存性を分析し、最後に承認システムから対応する様子を示します。その際、サーバーへのミラーリングのパブリッシュの例および exists 依存性を使用して、この章でこれまでに説明したすべての概念、すなわち承認、承認依存性および承認状態に言及します。

1. このシナリオでは、(使用可能な 4 つのアセットのうち) アセット  $A_2$  を編集し、exists 依存性に従って動的にパブリッシュすることを承認します。ターゲット宛先には  $A_4$  のみがすでにパブリッシュされています。

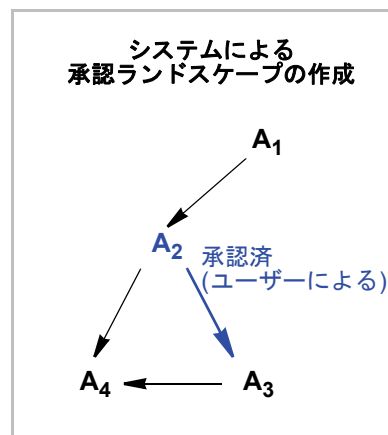


2. ユーザーがパブリッシュしようとする、承認システムはデータ・モデルをクロールして、エンコードされている依存性 (右の図で矢印で表示) を判断します。

承認システムは、承認済アセットをシードとして使用して、データ・モデルでアセットのリンクをたどってリンク元またはリンク先の他のアセットに移動し、さらにそのアセットのリンクをたどってリンク元またはリンク先のまた別のアセットに移動するということを、シードの依存性ネットワークの境界が特定されてそれ以上依存性が検出されなくなるまで、繰り返します。



3. 手順 2 の結果に基づいて、承認システムは、承認ランドスケープを構成します。承認ランドスケープでは、相互に依存するすべてのアセットおよびそれらの間の関係が特定されます。

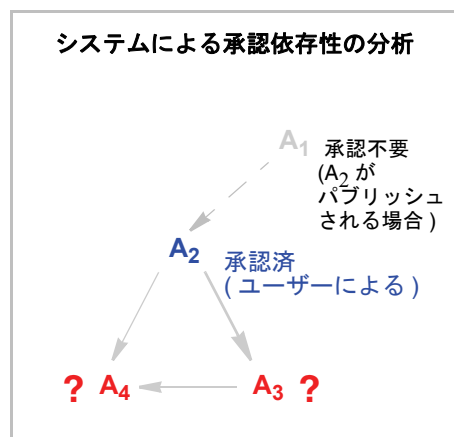


4. 承認システムは、承認依存性およびパブリッシュ・セッションに対するそれらの影響をテストします。この例では、承認システムは次のことを判断します。

- A<sub>1</sub> は、その子の承認済アセット A<sub>2</sub> が独立してパブリッシュ可能なので、承認を必要としません。ただし、A<sub>2</sub> は親アセットでもあり、その子アセット (A<sub>3</sub> および A<sub>4</sub>) のステータスが決定されるまではパブリッシュできません。

承認システムは、今度はすでにパブリッシュされているアセットを検索します。PublishedAsset 表を参照し、次のことを判断します。

- A<sub>3</sub> はターゲット宛先には一度もパブリッシュされていません。A<sub>2</sub> → A<sub>3</sub> に十分な依存性があるためには、A<sub>3</sub> を承認する必要があります。
- A<sub>4</sub> はターゲット宛先にすでにパブリッシュされているので、その再承認（および再パブリッシュ）は必要ありません。A<sub>2</sub> および A<sub>3</sub> の A<sub>4</sub> に対する依存性は、パブリケーション時に十分な依存性になります。

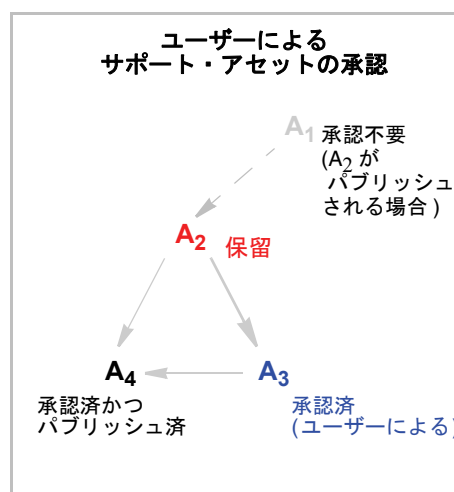
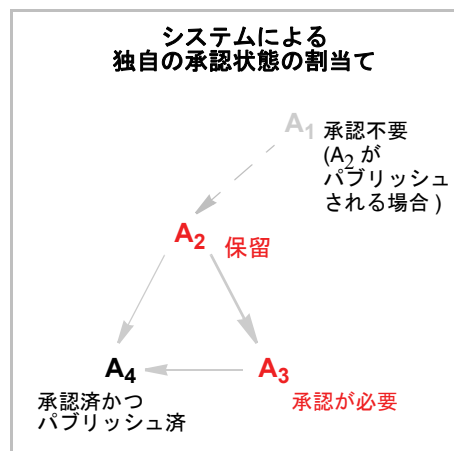


5. 手順 4 より、承認システムは、承認済アセットをパブリッシュするために 3 つの承認依存性が十分である必要があると結論付けて、それに基づいてアセットに独自の承認状態を割り当てます。

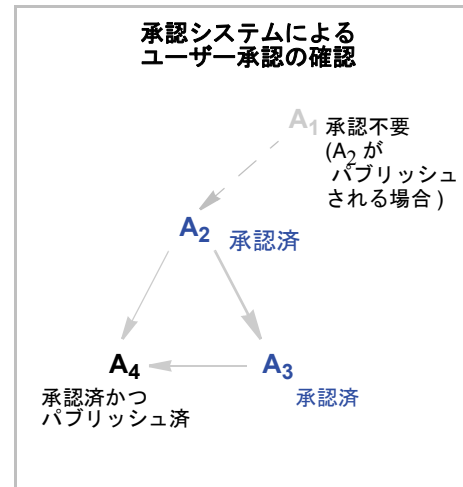
- $A_2 \rightarrow A_3$  承認依存性を (ユーザーが  $A_3$  を承認することで) 十分にする必要があります。 $A_3$  に「承認が必要」状態を割り当て、 $A_2$  に「保留」状態を割り当てます。
- $A_3 \rightarrow A_4$  を (すでに「承認が必要」状態が割り当てられている  $A_3$  をユーザーが承認することで) 十分にする必要があります。
- $A_2 \rightarrow A_4$  は、 $A_4$  がすでにパブリケーションされているので、自動的に十分になります (現在承認済かつパブリッシュ済状態が割り当てられています)。

(承認状態の完全なリストは、283 ページの表 2 を参照してください。)

6. 最後に、承認システムは、アセットおよびその承認状態 (前の図で表示) のリストを表示します。ユーザーは、リストに基づいて、「承認が必要」状態が割り当てられているアセット ( $A_3$ ) を承認します。



7. 承認システムは、承認プロセスを実行するために、 $A_2$  の承認状態を「承認済」に更新し、 $A_2$  と  $A_3$  の両方を次のパブリッシュ・セッションでのパブリケーションのためにパブリッシュ・システムにリリースします。



## リファレンス：承認状態

表 2 に、承認システムによって承認依存性のアセットに割り当てられ、ユーザーに表示される可能性がある承認状態を示します。

### 注意

表 2 を参照する場合、承認依存性のコンテキストでは、依存アセットという用語は親アセットと同等であるという点に留意してください。承認依存性の親子関係を管理するルールの詳細は、269 ページの「承認依存性と親子関係」を参照してください。

表 2: 承認システムにより割り当てられる承認状態

承認状態	説明
承認済。宛先に対するパブリッシュが承認済で準備ができています。	(情報) このアセットは、アセットが変更されるか、または exact 依存性が変化した場合を除き、この宛先に対する次のパブリッシュ・イベントでパブリッシュされます。
承認済かつパブリッシュ済。アセットのバージョンが宛先のアセットのバージョンと一致しています。	(情報) exact 依存性を持つアセットが、この宛先にパブリッシュされています。
現在チェックアウトされています。宛先にはパブリッシュされません。	(アクションが必要な可能性あり) アセットはリビジョン追跡でチェックアウトされています。承認済ですが、リビジョン追跡が次のいずれかの方法で制御を放棄するまでパブリッシュできません。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• チェックイン：アセットを再承認する必要があります。</li> <li>• チェックアウトを元に戻す：アセットは承認済のままであり、パブリッシュできます。</li> <li>• ロールバック：アセットを再承認する必要があります。</li> </ul>
宛先に対してエクスポートされるページでリンクとして承認されています。	(情報) このアセットは、エクスポートされるページからリンクされている場合、ディスクへのエクスポートのパブリッシュを承認されています。
アセットは宛先に対するパブリッシュの承認後に修正されています。	(アクションが必要) アセットを再承認する必要があります。
承認されましたが、宛先に対するパブリッシュの承認は、存在しない子アセットのバージョンに基づいています。	(アクションが必要) アセットは、そのバージョンがその子アセットのバージョンと一致するように、再承認する必要があります。

表 2: 承認システムにより割り当てられる承認状態 ( 続き )

承認状態	説明
<p>保留。承認されましたが、子アセットが宛先に対するパブリッシュを承認されていません。</p>	<p>(アクションが必要) アセットは、次のいずれかの条件が成立する場合、パブリッシュ・セッションで保留されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• アセットが承認後に再編集され、その後再承認されていません。</li> <li>• アセットに <code>exact</code> 依存性のある子アセットがあり、その子アセットが承認されていません。</li> <li>• アセットに <code>exists</code> 依存性のある子アセットがあり、その子アセットが一度もパブリッシュされていません。</li> <li>• アセットに <code>exact</code> 依存性のある子アセットがあります。子アセットはパブリッシュされていますが、その後編集され、まだ承認されていません。</li> <li>• アセットに、別のアセットの子アセットに対する <code>exact</code> 依存性があり、その子アセットは以前承認されましたが、その後編集され、まだ再承認されていません。</li> <li>• アセットはチェックアウトされています (リビジョン追跡)。</li> </ul>
<p>承認が必要。宛先に対するパブリッシュはまだ承認されていません。</p>	<p>(アクションが必要) アセットを承認する必要があります。</p>
<p>このアセットは、参照しているアセットが承認されるまでパブリッシュできません。</p>	<p>(アクションが必要) このアセットをパブリッシュできるようにするには、参照先アセットを承認する必要があります。保留されている関連アセットもリストされ、承認が必要な場合があります。</p>



## 第 13 章

# ディスクへのエクスポートのパブリッシュの 様々なトピックおよび承認プロセス

この章では、ディスクへのエクスポートのパブリッシュの主な概念と機能について説明します。また、ディスクへのエクスポートのパブリッシュに関連があることから、承認プロセスについても説明します。この章を読む際は、承認コンテキストとパブリッシュ・コンテキストに留意してください。両者は通常は別個のもので、たとえば、承認テンプレート、パブキーおよび開始ポイントは一方のコンテキストにのみ適用され、他方には適用されません。ただし、承認システムとパブリッシュ・システムは互いに依存しているので、ある程度の相互作用があります。

この章は、次の項で構成されています。

- [ディスクへのエクスポートのパブリッシュの用語](#)
- [承認およびディスクへのエクスポートのパブリッシュ](#)
- [ディスクへのエクスポートのパブリッシュ](#)
- [よくある質問](#)
- [動作と機能](#)
- [承認テンプレートとパブリッシュ時テンプレートが異なる場合](#)
- [サンプル・テンプレート](#)

## ディスクへのエクスポートのパブリッシュの用語

ミラーリングのパブリッシュの場合、承認およびパブリッシュの両方のステージで、依存性はアセット・モデルによって決まります。一方、ディスクへのエクスポートのパブリッシュは、承認およびパブリッシュの両方のステージで、完全なテンプレートドリブン・プロセスです。承認テンプレートとパブリッシュ・テンプレートで指定されている依存性が異なる場合(このような状況はお薦めしません)、非承認コンテンツがパブリッシュされる可能性が高くなります。

テンプレートは、開発者がコード化します。ただし、パブリッシュ・セッションに悪影響を及ぼさないために、WebCenter Sites 管理者(およびパブリッシュを実行する他のユーザー)は、起動するテンプレートおよび期待される結果について理解する必要があります。

この章では、まずディスクへのエクスポートのパブリッシュで最も一般的に使用される用語について説明し、次に承認システムの機能について詳しく説明します。最後に、アセットとテンプレートの間の様々な関係によって承認とパブリッシュの結果が決まる仕組みについて、いくつかの例を使用して説明します。

### 注意

ここで説明する用語は、ディスクへのエクスポートのパブリッシュにのみ適用されます。パブリッシュ・キー、依存性および参照などの用語は、ミラー・パブリッシュではまったく異なる意味を持っていますが、このドキュメントでは説明しません。

## ページ

ディスクへのエクスポートのパブリッシュのコンテキストでは、ページは、通常は、ディスクにエクスポートされる HTML ファイルを指します。(このファイルをページ・アセット・タイプと混同しないでください。)エクスポートされたページはそれぞれ、パブリッシュ・キーによって表されます。

## パブリッシュ・キー

パブリッシュ・キー(またはパブキー)は、完全にパブリッシュ時にのみ使用される用語です。パブキーは最小パブリッシュ単位を表します。ディスクへのエクスポートのパブリッシュでは、エクスポートされたファイルです(ページと同じ。ページ・アセット・タイプと混同しないでください)。

パブキーは、アセット(プライマリ・アセットと呼ばれる)およびパブリッシュ時テンプレート(承認テンプレートとは異なる可能性があるので混同しないでください)という 2 つの構成要素で定義されます。

ディスクへのエクスポートのパブリッシュでは、最初のパブキーは開始ポイントです。開始ポイントは、パブリッシュ・セッションを開始するユーザーが定義します。他のパブキーはすべて、パブリッシュ中に検出されて記録されます。

## パブリッシュ・キュー

パブリッシュ・キューは、パブリケーションの待機中のパブキーのリストです。パブリッシュ・キューにパブキーを追加するには、その**プライマリ・アセット**を承認する必要があります。

## プライマリ・アセット

プライマリ・アセットは、パブキーの定義に使用します。わかりやすく言うと、プライマリ・アセットの ID とタイプが、テンプレートの *cid* パラメータと *c* パラメータになります。プライマリ・アセットのページをエクスポートするには、プライマリ・アセットを承認する必要があります。

### 注意

承認されていないと判断されたプライマリ・アセットのページは、エクスポートされません。その結果、使用する承認テンプレートおよびパブリッシュ・テンプレートによっては、パブリッシュの宛先で機能しないリンクが作成される可能性があります。

ターゲット宛先に存在することが予想される依存性を検証できるように承認テンプレートをコード化する最終的な責任は、開発者にあります。

## 承認およびディスクへのエクスポートのパブリッシュ

ページをエクスポートするには、まずページの**プライマリ・アセット**を承認する必要があります。プライマリ・アセットの承認は、その依存アセットの承認状態が条件になります。これは、プライマリ・アセットの**承認テンプレート**で記述されます。依存アセットの依存性は、それ自体の承認テンプレートによって詳細に記述されます。

### 注意

この承認テンプレートは必ずしもアセットのレンダリングに使用されるものではないので、承認システムを経由しないでアセットをパブリッシュすることは可能です。この意味合いなどの詳細は、[292 ページの「動作と機能」](#)および [294 ページの「承認テンプレートとパブリッシュ時テンプレートが異なる場合」](#)を参照してください。

また、( ページの非プライマリ・アセットに関連する ) 構成依存性 ([290 ページ](#)を参照) は、承認しなくても、エクスポートされたページに表示されます ( 非承認アセットのフィルタリングの詳細は、[開発者向けタグ・リファレンスの <render:filter> タグ](#)を参照 )。

## 承認テンプレート

ディスクへのエクスポートのパブリッシュにおける承認の目的は、開発者が依存性を定義することによって正しいコンテンツが原型を維持したままパブリッシュされることを保証できるようにすることです。

ミラーリングのパブリッシュの場合、承認およびパブリッシュの両方のステージで、アセットの依存性はアセット・モデルによって決まります。一方、ディスクへのエクスポートのパブリッシュは、完全にテンプレートによって決まります。したがって、承認動作（およびパブリッシュ時動作）は、承認テンプレート（およびパブリッシュ時テンプレート）を記述した開発者によって詳細に定義されます。その後で、WebCenter Sites が承認テンプレートを使用して、アセットの依存性を検出します。アセットが承認テンプレートに基づいてパブリッシュされている場合、その承認依存性と構成依存性は同じであると考えられます。

承認テンプレートの割当てには、「パブリッシュの宛先」画面のデフォルトのテンプレートの設定機能を使用します。

- デフォルト・テンプレートが明示的に選択されていない場合、承認システムはアセットのデフォルト・テンプレートを選択します。
- 承認テンプレートとデフォルト・テンプレートがどちらも指定されていない場合、アセットは、承認テンプレートを使用しないで承認されます（すなわち、承認依存性はありません）。

承認テンプレートが複数サイト間で共有されている場合、承認システムは現在のサイトに対応するサイト・エントリを選択します。

## 承認キュー

承認キューは、承認表が最新の状態に維持されるように、アセット変更イベントを処理します。たとえば、アセットがパブリケーションを承認された後に変更された場合、承認キューでアセットを非承認にする、すなわちパブリッシュ・キューから拒否することによってこの変更を処理します。

管理者が承認キューを直接操作することは決してありません。キューは、デフォルトでは 5 分間隔で実行されます。ただし、承認機能を使用する機能（「パブリッシュ」タブなど）を起動すると、承認情報を最新の状態に維持するために、画面がレンダリングされる前に承認キューが強制的に実行されます。

## 承認依存性

アセットを承認する場合、その承認テンプレートを使用して、承認依存性を判断します。承認依存性は、次のタグによって作成されます。

- <asset:load>
- <asset:loadall>
- <assetset:setasset>
- <assetset:setlistedassets>
- <render:logdep>
- <render:getpageurl>
- <render:gettemplateurl>
- <render:gettemplateurlparameters>

アセット A を承認する場合、そのテンプレート (またはテンプレートでコールされている他のエレメント) で前述のいずれかのタグを使用してアセット B を参照していると、A の B に対する承認依存性が作成されます。これは一般に、A を承認する場合は、B も承認する必要があることを意味します。

## 承認依存性のタイプ

承認依存性は承認時に作成され、使用されます。パブリッシュ時依存性と (両者が一致する可能性はありますが) 混同しないでください。ディスクへのエクスポートのパブリッシュの承認には、次の 2 つのタイプの承認依存性が関連します。

- テンプレート依存性
- 参照依存性

**テンプレート依存性**は、アセットの承認テンプレートで別のアセットを使用してコンテンツを定義している場合に作成されます。たとえば、アセット A の承認テンプレートでアセット B をロードしている場合、A は B に対するテンプレート依存性を持ちます。もっと実地的な用語で言えば、記事アセットを表示するページ・アセットの承認テンプレートがある場合、記事アセットがページで使用されているので、テンプレート依存性になります。テンプレート依存性は、次のタグによって作成されます。

- `<asset:load>`
- `<asset:loadall>`
- `<assetset:setasset>`
- `<assetset:setlistedassets>`
- `<render:logdep>`

**参照依存性**は、あるページから別のページへのリンクが作成される際に生成されます。これらは、2 つのページのプライマリ・アセット間の参照依存性として登録されます。たとえば、アセット A の承認テンプレートから、アセット B がプライマリ・アセットであるページへのハイパーリンクを作成した場合、承認システムはこれをアセット A の B に対する参照依存性として登録します。このような依存性を生成するタグは次のとおりです。

- `<render:getpageurl>`
- `<render:gettemplateurl>`
- `<render:gettemplateurlparameters>`

(ディスクへのエクスポートのパブリッシュにおける) テンプレート依存性は、exact 依存性がデフォルトです。B が変更されている場合、A を承認するには B を承認する必要があります。参照依存性は、常に exists 依存性です。B を一度承認してパブリッシュした場合、A を再パブリッシュするために B を再承認する必要はありません。

いずれかのタグで `deptype="none"` が設定されている場合は例外です。その場合、タグによって承認依存性は一切作成されません。このことは、承認中にレコードが作成されないことを意味します。ディスクへのエクスポートのパブリッシュやライブ・サイトなど、他のすべてのコンテキストでは、`deptype` 属性は無視されます。

## ディスクへのエクスポートのパブリッシュ

ディスクへのエクスポートのパブリッシュ・プロセスでは、3 つの主なコンポーネントを使用します。

- [パブリッシュ時テンプレート](#)
- [開始ポイント](#)
- [構成依存性](#)

### パブリッシュ時テンプレート

パブリッシュ時テンプレートの目的は、コンテンツをファイルとしてレンダリングすることです。通常は、パブリッシュ時テンプレートは承認テンプレートと同一です。ただし、両者が異なる場合は、事前に承認しなくてもコンテンツをパブリッシュできます。承認システムをバイパスするには、パブリッシュ可能なコンテンツを検証できる手段を開発者が提供する必要があります。

### 開始ポイント

開始ポイントは、パブリッシュ時にエクスポートを開始するパブキーです。通常、開始ポイントは、サイトで、すべてのページではなくても、最も多くのページにリンクするように選択されます。(このページは必ずしもホーム・ページである必要はなく、たとえば、多数のリンクが設定されているサイドバーにすることもできます。管理者が任意に選択できます。) ディスクへのエクスポートのパブリッシュ・システムは、開始ポイントを起点にしてサイトをクロールし、新しいパブキーを検出すると、それを記録します。

### 構成依存性

構成依存性は、アセットを使用して生成されたページのアセットに対する依存性です。これらはページの[パブリッシュ時テンプレート](#)のロジックによって決まります。構成依存性は、エクスポートされたページにレンダリングする内容をテンプレートの指示に従って決定し、その際 `deptype` 属性は完全に無視されます。承認テンプレートでテンプレート依存性と参照依存性を作成したタグと同じタグで、パブリッシュ時の構成依存性も作成します。タグのリストは、[288 ページの「承認依存性」](#)を参照してください。

## よくある質問

### 承認テンプレートはどのように選択すればよいですか。

承認テンプレート (指定されている場合) は、特定のアセットを検証するために承認システムが使用する唯一のテンプレートです。このテンプレートは、開始ポイントの設定内容によっては、パブリッシュ時に使用されない場合もあります。最善策として、想定するアセットの依存性が最もよく表現されている承認テンプレートを設定することをお勧めします。

依存性の最も代表的な組合せが含まれるテンプレートが、アセットをパブリッシュする際に必要なテンプレートと異なる場合はどうなるでしょうか。そのテンプレートはそのタイプのアセットの承認テンプレートとして設定し、必要なテンプレートは開始ポイントとして使用してください。

### データ・モデル依存性は何か関係ありますか。

アソシエーション、属性などは、ディスクへのエクスポートのパブリッシュでは使用しません。重要なのはテンプレートで設定されている依存性のみです。

### パブリッシュ時の構成依存性が追跡されるのはなぜですか。

ページをエクスポートした後、そのコンテンツは凍結されます。しかし、そのページの生成に使用したアセットが変化して、影響を受けるページが古くなる可能性があります。

WebCenter Sites は、依存性を記録しているので、(古くなったページを再パブリッシュするという前提で) 更新する必要があるページを管理者に通知できます。再パブリッシュのオプションとして、自動リフレッシュと手動リフレッシュの 2 つが用意されています。

- 自動リフレッシュの場合、ページは自動的に次のパブリッシュ・セッション用にキューに追加されるので、変更された構成依存性を承認する必要はありません。

このオプションを選択した場合、ページをパブリッシュのキューに追加するために、変更されたアセットを承認する必要はありません。つまり、イメージ・アセットを変更するとすぐに、記事ページが再パブリッシュされます。自動リフレッシュを設定するには、記事とイメージの間に `exists` 依存性または依存性なしを指定します。これによって、承認システムがアセットの承認をユーザーに要求する処理が無効になります。

- 手動リフレッシュでは、更新されたページをパブリッシュする前に確認します。

このオプションを選択した場合、影響を受けるページは、承認されるまで「保留」になります。つまり、イメージが変更されるたびに、記事ページを再承認する必要があります。これが機能するには、`exact` 依存性を設定する必要があります。

## 動作と機能

ここでは、ディスクへのエクスポートのパブリッシュの動作を示す簡単なシナリオについて説明します。

- 例 1: テンプレート依存性
- 例 2: 参照依存性
- 承認テンプレートとパブリッシュ時テンプレートが異なる場合

関連するアセット・タイプは、ページおよび HelloArticle (HelloAssetWorld より) です。テンプレートは、Ttemplate、RTemplate および dummyTemplate です。

わかりやすくするために、アセット ID はテンプレートにハードコードされています。通常はハードコードではなく、なんらかの方法でアセットがロードされます。したがって、開発者は、依存性を追加設定しない場合、タグに `deptype='none'` 属性を設定する必要があります。テンプレート・コードの詳細は、[297 ページの「サンプル・テンプレート」](#)を参照してください。

### 例 1: テンプレート依存性

**設定:** ページ P アセットは、承認およびパブリッシュの両方で Ttemplate を使用します。Ttemplate は HelloArticle A をロードするので、テンプレート依存性が確立します。

**開始ポイント:** P+Ttemplate

**パブキー (エクスポートされたファイル):** P+Ttemplate

**承認依存性:** ページ P には、`<render:logdep>` による Ttemplate に対するテンプレート依存性および `<asset:load>` による HelloArticle A に対するテンプレート依存性があります。Ttemplate はリンクを作成しないので、参照依存性はありません。

**パブリッシュ依存性:** 開始ポイントが唯一のパブキーなので、1 つのファイルのみエクスポートされます。

エクスポートされるページは、テンプレートで実際に使用されることがないので、パブリッシュ時の構成依存性がありません。P を承認する必要がある唯一の理由は、P がエクスポートされるページのプライマリ・アセットだからです。したがって、パブリッシュ時に決定される唯一の構成依存性は、エクスポートされるページの A および Ttemplate に対する依存性です。

アクション	承認ステータス	パブリッシュ・ステータス	コメント
初期	承認済: P、A、 Ttemplate	パブリッシュ済: P および Ttemplate	P は、テンプレートによって参照されていないので、パブリッシュされませんでした。
P の編集	P のステータスが Changed になります。	変更による影響はありません。	P に対する構成依存性がないため、変更による影響はありません。



アクション	承認ステータス	パブリッシュ・ステータス	コメント
A の編集	P のステータスが Held になります。  A のステータスが Changed になり、P の再承認が必要になります。	承認後にページが再パブリッシュされます。	P は、A に対してテンプレート依存性を持つので保留されますが、後で承認されることによって再びパブリッシュ可能になります。

## 例 2: 参照依存性

**設定:** ページ P アセットは、承認およびパブリッシュの両方で Rtemplate を使用します。Rtemplate は HelloArticle A を参照し、A は dummyTemplate によってレンダリングされます。

**開始ポイント:** P+Rtemplate

**パブキー (エクスポートされるファイル):** P+Rtemplate、A+dummyTemplate

**承認依存性:** ページ P は、Rtemplate に対して所定の <render:logdep> テンプレート依存性があります。また、<render:getpageurl> により A に対して参照依存性を持ちます (ただし、dummyTemplate に対する依存性はありません。これは、ページ間の依存性は、それらのプライマリ・アセット間でのみ記録されるからです)。dummyTemplate はどのタグからも参照されないなので、承認依存性には関与しません。

**パブリッシュ依存性:** 関連するタグは <render:logdep> および <render:getpageurl> です。これらのタグにより、Rtemplate および A としてパブリッシュ時の構成依存性が決定します。前述したように、ページ P は、どのテンプレートからも使用されていないので、構成依存性はありません。エクスポートで <render:getpageurl> を検出することによって、別のページが必要であることがわかるので、すぐに A+dummyTemplate パブキーを作成し、dummyTemplate を実行してそのコンテンツを生成します。dummyTemplate は、どのタグからも使用されないなので、正式な構成依存性はなく、パブキー・メンバーとしてのみ関与します。したがって、dummyTemplate が変更されても、承認およびパブリッシュ・サイクルではそのことが認識されません。そのため、新しく作成するすべてのテンプレートに出現する <render:logdep> は、変更しないことをお勧めします。

アクション	承認ステータス	パブリッシュ・ステータス	コメント
初期	承認済: P、A、 Rtemplate	パブリッシュ済: A および Rtemplate	P は、テンプレートによって参照されていないので、パブリッシュされません。その結果、P+Rtemplate および A+dummyTemplate の 2 つの HTML ファイルが生成されます。

アクション	承認ステータス	パブリッシュ・ステータス	コメント
P の編集	P のステータスは Changed になり、承認によって現状に戻ります。	変更による影響はありません。	P に対する構成依存性がないため、変更による影響はありません。
A の編集	A のステータスは Changed になります。P は、A に対する exists 依存性のみがある (P を保留する理由はありません) ので Approved のままであり、Held にはなりません。	<render:getpageurl> によって構成依存性が生成されるので、P+Rtemplate は自動的に再パブリッシュ用にキューに追加されました。(理由が不明な場合は読み進めてください)。A+dummyTemplate は、A を使用していないので、影響を受けません。	A+dummyTemplate は、A を使用するタグが存在しないので、影響を受けません。

## 承認テンプレートとパブリッシュ時テンプレートが異なる場合

一般に、承認とパブリッシュに同じテンプレートを使用する場合は、承認依存性と構成依存性が一致するので、問題は発生しません。承認とパブリッシュに使用するテンプレートが異なる場合、問題が発生するきっかけになります。テンプレートの不一致は様々な状況で発生する可能性があります。(テンプレート・コードの詳細は、[297 ページの「サンプル・テンプレート」](#)を参照。)

### 例 1:

アセット A で承認に T1 を使用します。T1 はどのアセットも参照しません。アセット A はパブリッシュに T2 を使用します。T2 は、<asset:load> を使用してアセット B を参照します。T2 がアセット B をロードすると、一度も承認されていないにもかかわらず、B はエクスポートされる A+T2 ページに表示されます。

これは、一度も承認されていないアセットをパブリッシュできることを意味するのでしょうか。

そのとおりです。この方法を選択するユーザーも存在しますが、結局はパブリッシュする前にアセットを承認する手間を省いているにすぎません。承認は負担の多い作業になる可能性があります。なぜなら、exact 依存性を持つ場合、依存アセットが変化することでプライマリ・アセットに Held ステータスが割り当てられるからです。その結果、そのようなプライマリ・アセットが含まれるページはエクスポートできなくなります。このような状況では、deptype 属性で値として exists または none を使用して、不要な承認依存性を避ける方法が適しています。

ここで、アセット B をパブリッシュした後に B を変更するとどうなるでしょうか。この場合、アセット A とアセット B の間に、承認依存性はありませんが、構成依存性があります。これは、アセット B が変化するたびに、影響を受けるページが自動的に再パブリッシュされることを意味します。(依存性がないので、自動リフレッシュ・オプションが選択されます)。したがって、アセット B が未

承認のまま保存されるとすぐに、A+T2 が自動的にパブリッシュ・キューに追加されます。(再パブリケーション・オプションの詳細は、[291 ページ](#)の「パブリッシュ時の構成依存性が追跡されるのはなぜですか。」を参照。)

## 例 2:

アセット A で承認に T1 を使用します。T1 は、exact 依存性に従って、`<asset:load>` を使用してアセット B を参照します。アセット A は、パブリッシュに T2 を使用します。T2 は、アセット B を参照しません。

この場合、アセット A とアセット B の間に、承認依存性がありますが、構成依存性はありません。これは、アセット B が変更されるたびに、アセット A を承認できるようにするには、パブリッシュされるページでアセット B を使用していなくても、アセット B を承認する必要があることを意味します。

## 例 3:

アセット A で承認に T1 を使用します。T1 はどのアセットも参照しません。アセット A はパブリッシュに T2 を使用します。T2 は、`<asset:getpageurl>` を使用してアセット B を参照します。

この場合、承認依存性はないので、A は単なる承認済アセットです。A+T2 のパブリッシュ中に、B をプライマリ・アセットとする別のページが作成されることに気づきます。ここで、**プライマリ・アセットは、そのページがエクスポートされる前に承認される必要がある**ことを思い出してください。しかし、B は承認されていないので、そのページはエクスポートされません。A+T2 はエクスポートされますが、機能しないリンクが発生します。

**不明な依存性が存在する場合のディスクへのエクスポートのパブリッシュ。**

`<render:unknowndeps>` を使用し始めると、状況が複雑になります。このタグは、構成依存性を削除し、パブキーに不明な依存性を記録します。したがって、アセットはパブリッシュ・キューに恒久的に残ります(つまり、アセットはパブリッシュ・サイクルのたびにリフレッシュされます)。これは予想される動作です。なぜなら、不明な依存性が存在する場合(すなわち、問合せの結果のように、依存性がいつでも変化する可能性がある場合)、特定のアセットがどのアセットに依存するかが判断できないからです。大事をとって、常にアセットが再パブリッシュされます。

**多数の exact 依存性が存在する場合。**必ず避けられるわけではありませんが、プライマリ・アセットが他のアセットに対して exact 依存性を持つ場合、いずれかの依存アセットが変更されると、承認システムはプライマリ・アセットのステータスを Held に変更することに留意してください。プライマリ・アセットのページは、再承認されなければ、パブリッシュ可能になりません。変更されたアセットが多数のページで使用されている場合、それらのページをすべて再承認する必要があります。deptype を exists に設定することも考えられます。その場合、依存ページは自動的にパブリッシュ可能になります。ただし、変更されたア

セットは、パブリッシュ・セッションが開始するときは準備が完了している必要があります。

### 注意

(simplename を使用しないで) エクスポート URL をカスタマイズする望ましい方法は、<render:getbloburl> および <render:getpageurl> のパラメータとして PREFERREDFILE および PREFERREDDIR を使用して任意の名前を指定する方法です。次に例を示します。

```
<render:getbloburl
  blobtable='MungoBlobs' blobcol='urldata'
  blobkey='id' blobwhere='1088466917821'
  outstr='pagelogoURL' csblobid='1088466917821'>
  <render:argument name='PREFERREDFILE'
    value='myBlob.out' />
  <render:argument name='PREFERREDDIR' value='myDir' />
</render:getbloburl>
```

このコードは、ID が 1088466917821 の BLOB を myDir/myBlob.out にエクスポートします。

## サンプル・テンプレート

この項では、[292 ページ](#)および [294 ページ](#)の例で使用されているテンプレート実装を示します。Taglib 定義と import 定義は省略されています。

### Ttemplate:

```
<%-- Record dependencies for the Template --%>
<ics:if
  condition='<%=ics.GetVar("tid")!=null%>'><ics:then><render:logdep cid='<%=ics.GetVar("tid")%>' c="Template"/></ics:then></ics:if>
<asset:load name='myArticle' type='HelloArticle'
  objectid='1156878442427' />
```

### Rtemplate:

```
<%-- Record dependencies for the Template --%>
<ics:if
  condition='<%=ics.GetVar("tid")!=null%>'><ics:then><render:logdep cid='<%=ics.GetVar("tid")%>' c="Template"/></ics:then></ics:if>
<render:getpageurl outstr="myURL" pagename='HelloAssetWorld/dummyTemplate' cid='1156878442427' c='HelloArticle' />
Got URL: <a href='<%=ics.GetVar("myURL")%>'> Click here</a><br/>
```

### dummyTemplate:

空白です。logDep はありません。



## 第 14 章

# ディスクへのエクスポートのパブリッシュ・プロセス

この章では、ディスクへのエクスポートのパブリッシュの動作と構成方法について説明します。

この章は、次の項で構成されています。

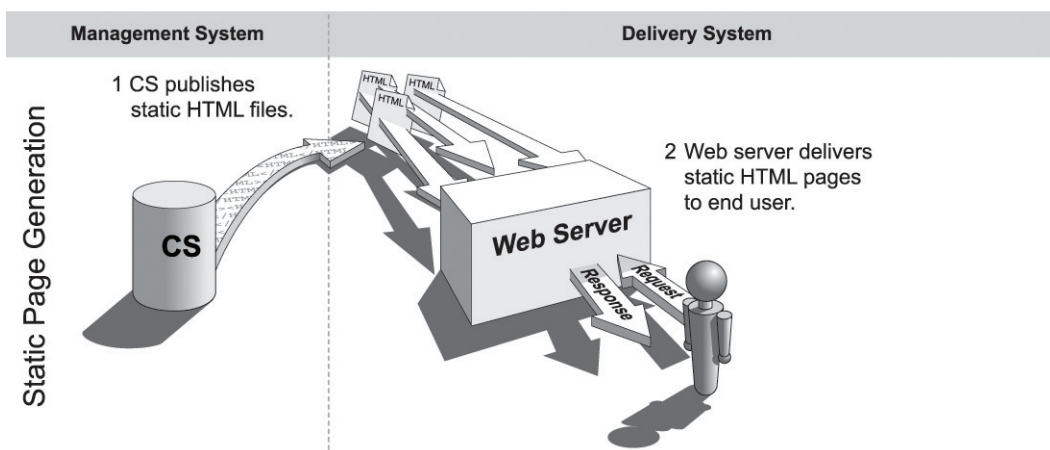
- [ディスクへのエクスポートのページのレンダリング](#)
- [ディスクへのエクスポートのパブリッシュの動作](#)
- [パスの命名規則](#)
- [ディスクへのエクスポートのパブリッシュに対するシステム構成](#)

## ディスクへのエクスポートのページのレンダリング

きわめて単純化すると、WebCenter Sites は、ディスクへのエクスポートのページを次のようにレンダリングします。

1. クライアント・ブラウザがページ名を WebCenter Sites に (HTTP または別のプロトコルを使用して) 送信します。
2. WebCenter Sites は SiteCatalog 表でページを検索し、ルート・エレメントを起動し、ページを html ファイルとしてレンダリングします。
3. オンライン・サイトをホストする Web サーバーに (FTP または別のファイル転送プロトコルを使用して) ファイルをパブリッシュします。

ディスクへのエクスポートのパブリッシュ方法を使用する管理ユーザーは通常、配信システムの Web サーバーに移動する前にレンダリングされたファイルをテストする品質保証プロセスを設定します。



## ディスクへのエクスポートのパブリッシュの動作

ディスクへのエクスポートを使用してコンテンツをパブリッシュする際、承認システム、パブリッシュ・スケジュールおよび宛先構成はすべて、承認済アセットを静的 HTML ファイルにエクスポートするプロセスに寄与します。

ディスクへのエクスポートのパブリッシュ・セッションが実行されると、次のようになります。

1. パブリッシュ・システムは、特定の宛先に対するセッションを開始しようとしていることを、CacheManager サブレットに通知します。CacheManager は、その宛先に対してこれまでにエクスポートされたすべてのページを、ソース・システムのページ・キャッシュから消去します。

エクスポート・パブリッシュ・セッション中は、エクスポートされたファイルがページ・キャッシュにキャッシュされます。構成されているキャッシュの消去間隔 (有効期限) よりも短い間隔でパブリッシュ・セッションが発生する場合、キャッシュ内のエクスポート済ページと同じ名前のページが新しくエクスポートされる可能性があります。CacheManager サブレットは、古いファイルが使用されないようにするため、新しいパブリッシュ・セッ



ションが開始される前に、前回のパブリッシュ・セッション中にエクスポートされたページのページ・キャッシュを消去します。

2. WebCenter Sites は、エクスポート・キューを作成し、パブリッシュ可能な参照をすべてキューに追加します。次のいずれかの参照をパブリッシュできます。
  - エクスポート開始ポイントとして指定されているパブキー。(312 ページの「エクスポート開始ポイント」を参照。)  
サイトには開始ポイントが必要であり、そのアセットを承認する必要があります。そうしないと、エクスポート・セッションを開始できません。エクスポートするサイトにはすべて、少なくとも 1 つのエクスポート開始ポイントを指定する必要があります。
  - 以前エクスポートされたが、この宛先への前回のパブリッシュ・セッションの後にアセットが変更され、再承認されたページまたはページレット (参照)。(サイトがパブリッシュされると、パブリッシュ・システムはパブリッシュされている参照を認識します。PublishedAssets 表のデータを読み取り、アセットが変更され、再度この宛先に対して承認された参照があれば、それをエクスポート・キューに追加します。)
  - テンプレートで RENDER.UNKNOWNDEPS タグを使用しているアセット。  
このタグは、テンプレートによってレンダリングされるアセットの依存性が不明なので計算できないことを、承認システムに通知します。通常は、問合せに使用します。依存性が不明な場合、システムは、依存性の変化によりアセットをパブリッシュする必要があるかどうかを判断できません。したがって、このタグが存在することは、パブリッシュ・セッションのたびにアセットをパブリッシュする必要があることを意味します。
  - まだパブリッシュされたことがなく、RENDER.GETPAGEURL タグによって別のページまたはページレットに接続しているページまたはページレット (参照)。(つまり、別のページから参照され、まだパブリッシュされていないページまたはページレット。)
  - RENDER.SATELLITEPAGE タグまたは satellite.page タグで指定されているページまたはページレット (参照)。
3. WebCenter Sites は、最初のエクスポート開始ポイントでそのアセットが承認済かどうかを判断します。
  - アセットが承認済ではない場合、パブリッシュ・セッションは終了します。
  - アセットが承認済である場合、アセットに割り当てられているテンプレートのページ名を決定します。
4. WebCenter Sites は、次の情報を WebCenter Sites に渡すことによって、エクスポート開始ポイントをレンダリングします。
  - 開始ポイントのテンプレートのページ名。
  - export[*destinationID*] に設定されている rendermode 変数。
  - レンダリングされるファイルが保存されるエクスポート・ディレクトリの名前と場所。

5. WebCenter Sites はページ名のルート・エレメントを起動し、そのエクスポート開始ポイントに参照として接続されているすべての承認済アセットのレンダリングを開始します。レンダリングしたページは、ブラウザにポストするのではなく、ファイルに書き込みます。
6. WebCenter Sites は、ファイルをレンダリングするたびに、その参照に関するメッセージを、現在のセッションのパブリッシュ・ログに書き込みます。
7. エクスポート開始ポイントが複数存在する場合は、この説明の[手順 3](#) から繰り返します。
8. パブリッシュ・セッションが正常に完了したら、WebCenter Sites はパブリッシュした参照に関する情報を PubKey 表と PublishedAssets 表に書き込んで、セッションを終了します。
9. WebCenter Sites はさらに、パブリッシュされたアセットに関する情報を ApprovedAssets 表と ApprovedAssetDeps 表に書き込みます。アセットがパブリッシュされた時点の最新のアセットのフィールドから取得した日付が記録されるので、アセットが次に承認されるときに、承認システムが正しく依存性を計算できます。

## パスの命名規則

WebCenter Sites は、パブリッシュするアセットのタイプおよびアセットに設定されている可能性があるパス情報に応じて、エクスポートするファイルへのパスを命名します。エクスポート・パスには、1つのディレクトリのような単純なパスも、複数のディレクトリによるパスも使用でき、オペレーティング・システムでサポートされている文字数によってのみ制限されます。

エクスポート・パスの命名規則は次のとおりです。

```
<cs.pgexportfolder>/<DIR>/<file_dir>
```

<cs.pgexportfolder> は、必須ディレクトリです。サブディレクトリは条件付きです。<file\_dir> を使用するかどうかは、パブリッシュ引数 SIMPLEDIR によって決まります。

この後は、エクスポート・パス変数およびパブリッシュ引数 SIMPLEDIR について定義した後、使用可能なエクスポート・パスについてまとめます。

## エクスポート・パス変数と SIMPLEDIR

エクスポート・パス変数は、次のように定義されます。

- <cs.pgexportfolder> は、エクスポートされるすべてのファイルのルート・ディレクトリを定義します。<cs.pgexportfolder> は、futuretense.ini ファイルの cs.pgexportfolder プロパティの値です。これは必要な値であり、ディスクへのエクスポートのパブリッシュのすべての宛先に適用されます。

通常、<cs.pgexportfolder> は、直接配信システムの場所ではなく、テスト用の場所 (エクスポートされたファイルの検証が行われるファイル・システム) を指定します。

- <DIR> は、パブリッシュ引数 DIR の値であり、ルート・ディレクトリ (<cs.pgexportfolder> で指定) にサブディレクトリを作成するために使用し

ます。<DIR> が指定されている場合、WebCenter Sites によって <cs.pgexportfolder>/<DIR> が作成されます。

### 注意

管理者は、「新規宛先の追加」画面の「ベース・ディレクトリ」フィールドとしてパブリッシュ引数 DIR を使用できます (317 ページ)。この項で <DIR> と記述する場合、「ベース・ディレクトリ」を意味します。

この引数は、通常は、サイトに複数のエクスポート先が存在する場合に、ルート・エクスポート・ディレクトリのコンテンツを整理するために使用します。

### 注意

<cs.pgexportfolder> または <cs.pgexportfolder>/<DIR> で指定されているディレクトリは、宛先ディレクトリと呼ばれます。

- <file\_dir> には、次のリストのいずれかの値を設定します。どの値を設定するかは、エクスポートされるアセットがページ・アセットかどうか、およびパス情報が使用可能かどうかによって決まります。WebCenter Sites はリストの順序に従って値を調べるので、<file\_dir> は階層的に決まります。これは、SIMPLEDIR=false が設定されていると想定しています。

設定可能な <file_dir> の値	説明
<ForDestination:Path>	<p>324 ページの手順 8 の「宛先:パス」フィールドの値 (このフィールドは特定の宛先の宛先のパス / ファイル名の指定フォームに表示されます)。</p> <p>「宛先:パス」フィールドに値を設定すると、指定された宛先にエクスポートされたアセットに指定されたパスが強制的に与えられます。</p> <p>&lt;ForDestination:Path&gt; が設定されていない場合は &lt;parent_page's_path&gt; を使用します。</p>
<parent_page's_path>	<p>エクスポートしたアセットの親ページの「パス」フィールドの値。</p> <p>ページ・アセットの注意: エクスポートされたページ・アセットには、それ自体に設定されているパスではなく、その親ページに設定されているパスが与えられます。(一般に、ページ・アセットの「パス」は子アセットにのみ適用されます。)</p> <p>&lt;parent_page's_path&gt; が設定されていない場合は &lt;ID_of_parent_page&gt; を使用します。</p>

設定可能な <file_dir> の値	説明
<asset's_path>	<p>エクスポートしたアセットの「パス」フィールドの値。</p> <p><b>注意:</b> &lt;asset's_path&gt; は、ページ・アセットを除くアセットの場合のみ使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• &lt;asset's_path&gt; が設定されていない場合は、&lt;file_dir&gt; の値として &lt;parent_page's_path&gt; を使用します。</li> <li>• &lt;parent_page's_path&gt; と &lt;asset's_path&gt; がどちらも設定されていない場合は &lt;ID_of_parent_page&gt; を使用します。</li> </ul>
<ID_of_parent_page>	<p>アセットの親ページの ID。この値は、&lt;parent_page's_path&gt; と &lt;asset's_path&gt; がどちらも不明な場合に使用します。</p>

- **SIMPLEDIR**。このパブリッシュ引数は、エクスポート・パスを明示的に構成するのではなく、パス情報が設定されていない場合に <file\_dir> を使用するかどうかを決定します。この決定は、次のように行われます。
  - SIMPLEDIR が true に設定され、**さらに**パス情報が設定されていない場合、エクスポート・パスでは <file\_dir> が省略されます。パスを設定すると、SIMPLEDIR はオーバーライドされます。
  - SIMPLEDIR が false に設定され、**さらに**パス情報が設定されていない場合、<file\_dir> の値として <ID\_of\_parent\_page> を使用します。

### 注意

管理者は、「新規宛先の追加」画面の「ディレクトリに単純な名前を使用」チェック・ボックスとしてパブリッシュ引数 SIMPLEDIR を使用できます (317 ページを参照)。

## エクスポート・パスの構成

この項では、WebCenter Sites が次の規則に従って構成可能なエクスポート・パスについてまとめます。

```
<cs.pgexportfolder>/<DIR>/<file_dir> [1]
```

この規則の詳細は、302 ページの「パスの命名規則」を参照してください。(ここで示すすべての例で、変化するのは <file\_dir> のみです)。

## エクスポート・パスの強制指定

<ForDestination:Path> (303 ページで定義) が指定されている場合、指定された宛先にパブリッシュされるアセットには、他のパス情報が設定されているとし

でも、ここで指定されているパスが強制的に与えられます。アセットのフル・エクスポート・パスは次のとおりです。

```
<cs.pgexportfolder>/<DIR>/<ForDestination:Path> [2]
```

## ページ・アセットのエクスポート・パス

<ForDestination:Path> が設定されていない場合、WebCenter Sites は次のようにエクスポート・パスを構成します (例は 306 ページの表 3 を参照)。

- <parent\_page's\_path> が指定されている場合、ページ・アセットのエクスポート・パスは次のように構成されます。

```
<cs.pgexportfolder>/<DIR>/<parent_page's_path> [3]
```

(<asset's\_path> が指定されている場合も同じ)。

### 注意

エクスポートされたページ・アセットには、それ自体に設定されているパスではなく、その親ページに設定されているパスが与えられます (つまり、<file\_dir> の値が <parent\_page's\_path> になります)。

一般に、ページ・アセットの「パス」情報は子アセットにのみ適用されます。

- <parent\_page's\_path> が指定されていない場合 :

- SIMPLEDIR=false である場合、WebCenter Sites は <ID\_of\_parent\_page> を使用します。

```
<cs.pgexportfolder>/<DIR>/<ID_of_parent_page> [4]
```

- SIMPLEDIR=true である場合、WebCenter Sites は <file\_dir> を省略します。

```
<cs.pgexportfolder>/<DIR> [5]
```

## ページ以外のアセットのエクスポート・パス

ページ以外のアセットの場合、WebCenter Sites は、使用可能な情報に応じて、次のいずれかのエクスポート・パスを構成します。例は、306 ページの表 4 を参照してください。

- <asset's\_path> が指定されている場合、エクスポート・パスは次のように構成されます。

```
<cs.pgexportfolder>/<DIR>/<asset's_path> [6]
```

- <asset's\_path> が指定されていない場合、WebCenter Sites は <parent\_page's\_path> を使用します。

```
<cs.pgexportfolder>/<DIR>/<parent_page's_path> [7]
```

- <asset's\_path> と <parent\_page's\_path> がどちらも指定されていない場合、次のように構成されます。

- SIMPLEDIR=false である場合、WebCenter Sites は  
<ID\_of\_parent\_page> を使用します。  
<cs.pgexportfolder>/<DIR>/<ID\_of\_parent\_page> [8]
- SIMPLEDIR=true である場合、WebCenter Sites は <file\_dir> を省略し  
ます。  
<cs.pgexportfolder>/<DIR> [9]

## サンプルのエクスポート・パス

表 3: SIMPLEDIR=false の場合のページ・アセットのサンプルのエクスポート・パス

ページ・アセット	<cs.pgexportfolder>	<DIR>	<file_dir>			エクスポート・パス
			<asset's_path>	<parent_page's_path>	<ID_of_parent_page>	
ホーム	/export		/abstracts			/export
ホーム	/export	/Japan	/abstracts			/export/Japan
世界のニュース	/export	/Japan	/abstracts	/news/	998877665	export/Japan/news
世界のニュース	/export		/abstracts	/news/	998877665	/export/news
世界のニュース	/export	/Japan	/abstracts		998877665	/export/Japan/998877665
世界のニュース	/export		/abstracts		998877665	/export/998877665

表 4: SIMPLEDIR=false の場合のページ以外のアセットのサンプルのエクスポート・パス

ページ以外のアセット	<cs.pgexportfolder>	<DIR>	<file_dir>			エクスポート・パス
			<asset's_path>	<parent_page's_path>	<ID_of_parent_page>	
石油価格	/export	/Japan	/energy		997766554	/export/Japan/energy
石油価格	/export	/Japan	/energy	/news/	997766554	/export/Japan/energy
石油価格	/export		/energy	/news/	997766554	/export/energy

表 4: SIMPLEDIR=false の場合のページ以外のアセットのサンプルのエクスポート・パス

ページ以外 のアセット	<cs.pg exportfolder>	<DIR>	<file_dir>			エクスポート・ パス
			<asset's _path>	<parent_page's _path>	<ID_of_parent _page>	
石油価格	/export	/Japan		/news/	997766554	/export/Japan/ news
石油価格	/export	/Japan			997766554	/export/Japan/ 997766554
石油価格	/export				997766554	/export/ 997766554



## エクスポートされたファイル内のリンクのパス

エクスポートされたファイル内の HREF リンクに記述される URL には、宛先ディレクトリ (<cs.pgexportfolder>/<DIR>) を示す値は含まれていません。かわりに、宛先ディレクトリ内から始まる相対ディレクトリとして記述されます。

宛先構成画面の「URL 接頭辞」設定で配信システム上のファイルの場所を指定することによって、URL を解決します。つまり、エクスポートされたファイル内のリンクの URL は、次のように作成されます。

```
<URLPREFIX>/<path_of_parent_page>
```

これは、「URL 接頭辞」パラメータの値は、ファイルが置かれているディレクトリを指定する Web 別名の値と一致する必要があることを意味します。  
cs.pgexportfolder のみを使用して宛先ディレクトリを作成している場合、「URL 接頭辞」が表す Web 別名でその場所が指定されている必要があります。さらに、宛先構成画面の「ベース・ディレクトリ」フィールドを設定して cs.pgexportfolder で指定されるルート・ディレクトリにサブディレクトリを追加している場合は、「URL 接頭辞」パラメータが表す Web ルートまたは Web 別名でこのディレクトリが指定されるようにします。

## ファイルの命名規則

エクスポートされたファイルの名前は、ファイル名がアセット (「調査」フォーム内) で指定されているかどうか、および「ファイルに単純な名前を使用」パラメータ (宛先構成フォーム内。この設定の詳細は [313 ページの「ディスクへのエクスポートのパブリッシュに対するシステム構成」](#) を参照) が選択されているかどうかに応じて決まります。[表 5](#) に可能なファイル名を示します。命名規則については、表の後で説明します。

**表 5: ファイルの命名規則**

ファイル名	説明
<pagename>_ <packedargs(if any)>_ <filename>.<SUFFIX>	「ファイル名」フィールドに値が <b>入力済</b> で、「ファイルに単純な名前を使用」が選択されていないアセットに使用します。
<packedargs(if any)>_ <filename>.<SUFFIX>	「ファイル名」フィールドに値が <b>入力済</b> で、「ファイルに単純な名前を使用」が選択されているアセットに使用します。
<pagename>_ <packedargs(if any)>_ <assetID>.<SUFFIX>	「ファイル名」フィールドが <b>空</b> で、「ファイルに単純な名前を使用」が選択されていないアセットに使用します。
<packedargs(if any)>_ <assetID>.<SUFFIX>	「ファイル名」フィールドが <b>空</b> で、「ファイルに単純な名前を使用」が選択されているアセットに使用します。



**注意**

エクスポート・ファイルに名前を付ける際、次の構文変更が行われます。

- ページ名に含まれるスラッシュ文字 (/) は、ファイル名ではハイフン (-) に変換されます。
  - パックされた引数に含まれる等号記号 (=) は、ファイル名ではハイフン (-) に変換されます。
  - パックされた引数に含まれるアンパサンド文字 (&) は、ファイル名ではアンダースコア (\_) に変換されます。
- <pagename> は、アセットのレンダリングに使用するテンプレートの SiteCatalog ページ・エントリの名前です。(SiteCatalog ページ・エントリはすべてのテンプレート・アセットに含まれます。)

**注意**

<pagename> は、宛先構成フォームで「ファイルに単純な名前を使用」パラメータが選択されている場合は省略されます。「ファイルに単純な名前を使用」は選択的に使用します。アセットが複数のテンプレートでレンダリングされる場合は、「ファイルに単純な名前を使用」を選択しないでください。「ファイルに単純な名前を使用」の詳細は、[313 ページの「ディスクへのエクスポートのパブリッシュに対するシステム構成」](#)を参照してください。

- `<packedargs(if any)>` は、ページ・エントリのルート・エレメントから渡されます。アセットのレンダリング・テンプレートのルート・エレメントからパックされた引数が渡された場合、アセットに対して生成されるファイルの名前にも、その引数の値が含まれます。

パックされた引数およびそれらがどのように URL に関連するのかについては、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』を参照してください。

- `<filename>` は、アセットの「ファイル名」フィールドの値です。「ファイル名」フィールドが空の場合、アセットで指定されている `asset_ID` が使用されます。

#### 注意

宛先のパス / ファイル名の指定フォームで特定の宛先用にアセットに設定されているファイル名は、アセットがその宛先にエクスポートされる場合は、アセットの「新規」フォームまたは「編集」フォームの「ファイル名」フィールドに入力されているファイル名よりも優先されます。

- `<asset_ID>` は、アセットで指定されている ID です。`<asset_ID>` は、アセットの「ファイル名」フィールドが空の場合または次の注意に該当する場合に使用されます。

#### 注意

ファイル名がアセットで指定されているかどうかを判断するには、アセットの ID とタイプの両方が必要です。アセットのタイプの ID が指定されていない場合、ファイル名は使用できません。その場合は、ファイル名のかわりにアセットのオブジェクト ID が使用されます。

- `<SUFFIX>` は、ファイル名の拡張子を指定する宛先構成オプションです。「接尾辞」パラメータの詳細は、313 ページの「ディスクへのエクスポートのパブリッシュに対するシステム構成」を参照してください。

表 6 に、ディスクへのエクスポートのパブリッシュ中に作成されるファイル名の例を示します。これは、宛先構成で「ファイルに単純な名前を使用」が選択されていない場合の例です。

表 6: エクスポート・ファイルの命名規則

アセット 名	SiteCatalog Pagename	packedargs	filename	asset _ID	SUFFIX	エクスポートされる ファイル名
ホーム	BF/Page/ Home	cid=123 c=Page		123		BF-Page- Home_123.html
ホーム	BF/Page/ Home	cid=123 c=Page		123	.htm	BF-Page- Home_123.htm
ホーム	BF/Page/ Home	cid=123 c=Page	home.html	123		BF-Page- Home_home.html
ホーム	BF/Page/ Home	cid=123 c=Page	home.html	123	.htm	BF-Page- Home_home.html
ホーム	BF/Page/ Home	cid=123 c=Page  PACKEDARGS= "topicword=oil"	home.htm	123		BF-Page- Home_topicword_ oil_home.htm

## エクスポート開始ポイント

ディスクへのエクスポートのパブリッシュ方法では、どこから開始するかが不明な場合、ファイルのレンダリングを開始できません。どこから開始するかを指示するには、開始ポイント、すなわちページ・アセットとそれをレンダリングするために使用する必要があるテンプレートを、少なくとも 1 つ指定します。

WebCenter Sites はテンプレートのページ名のルート・エレメントを起動し、そのエクスポート開始ポイントに接続されているすべての承認済アセット、すなわちアソシエーション、ハイパーリンク、ナビゲーション・バー、問合せなどを通じて接続されているアセットの、レンダリングを開始します。

### 注意

エクスポートするサイトには、少なくとも 1 つのエクスポート開始ポイントが必要です。通常は、ホーム・ページを使用します。ただし、オンライン・サイトの設計方法によっては、複数のエクスポート開始ポイントが必要になる可能性があります。なぜでしょうか。なぜなら、サイトのあるセクションがサイトの他の部分に接続されていない場合、このセクションはレンダリングされないからです。例を示します。

- オンライン・サイトに複数の最上位ページ・アセットが存在する場合、それぞれに対応するエクスポート開始ポイントが必要です。
- 静的ページと動的ページが混在するサイトで、動的に生成されるページの HREF に静的 URL がハードコードされている場合、その URL で指定されるアセットをエクスポート開始ポイントとして指定する必要があります。

## ディスクへのエクスポートのパブリッシュに対するシステム構成

ディスクへのエクスポートのパブリッシュを使用するようにシステムを構成する主な手順は次のとおりです。

- 手順 1. バッチ・ユーザー・アカウントの作成 (存在しない場合)
- 手順 2. ルート・エクスポート・ディレクトリの指定
- 手順 3. エクスポート先の構成
- 手順 4. Web サーバーの URL 接頭辞のマッピング
- 手順 5. エクスポート開始ポイントの作成
- 手順 6: アセットの承認
- 手順 7. 結果のパブリッシュおよびテスト
- 手順 8: スケジュールの設定

### 注意

ディスクへのエクスポートのパブリッシュを使用するようにシステムを構成するには、独自の WebCenter Sites のインストールおよびビジネス慣行に固有の情報を指定する必要があります。この項の手順を開始する前に、要求される情報を収集して確認するために、この手順を通読することをお勧めします。

### 手順 1. バッチ・ユーザー・アカウントの作成 (存在しない場合)

#### 注意

この項の手順を実行する必要があるのは、設定するパブリッシュ方法の数およびタイプに関係なく、1 回のみです。アカウントがすでにインストールに存在する場合は、315 ページの「[手順 2. ルート・エクスポート・ディレクトリの指定](#)」にスキップしてください。

バッチ・ユーザー・アカウントの作成には、次の 2 つの目的があります。

- ソース上のパブリッシュ・システムが使用するバッチ・ユーザー・アカウントを構成する。
- パブリッシュ・ログを保存する場所を指定する。

この項の手順では、futuretense.ini ファイル、batch.ini ファイルおよび futuretense\_xcel.ini ファイルで様々なプロパティを設定する必要があります。それ以外に、システム構成を微調整するために使用可能なプロパティもあります。プロパティの完全なリストは、[プロパティ・ファイル・リファレンス](#)を参照してください。

**バッチ・ユーザー・アカウントを作成するには：**

1. ソース・システムの管理者インタフェースにログインします。
2. 「管理」タブで「管理ツール」を開き、「ユーザー」をダブルクリックします。
3. ソース・システム上のパブリッシュ・システムが使用するユーザー・アカウント（つまりバッチ・ユーザー）を作成し、次の ACL に割り当てます。
  - Browser
  - ElementEditor
  - PageEditor
  - TableEditor
  - UserReader
  - Visitor (インストールに Oracle WebCenter Sites: Engage が含まれる場合)
  - VisitorAdmin (インストールに Oracle WebCenter Sites: Engage が含まれる場合)
  - xceladmin
  - xceleeditor

この手順の詳細は、[96 ページの「新しいユーザーの作成」](#)を参照してください。

4. プロパティ・エディタを起動します。
  - Windows: propeditor.bat (通常は <sites\_install\_dir>/ にあります)
  - UNIX: propeditor.sh (通常は \$HOME/<sites\_install\_dir> にあります)
- a. ソース・システムの futuretense\_xcel.ini ファイルを開きます。
  - 1) 「パブリッシュ」タブで、次のプロパティの値を設定します。
    - xcelerate.batchhost  
このプロパティを、ソース・システムをホストしているアプリケーション・サーバーのホスト名に設定します。ソース・システムが、バッチ・ホストになります。Web サーバーが 80 以外のポート番号を使用している場合は、そのポート番号も含める必要があります。たとえば、myserver:7001 と指定します。WebCenter Sites 環境がクラスタ化されている場合、サポートされるバッチ・ホストは 1 つのみです。xcelerate.batchhost プロパティは、クラスタ・メンバーごとに専用ホストを指定するように設定する必要があります。
    - xcelerate.batchuser  
このプロパティを、この手順の[手順 3](#)で作成したユーザーの名前に設定します。
    - xcelerate.batchpass  
このプロパティを、この手順の[手順 3](#)で作成したユーザーのパスワードに設定します。
- b. プロパティ・ファイルを保存して閉じます。
- c. ソース・システムの batch.ini ファイルを開きます。

- 1) 「結果」タブで、request.folder プロパティを、パブリッシュ・ログ・ファイルを配置するディレクトリを指定するように設定します。デフォルトでは、このプロパティは、アプリケーション・サーバーのインストール・ディレクトリの dispatcher サブディレクトリに設定されています。

#### 注意

このプロパティを書き込み可能なディレクトリに設定していることを確認してください。設定されていない場合、「パブリッシュ・コンソール」の「パブリッシュ履歴」タブに何もセッション情報が表示されません。

- 2) プロパティ・ファイルを保存し、プロパティ・エディタを閉じます。
5. アプリケーション・サーバーを再起動します。
6. ディスクへのエクスポートのパブリッシュの構成手順を続行します。313 ページの「ディスクへのエクスポートのパブリッシュに対するシステム構成」で、この項の次の手順に進んでください。

## 手順 2. ルート・エクスポート・ディレクトリの指定

この章ですでに説明しているように、WebCenter Sites がファイルをエクスポートするディレクトリは、futuretense.ini ファイルの cs.pgexportfolder プロパティによって決まります。(このディレクトリにサブディレクトリを追加する場合は、宛先構成画面の「ベース・ディレクトリ」フィールドに値を入力します。)

#### エクスポートされるファイルのルート・ディレクトリを設定するには：

1. ソース・システムでプロパティ・エディタを起動します。この手順についてサポートが必要な場合は、プロパティ・ファイル・リファレンスを参照してください。
2. futuretense.ini ファイルを開きます。
3. 「エクスポート/ミラー」タブで cs.pgexportfolder プロパティを選択し、その値を、すべてのファイルをエクスポートするファイル・ディレクトリ(場所)に設定します。

これは、システムのグローバル設定です。複数の宛先があり、それぞれの宛先にパブリッシュされたファイルがこのディレクトリ内の対応するサブディレクトリに保存されるようにする場合は、(「手順 3. エクスポート先の構成」で)それらの宛先を構成する際に「ベース・ディレクトリ」フィールドに値を入力します。

エクスポート・ディレクトリの詳細は、302 ページの「パスの命名規則」を参照してください。

4. プロパティ・ファイルを保存し、プロパティ・エディタを閉じます。

5. アプリケーション・サーバーを再起動します。

#### 注意

エクスポート・パブリッシュ・セッションを実行する前に、このルート・エクスポート・ディレクトリが存在し、作成される HTML ページ用に十分な領域があることを確認します。

### 手順 3. エクスポート先の構成

エクスポート先を作成するには：

1. ソース Sites システムの管理者インタフェースにログインします。
2. 「管理」タブで、「パブリッシュ」、「宛先」の順に開いて、「新規追加」をダブルクリックします。



WebCenter Sites に「新規宛先の追加」フォームが表示されます。

**Add New Destination**

\*Name:

Delivery Type:

Select the desired publishing option

☒ Complete publish

☐ Delayed publish

\*Destination address:

\*Remote User:

\*Remote Password:

Send Email on Failure: ☐

Verbose Output: ☐

More Arguments:

\*Sites:

\*Roles (Approve for Publish):

\*Roles (Publish):

3. 「新規宛先の追加」フォームの各フィールドに次のように値を入力します。
- 「名前」フィールドに、一意の宛先の名前を入力します。
  - 「配信タイプ」ドロップダウン・リストで**ディスクへのエクスポート**：  
ディスクへの**Web**ファイルのエクスポートを選択します。画面の入力可能なフィールドが多少変わります。
  - ベース・ディレクトリ：このエクスポート先にパブリッシュされるファイルのサブディレクトリ名を入力します。ベース・ディレクトリは、`cs.pgexportfolder` プロパティで指定されているルート・ディレクトリの子ディレクトリとして作成されます。
- このフィールドに値を入力した場合、パブリッシュの宛先のエクスポート・パスは、次のようになります。

```
<cs.pgexportfolder>/<DIR>
```

DIR はベース・ディレクトリです。

### 注意

エクスポートされたファイルに記述される URL には、この宛先ディレクトリ・パスは含まれません。エクスポートされるファイルの URL は、宛先ディレクトリ内で、このレベルの下位レベルから始まります。したがって、このフィールドに値を入力し、さらに「URL 接頭辞」フィールドにも値を入力する場合は、「URL 接頭辞」フィールドで表される Web ルートまたは Web 別名がこのディレクトリを指定するようにしてください。

このパラメータは、通常は、サイトに複数のエクスポート先が存在する場合に、ルート・エクスポート・ディレクトリのコンテンツを整理するために使用します。

- **URL 接頭辞**：エクスポートされるファイル内でリンク (HREF) として使用される URL の先頭にエクスポート・プロセスで追加する接頭辞を入力します。

HTML ファイルが配信システムに移動されたときにファイル内のリンクが解決されるように、URL には、配信システムの Web サーバー別名を指定します。このフィールドを空白のままにすると、URL は相対形式で記述されます。

生成されるファイルの名前にはこの接頭辞は含まれません。ファイル内のリンクでのみ使用されます。

HTML ファイルは、配信システムに移動する前に必ずテストする必要があります。したがって、テスト・システム上の Web 別名の名前と配信システム上の Web 別名の名前が同じであることを確認してください。

- **接尾辞**：このテキスト・ボックスには、アセットの「ファイル名」フィールドを使用しない場合またはそのフィールドで接尾辞を指定しない場合に、生成されるファイルに適用するファイル接尾辞を指定します。デフォルトは **html** です。
- **ファイルに単純な名前を使用**：このパラメータが選択されている場合、WebCenter Sites は、アセットのレンダリングに使用するテンプレートの SiteCatalog ページ・エントリを無視することによって、通常のファイルの命名規則を無視して、アセットの「ファイル名」フィールドにファイル名として入力された値のみを使用します。アセットにファイル名が指定されていない場合は、かわりにアセットの ID を使用します。(ファイルの命名規則の詳細は、[308 ページの「ファイルの命名規則」](#)を参照。)

### 注意

このルールには例外が 1 つあり、アップロード・フィールドを持つアセット (BLOB であるアセット) には、この値が true に設定されていても、常に標準の (長い) ファイル名が使用されます。

**注意**

「ファイルに単純な名前を使用」パラメータは、注意して使用する必要があります。個々のアセットを複数のテンプレートでレンダリングするように設計されているサイトでは、このパラメータを使用しないでください。ファイル名で SiteCatalog ページ・エントリが使用されていない場合、1つのアセットを複数のテンプレートでレンダリングすると、ファイル名が一意であることを保証できません。

- **ディレクトリに単純な名前を使用**：このパラメータが選択されている場合、通常のディレクトリの命名規則は無視されます。(ファイルの命名規則の詳細は、[302 ページの「パスの命名規則」](#)を参照。)

「ディレクトリに単純な名前を使用」が選択されている場合、親アセットからパス情報を取得できないときは、WebCenter Sites は、レンダリングされた HTML ファイルを直接デフォルトのエクスポート・ディレクトリに書き込みます。(通常は、パス情報がないときはページ・アセットの ID を使用します。)アセットの親ページ・アセットの Path パラメータに値が設定されている場合は、この選択は無視されます。

- **古いテンプレート**：この製品の 3.5 以前のバージョンの標準のレンダリング方法を使用するには、このパラメータを選択します。

**注意**

配信サイト上で公開しているオンライン・サイトが 3.6 以前のバージョンの Sites で使用されているレンダリング・モデル用に設計されていて、まだ 3.6 のレンダリング・モデル用に再設計されていない場合、このパラメータを選択する必要があります。


このパラメータを選択する場合は、サイトにエクスポート開始ポイントを設定しないでください。エクスポート開始ポイントは、テンプレート自体で決まります。


- **失敗時の電子メールの送信**：パブリッシュが失敗し、その結果を電子メールで通知する必要がある場合、このオプションを選択します。フィールドが追加表示されます。
  - **電子メール・アドレス**：受信者の電子メール・アドレスを入力し、「追加」をクリックします。(このフィールドは、「失敗時の電子メールの送信」が選択されている場合にのみ表示されます)。失敗時に電子メールを受信するすべての電子メール・アドレスが表示されます。
- **詳細出力**：パブリッシュ・プロセス中の詳細なエラー・ログギングをアクティブ化します。これを選択した場合、エラー・メッセージの追加のメッセージが PubMessage 表に書き込まれます。追加情報によりパブリッシュ・プロセスが長くなるため、このオプションはトラブルシューティングの場合にのみ選択するようにしてください。
- **他の引数**：この場合は、他の引数は指定できません。


- **サイト**: アセットを承認し、この宛先にパブリッシュできるサイトを選択します。
  - **ロール (パブリッシュの承認)**: 承認権限を割り当てるロールを選択します。これらのロールが割り当てられるすべてのユーザーがアセットを承認できます。
  - **ロール (パブリッシュ)**: パブリッシュ権限を持つロールを選択します。これらのロールが割り当てられるすべてのユーザーがパブリッシュできます。
4. 「新規宛先の追加」をクリックします。

「パブリッシュの宛先」画面が開き、新しい宛先が表示されます。

**Publish destination: FirstSiteII\_E2D**

 Inspect

 Edit

 Delete

Approve Multiple Assets

Set Default Templates

**Name:** FirstSiteII\_E2D

**Delivery Type:** [Export to Disk](#): Export Web files to disk

**Base Directory:**

**URL Prefix:**

**Suffix:**

**Use simple file naming:** false

**Use simple directory naming:** false

**Old Template:**

**Send Email on Failure:** false

**Verbose Output:** false

**More Arguments:**

**Sites:** FirstSite II

**Roles (Approve for Publish):** Any

**Roles (Publish):** Any

**Publish Event:** No existing publish event

Set Publish Event...

**ID:** 1328442570750

Force Approve Published Assets

[▶ List all Publish Destinations](#)

5. 構成する必要がある追加のエクスポート先ごとに、[手順 2-4](#) を繰り返します。

## 手順 4. Web サーバーの URL 接頭辞のマッピング

エクスポートされたコンテンツを最終宛先 ( 配信システム ) で公開するには、Web サーバーの構成で URL パス接頭辞をファイルの配置場所にマップして、URL を解決できるようにします。

Web サーバーで URL 接頭辞をマップする適切な手順の詳細は、Web サーバーのベンダーのドキュメントを参照してください。この接頭辞に指定する名前は、この宛先の「URL 接頭辞」宛先構成パラメータに指定した名前と一致する必要があることに留意してください。「URL 接頭辞」に入力した場合、入力したディレクトリが Web ルートまたは Web 別名に含まれるようにしてください。

## 手順 5. エクスポート開始ポイントの作成

エクスポート開始ポイントを作成するには：

1. ソース・システムの管理者インタフェースを使用して、エクスポート開始ポイントとして指定するアセットを見つけます。
2. 見つけたアセットをその「ステータス」フォームで開き、「パブリッシュの宛先」セクションにスクロールします。
3. 次のいずれかを行います。
  - アセットが現在構成している宛先に対してまだ承認されていない場合、ツールバーの「パブリッシュの承認」( 緑のチェック・マーク・アイコン ) を選択し、[手順 4](#)に進みます。
  - アセットが現在構成している宛先に対して承認済である場合、[手順 6](#)に進みます。
4. パブリッシュの承認フォームで、アセットを承認する宛先を選択し、「承認」をクリックします。

このアセットにリンクされているすべてのアセットの依存性が計算され、結果が表示されます。
5. 承認結果が表示されたら、ツールバーの「ステータス」アイコン ( 緑のチェック・マーク付きの時計の文字盤 ) をクリックします。
6. 「ステータス」フォームで、選択した宛先が表示されているセクションにスクロールします。

7. 「ファイル/パス」フィールドで、「パス/ファイル名と開始ポイントの指定」をクリックして、エクスポート開始ポイントを構成します。

Content Attribute:FSIIBody

---

Name: FSIIBody

Description: Body

Status: Edited

Created: Tuesday, October 19, 2004 9:36:13 AM PDT by admin

Modified: Wednesday, November 3, 2004 10:19:37 AM PST by admin

Workflow commands: <Select Workflow Action>

Workflow process: This asset is not in Workflow.

Workflow state: There are no current assignments. Workflow is inactive.

Workflow history: [Click here to see Workflow History.](#)

FSII Destination (RealTime):

Approval State: Needs Approval. Not yet approved for publish to FSII Destination (RealTime).  
[Approve this asset.](#)

FSII Destination (dynamic):

Approval State: Needs Approval. Not yet approved for publish to FSII Destination (dynamic).  
[Approve this asset.](#)

FirstSiteII\_E2D:

Approval State: Approved. Approved and ready to publish to FirstSiteII\_E2D.

Template: OpenMarket/TemplateDefault

File/Path: [Specify Path/Filename, Start points](#)

Start points: Not an export starting point.

Approve Dependents: No dependent assets

LoafersBakery:

Approval State: Needs Approval. Not yet approved for publish to LoafersBakery.  
[Approve this asset.](#)

クリックして  
エクスポート  
開始ポイント  
を構成

8. 次の画面で、その後の指示に従ってフィールドに値を入力します。

Content Attribute: FSIIBody

Cancel
Save

Name: FSIIBody

Description: Body

Template: No template specified

Status: Edited

ID: 1112192431363

Created: Tuesday, October 19, 2004 9:36:13 AM PDT by admin

Modified: Wednesday, November 3, 2004 10:19:37 AM PST by admin

Path:

Filename:

For Destination: FirstSiteII\_E2D

Path:

Filename:

Is this asset an export starting point?
☐ Yes
☒ No

Using templates:

Template	Wrapper page	Force specified path	Force specified filename
<input type="checkbox"/> FSIIDetail	<input type="text" value="-None-"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> FSIIlink	<input type="text" value="-None-"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> FSIISummary	<input type="text" value="-None-"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

Cancel
Save

a. (オプション)「宛先」セクション:

- 1) パス: この宛先にパブリッシュするアセットに一意のパス情報を指定する場合 (このアセットのパス情報はここ以外に指定する場所はありません)、「パス」フィールドにパスを入力します。
- 2) ファイル名: この宛先に固有のファイル名情報を指定する場合、「ファイル名」フィールドに入力します。このフォームで入力したこの宛先用のファイル名は、アセットに対して他の場所で指定されたあらゆるファイル名情報より優先されます。

b. 「このアセットがエクスポート開始ポイントですか。」で「はい」を選択します。

c. (オプション)「使用するテンプレート」セクションで次のように選択します。

- 1) テンプレートを選択します。
- 2) ラッパー・ページを選択します。



- 3) このアセットを「宛先」セクションで指定されているパスに強制的にエクスポートする場合、「**指定パスの強制使用**」を選択します。
- 4) 「宛先」セクションで指定されているファイル名を強制的に使用する場合、「**指定ファイル名の強制使用**」を選択します。
9. 「保存」をクリックします。
10. サイト内の最上位ページ・アセットごとに手順 1-9 を繰り返します。

## 手順 6: アセットの承認

構成の簡単なテストを実行する場合、依存アセットの数が最も少ないエクスポート開始ポイントを選択して、各アセットを承認します。

サイト全体のテスト・パブリッシュを実行する場合は、そのサイトのすべてのアセットを承認します。多数のアセットを一度に承認する方法の詳細は、[362 ページ](#)の「[複数アセットの承認](#)」を参照してください。

## 手順 7. 結果のパブリッシュおよびテスト

選択した宛先にパブリッシュするアセットが承認されたら、テスト・パブリッシュ・セッションを実行します。

1. ソース・システム上の管理者インタフェースで、ボタン・バーの「パブリッシュ」をクリックします。
2. 「パブリッシュ・コンソール」で、ドロップダウン・リストから宛先を選択し、「**宛先の選択**」をクリックします。

WebCenter Sites に、この宛先にパブリッシュする準備のできているアセットに関する情報が表示されます。(この宛先に対するエクスポート開始ポイントをまだ作成していない場合、フォームにそのことを通知するメッセージが表示されます。パブリッシュ・セッションを開始する前に、少なくとも 1 つのエクスポート開始ポイントを作成する必要があります。)

3. 「パブリッシュ」をクリックします。

確認メッセージが表示されます。「はい」をクリックしてパブリッシュを続行します。

パブリッシュ・システムは、この宛先に対して承認されたすべてのアセットをファイルにエクスポートします。

4. 「パブリッシュ・コンソール」の「アクティブ」タブで、セッションの動作を監視できます。

5. セッションが完了したら、「履歴」タブをクリックすると、このセッションのセッション・サマリーを表示できます。

セッション情報の上にマウスを移動すると、サマリー情報が表示されます。

6. 「パブリッシュ・コンソール」の「履歴」タブで、パブリッシュの宛先へのリンクを選択します。

セッション・サマリーには、エクスポート・プロセス中に作成されたすべてのファイルのリストが表示されます。

7. サイトの最上位ページを表すファイルの横にある「プレビュー」(双眼鏡)アイコンをクリックします。

選択したページが、新しいブラウザ・ウィンドウで開きます。

8. ページ全体をざっと見てエラーを探し、すべてのリンクをテストします。必ず、生成された他のすべてのファイルへのリンクをテストしてください。
9. レンダリングされたホーム・ページの URL をブラウザに直接入力し、サイト全体を移動して、リンク結果をテストします。そのためには、**Sites** 管理システム上で **Web** サーバー・ルートをエクスポート・ディレクトリに設定する必要があります。
10. ファイルが配信の準備ができていると判断したら、ファイルを配信システムにコピーします。

## 手順 8: スケジュールの設定

次のことを確認します。

- 宛先が正しく構成されている。
- 必要なファイル名とディレクトリ名が作成されている。
- **Web** サーバーがファイルを正しく配信している。

これらのことを確認できたら、ソース・システムで次の手順を実行することによって、パブリッシュ・システムの構成を完了できます。

- 宛先に対してスケジュールされたパブリッシュ・イベントを作成します。この手順の詳細は、[365 ページの「パブリッシュ・イベントのスケジュール」](#)を参照してください。
- 生成されたファイルを、テスト領域と配信システムの両方の **Web** サーバーにコピーする方法を計画します。たとえば、パブリッシュ・セッション完了後に **FTP** を使用してファイルを自動的にテスト領域にコピーするスクリプトを設定できます。

## 第 15 章

# サーバーへのミラーリングのパブリッシュ・プロセス

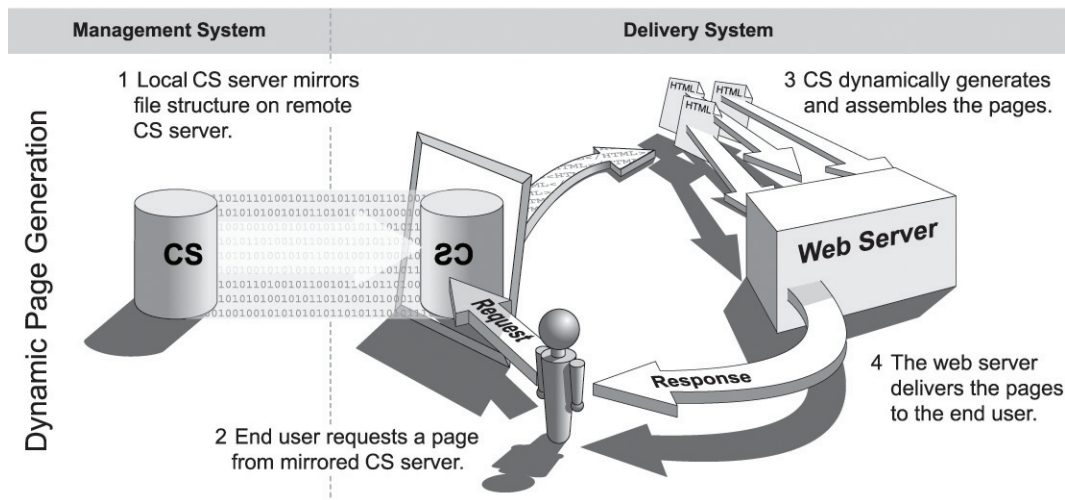
この章では、サーバーへのミラーリングのパブリッシュ操作方法と構成方法について説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [サーバーへのミラーリングのパブリッシュ操作方法](#)
- [サーバーへのミラーリングのパブリッシュを構成する前に](#)
- [サーバーへのミラーリングのパブリッシュに対するシステム構成](#)
- [パフォーマンス向上のための承認問合せ](#)
- [配信サイト・システムからのログの取得](#)

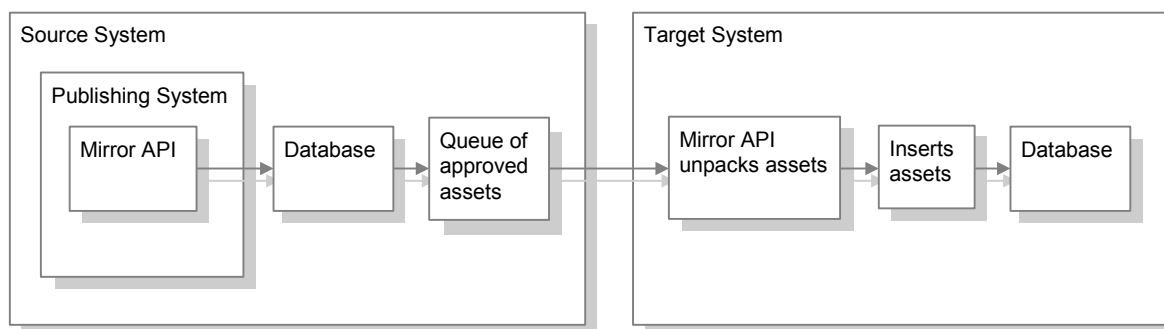
## サーバーへのミラーリングのパブリッシュ操作方法

サーバーへのミラーリングのパブリッシュ方法では、承認システム、パブリッシュのスケジュールおよび宛先構成から情報を収集し、データを宛先へコピーし、そのデータを宛先システムで解凍した後、CacheManager サーブレットを起動して新コンテンツの利用のために再生成が必要な任意のページをリフレッシュします。



Sites 配信システムがコンテンツを動的に配信するかどうかに関係なく、多くの場合、サーバーへのミラーリングのパブリッシュ方法を使用して、開発システムから管理システムへデータを移動します。このプロセスの詳細は、[379 ページの「トラブルシューティング」](#)を参照してください。

サーバーへのミラーリングのパブリッシュ・セッションが実行されると、次のようになります。



1. ソース・システムでは、サーバーへのミラーリングのパブリッシュは、宛先に対するミラーリング・キューを作成するために、パブリッシュ・システムによって渡された承認済アセット一覧を使用します。

#### ベーシック・アセット用のミラーリング・キュー

ベーシック・アセットの場合、次の情報がキューに追加されます。

- アセットのメイン表の行。たとえば、ページ・アセットの場合は、Page 表のアセットの行です。
- AssetPublication 表の該当する行。これらの行はサイトおよびサイトに属するアセットを一覧表示します。
- パブリッシュされているアセットと関連付けられている任意のアセットを参照する AssetRelationTree 表の行。
- AssetRelationTree 表の行が参照する、関連付けられたアセット。アセット表の行、AssetPublication の行および任意の依存アセットの関連付けられたアセットも、承認済でパブリッシュされていない場合はミラーリングされます。

#### フレックス・アセットおよびコンプレックス・アセット用のミラーリング・キュー

フレックス・アセット・タイプとその他の複数表のアセット・タイプ (テンプレートと CSElement など) の場合、それらすべての表の該当する行情報が、1つのオブジェクトにシリアルライズされ、そのアセット・タイプの \_Publish 表に格納されます。

たとえば、テンプレートがパブリッシュされると、Template 表、SiteCatalog 表および ElementCatalog 表が1つのオブジェクトにシリアルライズされ、Template\_Publish 表に格納されます。

\_Publish 表の各アイテムはミラーリング・キューに追加されます。

2. WebCenter Sites が AssetPublishList 表を使用し、ミラーリング・キューにあるすべてのアセットのリストを作成します。
3. ミラーリング処理が開始されます。

最初に、AssetPublishList がソースから宛先へミラーリングされます。

4. ミラーリング・キューが配信され、パブリッシュ・システムは、キューにあるアセットを解凍します。

フレックス・アセットの場合、サーバーへのミラーリングのパブリッシュによって、\_Publish 表のオブジェクトがデシリアルライズされ、該当する表に結果が挿入されます。

ベーシック・アセットの場合、キューの各行がコピーされます。

5. ミラーリング・キューのアイテムが解凍されると、パブリッシュ・システムは、ミラー・パブリッシュが正常に完了したというメッセージを送信します。宛先システムは、次のように応答します。
  - 新たにパブリッシュされたアセットが宛先システムで変更済とマークされます。これは、そのシステムから別の宛先へのパブリッシュが可能になるには、承認される必要があることを意味しています。この機能はデフォルトで有効になっていることに注意してください。必要があれば無効にできます。詳細は、[347 ページの「手順 12: 配信システムでのアセットの無効化の解除」](#)を参照してください。

- 宛先の **CacheManager** サブレットは、今パブリッシュされたアセットを参照するすべてのページが更新されるように、キャッシュ内の適切なページを再生成します。不明な構成依存性を持つどのページも再構築します。
  - 次に、**CacheManager** は、宛先システム上の **satellite.ini** ファイルで指定される各 **Satellite Server** に対して、リフレッシュが必要なページに関するメッセージを伝えます。**CacheManager** は、共存する **Satellite Server** および、この **Sites** システムに属すると識別されているすべてのリモート **Satellite Server** と通信します。その後、**Satellite Server** アプリケーションが、その情報を使用して **Satellite Server** のページ・キャッシュをリフレッシュします。
  - **AssetPublishList** 表が消去され、次のパブリッシュ・セッションに対して準備されます。
6. ソース・システムで、パブリッシュ・システムは、パブリッシュ・ログ・ファイルを更新します。各アセットがエクスポートされた後にパブリッシュ・ログへ書き込む、ディスクへのエクスポートのパブリッシュ方法とは異なり、サーバーへのミラーリングのパブリッシュは、ミラーリング・キュー全体が正常にミラーリングされるまで待機してからパブリッシュ・ログへ結果を書き込みます。
  7. パブリッシュ・セッションが正常に完了すると、**WebCenter Sites** は、パブリッシュした参照に関する情報を **PubKey** 表と **PublishedAssets** 表に書き込み、ソース・システムで **AssetPublishList** 表を消去することで、そのセッションを終了します。
  8. **WebCenter Sites** はさらに、次回アセットが承認されるときに承認システムが適切に依存性を計算できるように、パブリッシュされたアセットに関する情報を、**ApprovedAssets** 表と **ApprovedAssetDeps** 表に書き込みます。

## サーバーへのミラーリングのパブリッシュを構成する前に

サーバーへのミラーリングのパブリッシュ・プロセスを構成する前に、この項で提示されるトピックを考慮してください。事前に次の情報について知っておくと、円滑に構成プロセス行うために役立ちます。

- [ユーザーとサーバーへのミラーリングのパブリッシュ](#)
- [CacheManager](#)
- [ミラーリング先の構成](#)

## ユーザーとサーバーへのミラーリングのパブリッシュ

パブリッシュ・イベントがパブリッシュ・セッションの処理に使用するソース・システム上のバッチ・ユーザー・アカウントに加えて、サーバーへのミラーリングのパブリッシュ方法では、別のユーザー・アカウント (宛先サーバーにあるミラー・ユーザー・アカウント) が必要となります。これは、パブリッシュ・システムが宛先システムでミラーリング・キューの解凍に使用するユーザー・アカウントです。

サーバーへのミラーリングのパブリッシュの宛先を設定する際に、宛先が示す宛先システム上にミラー・ユーザー・アカウントを作成する必要があります。

## CacheManager

CacheManager は、管理システムを含む、動的 Sites システム上のページ・キャッシュを保持する WebCenter Sites のサーブレットです。

CacheManager がパブリッシュ・システムにとって重要なのは、ミラー・パブリッシュの際に宛先で適切なアセットをロックし、ミラー・パブリッシュ・セッションの前後のページ・キャッシュの整合性を保証するからです。

CacheManager の詳細は、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』を参照してください。

## ミラーリング先の構成

サーバーへのミラーリングのパブリッシュ方法では、承認済アセットに関する情報が、Sites データベースから別の Sites データベースへコピーされます。この情報を、ミラーリング先に対して構成する必要があります。ミラーリング先の構成には、宛先の初期化および宛先に対するデータの構成の 2 つの手順があります。

新しいミラーリング先を作成するときは必ず、ミラーリング先を初期化してからそこにパブリッシュする必要があります。ミラーリング先を初期化するには、次の情報を指定します。

- サイト。選択するサイトに基づいて、Publication 表、SitePlanTree 表および PublicationTree 表の該当する行が宛先へミラーリングされます。
- アセット・タイプをサポートするか、直接アセット・タイプに関連する任意のカスタム表。つまり、AssetMaker またはフレックス・ファミリー・メーカーのいずれによっても作成されなかったアセットの表です。これらの例として、Source と Mimetype が挙げられます。これらの表は、補助表と呼ばれます。

ミラーリング先の構成とは、ターゲット宛先にミラーリングされるデータ (アセット・タイプ、アソシエーションおよびスタート・メニュー・アイテムなど) を示すプロセスのことです。ミラーリング先を構成すると、補助表 (アセットの動的表示に使用されるアセット以外のデータベース表) の構成データと行が、Sites データベースから別の Sites データベースへ移動します。

## ミラーリング先の構成を使用する場合

次のようないくつかの状況でミラーリング先の構成機能を使用します。

- 新しいミラーリング先を設定する場合。
- アセット・タイプ (スタート・メニュー・アイテム、アソシエーションなど) をサポートする構成アイテムを、開発システムから管理システムまたは配信システムへ移動する場合。
- ワークフロー構成データを開発システムから管理システムに移動する場合。
- 管理者または開発者が、別のサイト、アセット・タイプまたは補助表をシステムに追加する場合。
- 管理者または開発者が、既存のアセット・タイプにカテゴリまたはサブタイプを追加する場合。

- 構成をトラブルシューティングする必要がある場合。ミラーリング先を正常に初期化できれば、ソース・システムと宛先システム間での通信が行われています。

## サーバーへのミラーリングのパブリッシュに対するシステム構成

サーバーへのミラーリングのパブリッシュを使用するようにシステムを構成する主な手順は次のとおりです。

- 手順 1: バッチ・ユーザー・アカウントの作成 (存在しない場合)
- 手順 2: 配信システムの設定
- 手順 3: ソース・システムでのミラー・ユーザーの識別
- 手順 4: ソース・システムでのローカル・プロキシ・サーバーの識別 (存在する場合)
- 手順 5: ミラーリング先の作成
- 手順 6: 宛先の初期化
- 手順 7: ミラーリング先の構成
- 手順 8: アセットの承認
- 手順 9: アセットのパブリッシュ
- 手順 10: 結果のテスト
- 手順 11: スケジュールの設定
- 手順 12: 配信システムでのアセットの無効化の解除

### 注意

サーバーへのミラーリングのパブリッシュを使用するようにシステムを構成するには、独自の **WebCenter Sites** のインストールおよびビジネス慣行に固有の情報を指定する必要があります。この項の手順を開始する前に、要求される情報を収集して確認するために、この手順を通読することをお勧めします。



## 手順 1: バッチ・ユーザー・アカウントの作成 (存在しない場合)

### 注意

構成しているパブリッシュの宛先の数やタイプに関係なく、この手順はソース・システムごとに 1 回のみ実行する必要があります。

ソース・システムにバッチ・ユーザー・アカウントがすでに存在する場合は、[手順 2: 配信システムの設定](#)に進みます。

- バッチ・ユーザー・アカウントをまだ作成していない場合、これを作成します。手順については、[313 ページの「手順 1. バッチ・ユーザー・アカウントの作成 \(存在しない場合\)」](#)を参照してください。
- インストールにバッチ・ユーザー・アカウントがすでに存在する場合は、[手順 2: 配信システムの設定](#)に進みます。

## 手順 2: 配信システムの設定

Sites システムから別の Sites システムへアセットをミラー・パブリッシュするためには、サイトとアセット・タイプが、ソース・システムと宛先システムの両方で同じであることを確認する必要があります。さらに、宛先システムで、**ミラー・ユーザー** (ソースに存在するバッチ・ユーザーとは異なります) という、別のユーザーを作成する必要があります。このユーザーが、宛先システムでミラー・パブリッシュのデータベース・トランザクションを実行します。

### 注意

ソース・システムと宛先システムのデータベース・プロパティは、完全には一致していなくても、特にデータベース・スキーマ・オプション (futuretense.ini で設定) は互換性がある必要があります。futuretense.ini. に変更を加えた場合は、必ずアプリケーション・サーバーを再起動してください。

**宛先システムを設定するには：**

1. アセット・タイプのフィールドの参照表など、カスタム・サポート表が存在する場合は、宛先システムにそれらの表を作成します。
2. 宛先システム上で、ミラー・ユーザーを作成し、次のことに注意してください。

### 注意

ミラー・ユーザーは、リアルタイム・パブリッシュ用に構成されたリアルタイム・ユーザーと同じ権限を持ちます。リアルタイム・ユーザーがリアルタイム・パブリッシュ用に構成されている場合、同じユーザーをミラー・ユーザーとして使用できます。

- このユーザーは、次の ACL を保持する必要があります。
  - Browser
  - ElementEditor
  - PageEditor
  - TableEditor
  - Visitor (Oracle WebCenter Sites: Engage がインストールされている場合)
  - VisitorAdmin (Oracle WebCenter Sites: Engage がインストールされている場合)
  - xceladmin
  - xceleditor
- ミラー・ユーザー・アカウントは、CacheManager によってパブリッシュ・セッションの後にページ・キャッシュを再生成するために使用されるため、ミラー・ユーザーには、キャッシュ内のすべてのページを再生成するのに十分な権限が与えられる必要があります。したがって、ミラー・ユーザー・アカウントには、SiteCatalog 表またはレンダリングされるデータを保持するデータベース表内のページ・エントリに割り当てられるすべての ACL が割り当てられる必要があります。

#### 注意

任意のサンプル・サイトが宛先システムにインストールされている場合は、**mirroruser** というユーザーがすでに存在しています。セキュリティ上の理由から、ミラー・ユーザーとしてこのユーザーを保持する場合、必ずこのユーザーのパスワードを変更してください。また別のミラー・ユーザーを作成する場合は、必ず、このサンプル・サイトの **mirroruser** を削除してください。

- ミラー・ユーザーの作成の詳細は、[96 ページの「新しいユーザーの作成」](#)を参照してください。

### 手順 3: ソース・システムでのミラー・ユーザーの識別

次に、ソース・システムで `futuretense.ini` ファイルのプロパティ値を設定することで、宛先システムのミラー・ユーザーの名前とパスワードをソース・システムに指定します。

#### 注意

プロキシ・サーバーはサーバーへのミラーリングとリアルタイム・パブリッシュの両方で使用されるため、プロキシ・サーバーがリアルタイム・パブリッシュ用に設定されている可能性があります。このような場合、次の手順にあるプロパティを確認し、適切に設定されていることを確認します。

**ミラー・ユーザーをソース・システムで識別するには：**

1. プロパティ・エディタを起動し、ソースの Sites システムで `futuretense.ini` ファイルを開きます。この手順についてサポートが必要な場合は、[プロパティ・ファイル・リファレンス](#)を参照してください。
2. 「エクスポート/ミラー」タブで、次のプロパティの値を指定します。
  - `cs.mirroruser`  
このプロパティを、前述の手順にある宛先システムで作成したユーザーの名前に設定します。
  - `cs.mirrorpassword`  
このプロパティを、前述の手順にある宛先システムで作成したユーザーのパスワードに設定します。
3. プロパティ・ファイルを保存します。
4. 次のいずれかを行います。
  - ソース・システムと宛先システムを区別するファイアウォールがある場合、[335 ページの「手順 4: ソース・システムでのローカル・プロキシ・サーバーの識別 \(存在する場合\)」](#)に進みます。
  - ソース・システムと宛先システムを区別するファイアウォールがない場合、プロパティ・エディタを閉じます。アプリケーション・サーバーを停止し、再起動します。次に、[336 ページの「手順 5: ミラーリング先の作成」](#)に進みます。

**手順 4: ソース・システムでのローカル・プロキシ・サーバーの識別 (存在する場合)****注意**

構成しているパブリッシュの宛先の数やタイプに関係なく、この手順はソース・システムごとに 1 回のみ実行する必要があります。

次のいずれかの場合、「[手順 5: ミラーリング先の作成](#)」にスキップします。

- ローカル・プロキシがすでにソース・システムで識別されている。
- プロキシ・サーバーが使用されていない。

**ローカル・プロキシをソース・システムで識別するには：**

1. ソース・システムのプロパティ・エディタで `futuretense.ini` を開き、「エクスポート/ミラー」タブで、次のプロパティの値を指定します。
  - `cs.mirrorproxyserver`  
このプロパティを、ローカル・プロキシ・サーバーの名前か IP アドレスに設定します。
  - `cs.mirrorproxyserverport`  
このプロパティをローカル・プロキシ・サーバーのポート番号に設定します。
2. プロパティ・ファイルを保存し、プロパティ・エディタを閉じます。

3. アプリケーション・サーバーを再起動します。

## 手順 5: ミラーリング先の作成

ミラーリング先を作成するには：

1. ソース Sites システムの管理者インターフェースにログインします。
2. 「管理」タブで、「パブリッシュ」→「宛先」を開きます。
3. 「宛先」で、「新規追加」をダブルクリックします。

「新規宛先の追加」フォームが表示されます。

**Add New Destination**

**\*Name:**

**Delivery Type:**

Mirror to Server: Copy database rows to remote dynamic server ▼

**\*Destination address:**

http://[targetserver:port]/cs/

**\*Remote User:**

fwadmin

**\*Remote Password:**

**Send Email on Failure:**

☐

**Verbose Output:**

☐

**More Arguments:**

**\*Sites:**

Any  
AdminSite  
FirstSite II  
Loafers Bakery  
avisports

**\*Roles (Approve for Publish):**

Any  
AdvancedUser  
Analytics  
Approver  
ArtworkAuthor  
ArtworkEditor

**\*Roles (Publish):**

Any  
AdvancedUser  
Analytics  
Approver  
ArtworkAuthor  
ArtworkEditor

Cancel

Add New Destination

4. この画面で次のようにフィールドを構成します。

- **名前:** 一意の宛先の名前を入力します。
- **配信タイプ:** 「サーバーへのミラーリング: データベースの行をリモート・サーバーへコピー」を選択します。
- **宛先アドレス:** 表示された形式でリモート・サーバーの URL を入力します。[targetserver:port] には、ターゲット・システムのホスト名または IP アドレスおよび宛先で使用されるポートを入力します。(URL は、動的に付加されるため、URL の末尾にはスラッシュが必要です。)

- **リモート・ユーザー**: 330 ページの「手順 2: ターゲット・システムの設定」で作成されるミラー・ユーザーの名前を入力します。このユーザーは、パブリッシュ・システムによって呼び出され、ターゲット・システムでミラーリング・キューを解凍します。
  - **リモート・パスワード**: ミラー・ユーザーのパスワードを入力します。
  - **失敗時の電子メールの送信**: パブリッシュに失敗し、電子メールでその影響を通知する必要がある場合、このチェック・ボックスを選択します。
    - **電子メール・アドレス**: 受信者の電子メール・アドレスを入力します。(このフィールドは、「失敗時の電子メールの送信」を選択した場合にのみ使用可能になります)。
  - **詳細出力**: パブリッシュ・プロセス中に詳細エラー・ロギングを有効にするには、このオプションを選択します。これを選択した場合、エラー・メッセージの追加のメッセージが **PubMessage** 表に書き込まれます。追加情報によりパブリッシュ・プロセスが長くなるため、このパラメータはトラブルシューティングの場合にのみ選択してください。
  - **他の引数**: このパラメータは将来使用するために予約されています。この時点で指定できる追加の引数はありません。
  - **サイト**: アセットを承認し、この宛先にパブリッシュできるサイトを選択します。
  - **ロール (パブリッシュの承認)**: 承認権限を割り当てるロールを選択します。このロールが割り当てられたすべてのユーザーは、アセットを承認できるようになります。
  - **ロール (パブリッシュ)**: パブリッシュ権限を割り当てるロールを選択します。これらのロールが割り当てられるすべてのユーザーがパブリッシュできます。
5. 「新規宛先の追加」をクリックします。

「パブリッシュの宛先」画面が表示されます。

**Publish destination: Dynamic**

Inspect

Edit

Delete

Approve Multiple Assets

**Name:** Dynamic

**Delivery Type:** Mirror to Server: Copy database rows to remote dynamic server

Initialize Mirror Destination...

**Destination address:** http://[targetserver:port]/cs/

**Remote User:** fwadmin

**Remote Password:** \*\*\*\*\*

**Send Email on Failure:** false

**Verbose Output:** false

**More Arguments:**

**Sites:** FirstSite II

**Roles (Approve for Publish):** Any

**Roles (Publish):** Any

**Publish Event:** No existing publish event

Set Publish Event...

**ID:** 1328442570755

Force Approve Published Assets

[List all Publish Destinations](#)

- この宛先システムを初期化する準備ができたなら (宛先システムへのパブリッシュを可能にするには初期化する必要があります)、「パブリッシュの宛先」フォームの「ミラーリング先の初期化」ボタンをクリックします。手順の詳細は、「[手順 6: 宛先の初期化](#)」を参照してください (その手順の[手順 4](#)から始めてください)。

さらにミラーリング先を作成する必要がある場合、ソース・システムで作成する必要があるミラーリング先を追加するたびに、[手順 2](#) から [手順 5](#) を繰り返します。

## 手順 6: 宛先の初期化

宛先システムへパブリッシュする前に、宛先システムを初期化する必要があります。これにより、宛先システムに基本的なサイト情報が作成されます。具体的に言うと、Publication 表と PublicationTree 表が、ターゲットにパブリッシュされたサイト名とアセット・タイプで更新されます。

宛先システムを初期化するには：

1. 「管理」タブで、「パブリッシュ」→「宛先」を開きます。
2. 「宛先」で、初期化する宛先をダブルクリックします。
3. 「パブリッシュの宛先」フォームで、「ミラーリング先の初期化」をクリックします。  
「ミラーリング先の初期化」画面が表示されます。

**Initialize Mirror Destination: Dynamic**

Sites: Select all sites that will be supported on this destination:

2FirstSite2
AdminSite
Burlington Financial
FirstSite II
GE Lighting

Auxiliary Tables: Add any other non-Asset tables whose data is referenced or displayed. These tables must exist on the destination before data can be mirrored over.

Source
MimeType
Category

Cancel Mirror

4. この宛先にパブリッシュするアセットを持つサイトを選択します。
5. 「補助表」フィールドで、次の表の名前を入力します。
  - Source: いずれかのアセット・タイプに対してソース機能を使用している場合。
  - MimeType: サイト DocLink、フレックス・フィルタ・アセット、ImageFile アセット・タイプを使用している場合、またはいずれかのカスタム・アセット・タイプに対してこの表を使用している場合。
  - Filters: サイトでフレックス・フィルタを使用している場合。(Filters 表には、フレックス・フィルタで使用するクラスがリストされます。jar ファイルとクラスを手動でコピーする必要があります。)



- アセット・タイプのその他の補助表 (参照表など)。

### 注意

表名に指定するフィールドは 5 つのみです。6 つ以上の表名を入力する必要がある場合、最初の 5 つの表にこの手順の [手順 6](#) を行い、次に残っている表に対して [手順 3](#) から [6](#) を繰り返します。

### 6. 「ミラー」をクリックします。

初期化に成功した場合は、WebCenter Sites に確認メッセージが表示されます。不成功の場合はエラー・メッセージが表示されます。

[手順 4](#) で選択したサイトに基づき、Publication、SitePlanTree および AssetType の各表の対応する行が宛先にコピーされます。

さらに、補助表として指定した表のすべての行が、宛先にコピーされます。

### 注意

また、「パブリッシュ・コンソール」からターゲット宛先を初期化することもできます。

1. ボタン・バーで、「パブリッシュ」をクリックします。
2. 「パブリッシュ・コンソール」で、ドロップダウン・リストからミラーリング先を選択し、「宛先の選択」をクリックします。
3. ターゲットでのサイトの作成ボタンをクリックします。確認画面が表示されたら、「はい」をクリックします。これにより、宛先システムに基本的なサイト情報が作成されます。

## 手順 7: ミラーリング先の構成

ここで、ターゲット宛先に配置するデータを構成する必要があります。この構成は、ターゲット宛先の目的に応じて異なります。たとえば、ターゲット宛先が完全に配信マシンである場合、ミラーリング時はアセット・タイプのみを含めることが適切です。宛先構成を進める前に、[360 ページの「あるシステムから別のシステムへのサイトの移行」](#)を参照すると役立ちます。

### 注意

リビジョン追跡がパブリッシュのターゲット宛先で ElementCatalog または SiteCatalog のいずれかに対してオンになっている場合、テンプレートのパブリッシュは失敗し、テンプレートは壊れる可能性があります。

ターゲット宛先でリビジョン追跡を有効にすることはお薦めできません。

1. ソース・システムの「管理」タブで、「サイト」を開き、ターゲット宛先にデータをパブリッシュするサイトをダブルクリックします。
2. 「パブリッシュの宛先」(画面の下部近く)で、**宛先(動的)**の「ミラー・サイト構成」をクリックします。この**宛先**はターゲット宛先です。

WebCenter Sites に、「ミラー・サイト構成」フォームが表示されます。

Mirror site configuration for: [FirstSiteII](#)

---

**Publish destination:** FSII Destination (dynamic)

**Asset Types:** enabled in FirstSiteII

Attribute Editor  
CSElement  
Content  
Content Attribute  
Content Definition

☒ Asset Subtypes for selected asset types  
☒ Asset Associations for selected asset types  
☒ Categories for selected asset types  
☒ Sites Desktop configuration for selected asset types  
☒ Sites DocLink configuration for selected asset types

**Start Menu Items:** available in FirstSiteII

CS-Desktop Content\_C  
CS-DocLink Document  
CS-DocLink Media  
Find Attribute Editor, FirstSiteII  
Find Content Attribute, FirstSiteII

**Workflow Processes:** available in FirstSiteII

FSII: Approval for Artwork  
FSII: Approval for Content  
FSII: Approval for Documents  
FSII: Approval for Products  
FSII: Approval for Promotions

☒ Workflow States used by selected workflow processes  
☒ All Workflow Actions  
☒ All Workflow Conditions

**Workflow Groups:** available in FirstSiteII

FSII Home Page Translations

☒ Workflow Group Actions

**Tree Tabs:** available in FirstSiteII

Site Plan  
Admin  
Site Admin  
Workflow  
Bookmarks

**Saved Searches:** available in FirstSiteII

**Roles:** available in all sites

AdvancedUser  
Analyst  
Analytics  
Approver  
ArtworkAuthor

ターゲット宛先で使用可能にするデータを選択します。

- **アセット・タイプ**: ターゲット宛先で使用可能にするアセット・タイプを選択します。

アセット・タイプにサブタイプおよびカテゴリがある場合、「アセット・タイプ」セクションのリストから適切なオプションを選択し、対応するチェック・ボックスを選択します。たとえば、AssocNamed 表には、アセット・タイプのアソシエーションに関する情報が含まれます。表は、「**選択したアセット・タイプのアセットのアソシエーション**」と関連するアセット・タイプを選択している場合にのみミラーリングされます。

サイト・デスクトップやサイト DocLink に対して選択したアセット・タイプを構成するには、サイト・デスクトップおよびサイト DocLink の構成チェック・ボックスを選択します。

- **スタート・メニュー・アイテム**: 管理者または開発者がコンテンツ・プロバイダで使用するために設計した任意のスタート・メニュー・アイテムを選択します。
- **ワークフロー・プロセス**: アセット・タイプのワークフロー・プロセスがある場合、これらのプロセスおよび適切なワークフロー・アイテムを選択します。
- **ワークフロー・グループ**: 管理者または開発者がコンテンツ・プロバイダで使用するために設計した任意のワークフロー・グループを選択します。
- **ツリー・タブ**: ターゲット宛先で使用可能にするツリー・タブを選択します。

#### 注意

「サイト・プラン」、「管理」、「サイト管理者」、「ワークフロー」、「ブックマーク」のツリー・タブのうち、いずれかがターゲット宛先にすでに存在する場合、そのツリー・タブのミラーリングは失敗し、宛先でツリー・タブが破損する恐れがあります。

ターゲット宛先にすでに存在するツリー・タブをミラーリングすることはお薦めしません。

- **保存済検索**: 管理者または開発者がコンテンツ・プロバイダで使用するために設計した任意の保存済検索を選択します。
- **ロール**: ターゲット宛先に存在する必要があるロールを選択します。

### 3. 「ミラー」をクリックします。

手順 2 で選択したアセット・タイプの構成オプションを基に、AssocNamed 表、AssocNamed\_Subtypes 表および Category 表の該当する行が宛先にコピーされます。

「スタート・メニュー・アイテム」または「保存済検索」を選択した場合、これらの機能を実装する表の該当する行が、宛先にコピーされます。

手順 2 で選択したワークフロー構成オプションを基に、ワークフロー表の該当する行が宛先にコピーされます。

### 4. アセットをターゲット宛先でパブリッシュするサイトごとに手順 1-3 を繰り返します。

## 手順 8: アセットの承認

パブリッシュされたサイトを真にテストするには、サイトのすべてのアセットを承認し、パブリッシュする必要があります。多数のアセットを一度に承認する方法の詳細は、[362 ページの「複数アセットの承認」](#)を参照してください。

構成の単純なテストを実行する場合は、依存が数個のみのホームページ・アセットを一時的に作成します。

## 手順 9: アセットのパブリッシュ

宛先にパブリッシュできるアセットを承認したら、テスト・パブリッシュ・セッションを実行できます。

1. ソース・システムのボタン・バーで「パブリッシュ」をクリックします。
2. 「パブリッシュ・コンソール」で、ドロップダウン・リストからミラーリング先を選択し、「宛先の選択」をクリックします。

WebCenter Sites に、この宛先にパブリッシュする準備のできているアセットに関する情報が表示されます。

3. なんらかの理由により、ターゲット宛先が初期化されていない場合は、すぐに初期化しないとパブリッシュ・セッションが失敗します。宛先を初期化するには、「パブリッシュ・コンソール」で、**ターゲットでのサイトの作成**をクリックします。これにより、宛先システムに基本的なサイト情報が作成されます。
4. 「パブリッシュ」をクリックします。

確認メッセージが表示されます。「はい」をクリックしてパブリッシュを続行します。

パブリッシュ・システムにより、この宛先に対して承認されたすべてのアセットが、その宛先システムの WebCenter Sites データベースにミラーリングされます。

5. 「パブリッシュ・コンソール」の「アクティブ」タブで、セッションの動作を監視できます。
6. セッションが完了したら、「履歴」タブをクリックすると、このセッションのセッション・サマリーを表示できます。

セッション情報の上にマウス・ポインタを置いて、サマリー情報を表示します。「ログの表示」をクリックしてセッション・ログ・ファイルを表示します。ログを構成して宛先情報を表示する方法については、[349 ページの「配信サイト・システムからのログの取得」](#)を参照してください。

## 手順 10: 結果のテスト

結果をテストするには、宛先システムでホームページ・アセットをブラウザからポイントし、サイトを確認します。

アセットの URL がまだ決定していない場合は、これを決定する必要があります。WebCenter Sites の URL は、次の値を連結して構成します。

- 宛先システムのホスト名または IP アドレス (ポート番号の場合もあります)。

- CGI パス (futuretense.ini ファイルの ft.cgipath プロパティからシステムが取得します)。たとえば、サーブレット・アーキテクチャを持つ WebLogic などのアプリケーション・サーバーの場合、このデフォルトのパスは、/servlet/ です。
- 文字列 ContentServer?pagename=
- SiteCatalog エントリのページ名
- WebCenter Sites ページの基準変数である c、cid、tid および p によって渡される追加情報 (これらの変数の詳細は、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』を参照してください)。

次の手順を実行し、ホームページの URL を決定して、サイトをテストします。

1. プロパティ・エディタを起動し、宛先システムの futuretense.ini ファイルを開きます。(この手順にサポートが必要な場合は、プロパティ・ファイル・リファレンスを参照してください。)
2. アプリケーション・サーバータブで、ft.cgipath プロパティを検索し、値を書き留めます。
3. 「互換性」タブで、ft.cgipath プロパティを見つけて、値を書き取ります。
4. プロパティ・ファイルを保存し、プロパティ・エディタを閉じます。
5. テキスト・エディタを開きます。サーバー名、スラッシュ (/) および cgipath を入力します。次の例のように、適切なプロトコル (http:// または https://) をサーバー名の前に置きます。

WebLogic および WebSphere の場合：

```
http://bigfatsun.example.com:8080/servlet/
```

6. 文字列の末尾に、スラッシュを入力してから次のテキストを追記します。

```
ContentServer?pagename=your_home_page
```

これで、URL が次の例のようになります。

WebLogic および WebSphere の場合：

```
http://bigfatsun.example.com:8080/servlet/  
ContentServer?pagename=ExampleSite/Page/Home
```

7. ブラウザが構成した URL をポイントするようにします。
8. エラーがないかページをスキャンし、すべてのリンクをテストしてこれらが機能することを確認します。

### 注意

サイト全体を最初にミラーリングした後に、負荷がピークである条件で、またその後の標準的な時間帯で、システムの完全なテストを実施することをお勧めします。

## 手順 11: スケジュールの設定

宛先が適切に構成されていることを確認後、ソース・システムで次の手順を完了することでパブリッシュ・システムの構成を終了できます。

- 宛先に対してスケジュールされたパブリッシュ・イベントを作成します。この手順の詳細は、[365 ページの「パブリッシュ・イベントのスケジュール」](#)を参照してください。
- サイトのデザインにアセットでないイメージを使用している場合 (つまり、サイト・デザイナーがすべてのイメージをアセットとして管理するのではなく Web サーバーに格納している場合)、管理システム用 Web サーバーから配信システム用 Web サーバーへイメージ・ファイルを移動する方法を計画してください。たとえば、定期的な FTP 送信を設定できます。
- CSElement アセットや SiteEntry アセットではないエレメントおよび SiteCatalog ページを使用している場合、CatalogMover ツールを使用してこれらを宛先システムにミラーリングする必要があります。CatalogMover の詳細は、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』を参照してください。

## 手順 12: 配信システムでのアセットの無効化の解除

デフォルトでは、アセットがあるシステムから別のシステムへ (ソースから宛先へ) パブリッシュされると、パブリッシュ・システムがアセットを宛先システムで変更済とマークするように構成されています。その後、新しくパブリッシュされたアセットを他の宛先へパブリッシュできるようにするには、このアセットが宛先システムで承認される必要があります。

デフォルトの構成は、開発システムと管理システムに適しています。しかし、配信システムへパブリッシュする場合、パブリッシュ・システムがこの変更をマークするために時間をとられる必要はありません。アセットは配信システムへパブリッシュされますが、配信システムからではありません。

そのため、配信システムでは、次の手順を実行することでこのパブリッシュ機能をオフにします。

1. プロパティ・エディタを起動し、futuretense\_xcel.ini ファイルを開きます。この手順についてサポートが必要な場合は、プロパティ・ファイル・リファレンスを参照してください。
2. 「パブリッシュ」タブで、xcelerate.publishinvalidate プロパティを探し、その値を false に設定します。
3. ファイルを保存し、プロパティ・エディタを閉じます。

## パフォーマンス向上のための承認問合せ

特定の宛先に対してどのアセットがパブリッシュ可能であるかを計算する時間が必要となるため、何千ものアセットを動的にパブリッシュするには長い時間がかかります。問合せは 2 度実行されます。1 度目はユーザーがパブリッシュ宛先を選択するときで、2 度目はユーザーが「パブリッシュ」ボタンをクリックし、アセットをパブリッシュするときです。現在の問合せも、ミラー・パブリッシュと静的パブリッシュの両方に機能するよう書き込まれる場合、複雑となります。パブリッシュのパフォーマンスを向上させるために、ミラー・パブリッシュのみを考慮することで問合せを簡略化しました。同じ問合せがリアルタイム・パブリッシュのパフォーマンス向上に使用されます。簡略化された問合せ (コメントつき) は、次のようになります。

```
select pkt.localkey, pkt.urlkey from PubKeyTable pkt JOIN
  ApprovedAssets aa ON pkt.assetid=aa.assetid -- match asset id's
WHERE aa.targetid=<targetid>
AND pkt.targetid=<targetid> -- match target id's
AND aa.tstate='A' -- asset must be approved
AND (aa.lastassetdate IS NULL OR aa.assetdate >
  aa.lastassetdate) -- compare assetdate to lastassetdate
```

#### 承認問合せを実行するには：

1. ソースの WebCenter Sites システムで、ファイル Shared/Storage/pubquery.txt を作成し、次の問合せに貼り付けます (上記と同じですがコメントはありません)。  

```
select pkt.localkey, pkt.urlkey from PubKeyTable pkt JOIN
  ApprovedAssets aa ON pkt.assetid=aa.assetid
WHERE aa.targetid=__TARGETID__
AND pkt.targetid=__TARGETID__
AND aa.tstate='A'
AND (aa.lastassetdate IS NULL OR aa.assetdate >
  aa.lastassetdate)
```
2. ソース・システムを再起動すると、データベースのデバッグで、ミラー・パブリッシュ・セッションとリアルタイム・パブリッシュ・セッションにおいて問合せが実行されることを確認できるようになります。(データベース・デバッグを有効にするには、「管理」タブに進み、「システム・ツール」を開き、「log4j の構成」をダブルクリックします。ここでの変更後、システムの再起動は必要ありません。)
3. ログを調査し、問合せがパブリッシュの際に実行されたこと、およびすべてのパブリッシュ可能なアセットが適切にパブリッシュされたことを確認します。
4. 通常の操作を再開します (com.fatwire.logging.cs.db を通常 の値に設定することでデータベースのデバッグを無効にし、システムを再起動します)。



## 配信サイト・システムからのログの取得

WebCenter Sites は、パブリッシュ関連のログ情報を配信システムから取得し、「パブリッシュ」コンソールに表示する方法を提供します。このために、WebCenter Sites は、パブリッシュのセッション ID を関連する各ログ・エントリに挿入します。管理インタフェースには、パブリッシュ・セッションに関連するエントリを取得する機能があり、そのセッションの「ログ」画面にそのエントリが表示されます。

### リモート・パブリッシュのロギングを有効にするには：

1. ソースとターゲットの両方で、commons-logging.properties にある次のプロパティを設定し、ログ出力をアクティブにします。

```
org.apache.commons.logging.LogFactory=com.fatwire.cs.core.  
logging.ContextAwareLogFactory
```

2. ターゲット・システムで、次の行を web.xml に追加します。

```
<filter>  
    <filter-name>ContextHeaderFilter</filter-name>  
    <filter-class>com.fatwire.cs.core.logging.context.  
        filter.ContextHeaderFilter</filter-class>  
</filter>  
<filter-mapping>  
    <filter-name>ContextHeaderFilter</filter-name>  
    <servlet-name>ContentServer</servlet-name>  
</filter-mapping>
```

3. ターゲット・システムで、次の futuretense.ini property を設定します：

```
log.file.location=<path to Sites log file>
```



## 第 16 章

# XML へのアセットのエクスポートのパブリッシュ・プロセス

この章では、XML へのアセットのエクスポートの動作と構成方法について説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [XML へのアセットのエクスポートのパブリッシュ方法](#)
- [XML へのアセットのエクスポートに対するシステムの構成](#)

## XML へのアセットのエクスポートのパブリッシュ方法

XML へのアセットのエクスポートのパブリッシュ方法は、ディスクへのエクスポート方法と動的パブリッシュ方法を混合したものです。アセットはファイルにレンダリングされますが、このパブリッシュ方法は、ディスクへのエクスポートのパブリッシュ方法ではなく、動的な依存性の計算方法を使用します。

XML へのアセットのエクスポートのパブリッシュ方法は、真のデータ変換方法であるという点で他の 2 つとは異なります。ディスクへのエクスポートのパブリッシュがページごとに HTML ファイルを 1 つ作成する ( 複数のアセットが 1 つのファイルにレンダリングされる ) のに対して、XML へのアセットのエクスポートは、このパブリッシュ方法を使用するために構成された宛先に対して承認されたアセットごとに XML ファイルを 1 つ作成します。

ディスクへのエクスポートのパブリッシュは、ディスクへのエクスポートの Sites 配信システムから配信されるディスクへのエクスポート・ファイルを作成します。それに対して、XML へのアセットのエクスポートは、データベースまたは Sites 以外のシステムに配信するための XML ファイルを作成します。

XML へのアセットのエクスポートのパブリッシュ・セッションが実行されると、次のようになります。

1. ソース・システムでは、承認システムにより、この宛先に対して承認されたアセットのリストが、XML へのアセットのエクスポートに提供されます。
2. XML へのアセットのエクスポートは、リストの各アセットを XML ファイルにレンダリングします。出力ファイルにはアセットが記述され、すべてのアセット・フィールドのすべての値が明示されます。

XML へのアセットのエクスポートのパブリッシュ方法を使用する場合、通常、品質保証プロセスを設定し、外部 (Sites 以外の ) システムに移動させる前に生成されたファイルをテストします。

## XML 出力

XML へのアセットのエクスポートから出力されるのは、フィールド値に関してアセット・オブジェクトを記述する適格な XML です。フィールドは属性と呼ばれます。

各アセット・フィールドには、名前 / 値のペアがあります。値のステートメントには、フィールドのデータ型が含まれます。たとえば、**Name** フィールドには文字が入ります。つまり、アセットの **Name** フィールドの名前 / 値のペアは次のように出力されます。

```
<attribute name="Name">  
    <string value="nameOfAsset"/>  
</attribute>
```

フレックス属性は、フレックス・アセットのフィールドとして使用されます。フレックス・アセットの出力 XML では、フレックス属性値は `Attribute_` に付加されます。サンプル・サイトの製品アセット価格に対する属性値の例を次に示します。

```
<attribute name="Attribute_price">  
    <decimal value="5.9"/>
```

```
</attribute>
```

XML 出力は、各フィールド / 属性のフィールド名ではなく列名を使用し、列名とフィールド名は異なる可能性があることに注意します。

次は、このパブリッシュ方法で作成された XML ファイルの記述で、疑似 DTD ファイルとして表されています。

```
<!-- ASSET:
-- ASSET defines an asset object
-- an asset is made up of attributes
-->
<!ELEMENT ASSET (ATTRIBUTE)*>
<!ATTLIST ASSET TYPE CDATA #REQUIRED>
<!ATTLIST ASSET ID CDATA #IMPLIED>
<!ATTLIST ASSET SUBTYPE CDATA #IMPLIED>

<!ELEMENT ATTRIBUTE (STRING | DATE | INTEGER | DECIMAL | BINARY |
FILE | ASSETREFERENCE | ARRAY | STRUCT | LIST)>
<!ATTLIST ATTRIBUTE NAME CDATA #REQUIRED>

<!ELEMENT STRING>
<!ATTLIST STRING VALUE CDATA #REQUIRED>

<!ELEMENT DATE>
<!ATTLIST DATE VALUE CDATA #REQUIRED>

<!ELEMENT INTEGER>
<!ATTLIST INTEGER VALUE CDATA #REQUIRED>

<!ELEMENT DECIMAL>
<!ATTLIST DECIMAL VALUE CDATA #REQUIRED>

<!ELEMENT BINARY>
<!ATTLIST BINARY VALUE CDATA #REQUIRED>

<!ELEMENT FILE (CDATA) >
<!ATTLIST FILE NAME CDATA #REQUIRED>

<!ELEMENT FILE>
<!ATTLIST FILE NAME CDATA #REQUIRED>

<!ELEMENT ASSETREFERENCE>
<!ATTLIST ASSETREFERENCE TYPE CDATA #REQUIRED>
<!ATTLIST ASSETREFERENCE VALUE CDATA #REQUIRED>

<!ELEMENT ARRAY (STRING | DATE | INTEGER | DECIMAL | BINARY | FILE
| ASSETREFERENCE | ARRAY | STRUCT | LIST)+>

<!ELEMENT STRUCT (FIELD)+>

<!ELEMENT FIELD (STRING | DATE | INTEGER | DECIMAL | BINARY | FILE
| ASSETREFERENCE | ARRAY | STRUCT | LIST)+>
<!ATTLIST FIELD NAME CDATA #REQUIRED>
```

```
<!ELEMENT LIST (ROW)+>

<!ELEMENT ROW (COLUMN)+>

<!ELEMENT COLUMN ( STRING | INTEGER | DECIMAL | DATE |
ASSETREFERENCE)>
<!ATTLIST COLUMN NAME CDATA #REQUIRED>
```

## XML へのアセットのエクスポートに対するファイルの命名規則

エクスポートされる XML ファイルは次の規則に従って命名されます。

***assetID.xml***

たとえば、アセット ID が 3344556677 の場合、アセットの XML ファイルのファイル名は、3344556677.xml になります。

XML へのアセットのエクスポートのパブリッシュ方法では、アセットの **Path** または **Filename** フィールドに入力された任意の情報は使用しません。

## XML へのアセットのエクスポートに対するシステムの構成

XML へのアセットのエクスポートの配信タイプ用に構成する際の主な手順は次のとおりです。

- [手順 1: バッチ・ユーザー・アカウントの作成 \(存在しない場合\)](#)
- [手順 2: ルート・エクスポート・ディレクトリの指定](#)
- [手順 3: XML へのアセットのエクスポートの宛先の構成](#)
- [手順 4: アセットの承認](#)
- [手順 5: 結果のパブリッシュとテスト](#)
- [手順 6: スケジュールの設定](#)

### 手順 1: バッチ・ユーザー・アカウントの作成 (存在しない場合)

どのタイプのパブリッシュを実行する場合でも、あらかじめバッチ・ユーザー・アカウントの作成が必要です。作成しているパブリッシュの宛先の数やタイプに関係なく、この手順は 1 回のみ実行する必要があります。

- バッチ・ユーザー・アカウントをまだ作成していない場合、これを作成します。手順については、[313 ページの「手順 1. バッチ・ユーザー・アカウントの作成 \(存在しない場合\)」](#)を参照してください。
- インストールにバッチ・ユーザー・アカウントがすでに存在する場合は、「[手順 2: ルート・エクスポート・ディレクトリの指定](#)」に進みます。

## 手順 2: ルート・エクスポート・ディレクトリの指定

この章ですでに説明しているように、WebCenter Sites がファイルをエクスポートするディレクトリは、futuretense.ini ファイルの cs.pgexportfolder プロパティによって決まります。

**エクスポートされるファイルのルート・ディレクトリを設定するには：**

1. プロパティ・エディタを起動します。この手順についてサポートが必要な場合は、[プロパティ・ファイル・リファレンス](#)を参照してください。
2. ソース Sites システムの futuretense.ini ファイルを開きます。
3. 「エクスポート/ミラー」タブで、cs.pgexportfolder プロパティを選択し、その値をファイルのエクスポート先のディレクトリのフルパスに設定します。これは、システムのグローバル設定です。  
ファイルを保存し、プロパティ・エディタを閉じます。
4. アプリケーション・サーバーを再起動します。

### 注意

XML へのエクスポートのパブリッシュ・セッションを実行する前に、この宛先ディレクトリが存在し、そこで作成される XML ファイル用に十分な領域があることを確認します。

## 手順 3: XML へのアセットのエクスポートの宛先の構成

次に、次の手順を完了して XML へのエクスポートの宛先を作成します。

1. ソース Sites システムの「管理」タブで、「パブリッシュ」を開き、次に「宛先」を開きます。
2. 「新規追加」をダブルクリックします。

「新規宛先の追加」フォームが表示されます。

**Add New Destination**

\*Name:

Delivery Type:

Send Email on Failure: ☐

Verbose Output: ☐

More Arguments:

\*Sites:

\*Roles (Approve for Publish):

\*Roles (Publish):

次のようにフィールドに入力します。

- **名前:** 一意の宛先の名前を入力します。
  - **配信タイプ:** XML へのアセットのエクスポート: アセットごとに XML ファイルをエクスポートを選択します。
  - **サイト:** アセットを承認し、この宛先に対してパブリッシュすることが可能なサイトを選択します。
  - **ロール (パブリッシュの承認):** アセットの承認権限を割り当てるロールを選択します。これらのロールが割り当てられるすべてのユーザーがアセットを承認できます。
  - **ロール (パブリッシュ):** パブリッシュ権限を割り当てるロールを選択します。これらのロールが割り当てられるすべてのユーザーがパブリッシュできます。
3. ソース・システムに対して構成する必要がある追加のエクスポート先ごとに [手順 2](#) を繰り返します。



## 手順 4: アセットの承認

構成の簡易テストを実行する場合は、アセットを選択し、そのアセットと依存アセットを承認します。

サイト全体のテスト・パブリッシュを実行する場合は、そのサイトのすべてのアセットを承認します。多数のアセットを一度に承認する方法の詳細は、[362 ページ](#)の「[複数アセットの承認](#)」を参照してください。

## 手順 5: 結果のパブリッシュとテスト

宛先にパブリッシュできるアセットを承認したら、テスト・パブリッシュ・セッションを実行できます。

1. ソース Sites システムのボタン・バーで「**パブリッシュ**」をクリックします。
2. 「**パブリッシュ・コンソール**」で、ドロップダウン・リストから宛先を選択し、「**宛先の選択**」をクリックします。

WebCenter Sites に、この宛先にパブリッシュする準備のできているアセットに関する情報が表示されます。

3. 「**パブリッシュ**」をクリックします。

確認メッセージが表示されます。「**はい**」をクリックしてパブリッシュを続行します。

WebCenter Sites は、ファイルにこの宛先に対して承認されたすべてのアセットをエクスポートします。ファイルは以前に指定したディレクトリに保存されます。

4. 「**パブリッシュ・コンソール**」の「**アクティブ**」タブで、セッションの動作を監視できます。
5. セッションが完了したら、「**履歴**」タブをクリックすると、このセッションのセッション・サマリーを表示できます。

セッション情報の上にマウス・ポインタを置いて、サマリー情報を表示します。「**ログ**」をクリックしてセッション・ログ・ファイルを表示します。

6. ログ・ファイルに結果として生成されるすべての XML ファイルのリストが表示されるので、ファイルが正しいことを確認します。

## 手順 6: スケジュールの設定

宛先が正しく構成されていることと、ディレクトリ名が必要に応じて作成されていることを確認後、ソース・システムで次の手順を実行してパブリッシュ・システムの構成を終了できます。

- 宛先に対してスケジュールされたパブリッシュ・イベントを作成します。この手順の詳細は、[365 ページの「パブリッシュ・イベントのスケジュール」](#)を参照してください。
- 外部の Sites 以外のシステムに生成されたファイルを移動させる方法を計画します。たとえば、パブリッシュ・セッション完了後、ファイルを自動的にテスト領域に移動させる定期的な FTP 送信を設定できます。

## 第 17 章

# 他のパブリッシュ手順

管理者および開発者は、この章のこれまでの項で説明した構成手順に加えて、必要なときにいつでもこの章で説明されているパブリッシュ手順を実行できます。

この章は、次の項で構成されています。

- [あるシステムから別のシステムへのサイトの移行](#)
- [複数アセットの承認](#)
- [宛先の作成](#)
- [宛先の編集](#)
- [宛先の削除](#)
- [エクスポート開始ポイントの作成](#)
- [パブリッシュ・イベントのスケジュール](#)
- [スケジュールの略称の読取り](#)
- [パブリッシュ・イベントの編集](#)
- [スケジュールのオーバーライド](#)
- [承認テンプレートまたはプレビュー・テンプレートの割当て](#)
- [「パブリッシュ・コンソール」でのセッションの監視](#)
- [パブリッシュの準備状況の検証](#)
- [パブリッシュ履歴情報の管理](#)
- [すべての承認済アセットのパブリッシュ](#)
- [トラブルシューティング](#)

## あるシステムから別のシステムへのサイトの移行

サイトの開発フェーズでは、サイト・デザイナーおよび開発者は、サイトおよびアセット・タイプとそれをサポートするすべての構成 ( サブタイプ、アソシエーション、スタート・メニュー・アイテムなど ) を開発し、テンプレートをコード化し、管理者が必要に応じてワークフローの要素を記述するなどしてユーザー・インタフェースをカスタマイズできるよう支援します。この作業には、開発システムを使用します。

コンテンツ・プロバイダの準備が完了したサイトは、ミラーリング先構成機能を使用して、管理システムおよび配信システムに移行できます。

### 開発システムから管理システムへのサイトの移動

次の手順を 1 回実行します。

1. 管理 (宛先) システムの WebCenter Sites インタフェースに **fwadmin** ユーザーとしてログインします。
2. アセット・タイプのフィールドの参照表など、カスタム・サポート表が存在する場合は、管理 (宛先) システムにそれらの表を作成します。
3. 管理システムで、すべてのユーザーを作成します。
4. ソース・システムで、WebCenter Sites インタフェースにログインします。
5. パブリッシュ方法としてリアルタイムを使用する宛先システムのパブリッシュの宛先を作成します。

この手順および次の 2 つの手順の詳細は、[401 ページの「リアルタイム・パブリッシュに対するシステムの構成」](#)を参照してください。

6. パブリッシュの宛先を初期化します。
7. パブリッシュの宛先を構成します。
8. 宛先 (管理) システムで、サイトのユーザーを構成します。この手順の詳細は、[127 ページの「ユーザーへのサイトのアクセス権限の付与 \(ユーザーへのロールの割当て\)」](#)を参照してください。
9. フレックス・ファミリを作成した場合は、再度ソース・システムにログインします。データ構造のフレックス・アセットをすべて承認し、管理 (宛先) システムにパブリッシュします。  
アセットごとに承認するか、「管理」タブの「複数アセットの承認」機能を使用することができます。この機能の詳細は、[362 ページの「複数アセットの承認」](#)を参照してください。
10. 宛先システムの他の適切なアセット ( テンプレート、ページ、コレクション、問合せ、CSElement および SiteEntry などの各アセット ) をすべて承認し、パブリッシュします。
11. CSElement アセットや SiteEntry アセットではない SiteCatalog 表にページ・エントリがある場合は、CatalogMover を使用して、これらのアイテムを管理システムにミラーリングします。CatalogMover の詳細は、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』を参照してください。

## 配信システムへのサイトの移動

配信システムにサイトを移動する際、スタート・メニュー・アイテム、ワークフロー、保存済の検索などをミラーリングする必要はありません。

次の手順を実行します。

1. 配信 (宛先) システムの WebCenter Sites インタフェースに **fwadmin** ユーザーとしてログインします。
2. アセット・タイプのフィールドの参照表など、カスタム・サポート表が存在する場合は、配信 (宛先) システムにそれらの表を作成します。
3. ソース・システムで、WebCenter Sites インタフェースにログインします。
4. パブリッシュ方法としてサーバーへのミラーリングを使用する宛先システムのパブリッシュの宛先を作成します。

この手順の詳細は、[336 ページの「手順 5: ミラーリング先の作成」](#)を参照してください。

5. ミラーリング先を初期化します。

この手順の詳細は、[340 ページの「手順 6: 宛先の初期化」](#)を参照してください。

6. ミラーリング先を構成します。

この手順の詳細は、[342 ページの「手順 7: ミラーリング先の構成」](#)を参照してください。

スタート・メニュー・アイテム、保存済の検索またはどのワークフロー・オプションも選択しないでください。

7. フレックス・ファミリを作成した場合は、再度ソース・システムにログインします。データ構造のフレックス・アセットをすべて承認し、管理 (宛先) システムにパブリッシュします。

アセットごとに承認するか、「管理」タブの「複数アセットの承認」機能を使用することができます。この機能の詳細は、[362 ページの「複数アセットの承認」](#)を参照してください。

8. 宛先 (配信) システムの他の適切なアセット (テンプレート、ページ、コレクション、問合せ、CSElement および SiteEntry などの各アセット) をすべて承認し、パブリッシュします。
9. CSElement アセットや SiteEntry アセットではない SiteCatalog 表にページ・エントリがある場合は、CatalogMover を使用して、これらのアイテムを管理システムにミラーリングします。CatalogMover の詳細は、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』を参照してください。
10. オンライン・サイトにアセットではないイメージが存在する場合、それらは配信システムにコピーしてください。

## 複数アセットの承認

パブリッシュの宛先ごとに、**複数アセットを承認**できます。アップグレードの際、および宛先への最初のパブリッシュ・セッションで、特に役立ちます。

複数アセットの承認機能は、BulkApprover ユーティリティでは**ありません**。BulkApprover ユーティリティで承認するのは、BulkLoader ユーティリティを使用して WebCenter Sites データベースにインポートされたアセットのみです。BulkLoader および BulkApprover の詳細は、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』を参照してください。

複数アセットを承認するには、次の手順に従います。

1. 「管理」タブで、「パブリッシュ」、「宛先」の順に開き、アセットを承認する宛先を開きます。
2. その宛先の「**複数アセットの承認**」オプションをダブルクリックします。アセットの承認フォームが表示されます。

Approve Assets for Publish to Destination 1 (static)

\*Asset Types: Article, Article Flex, Attribute Editor, CSElement, Collection, Content, Content Attribute, Content Attribute

Sample queries: -Select sample query, if needed- Assets of selected asset type(s), Assets of selected asset type(s) in site FirstSite1, Assets of selected asset type(s) updated before a date, Placed Page assets

\*Query:

Approve in Batches of: 500

Approve Previously Approved Assets: ☐ Yes ☒ No

Cancel Approve for Publish

3. 「アセット・タイプ」セクションの左側のリストで、承認するアセット・タイプを選択します。
4. 右側の「サンプル問合せ」リストで、問合せを選択します。必要な問合せと完全に一致する問合せが存在しない場合は、最も似ている問合せを選択します。

選択したアイテムに基づいて SQL 問合せが作成され、「問合せ」ボックスに表示されます。

5. (オプション) 必要であれば、SQL 問合せを編集します。
6. 次の単位で承認フィールドをクリックし、数値を入力します。デフォルトは 500 に設定されています。

### 注意

「パブリッシュの承認」ボタンをクリックすると、承認システムでアセットがバッチ単位で承認されます。バッチ当たりのアセットの数は、次の単位で承認フィールドの値によって決まります。承認プロセスはバックグラウンド・プロセスではないので、バッチの承認中にブラウザ・セッションがタイムアウトする可能性があります。

複数アセットの承認機能を使用する場合、セッションがタイムアウトしないようにするために、次の設定を調整します。

- futuretense.ini ファイルの cs.timeout プロパティ。ブラウザ・セッション・タイムアウト値を設定します。まず、この値を 1800 (30 分に相当) に設定します。(プロパティ・ファイル・リファレンスを参照してください。)
- 次の単位で承認フィールドで指定した値。まずデフォルトの 500 を使用して、必要であれば減らします。

7. 「以前に承認済のアセットの承認」オプションを次のように指定します。
  - WebCenter Sites によって、以前の承認がすべて無視され、選択したアセットがすべて再承認されるようにする場合、「はい」を選択します。その宛先のデフォルト・テンプレートが変更されるなど、なんらかの変更により、以前の承認が無効になっている可能性がある場合は、このようにします。
  - WebCenter Sites によって、未承認のアセットのみが承認されるようにする場合、「いいえ」を選択します。以前に承認されたアセットが今も有効であるという確信がある場合は、これが適切です。
8. 「パブリッシュの承認」をクリックします。

## 宛先の作成

宛先の作成手順は、前の項を参照してください。新しい宛先の作成の詳細は、必要に応じて次のリストのいずれかを参照してください。

- エクスポート先を作成するには、[316 ページの「手順 3. エクスポート先の構成」](#)を参照してください。
- ミラーリング先を作成するには、[336 ページの「手順 5: ミラーリング先の作成」](#)を参照してください。
- アセットのエクスポートの宛先を作成するには、[355 ページの「手順 3: XML へのアセットのエクスポートの宛先の構成」](#)を参照してください。


## 宛先の編集


宛先を編集するには：


1. 「管理」タブで、「パブリッシュ」を開き、さらに「宛先」を開きます。
2. 編集する宛先をダブルクリックします。

選択した宛先の「パブリッシュの宛先」画面が表示されます。


**Publish destination: Destination 2 (dynamic)**

 Inspect

 Edit

 Delete

**Approve Multiple Assets**

**Name:**  Destination 2 (dynamic)

**Delivery Type:** [Mirror to Server](#): Copy database rows to remote dynamic server

**Initialize Mirror Destination...**

**Destination address:** http://[targetserver]/cs/

**Remote User:** [user]

**Remote Password:** \*\*\*\*\*

**Send Email on Failure:** false

**Verbose Output:** false

**More Arguments:**

**Sites:** Burlington Financial  
GE Lighting

**Roles (Approve for Publish):** Any

**Roles (Publish):** Any

**Publish Event:** No existing publish event

**Set Publish Event...**

**ID:** 1329314485736

**Force Approve Published Assets**

[» List all Publish Destinations](#)

3. 「編集」アイコンをクリックし、必要に応じて変更します。

このフォームのフィールドに入力可能な値の詳細は、これまでの項の配信タイプ固有の手順を参照してください。

- ディスクへのエクスポートの宛先の場合、316 ページの「手順 3. エクスポート先の構成」を参照してください。
- サーバーへのミラーリングの宛先の場合、336 ページの「手順 5: ミラーリング先の作成」を参照してください。



- XML へのアセットのエクスポートの宛先の場合、[355 ページの「手順 3: XML へのアセットのエクスポートの宛先の構成」](#)を参照してください。

## 宛先の削除

宛先を削除するには：

1. 「管理」タブで、「パブリッシュ」を開き、さらに「宛先」を開きます。
2. 削除する宛先をダブルクリックします。
3. 「削除」アイコンをクリックします。  
WebCenter Sites に確認メッセージが表示されます。
4. 「宛先の削除」をクリックします。

## エクスポート開始ポイントの作成

エクスポート開始ポイントの定義は、[312 ページの「エクスポート開始ポイント」](#)を参照してください。エクスポート開始ポイントの作成の詳細は、[322 ページの「手順 5. エクスポート開始ポイントの作成」](#)を参照してください。

## パブリッシュ・イベントのスケジュール

すべてのパブリッシュの宛先について、パブリッシュ・イベントを設定できます。パブリッシュ・イベントはバックグラウンド・プロセスとして実行され、パブリッシュ・キューは存在しないので、必要であれば、複数の宛先に対して同時に実行されるパブリッシュ・イベントを設定できます。

次の事項に注意してください。

- 宛先ごとにパブリッシュ・イベント・スケジュールを **1 つ**のみ設定できます。
- ソースと宛先の両方として機能するシステムが存在する場合、受信パブリッシュ・セッションと送信パブリッシュ・セッションが**重ならない**ようにします。たとえば、開発システムから管理システムにパブリッシュし、管理システムから配信システムにパブリッシュするとします。この場合、管理システムから配信システムにパブリッシュしている間に、開発システムから管理システムへのパブリッシュ・イベントはスケジュールできません。

パブリッシュ・イベントをスケジュールするには、次の手順を実行します。

1. 「管理」タブで、「パブリッシュ」を開き、さらに「宛先」を開きます。
2. パブリッシュ・イベントをスケジュールする宛先をダブルクリックします。
3. 「パブリッシュの宛先」フォームで、「パブリッシュ・イベントの設定」ボタンをクリックします。

WebCenter Sites に「宛先のパブリッシュ・イベントの編集」フォームが表示されます。

Edit Publish Event for Destination: Destination 2 (dynamic)

Enabled Dates and Times

Hours: All

Minutes: Every 5 Minutes of each selected hour

Dates: All

Days: All

Months: Monthly

☒ Enabled ☐ Disabled

Recurrence Pattern

Days of the weekDays of the monthMonths

Select: All | None

SundayMondayTuesdayWednesdayThursdayFridaySaturday

Information:

Event will run only on the selected days of the selected months.

Notes: Selecting none and selecting all both have the same effect on the schedule.

Times of Recurrence

Hours

121234567891011

AM

121234567891011

PM

Minutes

0510

152025

303540

455055

Information:

Event will run only on the selected minutes during the selected hours.

CancelSave

ここで日、月、時および分を選択してスケジュールを設定します。

パブリッシュ・イベントを設定するための画面は、ワークフローの時間指定アクション・イベントを設定する画面に似ています。詳細は、[207 ページの「時間指定アクション・イベントの設定」](#)を参照してください。

Oracle WebCenter Sites 管理者ガイド

### スケジュールの例

たとえば、日曜日を除くすべての曜日の午前 7 時、午後 4 時および午後 8 時に、WebCenter Sites によりこの宛先の承認済のアセットがパブリッシュされるようにスケジュールを設定する場合、次の手順を実行します。

1. 「繰返しパターン」の「曜日」タブで、「月曜日」をクリックして「土曜日」までドラッグし、日曜日を除くすべての曜日を選択します。選択された曜日はグレーでハイライトされます。

Days of the week						
Select: All   None						
Sunday	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	Saturday

2. 曜日を選択済なので、「月の日付」タブでは何もしません。
3. 「月」タブで、「すべて」をクリックし、すべての月を選択します。すべての月がグレーでハイライトされます。

Months					
Select: All   None					
Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun
Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec

4. 「繰返しの回数」セクションの「時間」セクタで、「AM」の「7」および「PM」の「4」と「8」を選択します。
5. 「分」セクタで「0」をクリックします。

Hours												Minutes			
12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	AM	0	5	10
12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11		PM	15	20
												30	35	40	
												45	50	55	

6. 画面の「有効な日時」セクションで、選択した日時を再確認します。  
次のように表示されるはずです。

<b>Hours:</b>	7AM, 4PM, 8PM
<b>Minutes:</b>	at :00 of each selected hour
<b>Dates:</b>	Any
<b>Days:</b>	Monday-Saturday
<b>Months:</b>	Monthly

7. 「有効な日時」セクションの「有効」をクリックします。
8. 「保存」ボタンをクリックします。  
「パブリッシュの宛先」フォームの「パブリッシュ・イベント」セクションに、スケジュールのサマリーが表示されます。

## スケジュールの略称の読取り

作成されたスケジュール済イベントは、WebCenter Sites インタフェースに文字列形式で表示されます。

「パブリッシュ・スケジュールの編集」画面では、ページの一番上の「有効な日時」セクションに、読みやすい形式でスケジュールが表示されます。「パブリッシュの宛先」画面では、「パブリッシュ・イベント」フィールドに文字列としてスケジュールが表示されます。

スケジュール文字列のキーを次に示します。

hours:minutes:seconds weekdays/days of month/months of year

この情報は、次のように表示されます。

- 時間は、0 (午前 0 時) から 23 (午後 11 時) までの数値として表示され、分との間はコロンで区切られます。

複数の時間が選択されている場合、選択されている時間はカンマで区切られて表示されます。

前の例 (367 ページの「スケジュールの例」を参照) では、パブリッシュする時間として、午前 7 時、午後 4 時および午後 8 時を設定しました。これは、**7,16,20:** と表示されます。

- 分は 5 分刻みで設定できるので、0 から 55 までの 5 分刻みの数値として表示されます。秒との間はコロンで区切られます。

スケジュールで複数の分が選択されている場合、選択されている分はカンマで区切られて表示されます。

分が 0 と表示されている場合、正時にイベントが実行されることを意味します。

例の時間と分は、**7,16,20:0:** のように表示されます。

- 秒は常に 0 に設定されます。したがって、例の時間表示を完全に示すと、**7,16,20:0:0** となります。
- 時間と日は空白で区切られます。
  - 曜日は、0 (日曜日) から 6 (土曜日) までの数値として表現され、最後にスラッシュ (/) 文字が付きます。
  - 1 つも曜日が選択されていない場合またはすべての曜日が選択されている場合、パブリッシュ・イベントはすべての曜日に実行されます。その場合、フィールドにはアスタリスク (\*) 文字が表示されます。
  - 複数の曜日がスケジュールされている場合、選択されている曜日はカンマで区切られて表示されます。

例のスケジュールでは、日曜日を除くすべての曜日が選択されています。したがって、曜日が追加されて、**7,16,20:0:0 1,2,3,4,5,6/** のように表示されます。

- 日付も、数値 (1 から 31 まで) として表示され、最後にスラッシュ (/) 文字が付きます。
  - 日付のリストは、カンマで区切られます。
  - 日付が 1 つも選択されていない場合、パブリッシュ・イベントはその月のすべての日に実行されます。その場合、フィールドにはアスタリスク (\*) 文字が表示されます。

- 曜日と日付の両方を指定した場合、その日がどちらかの設定と一致した場合にイベントが実行されます。

例のスケジュールでは、日付は指定されていません。したがって、このアイテムの値がアスタリスクとして追加されて、**7,16,20:0:0 1,2,3,4,5,6/\*** のように表示されます。

- 文字列の最後には、月が 1 (1 月) から 12 (12 月) までの数値として表示されます。
  - 月のリストは、カンマで区切られます。
  - すべての月が選択されている場合は、毎月パブリッシュ・イベントが実行されます。その場合、フィールドにはアスタリスク (\*) 文字が表示されます。

例のスケジュールでは、すべての月を指定しました。したがって、最終的な文字列は次のようになります。

**7,16,20:0:0 1,2,3,4,5,6/\***

## パブリッシュ・イベントの編集

パブリッシュ・イベントを編集するには、次の手順を実行します。

- 「管理」タブで、「パブリッシュ」を開き、さらに「宛先」を開きます。
- パブリッシュ・イベントをスケジュールする宛先をダブルクリックします。
- 「パブリッシュの宛先」フォームで、「パブリッシュ・イベントの設定」をクリックします。

WebCenter Sites に「パブリッシュ・イベント」フォームが表示されます。フォームの一番上に、イベントの現在の構成内容を示すテキストが表示されます。

- 必要に応じてイベントを編集し、「スケジュール」をクリックします。選択を消去するには、「取消」をクリックします。

## スケジュールのオーバーライド

パブリッシュ・セッションをただちに開始するには、次の手順を実行します。

1. WebCenter Sites インタフェースで、ツールバーの「パブリッシュ」ボタンをクリックします。
2. 「パブリッシュ・コンソール」のドロップダウン・リストから、パブリッシュする宛先を選択します。
3. 「宛先の選択」ボタンをクリックします。

WebCenter Sites によって、選択した宛先にパブリッシュ可能なアセットが存在するかどうか判断され、次のようなサマリー・フォームが表示されます。

**Publish destination: FSII Destination (RealTime)**

---

**Destination:** FSII Destination (RealTime) using RealTime

**Destination address:** http://localhost:8380/cs/

**Arguments:** REMOTEUSER=fwadmin  
VERBOSE=false  
PUBLISHOPTION=Complete  
EMAILALERT=false  
REMOTEPASS=\*\*\*\*\*  
371 assets are ready for publish.

**Buttons:** Configure Destination... Edit Publish Schedule... Publish Cancel

選択した宛先にパブリッシュ可能なアセットが存在する場合、「パブリッシュ」ボタンが表示されます。パブリッシュするアセットが存在しない場合、「パブリッシュ」ボタンは表示されません。

4. 「パブリッシュ」をクリックします。

WebCenter Sites によって、パブリッシュ・セッションが開始されます。

この宛先のパブリッシュ・セッションがすでに実行されている場合、実行しようとしたパブリッシュ・イベントは失敗し、同じ宛先の別のセッションが実行中であることを示すステータス・メッセージが表示されます。それでも、このイベントを実行する必要がある場合は、現在のセッションが完了するまで待機して、前述の手順を繰り返します。

## 承認テンプレートまたはプレビュー・テンプレートの割当て

ディスクへのエクスポートのパブリッシュの宛先に対してアセットが承認されると、その依存性を判断するために、承認システムによりアセットに割り当てられているテンプレートが調査されます。

ただし、アセットがパブリッシュされる際、必ずしもアセットに割り当てられているテンプレートが使用されるわけではありません。なぜでしょうか。別のエレメントのコードによって、特定のケースではそのアセットに別のテンプレートが使用されていると判断される可能性があるからです。

**Burlington Financial** 社のサンプル・サイトについて考えます。このサンプル・サイトの記事のアセットは、コンテキストに応じて、様々なテンプレートでレンダリングできます。

では、**Burlington Financial** 社のサンプル・サイトの記事のアセットを承認する場合、承認プロセスで記事の依存性を判断するためにどのテンプレートを使用する必要がありますでしょうか。それは、すべてのテンプレートの依存性の最も代表的な組合せが含まれるテンプレートです。

依存性の最も代表的な組合せが含まれるテンプレートが、アセットに割り当てようとするテンプレートと異なる場合はどうなるでしょうか。これをそのタイプのアセットのデフォルト承認テンプレートとして設定します。

ミラーリング先にパブリッシュされるアセットにデフォルト・テンプレートを割り当てた場合、そのテンプレートは、依存性の計算では使用されませんが、「ステータス」フォームからアセットをプレビューする際は使用されます。

デフォルト・テンプレートを設定するには、次の手順を実行します。

1. 「管理」タブで、「パブリッシュ」を開き、さらに「宛先」を開きます。
2. デフォルト・テンプレートを構成する宛先を開き、デフォルトのテンプレートの設定アイテムを選択します。
3. WebCenter Sites に「デフォルト・テンプレート」フォームが表示されます。



4. 「構成の編集」をクリックします。

次のようなフォームが表示されます。

Default templates for: Destination 1 (static)

Asset Type	Subtype	Template	Wrapper page
Article	Columnist	— None specified; use asset's template field —	— None —
	Standard	— None specified; use asset's template field —	— None —
Article Flex	Drill-HierarchyCT	— None specified; use asset's template field —	— None —
	Story	— None specified; use asset's template field —	— None —
CSElement	(no subtype)	— None specified; use asset's template field —	— None —
Collection	Article	— None specified; use asset's template field —	— None —
	AArticles	— None specified; use asset's template field —	— None —
	Collection	— None specified; use asset's template field —	— None —
	Content_C	— None specified; use asset's template field —	— None —

5. 構成する必要があるアセット・タイプごとに、そのタイプのアセットの承認テンプレートまたはプレビュー・テンプレートとして **WebCenter Sites** によって使用されるテンプレートおよびラッパー・ページを選択します。アセット・タイプにサブタイプが構成されている場合、そのアセット・タイプのサブタイプごとにデフォルト・テンプレートを指定できます。

6. 「保存」ボタンをクリックします。

その宛先の「デフォルト・テンプレート」画面に戻ります。

## 「パブリッシュ・コンソール」でのセッションの監視

「パブリッシュ・コンソール」を使用して、パブリッシュ・セッションを監視します。「パブリッシュ・コンソール」を開くには、WebCenter Sites インタフェースの一番上にある「パブリッシュ」ボタンをクリックします。

The screenshot shows the 'Publish Console' interface. At the top, there's a dashed line. Below it, the 'Publish destination' is set to 'FSII Destination (RealTime) (using RealTime)' with a dropdown arrow. A black 'Select Destination' button is below the dropdown. Further down, there are three tabs: 'Active (0)' (highlighted), 'Scheduled (1)', and 'History (2)'. The main content area below the tabs is a light gray box with the text 'No Running Publish Sessions'.

コンソールに、現在実行中、スケジュール済または完了済のセッションを含むすべてのパブリッシュ・アクティビティのサマリーが表示されます。


## パブリッシュの準備状況の検証

パブリッシュ・セッションの準備が整っているか、または承認されていないアセットに問題がないかを判断するには、次の手順に従います。

1. 「パブリッシュ・コンソール」で、ドロップダウン・リストから宛先を選択します。
2. 「宛先の選択」ボタンをクリックします。

サマリー・フォームが表示されます。ここには、パブリッシュする必要があるけれどもまだ準備が整っていない(保留されている)アセットおよびパブリッシュ可能なアセットがリストされます。例を示します。

**Publish destination: AviSports Destination (RT)**

**Destination:**  AviSports Destination (RT) using RealTime

**Destination address:** http://localhost:8280/cs/

**Arguments:**  
REMOTEUSER=fwadmin  
VERBOSE=false  
EMAILALERT=false  
REMOTEPASS=\*\*\*\*\*  
PUBLISHOPTION=Complete  
19 assets are held for publish.  
80 assets are ready for publish.

Configure Destination...

Edit Publish Schedule...

Publish

Cancel

3. 詳細を表示するには、リンクをクリックします。

WebCenter Sites に、承認済アセットまたは承認済だが依存性を理由に保留されているアセットのリストが表示されます。一方のタブは承認済アセットのリスト、もう一方のタブはオンデマンド・キューに存在するアセットです。

次に例を示します。

**Publish destination: AviaSports Destination (RT)**

---

**Destination:** AviaSports Destination (RT) using RealTime

**Arguments:** REMOTEUSER=fwadmin  
VERBOSE=false  
EMAILALERT=false  
REMOTEPASS=\*\*\*\*\*  
PUBLISHOPTION=Complete

**Approved Assets** | **On-Demand Queue**

**423 assets available for Publishing**  
Show 10 20 30 50 items per page

[+ Add to On-Demand Queue](#) [- Unapprove](#)

	Type	Name	Locale	Start Date	End Date	Days Expired
<input type="checkbox"/>	●	Running	🇯🇵	-	-	-
<input type="checkbox"/>	●	Skating	🇯🇵	-	-	-
<input type="checkbox"/>	●	Running Home	🇯🇵	-	-	-
<input type="checkbox"/>	●	FW_AttributeEditors/SegRa...	🇯🇵	-	-	-
<input type="checkbox"/>	●	SegRating	🇯🇵	-	-	-
<input type="checkbox"/>	●	FW_AttributeEditors/SegRa...	🇯🇵	-	-	-
<input type="checkbox"/>	●	TypeAhead	🇯🇵	-	-	-
<input type="checkbox"/>	●	FW_AttributeEditors/TypeA...	🇯🇵	-	-	-
<input type="checkbox"/>	●	FW_AttributeEditors/Calen...	🇯🇵	-	-	-
<input type="checkbox"/>	●	Couple Surfing	🇯🇵	-	-	-

Page 1 of 43 [Next](#) [Last](#)

[← Back](#) [Publish On-Demand Queue](#)

問題を解決する必要がある場合、アセットへのリンクをクリックし、必要な変更を（おそらく承認も）行います。

- オンデマンド・キューにアセットを配置するには、アセットを選択し、「**オンデマンド・キューへ追加**」をクリックします。オンデマンド・キューから（「オンデマンド・キュー」タブから）アセットを除去するには、アセットを選択し、「**オンデマンド・キューから除去**」をクリックします。
- オンデマンド・キューのアセットをパブリッシュするには、どちらかのタブで「**オンデマンド・キューのパブリッシュ**」をクリックします。
- アセットが保留される可能性がある理由の詳細は、[284 ページ](#)を参照してください。
- アセットの使用方法を示す手順の詳細は、*Oracle WebCenter Sites ユーザーズ・ガイド*を参照してください。

## パブリッシュ履歴情報の管理

完了済のパブリッシュ・セッションは、「パブリッシュ・コンソール」の「**パブリッシュ履歴**」セクションにリストされます。「パブリッシュ・コンソール」を表示するには、「**パブリッシュ**」ボタンをクリックします。リストの各パブリッ

シュ・セッションには、「実行中」、「完了」または「失敗」のいずれかのステータスが表示されます。

リストの各アイテムには、次の 2 つのアイコンが表示されます。

- 調査アイコン (丸で囲まれた **i** の文字)。そのセッションのサマリーを表示します。サマリーの調査は、失敗したセッションをトラブルシューティングする際に最初に実行する手順です。
- 削除アイコン (ゴミ箱)。セッションを削除します。このアイコンをクリックすると、**WebCenter Sites** によって、`PubSession` 表の該当する行、セッションのパブリッシュ・ログ・ファイル、および `PubMessage` 表のこのセッションに関するメッセージが削除されます。

このセクションにリストされるパブリッシュ・セッションの数が増えるほど、**WebCenter Sites** で「パブリッシュ・コンソール」を開く際にかかる時間が長くなります。

セッションのステータスが「失敗」と表示されたら、調査アイコンをクリックし、エラー・メッセージをメモして、[379 ページの「トラブルシューティング」](#)を参照します。

## セッション履歴について

パブリッシュ履歴ログ・ファイルは、「パブリッシュ・コンソール」の「履歴」タブに、パブリッシュ・セッションのサマリーとして表示されます。

履歴ファイルのテキストは、そのセッション中にパブリッシュされたすべての参照のリストです。参照という用語の意味は、パブリッシュ方法ごとに多少異なります。

- サーバーへのミラーリングのパブリッシュの場合、参照はアセットです。パブリッシュされた各アセットは、そのアセット・タイプと ID でリストされます。
- ディスクへのエクスポートのパブリッシュおよび XML へのアセットのエクスポートの場合、参照は生成されたファイルです。作成された各ファイルは、そのファイル名でリストされます。

パブリッシュ履歴ログを表示するには、「履歴」タブで特定のセッションを選択し、そのセッションの「ステータスのパブリッシュ」画面を表示します。

**Publishing Status**

Session ID: 1330098633208

Status: done

Destination: FSII Destination (RealTime) using RealTime (Complete publish)

Start Time: Friday, February 24, 2012 11:15:01 AM PST

Stage	Status	% Completed
Gathering data to publish	Success	100%
Serializing data	Success	100%
Sending data to target	Success	100%
Deserializing and saving	Success	100%
Updating page caches	Success	100%

[View Log](#)
[Download Log](#)
[Publish History](#)
[Configure Destination](#)

「ログの表示」をクリックすると、履歴ログが表示されます。「ログのダウンロード」をクリックして、ログのダウンロードと表示を個別に行うこともできます。

セッションに問題があった場合、エラー・メッセージが PubMessage 表に書き込まれ、履歴として表示されます。パブリッシュ・セッションの履歴でエラー・メッセージを見つけた場合は、[379 ページ](#)の「トラブルシューティング」の項を参照して、問題の解決を試みてください。

## すべての承認済アセットのパブリッシュ

パブリッシュ・システムは、増分パブリッシュ・セッションを実施します。すなわち、セッション中にパブリッシュされるのは、同じ宛先に対する前回のセッションの後に承認されたアセットのみです。

ただし、サイト全体のすべての承認済アセットをパブリッシュする必要がある状況が生じる可能性があります。(たとえば、配信システムでデータが修復された後。) その場合は、「宛先の編集」フォームで、「次回すべてのアイテムを強制パブリッシュ」ボタンを使用します。

このボタンをクリックすることは、すべての承認済アセットのステータスを未パブリッシュに変更することと同じです。これは、同じ宛先への次のパブリッシュ・セッションでは、すでにパブリッシュされていてその後変更されていないかどうかに関係なく、すべての承認済アセットがパブリッシュされることを意味します。

## トラブルシューティング

この項では、構成、システムまたはデータのエラーを示すエラー・メッセージまたは他のシステム・インジケータについて説明し、それぞれの修正措置を提示します。次のトピックがあります。

- [パブリッシュ・システムのエラー・メッセージについて](#)
- [数値メッセージ](#)
- [システムまたは構成の問題を示す他のインジケータ](#)

### パブリッシュ・システムのエラー・メッセージについて

パブリッシュ・システムは、次の方法でパブリッシュ・セッションに関する情報を報告します。

- 「パブリッシュ・コンソール」の「パブリッシュ履歴」リストに、セッションごとのステータスを表示します。ステータスとして「失敗」、「見つかりません」または「false」が表示されている場合、パブリッシュ・セッションで問題が発生したことを示します。
- パブリッシュされたアセットに関する情報を、そのパブリッシュ・セッションのログ・ファイルに書き込みます。「パブリッシュ・コンソール」でパブリッシュ・セッションの調査アイコンをクリックすると、そのセッションの履歴ログ・ファイルが表示されます。

パブリッシュ履歴ログ・ファイルの配置場所は、batch.ini ファイルの request.folder プロパティで定義されます。各ログ・ファイルの名前は、次のように決まります。

**PubSession ID** + Output.html

たとえば、注目するセッションの PubSession ID が 9876544 である場合、ログ・ファイルは 9876544Output.html という名前となり、request.folder プロパティで指定されているディレクトリに配置されています。

- パブリッシュ・セッションに関するエラー・メッセージを PubMessage 表に書き込みます。書き込まれたメッセージは、「パブリッシュ・コンソール」で特定のパブリッシュ・セッションのパブリッシュ履歴を調査したときに、「メッセージ」テキスト領域に表示されます。

PubSession ID を使用して、PubMessage 表で特定のパブリッシュ・セッションに関するメッセージを検索できます。宛先構成で Verbose パラメータを選択した場合、ステータス・メッセージは PubMessage 表にも書き込まれます。

- セッションに関する他の情報を PubSession 表に書き込みます。たとえば、パブリッシュ・セッションの開始時刻を知るには、その PubSession ID を使用して PubSession 表でセッションを検索します。
- ソースと宛先 (ターゲット) システムの両方で、futuretense.txt ファイルにエラー・メッセージを書き込みます。

失敗したパブリッシュ・セッションに関するエラー・メッセージは、次の場所でも見つけることができます。

- ソースと宛先システムの両方のアプリケーション・サーバー・ログ・ファイル。

- ソースと宛先システムの両方の stdout ログと stderr ログ。

## 数値メッセージ

この項では、パブリッシュ・システムが前述のリストで説明したいずれかのログ・ファイルに報告する可能性のある数値エラー・メッセージについて説明し、修正措置を提示します。

### 注意

次のリストには、WebCenter Sites システムが報告する可能性のあるすべてのエラー・メッセージが網羅されているわけではありません。すべてのエラー・メッセージの完全なリストは、*開発者向けタグ・リファレンス*のエラー条件に関する付録を参照してください。

### -2

このエラーは、ミラー・ユーザーの名前またはパスワードが正しく識別されないことを示します。ソースのパブリッシュ・システムはパブリッシュ・プロセスを開始しましたが、宛先システムはミラー・ユーザーとして指定されているユーザーを認証できませんでした。

#### 修正措置

ミラー・ユーザー情報を修正します。詳細は、[334 ページの「手順 3: ソース・システムでのミラー・ユーザーの識別」](#)の手順を参照してください。

### -3

このエラーは、宛先システムで WebCenter Sites データベースにアセットを保存するための適切な権限をミラー・ユーザーが持っていないことを示します。つまり、ソースでミラー・ユーザーとして識別されている宛先システム・ユーザーは、必要な ACL をすべて持っているわけではありません。

#### 修正措置

ミラー・ユーザーのアカウントを編集し、適切な ACL を割り当てます。

ミラー・ユーザーに必要な ACL のリストは、[333 ページの「手順 2: 配信システムの設定」](#)を参照してください。

ミラー・ユーザーのアカウントに不足している ACL がまだ不明な場合は、宛先システムの `futuretense.txt` ファイルを調査します。ミラー・プロセスによる更新が失敗した表に関するエントリが見つかるはずです。その表の名前から不足している ACL を知ることができます。

たとえば、ミラー・セッションが訪問者表で失敗している場合、ミラー・ユーザーに割り当てられていないのは、おそらく Visitor ACL または VisitorAdmin ACL です。



## -103

このエラーは、データがミラー・パブリッシュされる表のいずれかが宛先システムに存在しないことを示します。このエラーは通常、宛先にまだ存在していないアセット・タイプがソースに存在する場合に発生します。また、サイト向けにカスタム設計された機能をサポートするために作成されたカスタム表が、宛先システムでまだ作成されていない可能性もあります。

### 修正措置

宛先システムの `sites.log` ファイルを調査して、-103 エラーがリストされている行を探します。メッセージ内のテキストに、欠落している表が示されています。

適切なツールを使用して、欠落している表を宛先システムで作成します。すなわち、ベーシック・アセット・タイプの場合は **AssetMaker** を使用します。フレックス・アセット・タイプの場合はフレックス・ファミリー・メーカーを使用します。カスタム表の場合は **Sites Explorer** を使用します。

## -611

このエラー・メッセージは、一般的な 2 つのミラー・パブリッシュ・エラー・メッセージのうちの 1 つです (もう 1 つは -12011)。通常は、-611 は、パブリッシュ・システムが宛先システムにアクセスを試みたときに問題が発生したことを意味しており、他のエラー・メッセージも報告されているはずです。

### 修正措置

宛先システムで `sites.log` ファイルとアプリケーション・サーバー・ログを調査して、他のメッセージを探します。

## -612

このエラー・メッセージは、ミラーリング先の定義のどこかが正しくないことを示します。おそらく、宛先アドレスの構文が正しくないか、またはなんらかの誤字があります。

### 修正措置

ソースで WebCenter Sites インタフェースにログインし、宛先の定義を調査して、正しいかどうかを判断します。詳細は、[336 ページの「手順 5: ミラーリング先の作成」](#)を参照してください。

## -12011

このエラー・メッセージは、ミラー・プロセスが失敗したことを意味する一般的な 2 つのメッセージのうちの 1 つです (もう 1 つは -611)。他のエラー・メッセージが報告されずに、このメッセージが表示されることはまずありません。通常は、他のエラーで失敗に関する詳細な情報が示されます。

### 修正措置

ソースで PubMessage 表と sites.log ファイルのメッセージを調査し、他のエラー・メッセージを探します。

## -12044

このエラーは、パブリッシュ・システムがセッションを開始するために宛先に接続できなかったため、パブリッシュ・セッションを開始できなかったことを示します。つまり、宛先から応答がありませんでした。宛先システムの一部がオフラインです。

### 修正措置

まず Web サーバーとアプリケーション・サーバーが宛先システムで動作中であることを確認します。動作していない場合は、これを起動します。2 つのシステムがネットワーク経由で相互接続可能であることを確認します (おそらくネットワークが、オフラインなどになっています)。

## -12045

このエラーは、パブリッシュ・システムはセッションを開始できたが、その後どこかで失敗したことを示します。

### 修正措置

宛先システムの sites.log ファイルを調査して、ログでエラー・メッセージと例外メッセージを探します。

## -12046

このエラーは、パブリッシュ・システムがセッションごとに作成される一時表のクリーンアップを開始したときに、パブリッシュ・セッションの片側で問題が発生したことを示します。クリーンアップ・プロセスが始まったときに、宛先との接続に失敗しました。つまり、パブリッシュ・プロセスが一時表のクリーンアップを試みたときに、ソース・システムが宛先から応答を得られませんでした。

### 修正措置

宛先システムの Web サーバーとアプリケーション・サーバーが動作中かどうかを判断します。動作していない場合は、これを起動します。また、ネットワーク接続に問題がないか、チェックします。

## -12047

このエラーは、パブリッシュ・システムはクリーンアップ・プロセスを開始できたが、その後処理中にどこかで失敗したことを示します。

### 修正措置

宛先の `sites.log` ファイルを調査して、問題を示すエラー例外メッセージと例外を探します。

## -13054

このエラーは、コンプレックス・アセットおよびフレックス・アセットの場合のみ発生します。この場合、パブリッシュ・システムはコンプレックス・アセットまたはフレックス・アセットのパブリッシュを開始しましたが、データは宛先に到達しませんでした。データ自体の破損または HTTP リクエスト接続の失敗を意味する可能性があります。

### 修正措置

ソース・システムで `sites.log` ファイルをチェックします。データ自体に問題がある場合、問題の原因となったアセットの特定に役立つ可能性がある他のメッセージがこのログ・ファイルに存在します。ただし、宛先システムが応答する前に HTTP リクエストが破棄された場合、ログに他のメッセージは存在しません。

## -13055

このエラーは、コンプレックス・アセットおよびフレックス・アセットの場合のみ発生します。この場合、フレックス・アセットまたはコンプレックス・アセットのデータは配信されましたが、宛先システムがその WebCenter Sites データベースにアセットを保存できませんでした。

このメッセージは、データに問題があることを示します。たとえば、複数のソースから同じ宛先へのパブリッシュを試みている場合、このエラーの原因となる ID の競合およびデータ整合性に関する他の問題が発生している可能性があります。

### 修正措置

宛先システムで `sites.log` ファイルとアプリケーション・サーバー・ログ・ファイルを調査します。多くの場合、`stderr` ログに、発生した問題を示すスタック・トレース・メッセージが存在します。

## システムまたは構成の問題を示す他のインジケータ

この項では、パブリッシュ・システムが構成エラーまたはシステムの問題を検出したときに、Sites システムが示す可能性がある症状について説明します。

### パブリッシュ・セッションが終了せずに普通でないステータスが表示される

パブリッシュ・セッションが開始または終了できない場合、通常は、バッチ・ユーザーが正しく構成されていません。パブリッシュ・セッションの「ステータス」を調査します。「ステータス」が「見つかりません」または「false」である場合、バッチ・ホストが正しく構成されていないと考えられます。

ミラーリング先の初期化機能では、バッチ・ユーザーを使用しません。宛先を正しく初期化できたのにパブリッシュ・セッションでエラーが発生する場合、バッチ・ユーザーが正しく設定されていないと考えられます。

#### 修正措置

313 ページの「[手順 1. バッチ・ユーザー・アカウントの作成 \(存在しない場合\)](#)」を参照し、バッチ・ユーザーを正しく構成していることを確認します。

- `xcelerate.batchuser` プロパティで指定されているバッチ・ユーザーには、適切な読取り / 書込み権限が必要です。必要な権限は、前述の手順に記載されています。
- `xcelerate.batchuser` プロパティでバッチ・ユーザーの名前が正しいスペルで指定され、`xcelerate.batchpass` プロパティで正しいパスワードが指定されている必要があります。
- `xcelerate.batchhost` プロパティで正しいサーバーが指定されている必要があります。このプロパティで指定する必要があるのは、ソース・システムがホストされている[アプリケーション・サーバー](#)であり、宛先およびロード・バランサを使用している場合のロード・バランサがホストされているサーバーでは**ありません**。80 以外のポート番号を使用している場合、ポート番号も指定する必要があります。たとえば、次のように指定します。  
`myserver:7001`

WebCenter Sites 環境がクラスタ化されている場合、サポートされるバッチ・ホストは 1 つのみです。`xcelerate.batchhost` プロパティは、クラスタ・メンバーごとに専用ホストを指定するように設定する必要があります。

パブリッシュ履歴にパブリッシュ・セッションの出力を取得できませんというメッセージが書き込まれている場合、サーバー名が正しくないと考えられます。

- バッチ・ホスト・サーバーのポート番号も正しく指定する必要があります。パブリッシュ履歴にパブリッシュ・セッションの出力を取得できませんというメッセージが書き込まれている場合、ポート番号が正しくないか、またはポート番号が指定されていない場合はデフォルト・ポート (80) が正しくないと考えられます。

## システムが完全に停止する

システムが単純に停止した場合、この動作は、パブリッシュ・システムが動作するための十分な空きディスク領域が存在していない可能性があることを示します。

### 修正措置

stdout ファイルと stderr ファイルをチェックします。Java の書き込みエラーが見つかった場合、ディスク領域が不足しています。

- ディスクへのエクスポートのパブリッシュおよび XML へのアセットのエクスポートの場合、生成されるすべてのファイルを格納するための十分なディスク領域がファイル・システムに存在する必要があります。
- サーバーへのミラーリングのパブリッシュの場合、ミラーリングされるデータのサイズの 4 倍に等しい空き領域がソースおよび宛先システムの両方に存在する必要があります。存在しない場合はミラーリング操作が失敗します。

Java temp ディレクトリに十分な容量が存在しない場合、パブリッシュ・プロセスも失敗します。

## パブリッシュ・セッションの終了後にページがリフレッシュされない

Satellite Server ( 管理システムまたは開発システムに共存する Satellite または配信システムのリモート Satellite Server のどちらか ) を使用している状態で、キャッシュされたページの再生成がパブリッシュ・セッションの終了後から行われていないことが判明した場合、Satellite Server が正しく構成されていないと考えられます。

### 修正措置

宛先システムの sites.log ファイルを調査して、次のようなメッセージを探します。

- Satellite Server の数はユーザー名とパスワードの数と一致する必要があります。  
このメッセージは、futuretense.ini ファイルで cs.satellitehosts、cs.satelliteuser および cs.satellitepassword の各プロパティに指定されている値がどこか間違っていることを示します。
- -100.FormPoster が URL のフラッシュに失敗しました。  
このメッセージは、Satellite サーブレットが動作していないか、または宛先システムが接続を試みている Satellite サーブレットに接続できなかったことを示します。

futuretense.ini ファイルを開き、「衛星」タブでプロパティを調査して、ユーザー名、パスワードおよびホスト名に設定されている値をメモします。共存する Satellite Server およびリモートの Satellite Server アプリケーションの satellite.ini ファイルを開きます。futuretense.ini ファイルの cs.satellitehosts、cs.satelliteuser および cs.satellitepassword の各プロパティで指定されている値を、satellite.ini ファイルの username および password の各プロパティで設定されている値と比較します。両者は一致する必要があります。

futuretense.ini ファイルでホスト名を指定する順序が、ユーザー名とパスワードを指定する順序と一致する必要があることを忘れないでください。

## **DB2 システムを使用している場合にアソシエーションが存在するアセットをパブリッシュするとトラブルが発生する**

アソシエーションが存在するアセットをパブリッシュする際に問題が発生することが判明したとき、DB2 データベースを使用している場合は、LOCKLIST パラメータが正しく設定されていないと考えられます。

### **修正措置**

DB2 のインストールについて説明している WebCenter Sites インストレーション・ガイドでは、このプロパティを 1000 以上に設定することを薦めています。アソシエーションが存在するアセットをパブリッシュできない場合は、この値を増やします。

## 第 4 部

# リアルタイム・パブリッシュ

この部では、WebCenter Sites のリアルタイム・パブリッシュ・システムと、このシステムによってサポートされるパブリッシュ方法、さらに、そのサポートされるパブリッシュ方法を構成して管理する手順について説明します。

この部は、次の章で構成されています。

- [第 18 章「リアルタイム・パブリッシュの概要」](#)
- [第 19 章「リアルタイム・パブリッシュ・プロセスの構成」](#)
- [第 20 章「リアルタイム・パブリッシュ・モードの使用」](#)
- [第 21 章「オンデマンド・パブリッシュとアセットの非承認」](#)





## 第 18 章

# リアルタイム・パブリッシュの概要

リアルタイム・パブリッシュは、動的なパブリッシュ・プロセスであり、推奨されるパブリッシュ方法です。管理者は、リアルタイム・ユーザー・インタフェースを使用することで、パブリッシュ・セッションの進捗の監視、選択したアセットのオンデマンドでのパブリッシュ、パブリッシュ用に承認されたアセットの一括での非承認化、パブリッシュの取消し、さらにパブリッシュ・セッションの再実行を行うことができます。

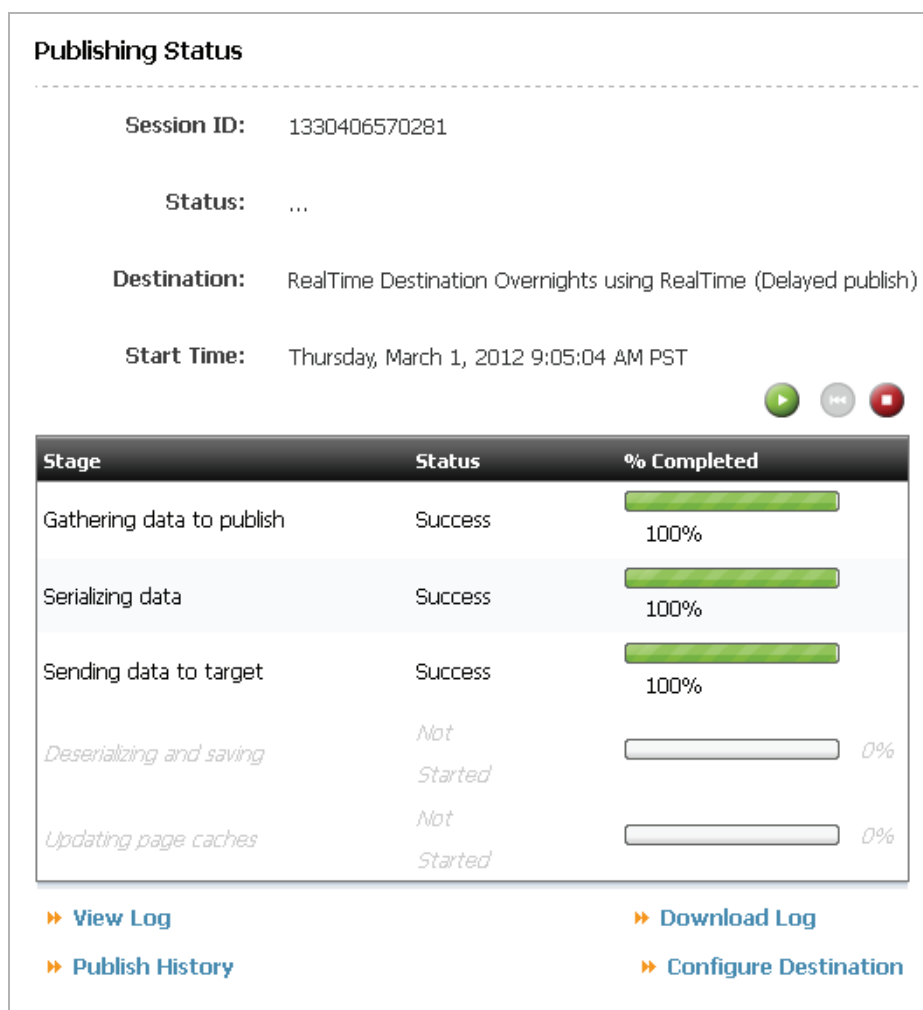
この章は、次の項で構成されています。

- [リアルタイム・パブリッシュの概要](#)
- [リアルタイム・パブリッシュの動作](#)

## リアルタイム・パブリッシュの概要

リアルタイム・パブリッシュは、動的なパブリッシュ方法で、名前はそのユーザー・インタフェースに由来しています。ユーザー・インタフェースでは、パブリッシュのステータス・メッセージがリアルタイムに更新されます。プログレス・バーとマウスオーバー・ツールチップで、パブリッシュ・セッションの進捗が表示されます。ここでは、ソースおよび宛先システムの両方からのステータス情報が表示されます。

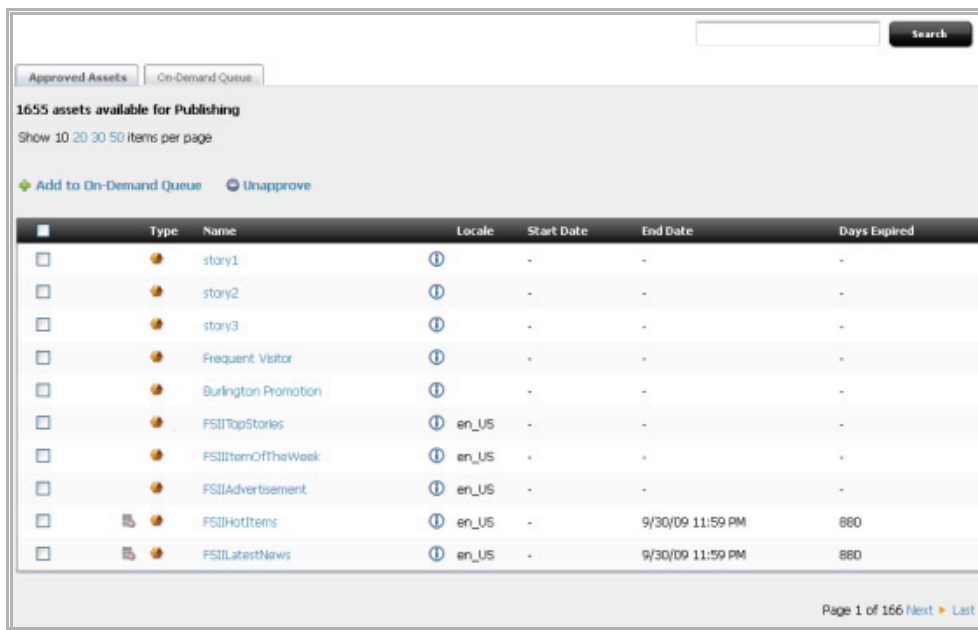
**図 12:** 「ステータスのパブリッシュ」画面は、アクティブなパブリッシュ・セッションに関する最新のステータス情報を表示します。



リアルタイム・ユーザー・インタフェースも対話形式で操作できます。たとえば、承認済アセットのリストを対話形式で操作できます。承認済アセットのリストでは、アイテムを「オンデマンド・キュー」に入れることで、それらを即時パブリッシュ用に必要な数だけ選択できます。また、「非承認」を使用して、承認済アセット・リストから1つ以上のアセットを削除できます。オンデマンド・パブリッシュとアセットの非承認の両方で、宛先システムの Web サイトでのリン

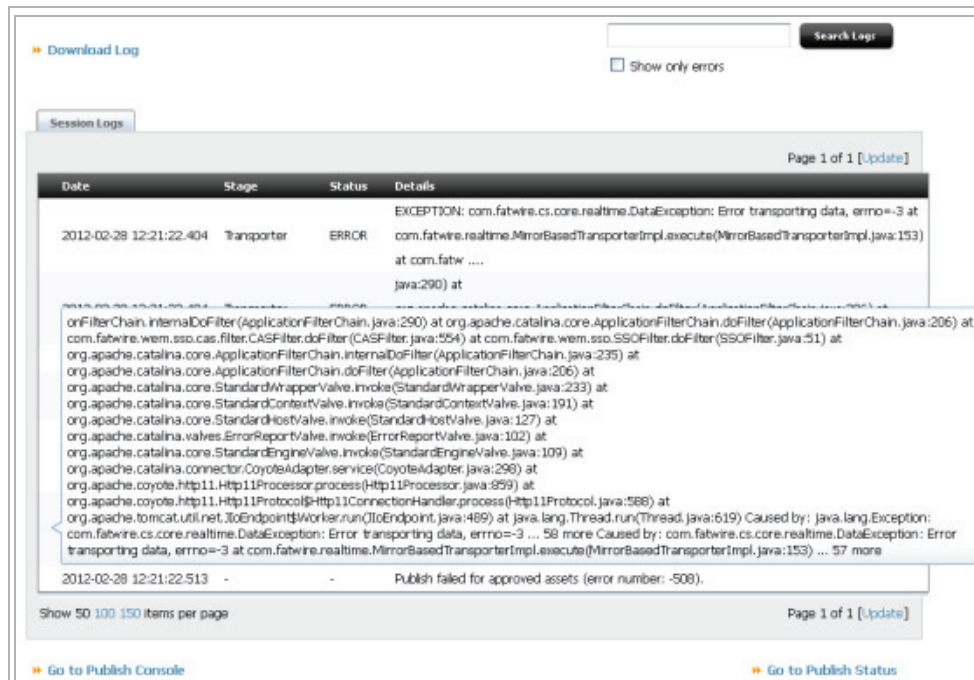
クの破壊や存在しないアセットが生じないように、アセットの依存性が考慮されます。

**図 13:** 「承認済アセット」のリストでは、アセットをオンデマンド・キューに入れたり、非承認にできます。



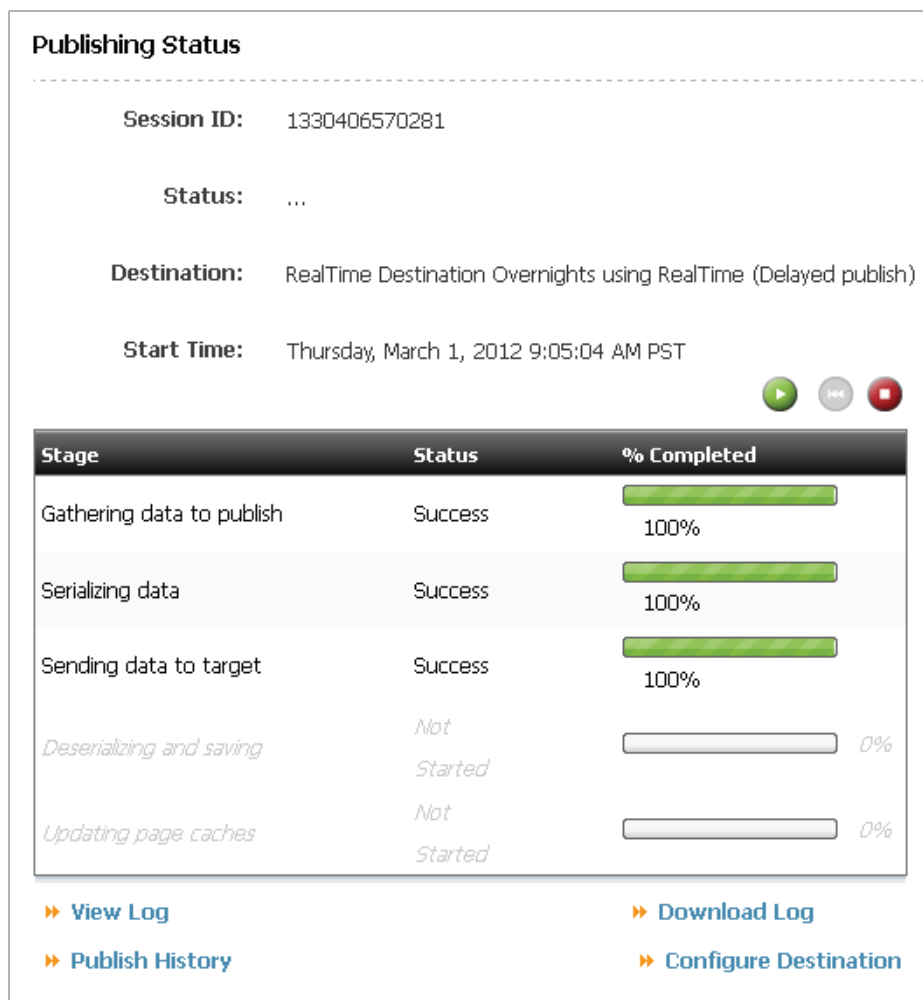
ステータス・メッセージおよびアセットの承認機能に加えて、リアルタイム・ユーザー・インタフェースにも対話形式のログイン画面があります。ログイン画面では、ログ・エントリの検索、ページ表示およびフィルタが可能です。サマリー・ログ・メッセージの「すべて表示」リンクの上にマウス・カーソルを重ねると、詳細レポートのエントリが開きます。

**図 14:** セッション・ログは、対話形式で操作でき、サマリー・エントリの横にある「すべて表示」リンクをクリックすることでエントリの詳細が表示されます。



リアルタイム・ユーザー・インタフェースは、複数ステージのパブリッシュ・プロセスが基礎となっています。WebCenter Sites では、5つのステージで Web サイトのデータがレプリケート、転送および保存されます。次の「ステータスのパブリッシュ」画面には、パブリッシュの5つのステージが表示されています。これらのステージの詳細は、395 ページの「リアルタイム・パブリッシュの動作」の項を参照してください。

図 15: リアルタイム・パブリッシュの 5 つのステージ



リアルタイム・パブリッシュを個別のステージに細分化する利点の 1 つは、特定のステージを完了した後でパブリッシュ・プロセスを停止し、次のステージからセッションを再開するオプションを導入できることです。

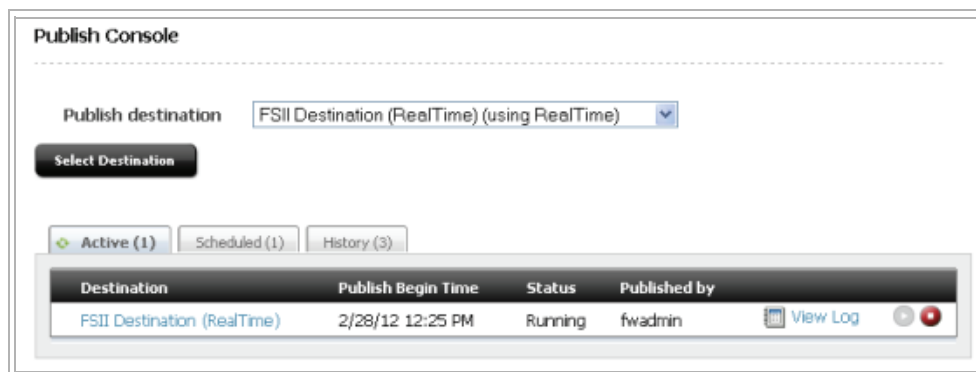
リアルタイム・パブリッシュには、完了と遅延の 2 つのパブリッシュ・モードがあります。**完了パブリッシュ・モード**では、1 つの連続するシーケンスでパブリッシュのすべてのステージが実行されます。**遅延パブリッシュ・モード**では、プロセスの途中で一時停止するため、管理者が WebCenter Sites 宛先データベースへのアセットの書き込みを開始するタイミングを制御できます。

遅延パブリッシュを使用することで、Web サーバーのパフォーマンスにパブリッシュが与える影響を最低限に抑えることができます。管理者は、遅延パブリッシュを使用して、通信量が少ない時間帯に宛先システムの更新を実行するように時間指定できます。これは、大量のアセットをパブリッシュするときに特に便利です。

複数ステージ・パブリッシュ・プロセスのもう 1 つの利点は、任意に実行中のセッションをキャンセルし、必要に応じて、キャンセルされたセッションを最後に正常に完了したパブリッシュ・ステージから再開できることです。また、エ

ラーや停電により完了しなかったパブリッシュ・セッションを再実行することもできます。

**図 16:** 実行中のセッションは、「パブリッシュ・コンソール」でキャンセルし、その後に、正常に完了したステージの直後から再開できます。



## 要約

リアルタイム・パブリッシュの方法を使用することで、次の操作が可能です。

- アクティブなパブリッシュ・セッションを監視する。「ステータスのパブリッシュ」画面のプログレス・バーに、ソースおよび宛先 WebCenter Sites システムの両方で実行されているセッションの現在の進行状況が表示されます。
- オンデマンド・パブリッシュを使用して、承認済アセットを選択的にパブリッシュする。
- アセットを選択的に非承認する。
- ソート可能なセッション・ログを対話形式で確認する。
- 宛先を完了パブリッシュ・モードに構成し、パブリッシュ・プロセス全体を中断のないセッションで実行する。
- 宛先を遅延パブリッシュ・モードに構成して、パブリッシュ・セッションを途中で一時停止する。これによりアセットの宛先データベースへの書き込みを開始するタイミングを制御できるようになります。
- アクティブなパブリッシュ・セッションをキャンセルする。
- 取り消されたパブリッシュ・セッションを最後に完了したステージの直後から再開する。
- 失敗したパブリッシュ・セッションを再実行する。

## リアルタイム・パブリッシュの動作

動的パブリッシュは、WebCenter Sites システムから別の WebCenter Sites システムへ、アセットおよびそれらの基礎となるスキーマをコピーするプロセスです。リアルタイム・パブリッシュでは、この処理が 5 つのステージに分けられます。

WebCenter Sites では、常に 5 つのステージが順番に実行されます。宛先が完了パブリッシュ・モードに構成されている場合、プロセスは中断なしに実行されます。遅延パブリッシュ・モードに構成された場合、プロセスが 4 番目のステージの前で一時的に停止します。セッションの完了にはユーザーの操作が必要です。

パブリッシュ・セッションの進行時に、「ステータスのパブリッシュ」画面で各ステージの進行状況を監視できます。パブリッシュ・セッションの監視手順は、第 20 章「リアルタイム・パブリッシュ・モードの使用」を参照してください。

パブリッシュの  
5 つのステージ




**Publishing Status**

**Session ID:** 1330406570281

**Status:** ...

**Destination:** RealTime Destination Overnights using RealTime (Delayed publish)

**Start Time:** Thursday, March 1, 2012 9:05:04 AM PST

Stage	Status	% Completed
Gathering data to publish	Success	<div><div></div></div> 100%
Serializing data	Success	<div><div></div></div> 100%
Sending data to target	Success	<div><div></div></div> 100%
Deserializing and saving	Not Started	<div><div></div></div> 0%
Updating page caches	Not Started	<div><div></div></div> 0%

[View Log](#) [Download Log](#)

[Publish History](#) [Configure Destination](#)

パブリッシュのステージは次のとおりです。

**1. パブリッシュするデータの収集：**

- a. WebCenter Sites のソース・システムは、このパブリッシュ・セッションの承認されたアセットをロックします。承認済アセットのロックによって、パブリッシュ中に編集されることを防止します。
- b. ソース・システムでは、リアルタイム・パブリッシュで承認システムからのデータを使用して、パブリッシュするアセットのリストであるマニフェストを作成します。マニフェストは、リソース・グループを識別します。これは、リンクの破壊や不完全なページを防止するために、宛先上に一緒に存在する必要があるアセットのグループです。

**2. データのシリアルライズ：**

- a. WebCenter Sites のソース・システムは、次のアイテムをミラーリングします。
  - アセット・タイプ
  - 補助表 (宛先の構成で識別)
  - 承認済アセット
- b. ソース・システムによってミラーリングされたデータがシリアルライズされます (バイナリ形式に変換されます)。

**注意**

この手順では、完了するまでに大量の領域が必要になる場合があります。(java.io.tmp を介して)JVM に割り当て一時領域は、パブリッシュされるデータのサイズの 3 倍以上にすることをお勧めします。ソースと宛先のデータベースにも、表 FW\_PUBDATASTORE が増大しても十分なだけの領域が必要です。これは、最初のパブリッシュにおけるソース・サイト全体のサイズ (ディスクとデータベースの両方に保存されているオブジェクト) と等しくなる可能性があるため、必要なスペースは WebCenter Sites が現在使用しているサイズを超える可能性があることを意味します (特に大きなバイナリが含まれている場合)。

**3. ターゲットへのデータの送信：**

- a. WebCenter Sites の宛先データベースは、このパブリッシュ・セッションの承認されたアセットをロックします。ターゲットのアセットがロックされると、編集できなくなります。
- b. WebCenter Sites のソース・システムは、宛先にマニフェストとシリアルライズされたすべてのデータを送信します。これらのデータは、宛先のデータベースに対してまだコミットされていません。

遅延パブリッシュ・セッションはこの時点で一時停止します。このセッションは、管理者が「パブリッシュ・コンソール」または「ステータスのパブリッシュ」画面で「再開」ボタンを選択した場合にのみステージ 4 から続行します。



#### 4. データのデシリアライズと保存:

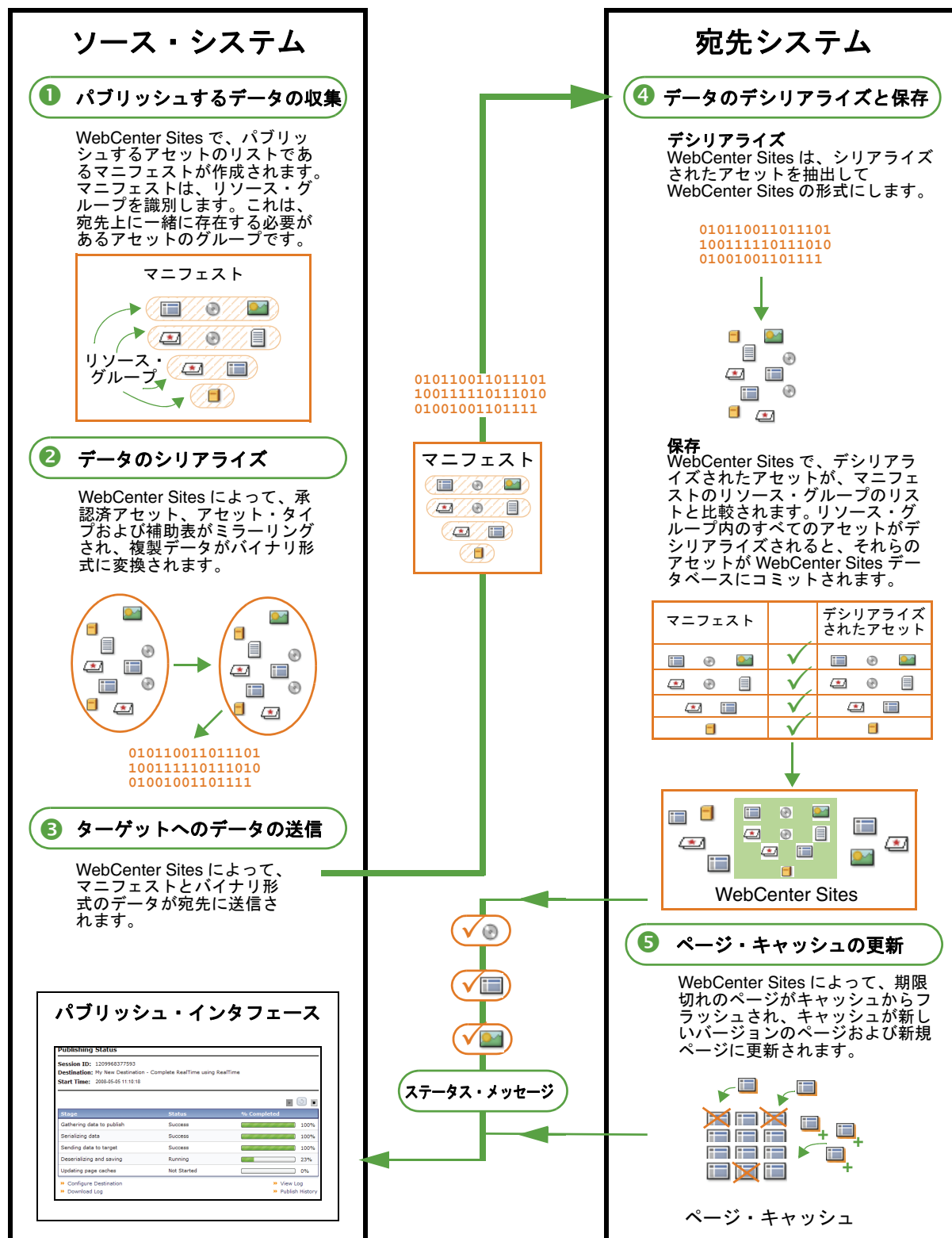
- a. WebCenter Sites の宛先システムで、ミラーリングされたアセット・タイプ、補助表および承認済アセットがデシリアライズされます (WebCenter Sites 形式に戻されます)。
- b. 宛先データベースでは、デシリアライズされたアセット・タイプと補助表に更新されるか、それらが新しいデータとして追加されます。
- c. 宛先システムではマニフェストを使用して、データベースにアセットをコミットするタイミングが決定されます。リソース・グループのアセットは、グループ内のすべてのアセットがデシリアライズされたときにのみコミットされます。
- d. 宛先システムは、リソース・グループ内のすべてのアセットをコミットすると、次の処理を行います。
  - 1) 編集のためにデータベース内のアセットのロックを解除します。パブリッシュ・セッションが実行されると、宛先データベース内のパブリッシュされた編集可能アセットの数が増加します。
  - 2) 宛先システムからソース・システムに、正常にパブリッシュされたアセットを識別するメッセージが送信されます。リソース・グループ内のアセットは、ソース・システムで編集のためにロックが解除されます。パブリッシュ・セッションが実行されると、ソース・システムの編集可能アセットの数が増加します。

#### 5. ページ・キャッシュの更新:

宛先システムでパブリッシュ・プロセスが完了します。

- a. ページ・キャッシュがフラッシュされ、期限切れのページが削除されます。
- b. キャッシュに新しいページが追加されます。

図 17: パブリッシュの 5 つのステージ



## 第 19 章

# リアルタイム・パブリッシュ・プロセスの構成

リアルタイム・パブリッシュ・プロセスの構成時、パブリッシュの宛先とその宛先へのミラー・サイト構成データを定義します。さらに、パブリッシュのスケジュールも設定できます。この章では、リアルタイム・プロセスを使用して、サイト・データを同期させる手順についても説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [概要](#)
- [リアルタイム・パブリッシュに対するシステムの構成](#)
- [新規リアルタイム宛先定義の追加](#)
- [サイト構成データの同期](#)
- [パフォーマンスの強化](#)

## 概要

動的パブリッシュは、WebCenter Sites システムから別の WebCenter Sites システムへ、アセットおよびそれらの基礎となるスキーマをコピーするプロセスです。リアルタイム・パブリッシュ・プロセスが機能するように、ソースとターゲットの両方のシステムがリアルタイム・パブリッシュ用に設定されている必要があります。

### ソース・システムの構成

ソース・システムでは、次のアイテムを構成する必要があります。

- **バッチ・ユーザー・アカウント。**このユーザーは、パブリッシュをバックグラウンド・プロセスとして実行することを許可し、パブリッシュ・ログの場所を指定します。
- プロキシがある場合は、ローカル・プロキシ・サーバーの ID。これは、futuretense.ini ファイルで WebCenter Sites に識別されます。
- 大規模なパブリッシュの場合 (サイトの最初のパブリケーションなど)、セッション・タイムアウトをデフォルトの 900 秒よりも大きくすることが必要になる場合があります (たとえば、9000 秒)。これを行うには、プロパティ・エディタで futuretense.ini を開き、cs.timeout を 9000 に変更して、WebCenter Sites を再起動します。パブリッシュが完了したときに、この値をリセットできます。
- **パブリッシュの宛先。**これは次の項目を特定します。
  - 宛先の URL とポート
  - パブリッシュ方法
  - パブリッシュ・ログおよび電子メール通知のオプション
  - 承認されるユーザー・ロールおよびパブリッシュの権限
  - その宛先でのパブリッシュ権限を持つリアルタイム・ユーザー

さらに、パブリッシュを正常動作させるためには必須ではありませんが、定期的に承認済アセットをパブリッシュするパブリッシュ・スケジュールを構成できます。

### 宛先システムの構成

宛先システムには次が必要です。

- その宛先でのパブリッシュ権限を持つリアルタイム・ユーザー・アカウント。
- パブリッシュするサイトのソース・システムのミラー・サイト構成データ。:
  - サイト
  - Publication および SitePlanTree 表データ
  - 補助表 (Source や MimeType など)
  - アセット・タイプ
  - ロール
  - スタート・メニュー・アイテム\*

- ワークフロー・グループとプロセス\*
- ツリー・タブ\*
- 保存済の検索\*

\* アスタリスクが付けられたアイテムは、配信システムでは通常必要ありません。

さらに、宛先システムからパブリッシュしない場合は、アセットの無効化を解除することをお勧めします。

この章の手順に従って、システムをリアルタイム・パブリッシュに対して構成してください。

## リアルタイム・パブリッシュに対するシステムの構成

### 注意

リアルタイム・パブリッシュ環境を構成するには、独自の WebCenter Sites のインストールおよびビジネス慣行に固有の情報を指定する必要があります。この項の手順を開始する前に、要求される情報を収集して確認するために、この手順を通読することをお勧めします。

リアルタイム・パブリッシュ環境を構成するための主要な手順は次のとおりです。

- 手順 1: バッチ・ユーザー・アカウントの作成 (存在しない場合)
- 手順 2: 配信システムの設定
- 手順 3: プロキシ・サーバーが存在する場合のソース・システムでの識別
- 手順 4: ソース・システムでのリアルタイム宛先定義の作成
- 手順 5: 宛先データベースの初期化
- 手順 6: 宛先データベースへのサイト構成データのミラーリング
- 手順 7: パブリッシュ・プロセスのテスト
  - A. アセットの承認
  - B. アセットのパブリッシュ
- 手順 8: パブリッシュされたサイトのテスト
- 手順 9: スケジュールの設定
- 手順 10: 配信システムでのアセットの無効化の解除

## 手順 1: バッチ・ユーザー・アカウントの作成 (存在しない場合)

### 注意

構成しているパブリッシュの宛先の数やタイプに関係なく、この手順はソース・システムごとに 1 回のみ実行する必要があります。

ソース・システムにバッチ・ユーザー・アカウントがすでに存在する場合は、「[手順 2: 配信システムの設定](#)」に進みます。

パブリッシュのいずれのタイプを実行する場合でも、あらかじめバッチ・ユーザー・アカウントが必要です。

バッチ・ユーザー・アカウントには、次の 2 つの目的があります。

- ソース・システムのバックグラウンド・プロセスとしてパブリッシュ・プロセスを実行できるようにする。
- パブリッシュ・ログを保存する場所を指定する。

バッチ・ユーザー・アカウントをまだ作成していない場合、これを作成します。この手順は、[313 ページの「手順 1. バッチ・ユーザー・アカウントの作成 \(存在しない場合\)」](#)を参照してください。

## 手順 2: 配信システムの設定

ソースと宛先システムに同じデータベース・スキーマが存在しないかぎり、データを動的にパブリッシュすることはできません。この手順では、ソース・データベースの補助表の構造が宛先データベースに再現されるようにします。データ自体は、以降の手順 ([409 ページの「手順 5: 宛先データベースの初期化」](#)) でミラーリングします。

また、宛先では、ミラー・ユーザーがパブリッシュ中に宛先システムでデータベース・トランザクションを完了する必要があります。ミラー・ユーザーが確実に宛先に存在するようにします。(ミラー・ユーザーは、ソース・システムに存在するバッチ・ユーザーとは異なります。)

**宛先システムを設定するには：**

1. ユーザーがパブリッシュするアセットのタイプをソース・システムのどの補助表でサポートするかを指定し、宛先システムで表構造を手動で再作成します。

**注意**

**補助表**はアセット・タイプをサポートするカスタム定義の表です。この表は、WebCenter Sites の AssetMaker またはフレックス・ファミリー・メーカーによって作成されます。補助表の例には、Source、MimeType、参照表 (アセット・タイプの異なる属性用) などがあります。

ソース・システムと宛先システムのデータベース・プロパティは、完全には一致していなくても、特にデータベース・スキーマ・オプション (futuretense.ini で設定) は互換性がある必要があります。futuretense.ini に変更を加えた場合は、必ずアプリケーション・サーバーを再起動してください。

2. 宛先システムに (管理者のインタフェースを使用して) リアルタイム・ユーザーを作成します。次の点に注意してください。

**注意**

リアルタイム・ユーザーは、サーバーへのミラーリングのパブリッシュ用に構成されたミラー・ユーザーと同じ権限を持ちます。ミラー・ユーザーがサーバーへのミラーリングのパブリッシュ用に構成されている場合、同じユーザーをリアルタイム・ユーザーとして使用できます。

- **基本的な権限：**リアルタイム・ユーザーには次の ACL が割り当てられている必要があります。
  - Browser
  - ElementEditor
  - PageEditor
  - TableEditor
  - Visitor
  - VisitorAdmin
  - xceladmin
  - xceleeditor
- **追加の権限：**リアルタイム・ユーザー・アカウントは、CacheManager によってパブリッシュ・セッションの後にページ・キャッシュを再生成するために使用されるため、リアルタイム・ユーザーには、キャッシュ内のすべてのページを再生成するのに十分な権限が与えられる必要があります。したがって、リアルタイム・ユーザー・アカウントには、SiteCatalog 表またはレンダリングするデータを保持するデータベース表内のページ・エントリに割り当てられるすべての ACL が割り当てられる必要があります。

ミラー・ユーザーの作成の詳細は、96 ページの「新しいユーザーの作成」を参照してください。

### 手順 3: プロキシ・サーバーが存在する場合のソース・システムでの識別

#### 注意

構成しているパブリッシュの宛先の数やタイプに関係なく、この手順はソース・システムごとに 1 回のみ実行する必要があります。

次のいずれかの場合、「[手順 4: ソース・システムでのリアルタイム宛先定義の作成](#)」にスキップします。

- ローカル・プロキシがすでにソース・システムで識別されている。
- プロキシ・サーバーが使用されていない。

すべての宛先についてソース・システムでローカル・プロキシ・サーバーを識別するには:

1. ソース・システムのプロパティ・エディタで `futuretense.ini` を開き、「エクスポート/ミラー」タブで、次のプロパティの値を指定します。
  - `cs.mirrorproxyserver`  
このプロパティを、ローカル・プロキシ・サーバーの名前か IP アドレスに設定します。
  - `cs.mirrorproxyserverport`  
このプロパティをローカル・プロキシ・サーバーのポート番号に設定します。
2. プロパティ・ファイルを保存し、プロパティ・エディタを閉じます。
3. アプリケーション・サーバーを再起動します。

ローカル・プロキシ・サーバーをソース・システムで宛先ごとに識別するには:

1. 管理インタフェースで、「管理」タブを選択します。「パブリッシュ」、「宛先」の順に開いて、宛先を開きます。  
宛先がメイン画面で開きます。
2. 「編集」をクリックします。  
宛先の「宛先の編集」画面が表示されます。
3. 「他の引数」フィールドに次を入力します。  
`PROXYSERVER=wcs.example.com&PROXYPORT=8080`  
*wcs.example.com* は、ローカル・プロキシ・サーバーで、*8080* は、プロキシが動作するポートです。
4. 「保存」をクリックします。



## 手順 4: ソース・システムでのリアルタイム宛先定義の作成

この手順では、パブリッシュの宛先をソース・システムに定義します。

### 注意

複数の宛先を定義可能ですが、順次的なパブリッシュのみがサポートされることに注意してください。

**リアルタイム宛先定義を作成するには：**

1. ソース・システムで、管理者のインタフェースにログインします。
2. 「管理」タブで、「パブリッシュ」を開き、次に「宛先」を開きます。
3. 「宛先」で、「新規追加」をダブルクリックします。

「新規宛先の追加」フォームが表示されます。

**Add New Destination**

\*Name:

Delivery Type:

Select the desired publishing option

☒ Complete publish

☐ Delayed publish

\*Destination address:

\*Remote User:

\*Remote Password:

Send Email on Failure: ☐

Verbose Output: ☐

More Arguments:

\*Sites:   
AdminSite  
Burlington Financial  
FirstSite II  
GE Lighting  
Hello Asset World

\*Roles (Approve for Publish):   
AdvancedUser  
Analyst  
Analytics  
Approver  
ArtworkAuthor

\*Roles (Publish):   
AdvancedUser  
Analyst  
Analytics  
Approver  
ArtworkAuthor




4. 「新規宛先の追加」フォームに入力します。次の情報をガイドラインとして使用してください。
- 名前: 一意の宛先の名前を入力します。
  - 配信タイプ: リアルタイム: リモート動的サーバーへのアセットのコピーを選択し、次のいずれかのオプションを選択します。
    - パブリッシュの完了: パブリッシュ・プロセスを中断することなくアセットを宛先アドレスにコピーします。


- **遅延されたパブリッシュ**: アセットが宛先データベースへコミットされる前に、パブリッシュ・プロセスが一時停止されます。セッションを再開するには、ユーザーがパブリッシュの 4 番目のステージを開始する必要があります (データのデシリアライズ (拡張) と、宛先データベースへの保存)。遅延パブリッシュの詳細は、[424 ページの「遅延パブリッシュ・セッションの再開」](#)を参照してください。
  - **宛先アドレス**: 表示された形式で URL を入力します。  
[targetserver:port] の場合、大カッコを取り、宛先システムのホスト名または IP アドレスを入力し、宛先で使用されるポートを指定します。(この URL は、動的に付加されるため、**URL の末尾にはスラッシュが必要です。**)
  - **リモート・ユーザー**: [402 ページの「手順 2: 配信システムの設定」](#)で作成したリアルタイム・ユーザーの名前を入力します。このユーザーは、宛先システムでリアルタイム・キューを解凍するために、パブリッシュ・システムによって呼び出されます。
  - **リモート・パスワード**: リアルタイム・ユーザーのパスワードを入力します。
  - **失敗時の電子メールの送信**: パブリッシュに失敗した場合に、その影響についての電子メール通知が必要な場合は、このチェック・ボックスを選択し、表示されたフィールドに入力します。
    - **電子メール ID**: 受信者の電子メール・アドレスを入力します。(このフィールドは、「失敗時の電子メールの送信」を選択した場合にのみ使用可能になります。)
  - **詳細出力**: パブリッシュ・プロセス中に詳細エラー・ロギングを有効にするには、このオプションを選択します。このオプションを選択した場合、エラー・メッセージの追加のメッセージが PubMessage 表に書き込まれます。追加情報によりパブリッシュ・プロセスが長くなるため、このパラメータはトラブルシューティングの場合にのみ選択してください。
  - **他の引数**: このパラメータは予約されています。この時点で指定できる追加の引数はありません。
  - **サイト**: アセットを承認し、この宛先にパブリッシュできるサイトを選択します。
  - **ロール (パブリッシュの承認)**: アセットの承認権限を割り当てるロールを選択します。このロールが割り当てられたすべてのユーザーは、アセットを承認できるようになります。
  - **ロール (パブリッシュ)**: パブリッシュ権限を割り当てるロールを選択します。これらのロールが割り当てられたすべてのユーザーは、パブリッシュと「パブリッシュ・コンソール」の表示ができるようになります。
5. 「新規宛先の追加」をクリックします。


WebCenter Sites によって、情報が Pubdestination 表に書き込まれ、「調査」フォームに宛先の定義が表示されます。

**Publish destination: FSII Destination (RealTime)**

---

 [Inspect](#)  [Edit](#)  [Delete](#) [Approve Multiple Assets](#)

**Name:**  FSII Destination (RealTime) ←

**Delivery Type:** [RealTime](#): Copy assets to remote dynamic server  
 [Complete publish](#)

[Initialize Realtime Destination](#)

**Destination address:** <http://localhost:8080/cs/>

**Remote User:** fwadmin

**Remote Password:** \*\*\*\*\*

**Send Email on Failure:** false

**Verbose Output:** false

**More Arguments:**

**Sites:** FirstSite II

**Roles (Approve for Publish):** Any

**Roles (Publish):** Any

**Publish Event:** Publish event scheduled at:  
\*:0,5,10,15,20,25,30,35,40,45,50,55:0 \*/\*\*

[Set Publish Event...](#) [Delete](#)

**ID:** 1330406369412

[Force Approve Published Assets](#)

[List all Publish Destinations](#)

このフィールドに注意してください。

赤いボタンが表示された場合は、ターゲット・サーバーが見つからないことを意味します。考えられる原因については、次を参照してください。

**注意**

次の手順に進む前に、「名前」フィールドを確認してください。宛先名の横の赤いボタンは、ターゲット・サーバーが見つからないことを意味します。一般的には、ターゲット URL が正しくないか、ターゲット・サーバーが実行されていないことが原因です。

6. さらに、宛先の定義を作成する必要がある場合は、新しい定義ごとに [手順 3](#) から [5](#) を繰り返してください。
7. 宛先システムを初期化する準備ができたなら、次の項、「[手順 5: 宛先データベースの初期化](#)」に進み、[手順 3](#) から始めてください。

**手順 5: 宛先データベースの初期化**

宛先データベースへパブリッシュする前に、そのデータベースを初期化する必要があります。初期化するには、2つの構成をミラーリングします。

- サイト
- 補助表 (ユーザーがパブリッシュするアセットのタイプをサポートする表) のデータ

Publication および PublicationTree 表は、ミラーリングのために選択したサイト名と表データで更新されます。

**宛先を初期化するには：**

1. ソース・システムの「管理」タブで、「パブリッシュ」を開き、次に「宛先」を開きます。
2. 「宛先」で、初期化するリアルタイム宛先をダブルクリックします。
3. 「パブリッシュの宛先」フォームで、「リアルタイム宛先の初期化」をクリックします。

「リアル・タイム宛先の初期化」画面が表示されます。

**Initialize Mirror Destination: FSII Destination (RealTime)**

---

**Sites:** Select all sites that will be supported on this destination:

AdminSite
Burlington Financial
<b>FirstSite II</b>
GE Lighting
Hello Asset World

**Auxiliary Tables:** Add any other non-Asset tables whose data is referenced or displayed. These tables must exist on the destination before data can be mirrored over.

Source
MimeType
Category

Cancel Mirror

4. 「サイト」フィールドで、この宛先にアセットをパブリッシュするサイトを選択します。
5. 「補助表」フィールドで、次の表の名前を入力します。
  - Source: いずれかのアセット・タイプに対してソース機能を使用している場合。
  - MimeType: サイト DocLink、フレックス・フィルタ・アセット、ImageFile アセット・タイプを使用している場合、またはいずれかのカスタム・アセット・タイプに対して MimeType 表を使用している場合。
  - Filters: サイトでフレックス・フィルタを使用している場合。(Filters 表には、フレックス・フィルタで使用するクラスがリストされます。jar ファイルとクラスを手動でコピーする必要があります。)
  - アセット・タイプのその他の補助表 (参照表など)。

### 注意

表名に指定するフィールドは 5 つのみです。6 つ以上の表名を入力する必要がある場合、最初の 5 つの表にこの手順の [手順 6](#) を行い、次に残っている表に対して [手順 3](#) から [6](#) を繰り返します。

6. 「ミラー」をクリックします。

初期化に成功した場合は、WebCenter Sites に確認メッセージが表示されます (不成功の場合はエラー・メッセージが表示されます)。

- [手順 4](#) で選択したサイトに基づき、Publication、SitePlanTree および AssetType の各表の対応する行が宛先にコピーされます。
- [手順 5](#) で、補助表を指定した場合は、その表のすべての行が宛先にコピーされます。

## 手順 6: 宛先データベースへのサイト構成データのミラーリング

この手順では、ソースのサイト構成データ (アセット・タイプやスタート・メニュー・アイテムなど) を宛先データベースにミラーリングします。

**サイト構成データをミラーリングするには：**

1. ソース・システムの「**管理**」タブで、「**サイト**」を開き、宛先にデータをパブリッシュするサイトをダブルクリックします。
2. 「パブリッシュの宛先」(画面の下部)で、**宛先**の「**ミラー・サイト構成**」をクリックします。

WebCenter Sites に、「ミラー・サイト構成」フォームが表示されます。

Mirror site configuration for: [FirstSiteII](#)

---

**Publish destination:** TennisPub

**Asset Types:** enabled in FirstSiteII

- Attribute Editor
- CSElement
- Content
- Content Attribute
- Content Definition

☒ Asset Subtypes for selected asset types

☒ Asset Associations for selected asset types

☒ Categories for selected asset types

☒ Sites Desktop configuration for selected asset types

☒ Sites DocLink configuration for selected asset types

**Start Menu Items:** available in FirstSiteII

- CS-Desktop Content\_C
- CS-DocLink Document
- CS-DocLink Media
- Find Attribute Editor, FirstSiteII
- Find Content Attribute, FirstSiteII

**Workflow Processes:** available in FirstSiteII

- FSII: Approval for Artwork
- FSII: Approval for Content
- FSII: Approval for Documents
- FSII: Approval for Products
- FSII: Approval for Promotions

☒ Workflow States used by selected workflow processes

☒ All Workflow Actions

☒ All Workflow Conditions

**Workflow Groups:** available in FirstSiteII

- FSII Home Page Translations

☒ Workflow Group Actions

**Tree Tabs:** available in FirstSiteII

- Site Plan
- Admin
- Site Admin
- Workflow
- Bookmarks

**Saved Searches:** available in FirstSiteII

- 

**Roles:** available in all sites

- AdvancedUser
- Analyst
- Analytics
- Approver
- ArtworkAuthor



### 3. 宛先へミラーリングするデータを選択します。

#### 注意

ミラーリングするために選択するデータは、通常宛先システムの目的によって異なります。

- 宛先システムが、配信用としてのみ使用される場合、アセット・タイプのみをミラーリングすることが適切です。
- コンテンツの管理機能がサポートされる場合は、残りのデータも同様にミラーリングします。

- **アセット・タイプ**: 宛先で使用可能にするアセット・タイプを選択します。  
アセット・タイプにサブタイプおよびカテゴリがある場合、「アセット・タイプ」セクションのリストから適切なオプションを選択し、対応するチェック・ボックスを選択します。たとえば、AssocNamed 表には、アセット・タイプのアソシエーションに関する情報が含まれます。表は、「**選択したアセット・タイプのアセットのアソシエーション**」と関連するアセット・タイプを選択している場合にのみミラーリングされます。  
サイト・デスクトップやサイト DocLink に対して選択したアセット・タイプを構成するには、サイト・デスクトップおよびサイト DocLink の構成チェック・ボックスを選択します。
- **スタート・メニュー・アイテム**: 管理者または開発者がコンテンツ・プロバイダで使用するために設計した任意のスタート・メニュー・アイテムを選択します。
- **ワークフロー・プロセス**: アセット・タイプのワークフロー・プロセスがある場合、これらのプロセスおよび適切なワークフロー・アイテムを選択します。
- **ワークフロー・グループ**: 管理者または開発者がコンテンツ・プロバイダで使用するために設計した任意のワークフロー・グループを選択します。
- **ツリー・タブ**: 宛先で使用可能にするツリー・タブを選択します。
- **保存済検索**: 管理者または開発者がコンテンツ・プロバイダで使用するために設計した任意の保存済検索を選択します。
- **ロール**: 宛先に存在する必要があるロールを選択します。

### 4. 「ミラー」をクリックします。

手順 3 で選択したアセット・タイプの構成オプションを基に、AssocNamed、AssocNamed\_Subtypes および Category 表の該当する行が宛先にコピーされます。

- 「**スタート・メニュー・アイテム**」または「**保存済検索**」を選択した場合、これらの機能を実装する表の該当する行が、宛先にコピーされます。
  - 手順 3 で選択したワークフロー構成オプションを基に、ワークフロー表の該当する行が宛先にコピーされます。
5. アセットを宛先にパブリッシュするサイトごとに手順 1 から 4 を繰り返します。

## 手順 7: パブリッシュ・プロセスのテスト

パブリッシュ・プロセスは、すべてのパブリッシュ可能アセットまたはその一部を使用してテストできます。

### A. アセットの承認

次のいずれかを行います。

- パブリッシュ・プロセス全体をテストするには、パブリッシュする予定のすべてのアセットを承認する必要があります。複数のアセットを一度に承認する方法の詳細は、[362 ページの「複数アセットの承認」](#)を参照してください。
- 構成の単純なテストを実行する場合は、依存が数個のみのホームページ・アセットを一時的に作成します。

### B. アセットのパブリッシュ

承認済アセットでテスト・パブリッシュ・セッションを実行するには：

1. ソース・システムのボタン・バーで「パブリッシュ」をクリックします。
2. 「パブリッシュ・コンソール」で、ドロップダウン・リストからリアルタイム宛先を選択し、「宛先の選択」をクリックします。  
WebCenter Sites に、この宛先にパブリッシュする準備のできているアセットに関する情報が表示されます。
3. なんらかの理由により宛先が初期化されていない場合は、すぐに初期化しないとパブリッシュ・セッションが失敗します。宛先を初期化するには、「パブリッシュ・コンソール」コンソールでターゲットでのサイトの作成をクリックします (または [409 ページの手順 5: 宛先データベースの初期化](#)の手順に従います)。これにより、宛先システムに基本的なサイト情報が作成されます。
4. 「パブリッシュ」をクリックします。  
パブリッシュ・システムにより、この宛先に対して承認されたすべてのアセットが、その宛先システムの WebCenter Sites データベースにミラーリングされます。

## 手順 8: パブリッシュされたサイトのテスト

パブリッシュされたサイトをテストするには、宛先システムでホームページ・アセットをブラウザからポイントし、サイトを確認します。

ホームページ・アセットの URL がまだ決定していない場合は、まずこれを決定する必要があります。WebCenter Sites の URL は、次のように値を連結して構成します。

```
http://<targetserver:port>/<cgipath>/  
ContentServer?pagename=<your_home_page>/<other_info>
```

ここで

- <targetserver:port> は、宛先システムのホスト名または IP アドレスです (ポート番号が付く場合もあります)。

- `<cgipath>` は、`futuretense.ini` ファイルの `ft.cgipath` プロパティの値です。たとえば、`<cgipath>` は、WebLogic やその他のサーブレット・アーキテクチャを持つアプリケーション・サーバーの場合、`/servlet/` です。
- `ContentServer?pagename=` は、この URL で表示されるページの名前を設定します。
- `<your_home_page>` は、SiteCatalog エントリからのホームページ名です。
- `<other_info>` は、WebCenter Sites ページの基準変数である `c`、`cid`、`tid` および `p` によって渡される追加情報です (これらの変数の詳細は、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』を参照してください)。

たとえば、Burlington Financial のホームページの URL は、WebCenter Sites スタートアップ・キットによってレンダリングされた場合、次のようになります。

```
http://localhost:7001/servlet/  
ContentServer?pagename=BurlingtonFinancial/Page/Home
```

#### ホームページの URL を決定し、サイトをテストするには：

1. 宛先システムでプロパティ・エディタを起動します (この手順の詳細は、Oracle WebCenter Sites プロパティ・ファイル・リファレンスを参照してください)。
  - a. `futuretense.ini` ファイルを開きます。
  - b. アプリケーション・サーバータブで、`ft.cgipath` プロパティを見つけて、値を書き取ります。
  - c. 「互換性」タブで、`ft.cgipath` プロパティを見つけて、値を書き取ります。
  - d. プロパティ・ファイルを保存し、プロパティ・エディタを閉じます。
2. テキスト・エディタを開き、URL を構成します。
  - a. `http://` または `https://` を入力し、続けて `<targetserver:port>/<cgipath>/` を入力します。

例：

```
http://bigfatsun.example.com:8080/servlet/
```

(WebLogic および WebSphere の場合)

- b. 文字列の末尾に、次のテキストを追記します。  
`ContentServer?pagename=<your_home_page>`

これで、URL が次の例のようになるはずです (WebLogic および WebSphere の場合)

```
http://bigfatsun.fatwire.com:8080/servlet/  
ContentServer?pagename=ExampleSite/Page/Home
```

3. ブラウザが構成した URL をポイントするようにします。

4. エラーがないかページをスキャンし、すべてのリンクをテストしてこれらが機能することを確認します。

#### 注意

アセットとして保存されていないコンテンツ (WebCenter Sites の外部に保存されたコンテンツ) に関連するエラーが検出された場合、適切な転送プロトコルを使用して、そのコンテンツをパブリッシュします。詳細は、「[手順 9: スケジュールの設定](#)」を参照してください。

テスト戦略を考慮した時間に、システムの完全なテストを実施することをお勧めいたします。サイト全体を最初にミラーリングした後、負荷がピークの条件で実施し、その後に標準的な時間帯で実施します。

## 手順 9: スケジュールの設定

宛先を正しく設定したら、ソースのパブリッシュ・システムの構成を完了します。

**パブリッシュ・システムの構成を完了するには：**

- ソース・システムで、宛先へのパブリッシュ・セッションを実行する時間をスケジュールします。この手順の詳細は、[365 ページの「パブリッシュ・イベントのスケジュール」](#)を参照してください。
- Web サーバーでアセットではなくイメージとして保存されているイメージ・ファイルをサイトで使用している場合、CM システム Web サーバーから配信システム Web サーバーにイメージ・ファイルを移動する方法を計画してください。たとえば、定期的な FTP 送信を設定できます。
- CSElement アセットや SiteEntry アセットではないエレメントおよび SiteCatalog ページを使用している場合、CatalogMover ツールを使用してこれらを宛先システムにミラーリングする必要があります。CatalogMover の詳細は、『*Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド*』を参照してください。

## 手順 10: 配信システムでのアセットの無効化の解除

デフォルトでは、宛先での連鎖的なパブリッシュは無効になっています。つまり、(宛先の)パブリッシュ・システムでは、アセットがパブリッシュされたという事実のみで、パブリッシュされたアセットごとに変更済のマークが付けられます。したがって、アセットをさらに他の宛先にパブリッシュできるようにするには、アセットが現在の宛先から承認されることが必要です。

配信システムなど、最終的な宛先にあるアセットでは、アセットの無効化を解除する必要があります。その宛先からアセットがパブリッシュされることはないため、これは不要な (しかも時間のかかる) 操作です。

アセットの無効化を解除するには：

1. 最終的な宛先システム (この例では配信システム) でプロパティ・エディタを開始し、`futuretense_xcel.ini` ファイルを開きます。(この手順の詳細は、*Oracle WebCenter Sites プロパティ・ファイル・リファレンス* を参照してください。)
2. 「パブリッシュ」タブで、`xcelerate.publishinvalidate` プロパティを探し、その値を `false` に設定します。

## 新規リアルタイム宛先定義の追加

あるリアルタイム宛先へパブリッシュするようにソース・システムを構成したら、必要に応じて他のリアルタイム宛先を定義できます。次の手順のみを実施してください。

手順 2: 配信システムの設定

手順 4: ソース・システムでのリアルタイム宛先定義の作成

手順 5: 宛先データベースの初期化

手順 6: 宛先データベースへのサイト構成データのミラーリング

手順 7: パブリッシュ・プロセスのテスト

A. アセットの承認

B. アセットのパブリッシュ

手順 8: パブリッシュされたサイトのテスト

手順 9: スケジュールの設定

手順 10: 配信システムでのアセットの無効化の解除

## サイト構成データの同期

アセットのパブリッシュに加えて、ソースと宛先間のサイト構成を同期できます。たとえば、開発システムから管理システムまたは配信システムへとサイト構成データを同期できます。

**ミラー・タイプ構成**ページは次の場合に使用します。

- アセット・タイプをサポートする構成アイテム (スタート・メニュー・アイテム、アソシエーション、アセット・タイプなど) を移動する。
- 管理者または開発者が、既存のアセット・タイプにカテゴリまたはサブタイプを追加する場合。
- ワークフロー構成データを開発システムから管理システムに移動する。

サイト構成フォームの使用手順の詳細は、「[手順 6: 宛先データベースへのサイト構成データのミラーリング](#)」を参照してください。

「**ミラーリング先の初期化**」ページは次の場合に使用します。

- 管理者または開発者が、パブリッシュするサイトまたは補助表をシステムに追加する場合。
- 構成をトラブルシューティングする必要がある場合。リアルタイム宛先を正常に初期化できれば、ソース・システムと宛先システム間での通信が行われています。

「**ミラーリング先の初期化**」フォームの使用手順の詳細は、「[手順 5: 宛先データベースの初期化](#)」を参照してください。

## パフォーマンスの強化

大量の動的パブリッシュの効率を向上させるには、承認問合せを実施できます。詳細は、[347 ページ](#)の「**パフォーマンス向上のための承認問合せ**」を参照してください。

## 第 20 章

# リアルタイム・パブリッシュ・モードの使用

リアルタイム・パブリッシュの利点の 1 つは、システムによって生成され、パブリッシュ・プロセスによってパブリッシュ管理者に表示されるフィードバックです。パブリッシュ管理者は、処理中のセッションを監視し、パブリッシュのスケジュールを確認し、履歴レコードを調査し、さらにログの内容を表示できます。

この章は、次の項で構成されています。

- [完了および遅延パブリッシュ](#)
- [パブリッシュ・コンソール](#)
- [アクティブなパブリッシュ・セッションの使用](#)
- [スケジュール済パブリッシュ・セッションの使用](#)
- [以前のパブリッシュ・セッションの使用](#)
- [パブリッシュ・ログの使用](#)

## 完了および遅延パブリッシュ

パブリッシュ・セッションは、完了と遅延の 2 つのモードのいずれかで実行できます。401 ページの「リアルタイム・パブリッシュに対するシステムの構成」に示されているように、モードは明示的に指定する必要があります。

- 完了パブリッシュ・セッションでは、リアルタイム・パブリッシュの 5 つのステージが、中断のない 1 つのシーケンスで実行されます。セッションには、停止と再開、または取消のオプションがあります。
- 遅延パブリッシュの場合、セッションは 2 番目のステージ (データ・シリアル化) の後で一時停止します。セッションを完了するまで実行する場合、セッションを再開する必要があります。以降のステージは自動的に実行されます。

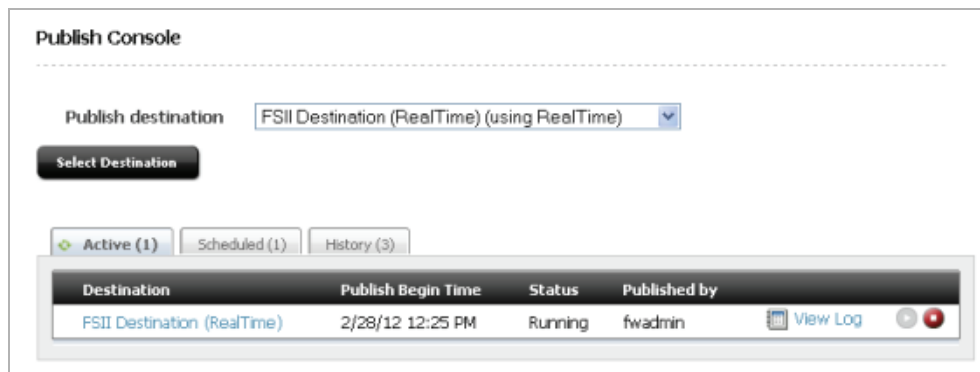
遅延パブリッシュの場合、システムが接続先データベースへの書き込みをいつ開始するかを制御可能です。たとえば、大量のアセットを通信量が多い Web サイトにパブリッシュする場合、遅延パブリッシュによって、通信量の少ない期間まで待つという選択もできるため、宛先データベースへデータを保存するプロセスを効率化できます。

この章では、完了および遅延パブリッシュ・セッションを監視する手順、パブリッシュのスケジュールを調整する手順および以前のセッションの履歴を取得する手順について説明します。

## パブリッシュ・コンソール

リアルタイム・パブリッシュでは全般にわたって、「パブリッシュ・コンソール」を使用します。「パブリッシュ・コンソール」では、構成済のすべてのパブリッシュの宛先に対して、現在のパブリッシュ・セッション、スケジュール済パブリッシュ・セッション、および以前のパブリッシュ・セッションに関する情報がやり取りされます。

「パブリッシュ・コンソール」を開くには管理者のインタフェースにログインし、ボタン・バーの「パブリッシュ」をクリックします。



- 「アクティブ」タブに、実行中のパブリッシュ・セッションのサマリーが表示されます。パブリッシュ・セッションが実行されている間に、「ステータスのパブリッシュ」画面を開いて、パブリッシュ・プロセスに関する詳細情報をリアルタイムに確認できます。また、対話形式で画面にログの内容を表示できます。パブリッシュ・セッションが完了すれば、テキスト書式のログを



ダウンロードできます。「アクティブ」タブの機能を使用する方法の詳細は、[421 ページの「アクティブなパブリッシュ・セッションの使用」](#)を参照してください。ログの使用の詳細は、[435 ページの「ログの表示と検索」](#)を参照してください。

- 「スケジュール済」タブには、パブリッシュ・セッションの宛先およびスケジュールごとに、承認済アセットの数が表示されます。「スケジュール済」タブの機能を使用する方法の詳細は、[430 ページの「スケジュール済パブリッシュ・セッションの使用」](#)を参照してください。
- 「履歴」タブには、以前のパブリッシュ・セッションに関するサマリー情報が表示されます。「履歴」タブの使用の詳細は、[431 ページの「以前のパブリッシュ・セッションの使用」](#)を参照してください。このタブでは、以前のパブリッシュ・セッションのログにアクセスすることもできます。ログの詳細は、[435 ページの「パブリッシュ・ログの使用」](#)を参照してください。

## アクティブなパブリッシュ・セッションの使用

「パブリッシュ・コンソール」の「アクティブ」タブには、現在実行中のすべてのパブリッシュ・セッションに関する情報が表示されます。「アクティブ」タブでは、宛先名をクリックして、選択したセッションの「ステータスのパブリッシュ」画面にアクセスできます。「ステータスのパブリッシュ」画面では、セッションの実行時に進行状況を監視できます。

このセクションの手順は、パブリッシュの完了と遅延の両方のモード ([420 ページを参照](#)) に適用されます。この項では、次のトピックについて説明します。

- [パブリッシュ・セッションの監視](#)
- [遅延パブリッシュ・セッションの再開](#)
- [パブリッシュ・セッションの取消し](#)

### 注意

遅延パブリッシュ・セッションは、一時停止しているときも、「アクティブ」タブのリストに残されます。取り消されたセッションは「履歴」タブに移動されます。

- ログの表示とダウンロード ([435 ページの「パブリッシュ・ログの使用」](#)を参照)

## パブリッシュ・セッションの監視

パブリッシュ・セッションを監視するには：

1. 「パブリッシュ・コンソール」を開きます (管理者のインタフェースのボタン・バーにある「パブリッシュ」をクリックします)。

「アクティブ」タブが表示された状態で、「パブリッシュ・コンソール」が開かれます。

円を描く緑色の矢印は、実行中のセッションが少なくとも 1 つあることを示しています。数字は、実行中のセッションの数を示します。

The screenshot shows the 'Publish Console' interface. At the top, there is a 'Publish destination' dropdown menu set to 'FSII Destination (RealTime) (using RealTime)' and a 'Select Destination' button. Below this, there are three tabs: 'Active (1)' (highlighted with a green circle and arrow), 'Scheduled (1)', and 'History (3)'. The 'Active' tab contains a table with the following data:

Destination	Publish Begin Time	Status	Published by	
FSII Destination (RealTime)	2/28/12 12:25 PM	Running	fwadmin	<a href="#">View Log</a> (with a red stop button icon)

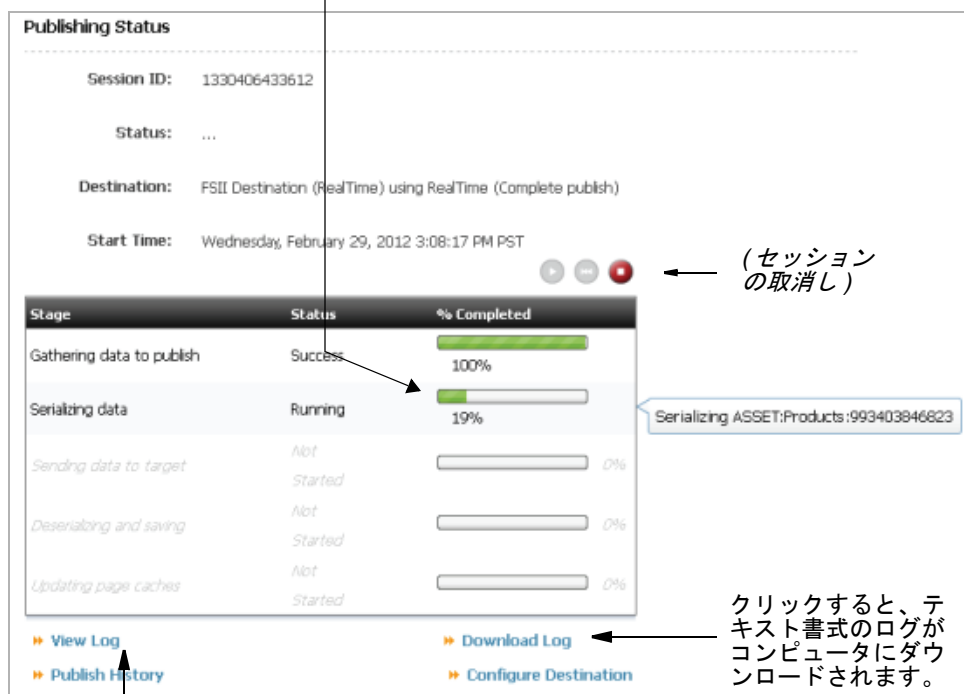
Annotations with arrows point to specific elements:

- An arrow points to the 'Active (1)' tab, with the text: 実行中のパブリッシュ・セッションの宛先。宛先をクリックすると、「ステータスのパブリッシュ」画面が開きます。
- An arrow points to the 'View Log' link, with the text: クリックすると、作成中のログ・ファイルが表示されます。
- An arrow points to the red stop button icon, with the text: (セッションの取消し)

2. セッションを監視するには、「アクティブ」タブ内で、実行中のセッションの宛先を選択します。

「ステータスのパブリッシュ」画面が開きます。

ステータス・バーの上にカーソルを重ねると、ステージの進行状況の割合と、最後に処理されたアセット・タイプが表示されます。



パブリッシュのステージが1つずつ表示された5つのステータス・バーに注目してください。これらのステータス・バーは対話型の操作が可能です。

- ステージの進捗状況の割合を表示するには、そのステージのステータス・バーの上にカーソルを置きます。
- このステータス・バーの上にカーソルを重ねると、現在処理されているアセット・タイプを示す別のツールチップが開きます。そのまま重ねていると、そのツールチップはリアルタイムで更新され、常にパブリッシュ・システムの最新のアクションを表示します。

(セッションの実行中に、そのログを表示することもできます。)

## 遅延パブリッシュ・セッションの再開

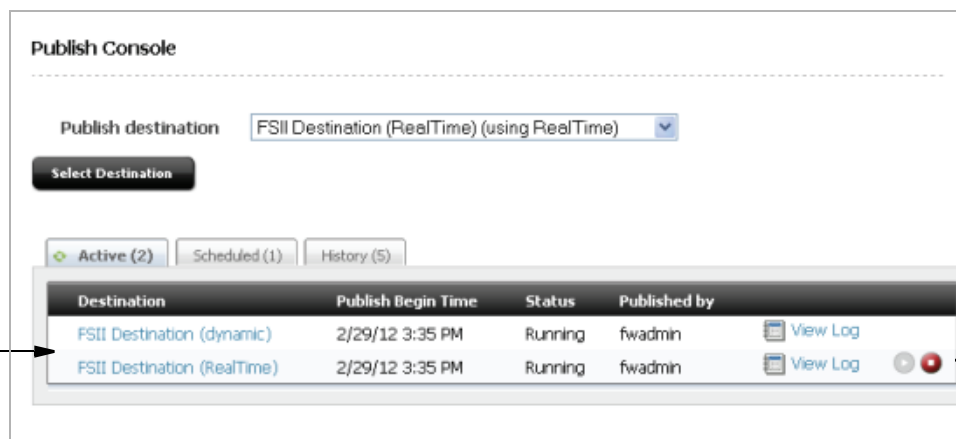
遅延パブリッシュの場合、システムが宛先の WebCenter Sites データベースへ書き込みを開始するタイミングを制御可能です。このパブリッシュのモードは、大量のアセットをパブリッシュするとき、通信量の少ない時間帯まで宛先データベースへのデータの保存の開始を待機させる場合に使用できます。

セッションが遅延パブリッシュ・モードで実行されている場合、2 番目のステージ(データ・シリアルイズ)の後で一時停止します。セッションが一時停止の場合でも、現在のセッションが完了するまで、その宛先に対して他のパブリッシュ・セッションを実行することはできません。セッションを完了する場合、そのセッションを再開する必要があります。以降のステージは自動的に実行されます。

遅延パブリッシュ・セッションを再開するには：

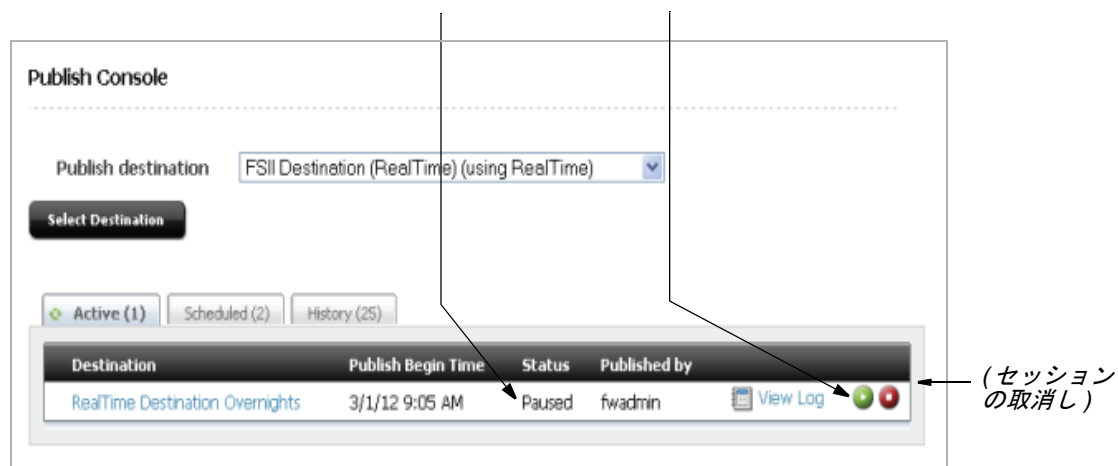
1. 「パブリッシュ・コンソール」を開きます(管理者のインタフェースのボタン・バーにある「パブリッシュ」をクリックします)。
2. 「アクティブ」タブ内で、パブリッシュ・セッションを実行中の宛先まで移動します。(宛先名が表示されない場合は、その宛先で実行されているセッションはありません。)

パブリッシュ・セッションが実行されているときは、「パブリッシュ・コンソール」の「アクティブ」タブに表示されます。



3. 宛先の「ステータス」列を確認して、次のいずれかを行います。
- ステータスが「一時停止」の場合、パブリッシュの最初の 3 つのステージが完了していることを意味します。セッションを続行するには、「再開」ボタン (一時停止の間のみ使用可能) をクリックします。

最初の 3 つのパブリッシュ・ステージが完了した後、パブリッシュ・セッションのステータスが「一時停止」に変わり、「再開」ボタンが有効になります。



- ステータスが「実行中」の場合、どのステージが処理中かを判別できます。「ステータスのパブリッシュ」画面が開きます。
    - 1) セッションが実行されている宛先を選択します。
    - 2) 「ステータスのパブリッシュ」画面で、プログレス・バーを確認し、**2 番目のステージが完了するまで待ちます**。2 番目のステージを完了できない場合、このセッションは再開できません。  
ステータス・バーは、次のように対話型の操作が可能です。
      - ステージの進捗状況の割合を表示するには、そのステージのステータス・バーの上にカーソルを置きます。
      - このステータス・バーの上にカーソルを重ねると、現在処理されているアセット・タイプを示す別のツールチップが開きます。そのまま重ねていると、そのツールチップはリアルタイムで更新され、常にパブリッシュ・システムの最新のアクションを表示します。
- (セッションの実行中に、そのログを表示することもできます。)

- 3) 2 番目のステージが完了したら、「再開」ボタンをクリックします。

セッションを再開

**Publishing Status**




---

Session ID: 1330406570281

Status: ...

Destination: RealTime Destination Overnights using RealTime (Delayed publish)

Start Time: Thursday, March 1, 2012 9:05:04 AM PST

Stage	Status	% Completed
Gathering data to publish	Success	<div style="width: 100%; background-color: green;"></div> 100%
Serializing data	Success	<div style="width: 100%; background-color: green;"></div> 100%
Sending data to target	Success	<div style="width: 100%; background-color: green;"></div> 100%
Deserializing and saving	Not Started	<div style="width: 0%; background-color: gray;"></div> 0%
Updating page caches	Not Started	<div style="width: 0%; background-color: gray;"></div> 0%

[View Log](#)  
[Publish History](#)

[Download Log](#)  
[Configure Destination](#)

- 4) パブリッシュ・セッションが完了すると、5 つのすべてのステージの「ステータス」列に「成功」と表示されます。
4. セッションが完了すると、「パブリッシュ・コンソール」の「履歴」タブで、そのサマリー情報やすべてのログにアクセスできます。「履歴」タブにアクセスする手順は次のとおりです。
- 「パブリッシュ・コンソール」に戻ります (ボタン・バーで「パブリッシュ」をクリックします)。
  - 「履歴」タブをクリックします。「履歴」タブのオプションの詳細は、[430 ページの「スケジュール済パブリッシュ・セッションの使用」](#)を参照してください。

## パブリッシュ・セッションの取消し

実行中のパブリッシュ・セッションは、パブリッシュの権限を持つ任意のユーザーによって取り消す(さらに再起動する)ことができます。セッションが取り消されると、セッション情報が「アクティブ」タブから「履歴」タブに移動します。ここでは、セッションを再起動できますが、取消しの前に最低でも2番目のパブリッシュ・ステージが正常に完了し、さらにこれが最後に取り消されたセッションの場合に限ります。

### 注意

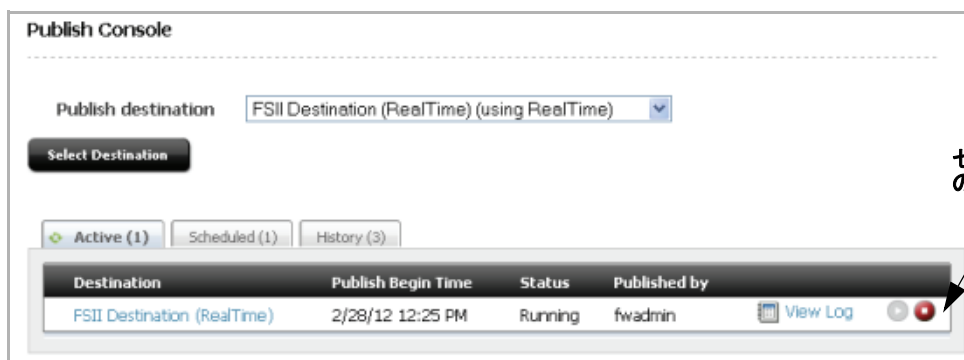
パブリッシュ・セッションは、「パブリッシュ・コンソール」か、「ステータスのパブリッシュ」画面から取り消すことができます。このオプションの選択には注意が必要です。再実行するつもりセッションの取消しが早すぎると、そのセッションを再実行できなくなります。これが不明確な場合は、少なくとも2番目のステージが完了していることを確認できる「ステータスのパブリッシュ」画面でセッションを取り消してください。

「パブリッシュ・コンソール」からパブリッシュ・セッションを取り消すには：

### 注意

取り消すセッションが再起動されないことが明らかな場合にのみ、次の手順を使用してください。そうではなくセッションを再実行する予定の場合は、[428 ページ](#)の手順に従って、「ステータスのパブリッシュ」画面でセッションを取り消してください。

1. 「パブリッシュ・コンソール」を開きます(管理者のインタフェースのボタン・バーにある「パブリッシュ」をクリックします)。  
「パブリッシュ・コンソール」が開き、「アクティブ」タブにアクティブなパブリッシュ・セッションが表示されます。(「アクティブ」タブに何も表示されていない場合は、実行中のパブリッシュ・セッションはありません。)
2. 「アクティブ」タブ内で、セッションが実行中の宛先に移動し、そのセッションの「取消」ボタンをクリックします。



取消しのリクエストが送信されたメッセージが、アクティブなパブリッシュ・セッションのリストの上に表示されます。WebCenter Sites が安全な停止点を探します。セッションの取消しまで少し時間がかかる場合があります。その後、セッション情報は、「アクティブ」タブから「履歴」タブに移動されます。

**「ステータスのパブリッシュ」画面からパブリッシュ・セッションを取り消すには：**

#### 注意

取り消すセッションを再実行する予定の場合は、次の手順を使用する必要があります。「ステータスのパブリッシュ」画面では、パブリッシュ・プロセスを監視して、少なくとも 2 番目のステージ (データ収集とシリアルライズ) の実行を完了させることができます。このステージの前に取り消すと、セッションの再実行は無効になります。

また、次の条件を **すべて** 満たしている場合には、セッションの再実行のオプションを利用できます。

- パブリッシュの最初の 2 つのステージが正常に完了している。
- 最後に取り消されたパブリッシュ・セッションである。

1. 「パブリッシュ・コンソール」を開きます (管理者のインタフェースのボタン・バーにある「パブリッシュ」をクリックします)。  
「パブリッシュ・コンソール」が開き、「アクティブ」タブにアクティブなパブリッシュ・セッションが表示されます。「アクティブ」タブに何も表示されていない場合は、現在実行中のパブリッシュ・セッションはありません。
2. 「アクティブ」タブ内で、パブリッシュ・セッションが実行中の宛先を選択します。
3. 「ステータスのパブリッシュ」画面で、セッションの進行状況を確認し、少なくとも 2 番目のステージが完了するまで待ちます。



4. 2 番目 (以降) のステージが完了したら、「取消」 ボタンをクリックします。

**Publishing Status**

---

**Session ID:** 1330406480153

**Status:** ...

**Destination:** FSII Destination (RealTime) using RealTime (Complete publish)

**Start Time:** Wednesday, February 29, 2012 7:33:02 PM PST

▶ ◀ ⏏

セッションの取消し

Stage	Status	% Completed
Gathering data to publish	Success	100%
Serializing data	Running	51%
<i>Sending data to target</i>	<i>Not Started</i>	0%
<i>Deserializing and saving</i>	<i>Not Started</i>	0%
<i>Updating page caches</i>	<i>Not Started</i>	0%

[▶ View Log](#)
[▶ Download Log](#)

[▶ Publish History](#)
[▶ Configure Destination](#)

取消のリクエストが送信されたことを示すメッセージが、ステータス列の上に表示されます。WebCenter Sites が安全な停止点を探します。セッションが取り消されるまで少し時間がかかる場合があります。その後、セッション情報は、「アクティブ」タブから「履歴」タブに移動されます。

5. セッションを再実行する準備ができたなら、「履歴」タブを選択し、そのセッションに移動して、「再実行」 ボタンをクリックします。詳細は、433 ページの「パブリッシュ・セッションの再実行」を参照してください。

## スケジュール済パブリッシュ・セッションの使用

宛先が、スケジュール済パブリッシュに対して構成されている場合は、そのスケジュールが「パブリッシュ・コンソール」の「スケジュール済」に表示されます。(パブリッシュ・スケジュールを構成する手順は、[365 ページの「パブリッシュ・イベントのスケジュール」](#)を参照してください。)

「スケジュール済」タブは、次の操作に使用します。

- 宛先のパブリッシュ・スケジュールの表示
- パブリッシュ・スケジュールの編集

### パブリッシュ・スケジュールの表示と編集

すべての構成済宛先のパブリッシュ・スケジュールを表示するには：

1. 「パブリッシュ・コンソール」を開きます (管理者のインタフェースのボタン・バーにある「パブリッシュ」をクリックします)。
2. 「スケジュール済」タブをクリックします。

「スケジュール済」タブには、パブリッシュ・スケジュールが設定されている宛先のみが表示されます。

The screenshot shows the 'Publish Console' interface. At the top, there is a 'Publish destination' dropdown menu set to 'FSII Destination (RealTime) (using RealTime)' and a 'Select Destination' button. Below this are three tabs: 'Active (1)', 'Scheduled (1)', and 'History (11)'. The 'Scheduled (1)' tab is selected, displaying a table with the following data:

Destination	Publish Schedule	Scheduled By
FSII Destination (RealTime)	*:0,5,10,15,20,25,30,35,40,45,50,55:0 */*/*	fwadmin

#### 注意

パブリッシュ・スケジュールは、SystemEvents 表で使用される、文字列形式で表現されます。

hours:minutes:seconds weekdays/days of month/months of year

構文の詳細は、[369 ページの「スケジュールの略称の読取り」](#)を参照してください。

3. パブリッシュ・スケジュールをよりわかりやすい形式で表示するには、スケジュールの上にカーソルを置きます。

4. スケジュールを編集するには、宛先名をクリックして、パブリッシュの条件を指定します。(スケジュールを無効にすることもできます。)

## 以前のパブリッシュ・セッションの使用

「パブリッシュ・コンソール」の「履歴」タブでは、サマリー情報と以前に実行されたパブリッシュ・セッションごとの詳細なログが表示されます。以前のセッションには、完了したセッション、取り消されたセッション、失敗したセッションなどがありますが、一時停止している遅延パブリッシュ・セッションはこれに含まれません。

### 注意

遅延パブリッシュ・セッションは、一時停止しているときも、「アクティブ」タブのリストには引き続き表示されます。これは、アクティブ・セッションと見なされます。

「履歴」タブでは対話型の操作が可能です。各宛先の上にカーソルを置くと、ポップアップ・ウィンドウに宛先のサマリー情報を表示できます。また、宛先を選択して、セッション・ログを取得できます。情報を手早く見つけるには、宛先、パブリッシュ終了時刻、ステータス、パブリッシュしたユーザーなどの基準で宛先のリストをソートします。

「履歴」タブでは、次の操作が可能です。

- 以前のパブリッシュ・セッションに関するサマリー情報の表示 (432 ページの「以前のパブリッシュ・セッションの表示」を参照)
- 完了したセッションの最終的な「ステータスのパブリッシュ」画面へのアクセス (432 ページの「以前のパブリッシュ・セッションの表示」を参照)
- 取り消したセッションの再実行 (433 ページの「パブリッシュ・セッションの再実行」を参照)
- セッション・ログへのアクセス
- 履歴リスト全体の消去または選択したセッションの削除

## 以前のパブリッシュ・セッションの表示

以前のパブリッシュ・セッションを表示するには：

1. 「パブリッシュ・コンソール」を開きます ( 管理者のインタフェースのボタン・バーにある「パブリッシュ」をクリックします )。
2. 「履歴」タブをクリックします。

1 ページに表示するセッション数を選択します。

セッションの上にカーソルを置くと、セッション統計 ( 開始 / 終了時間など ) が表示されます

古いアイテムから新しいアイテムまでを表示するためにリスト全体に割り振られたページ。

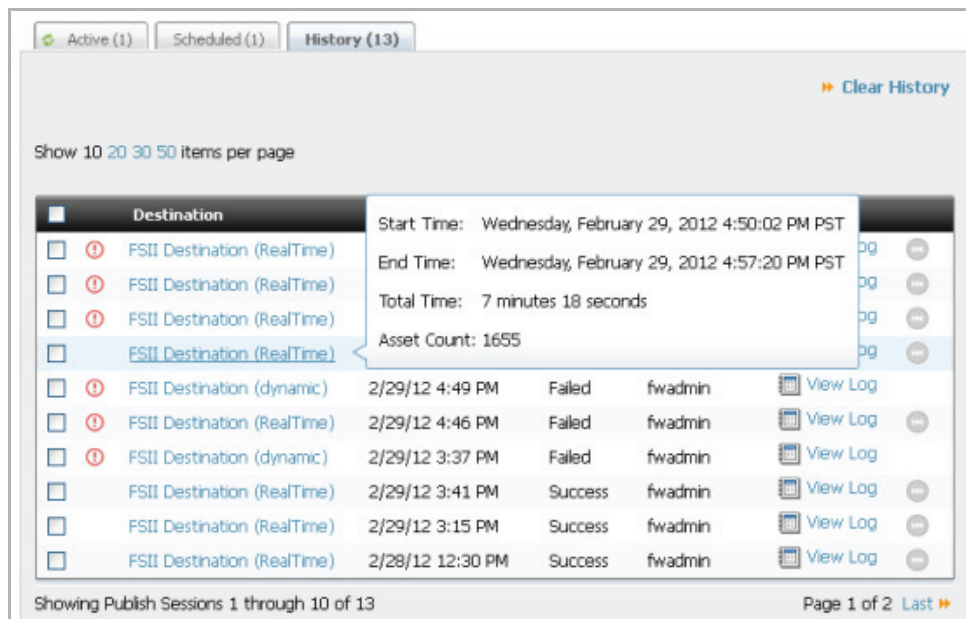
	Destination	Publish End Time	Status	Published by	
<input type="checkbox"/>	FSII Destination (RealTime)	2/29/12 8:10 PM	Cancelled	fwadmin	<a href="#">View Log</a>
<input type="checkbox"/>	FSII Destination (RealTime)	2/29/12 7:58 PM	Success	fwadmin	<a href="#">View Log</a>
<input type="checkbox"/>	FSII Destination (RealTime)	2/29/12 7:48 PM	Cancelled	fwadmin	<a href="#">View Log</a>
<input type="checkbox"/>	FSII Destination (RealTime)	2/29/12 7:44 PM	Failed	fwadmin	<a href="#">View Log</a>
<input type="checkbox"/>	FSII Destination (RealTime)	2/29/12 7:38 PM	Failed	fwadmin	<a href="#">View Log</a>
<input type="checkbox"/>	FSII Destination (RealTime)	2/29/12 4:57 PM	Success	fwadmin	<a href="#">View Log</a>
<input type="checkbox"/>	FSII Destination (dynamic)	2/29/12 4:49 PM	Failed	fwadmin	<a href="#">View Log</a>
<input type="checkbox"/>	FSII Destination (RealTime)	2/29/12 4:46 PM	Failed	fwadmin	<a href="#">View Log</a>
<input type="checkbox"/>	FSII Destination (dynamic)	2/29/12 3:37 PM	Failed	fwadmin	<a href="#">View Log</a>
<input type="checkbox"/>	FSII Destination (RealTime)	2/29/12 3:41 PM	Success	fwadmin	<a href="#">View Log</a>

履歴の消去

3. セッションのサマリー情報を表示するには、セッションが実行された宛先の上にカーソルを置きます。(「宛先」列はタイトルをクリックすることでソートできます。)

次に示すように、ポップアップ・ウィンドウにサマリー情報が表示されます。

ポップアップ・ウィンドウには、セッションの開始および終了の日時、アセットのパブリッシュにかかった時間およびパブリッシュしたアセットの数が表示されます。



4. セッション・ログを表示およびダウンロードする手順は次のとおりです。
  - a. セッションが実行された宛先を選択します。
  - b. 「ステータスのパブリッシュ」画面で、「ログの表示」をクリックします。  
 ログ・エントリが 200 文字を超える場合は、「すべて表示」リンクをクリックして、エントリ全体を表示します。また、特定のエントリのログを検索することもできます。
  - c. ログをダウンロードするには、「ログのダウンロード」リンクをクリックします。

## パブリッシュ・セッションの再実行

セッションが停止した場合 (システム・エラーやユーザーによる取消しなどによる)、セッションを再実行できます。つまり、セッションを再度開始できます。セッションを開始すると、前回正常に完了したステージからパブリッシュ・プロセスが続行されます。次の条件をすべて満たしている場合には、セッションの再実行のオプションを利用できます。

- パブリッシュするデータが、正常に収集されシリアルライズされている (つまり、パブリッシュの最初の 2 つのステージを正常に完了している)。
- 最後に失敗したか、取り消されたパブリッシュ・セッションである。

「再実行」オプションは、電源障害などの中断によりパブリッシュが妨げられた場合に役立ちます。

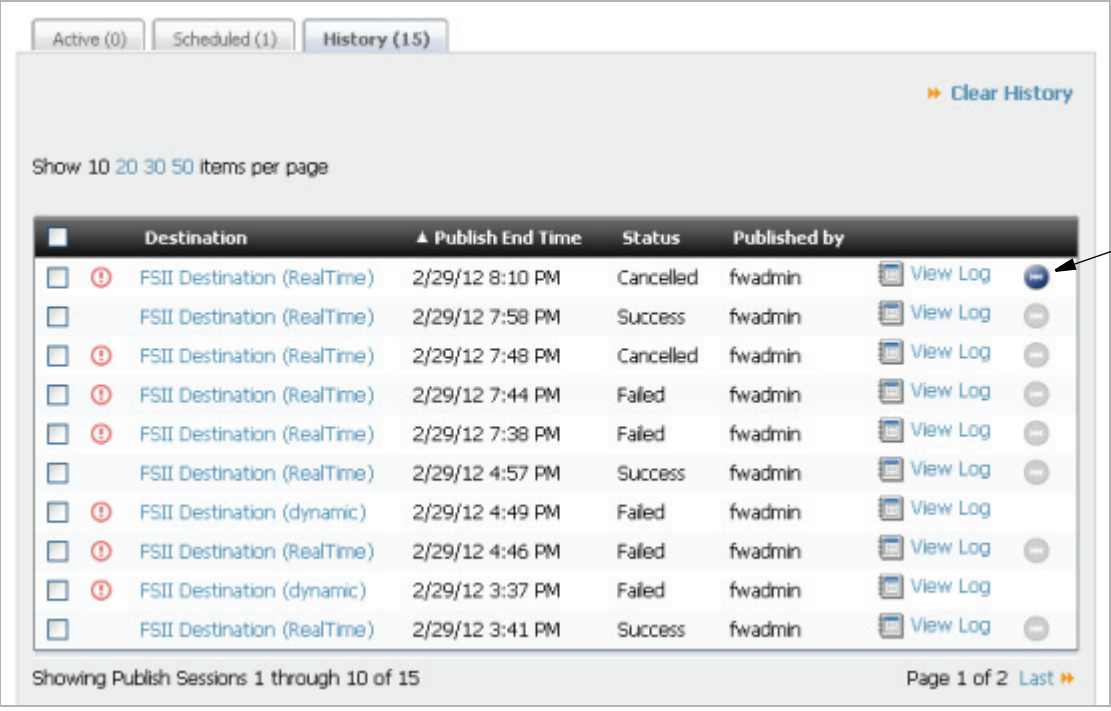
**パブリッシュ・セッションを再実行するには：**

1. 「パブリッシュ・コンソール」を開きます ( 管理者のインタフェースのボタン・バーにある「パブリッシュ」をクリックします )。
2. 「履歴」タブをクリックして、以前のパブリッシュ・セッションを表示します。

以前のパブリッシュ・セッションのリストが表示されます。「再実行」ボタンは、再実行可能なセッションの場合のみアクティブになります ( 右側の列 )。

「再実行」ボタンが無効な場合、このパブリッシュ・セッションは再実行できるようになるまで処理が進められていなかったか、最後に取り消された ( または失敗した ) セッションではありません。

「再実行」ボタンをクリックすると、パブリッシュのステージ 3 からセッションが開始されます ( 宛先へのデータの送信 )



	Destination	▲ Publish End Time	Status	Published by	
<input type="checkbox"/>	FSII Destination (RealTime)	2/29/12 8:10 PM	Cancelled	fwadmin	<a href="#">View Log</a> <a href="#">Re-run</a>
<input type="checkbox"/>	FSII Destination (RealTime)	2/29/12 7:58 PM	Success	fwadmin	<a href="#">View Log</a> <a href="#">Re-run</a>
<input type="checkbox"/>	FSII Destination (RealTime)	2/29/12 7:48 PM	Cancelled	fwadmin	<a href="#">View Log</a> <a href="#">Re-run</a>
<input type="checkbox"/>	FSII Destination (RealTime)	2/29/12 7:44 PM	Failed	fwadmin	<a href="#">View Log</a> <a href="#">Re-run</a>
<input type="checkbox"/>	FSII Destination (RealTime)	2/29/12 7:38 PM	Failed	fwadmin	<a href="#">View Log</a> <a href="#">Re-run</a>
<input type="checkbox"/>	FSII Destination (RealTime)	2/29/12 4:57 PM	Success	fwadmin	<a href="#">View Log</a> <a href="#">Re-run</a>
<input type="checkbox"/>	FSII Destination (dynamic)	2/29/12 4:49 PM	Failed	fwadmin	<a href="#">View Log</a> <a href="#">Re-run</a>
<input type="checkbox"/>	FSII Destination (RealTime)	2/29/12 4:46 PM	Failed	fwadmin	<a href="#">View Log</a> <a href="#">Re-run</a>
<input type="checkbox"/>	FSII Destination (dynamic)	2/29/12 3:37 PM	Failed	fwadmin	<a href="#">View Log</a> <a href="#">Re-run</a>
<input type="checkbox"/>	FSII Destination (RealTime)	2/29/12 3:41 PM	Success	fwadmin	<a href="#">View Log</a> <a href="#">Re-run</a>

Showing Publish Sessions 1 through 10 of 15 Page 1 of 2 Last ➤

3. 次のいずれかを行います。
  - 「再実行」ボタンをクリックしてパブリッシュ・セッションを再起動します。
  - 「ステータスのパブリッシュ」画面からセッションを再実行します。
    - 1) 再実行するセッションの宛先のリンクをクリックします。  
セッションの最終的な「ステータスのパブリッシュ」画面が開きます。
    - 2) 「再実行」ボタンをクリックしてパブリッシュ・セッションを再起動します。

「再起動リクエストが送信されました。」のメッセージが表示され、このセッションが「履歴」タブから「アクティブ」タブに移動されます。「アクティブ」タブの端で円を描く緑色の矢印は、パブリッシュ・セッションがアクティブであることを示します。

4. セッションの完了を監視するには、「アクティブ」タブをクリックし、次に宛先名をクリックします。( 詳細は、[421 ページの「アクティブなパブリッシュ・セッションの使用」](#)を参照してください。)

## パブリッシュ・ログの使用

- ログの表示と検索
- ログのダウンロード
- パブリッシュ履歴の削除

### ログの表示と検索

リアルタイム・パブリッシュ・ログには、パブリッシュ・セッションで実行されるトランザクションの詳細な情報が保存されます。アクティブなパブリッシュ・セッションと以前のパブリッシュ・セッションに関するログを表示できます。また、ログは、セッションの実行時や終了後に、いつでもダウンロードできます。

#### 注意

WebCenter Sites では、詳細なログ・ファイルを生成するように構成でき、通常のログ・ファイルよりも詳細な情報を含めることができます。詳細化によりパブリッシュ・プロセスが長くなるため、このオプションは必要な場合にのみ使用する必要があります ( 通常はトラブルシューティングの場合 )。

WebCenter Sites は、パブリッシュ・セッションの完了時にテキスト書式のログ・ファイルを自動的にメール送信するように構成することもできます。

ログ・ファイルを構成し、電子メール・オプションを指定するには、[405 ページの「手順 4: ソース・システムでのリアルタイム宛先定義の作成」](#)を参照してください。

#### パブリッシュ・ログを表示するには：

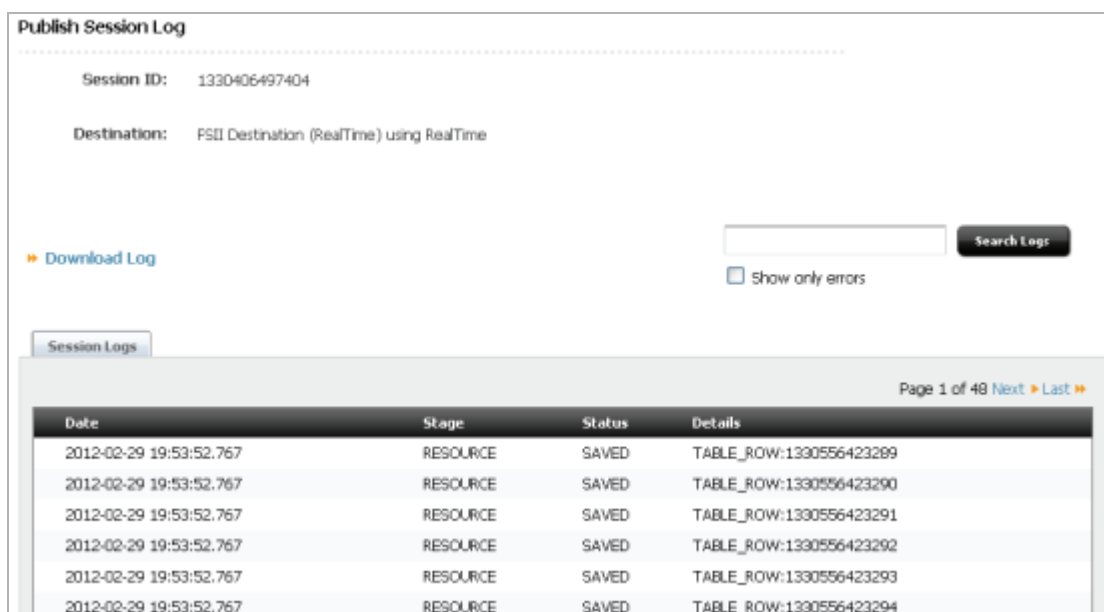
1. 「パブリッシュ・コンソール」を開きます ( 管理者のインタフェースのボタン・バーにある「パブリッシュ」をクリックします )。



「アクティブ」タブが開いた状態で「パブリッシュ・コンソール」が表示され、現在実行されているすべてのリアルタイム・セッションが表示されます。

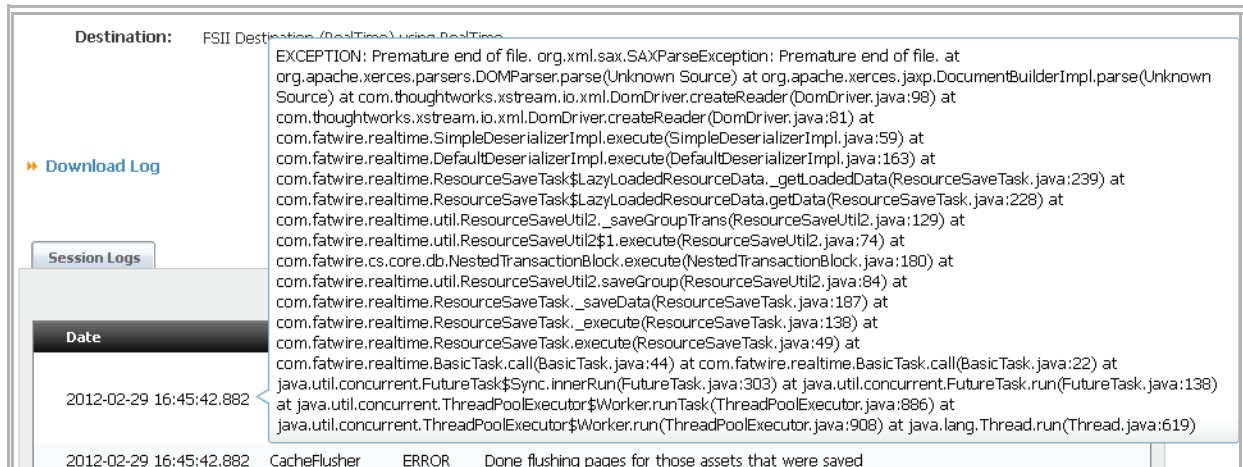


2. 現在のセッションのログを表示するには、「アクティブ」タブ内で、目的のセッションに移動し、「ログの表示」をクリックします。以前のセッションのログを表示するには、「履歴」タブをクリックし、目的のセッションに移動して、「ログの表示」をクリックします。
  - 「パブリッシュ・セッション・ログ」画面が開きます。セッションの継続とともにページが追加されます。





- ログ・エントリが 200 文字を超える場合、省略記号 (3 つのピリオド) が末尾に表示されます。エントリ全体を表示するには、エントリの上にマウスを置きます。ログ・ファイルの上に開かれるウィンドウに、エントリ全体が表示されます。ログ・イベントの原因が特定されます。



### 3. ログファイルは様々な方法で検索できます。

- 特定のエントリを検索するには、「検索」フィールド (画面の右上) に検索語句を入力します。

#### 注意

検索ユーティリティによって、「ステージ」、「ステータス」および「詳細」列で使用されている語句が認識されます。ワイルドカードやブール演算子は認識されません。

- エラー・メッセージのみを表示するには、「エラーのみ表示」チェック・ボックスを選択し、「検索」フィールドは空のままにします。
- 特定の語句でエラー・メッセージをフィルタするには、「エラーのみ表示」チェック・ボックスを選択し、「検索」フィールドに検索語句を入力します。
  - 「検索」をクリックします。

「検索結果」タブが開きます(「セッション・ログ」タブの横)。

The screenshot displays the 'Publish Session Log' interface. At the top, it shows 'Session ID: 1330406459756' and 'Destination: FSII Destination (RealTime) using RealTime'. Below this, there is a 'Download Log' link and a search bar containing the text 'asset'. To the right of the search bar is a 'Search Logs' button. Below the search bar is a checkbox labeled 'Show only errors'. The main content area has two tabs: 'Session Logs' and 'Search Results'. The 'Search Results' tab is active, showing a table with three rows of log data. The table has columns for 'Date', 'Stage', 'Status', and 'Details'. The first row shows an 'ERROR' status for 'CacheFlusher'. The second row shows 'TIMINGS' for '\_\_\_JobMonitor\_\_\_'. The third row shows a failed publish attempt. At the bottom of the table, there are links to 'Go to Publish Console' and 'Go to Publish Status'.

**Publish Session Log**

Session ID: 1330406459756

Destination: FSII Destination (RealTime) using RealTime

Download Log

asset X Search Logs

☐ Show only errors

Session Logs Search Results X

Page 1 of 1 [Update]

Date	Stage	Status	Details
2012-02-29 16:45:42.882	CacheFlusher	ERROR	Done flushing pages for those assets that were saved
2012-02-29 16:46:10.614	___JobMonitor___	TIMINGS	Messenger timings: global 10240ms, log writes 0ms, progress reports 204ms, asset status 0ms, send/receive 10176ms
2012-02-29 16:46:10.629	-	-	Publish failed for approved assets (error number: -508).

Page 1 of 1 [Update]

Go to Publish Console Go to Publish Status

- b. 「検索結果」タブを終了するには、タブ上の「X」をクリックします。  
「セッション・ログ」タブに戻ります。

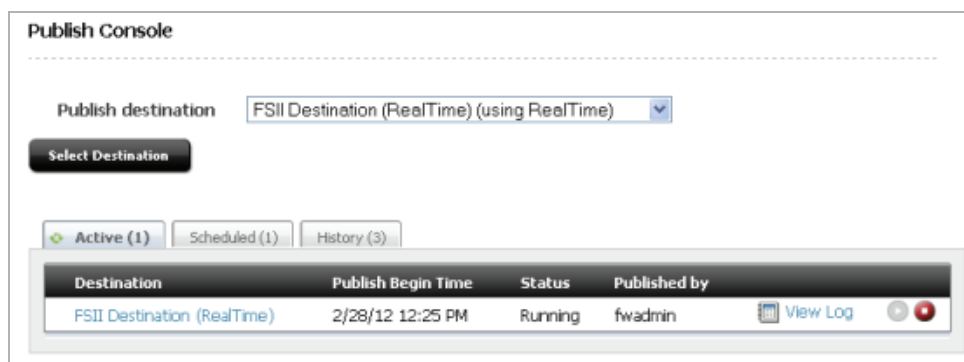
## ログのダウンロード

パブリッシュ・ログは、セッション中やセッションの終了時にいつでもダウンロードできます。次の手順に示すとおり、ログ・ファイルは、リアルタイム・パブリッシュ・インタフェースのいくつかの場所からダウンロードできます。

**セッション・ログをダウンロードするには：**

1. 「パブリッシュ・コンソール」を開きます ( 管理者のインタフェースのボタン・バーにある「パブリッシュ」をクリックします )。

「アクティブ」タブが表示された状態で、「パブリッシュ・コンソール」が開かれます。「アクティブ」タブには、現在処理中のパブリッシュ・セッションが表示されます。



2. アクティブなセッションまたは以前のセッションのログ・ファイルをダウンロードします。
  - 「アクティブ」タブ : 宛先名を選択し、「ログのダウンロード」をクリックします。
  - 「履歴」タブ : 宛先名を選択し、「ログの表示」をクリックして、「ログのダウンロード」を選択します。

「ステータスのパブリッシュ」画面が開きます。

**Publishing Status**

Session ID: 1330406433612

Status: ...

Destination: FSII Destination (RealTime) using RealTime (Complete publish)

Start Time: Wednesday, February 29, 2012 3:08:17 PM PST

Stage	Status	% Completed
Gathering data to publish	Success	100%
Serializing data	Running	19%
Sending data to target	Not Started	0%
Deserializing and saving	Not Started	0%
Updating page caches	Not Started	0%

Serializing ASSET:Products:993403846823

クリックすると、テキスト書式のログがコンピュータにダウンロードされます。

[View Log](#)
[Download Log](#)
[Publish History](#)
[Configure Destination](#)

- セッションが完了したら、「ログのダウンロード」をクリックし、表示される指示に従います。

ログ・ファイルは、テキスト書式であり、任意のテキスト・エディタで開くことができます。

## パブリッシュ履歴の削除

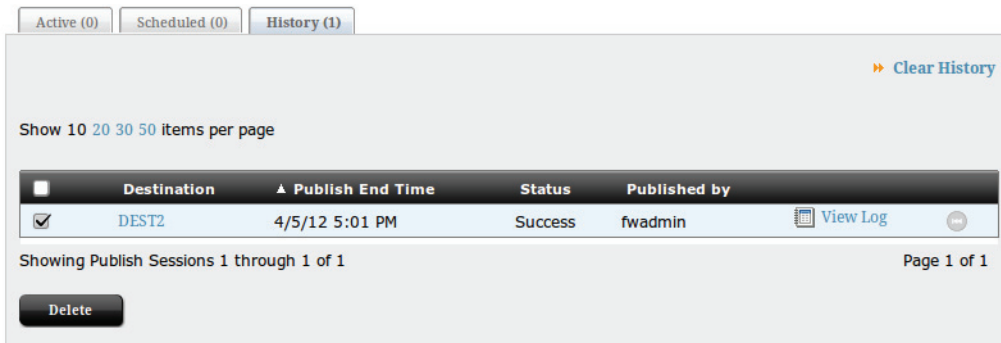
パブリッシュ履歴は適切な動作とパフォーマンスを確保するために、定期的に削除することをお勧めします。パブリッシュに関連するすべてのデータはデータベースに保存され、時間が経過するとこれらの表のサイズがパフォーマンスの問題を引き起こす可能性があるためです。標準的なパブリッシュによって、この表のサイズが大幅に増加することはありませんが、大規模なパブリッシュ(サイトの初回のパブリッシュなどで、特に失敗した場合)では、大量のデータが残される可能性があります。

パブリッシュ・セッションの削除では、次の処理が実行されます。

- データベース表からのセッションに関連するすべてのメッセージが削除されます。
- このシステムの FW\_PUBDATASTORE から、セッションに関連するすべてのデータが消去されます(パブリッシュに失敗した場合、しばしばこの表にデータが残されます)。
- 宛先へのアクセスを試行し、関連するデータを FW\_PUBDATASTORE から消去します(パブリッシュに失敗した場合、しばしばこの表にデータが残されます)。

**セッション・ログを削除するには：**

1. 「パブリッシュ・コンソール」を開きます ( 管理者のインタフェースのボタン・バーにある「パブリッシュ」をクリックします )。  
「アクティブ」タブが表示された状態で、「パブリッシュ・コンソール」が開かれます。
2. 「履歴」タブを選択します。  
すべての使用可能なログが表示されます。



3. 削除する各ログの横にあるボックスを選択します。
4. 「削除」をクリックします。  
選択したログが削除されます。

**注意**

FW\_PUBDATASTORE 内にあるデータは、バイナリ・ラージ・オブジェクトを使用して保存されるため、この処理の実行後、DBA によって手動でバイナリ・ラージ・データをクリーンアップすることが必要になる場合があります。



## 第 21 章

# オンデマンド・パブリッシュとアセットの非承認

リアルタイム・パブリッシュの方法を使用している場合、承認済アセットを選択的にパブリッシュできます。さらに、複数のアセットを一括で非承認にできます。

この章は、次の項で構成されています。

- [オンデマンド・パブリッシュの使用方法](#)
- [選択したアセットをパブリッシュ・セッションに対して非承認にする](#)

## オンデマンド・パブリッシュの使用方法

リアルタイム・パブリッシュでは、アセットをオンデマンドでパブリッシュできます。つまり、承認済アセット・リストの任意のアセットを選択的かつ即座にパブリッシュできます。

スケジュール済リアルタイム・パブリッシュと同様に、アセットが、すべての依存アセットとともにパブリッシュされます。このため、依存アセットもオンデマンド・キューに配置されます。

承認済アセットのリストは検索可能であり、パブリッシュが必要なアセットを容易に見つけられるようになります。選択したアセットがパブリッシュされた後、それらは、次のパブリッシュ・セッションに向けて、承認済アセット・リストから削除されます。

### 注意

オンデマンド・パブリッシュでは、完了モードと遅延モードのいずれかを選択できます。パブリッシュ・モードの詳細は、[第 20 章「リアルタイム・パブリッシュ・モードの使用」](#)を参照してください。

**承認済アセットを即時パブリッシュで選択するには：**


1. ボタン・バーの「パブリッシュ」をクリックして、「パブリッシュ・コンソール」を開きます。
2. 「パブリッシュの宛先」ドロップダウン・リストから、次を実行します。
  - a. アセットのパブリッシュ先となる、リアルタイム・パブリッシュの宛先を選択します。
  - b. 「宛先の選択」をクリックします。



3. 「パブリッシュの宛先」画面で、「x 個のアセットをパブリッシュする準備ができました。」リンクをクリックします。

**Publish destination: FSII Destination (RealTime)**

**Destination:**

 FSII Destination (RealTime) using RealTime

**Destination address:**

http://localhost:8080/cs/

**Arguments:**

REMOTEUSER=fwadmin  
VERBOSE=false  
PUBLISHOPTION=Complete  
EMAILALERT=false  
REMOTEPASS=\*\*\*\*\*  
[1655 assets are ready for publish.](#)

Configure Destination...

Edit Publish Schedule...

Publish

Cancel

オンデマンド・パブリッシュタブが開きます。「承認済アセット」タブには、次のパブリッシュ・セッションに対して承認されたすべてのアセットがリストされます。

「オンデマンド・キュー」を選択して表示します。

Approved Assets On-Demand Queue

1655 assets available for Publishing

Show 10 20 30 50 items per page

[Add to On-Demand Queue](#) [Unapprove](#)

Type	Name	Locale	Start Date	End Date	Days Expired
story1	story1		-	-	-
story2	story2		-	-	-
story3	story3		-	-	-
Frequent Visitor	Frequent Visitor		-	-	-
Burlington Promotion	Burlington Promotion		-	-	-
FSII Top Stories	FSII Top Stories	en_US	-	-	-
FSII Item of the Week	FSII Item of the Week	en_US	-	-	-
FSII Advertisement	FSII Advertisement	en_US	-	-	-
FSII Hot Items	FSII Hot Items	en_US	-	9/30/09 11:59 PM	880
FSII Latest News	FSII Latest News	en_US	-	9/30/09 11:59 PM	880

Page 1 of 166 [Next](#) [Last](#)

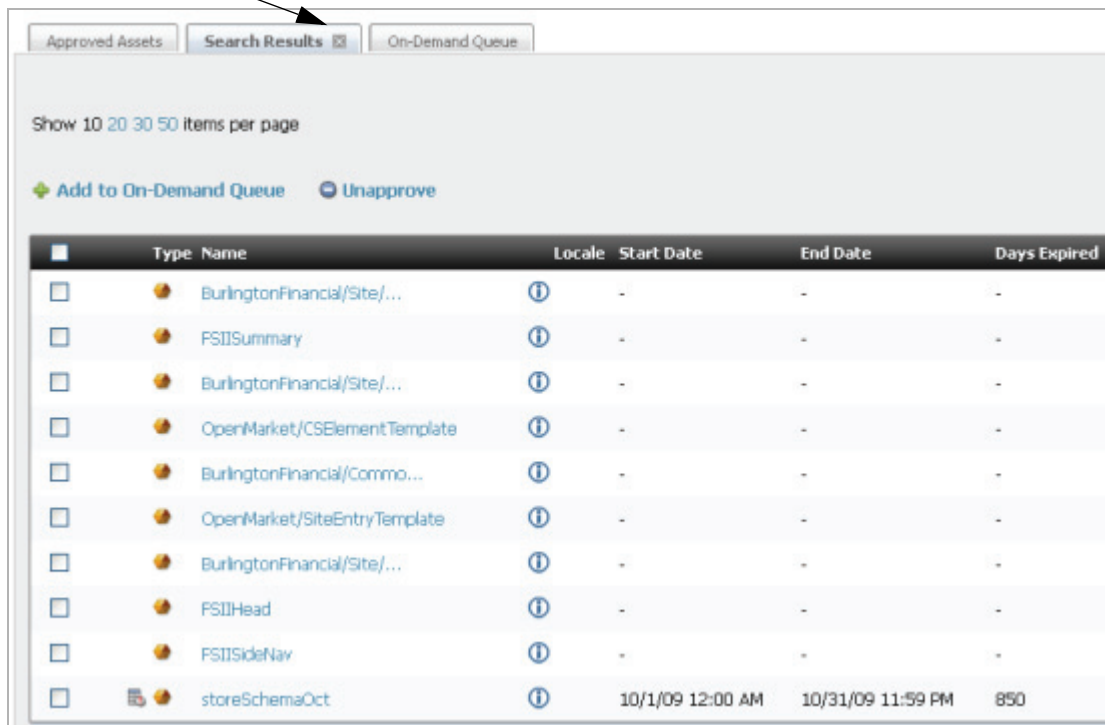
承認済アセットのリスト全体に割り振られたページ。

#### 4. (オプション) 承認済アセット全体を検索します。

- a. 「検索」テキスト・ボックスに検索語句を入力します。
  - 検索が、アセット名と説明に対して実行されます。
  - ワイルドカードおよびブール演算子は使用できません。
- b. 「検索」をクリックします。

「検索結果」タブが開き、検索結果が表示されます。

「X」をクリックすると、このタブを閉じて、「承認済アセット」タブに戻ります。



5. 「オンデマンド・キュー」にアセットを追加します。

### 注意

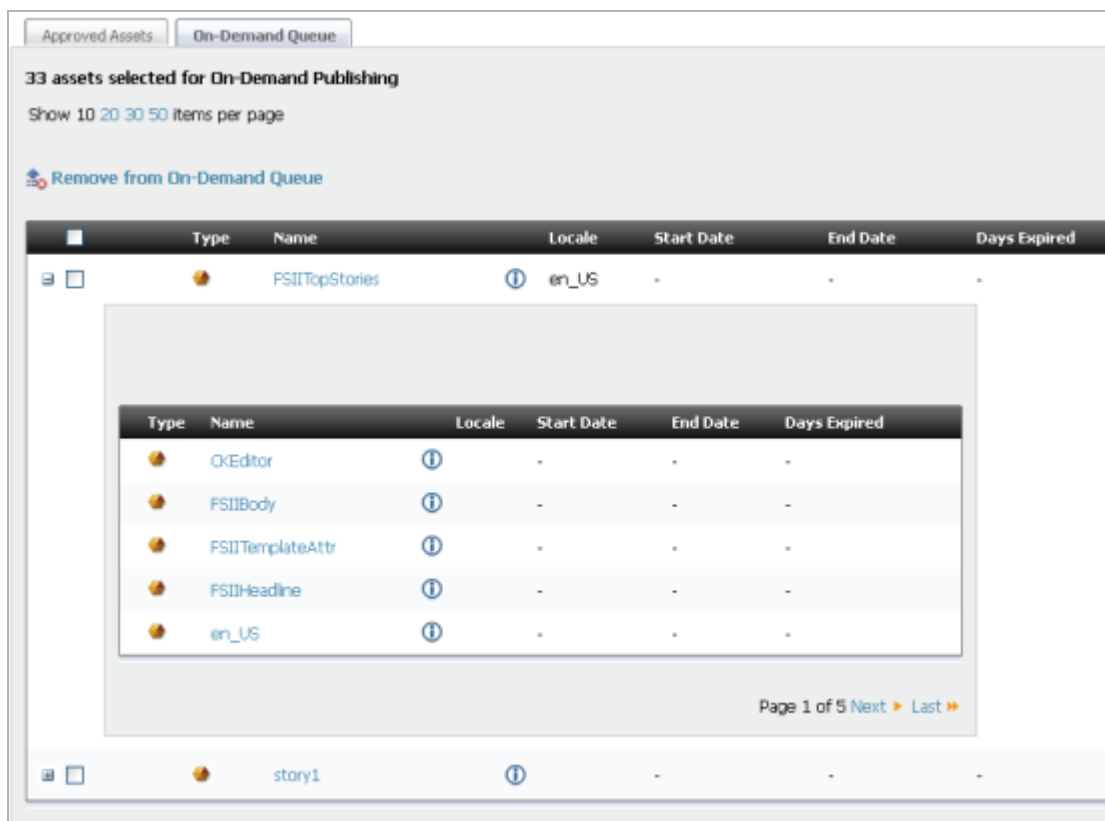
オンデマンドでは、即時パブリッシュがサポートされています。したがって、オンデマンド・キューに入れるための選択は、現在の WebCenter Sites セッションが存続している間のみ維持されます。ログアウトすると (またはシステムによって強制的にログアウトされると)、オンデマンド・キューが消去されます。

「承認済アセット」タブまたは「検索結果」タブのいずれかで、オンデマンド・キューに追加するアセットを選択し、次に「オンデマンド・キューへ追加」をクリックします。

依存性が計算されている間に、メッセージが表示されます。このプロセスが完了すると、選択したアセットが「承認済アセット」タブ (および開いている場合は「検索結果」タブ) から削除されます。オンデマンド・キューが、選択したアセットとそれらの依存アセットによって更新されます。

6. オンデマンド・キューをパブリッシュします。次のいずれか1つを実行します。

- 選択したアセットがパブリッシュ可能であるとわかっている場合には、「承認済アセット」タブの「オンデマンド・キューのパブリッシュ」をクリックします。
- アセットをパブリッシュする前に確認する場合は、「オンデマンド・キュー」タブをクリックして、オンデマンド・キューに切り替えます。



- アセットの依存性を表示するには、アセットの行の左端にあるプラス記号をクリックします。
  - アセットをオンデマンド・キューに入れた後に、そのアセットをパブリッシュしないことを決定した場合は、そのアセットを選択し、「オンデマンド・キューから除去」をクリックします。アセットが、オンデマンド・キューから削除され、「承認済アセット」のリストに戻されます。(操作の確認を求めるダイアログ・ボックスが表示されます。)
7. 「OK」をクリックします。  
「パブリッシュ・コンソール」が開き、処理中のパブリッシュ・セッションが表示されます。
  8. パブリッシュ・セッションを確認する手順は、第 20 章「リアルタイム・パブリッシュ・モードの使用」を参照してください。

## 選択したアセットをパブリッシュ・セッションに対して非承認にする

承認済アセットをパブリッシュしないように決めた場合は、承認済アセット・リストから選択的に削除できます。

**アセットを非承認にするには：**

1. ボタン・バーで「パブリッシュ」をクリックし、「パブリッシュ・コンソール」を開きます。
2. 「パブリッシュの宛先」ドロップダウン・リストから、次を実行します。
  - a. アセットのパブリッシュ先にするリアルタイム・パブリッシュの宛先を選択します。
  - b. 「宛先の選択」をクリックします。
3. 「パブリッシュの宛先」画面で、「*x* 個のアセットをパブリッシュする準備ができました。」リンクをクリックします。

**Publish destination: FSII Destination (RealTime)**

**Destination:**  FSII Destination (RealTime) using RealTime

**Destination address:** http://localhost:8080/cs/

**Arguments:** REMOTEUSER=fwadmin  
VERBOSE=false  
PUBLISHOPTION=Complete  
EMAILALERT=false  
REMOTEPASS=\*\*\*\*\*  
1655 assets are ready for publish.

Configure Destination...

Edit Publish Schedule...

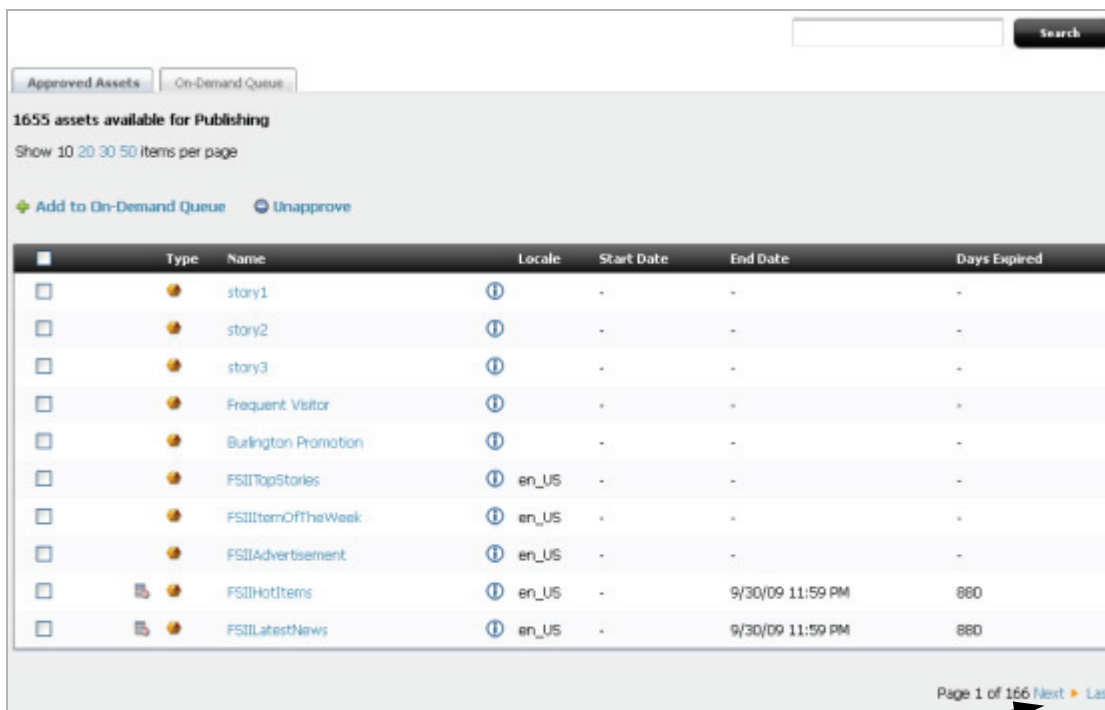
Publish

Cancel

オンデマンド・パブリッシュ画面が開きます。この画面には、「承認済アセット」タブと「オンデマンド・キュー」タブが表示されます。「承認済アセッ

選択したアセットをパブリッシュ・セッションに対して非承認にする

ト」タブには、次のパブリッシュ・セッションに対して承認されたすべてのアセットがリストされます。

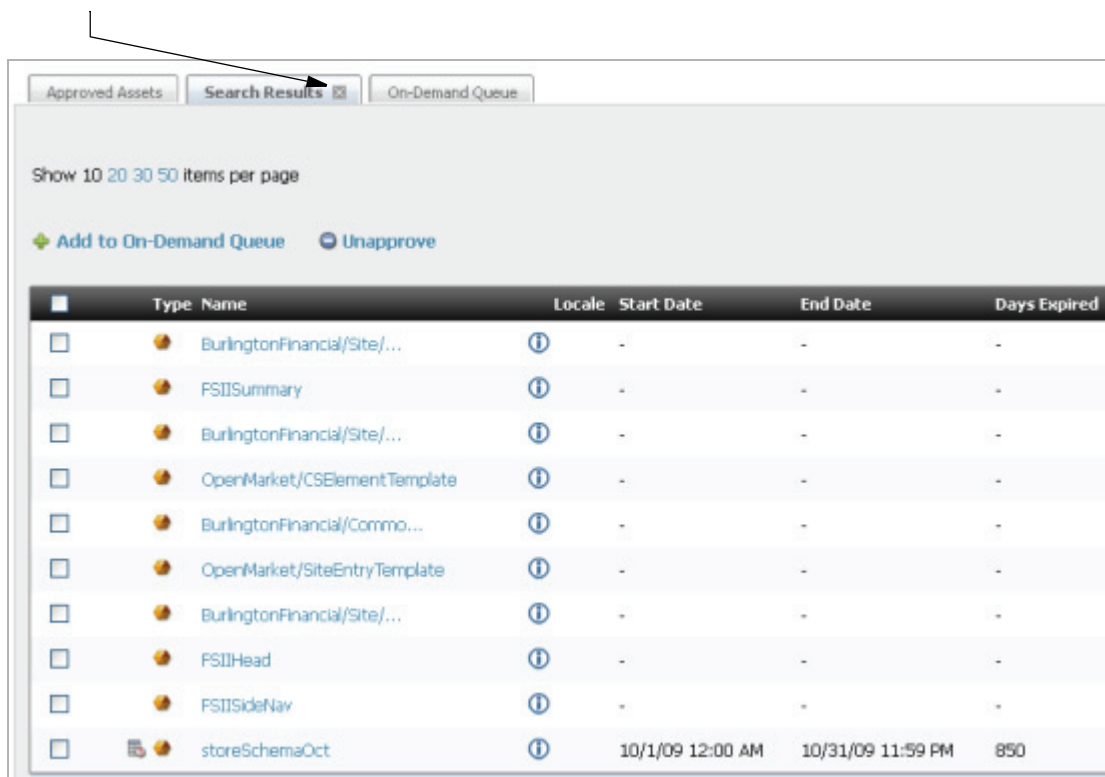


承認済アセットのリスト全体に割り振られたページ。

4. (オプション) 承認済アセット全体を検索します。
  - a. 「検索」テキスト・ボックスに検索語句を入力します。
    - 検索が、アセット名のみにに対して実行されます。
    - ワイルドカードおよびブール演算子は使用できません。
  - b. 「検索」をクリックします。

選択したアセットをパブリッシュ・セッションに対して非承認にする

「検索結果」タブが開き、検索結果が表示されます。  
「X」をクリックすると、このタブを閉じて、「承認済アセット」タブに戻ります。



5. 「承認済アセット」タブと「検索結果」タブのいずれかで、非承認にするアセットを選択します。「非承認」をクリックします。

選択したアセットが「承認済アセット」リストから削除されます。

非承認にしたアセットに依存アセットがあり、これが現在のパブリッシュ・セッションで承認されている場合、非承認にしたアセットは保留キューに入れます。


6. (オプション) パブリッシュが保留になったアセットを承認します。

選択したアセットをパブリッシュ・セッションに対して非承認にする

- a. 「戻る」をクリックして、「パブリッシュの宛先」画面に戻ります。テキストのリンクが 2 つになっていることに注意してください。1 つはパブリッシュが保留されたアセットを示し、もう 1 つはパブリッシュの準備が完了したアセットを示します。「*x* 個のアセットのパブリッシュが保留されています」リンクをクリックします。

**Publish destination: FSII Destination (RealTime)**

**Destination:**

 FSII Destination (RealTime) using RealTime

**Destination address:**

http://localhost:8080/cs/

**Arguments:**

REMOTEUSER=fwadmin  
VERBOSE=false  
PUBLISHOPTION=Complete  
EMAILALERT=false  
REMOTEPASS=\*\*\*\*\*  
  
10 assets are held for publish.1609 assets are ready for publish.

Configure Destination...

Edit Publish Schedule...

Cancel



選択したアセットをパブリッシュ・セッションに対して非承認にする

保留キューが開きます。

10 assets are being held from publishing

Approve	Type	Name	Locale	Start Date	End Date	Days Expired
Held		Home		-	-	-
Held		Portfolio		-	-	-
Held		Stocks		-	-	-
Held		PortfolioTop		-	-	-
Held		StocksTop		-	-	-
Held		FSIIHome	en_US	-	-	-
Held		FSIILayout		-	-	-
Held		Home (fr)	fr_FR	-	-	-
Held		Home (de)	de_DE	-	-	-
Held		Home (es)	es_ES	-	-	-

- b. パブリッシュ・セッションで承認するアセットの「保留」リンクをクリックします。
- 「宛先へアセット名のパブリッシュができない原因となっているアセット」画面が開きます。
- アセットに依存性がない場合、アセットが承認されたことを示すメッセージが表示されます。
  - アセットに依存性がある場合、依存アセットのリストが表示されます。

Assets preventing FSIIHome from being published to destination: FSII Destination (RealTime)

This asset cannot be published until dependent assets have been approved.

You must approve the following assets for destination FSII Destination (RealTime) before FSIIHome can be published:

<input type="checkbox"/>	Asset Type	Name	Locale	Start Date	End Date	Days Expired
<input type="checkbox"/>		FSIILatestNewsFromJan	en_US	1/1/10 12:00 AM	-	-
<input type="checkbox"/>		FSIIHotItemsFromJan	en_US	1/1/10 12:00 AM	-	-
<input type="checkbox"/>		FSIIHotItemsNov	en_US	11/1/09 12:00 AM	11/30/09 11:59 PM	820
<input type="checkbox"/>		Hot Items December	en_US	12/1/09 12:00 AM	12/31/09 11:59 PM	789
<input type="checkbox"/>		FSIILatestNewsNov	en_US	11/1/09 12:00 AM	11/30/09 11:59 PM	820

依存アセットのリストを確認したら、表の見出し行のチェック・ボックスを選択して、リストのすべてのアセットを選択します。次に「承認」をクリックします。

次のようになります。

- アセットが承認され、パブリッシュ可能であることを示すメッセージが表示されます。
- アセットとその依存アセットが、承認済アセット・キューに配置されます。
- 表示が保留キューに戻ります。

c. (オプション) 他の保留アセットを承認するには[手順 b](#)を繰り返します。

## 第 5 部

# システム構成手順

この項では、**Sites** システムのすべてのサイトに影響する構成オプションについて説明します。

この部は、次の章で構成されています。

- [第 22 章「ユーザー・インタフェースの構成」](#)
- [第 23 章「Lucene 検索エンジンの構成」](#)
- [第 24 章「リビジョン追跡」](#)



## 第 22 章

# ユーザー・インタフェースの構成

コンテンツ・プロバイダが使用可能になるために構成される必要がある Sites ユーザー・インタフェース機能がいくつかあります。

これらの機能の一部は、WebCenter Sites インタフェースの代替インタフェース ( サイト・デスクトップ、サイト DocLink および Contributor インタフェースの Web モード ) であり、その他の機能は、WebCenter Sites インタフェース ( ロケール設定 ) およびプレビュー機能の動作を変更するものです。

この章は、次の項で構成されています。

- [WebCenter Sites インタフェースのロケールの設定](#)
- [サイト・デスクトップ](#)
- [サイト DocLink](#)
- [Web モード](#)
- [プレビューに対する個別のブラウザ・セッションの維持](#)

## WebCenter Sites インタフェースのロケールの設定

組織が Sites の言語パックを 1 つ購入してインストールした場合、Sites システム向けにデフォルト・ロケールを構成してから使用する必要があります。

ロケールの設定に使用するオプションおよびプロパティはいくつかあります。

- 「管理」タブの「ロケール」のアイテムでは、WebCenter Sites インタフェースに対するデフォルト・ロケールを設定します。個々のユーザーは、プリファレンスの設定により、デフォルトをオーバーライドすることも、別のロケールがあればそれを使用することも可能です。
- `futuretense.ini` ファイル内の、`cs.emailcharset` プロパティおよび `cs.emailcontenttype` プロパティによって、ワークフロー・システムが送信する電子メール・メッセージで使用する文字セットが決定されます。これらのプロパティは通常インストール中に設定され、コンテンツ・プロバイダが選択できるすべてのロケールで適切に文字を表すことができる文字セットに設定される必要があります。
- システムが UTF-8 の文字セットを使用し、かつサーバーへのミラーリングのパブリッシュ配信タイプが使用されている場合、`futuretense.ini` ファイルの `cs.mirrorrowsperpost` プロパティに、4 以下の値を設定する必要があります。

### Sites ユーザー向けのシステム・デフォルト・ロケール

言語パックがインストールされるとき、インストーラは、言語パックのロケールの言語と国コードを、`LocaleMap` データベース表に書き込みます。たとえば、カナダのフランス語は、`fr_ca` となります。`LocaleMap` 表に表示されるロケールが複数ある場合、管理者がデフォルトのロケールを指定する必要があります。

個々のユーザー用デフォルト・ロケールは、ユーザー・プロファイルで設定することによってオーバーライドできます。ユーザーのロケール・プリファレンスの設定方法の詳細は、[105 ページの「ユーザー・プロファイルとユーザー属性の操作」](#)を参照してください。

WebCenter Sites は、`locale` という名前の汎用的なセッション変数によって個々のユーザーが使用する言語を決定します。この変数には、ログインしているユーザーに関連する言語と国コードが格納されています。

ユーザーが WebCenter Sites にログインすると、Sites は、次のように `locale` 変数の値を取得します。

- ユーザーのユーザー・プロファイルにロケール・ユーザー属性の値が格納されている場合、WebCenter Sites はこの値を取得し、使用します。
- ユーザー・プロファイルにプリファレンスが指定されていない場合、WebCenter Sites は、ユーザーのブラウザのロケール設定と `LocaleMap` 表のロケールとの一致を試みます。
- ユーザー・プロファイルにプリファレンスが設定されておらず、かつ WebCenter Sites がユーザーのブラウザのロケールを一致させることができない場合、システムに設定されているデフォルト・ロケールを使用します。

システムのデフォルト・ロケールを設定するには：

1. 「管理」タブで、「ロケール」をダブルクリックします。

WebCenter Sites に「ロケール・マネージャ」フォームが表示されます。



Language	Locale	Default
English (United States)	en_US	<input checked="" type="radio"/>
French (Canada)	fr_CA	<input type="radio"/>
Spanish (United States)	es_US	<input type="radio"/>

Add New

2. 「ロケール・マネージャ」フォームで、次の手順を実行します。
  - a. 目的のロケールの横にある「編集」アイコンをクリックします。  
ラジオ・ボタンが画面の「デフォルト」列に表示されます。
  - b. 目的のロケールの横にある「デフォルト」ラジオ・ボタンを選択します。
3. 「保存」をクリックします。

## システムのロケール・プロパティ

次のリストにあるプロパティは、言語パックを Sites システムへインストールする間に構成する必要があります。これは、トラブルシューティングのために記載されたリストです。たとえば、ワークフローの電子メールで異常な文字が表示されている場合、この電子メールのプロパティが適切に設定されなかった可能性があります。

プロパティ・エディタを起動して使用し、プロパティ値を確認または変更する方法については、*Oracle WebCenter Sites プロパティ・ファイル・リファレンス*を参照してください。

プロパティ	プロパティ・ファイル	説明
cs.contenttype	futuretense.ini	すべての WebCenter Sites ページとその他の HTTP 対話 (Sites Explorer、CatalogMover など) 用に、HTTP ヘッダーの文字セットを決定します。  この値は、デフォルトで、text/html; charset=UTF-8 に設定されています。  この値には、Sites システムが配信しているオンライン・サイトに適した値を設定する必要があります。
cs.emailcharset	futuretense.ini	WebCenter Sites によって送信される電子メール・メッセージの件名の行で使用される文字セットを決定します。(通常、これらはワークフローの電子メールです。)
cs.emailcontenttype	futuretense.ini	WebCenter Sites によって送信される電子メール・メッセージの本文で使用される文字セットを決定します。
cs.mirrorrowsperpost	futuretense.ini	ミラー・パブリッシュ・セッションが実行されている間に、各 HTTP の POST でミラーリンクが可能な表の行数を指定します。  UTF-8 を使用していて、データベースが非 ASCII 文字を処理する場合、この値を 4 以下に設定する必要があります。
xcelerate.charset	futuretense_xcel.ini	すべての WebCenter Sites のページに使用される HTTP ヘッダーの文字セットを決定します。  この値は UTF-8 に設定する必要があります。



## 単一言語の制限

多言語管理システムを構成できますが、ユーザー・インタフェースの一部は 1 つの言語でのみ表示できます。

たとえば、WebCenter Sites データベースの表や列の名前、およびカテゴリやソース・コードなどの個々のアイテムは、1 つの名前のみを持つことができます。つまり、個々の WebCenter Sites フォーム上のテキストのほとんどは Sites システムにインストールした任意の言語で表示できますが、フィールド名やアセット・タイプ名などのアイテムは 1 つの言語でのみ表示できます。

1 つの名前のみを持つことができる Sites のアイテムを次にリストします。これらのアイテムは、1 つの言語でのみ表示できます。

- アセット・タイプ名
- フィールド名
- アセット名
- カテゴリ
- ソース・コード
- ツリー・タブ名
- サイト名
- ワークフローの構成要素の名前 (アクション、電子メール・オブジェクト、条件、状態、ステップ、プロセス)
- ロール名
- スタート・メニュー・アイテム、検索と新規の両方

複数の言語を提供するシステムでは、大部分のコンテンツ・プロバイダが使用する言語を判断してから、その言語を使用してサイト、タブ、アセット・タイプなどの名前を指定する必要があります。

## ロケールとアセット・タイプ

サイト開発者がアセット・タイプ (ベーシックかフレックスいずれかの) を作成するとき、Sites システムで利用できるようにしたどの言語でもアセット・タイプのフィールド名を指定できます。ただし、WebCenter Sites がデフォルトですべてのアセット・タイプに作成するコアな列やフィールドがいくつかあります。

- id
- name
- description
- status
- createdby
- createddate
- updatedby
- updateddate
- startdate
- enddate

- subtype
- filename
- path
- template
- category

これらの列名は、デフォルトでは英語で作成されます。これらがインタフェースのフィールドとして **WebCenter Sites** で表示される場合は、システムのデフォルト言語として設定されている言語が使用されます。

アセット・タイプのデフォルト列の詳細は、『*Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド*』のデータ設計に関する項を参照してください。

## ロケールと記事アセット・タイプ

サイト開発者が **Article** という名前のサンプル・サイトのアセット・タイプを使用することを決定した場合、`futuretense_xcel.ini` ファイルにある `xcelerate.body.length` プロパティの値も変更する必要があります。このプロパティによって、**Article** 表の `urlbody` 列に格納される文字数が決定されます。

`urlbody` は URL の列であるため、ここに入力されるデータは、実際には **WebCenter Sites** データベース以外のファイルとして格納されます。しかし、始めから  $n$  個 ( $n$  は `xcelerate.body.length` プロパティで指定される値に等しい) の文字もまた、管理者のインタフェースの検索機能で記事アセットの本文テキストを検索できるように、`urlbody` 列に格納されます。

この列に非 ASCII テキストが格納されている場合、このプロパティの値を 500 に設定する必要があります。

## サイト・デスクトップ

サイト・デスクトップによって、Microsoft Word ユーザーは、馴染みのある Word インタフェースを使用して、Word ドキュメントを **WebCenter Sites** のアセットとして作成、インポートおよび編集することが可能になります。ユーザーは、これらのアセットを **WebCenter Sites** データベースに保存し、このデータベースからアセットを開きます。

### 注意

サイト・デスクトップは、標準の Word ドキュメントとテンプレートの使用をサポートします。Microsoft Word 2000 では、Word ユーザーが Word で HTML ページを作成できるようにする、Web ページ・テンプレートが導入されました。

Word の Web ページ・テンプレートは、サイト・デスクトップではサポートもなく、必要でもありません。

## 概要

サイト・デスクトップがシステムに構成されると、ユーザーは Microsoft Word のユーザー・インタフェースの特殊なツールバーから WebCenter Sites にログインできます。

管理者は、Word インタフェースで使用可能なアセット・タイプを構成します。サイト・デスクトップのアセット・タイプを有効にし、Word ユーザーがデータ入力できるフィールドを決定します。この情報によって、ユーザーが Word でそのタイプのアセットを作成するときの、WebCenter Sites ツールバーの外観と機能が決定されます。コンテンツ・プロバイダが WebCenter Sites ツールバーを使用して各フィールドのデータをマークするフィールド・マーカを挿入します。

アセットとして Word ドキュメントを保存する場合、サイト・デスクトップは WebCenter Sites にそのアセットを送信します。また、ドキュメントの一時コピーは、ユーザーのハード・ドライブにローカルに保存されます。

ファイル変換サブシステムによって、バイナリ形式のドキュメントは XML に変換され、この XML は WebCenter Sites データベースへの格納に適した形式に解析されます。アセットは、次のように管理されます。

- Word ドキュメントもアセットとともに格納されます。ドキュメントは、ユーザーが Word でアセットを開くときに取得されます。
- ( 配信システム上の ) オンライン・サイトの訪問者がアセットを要求すると、WebCenter Sites は Word ドキュメントではなく、アセットを処理します。

### 注意

WebCenter Sites のインタフェースを使用して、サイト・デスクトップで作成されたアセットを編集する場合、アセットを保存すると、アセットとサイト・デスクトップ間のリンクが不可逆的に切断されます。その後、サイト・デスクトップでアセットを編集できなくなります。「編集」フォームでアセットを開くときに、WebCenter Sites で、この警告が表示されます。そのときに、サイト・デスクトップのクライアント・インストーラへのリンクも表示されます。

## Word アセットに対するデータのソース

Microsoft Word ドキュメントは、Word アセットに対する完全なソースです。Word インタフェースでアセットのフィールドにデータを入力する方法はいくつかあります。

- ユーザーはテキストを入力した後、そのテキストを適切なフィールド・マークでマークします。
- **Name** および **Description** などの特定の必須フィールドは、Word で表示されません。これらのフィールドについては、ユーザーが WebCenter Sites ツールバーからフィールド名を選択した後ダイアログ・ボックスでデータを入力します。

この種類のデータは、Word メタデータとみなされます。

Word で、「ファイル」→「プロパティ」を選択し、「ユーザー設定」タブをクリックすると、WebCenter Sites データベースで Word アセットを格納することで非表示であったこれらのフィールドとその他のメタデータが表示されます。このデータは変更しないでください。

- Word のテンプレート .dot ファイルから情報を取得します。特定のフィールドにフィールドと値のペアを提供する Word アセット用の Word テンプレートを作成できます。(Word テンプレートを使用してコンテンツ・プロバイダ向けのフォームを作成し、Word アセットに関する情報入力に使用することもできます。)

## Word データのフォーマットの保持

管理者は、サイト・デスクトップのアセット・タイプを構成する際に、**フォーマットの保持**オプションを使用して個々のフィールドのデータを管理する方法を決定します。

フィールドの**フォーマットの保持**を選択すると、WebCenter Sites は、Word フォーマットに対応する HTML フォーマットに変換し、この HTML を WebCenter Sites データベースのフィールドを表す列に格納します。たとえば、段落の終わりが <p> タグに変換されたり、太字が <b></b> のペアでマークされたり、表が HTML の表として格納されたりします。

そのため、**フォーマットの保持**オプションは、テキストのみを含むフィールドに対して使用することをお勧めします。**フォーマットの保持**オプションを、ファイル (イメージまたは他のタイプのファイル) を含むフィールドに使用しないでください。

また、テキストとイメージを分離するには、サイト・デスクトップのユーザーが、同じ BLOB の属性またはアップロード・フィールドにテキストとイメージの両方を保存できないようにすることが最適な方法です。たとえば、イメージを含む記事アセット・タイプにキャプションをつける場合は、そのキャプションに 1 つの属性またはフィールドを使用し、イメージ・ファイルには別の属性またはフィールドを使用します。

テキストとイメージを別々のフィールドで保存し、フォーマットの保持の有無を管理することによって、テンプレートの作成者は、どの種類のデータがどの特定フィールドから抽出されるかを知ることができ、そのデータを適切に表示するようテンプレートをコード化できます。ユーザーが同じ BLOB 属性にテキストとイ

メーじの両方を保存できるようにする場合は、管理者がテンプレートの開発者と一緒に次の点に注意する必要があります。

**表 7: サイト・デスクトップで作成されるコンテンツの格納**

フォーマットの保持	BLOB 属性で保存済とマークされる Word コンテンツ	Word コンテンツがデータベースに格納される方法
あり	テキストおよびイメージ	イメージは、futuretense_xcel.ini の transformer.imgdir プロパティで指定されるディレクトリに書き込まれます。テキストは、URL 列に HTML として格納されます。この HTML には、 <transformer.imgdir> ディレクトリにあるイメージへの管理対象外のリンクが付けられます。  このような場合、パブリッシュ・システムは transformer.imgdir ディレクトリをミラーリングしないため、このディレクトリを配信システムに定期的にミラーリングするプロセスを実装する必要があります。
あり	テキストのみ	テキストは、URL 列に HTML として格納されます。
あり	イメージのみ	イメージ・ファイルは、URL 列に書き込まれます。
なし	テキストおよびイメージ	テキストは削除され、イメージ・ファイルが URL 列に書き込まれます。
なし	テキストのみ	テキストのフォーマットは削除され、テキストが URL 列に書き込まれます。
なし	イメージのみ	イメージ・ファイルは、URL 列に書き込まれます。

## サイト・デスクトップの Word アセット・タイプの構成

Word アセット・タイプとは、Microsoft Word で作成と編集ができるよう構成された WebCenter Sites の任意のアセット・タイプのことです。これは新しいアセット・タイプではなく、管理者が Word(サイト・デスクトップ)に対して有効にした、WebCenter Sites ですでに認識されているアセット・タイプです。

このカテゴリに分類されるアセット・タイプに関する制限はありませんが、実際の制約として、テキスト・コンテンツを持つか、そうでなければドキュメント関連のアセット・タイプに制限する必要が生じます。

**サイト・デスクトップのアセット・タイプを構成するには：**

- サイト・デスクトップで利用可能にするアセット・タイプを有効にします。
- 有効なベーシック・アセット・タイプの各サブタイプおよび有効なフレックス・アセット・タイプの各定義に対して、Microsoft Word インタフェースにある WebCenter Sites のツールバーで表示されるフィールドを指定します。
- 有効にする各フィールドに対して、Microsoft Word のアプリケーションで入力されたデータのフォーマットが WebCenter Sites で保持される必要があるかどうかを判断します。BLOB を保持するフィールドについては、フォーマット・オプションを使用して、テキストとファイルがそのフィールドに書き込まれる際の管理方法を決定します。
- 各 Word アセット・タイプに対してサイト・デスクトップのスタート・メニュー・アイテムを作成します。

次の項で各手順の詳細を説明します。

**サイト・デスクトップに対するアセット・タイプの有効化**

サイト・デスクトップに対して選択されたアセット・タイプにアセット・タイプを追加することで、サイト・デスクトップに対してそのアセット・タイプを有効にします。

**サイト・デスクトップに対してアセット・タイプを有効にするには：**

1. ツリーで、次のいずれかを実行します。
  - 「管理」タブで、「サイト」を開き、さらにサイト・デスクトップを構成するサイトを開きます。
  - 構成しているサイトにログイン済で、「サイト管理者」タブへのアクセスが可能な場合は、「サイト管理者」タブを選択します。
2. 「サイト・デスクトップ」を開き、「サイト・デスクトップの有効化」をダブルクリックします。

WebCenter Sites に、「サイト・デスクトップのアセット・タイプの有効化」フォームが表示され、このサイトでサイト・デスクトップに対して有効化されていないアセット・タイプが示されます。

Edit Configuration of asset type Content, subtype FSII Article for Sites Desktop

Fieldname	Description	Enable?	Preserve formatting?
Attribute_FSIIHeadline	Headline	Required	<input type="checkbox"/>
enddate	End Date	<input type="checkbox"/>	
Attribute_FSIISubheadline	Subheadline	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
SegRating		<input type="checkbox"/>	
Attribute_FSIIByline	Byline	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
template	Template	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Group_FSII ContentCategory	FSII ContentCategory	Required	
Dimension		<input type="checkbox"/>	
description	Description	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
path	Path	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
name	Name	Required	<input type="checkbox"/>
filename	Filename	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Attribute_FSIIPostDate	PostDate	<input type="checkbox"/>	
startdate	Start Date	<input type="checkbox"/>	
Attribute_FSIIAbstract	Abstract	Required	<input type="checkbox"/>
Publist	Publication	Required	
renderid		<input type="checkbox"/>	
Attribute_FSIIBody	Body	Required	<input type="checkbox"/>

Cancel Save

3. このサイトでサイト・デスクトップに対して有効にするアセット・タイプを選択します。
4. 「アセット・タイプの有効化」をクリックします。
5. 「アセット・タイプの有効化」の「スタート・メニューの選択」画面が表示されます。

**Enable Asset Types: FirstSiteII**

---

Start Menu selection

Asset Type	<input type="checkbox"/> Available Start Menus
Attribute Editor	<input type="checkbox"/> Create Sites Desktop start menu for Attribute Editor
CSElement	<input type="checkbox"/> Create Sites Desktop start menu for CSElement
Content	CS-Desktop Content_C already enabled for this site.
Content Attribute	<input type="checkbox"/> Create Sites Desktop start menu for Content Attribute
Content Definition	<input type="checkbox"/> Create Sites Desktop start menu for Content Definition
Content Filter	<input type="checkbox"/> Create Sites Desktop start menu for Content Filter
Content Parent	<input type="checkbox"/> Create Sites Desktop start menu for Content Parent
Content Parent Definition	<input type="checkbox"/> Create Sites Desktop start menu for Content Parent Definition

6. 「スタート・メニュー」に追加するアセット・タイプを選択します。
7. 「アセット・タイプの有効化」をクリックします。
8. 468 ページの「WebCenter Sites ツールバーに配置するフィールドの指定」の手順 4 に進みます。

## WebCenter Sites ツールバーに配置するフィールドの指定

この手順を始める前に、サイト・デスクトップに対して構成するアセット・タイプを有効にしていることを確認します。まだアセット・タイプを有効にしていない場合は、466 ページの「サイト・デスクトップに対するアセット・タイプの有効化」を参照してください。

**MS Word インタフェースの Sites ツールバーに表示されるアセット・タイプのフィールドを指定するには：**

1. ツリーで、次のいずれかを実行します。
  - 「管理」タブで、「サイト」を開き、さらにサイト・デスクトップを構成するサイトを開きます。
  - 構成しているサイトにログイン済で、「サイト管理者」タブへのアクセスが可能な場合は、「サイト管理者」タブを選択します。
2. 「サイト・デスクトップ」を開き、構成するアセット・タイプを開きます。



3. 目的のサブタイプ (ベーシック・アセット・タイプ) または定義 (フレックス・アセット・タイプおよびフレックス親アセット・タイプ) をダブルクリックします。

アセットの「構成」ページが開きます。

4. 「構成の編集」をクリックします。

WebCenter Sites に、次のような構成フォームが表示されます。

Edit Configuration of asset type Content, subtype FSII Article for Sites Desktop

Fieldname	Description	Enable?	Preserve formatting?
Attribute_FSIIHeadline	Headline	Required	<input type="checkbox"/>
enddate	End Date	<input type="checkbox"/>	
Attribute_FSIISubheadline	Subheadline	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
SegRating		<input type="checkbox"/>	
Attribute_FSIIByline	Byline	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
template	Template	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Group_FSII ContentCategory	FSII ContentCategory	Required	
Dimension		<input type="checkbox"/>	
description	Description	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
path	Path	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
name	Name	Required	<input type="checkbox"/>
filename	Filename	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Attribute_FSIIPostDate	PostDate	<input type="checkbox"/>	
startdate	Start Date	<input type="checkbox"/>	
Attribute_FSIIAbstract	Abstract	Required	<input type="checkbox"/>
Publist	Publication	Required	
renderid		<input type="checkbox"/>	
Attribute_FSIIBody	Body	Required	<input type="checkbox"/>

Cancel Save

5. 「構成の編集」フォームで、Word のサイト・デスクトップ・ツールバーに表示させる各フィールドの「有効化」チェック・ボックスを選択します。一般的なルールとして、テキスト入力フィールドのみを選択します。必須フィールドは事前を選択されていて、選択を解除できないことに注意してください。

6. (オプション) WebCenter Sites データベースへのデータ格納時に、Word でフィールドに入力されたテキストのフォーマットを保持する場合、そのフィールドに対して「フォーマットを保持しますか。」オプションを選択します。

一般的なルールとして、「フォーマットを保持しますか。」オプションは、テキストを格納するフィールドのみを有効にします。「フォーマットを保持しますか。」オプションを、アップロードされたファイルを保持するフィールドに対して有効にしないでください。

7. 「保存」をクリックします。
8. (オプション) 構成するサブタイプまたは定義を追加するたびに、[手順 3-7](#) を繰り返します。
9. (オプション) 構成するアセット・タイプを追加するたびに[手順 2-8](#) を繰り返します。

## サイト・デスクトップのスタート・メニュー・アイテムの作成

サブタイプの構成によって、Microsoft Word インタフェースの WebCenter Sites ツールバーで利用可能なフィールドが決定されますが、これらのフィールドに対してスタート・メニュー・アイテムを作成するまでは、Word のアセット・タイプを Word で使用できません。

### サイト・デスクトップのスタート・メニュー・アイテムを作成するには：

1. 「管理」タブで、「アセット・タイプ」を開き、次に目的のアセット・タイプを開きます。
2. 選択したアセット・タイプで「スタート・メニュー」を開き、「新規追加」をダブルクリックします。
3. 「名前」フィールドに、短い説明的なアイテムの名前を入力します。これは、Word のサイト・デスクトップのツールバーで使用可能なアセット・タイプのリストに表示される名前です。
4. 「説明」フィールドに、スタート・メニュー・アイテムの短い説明を入力します。
5. 「タイプ」フィールドで、「サイト・デスクトップ」を選択します。

### 注意

ソースが Word であるアセットに対して、デフォルトのフィールド値は設定できません。Word アセット・タイプのスタート・メニュー・アイテムを作成するときは、「デフォルト値」のセクションを無視してください。

6. 「サイト」フィールドで、このスタート・メニュー・アイテムを使用できるサイトを選択します。複数のサイトを選択するには、**[Ctrl]** キーを押しながらクリックします。
7. 「ロール」フィールドで、スタート・メニュー・アイテムにアクセスできるすべてのロールを選択します。複数のロールを選択するには、**[Ctrl]** キーを押しながらクリックします。
8. (オプション) このスタート・メニュー・アイテムで作成されるアセットのワークフロー・プロセスの詳細を構成するには、次の手順を実行します。
  - a. 「ワークフローの選択」をクリックします。
  - b. 「ワークフローの選択」フォームで、ドロップダウン・リストから適切なワークフロー・プロセスを選択し、「ワークフローの選択」をクリックします。

- c. 「参加者の設定」フォームで、表示されるロールごとに 1 つ以上のユーザーを選択し、「参加者の設定」をクリックします。
  - d. 「続行」をクリックします。  
WebCenter Sites によって変更が保存され、「スタート・メニュー」フォームが再表示されます。
9. 「スタート・メニュー」フォームで「保存」をクリックします。
10. 構成するアセット・タイプを追加するたびに[手順 1-9](#)を繰り返します。

## ユーザー・アカウントとサイト・デスクトップ

WebCenter Sites インタフェースを使用するコンテンツ・プロバイダと同様に、サイト・デスクトップのアプリケーションを使用するコンテンツ・プロバイダも、WebCenter Sites のユーザー・アカウントを保持する必要があります。サイト・デスクトップを使用する個々のユーザー・アカウントは、次の ACL を保持する必要があります。

- Browser
- ElementReader
- PageReader
- RemoteClient
- xceleeditor
- UserReader
- Visitor

ユーザー・アカウントの作成の詳細は、[103 ページの「ユーザーの編集」](#)および[605 ページの「カスタム・ユーザー用の必須の ACL」](#)を参照してください。

サイト・デスクトップのユーザーに次の情報を与えます。

- ユーザー名とパスワードの組合せ
- Sites 管理システムへのログインに適した URL

サイト・デスクトップを使用して WebCenter Sites にログインするためには両方の情報が必要です。

WebCenter Sites の URL は、次の規則を使用しています。

`http://<server>:<port>/<context>`

ここで、

- `<server>` は、WebCenter Sites を実行するマシンのホスト名または IP アドレスです。
- `<port>` は、WebCenter Sites が接続をリスニングするポートです。
- `<context>` は、WebCenter Sites アプリケーションのインストール時にこのアプリケーションに割り当てられたアプリケーション・コンテキスト・ルート (URI) です。

## サイト・デスクトップのクライアント・アプリケーションのインストール

サイト・デスクトップの機能を使用するためには、サイト・デスクトップのクライアントをクライアント・マシンにインストールする必要があります。

### 注意

サイト・デスクトップをインストールする前に、クライアント・マシンが次の状態であることを確認します。

- Microsoft Windows および Word のサポートされているバージョンを実行している。
- UTF-8 の文字セットを使用するテキストの入力および表示をサポートしている。

### サイト・デスクトップ・クライアントをインストールするには：

1. 付属している ZIP ファイルには、サイト・デスクトップ・インストーラが次のパスに配置されています。

ContentServer/Xcelerate/cs\_client

ここには、/32bit フォルダと /64bit フォルダがあり、システムによって選択する必要があります。

2. ダウンロードしたアーカイブを一時ディレクトリに抽出し、そのディレクトリを開きます。
3. サイト・デスクトップ・インストーラ (.msi) を起動し、表示される手順に従ってください。

### 注意

1 つ以上の言語パックが、Sites システムにインストールされている場合、インストールされている言語パックに対応してローカライズされたバージョンのサイト・デスクトップ・クライアントがページに一覧表示されます。そのような場合、ユーザーの言語プリファレンスに適したバージョンをダウンロードしてください。(言語パックは、パッチ・セット 1 にあります。)

## クライアント・アプリケーションに対するロケールの指定

Sites システムにインストールされた言語パックに基づき、「ダウンロード」ページが動的に生成されます。Sites システムに言語パックがインストールされている場合、「ダウンロード」ページに、その言語で「サイト・デスクトップ」オプションが表示され、csdesktop.exe ファイルがその言語のヘルプ・ファイルのバージョンをインストールします。

サイト・デスクトップ・ユーザーが初めて WebCenter Sites にログインすると、「ログイン」ダイアログ・ボックスが英語で表示されます。ユーザーは、「言語の選択」リンクをクリックし、インストールしたサイト・デスクトップのヘルプ・ファイルのバージョンと一致する言語を選択します。

ユーザーが言語を選択すると、サイト・デスクトップは、該当する XML 言語ファイルを WebCenter Sites からユーザーのハード・ドライブにコピーします。サイト・デスクトップは、ユーザーが別の言語を選択するまで、メニュー名とダイアログ・ボックスのテキストに対して選択された言語ファイルの情報を使用します。

また、WebCenter Sites サーバーの言語ファイルが更新された場合は必ず、サイト・デスクトップ・ユーザーが次に WebCenter Sites にログインした際に、「言語の選択」リンクを使用してハード・ディスクの言語ファイルを更新するよう、ユーザーに通知するようにしてください。

## サイト・デスクトップ構成のテスト

サイト・デスクトップのアプリケーションが適切に構成されているかどうかを判別するためには、Microsoft Word インタフェースからアセットを作成して保存した後、WebCenter Sites を使用してこのアセットを調査する必要があります。次の手順を実行します。

1. Microsoft Word を開きます。
2. ボタン・バーで、「WebCenter Sites」→「ログイン」を選択します。
3. 「ログイン」ダイアログ・ボックスで、次の情報を入力します。
  - RemoteClient ACL を保持するユーザーの名前とパスワード。
  - サーバーの URL。次のとおりです。  
`http://<server>:<port>/<context>`  
ここで、
    - <server> は、WebCenter Sites を実行するマシンのホスト名または IP アドレスです。
    - <port> は、WebCenter Sites が接続をリスニングするポートの番号です。
    - <context> は、WebCenter Sites アプリケーションのインストール時にこのアプリケーションに割り当てられたアプリケーション・コンテキスト・ルート (URI) です。
4. 必要に応じて、サイト、アセット・タイプおよびサブタイプを選択し、フィールド・マーカー・リストを設定します。
5. Word ドキュメントにテキストを入力します。
6. テキストの範囲全体を選択 (強調表示) します。
7. ツールバーのフィールド・マーカーボタンをクリックし、テキストを入力しているフィールドに対してマーカーを選択します。
8. Word ドキュメントでテキスト入力が必要なすべてのアセット・フィールドに対して、手順 5-7 を繰り返します。
9. 省略記号 (...) でフィールド・マーカーに値を設定します。これらのフィールド・マーカーは、非表示のフィールドを表します。つまり、これらの値は、Word ドキュメントで表示されませんが、アセットの定義の一部であるため、WebCenter Sites データベースに格納されます。省略記号のあるフィールド・マーカーをクリックすると、ダイアログ・ボックスが開きます。適切なデータを入力します。

10. ボタン・バーで、「WebCenter Sites」→ WebCenter Sites に保存を選択します。
11. 今作成したアセットのタイプにアクセスできるユーザーで、管理者のインタフェースにログインします。
12. アセットを作成したサイトを選択し、「検索」をクリックします。
13. サイト・デスクトップで入力したアセットを見つけます。
14. 「調査」をクリックします。(「編集」を選択しないでください。)
15. フィールドに表示されているデータを調べて、サイト・デスクトップでマークしたデータが、「調査」フォームで表示されているデータと一致していることを確認します。

## Word アセット用 Word テンプレートの構成

WebCenter Sites ツールバーのフィールド・マーカーは Word のブックマークです。そのため、テンプレートの適切なエリアを、WebCenter Sites フィールド・マーカーか独自の Word ブックマークのいずれかでマークし、Word アセット用の .dot ファイルを作成できます。

新しい Word ドキュメントを作成し、プレースホルダ・テキストを、そのタイプのアセットに対して行うように、適切なフィールド・マーカーでマークします(名前や説明などのメタデータ・フィールドのテキストをマークしていないことを確認してください。)次に、このドキュメントを、WebCenter Sites に保存するのではなく、テンプレート(.dot ファイル)として保存してください。

## サイト DocLink

Oracle WebCenter Sites DocLink ( サイト DocLink ) は、WebCenter Sites がフレックス・アセットとして管理するドキュメント、グラフィックなどのファイルをアップロードおよびダウンロードするドラッグアンドドロップ・インタフェースを提供します。このアプリケーションは、WebCenter Sites データベース内のフレックス親アセットおよびフレックス・アセットの階層データ構造を、Windows Explorer アプリケーションのフォルダおよびファイルのように表します。

### 概要

サイト DocLink によって、コンテンツ・プロバイダは、サード・パーティのツールを使用して、オンライン・サイトのコンテンツを作成した後、WebCenter Sites インタフェースにログインする必要なく WebCenter Sites データベースにコンテンツを保存することが可能になります。

サイト DocLink を使用すると、コンテンツ・プロバイダは、Word ファイル、Excel スプレッドシート、グラフィック・ファイルなどの単一のバイナリ・ファイルをそれぞれ、ドキュメントが保存されるアセット・タイプまたは親アセット・タイプを表す Microsoft Windows Explorer の該当するフォルダにドロップすることで、これらのファイルを WebCenter Sites データベースヘドラッグ・アンド・ドロップできるようになります。

コンテンツ・プロバイダがファイルをフォルダにドロップすると、サイト DocLink は、管理者がシステムを構成した方法に応じて、必要なメタデータを入力するようユーザーに求めるダイアログ・ボックスを表示します。このようなメタデータの例には、名前、説明などが含まれます。

サイト DocLink は、Word のサイト・デスクトップとは次の点で異なります。

- サイト・デスクトップを使用すると、コンテンツ・プロバイダはコンテンツを作成し、そのドキュメント内の、Word インタフェース内から様々なフィールドへ挿入する必要があるデータにタグを付けます。ドキュメントがアセットとしてデータベースに格納されると、タグ付けプロセスによって構造化アセットが作成されます。
- サイト DocLink を使用すると、コンテンツ・プロバイダはサード・パーティのアプリケーションにコンテンツを作成しますが、データに構造を与えるアプリケーションは使用しません。

コンテンツ・プロバイダは、バイナリ・ファイルを Windows Explorer インタフェースにドロップし、このドロップに応じて表示されるサイト DocLink のダイアログ・ボックスを使用してファイルに関する情報を提供します。必要な情報は、ファイルが格納されるアセット・タイプの種類に応じて異なり、ユーザーがファイルをドロップしたデータベースのグラフィカル表現内の場所に基づきます。

## サイト DocLink のアセット・タイプの構成

サイト DocLink アセット・タイプとは、サイト DocLink が受け入れるように構成されたフレックス・アセット・タイプまたはフレックス親アセット・タイプのことです。サイト DocLink アセット・タイプは、アップロードされたバイナリ・ファイルを格納するフレックス・アセット・タイプである必要があります。つまり、アセットを定義するフレックス属性の 1 つ (なおかつ 1 つのみ) は、**BLOB** 型である必要があります。

サイト DocLink アセット・タイプを構成するには：

- フレックス・アセット・タイプまたはフレックス親アセット・タイプがそのサイトに有効であることを確認します。アセット・タイプが、**BLOB** 型のフレックス属性を 1 つ保持していることを確認します。
- フレックス・アセット・タイプまたはフレックス親アセット・タイプをサイト DocLink に対して有効にします。
- 有効にしたこれらのアセット・タイプの定義ごとに、サイト DocLink で使用できるフィールドを指定し、どのフィールドがアップロード・フィールドかを指定します。
- 各サイト DocLink アセット・タイプに対してサイト DocLink のスタート・メニュー・アイテムを作成します。

## サイト DocLink に対するアセット・タイプの有効化

サイト DocLink に対して選択されたサイトにアセット・タイプを追加することで、サイト DocLink に対してそのアセット・タイプを有効にします。

サイト DocLink に対してアセット・タイプを有効にするには：

1. ツリーで、次のいずれかを実行します。
  - 「管理」タブで、「サイト」を開き、サイト DocLink を有効にするサイトを開きます。
  - 構成しているサイトにログイン済で、「サイト管理者」タブへのアクセスが可能な場合は、「サイト管理者」タブを選択します。
2. 選択したアセット・タイプで「サイト DocLink」を開き、「サイト DocLink の有効化」をダブルクリックします。



「アセット・タイプの有効化」フォームが表示され、この選択したサイトで、サイト DocLink に対してまだ有効でないアセット・タイプが表示されます。

Name	Description
<input type="checkbox"/> Content_C	Content
<input type="checkbox"/> Product_C	Product
<input type="checkbox"/> FSIIVisitor	Site Visitor

3. 選択したサイトでサイト DocLink に対して有効にするアセット・タイプの横にあるチェック・ボックスを選択します。
4. 「アセット・タイプの有効化」をクリックします。
5. 「スタート・メニューの選択」画面が表示されます。「スタート・メニュー」に含めるアイテムを選択します。  
有効にしたアセット・タイプ (手順 2 で「アセット・タイプの有効化」画面で選択したアイテム) が、選択したサイトのサイト DocLink ノードの下にある「管理」タブに表示されます。
6. 468 ページの「WebCenter Sites ツールバーに配置するフィールドの指定」の手順 3 に進みます。

## サイト DocLink で使用できるフィールドの指定

この手順を始める前に、次の条件が満たされていることを確認してください。

- サイト DocLink で構成するアセット・タイプを有効にしていること。アセット・タイプがまだ有効でない場合は、476 ページの「サイト DocLink に対するアセット・タイプの有効化」を参照してください。
- 構成するアセット・タイプが BLOB 型の属性を 1 つ保持していること。

サイト DocLink を使用してそのタイプのアセットを作成または編集するコンテンツ・プロバイダが使用できるアセット・タイプのフィールドを指定するには：

- ツリーで、次のいずれかを実行します。
  - 「管理」タブで、「サイト」を開き、サイト DocLink を構成しているサイトを開きます。
  - 構成しているサイトにログイン済で、「サイト管理者」タブへのアクセスが可能な場合は、「サイト管理者」タブを選択します。
- 選択したサイトで「サイト DocLink」を開き、目的のアセット・タイプを開いてサブタイプをダブルクリックします。  
アセット・サブタイプの構成画面が表示されます。
- 「構成の編集」をクリックします。  
WebCenter Sites に次のようなフォームが表示されます。

Configuration of asset type Media\_C, subtype FSII\_Image for Sites DocLink

Fieldname	Description	Enable?	Accepts Documents?
enddate	End Date	<input checked="" type="checkbox"/>	-
Attribute_FSII_ImageFile	Image File	<input checked="" type="checkbox"/>	- + + (No size restriction) <a href="#">Select Document Types</a>
SegRating		<input type="checkbox"/>	-
template	Template	<input type="checkbox"/>	-
Attribute_FSII_AltText	Alt Text	<input checked="" type="checkbox"/>	-
Dimension		<input checked="" type="checkbox"/>	-
Group_FSII_ImageCategory	FSII_ImageCategory	<input type="checkbox"/>	-
description	Description	<input checked="" type="checkbox"/>	-
path	Path	<input type="checkbox"/>	-
name	Name	<span style="color: red;">Required</span>	-
filename	Filename	<input type="checkbox"/>	-
startdate	Start Date	<input checked="" type="checkbox"/>	-
Relationships		<input type="checkbox"/>	-
Publist	Publication	<input type="checkbox"/>	-
renderid		<input type="checkbox"/>	-

[Cancel](#) [Save](#)

- アセット・タイプの構成フォームで、サイト DocLink インタフェースに表示させる各フィールドに対して「有効化」オプションを選択します。有効なフィールドとは、ユーザーがそのフィールドでデータを閲覧および編集できることを意味します。  
一般的なルールとして、次の種類のフィールドを有効にします。
  - ファイルを保持する BLOB 属性 (1 つのみ)

- テキストを入力するフィールド (Description など)

### 注意

- **Publist** フィールドを有効にしないでください。アセットはサイト DocLink インタフェースを介して他のサイトと共有できません。
- ユーザーがフィールドに値を入力する必要がある場合、そのフィールドに対して「有効化」オプションを選択したかどうかに関係なく、**アセットの作成時に**値の入力が求められます。アセットの保存後に必須フィールドの書込み保護を必要とする場合、そのフィールドを有効にしないでください。サイト DocLink ユーザーがアセットを右クリックし、「プロパティ」を選択した際に、その必須フィールドが表示されなくなります。

5. ドキュメントが格納されるフィールドとして指定するアップロード・フィールド (フレックス属性) の横にある「ドキュメント・タイプの選択」をクリックします。

### 注意

開発者がこのタイプのアセット用にフレックス・フィルタを作成した場合、アップロード・フィールドとして指定するフレックス属性は、フレックス・フィルタ用に入力属性として指定されているフィールドと一致する必要があります。

フレックス・フィルタの詳細は、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』を参照し、開発者に相談してください。

WebCenter Sites に次のようなフォームが表示されます。

Fieldname	Document Types	Max file size
Image File	Any BMP image file CSS StyleSheet HTM page HTML page Image in GIF format	<input type="text"/> bytes

Cancel Save

6. 「ドキュメント・タイプ」フィールドでは、このアップロード・フィールドが格納できるドキュメントのタイプを選択します。複数を選択するには、**[Ctrl]** キーを押しながらクリックします。  
「ドキュメント・タイプ」フィールドに表示される値は、MimeType 表のエントリの description 列から取得されます。選択するドキュメント・タイプが

リストに表示されない場合、WebCenter Sites Explorer を使用して、MimeType 表にそのドキュメント・タイプを追加します。

### 注意

「任意」オプションを選択すると、サイト DocLink は、MimeType 表にエントリがあるかどうかにかかわらず、このタイプのアセットに対して、あらゆるタイプのファイルを受け入れます。

ただし、MimeType 表にファイル・タイプに対するエントリがない場合、WebCenter Sites インタフェースでそのタイプのファイルを適切に表示することができません。

7. 「最大ファイル・サイズ」フィールドでは、このアップロード・フィールドに格納できるドキュメントのサイズ制限 (ある場合) を指定します。
8. 「保存」をクリックします。
9. アセット・タイプの構成フォームで、再度「保存」をクリックします。
10. 構成するサブタイプまたは定義を追加するたびに[手順 2-8](#)を繰り返します。
11. 構成するアセット・タイプを追加するたびに[手順 2-10](#)を繰り返します。

## サイト DocLink のスタート・メニュー・アイテムの作成

サイト DocLink の構成によって、サイト DocLink インタフェースで利用できるフィールドが決定されますが、コンテンツ・プロバイダは、これらのアセット・タイプ用のスタート・メニュー・アイテムを作成するまで、サイト DocLink ではこのタイプのアセットを作成できません。

### サイト DocLink のスタート・メニュー・アイテムを作成するには：

1. 「管理」タブで、「アセット・タイプ」を開き、次に目的のアセット・タイプを開きます。
2. 選択したアセット・タイプで「スタート・メニュー」を開き、「新規追加」をダブルクリックします。
3. 「名前」フィールドに、アイテムの名前を入力します。
4. 「説明」フィールドに、スタート・メニュー・アイテムの短い説明を入力します。
5. 「タイプ」フィールドで、「サイト DocLink」を選択します。

### 注意

ソースがこのバージョンのサイト DocLink であるアセットに対して、デフォルトのフィールド値は設定できません。サイト DocLink のスタート・メニュー・アイテムを作成するときは「デフォルト値」セクションを無視してください。

6. 「サイト」フィールドで、このスタート・メニュー・アイテムを使用できるサイトを選択します。複数のサイトを選択するには、**[Ctrl]** キーを押しながらクリックします。
7. 「ロール」フィールドで、スタート・メニュー・アイテムにアクセスできるすべてのロールを選択します。複数のロールを選択するには、**[Ctrl]** キーを押しながらクリックします。
8. (オプション) このスタート・メニュー・アイテムで作成されるアセットのワークフロー・プロセスの詳細を構成するには、次の手順を実行します。
  - a. 「ワークフローの選択」をクリックします。
  - b. 「ワークフローの選択」フォームで、ドロップダウン・リストから適切なワークフロー・プロセスを選択し、「ワークフローの選択」をクリックします。
  - c. 「参加者の設定」フォームで、表示されるロールごとに 1 つ以上のユーザーを選択し、「参加者の設定」をクリックします。
  - d. 「続行」をクリックします。  
そのワークフロー情報が保存され、「スタート・メニュー」フォームが再表示されます。
9. 「スタート・メニュー」フォームで、「保存」をクリックします。
10. 構成するアセット・タイプを追加するたびにこの手順を繰り返します。

## ユーザーとサイト DocLink

WebCenter Sites インタフェースを使用するコンテンツ・プロバイダと同様に、サイト DocLink アプリケーションを使用するコンテンツ・プロバイダも WebCenter Sites のユーザー・アカウントを保持する必要があります。サイト DocLink を使用するユーザーのアカウントには、次の ACL が必要です。

- Browser
- ElementReader
- PageReader
- RemoteClient
- UserReader
- xceleeditor

ユーザー・アカウントの作成の詳細は、[96 ページの「新しいユーザーの作成」](#)を参照してください。

サイト DocLink のユーザーに次の情報を与えます。

- ユーザー名とパスワードの組合せ
- WebCenter Sites へのログインに適した URL

サイト DocLink を使用して WebCenter Sites にログインするためには両方の情報が必要です。

WebCenter Sites の URL は、次の規則を使用しています。

`http://<server>:<port>/<context>`

ここで、

- `<server>` は、WebCenter Sites を実行するマシンのホスト名または IP アドレスです。
- `<port>` は、WebCenter Sites が接続をリスニングするポートです。
- `<context>` は、WebCenter Sites アプリケーションのインストール時にこのアプリケーションに割り当てられたアプリケーション・コンテキスト・ルート (URI) です。

## サイト DocLink のクライアント・アプリケーションのインストール

サイト DocLink の機能を使用するためには、サイト DocLink のクライアントをクライアント・マシンにインストールする必要があります。

**サイト DocLink のクライアントをインストールするには：**

1. 付属している ZIP ファイルには、サイト DocLink のインストーラが次のパスに配置されています。

`ContentServer/Xcelerate/cs_client`

ここには、/32bit フォルダと /64bit フォルダがあり、システムによって選択する必要があります。

2. ダウンロードしたアーカイブを一時ディレクトリに抽出し、そのディレクトリを開きます。

3. サイト DocLink インストーラ (.msi) を起動し、表示される手順に従ってください。

### 注意

WebCenter Sites のインストールで、1 つ以上の言語パックがインストールされている場合、インストールされている言語パックに対応してローカライズされたバージョンのサイト DocLink クライアントがページに一覧表示されます。そのような場合、ユーザーの言語プリファレンスに適したバージョンをダウンロードしてください。(言語パックは、パッチ・セット 1 にあります。)

## サイト DocLink 構成のテスト

サイト DocLink アプリケーションが適切に構成されているかどうかを判別するためには、サイト DocLink インタフェースからアセットを作成して保存した後、WebCenter Sites を使用してこのアセットを調べる必要があります。

### サイト DocLink の構成をテストするには：

1. WebCenter Sites Explorer を開きます。
2. 「サイト DocLink」をダブルクリックします。
3. 「ログイン」ダイアログ・ボックスで、次の情報を入力します。
  - サイト DocLink の URL。システムに適した URL については、[482 ページの「ユーザーとサイト DocLink」](#)を参照してください。
  - 必要な ACL ([482 ページの「ユーザーとサイト DocLink」](#)を参照) を保持するユーザーの名前とパスワード。
4. ファイル・システムからサイト DocLink ノードの下に表示されるファイル構造ヘドキュメントをドラッグし、該当する場所にドロップします。
5. 入力が必要のフィールドがある場合、「プロパティ」ダイアログ・ボックスが表示されます。必要な情報を入力し、アセットを保存します。
6. ブラウザを開き、今作成したアセットのタイプにアクセスできるユーザーで、管理者のインタフェースにログインします。
7. 要求されたら、アセットを作成したサイトを選択します。
8. サイト DocLink で作成したアセットを見つけ、「調査」フォームでそのアセットを開きます。
9. フィールドに表示されているデータを調べて、サイト DocLink で指定したデータが、「調査」フォームで表示されているデータと一致していることを確認します。

## Web モード

Web モードは WebCenter Sites の機能であり、これを使用すると、制限されたロールを実行する使用頻度の低いユーザーが、アセットのレンダリングされた

(プレビュー) バージョンから直接コンテンツを検索、編集および送信できるようになります。

この機能を有効にするには通常、次の 3 つの手順が必要です。

- 管理者は、**Sites** 管理システムで `futuretense_xcel.ini` ファイルの `xcelerate.enableinsite` プロパティを `true` に設定します。
- 開発者は、コンテンツ・プロバイダがこのように編集できるようにするフィールドに対して、**Web** モード機能を起動するテンプレートをコード化します。同じテンプレートでも、`xcelerate.enableinsite` が **Sites** 配信システムで `false` に設定されていると、そのシステム上では **Web** モードが表示されないことに注意してください。
- 適切な URL を決定し、**Web** モードを使用する必要がある **Sites** ユーザーがこれを使用できるようにします。

## Web モードの有効化

**Web モードを有効にするには：**

1. プロパティ・エディタを起動し、`futuretense_xcel.ini` ファイルを開きます。
2. 「**xcelerate**」タブで、`xcelerate.enableinsite` を選択し、値を `true` に設定します。
3. プロパティ・ファイルを保存し、プロパティ・エディタを閉じます。

**Web モードとプレビューで使用されるサーブレットとホストの名前を構成するには：**

1. プロパティ・エディタを起動し、`futuretense_xcel.ini` ファイルを開きます。
2. 「**xcelerate**」タブで、次のいずれかまたは両方を実行します。
  - a. `xcelerate.previewhost` プロパティを次のように設定します。  
`http://<server>:<port>/servlet/`
  - b. `xcelerate.preview servlet` プロパティの値を `ContentServer` から `Satellite` に変更します。

次に例を示します。

- コンテンツ・プロバイダが **Sites** のログインに使用する URL にポート番号を含める必要がない場合、ポート番号は `xcelerate.previewhost` プロパティの値に含めます。
- コンテンツ・プロバイダがポート番号を含める必要がある場合、そのプロパティに異なるポート番号を指定します。**Web** サーバーのポート番号または **Web** サーバーにリダイレクトを要求するポート番号のいずれかを使用します。
- 別名を作成し、`xcelerate.previewhost` プロパティにのみ、これを使用します。
- `xcelerate.preview servlet` プロパティを使用して、**WebCenter Sites** サーブレットではなく、**Satellite Server** サーブレットを指定します。



## プレビューに対する個別のブラウザ・セッションの維持

Sites 配信システムから提供しているオンライン・サイトが、訪問者に対してログインを要求する、またはデフォルトでログインさせる状況において、訪問者が、Sites 管理システム上のプレビューされるサイトに、WebCenter Sites で使用しているユーザー名と異なるユーザー名でログインする必要がある場合、コンテンツ・プロバイダにはプレビューに対する個別のブラウザ・セッションが必要となります。

プレビューに対して新しい個別のブラウザ・セッションがない場合は、プレビュー・セッションが開始すると、WebCenter Sites のセッションは終了します。これは、コンテンツ・プロバイダが未保存の作業を失う可能性があることを意味します。

プレビュー・セッションによって WebCenter Sites セッションが終了しないようにするために、次を実行することが可能です。

- コンテンツ・プロバイダが WebCenter Sites ユーザーのアカウントでプレビューしているサイトにログインするように、サイト・デザイナがオンライン・サイトを構成するようにします。
- Web サーバーが、WebCenter Sites ウィンドウで、現行セッションを閉じずに、新しいブラウザ・セッションをプレビュー・ウィンドウに対して開くように、Sites 管理システムを構成します。

Web サーバーが新しいブラウザ・セッションをプレビューされるアセットに対して開くように Sites 管理システムを構成するには、futuretense\_xcel.ini ファイルのプロパティ (xcelerate.previewhost および xcelerate.previewervlet) を構成します。

これらのプロパティを使用して、Sites 管理システムの URL を指定しますが、この URL は、コンテンツ・プロバイダが管理システムへのログインに使用する URL とは、なんらかの点で異なっている必要があります。次に例を示します。

- コンテンツ・プロバイダが Sites のログインに使用する URL にポート番号を含める必要がない場合、ポート番号は xcelerate.previewhost プロパティの値に含めます。
- コンテンツ・プロバイダがポート番号を含める必要がある場合、プロパティに対して異なるポート番号 (Web サーバーのポート番号または Web サーバーにリダイレクトを要求するポート番号) を指定します。
- 別名を作成し、xcelerate.previewhost プロパティにのみ、これを使用します。
- xcelerate.previewervlet プロパティを使用して、WebCenter Sites サーブレットではなく、Satellite Server サーブレットを指定します。

プロパティ・エディタを起動し、futuretense\_xcel.ini ファイルを開いて、**xcelerate** タブを選択し、次のいずれかまたは両方を実行します。

- xcelerate.previewhost プロパティを次のように設定します。  
Sun JES Application Server を含む、ほとんどのアプリケーション・サーバーの場合：  
`http://<server>:<port>/servlet/`
- xcelerate.previewervlet プロパティの値を ContentServer から Satellite に変更します。

## 第 23 章

# Lucene 検索エンジンの構成

Lucene は、WebCenter Sites に統合されているサード・パーティ製の検索エンジンです。Lucene は、WebCenter Sites の Contributor インタフェースの検索機能を動作させ、パブリック・サイト検索 API で Web サイト上の検索機能をサポートできるようにします。Contributor インタフェースでアセットの検索ができるようにするには、Lucene 検索エンジンを設定および構成する必要があります。この章では、システム上で Lucene を設定して維持する方法について説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [概要](#)
- [検索索引の設定](#)
- [バイナリ・ファイルの索引付け](#)
- [Lucene 検索エンジンの無効化](#)
- [検索索引の維持](#)
- [検索索引の問合せコードの記述](#)

## 概要

WebCenter Sites をインストールすると、WebCenter Sites データベースの検索機能と Lucene が使用可能になります。Lucene は、追加の設定なしですぐに使用できます。Lucene エンジンには Sites のインストール時に設定され、コンテンツ・コントリビュータ、Web サイト訪問者およびサード・パーティのアプリケーションがアセットを検索できるようになります。

この章には、Lucene 検索エンジンの使用方法、追加のアセットを検索可能にする方法、検索エンジンを一時停止または無効にする方法に関する情報が含まれています。

## 検索のための索引付け機能

コントリビュータ検索は、WebCenter Sites のデータベースではなく、Lucene によって機能する検索索引に対して実行されます。検索索引は索引付けと呼ばれる自動プロセスによって構築されます。このプロセスでは、検索問合せ中にすばやく取得できるようなフォームで、アセットデータを収集、解析および格納します。

検索結果は、検索の実行時に索引内で使用可能なデータのみに基づいて返されます。索引内に含まれるアセットが多くなるほど、構築と検索にかかる時間が長くなります。

索引付けするアセットのタイプは、検索の構成画面で選択します。選択したアセットが索引付けされ、検索できるようになります。索引付けから除外したアセット・タイプは、索引付けされないので、検索できなくなります。

索引が構築されたら、Lucene 検索エンジンが 30 秒ごとにイベントを実行して、索引付けに選択されたアセット・タイプに対する変更をチェックします。変更 (新しい検索アイテムの作成、既存のエントリの編集、エントリの削除など) が行われた場合、Lucene によって索引が自動的に更新されます。デフォルトで、索引データは <cs\_shared\_dir>/lucene ディレクトリ (<cs\_shared\_dir> は Sites 共有ファイル・システム・ディレクトリ) に格納されます。

## WebCenter Sites の検索機能

WebCenter Sites には、グローバル検索、アセット・タイプ検索といった検索機能が含まれており、固有の検索機能として、アセット・タイプ索引の属性の構成という機能があります。この検索オプションは「アセット・タイプ索引」オプションのサブセットです。これにより、索引付け対応のアセット・タイプに対して検索可能になる属性を指定できるようになります。

システム上のすべての検索を有効にすることができます。検索は、索引付けされたユーザー定義の属性の格納方法によって区別されます。

**グローバル検索**では、システム定義の属性を個別に索引付けし、ユーザーが固有の属性によって検索できるようにします。アセットのユーザー定義の属性値はすべて、1 つの表のセルにまとめて格納され、属性名は削除されます。つまり、グローバル検索を構成すると、ユーザーはすべてのユーザー定義の属性をアセット・タイプ別に検索するように制限されることになります。

たとえば、記事のアセットがあるとします。Jane Doe という文字列で検索できるかもしれませんが、固有のユーザー定義の属性 1 つだけに検索を絞ることはできません。すべてのユーザー定義の属性データは 1 つのセルにまとめて格納されて

おり、そのセルでは属性同士は区別されないからです。詳細は、[490 ページ](#)の「[A. グローバル検索：索引付けされた記事データ](#)」を参照してください。

**アセット・タイプ検索**では、システム定義とユーザー定義の両方の属性の各属性値が、それぞれの個別のセル内で、属性名によって索引付けされます。アセット・タイプ検索は、パブリック・サイト検索 API で使用され、Web サイト上の検索機能を有効にします。パブリック・サイト検索の詳細は、『*Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド*』を参照してください。

前述の記事アセットの例を使用すると、アセット・タイプ検索を有効にした場合は、名前というシステム定義の属性の中で、グローバル検索と同じように **Jane Doe** という文字列を検索できます。また、署名行というユーザー定義の属性や、このアセット・タイプのその他の属性内で文字列を検索することもできます。今度は、ユーザー定義の属性はその属性名の下に格納されているので、それらの固有の属性によって検索できます。詳細は、[490 ページ](#)の「[B. アセット・タイプ検索：索引付けされた記事データ](#)」を参照してください。

つまり、アセット・タイプ検索では、グローバル検索にはない固有性のレベルで検索結果を得ることができるのです。このターゲット化された検索機能の明白な利点に加えて、アセット・タイプ検索では、グローバル検索よりもすばやく検索結果を返すことができます。アセット・タイプ検索では、関連する属性のみに検索を限定することで、不必要な索引データで検索を実行する必要がなくなります。

**アセット・タイプ検索の属性の構成**を使用すると、**アセット・タイプ検索**によって有効になっているアセット・タイプに対して指定した属性のみに、検索を制限することができます。前述の記事アセットの例を使用すると、固有の属性（ヘッドラインや署名行など）に対する索引を構成したら、ユーザーはそれらの属性内のみで **Jane Doe** という文字列を検索することができます。詳細は、[490 ページ](#)の「[C. アセット・タイプ検索用に構成された属性：索引付けされた記事データ](#)」を参照してください。

[490 ページ](#)の表には、Lucene ベースの各検索の相違点と、それらの粒度のレベルが示されています。各表は、同じ記事タイプのアセットの索引を表していますが、それぞれの検索機能のタイプが異なっています。これらすべての表では、システム定義の属性データのみが同じ方法で格納されています。

### 注意

[490 ページ](#)の表は、グローバル検索、アセット・タイプ検索、属性固有の検索の粒度を示すものです。索引付けされたデータが検索エンジンによって実際に格納される方法を示すものではありません。

## A. グローバル検索 : 索引付けされた記事データ

システム定義の属性

ユーザー定義の属性

ID 番号	名前	変更日	開始日	終了日	ユーザー定義の属性値
1234	記事 1	01/01/08 00:00:00	02/02/08 00:00:00	03/02/08 00:00:00	Four Tips Beautiful Hair Jane Doe 1. Condition 2. Rinse with beer 3. Use shampoo sparingly 4. Wash daily
1235	記事 2	01/02/08 00:00:00	02/03/08 00:00:00	03/03/08 00:00:00	Four Tips Fuel Efficiency Jane Doe 1. Start slowly 2. Drive the speed limit 3. Get regular oil changes 4. Drive a small car
1236	記事 3	01/03/08 00:00:00	02/04/08 00:00:00	03/04/08 00:00:00	Four Tips Saving Money on Groceries Jane Doe 1. Clip coupons 2. Use a list 3. Shop weekly specials 4. Buy in bulk

グローバル索引は、すべてのアセット・タイプに対して 1 つの索引を作成します。

ユーザー定義の属性の値は、属性名なしで、1 つのセル (アセットごと) にまとめて格納されます。

## B. アセット・タイプ検索 : 索引付けされた記事データ

システム定義の属性

ユーザー定義の属性

ID 番号	名前	変更日	開始日	終了日	ヘッド ライン	サブヘッド ライン	署名行	記事テキスト
1234	記事 1	01/01/08 00:00:00	02/02/08 00:00:00	03/02/08 00:00:00	Four Tips	Beautiful Hair	Jane Doe	1. Condition 2. Rinse with beer 3. Use shampoo sparingly 4. Wash daily
1235	記事 2	01/02/08 00:00:00	02/03/08 00:00:00	03/03/08 00:00:00	Four Tips	Fuel Efficiency	Jane Doe	1. Start slowly 2. Drive the speed limit 3. Get regular oil changes 4. Drive a small car
1236	記事 3	01/03/08 00:00:00	02/04/08 00:00:00	03/04/08 00:00:00	Four Tips	Saving Money on Groceries	Jane Doe	1. Clip coupons 2. Use a list 3. Shop weekly specials 4. Buy in bulk

アセット・タイプ索引は、アセット・タイプごとに 1 つの索引を作成します。

ユーザー定義の属性の値は、それぞれの属性名の下で、別々のセルに格納されます。

## C. アセット・タイプ検索用に構成された属性 : 索引付けされた記事データ

システム定義の属性

ユーザー定義の属性

ID 番号	名前	変更日	開始日	終了日	ヘッド ライン	サブヘッド ライン	署名行	記事テキスト
1234	記事 1	01/01/08 00:00:00	02/02/08 00:00:00	03/02/08 00:00:00	Four Tips	Beautiful Hair	Jane Doe	1. Condition 2. Rinse with beer 3. Use shampoo sparingly 4. Wash daily
1235	記事 2	01/02/08 00:00:00	02/03/08 00:00:00	03/03/08 00:00:00	Four Tips	Fuel Efficiency	Jane Doe	1. Start slowly 2. Drive the speed limit 3. Get regular oil changes 4. Drive a small car
1236	記事 3	01/03/08 00:00:00	02/04/08 00:00:00	03/04/08 00:00:00	Four Tips	Saving Money on Groceries	Jane Doe	1. Clip coupons 2. Use a list 3. Shop weekly specials 4. Buy in bulk

アセット・タイプ索引の属性は、アセット・タイプごとに検索可能な属性の索引を作成します。

指定された属性のみが検索可能です (この例ではヘッドラインと署名行)。

検索では、データの索引付け方法以外に、次にまとめたような様々な機能が有効になります。

	グローバル索引	アセット・タイプ 索引	アセット・タイプ 索引の属性
有効化	Contributor インタ フェースでの検索		
	ライブ Web サイト上でのパブリック検索		

パブリック・サイト検索 API の詳細は、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』を参照してください。

## 検索索引の設定

Lucene の設定手順は次のとおりです。

1. **Lucene 検索エンジンの有効化** : Lucene を構成するには、まずシステム上で Lucene を有効にします。
2. **検索索引へのアセット・タイプの追加** : これにより、索引付けの必要があるアセットが Lucene に示されます。アセット・タイプは、グローバル索引とアセット・タイプ索引に追加できます。

索引付けするアセットを選択し、バイナリ・ファイルの索引付け ( 必要な場合 ) を有効にしたら、索引付けプロセスを開始できます。

Lucene は索引付け中に、選択されたアセット・タイプのアセットのコンテンツと、アセットが参照するバイナリ・ファイルのコンテンツ ( 該当する場合 ) を調べ、これらのアセットのエントリを索引内に作成します。グローバル索引ではすべてのアセットに対して 1 つの索引が作成され、アセット・タイプ索引ではアセット・タイプごとに 1 つの索引が作成されます。グローバル索引を作成してから、ユーザーが検索を実行すると、WebCenter Sites の Contributor インタフェースまたはライブ・サイト上の検索機能によってアセットが返されます。アセット・タイプ索引を作成してから、ユーザーが検索を実行すると、ライブ・サイト上の検索機能によってアイテムが返されます。

3. **アセット・タイプ索引の属性の構成** : アセット・タイプ索引を作成したら、固有のユーザー定義の属性を検索対象として選択できます。これらの指定された属性の索引を作成および移入してから、ユーザーが検索を実行すると、ライブ・サイト上の検索機能によって指定した属性が返されます。
4. **バイナリ・ファイルの索引付けの有効化** : 索引に追加した 1 つ以上のアセット・タイプでバイナリ・ファイルを参照するように設定する場合、これらのバイナリ・ファイルを参照するアセットを索引付けするときに、Lucene によってバイナリ・ファイルのコンテンツをテキストに変換するように構成できます。

## Lucene 検索エンジンの有効化

この項では、Lucene エンジンを実効化する方法について説明します。

Lucene エンジンを実動するには：

1. 「管理」タブで、「検索」を開き、「検索エンジン索引の開始 / 停止」をダブルクリックします。
2. 「検索エンジンの起動」をクリックします。

### Search - Enable Indexing

Use this screen to enable or disable search engine indexing.

Start Search Engine

Lucene で、選択したデータの索引付けを開始できるようになります。データの索引付けにかかる時間は、索引付けされるアセットの数と、使用しているシステムの速度によって異なります。

Lucene 検索エンジンは、一度起動したら、無効化されるまで継続して実行されます。索引付けの実行中は、選択したアセット・タイプに対する変更が検出され、索引が更新されます。索引の実行中、アセット・タイプのステータスは「有効」と表示されます。検索機能を削除する場合は、索引付けを停止するだけでなく、索引データを削除する必要もあります。[505 ページの「索引データの削除」](#)を参照してください。

## 検索索引へのアセット・タイプの追加

この項では、グローバル検索索引とアセット・タイプ索引にアセット・タイプを追加する方法について説明します。最初にそれぞれの索引が作成された後、Lucene は 30 秒ごとに変更をチェックします。デフォルトで、索引データは <cs\_shared\_dir>/lucene ディレクトリ (<cs\_shared\_dir> は Sites 共有ファイル・システム・ディレクトリ) に格納されます。データが追加されたら、索引付けが完全に停止するか、選択したアセット・タイプに対して一時停止するまで維持されます。Lucene による索引付けが行われるまで、WebCenter Sites の Contributor インタフェースやライブ・サイト上の検索機能によって、選択したタイプのアセットが返されることはありません。



検索索引に新しいアセット・タイプを追加するには：

1. Lucene エンジンを実効化します。
  - a. 「管理」タブで、「検索」を開き、「検索エンジン索引の開始 / 停止」をダブルクリックします。
  - b. 「検索エンジンの起動」をクリックします。
2. グローバル検索索引にアセット・タイプを追加します。
  - a. 「グローバル検索の構成」をダブルクリックします。
  - b. 「索引」ドロップダウン・リストで、「追加」を選択します。WebCenter Sites に、現在索引付けされていないアセット・タイプのリストが表示されます。

### Configure Global Search

This screen is used to configure the global search index. Actions will not take effect unless global index is running.  
 Step 1: Select an action > Step 2: Select Asset Types from table rows > Step 3: Click OK

For index: Add OK

**Add:** add asset types to index  
**Pause:** pause indexing on asset types  
**Delete:** delete asset types from index  
**Re-index:** re-index asset types

**Start Binary Indexing**

Start or Stop binary file indexing. Starting this index will allow content of binary files to be searched.

<input type="checkbox"/>	Asset Types	Status
<input type="checkbox"/>	AArticles	Index Enabled
<input type="checkbox"/>	AIImages	Index Enabled
<input type="checkbox"/>	AdvCols	Index Enabled
<input type="checkbox"/>	Article	Index Enabled
<input type="checkbox"/>	AttrTypes	Index Enabled
<input type="checkbox"/>	CAttributes	Index Enabled
<input type="checkbox"/>	CGroupTmpls	Index Enabled
<input type="checkbox"/>	Collection	Index Enabled
<input type="checkbox"/>	ContentGroups	Index Enabled

- c. 「アセット・タイプ」のリストで、索引付けするアセット・タイプを選択します。
- d. 「OK」をクリックします。

- e. 確認のポップアップ・ダイアログで、「OK」をクリックします。アセット・タイプステータスが「有効」に変わり、選択したアセット・タイプに対して索引付けが有効になります。このタイプの最初のアセットが作成されるとすぐに、そのアセット・タイプに対して索引が作成されます。
3. アセット・タイプ検索索引にアセット・タイプを追加します。
  - a. 「アセット・タイプ検索の構成」をダブルクリックします。
  - b. 「索引」ドロップダウン・リストで、「追加」を選択します。WebCenter Sites に、現在索引付けされていないアセット・タイプのリストが表示されます。

**Configure Asset Type Search**

This screen is used to configure the attribute based asset search index. Actions may not take effect unless attribute based asset index is running.

Step 1: Select an action > Step 2: Select Asset Types from table rows > Step 3: Click OK

For index:

**Add:** add asset types to index  
**Pause:** pause indexing on asset types  
**Delete:** delete asset types from index  
**Re-index:** re-index asset types

**Start Binary Indexing**

Start or Stop binary file indexing. Starting this index will allow content of binary files to be searched.

<input type="checkbox"/>	Asset Types	Status
<input type="checkbox"/>	AArticles	Index Disabled
<input type="checkbox"/>	AIImages	Index Disabled
<input type="checkbox"/>	AdvCols	Index Disabled
<input type="checkbox"/>	Article	Index Disabled
<input type="checkbox"/>	AttrTypes	Index Disabled
<input type="checkbox"/>	CAttributes	Index Disabled
<input type="checkbox"/>	CGroupTmpIs	Index Disabled

- c. リストで、索引付けするアセット・タイプを選択します。
  - d. 「OK」をクリックします。表示される確認のポップアップ・ダイアログで、「OK」をクリックします。
- アセット・タイプのステータスが「有効」に変わり、選択したアセット・タイプに対して索引付けが有効になります。このタイプの最初のアセットが作成されるとすぐに、そのアセット・タイプに対して索引が作成されます。

4. 必要に応じて、バイナリ・ファイルの索引付けを有効にします (「[バイナリ索引作成の開始](#)」をクリックします)。バイナリ・ファイルの索引付けの詳細は、「[バイナリ・ファイルの索引付け](#)」を参照してください。

#### 注意

グローバル検索索引は、すべてのアセット・タイプに対して 1 つの索引を作成します。アセット・タイプ索引は、個々のアセット・タイプごとに 1 つの索引を作成します。詳細は、[490 ページ](#)の表を参照してください。

## アセット・タイプ索引の属性の構成

特定のアセット・タイプの固有の属性に対する索引付けを構成できます。選択されたアセット・タイプの固有の属性が選択できるようにするには、まずそのアセット・タイプに対して索引付けを有効にする必要があります。Lucene を有効にして、ライブ・サイト上で検索を実行したら、索引付けされた属性データが検索条件と一致したアセットが返されます。

**選択されたアセット・タイプの属性を構成するには：**

1. 構成するアセット・タイプがアセット・タイプ索引にまだ追加されていない場合は、追加します。手順については、[493 ページ](#)の「[検索索引に新しいアセット・タイプを追加するには：](#)」を参照してください。
2. 「管理」タブで、「検索」を開き、「アセット・タイプ索引の属性の構成」をダブルクリックします。

3. 「アセット・タイプ」ドロップダウン・リストで、構成するアセット・タイプを選択します。WebCenter Sites に、選択したアセット・タイプの属性のリストが表示されます。

### Configure Attributes for Asset Type Index

This screen is used to configure the index source information of the attribute for the selected asset type. Asset types needs to be enabled for search first before they can appear below in the drop down. Actions may not take effect unless attribute based asset index is running.

Asset Type:

Enabled	Attribute	Type	Tokenized	Stored
<input checked="" type="checkbox"/>	createdby	TEXT	false	true
<input checked="" type="checkbox"/>	description	LARGE_TEXT	false	true
<input checked="" type="checkbox"/>	enddate	DATETIME	false	true
<input checked="" type="checkbox"/>	name	TEXT	false	true
<input checked="" type="checkbox"/>	startdate	DATETIME	false	true
<input checked="" type="checkbox"/>	updateddate	DATETIME	false	true

### 注意

選択されたアセット・タイプのすべての属性を有効にするには、「すべて選択」をクリックします。

4. 次の情報も表示されます。
  - **有効**: 指定した属性が、その特定のアセット・タイプの索引付けに対して有効化されているかどうかを示します。属性を無効化するには、その属性のチェックボックスを選択解除します。
  - **タイプ**: 属性に格納されるデータのタイプを示します。たとえば、NUMERIC の場合は価格情報が格納されていることを示している可能性があります。TEXT や DATETIME のデータを持つこともできます。
  - **トークン化済**: このデータをテキストに変換してから索引付けする場合は、「True」を選択します。トークン化されていないデータは 1 語として索引付けされ、読み手に解釈してもらえない可能性があります。

- **格納済**: 指定した属性の元のテキスト全体が索引に追加されているかどうかを示します。索引にテキスト全体を格納する場合は、「**True**」を選択します。

#### 注意

リストされている各アセット・タイプに対して、少なくとも 1 つの属性を有効にする必要があります。

5. 選択されているアセット・タイプに対する変更が完了したら、「**保存**」をクリックします。

## バイナリ・ファイルの索引付け

バイナリ・ファイルとは、Word や PDF ドキュメントなど、テキスト以外のタイプのファイルのことです。アセットがバイナリ・ファイルを参照しない場合や、参照先のファイルに索引付けのできないコンテンツ (画像やビデオ) が含まれている場合は、このオプションを無効のままにしておくことができます。

## バイナリ・ファイルの索引付けの有効化

索引付けのキューに追加した 1 つ以上のアセット・タイプで、WebCenter Sites ファイル・システム内に格納されたバイナリ・ファイルを参照するように設定する場合、これらのバイナリ・ファイルを参照するアセットを索引付けするときに、Lucene によってバイナリ・ファイルのコンテンツをテキストに変換するように構成できます。(デフォルトでは、Lucene は、索引付けされたアセットが参照するすべてのバイナリ・ファイルを無視するように設定されています。)

### バイナリ・ファイルの索引付けを有効化するには:

1. Lucene エンジンがまだ有効でない場合は、これを有効にします。
  - a. 「**管理**」タブで、「**検索**」を開き、「**検索エンジン索引の開始 / 停止**」をダブルクリックします。
  - b. 「**検索エンジンの起動**」をクリックします。  
ボタン名が「**検索エンジンの停止**」に変わります。
2. 「**管理**」タブで、「**検索**」を開きます。
3. 次のいずれかを行います。
  - グローバル検索に対してバイナリ・ファイルの索引付けを有効化するには、「**グローバル検索の構成**」をダブルクリックします。
  - アセット・タイプ検索に対してバイナリ・ファイルの索引付けを有効化するには、「**アセット・タイプ検索の構成**」をダブルクリックします。
4. 「**バイナリ索引作成の開始**」をクリックします。  
索引付けされたアセットが参照するすべてのバイナリ・ファイルが、Lucene によってテキストに変換されます。

## バイナリ・ファイルの索引付けの無効化

索引付けされたアセットが参照するバイナリ・ファイルのコンテンツを、Lucene によって変換する必要がなくなったと判断したら、この機能を無効化してパフォーマンスを向上させることができます。

**バイナリ・ファイルの索引付けを無効化するには：**

1. Lucene エンジンがまだ有効でない場合は、これを有効にします。
  - a. 「管理」タブで、「検索」を開き、「検索エンジン索引の開始 / 停止」をダブルクリックします。
  - b. 「検索エンジンの起動」をクリックします。  
ボタン名が「検索エンジンの停止」に変わります。
2. 「管理」タブで、「検索」を開きます。
3. 次のいずれかを行います。
  - グローバル検索に対してバイナリ・ファイルの索引付けを無効化するには、「グローバル検索の構成」をダブルクリックします。
  - アセット・タイプ検索に対してバイナリ・ファイルの索引付けを無効化するには、「アセット・タイプ検索の構成」をダブルクリックします。
4. 「バイナリ索引作成の終了」をクリックします。  
Lucene は、索引付けされたアセットが参照するすべてのバイナリ・ファイルが無視するようになります。

## Lucene 検索エンジンの無効化

パフォーマンスを向上させる場合は、Lucene エンジンを実行を停止することができます。このエンジンを停止させると、アセットを追加または削除したり、索引付けを一時停止することができなくなります。アセットの索引を再作成することもできなくなります。

索引付けを停止するには：

1. 「管理」タブで、「検索」を開き、「検索エンジン索引の開始 / 停止」をダブルクリックします。
2. 「検索エンジンの停止」をクリックします。

ボタン名が「検索エンジンの起動」に変わります。

これで Lucene エンジンによる索引付けが無効になります。ただし索引データは保持されるので、Contributor インタフェースやパブリック・サイトでの検索では、前回索引を構築したときに含まれていたアセットが返されます。索引データを削除する（つまり検索機能を削除する）場合は、[505 ページの「索引データの削除」](#)を参照してください。

### 注意

グローバル検索の索引付けを停止すると、Contributor インタフェースの検索機能やパブリック・サイトで使用される検索索引が更新されなくなります。このため、検索結果が不正確になります。

- Contributor から検索機能を削除するには、グローバル索引からすべてのアセットを削除することも必要です。手順については、[505 ページの「索引データの削除」](#)を参照してください。
- 索引付けの停止中にアセットを追加または削除した場合は、索引付けを再起動するときに索引を再構築することで、正確な検索索引を作成する必要があります。索引の再構築については、[503 ページの「索引の再作成」](#)を参照してください。

## 検索索引の維持

Lucene の設定後は、アセットに対する一括操作、索引の再作成、索引データの削除、または検索エンジンの固有の問合せのためのコード記述を行うために、索引付けの一時停止などのタスクを実行する必要がある場合があります。次の各項では、これらのメンテナンス・タスクについて説明します。

- [索引付けの一時停止と再開](#)
- [索引の再作成](#)
- [索引データの削除](#)
- [検索索引の問合せコードの記述](#)

## 索引付けの一時停止と再開

索引付けの一時停止と停止は同じように機能します。索引付けの一時停止では、選択したアセット・タイプの索引付けを一時停止することができます。一方、検索索引を停止すると、すべてのアセットに対する索引付けが停止します。

多数のアセットを追加および削除する場合は、追加または削除するアセット・タイプの索引付けを一時停止することで、プロセスの速度を上げることができます。これらの変更内容を検索索引に反映させるには、索引の再作成機能を使用して、追加または削除したすべてのアセット・タイプの索引付けを行う必要があります。

- [グローバルおよびアセット・タイプの索引付けの一時停止](#)
- [グローバルおよびアセット・タイプの索引付けの再開](#)

## グローバルおよびアセット・タイプの索引付けの一時停止

索引付けが有効になっている場合、WebCenter Sites データベースに追加または更新されたすべてのアセットは、保存後に索引付けされます。多数のアセットを保存する場合、そのアセット・タイプの索引付けを一時停止すると、処理速度が上がります。たとえば、アセットを WebCenter Sites データベースに一括でインポートする処理を実行する場合、索引付けを一時停止することができます。アセットがデータベースに追加されたら、索引付けを再開し、すべてのアセット・タイプの索引を再作成して、すべての新しい（および既存の）アセットの索引付けを一度に行います。

1 つのアセット・タイプの索引付けを一時停止した場合、Lucene では次の操作が実行されます。

- 選択されたアセット・タイプの索引付けを停止する。
- 選択されたアセット・タイプの索引データを保存する。

索引付けを一時停止しても、検索では既存の索引に対する結果が引き続き返されます。ただし、索引付けの一時停止後に行われたデータベースへの変更は索引付けされません。このため、索引付けの一時停止後のデータベースへの変更は、検索結果に反映されなくなります。

### 索引付けを一時停止するには：

1. Lucene エンジンがまだ有効でない場合は、これを有効にします。
  - a. 「管理」タブで、「検索」を開き、「検索エンジン索引の開始 / 停止」をダブルクリックします。
  - b. 「検索エンジンの起動」をクリックします。  
ボタン名が「検索エンジンの停止」に変わります。
2. 「管理」タブで、「検索」を開きます。
3. 次のいずれかを行います。
  - グローバル検索に対して索引付けを一時停止するには、「グローバル検索の構成」をダブルクリックします。
  - アセット・タイプ検索に対して索引付けを一時停止するには、「アセット・タイプ検索の構成」をダブルクリックします。



4. 「索引」ドロップダウン・リストで、「一時停止」を選択します。WebCenter Sites に、索引付けを一時停止できるアセット・タイプのリストが表示されます。

### Configure Global Search

This screen is used to configure the global search index. Actions will not take effect unless global index is running.  
Step 1: Select an action > Step 2: Select Asset Types from table rows > Step 3: Click OK

For index:

**Add:** add asset types to index  
**Pause:** pause indexing on asset types  
**Delete:** delete asset types from index  
**Re-index:** re-index asset types

Start or Stop binary file indexing. Starting this index will allow content of binary files to be searched.

<input type="checkbox"/>	Asset Types	Status
<input type="checkbox"/>	AArticles	Index Enabled
<input type="checkbox"/>	AIImages	Index Enabled
<input type="checkbox"/>	AdvCols	Index Enabled
<input type="checkbox"/>	Article	Index Enabled
<input type="checkbox"/>	AttrTypes	Index Enabled
<input type="checkbox"/>	CAttributes	Index Enabled
<input type="checkbox"/>	CGroupTmps	Index Enabled
<input type="checkbox"/>	Collection	Index Enabled

5. 「アセット・タイプ」のリストで、索引付けを一時停止するアセット・タイプ

### 注意

ドロップダウン・リストで「一時停止」を選択したときにアセット・タイプが表示されない場合は、そこで処理を中止します。すべてのアセット・タイプに対して索引付けがすでに一時停止されているか、索引付けのためのアセット・タイプが選択されていないからです。

プを選択します。

6. 操作の選択肢が表示されるドロップダウン・リストの横にある「OK」ボタンをクリックします。
7. 表示される確認のポップアップ・ダイアログで、「OK」をクリックします。

Lucene 検索エンジンによって、選択されたタイプのアセットに対する索引付けが一時停止され、索引データが保存されます。アセット・タイプのステータスが「一時停止」に変わります。

索引付けを一時停止した後、データベースへの変更は索引付けされないの  
で、索引付けの一時停止後のデータベースの変更内容は、検索結果には反映  
されません。

## グローバルおよびアセット・タイプの索引付けの再開

索引付けを一時停止または無効化した後は、索引の再作成を行って、すべてのア  
セット・データが索引に含まれている状態にする必要があります。次の手順に  
従って索引付けを再起動してください。

### 索引付けを再開するには：

1. 一時停止されたアセット・タイプに対して索引付けを再起動します。手順に  
ついては、[492 ページの「検索索引へのアセット・タイプの追加」](#)を参照し  
てください。
2. 索引付けの一時停止中にデータベースにアセットを追加した場合、索引を再  
作成して、新しいデータが索引に含まれるようにする必要があります。「[索  
引の再作成](#)」に進みます。
3. 索引付けの一時停止中にアセットを削除した場合は、通常の索引付けプロセ  
スによって削除されたアセットが検出され、索引からそのデータが削除され  
ます。ただし、多数のアセットを削除した場合は、削除したアセット・タイ  
プの索引全体を削除して、索引を再作成した方が速い場合もあります。
  - 索引データの削除の詳細は、[505 ページの「索引データの削除」](#)を参照  
してください。
  - 索引の再作成については、「[索引の再作成](#)」の項を参照してください。

## 索引の再作成

索引付けの一時停止または停止中、WebCenter Sites では、データベースに追加されるアセットは追跡されません。したがって、これらのアセットを検索するには、索引付けが一時停止されたすべてのアセット・タイプの索引を再作成する必要があります。

アセットの索引の再作成にかかる時間は、索引付けされるアセットの数と使用しているシステム構成によって異なります。選択したタイプのアセットに対して更新された検索結果が返されるのは、Lucene 検索エンジンがこれらを索引付けしてからです。

### 索引を再作成するには：

1. Lucene エンジンがまだ有効でない場合は、これを有効にします。
  - a. 「管理」タブで、「検索」を開き、「検索エンジン索引の開始 / 停止」をダブルクリックします。
  - b. 「検索エンジンの起動」をクリックします。
2. 「管理」タブで、「検索」を開きます。
3. 次のいずれかを行います。
  - グローバル検索に対して索引を再作成するには、「グローバル検索の構成」をダブルクリックします。
  - アセット・タイプ検索に対して索引を再作成するには、「アセット・タイプ検索の構成」をダブルクリックします。
4. 「索引」ドロップダウン・リストで、「索引の再作成」を選択します。

WebCenter Sites には、現在、索引用に選択されているアセット・タイプが表示されます。

### Configure Global Search

This screen is used to configure the global search index. Actions will not take effect unless global index is running.  
Step 1: Select an action > Step 2: Select Asset Types from table rows > Step 3: Click OK

For index: Re-index OK

**Add:** add asset types to index  
**Pause:** pause indexing on asset types  
**Delete:** delete asset types from index  
**Re-index:** re-index asset types

Start Binary Indexing

Start or Stop binary file indexing. Starting this index will allow content of binary files to be searched.

<input type="checkbox"/>	Asset Types	Status
<input type="checkbox"/>	AArticles	Index Enabled
<input type="checkbox"/>	AIImages	Index Enabled
<input type="checkbox"/>	AdvCols	Index Enabled
<input type="checkbox"/>	Article	Index Enabled
<input type="checkbox"/>	AttrTypes	Index Enabled
<input type="checkbox"/>	CAttributes	Index Enabled
<input type="checkbox"/>	CGroupTmpIs	Index Enabled
<input type="checkbox"/>	Collection	Index Enabled

### 注意

ドロップダウン・リストで「索引の再作成」を選択したときにアセット・タイプが表示されない場合は、そこで処理を中止します。索引付けのキューにアセット・タイプが存在しないか、キューの中のすべてのアセット・タイプに対する索引付けが一時停止になっているからです。

5. リストから、索引データを構築 (または再構築) するアセット・タイプを選択します。
6. 「OK」をクリックします。
7. 表示される確認のポップアップ・ダイアログで、「OK」をクリックします。索引付けが開始されます。  
選択されたアセット・タイプのステータスが「有効」に変わります。

選択したタイプのアセットに対して更新された検索結果が返されるのは、Lucene 検索エンジンがこれらを索引付けしてからです。

## 索引データの削除

特定のタイプのアセットに対して検索を実行する必要がなくなった場合、不要なデータを索引から削除すれば、検索結果がさらにすばやく返ってくるようになります。

また、索引付けを停止した後に多数のアセットを削除した場合も、索引を削除する必要が生じることがあります。このような場合、該当する索引データを削除してから残りのアセットの索引を再作成した方が、通常の索引付けプロセスを実行して削除されたアセットを検出するよりも速いことがあります。索引付けの一時停止と再起動の詳細は、[500 ページの「索引付けの一時停止と再開」](#)を参照してください。

索引データを削除すると、WebCenter Sites では次の操作が実行されます。

- 選択されたアセット・タイプの索引付けを一時停止する。
- 選択されたアセット・タイプの索引データを削除する。

以下に示す手順の実行後は、選択されたタイプのアセットに対して索引データが使用できなくなります。検索結果では、選択されたタイプのアセットによるデータが返されなくなります。

### 索引からデータを削除するには：

1. 「管理」タブで、「検索」を開きます。
2. 次のいずれかを行います。
  - グローバル検索からアセットを削除するには、「**グローバル検索の構成**」をダブルクリックします。
  - アセット・タイプ検索からアセットを削除するには、「**アセット・タイプ検索の構成**」をダブルクリックします。
3. 「索引」ドロップダウン・リストで、「**削除**」を選択します。

4. WebCenter Sites には、現在索引付けされているアセット・タイプが表示されます。

**Configure Global Search**

This screen is used to configure the global search index. Actions will not take effect unless global index is running.  
Step 1: Select an action > Step 2: Select Asset Types from table rows > Step 3: Click OK

For index:

**Add:** add asset types to index  
**Pause:** pause indexing on asset types  
**Delete:** delete asset types from index  
**Re-index:** re-index asset types

**Start Binary Indexing**

Start or Stop binary file indexing. Starting this index will allow content of binary files to be searched.

<input type="checkbox"/>	Asset Types	Status
<input type="checkbox"/>	AArticles	Index Enabled
<input type="checkbox"/>	AIImages	Index Enabled
<input type="checkbox"/>	AdvCols	Index Enabled
<input type="checkbox"/>	Article	Index Enabled
<input type="checkbox"/>	AttrTypes	Index Enabled
<input type="checkbox"/>	CAttributes	Index Enabled
<input type="checkbox"/>	CGroupTmpls	Index Enabled
<input type="checkbox"/>	Collection	Index Enabled

### 注意

ドロップダウン・リストで「削除」を選択したときにアセット・タイプが表示されない場合は、そこで処理を中止します。索引付けされたアセットが存在しないからです。

5. リストから、索引データを削除するアセット・タイプを選択します。
6. 「OK」をクリックします。
7. 表示される確認ダイアログ・ボックスで、「OK」をクリックします。

WebCenter Sites によって、選択されたタイプのアセットに対する索引付けが一時停止され、索引データが削除されます。

「グローバル検索の構成」では、アセット・タイプのステータスが「一時停止」に変わります。このステータスは、既存の索引には新しいアセットが追加されないことを示しています。

「アセット・タイプ検索の構成」では、アセット・タイプのステータスが「無効」に変わります。このステータスは、このアセットが索引付けできない状態になったことを示しています。

WebCenter Sites の Contributor インタフェースやパブリック・サイトの検索機能では、アセットが返されなくなります。

アセットを再び検索可能にするには、アセット・タイプを索引付けにもう一度追加する必要があります。手順については、[492 ページの「検索索引へのアセット・タイプの追加」](#)を参照してください。

## 検索索引の問合せコードの記述

次のコードは、Lucene 検索エンジンの索引を問い合わせる方法を示すサンプル・コードです。このコードは、ユーザーが特定のサイトと特定のアセット・タイプに対する検索を実行する必要がある、サイトは `currentSite`、タイプは `assetType` という変数で渡されるという前提に基づいています。ユーザーは次のコードを使用して、グローバル索引に対する問合せを記述します。Lucene 検索エンジンからは、すべてのアセットか、指定したサイトに属するタイプについて指定された `maxResults` (合計が `maxResults` よりも大きい場合) が返されます。

```
ICS ics = Factory.newCS();
IndexSourceConfig srcConfig = new IndexSourceConfigImpl(ics);
SearchEngineConfig engConfig = new SearchEngineConfigImpl(ics);
IndexSourceMetadata sourceMd =
    srcConfig.getConfiguration("Global");
String engineName = sourceMd.getSearchEngineName();
SearchEngine eng = engConfig.getEngine(engineName);
String currentSite = (String)
    props.get(SearchIndexFields.Global.SITEID);
QueryExpression siteExpr = new
    QueryExpressionImpl(SearchIndexFields.Global.SITEID,
        Operation.CONTAINS, currentSite);
siteExpr = siteExpr.or(SearchIndexFields.Global.SITEID,
    Operation.EQUALS, "0");
QueryExpression typeQ = new
    QueryExpressionImpl(SearchIndexFields.Global.ASSET_TYPE,
        Operation.EQUALS, assetType);
QueryExpression qe = typeQ.and(siteExpr);
qe.setMaxResults(maxResults);
SearchResult<ResultRow> res =
    eng.search(Collections.singletonList("Global"), qe);
```





## 第 24 章

# リビジョン追跡

WebCenter Sites は、表内の行が一度に複数のユーザーにより編集されないようにするリビジョン追跡機能を用意しています。表に対してリビジョン追跡を有効にすると、WebCenter Sites はその表内の行の複数のバージョンを保持します。

WebCenter Sites はこのリビジョン追跡機能をアセット・タイプに適用します。管理者は、追跡する必要のあるアセット・タイプと保存するリビジョンの数を決定します。その後、必要に応じて、コンテンツ・プロバイダがそれらのアセットをチェックインおよびチェックアウトし、バージョンを比較できます。

この章では、リビジョン追跡を有効にする方法およびアセットのバージョンを管理する方法を説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [概要](#)
- [リビジョン追跡の有効化](#)
- [リビジョン追跡の無効化](#)
- [リビジョンのロック解除](#)
- [アセット以外の表に対する追加リビジョン追跡機能](#)

## 概要

WebCenter Sites は、リビジョン追跡 API によりリビジョン追跡機能を提供します。この API は、アセット・タイプの表に対する追加リビジョン追跡機能の提供に使用されます。

アセット・タイプに対してリビジョン追跡を有効にすると、WebCenter Sites では、そのタイプのアセットに対して、**トラッカ表**と呼ばれる新しい表が作成されます。管理者は、保存するバージョン数を指定し、トラッカ表が追跡するアセットのサポート・ファイルの保存に使用するストレージ・ディレクトリも指定します。

WebCenter Sites のリビジョン追跡の実装により、次の機能が提供されます。

- **チェックアウトとチェックイン。**

**チェックアウト**は、一度に 1 人のユーザーのみが編集できるように、アセットをロックします。

**チェックイン**は、アセットへのロックを解除し、バージョン番号を上げ、バージョンの数が構成した制限内であるかどうかを判断します。新しいバージョンが制限を超えている場合、最も古いバージョンが削除され、次のバージョンのための余地を作ります。

- **複数のバージョンのアセットの格納。**

アセット・タイプに対してリビジョン追跡を有効にすると、WebCenter Sites は**トラッカ表**にバージョンを保存します。アップロード・データは、[511 ページの「RTInfo 表」](#)に示すように、指定したストレージ・ディレクトリに格納されます。過去のバージョンが格納されている（つまり、履歴が存在する）ため、ユーザーは、アセットを前のバージョンに**ロールバック**したり、アセットの 2 つのバージョンの**相違**を調べられます。

- **管理または保守機能。**

管理者は、アセットの**過去のバージョン**を削除したり、アセットの**チェックアウト**を上書きし、再度**チェックイン**することで、アセットに対する**チェックアウト**を消去できます。

アセット・タイプが追跡されるとき、WebCenter Sites は、これらのタイプのアセットの「**新規**」フォームおよび「**編集**」フォームで、**チェックイン**、**チェックアウト**、およびその他のリビジョン追跡機能を提供します。

## トラッカ表とストレージ・ディレクトリ

アセット・タイプのリビジョン追跡を有効にすると、WebCenter Sites は、ソース表のレコードのリビジョン情報を格納するトラッカ表を作成します。トラッカ表には、そのアセット・タイプのメインのストレージ表と同じ名前に `_t` を付加した名前が付与されます。たとえば、記事 (article) アセット・タイプのトラッカ表の名前は `Article_t` となります。属性タイプ (attribute type) アセット・タイプのトラッカ表の名前は `AttrTypes_t` となります。

追跡されたアセット・タイプ表の各レコードに対し、そのバージョン情報を格納する該当のトラッカ表にいくつかの行があります。トラッカ表には次の 2 種類の列があります。

- リビジョン追跡システムがすべてのバージョンを追跡する必要のあるシステム情報を格納する列

- ストレージ・ディレクトリに格納されるテキスト・ファイルの ID を保持する列

新しいバージョンのアセットがチェックインされると、WebCenter Sites は、各アセット・タイプのアップロード (URL) フィールドおよび 64 文字を超える文字を保持するように構成されたテキスト・フィールドのデータを保持するための個別のテキスト・ファイルを作成します。これらのファイルは、*{shared}/rtStorage/ {AssetType}* に格納されます。ストレージ・ディレクトリには、アセットのバージョンごとにこれらのテキスト・ファイルが 1 セット格納されます。

### 注意

トラッカ表にはシステム情報のみが保持されるため、これらは Sites Explorer には表示されません。トラッカ表の情報はデータベース・ツールで変更しないでください。

## RTInfo 表

トラッカ表が非表示のままであるのに対し、RTInfo 表は WebCenter Sites Explorer で表示されます。この表には、どの表のリビジョンが追跡されるのかについての情報が保持されます。これには次のような列があります。

列	説明
tblname	リビジョンが追跡される表の名前。アセット・タイプの場合、これはメインのアセット・タイプ表の名前です。
versions	このタイプの各アセットに対して格納するバージョン数。
storage	このタイプのアセットの各バージョンのテキスト・ファイルを保持するストレージ・ディレクトリへのパス。パスは、 <i>{shared}/rtStorage/ {AssetType}</i> にある共有フォルダにあります。
recordupdate	バージョンが最後にトラッカ表に格納されたときのタイムスタンプ。
trackingupdate	ソース表に対してリビジョン追跡が有効になった時間。

## リビジョン追跡と 2 つのアセット・モデル

ベーシック・アセットのデータ・モデルはフレックス・アセットのデータ・モデルとは異なるため、この 2 つのアセット・モデルでは、リビジョン追跡システムの動作が異なります。

- ベーシック・アセットの場合、メインのアセット・ストレージ表の行のみが追跡されます。
- フレックス・アセットとその他の複数表のアセット・タイプ (テンプレートと CSElement) の場合、それらのすべての表の該当する行の情報は、1 つのオブジェクトにシリアルライズされ、そのアセット・タイプのトラッカ表に格納されます。

たとえば、テンプレート・アセットに対してリビジョン追跡を有効にすると、Template、SiteCatalog および ElementCatalog の各表の該当する行は、1 つのオブジェクトにシリアルライズされ、Template\_t 表に格納されます。

## 暗黙的チェックインと明示的チェックイン、および明示的チェックアウト

アセット・タイプに対してリビジョン追跡が有効の場合、WebCenter Sites は暗黙的 (自動) チェックアウトと明示的 (手動) チェックアウトの両方と、明示的チェックイン機能を提供します。リビジョンが追跡されるタイプのアセットを作成または編集する場合、ユーザーが手動でそのアセットをチェックアウトする必要はありません。アセットは自動的にユーザーに割り当てられます。ただし、暗黙的チェックインはできません。「保存」をクリックしても、アセットは再度チェックインされません。ユーザーは手動でアセットをチェックインする必要があります。

これは、望ましい動作である場合も、そうではない場合もあります。たとえば、作成者が暗黙的にチェックアウトされたアセットに対して多数のリビジョンを作成している場合、その作成者が明示的にそのアセットのチェックインも行うまで、その変更は有効になりません。これにより、保存しておきたい古いバージョンが上書きされることを回避できます。

コンテンツ・プロバイダが暗黙的または明示的にアセットをチェックアウトすると、これを何回保存しても、手動で再度チェックインされるまでバージョンは格納されません。

## リビジョン追跡とアセット以外の表

アセット・タイプに対するリビジョン追跡の使用に加え、アセット以外の表にリビジョン追跡を実施することもできます。

このためには、「管理」タブの「管理ツール」機能を使用して、表に対する追跡を有効にします。すると、WebCenter Sites は対応するトラッカ表を作成し、追跡される表をサポートします。これには、アセット・タイプのトラッカ表と同様に nameOfTable\_t という名前が付けられます。たとえば、ソース (Source) 表に対してリビジョン追跡を有効にすると、トラッカ表の名前は Source\_t となります。

アセット以外の表に対してリビジョン追跡が有効になっている場合、Sites Explorer のメニューまたは「管理」タブの「管理ツール」ノードからアクセスできるリビジョン追跡機能を使用して、行をロック (チェックアウト) し、完了したらその行をロック解除 (再度チェックイン) できます。

アセット以外の表のリビジョン追跡に対して、Sites Explorer ツール以外の追加サポートを提供する必要がある場合、開発者は、WebCenter Sites リビジョン追跡 API およびリビジョン追跡 XML または JSP タグを使用して、追加のフォーム

をコード化できます。詳細は、*Oracle WebCenter Sites 開発者タグ・リファレンス* および *Oracle WebCenter Sites Java API リファレンス* を参照してください。

### 注意

WebCenter Sites データベースからアセット以外の表を削除する必要があります、そのテーブルがリビジョン追跡されている場合は、表を削除する前に追跡を解除してください。

## バージョンの数

アセットまたはデータベースの行の各リビジョンは、ディスク領域を占有します。したがって、保存するリビジョン数の決定は、次の要因に基づくものである必要があります。

- 使用可能なディスク領域の量
- 一般的なアセット ( または行 ) のデータ・サイズ
- いくつかのバージョンのロールバックが必要となる可能性

たとえば、少量の ASCII データから構成されるアセットは、ほとんど領域を占有しないため、多数のリビジョンでもあまりディスク領域を取らない可能性があります。しかし、大量のバイナリ・データを保持するアセットの各バージョンは、かなりの量のディスク領域を占有する可能性があります。2 番目の場合、ロールバックに必要な最小限のバージョンを格納して、適切なバランスを取る必要があります。

## リビジョン追跡の有効化

この項では、アセットおよびアセット以外の表に対してリビジョン追跡を有効にする方法を示します。

### 注意

リビジョン追跡がパブリッシュのターゲット宛先で ElementCatalog または SiteCatalog のいずれかに対してオンになっている場合、テンプレートのパブリッシュは失敗し、テンプレートは壊れる可能性があります。

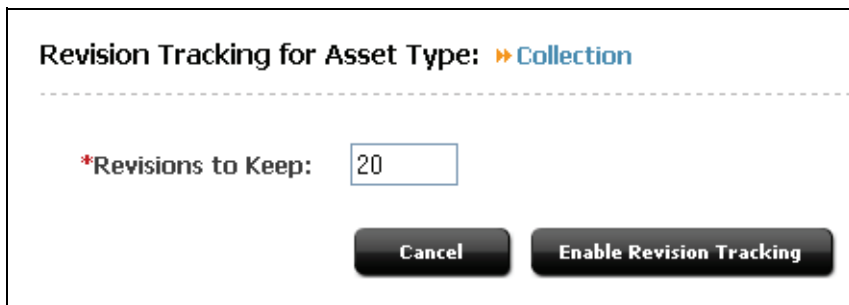
ターゲット宛先でリビジョン追跡を有効にすることはお薦めできません。

## アセットに対するリビジョン追跡の有効化

アセットに対してリビジョン追跡を有効にするには：

1. 「管理」タブで、「アセット・タイプ」を開き、リビジョン追跡を有効にするアセット・タイプを開きます。
2. 選択したアセット・タイプの下で「リビジョン追跡」を開き、「追跡」をダブルクリックします。

アセット・タイプの追跡フォームが表示されます。



3. 「保持するリビジョン」フィールドで、選択したアセット・タイプの各アセットについて、WebCenter Sites で格納するリビジョンの数を入力します。この数のリビジョンが格納されると、最も古いリビジョンが、次のリビジョンによって上書きされます。

レコード・ロック機能にのみリビジョン追跡を使用し、前のバージョンへのロールバックが必要ない場合は、このフィールドを 1 に設定できます。

4. 「リビジョン追跡の有効化」をクリックします。

## アセット以外の表に対するリビジョン追跡の有効化

アセットを保持しないデータベース表に対してリビジョン追跡を有効にするには、「管理ツール」ノードを使用します。

アセット以外の表に対してリビジョン追跡を有効にするには：

1. 「管理」タブで「管理ツール」を開き、「リビジョン追跡」をダブルクリックします。
2. 表示されるフォームで、「表の追跡」を選択し、「OK」をクリックします。
3. 「ルート・ストレージ・ディレクトリの入力」フィールドで、表の行のリビジョンが格納されるディレクトリへのフルパスを入力します。ディレクトリ名の後にスラッシュ（またはバックスラッシュ）文字を入れないでください。
4. 「保持するリビジョンの数の入力」フィールドで、ロールバックのために WebCenter Sites で格納する必要のあるリビジョンの数を入力します。
5. リビジョン追跡を有効にしている各表の横にある「追跡」チェック・ボックスを選択します。
6. 「表の追跡」をクリックします。

## リビジョン追跡設定の編集

リビジョン追跡設定の調査および編集には、SiteGod ACL が必要です。SiteGod ACL がない状態で、追跡されるアセット・タイプまたはアセット以外の表の現在のリビジョン追跡設定の調査を試みても、システムではルート・ストレージ・ディレクトリの名前やリビジョンの数が表示されません。

リビジョン追跡設定ディレクトリはデータベースに影響を与えるため、これらの設定を変更する際は注意が必要です。

## ルート・ストレージ・ディレクトリの変更

### 注意

アセット・タイプまたはアセット以外の表のルート・ストレージ・ディレクトリを変更する場合、これに対して現在格納されているすべてのバージョンは失われます。

ルート・ストレージ・ディレクトリを変更する必要がある場合は、次の手順に従ってください。

1. アセット・タイプまたは表に対するリビジョン追跡を無効にします。無効にすると、そのアセット・タイプのすべてのバージョン・データは親がなくなります。
2. 新しいルート・ストレージ・ディレクトリを入力し、アセット・タイプまたは表に対するリビジョン追跡を有効にします。

## リビジョンの数の変更

### 増加

アセット・タイプまたは表に対して格納されるリビジョンの数を増やす場合は、「保持するリビジョン」フィールドの値を増やすのみです。

- **アセット・タイプの場合:**「管理」タブで、「アセット・タイプ」、変更するアセット・タイプ、「リビジョン追跡」の順に開き、「リビジョンの設定」をダブルクリックします。表示されるフォームを使用して、値を大きくします。
- **アセット以外の表の場合:**「管理」タブで、「管理ツール」→「リビジョン追跡」を開き、「表のリビジョンの設定」をダブルクリックします。表示されるフォームを使用して、値を大きくします。

## 減少

Sites 開発システムで構成設定をテストする際、または Sites 管理システムを微調整する際にバージョン数を減らす必要がある場合がありますが、完全に機能している管理システムではリビジョン追跡により格納されるバージョン数は減らないことをお勧めします。

「保持するリビジョン」フィールドの値を、そのアセット・タイプまたは表に対して現在格納されているリビジョン数未満に減らすと、次のようになります。

- 余分なバージョンのストレージ・ディレクトリ内のテキスト・ファイルは、親がなくなります。
- 余分なバージョンのトラッカ表内の行は、親がなくなります。

リビジョン数を減らす前に、余分なバージョン (最も古いバージョン) を削除することにより、トラッカ表内に親のない行が作成されることを回避できます。ただし、ストレージ・ディレクトリ内で親のないテキスト・ファイルが作成されることは回避できません。削除するファイルを判断することは非常に困難であるため、これらは削除しないでください。

リビジョン数を減らす必要がある場合は、次の手順を (この順序で) 実行してください。

1. 「**リビジョンの削除**」の手順に従います。
2. リビジョン数を減らすには、次のいずれかを行います。
  - **アセット・タイプの場合:**「管理」タブで、「アセット・タイプ」、変更するアセット・タイプ、「リビジョン追跡」の順に開き、「リビジョンの設定」をダブルクリックします。表示されるフォームを使用して、値を小さくします。
  - **アセット以外の表の場合:**「管理」タブで、「管理ツール」→「リビジョン追跡」を開き、「表のリビジョンの設定」をダブルクリックします。表示されるフォームを使用して、値を小さくします。

## リビジョンの削除

特定の条件の下で、リビジョンが追跡されているアセット・タイプまたは表の古いバージョンを削除する必要がある場合があります。

リビジョンを削除するには:

1. 「管理」タブで、**WebCenter Sites** 管理者ツールを開き、「リビジョン追跡」をダブルクリックします。



2. 操作する表の名前を入力します。表の名前がわからない場合は、次のいずれかを行います。
  - フィールドを空のままにします。WebCenter Sites はデータベース内のすべての表のリストを返します。
  - 名前の一部を入力し、最後にワイルドカード文字 (%) を付けます。WebCenter Sites は、条件に近い名前の表のリストを返します。
3. 「キーの値の入力」フィールドで、バージョンを削除するアセットまたは表の行の ID を入力します。(アセットの ID は、WebCenter Sites インタフェースで調査することによって取得できます。行の ID は、WebCenter Sites Explorer で表を調査することによって取得できます。)
4. 「リビジョンの削除」を選択し、「OK」をクリックします。
5. 「リビジョンの削除」フォームで、削除するバージョンの横にあるオプションを選択します。「すべて」ボタンを使用してすべてのボックスを選択したり、「なし」ボタンを使用してすべてのボックスを選択解除することもできます。
6. 「リビジョンの削除」をクリックします。

## リビジョン追跡の無効化

アセット・タイプまたはアセット以外の表に対してリビジョン追跡を無効にすると、次のようになります。

- トラッカ表は無効となりますが、削除されることはありません。つまり、ここに格納されているバージョンは親がなくなりますが、削除されることはありません。また、表に対してリビジョン追跡が無効になると、**WebCenter Sites** リビジョン追跡フォームを使用してバージョンを削除できなくなります。
- ストレージ・ディレクトリ内のテキスト・ファイルへのリンクはすべて壊れますが、ファイル自体は削除されません。これらも親がなくなります。

後でそのアセット・タイプまたはアセット以外の表に対するリビジョン追跡を有効にすると、古いバージョンおよびテキスト・ファイルは無視されます。これらは親がないままです。

これらの親のないバージョンおよびテキスト・ファイルはディスク領域を占有し、ディスク上にこれらが多数格納される場合もあるため、リビジョン追跡を無効にする場合は、ベスト・プラクティスとして次のタスクを次の順序で行うことをお勧めします。

1. 管理ツールのリビジョン追跡フォームを使用して、格納されている表のすべてのバージョンを削除します。[516 ページの「リビジョンの削除」](#)の手順を参照してください。
2. 表に対してリビジョン追跡を無効にします。この項の手順を参照してください。
3. そのアセット・タイプまたはデータベース表のストレージ・ディレクトリ内にあるリビジョン追跡ディレクトリからすべてのテキスト・ファイルを手動で削除します。

たとえば、アセット・タイプのストレージ・ディレクトリが `/Storage/AssetType` の場合、`/Storage/AssetType/AssetType` のリビジョン追跡ディレクトリからすべてのファイルを削除します。

### 注意

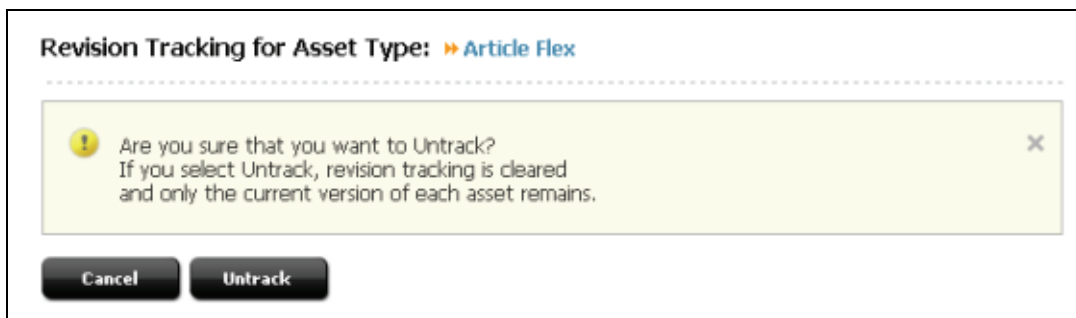
アセット・タイプのストレージ・ディレクトリのファイルは削除しないでください。

## アセット・タイプのリビジョン追跡の無効化

アセット・タイプに対してリビジョン追跡を無効にするには：

1. 「管理」タブで、「アセット・タイプ」を開き、リビジョン追跡を無効にするアセット・タイプを開きます。
2. 選択したアセット・タイプの下で「リビジョン追跡」を開き、「追跡の解除」をダブルクリックします。

WebCenter Sites に警告メッセージが表示されます。



3. 「追跡の解除」をクリックします。

## アセット以外の表に対するリビジョン追跡の無効化

アセット以外の表に対してリビジョン追跡を無効にするには：

1. 「管理」タブで「管理ツール」を開き、「リビジョン追跡」をダブルクリックします。
2. 「リビジョン追跡」フォームで、「表の追跡解除」を選択し、「OK」をクリックします。
3. 「表の追跡解除」フォームで、リビジョン追跡を無効にする各表の横にある「追跡を解除」チェック・ボックスを選択します。
4. 「表の追跡解除」をクリックします。

## リビジョンのロック解除

ユーザーの操作により、アセットが不適切なロック状態のままになる場合があります。このような状態を解決するのは管理者の役割です。

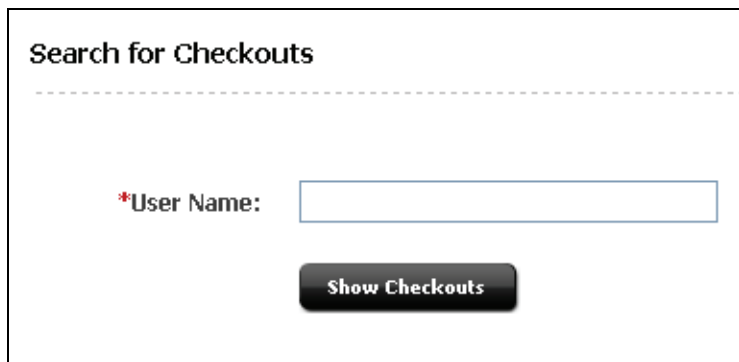
- アセット・タイプの場合、「管理」タブの「チェックアウトのクリア」機能を使用します。
- アセット以外の表の場合、「管理ツール」の下の「リビジョン追跡」機能を使用します。

## アセットに対するチェックアウトの消去

開始する前に、アセットがロックされているユーザーの名前を検索します。この情報は、そのアセットの「調査」フォームにリストされています。

アセットに対してチェックアウトを消去するには：

1. 「管理」タブで、「チェックアウトのクリア」をダブルクリックします。  
WebCenter Sites に「チェックアウトの検索」フォームが表示されます。



2. アセットがロックされたままのユーザーの名前を入力し、「チェックアウトの表示」をクリックします。
3. 選択されたユーザーにチェックアウトされたアセットのリストで、チェックアウトを元に戻す各アセットの横にある「クリア」チェック・ボックスを選択します。
4. 「チェックアウトのクリア」をクリックします。

## アセット以外の表のバージョンのロック解除

リビジョンを追跡しているアセット以外の表の行をロック解除するには、ロック解除する行のオブジェクト ID を特定する必要があります。WebCenter Sites Explorer を使用して表を調査し、そのオブジェクトの行を特定します。

表のオブジェクト ID を取得したら、次の手順を実行します。

1. 「管理」タブで「管理ツール」を開き、「リビジョン追跡」をダブルクリックします。
2. 表示されたフォームで、表のオブジェクト ID を入力し、「行のロック解除」を選択して「OK」をクリックします。
3. 「行のロック解除」フォームで、ロック解除する各行の横にある「ロック解除」チェック・ボックスを選択します。リスト内のすべての行を選択するには「すべて」ボタン、選択を消去するには「なし」ボタンを使用します。
4. 「リソースのロック解除」をクリックします。

## アセット以外の表に対する追加リビジョン追跡機能

管理者のインタフェースにより、管理者は、ユーザーが通常行っているすべての方法でリビジョンのステータスを変更できます。これにより、エラーが発生した場合に、管理的に介入することで、不適切なステータスを修正できます。

オプションはすべて、次のように、「リビジョン追跡」画面のラジオ・ボタンとして表示されます。

- ロック
- コミット
- 解放
- ロールバック
- 履歴
- 表の追跡 (514 ページの「リビジョン追跡の有効化」を参照)
- 表の追跡解除 (前述の 518 ページの「リビジョン追跡の無効化」を参照)
- 表のリビジョンの設定 (515 ページの「リビジョン追跡設定の編集」を参照)
- リビジョンの削除 (516 ページの「リビジョンの削除」を参照)
- 行のロック解除 (519 ページの「リビジョンのロック解除」を参照)

その他の各操作の概要は、次に示します。

### ロック

「ロック」フォームでは、「リビジョン追跡」フォームで指定した条件により制限される行のリストが表示されます。

- 別のユーザーによってロックされている行の横には赤いロック・アイコンが表示されます。
- 自分でロックしている行の横には青いロック・アイコンが表示されます。

「ロック」列のチェック・ボックスをクリックし、「ロック」ボタンをクリックすることで、任意のアセットをロックできます。チェックしたアイテムをロックする権限がない場合、これは失敗します。成功した場合、アイテムはチェックアウトされます。

### コミット

「コミット」フォームでは、コメント・ボックスと自分でチェックアウトした行のリストが表示されます。

更新するアイテムごとに、コメントを入力したり、「コミット」列のボックスをチェックできます。「ロックの継続」列のチェック・ボックスは、アイテムをコミット (チェックイン) した後にロックを解除するかどうかを指定します。

コミット・アクションにより、リビジョンが編集していたバージョンに更新されます。

## 解放

「解放」フォームでは、自分がチェックアウトしている行のリストが表示されます。

解放する各アイテムの「**解放**」列のボックスをチェックできます。解放は、コミットとは異なり、ロック後にアセットに対して行った変更が失われます。

このフォームは「行のロック解除」フォームとは異なり、自分でチェックアウトしたアセットがリストされるのみです。

## ロールバック

「ロールバック」フォームでは、行とそのバージョンのリストが表示されます。このリストは、「リビジョン追跡」フォームで入力した条件により制限されます。

### 注意

前のバージョンにアセットをロールバックするには、そのアセットの「調査」または「ステータス」フォームのボタンを使用します。

「ロールバック」列のラジオ・ボタンをクリックすることにより、ロールバック操作のバージョンを選択できます。ロールバックにより新しいバージョンが作成されます。これはロールバック先のバージョンと一致しますが、「「ロールバック」で作成したバージョン」というコメントが追加されます。

## 履歴

「履歴」フォームは、「ロールバック」フォームと似ていますが、情報提供のみである点が異なります。表示される各行に対し、日付およびリビジョン情報が提供されます。

## 第 6 部

## パフォーマンス拡張機能

この部では、inCache フレームワークと、ページ・キャッシングおよびアセット・キャッシングの構成プロセスについて説明します。

この部は、次の章で構成されています。

- 第 25 章「inCache フレームワーク」
- 第 26 章「inCache によるページのキャッシング」
- 第 27 章「inCache によるアセットのキャッシング」





## 第 25 章

# inCache フレームワーク

Oracle WebCenter Sites と Satellite Server には、*inCache* フレームワーク (または単純に *inCache*) と呼ばれるキャッシング・システムが付属しています。このシステムは、Terracotta 社によるオープン・ソースで標準ベースの製品である Ehcache の上に構築されています。従来の方法によるデータベースへのキャッシングと比べて、*inCache* では、Web サイト・パフォーマンスが向上しています。この章では、*inCache* フレームワークの概要を説明します。

この章は、次の項で構成されています。

- [inCache とは](#)
- [inCache の仕組み](#)
- [ノードの再起動](#)
- [リアルタイム・パブリッシュ時のページの再生成](#)
- [リモートの Satellite Server の inCache 機能](#)
- [ダブルバッファ・キャッシング](#)
- [要約](#)
- [次の手順](#)

## inCache とは

inCache は高パフォーマンス、メモリベースのページおよびアセット・キャッシング・システムで、これを使用すると、Oracle WebCenter Sites のデータを中央の共有リポジトリや共有ファイル・システムにキャッシュする必要がなくなります。inCache は、Terracotta 社によるオープン・ソースの Java キャッシング・フレームワークである Ehcache に基づいており、任意のキャッシング・システム上に実装できます。(Ehcache の詳細は、<http://ehcache.org/> を参照してください。)

inCache フレームワークは、レガシーのページ・キャッシング・フレームワーク (532 ページで説明する方法でリストア可能) に置き換わるものです。inCache では、デフォルトでアセットのキャッシングもサポートしています。inCache フレームワークでは、次のような利点が得られます。

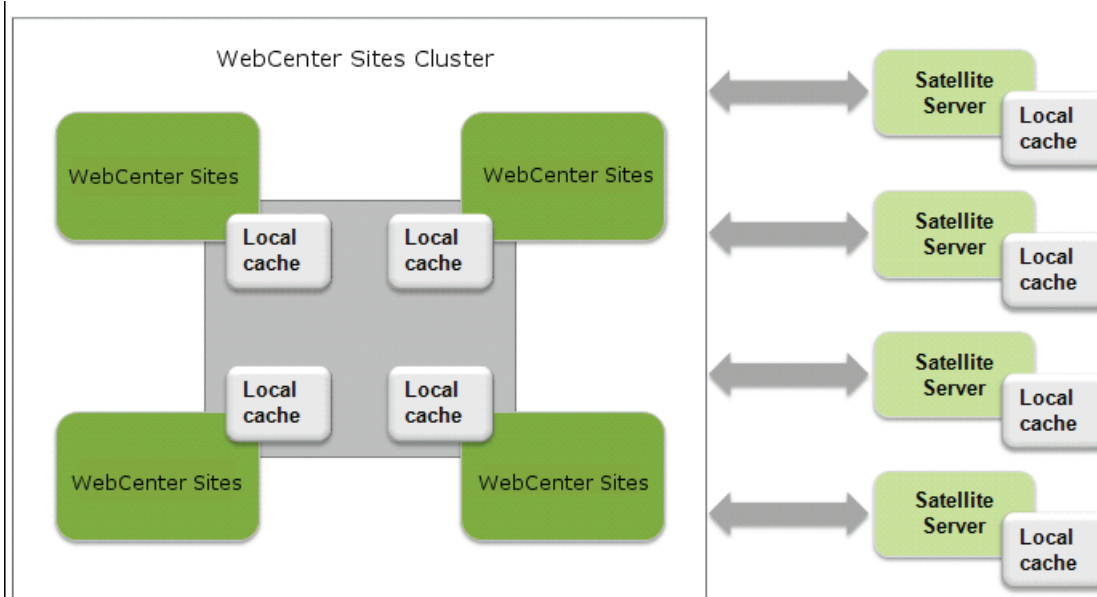
- 高パフォーマンス。レスポンス時間が短いので、パブリッシング・セッションの頻度を上げることができます。ページおよびアセットの効果的な無効化により、更新済コンテンツがすばやく提供されます。
- 分散化アーキテクチャ。ノードはそれぞれ独自のローカル・キャッシュを維持しています。inCache フレームワークでは、データベースのキャッシングと共有ディスクが排除されています。
- ブロードキャスト・システム。個別のノードがキャッシュ全体の完全なビューを持つ必要がなくなりました。コンテンツへの変更をリスニングしているノードが、個々のコンテンツの必要に応じてブロードキャストに応答します。
- リニアなスケーラビリティが強化され、ディスクやメモリーのデータ対して拡張。
- フェイルオーバーと永続性。シャットダウンされたノードはローカル・キャッシュ内にデータを保持し、再起動時に、中央管理されている無効化のレコードに対して自己更新します。
- オンデマンドのページ評価と無効化。ノードは、コンテンツがリクエストされたときのみ、現在キャッシュされているコンテンツを有効化して更新します。

この章では、主にページ・キャッシングについて説明します。全体を通して、ページという用語は、ページ・アセットではなくレンダリングされるページを意味で使用されています。アセットのキャッシングについての説明 (第 27 章) を理解するには、まずこの章の残りの部分を読むことをお勧めします。特に、「[inCache の仕組み](#)」をよく読んで、キャッシュ・コンテナに関する基本知識と、これらが相互機能する仕組みについて理解してください。

## inCache の仕組み

クラスタ化された環境では、inCache はクラスタのデータベースの外側の分散化されたアーキテクチャに実装されます。527 ページの図 18 に示すように、各ノードにはそれぞれ独自のローカル・キャッシュがあります。各 Oracle WebCenter Sites ノードは、他の Oracle WebCenter Sites ノードからのブロードキャストをリスニングすることで、ローカル・キャッシュを最新に保ち、HTTP を介してリモートの Satellite Server に更新を伝達します。

図 18: ローカル・キャッシュ



ノードのローカル・キャッシュはパーティションで区切られています。

- pageByQry キャッシュには、ノードの Web ページが格納されます。
- dependencyRepository キャッシュには、Web ページを構成するアセットの識別子が格納されます。

### 注意

pageByQry キャッシュは、ページ・キャッシュとも呼ばれます。

dependencyRepository キャッシュは、依存性キャッシュとも呼ばれます。

- notifier キャッシュは、編集またはパブリッシュのプロセスで変更されたアセットの識別子をブロードキャストします。ブロードキャストは、アセットの変更されたノードによって開始されます。リスニングするノードがブロードキャストに応答する方法は、ノードによって異なります。次に例を示します。
  1. ノード A の WebCenter Sites ユーザーがアセット A を編集します。
  2. ノード A の notifier キャッシュが、その他のすべてのノードに変更の通知をブロードキャストします。
  3. アセット A を含むすべての WebCenter Sites ノードが、それぞれ独自のローカル・キャッシュ内のアセットを無効化することで応答します。各ノードは独自の dependencyRepository キャッシュを参照し、アセットの識別子を無効にマークして、キャッシュ全体の依存性生成数を増分さ

せます。無効化されたアセットは、そのアセットを参照するページで使用できなくなるので、これらのページそのものも無効になります。ただし、**ノードは、ページがリクエストされるまでページを評価しません。**ここにパフォーマンス上の利点があります。

無効化されたアセットに対する依存性を持つページのリクエストにノードが応答する場合、このノードは pageByQry キャッシュを参照し、ページを評価し、無効化するページを決定し、ページをフラッシュし、新規ページを生成し、そのページを訪問者のブラウザに提示して、ローカル・キャッシュ内に新規ページとその**依存性**を記録します (依存性は、ページを構成するアセットの識別子として記録されます)。その時点から、ページが異常終了するか、アセットが再び無効化されるまで、ノードのローカル・キャッシュからは同じページが提示されます。

WebCenter Sites と Satellite Server は同じキャッシング・フレームワークを使用していますが、1 つだけ大きく異なる点があります。これは、**Satellite Server** ノードは、HTTP を介して WebCenter Sites ノードと通信しているという点です。

### 注意

pageByQuery キャッシュがページ・キャッシングのみに使用される場合は、このキャッシュがキャッシュ・コンテナの動作方法を示します。アセット・キャッシングの場合、inCache フレームワークでは AssetCache と呼ばれるよく似たコンテナが導入されています。これは pageByQuery と同じような方法で機能し、前述のように、dependencyRepository および notifier キャッシュと相互作用します。アセット・キャッシングの詳細は、[第 27 章「inCache によるアセットのキャッシング」](#)を参照してください。

## ノードの再起動

WebCenter Sites ノードまたは Satellite Server ノードがシャットダウンした場合、そのキャッシュ内のデータは保持されますが、アクティブなノードは引き続きアセットを無効化しているので、すぐにデータが古いものになってしまう可能性があります。このため、ノードを再起動するにはキャッシュの更新が必要になります。再起動時の更新は共通の無効化メモリーによって確実に実行されます。これは WebCenter Sites クラスタのデータベースに表として格納され、クラスタ内のすべてのノードが再起動時に使用できるように保持されています。この表の名前は、FW\_InvalidationMemory です。

無効化メモリーにはアセットの無効化のレコードが格納されます。具体的に言えば、コンテンツ管理やパブリッシュ・プロセスの実行中に変更または削除されたアセットの識別子です。表の拡大は、タイマーベースのクリーンアップ・メカニズムによってチェックされます。これは 15 分間隔で実行され、最も古い期間の無効化レコードを消去します。

ノードは再起動時に、非アクティブであった期間に欠落した情報をリカバリしようとして、無効化メモリーを参照します。

- ノードの非アクティブ期間の無効化レコードが存在する場合、ノードは自身自身でリプレイします。

- 非アクティブ期間に無効化されたアセットが存在しない場合、ノードはシャットダウンされなかったかのように動作を続行します。
- ノードが非アクティブであった間にクリーンアップ・メカニズムによって無効化レコードが消去された場合、ノードのキャッシュは自らを破棄するので、再構築する必要があります。

リモートの **Satellite Server** は、**WebCenter Sites** に更新を求めるリクエストを送信することによって失った情報を、再起動時に取得します。

## リアルタイム・パブリッシュ時のページの再生成

inCache を有効にすると、リアルタイム・パブリッシュ・プロセス用の `donotregenerate` フラグが無効になります。このフラグが認識されなくなるので、リアルタイム・パブリッシュ・セッション時のページの再生成には、クロールが使用されます。クロールは計算コストの高くつくオプションです。これを実装していなければ、ページはリクエスト時のみ再生成されます。

クロール・オプションでは、**WebCenter Sites** のページ・リジェネレータによって分析される一連の URL を指定する必要があります。通常、これらはホームページやその他のトラフィックの多いページの URL です。さらに、これらのページのクロール深度を指定することもできます。たとえば、深度 1 では指定したページとそれらのページのリンク先のページがクロールされ、深度 0 では指定したページのみがクロールされます。クロールされるページは、そのコンポーネント・アセットがパブリッシュ・セッション時に無効化された場合か、それらのページがキャッシュされていない場合のみ再生成されます。指定したページ上のすべてのページレットがプロセス内で再生成されます。

クロールする URL のリストとクロールの深度は、`FW_RegenCriteria` 表で指定する必要があります。この表は、inCache の構成後の最初のパブリッシュ・セッション時に配信システム上に作成されます。`ft_ss` パラメータを URL に含むことで、リクエストを **WebCenter Sites** で直接処理するのか、リモートの **Satellite Server** によって処理するのかを指定できます。inCache の構成方法とページの再生成については、第 26 章「inCache によるページのキャッシング」を参照してください。

## ダブルバッファ・キャッシング

**WebCenter Sites** のダブルバッファによるページ・キャッシング方法では、ライブ Web サイト上で **WebCenter Sites** と **Satellite Server** のキャッシュを連結させて使用します。ダブル・バッファリングでは、ページが常に **WebCenter Sites** か **Satellite Server** のいずれかのキャッシュ内に保持され、ページ・リクエストの過負荷から **WebCenter Sites** を保護し、ライブ Web サイトで空白ページやリンク切れが表示されないようにします。

inCache フレームワークで従来のシステムのダブルバッファ・キャッシングを維持するために、HTTP リクエストを介してリモートの **Satellite Server** は **WebCenter Sites** と通信を続けるようになっています。**Satellite Server** はこれまでどおりの方法で、HTTP リクエストを介してページ・データを読み取ってキャッシュします。ただし、ページ・データには、アセット識別子のカンマ区切りのリスト形式で依存性情報が含まれるようになり、この情報はリモートの **Satellite Server** にもストリームされます。

## リモートの Satellite Server の inCache 機能

リモートの Satellite Server は、ページ・キャッシングのみで使用されます。これは、ページ伝播やバックグラウンドでのページ再生成など、高度な機能をサポートするように構成できます。

### ページ伝播

ページ伝播オプションによって、すべての WebCenter Sites ノードと Satellite Server ノードが同じページをホストできるようになり、それぞれのノードがページを再生成する必要がなくなります。データベースを参照してページを再生成するかわりに、ノードは新しく生成および再生成されたページを、ページが (再) 生成およびキャッシュされたノードからローカル・キャッシュに受信します。ページのキャッシングによって伝播が引き起こされます。ページ伝播の構成方法については、第 26 章「inCache によるページのキャッシング」を参照してください。

### バックグラウンドでのページの再生成

リモートの Satellite Server は、無効化されたページレットを提供する一方で、これがバックグラウンド・プロセスで再生成されるように構成できます。詳細は、544 ページの「バックグラウンドでページレットを再生成するための構成」を参照してください。

## 要約

inCache フレームワークでは、パフォーマンスが大幅に向上しています。ノードはキャッシュをディスク上に保持し、障害からリカバリできます。分散化アーキテクチャによってボトルネックが防止されます (ただし、キャッシュ・アイテムの中央リポジトリが存在しないので、すべてのキャッシュの全体状況の確認が難しくなる可能性があります)。ページ伝播によって、ページを再生成する必要がなくなり、バックグラウンドでのページの再生成によって、リモートの Satellite Server は置き換えページの生成中でもページを引き続き提供できます。

この新しいフレームワークでは、リアルタイム・パブリッシュ用の `donotregenerate` フラグが無効になります。パブリッシュ・セッション中に再生成する必要があるページは、FW\_RegenCriteria 表で指定する必要があります。それ以外の場合、ページはリクエスト時に再生成されます。

## 次の手順

ページ・キャッシングと構成方法の詳細は、第 26 章「inCache によるページのキャッシング」を参照してください。この章には、ディスクのストライプ化、リアルタイム・パブリッシュ時にページ再生成を実行可能にする方法、ページ伝播の設定、バックグラウンドでのページ再生成の構成、従来のシステムのページ・キャッシングに戻す方法といったオプションに関する情報が含まれています。

アセットのキャッシングについては、第 27 章「inCache によるアセットのキャッシング」を参照してください。

## 第 26 章

# inCache によるページのキャッシング

- 概要
- [inCache によるページ・キャッシングのためのシステムの構成](#)
- [チューニング・オプション](#)



## 概要

inCache によるページのキャッシングは、WebCenter Sites のインストールまたはアップグレード時にデフォルトで有効になります。inCache によるページのキャッシングは、レガシーのページ・キャッシング方法より優先されます。ローカル・キャッシュと **peer-to-peer** 通信を構成するために、WebCenter Sites では `cs-cache.xml` と `ss-cache.xml` という 2 つの構成ファイルが提供されます。

inCache はディスクのストライブ化をサポートし、`donoteregenerate` フラグを非アクティブ化することでリアルタイム・パブリッシュに影響を与えます。リアルタイム・パブリッシュの間にページの再生成を有効にするオプションでは、配信システムの `FW_RegenCriteria` 表に、クロールおよび再生成されるページの URL を移入する必要があります。ページ伝播も 1 つのオプションで、すべてのノードが同じページをホストするようにして、各ノードでページを再生成する必要をなくす場合に使用します。さらに、代替ページが再生成されるまでの少しの間、失効したページを引き続き提供するように、リモートの **Satellite Server** を構成することもできます。

### 注意

必要に応じて、次の手順を実行することで、レガシーのページ・キャッシング方法に戻すこともできます。

1. すべての WebCenter Sites ノードと Satellite Server ノードで、`-Dcs.useEhcache=false` のように VM 引数を設定します。
2. すべての WebCenter Sites ノードと Satellite Server ノードを再構成して、データベースと共有ファイル・システムを使用するようにします。
3. レガシーのページ・キャッシュは無効化以降に古くなっている可能性が高いので、操作を再開する前にこれを消去する必要があります。

一般的に、キャッシュ方法を切り替える場合には、WebCenter Sites ノードと Satellite Server ノードが同じキャッシュを使用するように再構成して、使用前にキャッシュを消去する必要があります (ベスト・プラクティスとして推奨)。



## inCache によるページ・キャッシングのためのシステムの構成

この構成プロセスは、次に示すように、一連の必須の手順とオプションの最適化手順によって構成されます。たとえば、複数の WebCenter Sites ノードの相互通信を有効にして、WebCenter Sites とリモートの Satellite Server 上の各ローカル・キャッシュのストレージ・プロパティを設定します。

**inCache ページ・キャッシング用にシステムを構成するには：**

1. inCache によるページのキャッシングが有効になっていることを確認します。VM 引数 `-Dcs.useEhcache` を検索して、これが `true` に設定されているか、何も設定されていない (その場合の値は `true` と想定される) かのどちらかであることを確認します。
2. システムの再起動時に、WebCenter Sites ノードと Satellite Server ノードのそれぞれで、キャッシュ・コンテンツが保持されるように構成します。次の VM 引数を渡します。

```
-Dnet.sf.ehcache.enableShutdownHook=true
```

3. オプションの最適化。WebCenter Sites ノードと Satellite Server ノードのそれぞれで、`diskStore` パスを設定します。複数のノードが同じマシン (垂直クラスタ) 上にある場合は、各ノードの `diskStore` パスが一意であることを確認します。`cs-cache.xml` ファイルと `ss-cache.xml` ファイルで、`diskStore path="<path to disk store>"` プロパティを設定します。両方の xml ファイルが各 WebCenter Sites ノードに格納されます。`cs-cache.xml` は WebCenter Sites 用で、`ss-cache.xml` は共存する Satellite Server 用です。リモートの Satellite Server には `ss-cache.xml` ファイルのみが格納されます。このファイルは `WEB-INF/classes` フォルダの下に配置されます。

`diskStore` プロパティに関する詳細は、Ehcache の Web サイトにあるドキュメントを参照してください (本書の記述時点での URL は、<http://ehcache.org/documentation/configuration.html>)。

### 注意

inCache は、WebCenter Sites、リモートの Satellite Server、共存する Satellite Server に存在しています。アーキテクチャと機能の面で、共存する Satellite Server とリモートの Satellite Server に存在している inCache は同じものです。ただし、共存する Satellite Server には次の推奨事項が適用されます。

1. ディスクの永続性をオフにします。
2. 各キャッシュのサイズは、WebCenter Sites のキャッシュ・サイズよりも小さくします。これはメモリの過負荷を防ぐためです。共存する Satellite Server 上の完全なダブルバッファ・キャッシングに対する要件などの特別な状況を除いて、このサイズは小さくしておくことをお勧めします。

4. 複数のノードに必要な手順です。WebCenter Sites クラスタに対して自動ノード検出を構成します (Satellite Server ノードはクラスタ化できません)。例として、この手順では、CS1、CS2、CS3 という名前の 3 つの WebCenter Sites ノードを使用します。

- a. 各 WebCenter Sites ノードで、cs-cache.xml と ss-cache.xml (WEB-INF/classes にある) で cacheManagerPeerListenerFactory が指定されていることを確認します。これは CacheManagerPeerProvider を作成するために使用されます。このプロバイダがクラスタ内の他のノードを検出します。次の例に示すように、自動検出を構成します。

```
<cacheManagerPeerProviderFactory
class="net.sf.ehcache.distribution.RMCacheManagerPeer
ProviderFactory"
properties="peerDiscovery = automatic,
multicastGroupAddress = 230.0.0.1,
multicastGroupPort = 4444, timeToLive = 32"/>
```

### 注意

multicastGroupPort プロパティは、クラスタ・メンバー全体に対して同一に設定する必要があります。たとえば、CS1 の cs-cache.xml ファイル内で multicastGroupPort=4444 と指定されている場合、CS2 と CS3 でもそれぞれのファイル内で同じ設定を指定する必要があります。

timeToLive プロパティは、1 つのパケットに対して許可されるホップの数を指定するもので、これによってパケットの伝播距離が決まります。有効な値範囲は、0 から 255 の間で、次の制約があります。

0	: 同一ホスト	64	: 同一範囲
1	: 同一サブネット	128	: 同一大陸
32	: 同一サイト	255	: 無制限

- b. すべての Satellite Server (共存およびリモート) で、次のいずれかを実行します。
  - 各 ss-cache.xml ファイル内の multicastGroupPort プロパティを一意の値に設定します。
  - キャッシュのレプリケーションをサポートする場合は、各 ss-cache.xml ファイル内の multicastGroupPort プロパティを同一の値に設定します。

### 注意

ss-cache.xml ファイルに設定する値は、cs-cache.xml ファイル内にある WebCenter Sites の multicastGroupPort プロパティとは別の値にする必要があります。

inCache が構成されている場合、cs-cache.xml および ss-cache.xml に指定された構成を使用してシステムが起動します。キャッシュは、WebCenter Sites 内のいずれかのページ (キャッシュされるかどうかにかかわらず) を最初にコールした時点で初期化されます。

5. オプションの最適化。必要に応じて、536 ページの表 8 をプロパティ参照として使用して、ローカル・キャッシュを構成します。WebCenter Sites とリモートの Satellite Server の各ノードのローカル・キャッシュは、パーティションで区切られています。各部分は、cs-cache.xml ファイルと ss-cache.xml ファイルにある独自の <cache> タグで定義されます。各部分の名前は次のとおりです。
  - pageByQry: ページ・データそのもののキャッシュで、問合せの URL によるキーが設定されています。
  - dependencyRepository: ページ構築の基礎となる依存性のキャッシュです。pageByQry キャッシュにページが追加されると、dependencyRepository キャッシュにエントリが自動的に作成されます。このキャッシュ内の各エントリは、アセットの id、unknowndep、unknowndep-<type> のいずれかです。したがって、このキャッシュには最大でもシステム内のアセット数と、様々なバリエーションの unknowndep の少数のアイテムが格納されるのみです。  
 依存性のないページがキャッシュされると、そのページが \_NODEP\_ (依存性のないページの識別に使用される dependencyRepository キャッシュ内の 1 つのアイテム) に依存性をログ記録します。\_NODEP\_ アイテムとページとの関連付けは、そのページが異常終了するか手動でフラッシュされるまで維持されます。リモートの Satellite Server では、(Satellite Server ごとに) JVM オプションの -Dignore\_nodep\_pages を true に設定することで、依存性のないページのキャッシュを無効にできます。
  - notifier: このキャッシュは、アクティブな WebCenter Sites クラスタ・メンバーが他の WebCenter Sites クラスタ・メンバーにコンテンツの変更を通知するために使用します。
6. 構成されたすべての WebCenter Sites ノードと Satellite Server ノードを再起動します。
7. アクティブなクラスタ・メンバーがすべてキャッシュ・ネットワーク内に存在し、相互に認識していることを確認します。「クラスタ情報」診断ツールを使用します。このツールには、notifier キャッシュのあるすべての WebCenter Sites メンバーが表示されます。「クラスタ情報」を起動するには、次の手順を実行します。
  - a. キャッシュ可能なページをレンダリングすることで、inCache をブートストラップします。
  - b. 全体管理者 (デフォルトでは fwadmin/xceladmin) として、WebCenter Sites の Admin インタフェースにログインします。

- c. WebCenter Sites のクラスタ・メンバーと、共存する Satellite Server が、相互に通信していることを確認します。「管理」タブを開き、「システム・ツール」→「キャッシュ管理」→「サイト・キャッシュ」→「クラスタ情報」(→「Co-Res SS キャッシュ」→「クラスタ情報」)の順に開きます。

Cluster Info			
Number of remote cluster peer = 1			
Name	Url	Port	Guid
notifier	192.0.2.201	54014	oracle-desk/192.0.2.201-3a43be2d:136c6d640a2

キャッシュ構成ツールでは、様々なタイプのページ・キャッシュ統計を使用できます。詳細は、[第 28 章「システム・ツール」](#)を参照してください。

8. ディスク・ストライプの必要がある場合は、リアルタイム・パブリッシュ時のページの再生成を有効にするか、ページ伝播を有効にします。詳細は、[538 ページの「チューニング・オプション」](#)を参照してください。

表 8: キャッシュ構成プロパティ

プロパティ	必須	説明
name	はい	キャッシュの名前を指定します。 有効な値: pageByQry dependencyRepository notifier 詳細は、 <a href="#">535 ページの手順 5</a> を参照してください。
diskPersistent	いいえ	JVM の再起動と再起動の間にディスク上にデータを保持するかどうかを指定します。 デフォルト/推奨値: true 注意: diskPersistent 設定は、生成数で競合が発生する可能性をなくすために、pageByQry、dependencyRepository および notifier キャッシュの間で一貫性を保つ必要があります。
maxElementsInMemory	はい	メモリーに格納するオブジェクトの最大数を指定します。 デフォルト値: 200000
maxElementsOnDisk	はい	ディスクに格納するオブジェクトの最大数を指定します。ディスクはストライプ化できます。詳細は、 <a href="#">538 ページ</a> を参照してください。 デフォルト値: 1000000

表 8: キャッシュ構成プロパティ ( 続き )

プロパティ	必須	説明
eternal	はい	WebCenter Sites によってキャッシュを消去するかどうかを指定します (inCache によって消去されることはありません)。 デフォルト: true このプロパティの値は変更しないでください。
overflowToDisk	はい	メモリー・キャッシュをディスクベースのキャッシュにオーバーフロー可能にするかどうかを指定します。 デフォルト値: true このプロパティの値は変更しないでください。
diskSpoolBufferSizeMB	いいえ	ディスク・バッファのサイズを指定します (MB 単位)。大量のディスク I/O が予想される場合 (ディスク・キャッシュがメモリー・キャッシュよりはるかに大きい場合など) は、バッファを 20MB に設定します。 デフォルト値: 5
memoryStoreEvictionPolicy	いいえ	キャッシュからアイテムを削除する方法を指定します。推奨されるデフォルト値は、LFU (Least Frequently Used: 最低アクセス頻度) です。LRU (Least Recently Used: 最低使用頻度) も適切な値です。 デフォルト / 推奨値: LFU
clearOnFlush	いいえ	メモリーがディスクにフラッシュされるときにこれを消去するかどうかを指定します。 デフォルト値: false このプロパティの値は変更しないでください。

## チューニング・オプション

- ディスク・キャッシュのストライプ化
- リアルタイム・パブリッシュ時のページの再生成の構成
- ページ伝播の設定
- バックグラウンドでページレットを再生成するための構成

### ディスク・キャッシュのストライプ化

inCache フレームワークでは、キャッシュの大部分をディスクに書き込む必要があるときに発生する競合をなくすために、pageByQry キャッシュのストライプ化をサポートしています。

inCache フレームワークでは、WebCenter Sites ノードとリモートの Satellite Server に対して次の手順を実行します。

1. ストライプ化を有効にするには、次の VM 引数を追加します。

`-DnumOfDiskStores=X`

この x は、ストライプの数を示しています。ストライプ数は、ストライプ化できる一意のスピンデルの数に設定します (たとえば、5 つのドライブがある場合は x を 5 に設定します)。

#### 注意

ディスクベースのキャッシュのストライプ化に使用するドライブは、その他の目的には使用できません。

各 DiskStore のサイズは、xml 構成ファイル内の `maxElementsOnDisk` プロパティによって指定されているサイズです (536 ページの表 8 を参照)。たとえば、5 つのストライプを使用しており、`maxElementsOnDisk` が 100000 アイテムに設定されている場合、合計で 500000 アイテムを格納できます。

2. シンボリック・リンクを作成するか、ドライブを物理的に正しい場所にマウントして、ストライプが適切に分散されるようにします。

定義された各キャッシュ用のディレクトリが、diskStore パス (533 ページの手順 3 で構成) の下に作成されます。各ディレクトリの下にも、0 で始まる番号の付いた一連のディレクトリが作成されます。各ディレクトリは別々のドライブを指しています。

たとえば、`-DnumOfDiskStores = 5` と設定した場合、アイテムは、WebCenter Sites のディスクベースのキャッシュ内に次のように格納されます。

`<custom_path>/cs-cache:`

Directory: 0

Directory: 1

Directory: 2

Directory: 3

```
Directory: 4
File: dependencyRepository.data
File: dependencyRepository.index
File: notifier.data
File: notifier.index
<custom_path>/cs-cache/0:
File:pageByQry.data
File:pageByQry.index
<custom_path>/cs-cache/1:
File:pageByQry.data
File:pageByQry.index
<custom_path>/cs-cache/2:
File:pageByQry.data
File:pageByQry.index
<custom_path>/cs-cache/3:
File:pageByQry.data
File:pageByQry.index
<custom_path>/cs-cache/4:
File:pageByQry.data
File:pageByQry.index
```

この例では、ルート・キャッシュに依存性と **notifier** キャッシュが格納されています。ディレクトリ 0-4 に拡散しているのは、**pageByQry** キャッシュのストライプです。この例の 0-4 のディレクトリは、シンボリック・リンクの使用によって 5 つの別個のドライブに配置されました。

## リアルタイム・パブリッシュ時のページの再生成の構成

ページは、リクエストされた場合のみ再生成されます。リアルタイム・パブリッシュ時のページの再生成を構成するには、次の手順を実行します。

1. デフォルトでは、**PageCacheUpdater** が、**WebCenter Sites** インストーラによって、**ParallelCacheRegenerator** を使用するように設定されます。

WebCenter Sites の配信システム上の WEB-INF/classes フォルダにある AdvPub.xml ファイルを開き、PageCacheUpdater セクションに次に示す行があることを確認します。

### 注意

次に示すもの以外は、PageCacheUpdater セクションの値を変更しないでください。

- numThreadsPerServer: クロールするときの同時スレッド数を指定します。
- regenServers: <address> と <port of server where pages will be regenerated> によって、WebCenter Sites ノードを指定します。

```
<bean id="PageCacheUpdater"
class="com.fatwire.realtime.regen.ParallelRegeneratorEh"
singleton="false">
  <property name="messenger">
    <ref local="EmbeddedMessenger_flusher" />
  </property>
  <property name="numThreadsPerServer" value="3" />
  <property name="regenServers">
    <list>
      <value>http://{address}:{port of server where pages will
        be regenerated}/servlet/ContentServer</value>
    </list>
  </property>
</bean>
```

2. 配信システムを再起動します。
3. WebCenter Sites の配信システムに対してリアルタイム・パブリッシュが行われ、そのシステム上に FW\_RegenCriteria 表が作成されます。
4. Sites Explorer を使用して、FW\_RegenCriteria 表を開きます。再作成するページと、フォローするリンクの深さ指定します。ft\_ss パラメータを URL に含むことで、ページ・リクエストを WebCenter Sites で直接処理するのか、リモートの Satellite Server によって処理するのかを指定できます。

### 注意

URL アセンブラを使用する場合は、クロールするページの内部 URL を指定します。リジェネレータは URL アセンブラの URL を認識しません。



例:

```
pagename=SiteName/HomePage&ft_ss=true  
Level=1
```

WebCenter Sites によって HomePage と、HomePage からリンクされるページが再生成されます。ft\_ss=true と指定した場合、Satellite Server で生成されたもののよう、リクエストが処理されます。

**5. WebCenter Sites の配信システムにリアルタイム・パブリッシュを行います。**

パブリッシュ・セッションの間、配信システムは FW\_RegenCriteria 表で指定されたすべてのページをクロールしますが、再生成するのはコンポーネント・アセットが無効化されたものだけです (未キャッシュのページも生成します)。

次に例を示します。

- a. 更新されたアセットが配信システムにパブリッシュされます。
- b. 配信システムは、dependencyRepository キャッシュ内でアセットの識別子を無効にマークし、依存性生成数を増分させることで、再パブリッシュされたアセットの既存の依存性情報を無効化します。無効化されたアセットは、そのアセットを参照するページで使用できなくなるので、これらのページも無効になります。
- c. ページ・リジェネレータは、FW\_RegenCriteria 表に指定されている URL を使用してページをクロールし、無効化されたページを再生成します。さらに、未キャッシュのページも生成します。

## ページ伝播の設定

ページ伝播によって、WebCenter Sites クラスタ内のすべてのノード (Satellite Server ノードを含む) が同じページをホストできるようになり、それぞれのノードがページを再生成する必要がなくなります。

inCache を使用するように構成した場合は、各 WebCenter Sites が別個の JVM を持ち、別々のローカル・キャッシュを維持することになります。1 つの WebCenter Sites によって新しいページが生成され、キャッシュされても、その他の WebCenter Sites で新しくページがキャッシュされたり、そのページについて通知されることはありません。同じページに対するリクエストを受信すると、各ノードがデータベースや共有のファイル・システムを参照することでそのページを生成する必要があり、両方のコンポーネントに余分な負担が課せられます。ページ伝播では、クラスタ全体にページが伝播されるので、別々のノードが同じページを再生成しなくてもよくなります。

ページ伝播は、ノードのローカル・キャッシュにページがロードされたときに引き起こされます。この機能は、inCache の基本機能から開始して、次のようなシナリオで役立ちます。

**1. 新しく生成されたページに対する inCache のページ・キャッシング:**

- a. ノード A (WebCenter Sites ノード) が、新規ページのリクエストを受信します。
- b. ノード A が、リクエストされたページを生成します。

- c. ノード A は、新規ページと完全な依存性情報 (コンポーネント・アセットの識別子) を、ローカル・キャッシュと依存性キャッシュにキャッシュします。
  - d. ページ伝播が有効な場合は、[手順 3](#) に続きます。
2. 再生成されたページに対する inCache のページ・キャッシング:
- a. ノード B も WebCenter Sites ノードで、無効化されたページに対するリクエストを受信します (コンポーネント・アセットが変更され、ノード B のローカルの依存性キャッシュと、このアセットを含むその他すべてのノードの依存性キャッシュで、無効としてマークされています)。
  - b. ノード B が、リクエストされたページを再生成します。
  - c. ノード B は、再生成されたページをキャッシュし、生成数を増分させることで依存性を更新します (手順 2a)。
  - d. ページ伝播が有効な場合は、[手順 3](#) に続きます。
3. ページ伝播による inCache のページ・キャッシング:

ノードは、ページを (再) 生成するときに、その他のノードにもこのページを伝播します。伝播される情報は、次の内容で構成されています。

- ページの完全な依存性情報。たとえば、ページに  $x$  の依存性 (アセット識別子) が存在する場合は、 $x$  の依存性がすべて、ローカルの依存性キャッシュから他の WebCenter Sites ノードの依存性キャッシュに伝播されます。
- ページ自体。ページは、ローカルのページ・キャッシュから他の WebCenter Sites ノードのページ・キャッシュに伝播されます。

受信側のノードにページがすでに存在している場合、そのノードは伝播を無視します。

次のリストでは、ページ伝播のイベントと条件をまとめています。

- WebCenter Sites ノードでページがキャッシュされた場合、その完全なページ情報 (前述の[手順 3](#)を参照) が、その他すべての WebCenter Sites ノードに伝播されます。
- リモートの Satellite Server ノードでページがキャッシュされた場合、その完全なページ情報 (前述の[手順 3](#)を参照) が、Java RMI (Remote Method Invocation) を経由して他の Satellite Server に伝播されます。
- ページが伝播されると、次のような処理が行われます。
  - そのページの最終更新時のタイムスタンプが、すべての WebCenter Sites ノードと Satellite Server ノードで保持されます。
  - 所定のノードの再生数が、その他すべてのノードの再生数とは無関係に維持されます。たとえば、ノード A の再生数が 10 でも、他のノードは別のタイプの依存性の生成数に 10 を使用します。WebCenter Sites または Satellite Server すべてに同じオブジェクトが伝播されても、WebCenter Sites ノードまたは Satellite Server ノードごとに異なる生成数が割り当てられる場合もあります。オブジェクトとその最終更新 / 変更時間のタイムスタンプは、ノード全体で同じになります。
  - そのページがすでに存在しているノードでは、伝播が無視されます。

- キャッシュされたページの依存性を、そのページの存在しないノードに伝播できなかった場合、そのページがノード上でリクエストされて生成されるまで、ページはノード上にキャッシュされません。
- それでも Satellite Server キャッシュには BLOB が格納されているので、それが Satellite Server 全体にレプリケートされます。

## ページ伝播の有効化

inCache を使用するように構成されたシステムを起動します。

ページ伝播を有効化するには：

1. すべての WebCenter Sites ノード上で、次の手順を実行します。
  - a. `futuretense.ini` プロパティ・ファイルに `propagatecache=true` を設定します。
  - b. `cs-cache.xml` で、クラスタ内のすべての WebCenter Sites ノードに対する `multicastGroupPort` が同一で、相互に通信可能であることを確認します。(このファイルは `WEB-INF\classes` にあります。)
2. すべてのリモートの Satellite Server で、次の手順を実行します。
  - a. `satellite.properties` プロパティ・ファイルに `propagatecache=true` を設定します。
  - b. `ss-cache.xml` で、キャッシュ伝播するつもりすべての Satellite Server で `multicastGroupPort` が同一であるが、WebCenter Sites ノードの `multicastGroupPort` とは異なっていることを確認します。
3. すべてのノードで、任意のページをレンダリングすることでページ伝播を初期化して、システムが次のように応答することを確認します。
  - WebCenter Sites ノードでは、ページのキャッシュによって、ローカル・キャッシュから他の WebCenter Sites ノードのキャッシュへの伝播が引き起こされます(542 ページの手順 3 を参照)。この間、すべての WebCenter Sites において、ページの最終更新 / 変更時間のタイムスタンプが保持されます。そのページがすでに存在している WebCenter Sites ノードでは、伝播が無視されます。
  - Satellite Server での応答は、WebCenter Sites ノードでの応答と同じですが、こちらは Java RMI を経由しています。

## 再起動時のページ伝播の設定

ノードに対して再起動時のページ伝播を有効にする場合、ノードがページ伝播を認識するために、ローカル・キャッシュを再初期化する必要があります。ローカル・キャッシュを再初期化するには、ノード上のキャッシュ可能なページをレンダリングします。キャッシングによって、ノードが他のノードにページを伝播し、他のノードによって伝播されたページを認識します。ローカル・キャッシュが再初期化されても、ノードが非アクティブだった期間に実行されなかった伝播が、そのノードの再起動時にそこで再作成されることはありません。

## バックグラウンドでページレットを再生成するための構成

リモートの **Satellite Server** は、無効化されたページレットを提供する一方で、これがバックグラウンド・プロセスで再生成されるように構成できます。無効化されたページレットを提供できるようにするには、リモートの **Satellite Server** の `satellite.properties` ファイルに、`serveStale=true` を追加します。それでもページレットが無効化されている場合は、次のいずれかの方法で再生成します。

- ブラウザが次の 30 分以内にページレットをリクエストする場合、リモートの **Satellite Server** によって、ページを再生成するためのリクエストを **WebCenter Sites** に送信するプロセスが、バックグラウンドで開始されます。バックグラウンド・プロセスの実行中、ブラウザには、リモートの **Satellite Server** のキャッシュから、無効化されたページレットが提供されます。これ以降すべてのリクエストで、バックグラウンド・プロセスによってページレットが再生成されるまで、無効化されたページレットが提供されることになります。
- ブラウザが 30 分経過後にページレットをリクエストする場合、リモートの **Satellite Server** は通常のプロセスを使用してページレットを再生成します。つまり、ページレットを再生成するためのリクエストが **WebCenter Sites** に送信されます。リクエスト側のブラウザは、ページが再生成されるまで待機する必要があります。

バックグラウンド・プロセスに関する情報を入手するには、リモートの **Satellite Server** の `commons-logging.properties` ファイルで、`com.fatwire.logging.cs.cache.ehcache` のログ出力を `DEBUG` に設定します。`DEBUG` によって、バックグラウンド・プロセスの開始時には次のメッセージが作成されます。

```
"Data for <cache key> is found to have been invalidated. A new  
request has started processing new data in the background."
```

プロセスの終了時には、次のメッセージが表示されます。

```
"Background process for request <cache key> has completed  
successfully, data in cache is updated."
```

## 第 27 章

# inCache によるアセットのキャッシング

WebCenter Sites inCache フレームワークでは、デフォルトでアセットのキャッシングがサポートされています。アセットのキャッシングはカスタマイズできます。

この章は、次の項で構成されています。

- [アセットのキャッシングの概要](#)
- [AssetCache コンテナ](#)
- [アセットのキャッシング操作](#)
- [アセットのキャッシングのタイプ](#)
- [アセットのキャッシングのカスタマイズ](#)
- [アセットのキャッシングの無効化](#)
- [キャッシュ管理ツール](#)

## アセットのキャッシングの概要

アセットのキャッシングは、インストール時とアップグレード時に WebCenter Sites システム上で有効になります。アセットのキャッシングは、inCache フレームワーク上に構築された、メモリーをベースにしたシステムで、そのままではデータベースに影響を与えるような負荷を担うことによって、WebCenter Sites のパフォーマンスを保護します。アセットのキャッシングには AssetCache コンテナという独自のコンテナが使用され、このコンテナは、他の inCache コンポーネント（特に dependencyRepository キャッシュと notifier キャッシュ）と対話することによって機能します。

アセットのキャッシングについての説明を理解するには、まず第 25 章「inCache フレームワーク」をよく読み、inCache フレームワークの基本を理解するようにお勧めします。特に、ページ・キャッシングにおいて各キャッシュ・コンテナ (pageByQuery、dependencyRepository、notifier) が相互機能する仕組みについて理解するようにしてください。pageByQuery キャッシュはアセットのキャッシングには使用されませんが、キャッシュ・コンテナの動作状態を示す役割をしています。このコンテナの対になる AssetCache コンテナも同じように機能します。また、アセットのキャッシングと inCache のページ・キャッシングは、それぞれ独立して動作することにも注意してください。どちらのタイプのキャッシングも、相互に関係なく有効化または無効化できます。

この章の残りの部分では、AssetCache コンテナ、アセットのロードと無効化に関連する機能、アセット・キャッシングとページ・キャッシングの比較、およびアセットのキャッシングをアセット・タイプによってカスタマイズする方法について説明します。

## AssetCache コンテナ

WebCenter Sites では、アセットのプログラマ的使用は、その属性のロードと読み込みで構成されます。アセットは、WebCenter Sites に格納されているテンプレートによってロードされるため、AssetCache は WebCenter Sites ノードでのみ使用されます。

- AssetCache は、inCache フレームワークのコンポーネントです。pageByQuery キャッシュと同様に、AssetCache は inCache フレームワーク内で各 WebCenter Sites ノード下の独自のコンテナとして個別に使用できます。
- AssetCache コンテナは、各 WebCenter Sites の cs-cache.xml ファイル内でデフォルトで有効になっており、ここでは <cache> エレメントという名前と呼ばれています。AssetCache コンテナは、すべてのタイプのアセットをキャッシングし、次に示す inCache コンポーネントと対話することで機能します。特定のタイプのアセットについては、追加の AssetCache コンテナを構成できます。詳細は、551 ページの「アセットのキャッシングのタイプ」および 552 ページの「アセットのキャッシングのカスタマイズ」を参照してください。
- dependencyRepository キャッシュとの相互作用  
AssetCache にアセットをロードすると、inCache が dependencyRepository キャッシュ内にエントリを作成することで、そのアセットへの依存性をログ記録します (549 ページの図 19 を参照)。そのアセットを変更または保存すると、dependencyRepository キャッシュから依存情報が削除されるので、AssetCache ではこのアセットのエントリが無効にな

ります。一般に、キャッシュされたアセットに対して保存または削除操作を実行すると、そのアセットは無効になります。

### 注意

アセットのキャッシングが有効になっている場合、Sites Explorer または CatalogManager API を使用してデータベース表にアセットを直接保存したり削除しないでください。この方法で保存および削除操作を実行しても、アセットのキャッシュは無効になりません。

- **notifier キャッシュとの相互作用**  
 どれか 1 つのノードで無効化が行われると、notifier キャッシュによって他のノードに反映されます。このキャッシュは、どのアセットが変更されたかという情報を広める働きをします。受信したノードの AssetCache にそのアセットが含まれている場合、そのノードはこの情報に従って独自の dependencyRepository キャッシュを更新します。

アセットのキャッシングとページのキャッシングは無関係に機能しますが、表 9 に示すように、様々なキャッシュを共有しています。

**表 9: キャッシュ・コンテナ**

機能		キャッシュ・コンテナ			
アセットの キャッシング	ページの キャッシング	AssetCache	pageByQry	dependency Repository	notifier
オフ	オフ	X	X	X	X
オフ	オン	X	✓	✓	✓
オン	オフ	✓	X	✓	✓
オン	オン	✓	✓	✓	✓

## アセットのキャッシング操作

この項は、次のトピックで構成されています。

- [アセットのロード](#)
- [アセットのキャッシングと inCache のページ・キャッシングの比較](#)
- [AssetCache のフラッシュ](#)

### アセットのロード

アセットのデータは、API または `asset:load` タグを使用する複数の方法で読み込むことができます。

- 次の API は、アセットを AssetCache に、readonly-complete モードでロードします。
  - `AssetDataManager.read(AssetId)`
  - アセットに対する REST API GET
- 次のタグは、アセットを AssetCache に、別のモードでロードします。
  - `asset:load(objectid="cid1" option="editable")`
  - `asset:load(objectid="cid1" option="readonly")`
  - `asset:load(objectid="cid1" option="readonly-complete")`

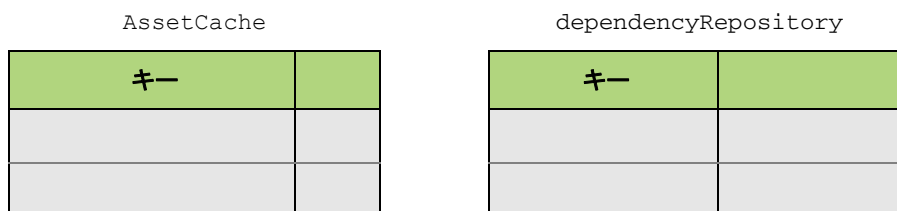
option パラメータでは、アセットをキャッシュするかどうかと、AssetCache および dependencyRepository での、キャッシュされたアセットのキーの命名方法を決定します。キャッシングのシナリオを、[549 ページの図 19](#) にまとめます。シナリオ D では、同じアセットの AssetCache コンテナに複数のエントリが存在しています。これは、アセットが readonly および read-only complete という 2 つのモードでロードされたためです。



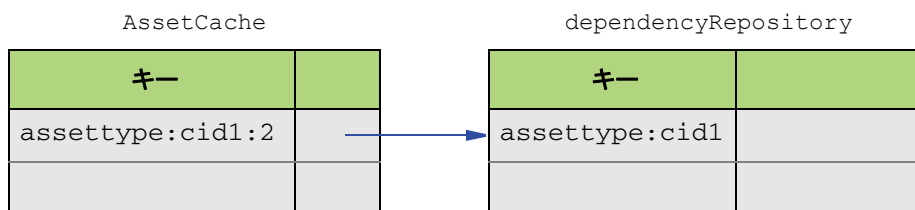
図 19: アセットのキャッシングのシナリオ

次のモードでは、アセットをキャッシュするかどうかと、AssetCache および dependencyRepository での、キャッシュされたアセットのキーの命名方法が決定されます。このモードは、548 ページにリストされている API やタグで定義されます。

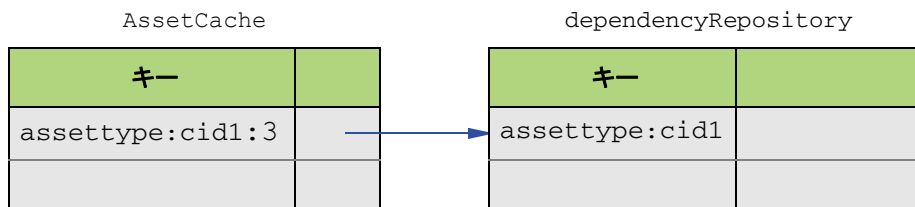
- A. editable モード。editable モードでロードされたアセットはキャッシュされません。



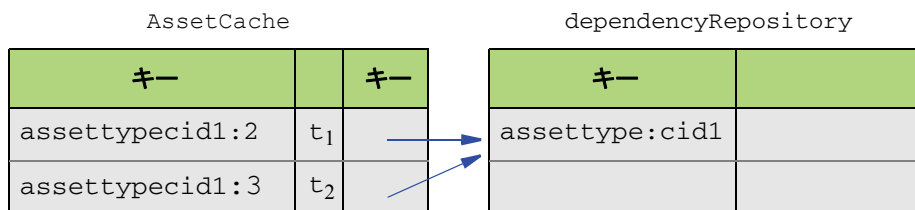
- B. readonly モード。アセットは、自身に対する依存性を指定してキャッシュされます。assettype:cid1:2 の中の 2 は、readonly モードを指定しています。



- C. readonly-complete モード。アセットは、自身に対する依存性を指定してキャッシュされます。assettype:cid1:3 の中の 3 は、readonly-complete モードを指定しています。



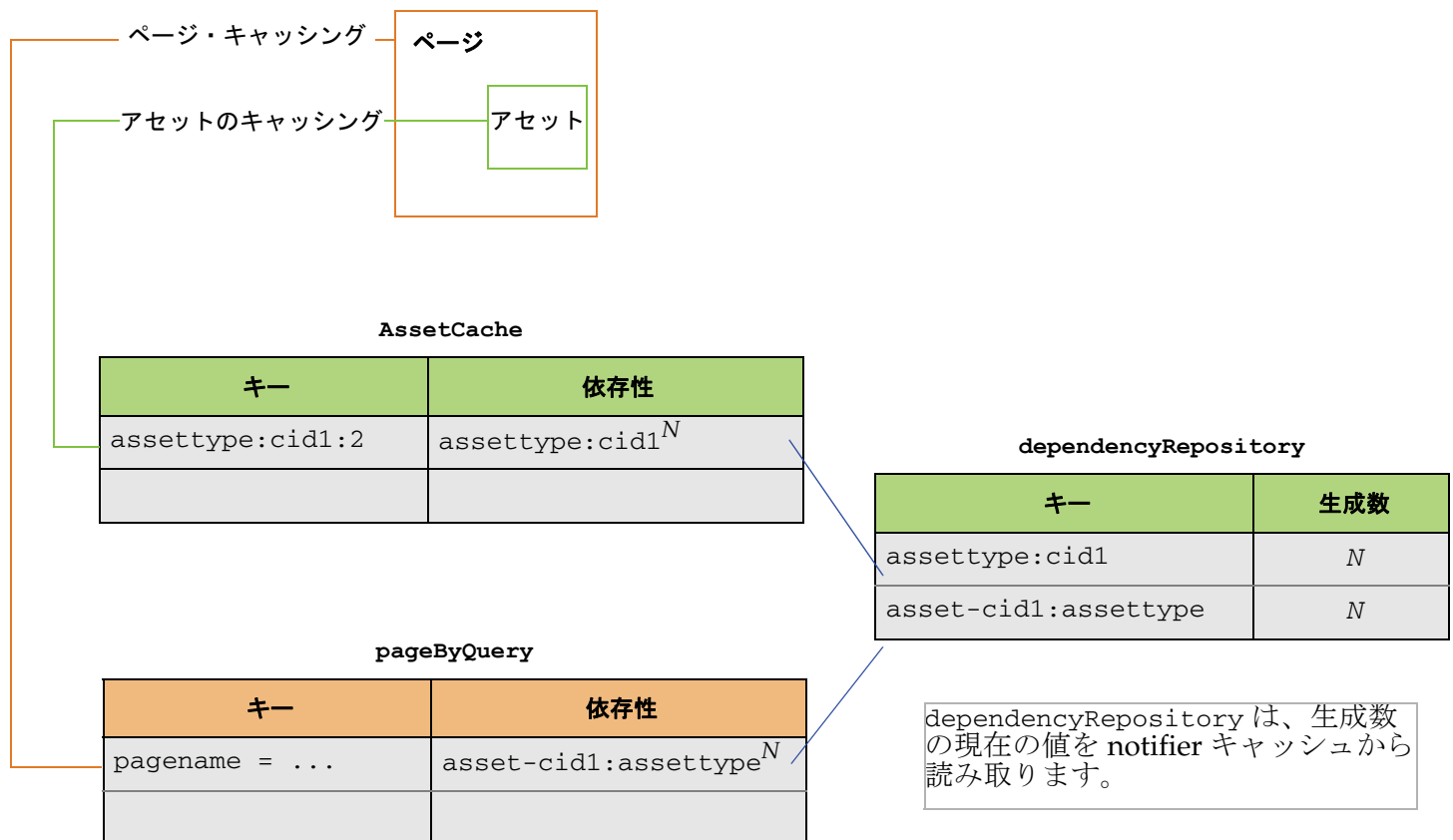
- D. 時刻  $t_1$  の readonly モードと、時刻  $t_2$  の readonly-complete モード。アセットは、自身に対する依存性を指定して、2 回キャッシュされます。assettype:cid1:2 の中の 2 は readonly モードを指定し、assettype:cid1:3 の中の 3 は readonly-complete モードを指定しています。



## アセットのキャッシングと inCache のページ・キャッシングの比較

図 20 に示すように、キャッシュされたアセットとページ、さらにそれぞれの依存性では、キーの名前が異なります。この違いを理解することは、(「管理」タブの「システム・ツール」ノードにある) キャッシュ管理ツールに表示されるキャッシング情報の解析に役立ちます。

**図 20:** アセットのキャッシングとページ・キャッシングにおける依存性の命名規則



たとえば、図 20 には、AssetCache コンテナ内のキャッシュされたアセットのキーの名前が assettype:cid1:2 であることが示されています。名前の中の最後の整数は、アセットを読み取ったときのモードを表しています (2 は readonly モード)。同じアセットを readonly-complete モードでロードすると、キーは assettype:cid1:3 になります。アセットが複数のモードでコールされた場合、AssetCache コンテナにはそのアセットに対する複数のエントリが確認されます (549 ページの図 19 を参照)。

キャッシュされたページのキーは、pagename で始まります。ページにはモードは適用されず、ページのキャッシュは 1 度しか行われません。

アセットのロードのモードの詳細は、548 ページの「アセットのロード」を参照してください。キャッシュ管理ツールの詳細は、第 28 章「システム・ツール」を参照してください。

## AssetCache のフラッシュ

アセットは、次の API やタグ経由で保存された場合、AssetCache からフラッシュすることができます。

- API
  - REST API PUT
  - AssetDataManagerWrite
- JSP タグ
 

asset:save	asset:rollback
asset:saveall	asset:deleterevision
asset:delete	asset:undocheckout
asset:deleteassettype	insite:edit
asset:void	
- XML タグ
 

INSITE.EDIT	ASSET.VOID
ASSET.SAVE	ASSET.DELETE
ASSET.SAVEALL	

## アセットのキャッシングのタイプ

WebCenter Sites ノードでアセットのキャッシングを有効にすると、そのノードにある cs-cache.xml ファイルには、次の <cache> エレメントのどれか 1 つ以上が格納されます。

- デフォルトの <cache> エレメント。すべてのタイプのアセットが、AssetCache という名前の汎用のキャッシュ・コンテナにキャッシュされるように指定します。

```
<cache name="AssetCache"
  diskPersistent="true" maxElementsInMemory="100"
  maxElementsOnDisk="100" eternal="true" overflowToDisk="true"
  diskSpoolBufferSizeMB="20" memoryStoreEvictionPolicy="LFU"
  clearOnFlush="false" />
```

汎用の AssetCache コンテナは、WebCenter Sites のインストール・プロセス中に、すべての WebCenter Sites ノードで自動的に構成されます。

- カスタムの <cache> エレメント。特定のタイプのアセットが、**AssetCacheAsset\_type\_name** という名前の独自のコンテナにキャッシュされるように指定します。

```
<cache name="AssetCacheAsset_type_name"
  diskPersistent="true" maxElementsInMemory="100"
  maxElementsOnDisk="100" eternal="true" overflowToDisk="true"
  diskSpoolBufferSizeMB="20" memoryStoreEvictionPolicy="LFU"
  clearOnFlush="false" />
```

タイプ固有のすべてのカスタム AssetCache コンテナは、cs-cache.xml ファイル内で手動で構成する必要があります。タイプ固有のコンテナの作成数は、独自のコンテナにキャッシュする必要のあるアセットのタイプと、各コンテナのキャッシングに適用する必要がある条件によって異なります。

汎用の AssetCache コンテナは、1 つまたは多数のタイプ固有のアセット・キャッシュと共存させることができます。または、それらによって置き換えることもできます。すべてのアセット・キャッシュのコンテンツは相互に排他的です。つまり、汎用の AssetCache コンテナでは、タイプ固有のコンテナにキャッシュされているアセット・タイプは除外され、タイプ固有のコンテナでは、その他すべてのタイプのアセットが除外されます。

さらに、アセットのキャッシングが有効になっている場合、(「管理」タブの「システム・ツール」ノードにある) キャッシュ管理ツールには、AssetCache コンテナのコンテンツ、dependencyRepository 内の対応するエントリ、その他のタイプの情報を示すダイアログが表示されます。検索もサポートされます。

アセットのキャッシングの構成の詳細は、[552 ページの「アセットのキャッシングのカスタマイズ」](#)を参照してください。キャッシュ管理ツールの詳細は、[第 28 章「システム・ツール」](#)を参照してください。

## アセットのキャッシングのカスタマイズ

次の手順は、タイプ固有のアセット・キャッシュの構成方法を示しています。

### アセットのキャッシングを構成するには：

1. WebCenter Sites ノードでデフォルトのアセットのキャッシングが有効になっている場合は、WebCenter Sites ノードの cs-cache.xml ファイルに次のエントリが表示されます。これは、すべてのタイプのアセットが AssetCache という名前の汎用コンテナにキャッシュされることを指定するものです (name 以外のパラメータは [536 ページの表 8](#) で定義されています)。

```
<cache name="AssetCache"
  diskPersistent="true" maxElementsInMemory="100"
  maxElementsOnDisk="100" eternal="true"
  overflowToDisk="true" diskSpoolBufferSizeMB="20"
  memoryStoreEvictionPolicy="LFU" clearOnFlush="false" />
```

### 注意

汎用の AssetCache コンテナを、1 つまたは多数のタイプ固有のアセット・キャッシュと共存させるか、あるいはそれらによって置き換えることができる場合は、次のいずれかを実行することができます。

- 汎用の AssetCache コンテナを保持し、タイプ固有のコンテナを必要な数だけ追加することができます。すべてのタイプのアセットがキャッシュされます。独自のタイプ固有のコンテナがあるアセットは、それぞれの独自のコンテナに排他的にキャッシュされ、[536 ページの表 8](#) に示されているパラメータを使用することで、個別にチューニングすることができます。
- 汎用の AssetCache コンテナを、1 つ以上のタイプ固有のコンテナで置き換えることができます。名前の付いたタイプのアセットのみがキャッシュされます。

AssetCache コンテナの作成数は、独自のコンテナ内に作成する必要のあるアセットのタイプと、適用する必要のあるチューニングによって異なります。構成情報は、次の手順で使用できます。

2. 独自のコンテナ内の特定のタイプのアセットをキャッシュするには、そのアセット・タイプの <cache> エlementを作成し、  
name="AssetCacheAsset\_type\_name" を設定します ( カスタムの <cache> エlement 1 つに対して 1 つのアセット・タイプのみがサポートされます)。  
536 ページの表 8 に示されたパラメータを使用して、キャッシュを構成します。

次に例を示します。

```
<cache name="AssetCacheContent_C"
  diskPersistent="true" maxElementsInMemory="100"
  maxElementsOnDisk="100" eternal="true"
  overflowToDisk="true" diskSpoolBufferSizeMB="20"
  memoryStoreEvictionPolicy="LFU" clearOnFlush="false" />
```

この例では、name="AssetCacheContent\_C" によってタイプ固有の AssetCache コンテナが作成され、そこにはタイプが Content\_C のアセットのみが保持されます。汎用の AssetCache コンテナも構成された場合、そこにはタイプが Content\_C のアセットはキャッシュされません。

## アセットのキャッシングの無効化

アセットのキャッシングをサポートするように inCache フレームワークが設定されているときに、アセットのキャッシングを無効化する場合は、次の手順を実行します。

inCache フレームワークの各 WebCenter Sites ノードで、cs-cache.xml ファイル (WEB-INF/classes/ ディレクトリにある) を開き、名前が AssetCache で始まる <cache> エlementを削除します。選択した <cache> エlementを削除するか、すべての <cache> エlementを削除することができます。それぞれのエlementは AssetCache コンテナを表しています。AssetCache コンテナのタイプの詳細は、551 ページの「アセットのキャッシングのタイプ」を参照してください。

## キャッシュ管理ツール

アセットのキャッシングを構成する場合、キャッシュ管理ツールには、AssetCache コンテナのコンテンツ、それに対応する dependencyRepository 内のエントリ、その他の情報を示すダイアログが表示されます。検索もサポートされます。キャッシュ管理ツールの詳細は、第 28 章「システム・ツール」を参照してください。



## 第 7 部

# 診断ユーティリティ

この部では、全体管理者が WebCenter Sites の管理者インタフェースから直接問題のトラブルシューティングを行えるようにするためのシステム・ツールについて説明します。log4j ログイングの動的な構成、様々なタイプのシステム情報へのアクセス、キャッシュの管理、ログの検索、共有ファイル・システムのパフォーマンスのテストなどの機能があります。

この部は、次の章で構成されています。

- [第 28 章「システム・ツール」](#)





## 第 28 章

# システム・ツール

「管理」タブの「システム・ツール」ノードは、全体管理者が WebCenter Sites 管理者のインターフェースからトラブルシューティングに直接使用できる一連の診断ユーティリティを提供します。log4j ログ出力の構成、様々なタイプのシステム情報へのアクセス、キャッシュの管理、WebCenter Sites ログの内容の検索、共有ファイル・システムのパフォーマンスのテストなどの機能があります。

この章は、それぞれ「システム・ツール」のサブノードについて説明している次の項で構成されています。

- [Log4j の構成](#)
- [システム情報](#)
- [キャッシュ管理](#)
- [ログ・ビューア](#)
- [ファイル・システムのテスト](#)
- [結果セットのキャッシュ](#)

## Log4j の構成

WebCenter Sites が、Apache log4j ロギング・システムを使用するように設定されている場合、管理者のインタフェースから、「**log4j の構成**」ツールで、現在のログ出力レベルの表示、ログ出力レベルの変更、新しいログ出力の追加を実行できます。さらに、ログ出力レベルの変更および追加されたログ出力が有効になっているのは、WebCenter Sites を再起動するまでのみであるため、変更内容を保持するには、ログ出力プロパティのテキスト・バージョンを log4j.properties ファイルにコピーします。

この項は、次のトピックで構成されています。

- [Apache log4j の設定](#)
- [ログ出力の表示](#)
- [ログ出力レベルの変更](#)
- [新しいログ出力の追加](#)

## Apache log4j の設定

アップグレード・プロセス中に WebCenter Sites が log4j を使用するように設定されなかった場合、WEB-INF/classes ディレクトリの commons-logging.properties および log4j.properties ファイルを構成することで手動で log4j に切り替えることができます。

**log4j を設定するには：**

1. commons-logging.properties ファイルで、次のプロパティを更新して log4j を WebCenter Sites のロギング・システムとして設定します。

```
org.apache.commons.logging.Log=  
org.apache.commons.logging.impl.Log4JLogger
```

2. log4j.properties ファイルを開き、次のように実行します。

- a. 次のように FWDefaultAppender ファイル・アペンダ・プロパティを追加します。

```
log4j.rootLogger=INFO, FWDefaultAppender  
log4j.appender.FWDefaultAppender.File=  
    <path to futuretense.txt>/futuretense.txt
```

### 注意

futuretense.txt ファイルは、通常、WebCenter Sites のインストール・ディレクトリに配置されています。

```
log4j.appender.FWDefaultAppender.Append=true  
log4j.appender.FWDefaultAppender.BufferSize=256  
log4j.appender.FWDefaultAppender.MaxFileSize=10MB  
log4j.appender.FWDefaultAppender.encoding=UTF-8  
log4j.appender.FWDefaultAppender.layout.ConversionPattern  
    =[ %d] [%c{4}] %m%n
```

```
log4j.appender.FWDefaultAppender=org.apache.log4j.Rolling
FileAppender
log4j.appender.FWDefaultAppender.MaxBackupIndex=15
log4j.appender.FWDefaultAppender.layout=org.apache.log4j
.PatternLayout
log4j.appender.FWDefaultAppender.bufferedIO=false
```

- b. commons-logging.properties ファイルのログ出力を  
log4j.properties ファイルにコピーします。log4j.logger. を、各ロ  
グ出力名の前に追加します。たとえば、com.fatwire.logging.cs.auth  
が log4j.logger.com.fatwire.logging.cs.auth になります。

ファイル・アペンダ・プロパティおよび他の **log4j** 固有のプロパティの詳細は、  
Apache log4j のドキュメントを参照してください。WebCenter Sites のログ出力  
の詳細は、Oracle WebCenter Sites プロパティ・ファイル・リファレンスの  
commons.logging.properties のドキュメントを参照してください。

## ログ出力の表示

WebCenter Sites のログ出力およびそれらの詳細レベルのリストを表示できます。  
リストには、次のものが含まれています。

- WEB-INF/classes ディレクトリの log4j.properties ファイルに登録され  
ているログ出力。このファイルは、システム起動時にのみ読み取られます。  
実行中に log4j.properties ファイルを変更し、それらを保存した場合、  
「log4j の構成」画面にその変更は表示されません。それらは WebCenter Sites  
を再起動したときに適用され、表示されます。
- 実行中に検出されたログ出力。ログ出力は次のときに検出されます。
  - システム機能またはアドオン・コンポーネント (Oracle WebCenter Sites:  
Engage など) が、初めてアクセスされたとき。
  - [563 ページの「新しいログ出力の追加」](#)に示すように、「ログ出力の追  
加」機能を使用して、開発者が手動でログ出力をシステムに追加したと  
き。

リストの折りたたまれたビューには、ルート・ログ出力および親ログ出力が、す  
べて明示的に詳細レベルを割り当てられて表示されます。より粒度の細かい  
ビューが必要な場合は、リストを開くとルート・ログ出力または親ログ出力から  
レベルを継承するログ出力も表示できます。

### ログ出力を表示するには：

1. 「管理」タブで「システム・ツール」を開き、「log4j の構成」をダブルク  
リックします。

明示的にレベルが割り当てられたログ出力のリストが表示されます。

Configured Loggers			
Num	Level	Logger	Set New Level
1	ERROR	root	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
2	INFO	com.fatwire.cs.core.db.DBTransaction	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
3	INFO	com.fatwire.cs.core.db.DBTransaction.callstack	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
4	INFO	com.fatwire.logging.cs	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
5	INFO	com.fatwire.logging.cs.auth	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
6	INFO	com.fatwire.logging.cs.blobserver	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
7	INFO	com.fatwire.logging.cs.cache.page	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
8	INFO	com.fatwire.logging.cs.cache.resultset	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
9	INFO	com.fatwire.logging.cs.core.http.HttpAccess	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
10	INFO	com.fatwire.logging.cs.core.uri.assembler	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
11	INFO	com.fatwire.logging.cs.core.uri.definition	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
12	INFO	com.fatwire.logging.cs.db	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF

2. リストを開いて、レベルを継承するログ出力を含める場合は、画面の下部にある**すべての既知のログ出力を表示**をクリックします。

レベルを継承するログ出力は、それらの親ログ出力の下にリストされます。

All Known Loggers			
Num	Level	Logger	Set New Level
1	ERROR	root	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
2	(inherited: ERROR)	com.fatwire.assetapi	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
3	(inherited: ERROR)	com.fatwire.buffering	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
4	(inherited: ERROR)	com.fatwire.cs.web.NoSuchFlowExecutionExceptionResolverModified	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
5	(inherited: ERROR)	com.fatwire.cs.web.flow.SendP3PHeaderAction	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
6	INFO	com.fatwire.cs.core.db.DBTransaction	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
7	INFO	com.fatwire.cs.core.db.DBTransaction.callstack	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
8	(inherited: ERROR)	com.fatwire.cs.core.logging.context.filter	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
9	(inherited: ERROR)	com.fatwire.cs.systemtools.util	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
10	(inherited: ERROR)	com.fatwire.csdt	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
11	INFO	com.fatwire.logging.cs	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
12	(inherited: INFO)	com.fatwire.logging.cs.assetframework	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
13	INFO	com.fatwire.logging.cs.auth	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
14	INFO	com.fatwire.logging.cs.blobserver	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
15	(inherited: INFO)	com.fatwire.logging.cs.cache.ehcache	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
16	INFO	com.fatwire.logging.cs.cache.page	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF

3. 再度、明示的に割り当てられたレベルを持つログ出力のみを表示するには、画面の下部にある**構成済のログ出力を表示**をクリックします。

## ログ出力レベルの変更

ログ出力レベルを一時的に変更し、log4j.properties ファイルで指定されている WebCenter Sites ログに書き込まれる文のタイプと数を定義できます。変更はただちに適用されます。ログ出力が実行されるとすぐに、そのログで新しいレベルの影響を追跡できます。この新しいレベルが有効になっているのは WebCenter Sites を再起動するときまでのみですが、変更を保持する必要がある場合は、ログ出力プロパティのテキスト・バージョンをアプリケーション・サーバー上の WEB-INF/classes ディレクトリにある log4j.properties ファイルにコピーできます。

このオプションは、継承されたログ出力レベルを一時的にオーバーライドする場合に特に便利です。たとえば、親ログ出力が TRACE などの高度な詳細レベルに設定されており、その子ログ出力の 1 つがそのレベルから継承しないようにする場合は、その子ログ出力に異なるレベルを割り当てることができます。

次に、詳細レベルの高いものから順に、使用可能なログ出力レベルをリストします。

TRACE、DEBUG、INFO、WARN、ERROR、FATAL、OFF。

OFF は、ログ出力によってログに文が書き込まれないことを示します。ログ出力レベルの詳細は、Apache log4j のドキュメントを参照してください。

### ログ出力レベルを変更するには：

1. 「管理」タブで、「システム・ツール」を開き、「log4j の構成」をダブルクリックします。

明示的にレベルが割り当てられたログ出力のリストが表示されます。より粒度の細かいビューが必要な場合は、画面の下部にある**すべての既知のログ出力を表示**をクリックし、リストを開いて親ログ出力からレベルを継承するログ出力を含めます。

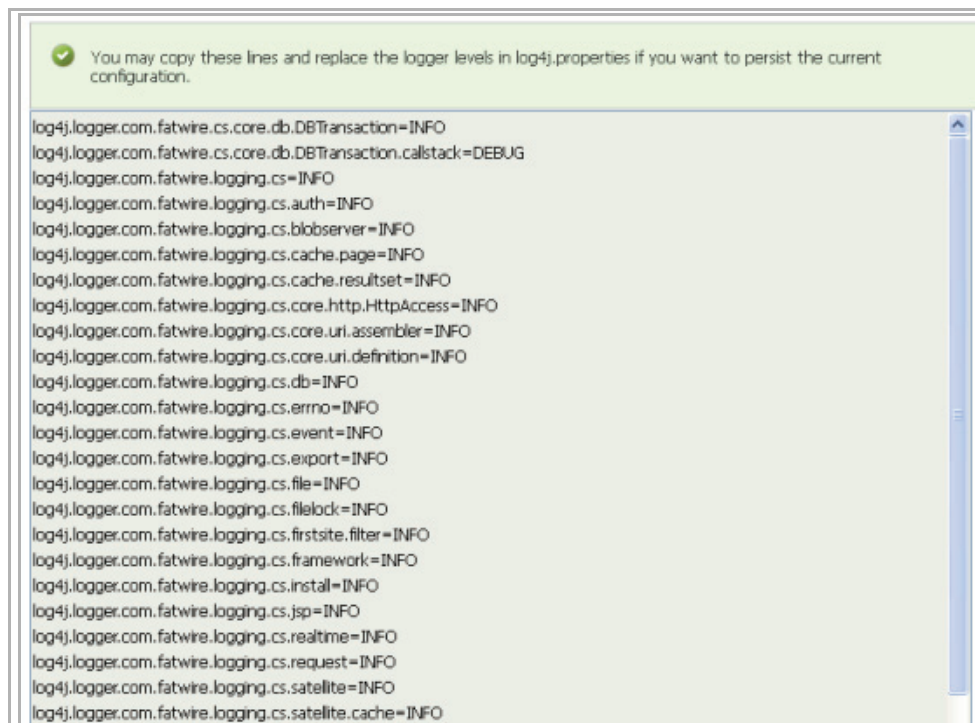
2. 変更するログ出力を見つけ、「新規レベルの設定」列で新しいログ出力レベルを選択します。

新しいレベルが、「レベル」列に表示されます。ログ出力が実行されると、ただちにログで新しいレベルの影響を追跡できます (579 ページの「ログ・ビューア」を参照)。

Configured Loggers			
Num	Level	Logger	Set New Level
1	ERROR	root	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
2	INFO	com.fatwire.cs.core.db.DBTransaction	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
3	DEBUG	com.fatwire.cs.core.db.DBTransaction.callstack	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
4	INFO	com.fatwire.logging.cs	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
5	INFO	com.fatwire.logging.cs.auth	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
6	INFO	com.fatwire.logging.cs.blobserver	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
7	INFO	com.fatwire.logging.cs.cache.page	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
8	INFO	com.fatwire.logging.cs.cache.resultset	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
9	INFO	com.fatwire.logging.cs.core.http.HttpAccess	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
10	INFO	com.fatwire.logging.cs.core.uri.assembler	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
11	INFO	com.fatwire.logging.cs.core.uri.definition	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF
12	INFO	com.fatwire.logging.cs.db	TRACE DEBUG INFO WARN ERROR FATAL OFF

3. WebCenter Sites の再起動後も新しいログ出力レベルを有効にしておく場合は、次のように実行します。
  - a. 画面の下部にある現在のログ出力レベルを **.properties** として表示をクリックします。

明示的に割り当てられたレベルを持つログ出力がテキストで表示されます。



- b. 変更済ログ出力を、アプリケーション・サーバー上の WEB-INF/classes ディレクトリの log4j.properties ファイルにコピーします。
- c. log4j.properties ファイルを保存します。

## 新しいログ出力の追加

WebCenter Sites システムの log4j フレームワークに新しいログ出力を追加し、ルート・ログ出力または親ログ出力から詳細レベルを継承しない場合は、管理者のインタフェースを介してログ出力を追加し、そのそれぞれに詳細レベルを割り当てることができます。(独自のカスタム・ログ出力を追加する場合は、サポートする class および jar ファイルを必ずデプロイしてください。)

割り当てられた詳細レベルが有効になっているのは WebCenter Sites を再起動までのみですが、そのレベルを永続的に適用する必要がある場合は、ログ出力プロパティのテキスト・バージョンをアプリケーション・サーバー上の WEB-INF/classes ディレクトリにある log4j.properties ファイルにコピーできます。

### 新しいログ出力を追加するには：

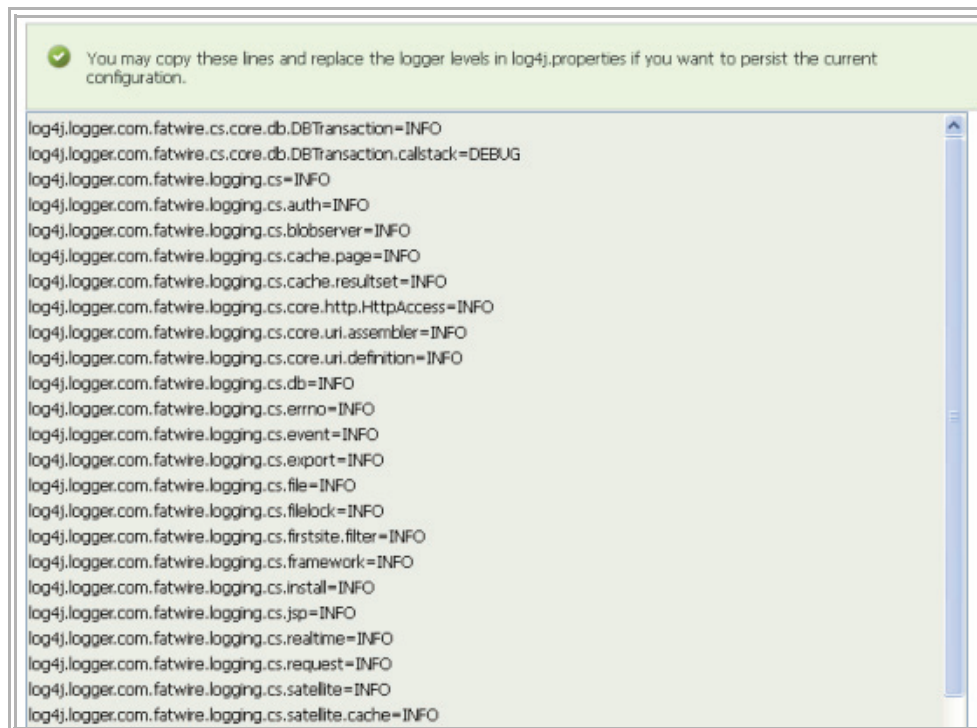
1. 「管理」タブで「システム・ツール」を開き、「log4j の構成」をダブルクリックします。  
明示的にレベルが割り当てられたログ出力のリストが表示されます。
2. ログ出力のリストの下にあるフィールドに、追加するログ出力の名前を入力し、その詳細レベルを選択します。
3. 「ログ出力の追加」をクリックします。

新しいログ出力がリストに追加されます。ログ出力が実行されると、ただちにログでその割り当てたレベルの影響を追跡できます (579 ページの「ログ・ビューア」を参照)。

4. WebCenter Sites の再起動後も、追加したログ出力を有効にしておく場合は、次のように実行します。

- a. 画面の下部にある**現在のログ出力レベルを .properties** として表示をクリックします。

明示的に割り当てられたレベルを持つログ出力がテキストで表示されます。



- b. 追加したログ出力を、アプリケーション・サーバー上の WEB-INF/classes ディレクトリの log4j.properties ファイルにコピーします。
- c. log4j.properties ファイルを保存します。



## システム情報

「システム情報」ツールにより、トラブルシューティングに関する様々なタイプの WebCenter Sites、データベース、およびスレッドの情報を直接アクセスでき、アプリケーションの状態をチェックできます。情報をファイルにダウンロードし、管理者のインタフェースで直接表示できます。

この項は、次のトピックで構成されています。

- [WebCenter Sites 情報](#)
- [データベース情報](#)
- [スレッド情報](#)

### 注意

「システム情報」ツールを右クリックして「ダウンロード」を選択することで、使用可能なすべてのシステム情報とアプリケーション・サーバー上のすべての WebCenter Sites ディレクトリおよびファイルのリストをダウンロードできます。Sigar が構成されている場合は、そのツールを右クリックし、「システム詳細 (Sigar)」を選択することで Sigar の情報をダウンロードしてテクニカル・サポートに送信することもできます。

## WebCenter Sites 情報

次のタイプの WebCenter Sites 情報をダウンロードまたは表示できます。

- **メモリー情報**: アプリケーション・サーバーの Java 仮想マシンの空きメモリー容量、空きメモリーと使用中メモリーの合計量、および Java 仮想マシンが使用を試みるメモリーの最大容量。
- **Sites プロパティ**: WebCenter Sites のインストール・ディレクトリにある ini、xml、および properties ファイル。
- **Web アプリケーション・プロパティ**: アプリケーション・サーバー上の WEB-INF および WEB-INF/classes ディレクトリにある xml および properties ファイル。
- **その他の Sites 情報**: アプリケーション・サーバー上の WEB-INF/lib ディレクトリにある jar ファイル、現在 WebCenter Sites にログインしているユーザーのセッション変数、および Java ランタイム・プロパティ。

WebCenter Sites 情報をダウンロードまたは表示するには：

1. 「管理」タブで、「システム・ツール」→「システム情報」を開き、「\$Sites\$ 情報」をダブルクリックします。

「\$Sites\$ 情報」画面に、メモリー情報および選択してダウンロードまたは表示できる追加の情報が表示されます。

**Sites Information**

---

**Memory Information In Bytes**

Free Memory	275164800
Total Memory	399769600
Max Memory	799145984

**Sites Properties:**

Available:

- assetframework.ini
- batch.ini
- catalog.ini
- commercedata.ini
- databaseloader.ini
- dir.ini
- futuretense.ini
- futuretense\_xcel.ini
- gator.ini
- logging.ini
- ms.ini
- propeditor-descriptions.prope

Add Remove

Selected:

**Web Apps Properties:**

Available:

- commons-logging.properties
- fcckeditor.properties
- log4j.properties
- satellite.properties
- ServletRequest.properties
- AdvPub.xml
- applicationContext.xml
- BufferingConfig.xml
- cas-cache.xml
- cs-cache.xml
- linked-cache.xml
- RestResources.xml

Add Remove

Selected:

**Other Sites Info:**

☐ Jar Versions

☐ Session Variables

☐ System Variables

Show Results Download

2. 「\$Sites\$ プロパティ」および「Web アプリケーション・プロパティ」セクションで、目的のファイルを選択し、「追加」をクリックします。
3. 「その他の \$Sites\$ 情報」セクションで、次のように実行します。
  - アプリケーション・サーバー上の WEB-INF/lib ディレクトリにある jar ファイルに関する情報を取得するには、「Jar バージョン」チェック・ボックスを選択します。

- 現在 WebCenter Sites にログインしているユーザーのセッション変数を取得するには、**Sites セッション変数チェック・ボックス**を選択します。
  - Java ランタイム・プロパティを取得するには、「**システム変数**」チェック・ボックスを選択します。
4. 選択した WebCenter Sites 情報をテキスト・ファイルとしてダウンロードするには、「**ダウンロード**」をクリックし、SysInfo.zip を開くか保存します。テキスト・ファイルは SysInfo.zip 内にあります。
  5. 選択した WebCenter Sites 情報を管理者のインタフェースで表示するには、「**結果の表示**」をクリックします。
    - a. 選択したファイルおよび情報は、管理者のインタフェースに直接表示されます。
    - b. ファイルの詳細または情報のタイプを表示するには、そのプラス (+) アイコンをクリックします。

ini および properties ファイルについては、Sites セッション変数およびシステム変数とともに、プロパティと値が表示されます。

batch.ini

Property	Value
debug	false
hidden.encrypted	true
request.folder	./dispatcher/
security.class	com.openmarket.Batch.DefaultSecurity
thread.count	32
thread.growcache	false
thread.idle	10
thread.wait	15

xml ファイルについては、コードが表示されます。

applicationContext.xml

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<!DOCTYPE beans PUBLIC "-//SPRING//DTD BEAN//EN"
    "http://www.springframework.org/dtd/spring-beans.dtd">
<beans/>
```

Jar バージョンについては、jar 名、バージョン、および実装ベンダーが表示されます。NA:NA は、jar ファイルでそのバージョンおよびベンダーが提供されていないことを示します。



Jar Name	Version : Vendor
jersey-json-1.1.4.1.jar	1.1.4.1 : Sun Microsystems, Inc
analyticscs.jar	Build Date: Oct 13 2011 at 17:24:19 Analytics-bld- 10 Revision:140069 : FatWire Corporation
commons-logging-1.4.jar	1.4 : The Apache Software Foundation
core-renderer-R8pre2.jar	NA : NA
httpcore-4.1.2.jar	4.1.2 : The Apache Software Foundation

## データベース情報

次のタイプのデータベース情報をダウンロードまたは表示できます。

- **基本情報** : データベース・エンジンおよびバージョン、デフォルト・トランザクション分離レベル、JDBC ドライバ、URL、バージョン、および JNDI データ・ソース。
- **システム表** : コア WebCenter Sites データが格納されている表。たとえば、ElementCatalog 表には、システムで使用される XML 要素または JSP 要素がすべてリストされています。
- **ツリー表** : オブジェクト間の親子関係が格納されている表。たとえば、AssetRelationTree にはアセット間のアソシエーションについての情報が格納されています。
- **Sites オブジェクト表** : アセット・タイプ、アセット属性、アセット定義など一意に識別されるオブジェクトが格納されている表。
- **その他の Sites 表** : 親子関係に編成できない水平データを格納する表および WebCenter Sites によって管理されない外部表。

### 注意

表に割り当てられているアクセス制御リスト (ACL) の少なくとも 1 つが自身のユーザーに割り当てられている場合、自身にデータベース表にアクセスする権限があります。データベース権限の詳細は、[76 ページの「ACL」](#)を参照してください。様々なタイプの WebCenter Sites データベース表の詳細は、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』を参照してください。

データベース情報をダウンロードまたは表示するには：

1. 「管理」タブで、「システム・ツール」→「システム情報」を開き、「DB 情報」をダブルクリックします。

「データベース情報」画面に、使用しているデータベースの基本情報および選択してダウンロードまたは表示できる表が表示されます。

2. 「システム表」、「ツリー表」、Sites オブジェクト表およびその他の Sites 表セクションで、表示する表を選択し、「追加」をクリックします。
3. 選択したデータベース情報をスプレッドシート・ファイルとしてダウンロードするには、「ダウンロード」をクリックし、SysInfo.zip を開くか保存します。スプレッドシート・ファイルは SatelliteServer.zip 内にあります。
4. 選択したデータベース情報を管理者のインタフェースで表示するには、「結果の表示」をクリックします。
  - a. アクセスする権限を持っている選択済の表ごとに、次の情報が表示されます。
    - 表名
    - 主キー
    - 行数
    - CSz( メモリー内にキャッシュされる結果セットの数 )
    - タイムアウト( メモリー内にキャッシュされる結果セットを保持する分数 )
    - Abs( 結果セットの有効期限の計算方法 )

- SQL を実行する時間
- 特殊表キー

- b. 表の列および索引を表示するには、そのプラス (+) アイコンをクリックします。索引が複数リストされている場合、複数の列にわたって表示されます。

Tree Tables						
Table Name	Primary Key	Number of rows	CSz	Timeout	Abn	Time to Run SQL
AssetRelationTree	nid	492				31 ms

Name	Type	Size
nid	(integer)	0
nparentid	(integer)	0
nrank	(integer)	0
otype	(text)	28
oid	(integer)	0
oversion	(integer)	0
nocode	(text)	16

Name	Type	Column	Ordinal Position	Non Unique
SYS_IDX_254	Non clustered	NID	1	false
ASSETRELATIONTREE1	Non clustered	OTYPE	1	true
ASSETRELATIONTREE1	Non clustered	OID	2	true
ASSETRELATIONTREE1	Non clustered	OVERSION	3	true
ASSETRELATIONTREE5	Non clustered	OTYPE	1	true
ASSETRELATIONTREE5	Non clustered	OID	2	true
ASSETRELATIONTREE7	Non clustered	NPARENTID	1	true

## スレッド情報

スレッド・ダンプをダウンロードまたは表示し、アプリケーション・サーバーの実行時の状態を分析できます。これは、特に、リソースの枯渇またはスレッド・ハングになる可能性がある問題の検出に役立つ場合があります。

スレッド情報をダウンロードまたは表示するには：

- 「管理」タブで、「システム・ツール」→「システム情報」を開き、「スレッド情報」をダブルクリックします。  
「スレッド情報」画面が表示されます。

### Thread Information

---

Thread Name:
Regular Expression: ☒

States:

NEW  
RUNNABLE  
BLOCKED  
WAITING  
TIMED\_WAITING

Show Results

Download

- デフォルトで「正規表現」チェック・ボックスが選択されています。このオプションによって、Java 正規表現を使用してスレッド名を検索できます。

例：

- **Thread.\*** で Thread-0、Thread-1、および Thread-3 が検索されます。
- **.\*thread.\*** で pool-6-thread-1、pool-8-thread-1、および pool-14-thread-2 が検索されます。

このチェック・ボックスの選択を解除する場合、完全なスレッド名で検索する必要があります。

3. 「スレッド名」フィールドに、検索するスレッド名またはテキスト文字列を入力します。
4. 検索を 1 つ以上のスレッド状態に限定する場合は、「状態」フィールドで状態を選択します。状態を選択しない場合は、すべての状態が検索されます。
5. 選択したスレッド情報を、スレッド・ダンプ・アナライザで使用するためにテキスト・ファイルとしてダウンロードするには、「**ダウンロード**」をクリックし、SysInfo.zip を開くか保存します。テキスト・ファイルは SysInfo.zip 内にあります。

### 注意

スレッド情報のダウンロードは、次の場合にのみ可能です。

- WebCenter Sites の JDK に、互換性がある jstack ユーティリティが含まれている。
- 使用しているオペレーティング・システム・システムのライブラリ・パスに最初にリストされている JDK に、WebCenter Sites の JDK と互換性がある jstack ユーティリティが含まれている。

互換性がある jstack が見つからない場合、「このプラットフォームではスレッド・ダンプ機能はサポートされていません。」というメッセージが表示されます。

6. 選択したスレッド情報を管理者のインタフェースで表示するには、「**結果の表示**」をクリックします。検索に一致するスレッドごとに、次の情報が表示されます。
  - 名前
  - ID
  - 状態
  - CPU がスレッドを実行した合計時間
  - スレッドがユーザー・モードであった合計時間
  - それをブロックおよび待機した回数
  - それをブロックおよび待機した長さ
  - それが待機したオブジェクト



### ・ スタック・トレース

```

Thread Dump

Full Thread Dump at Tue Feb 08 10:02:38 EST 2011
"Timer-0" id=39 in TIMED_WAITING on lock=java.util.TaskQueue@fd9d27
  total cpu time=0.00 ms, user time=0.00 ms
  blocked count=1, blocked time=0.00 ms, wait count=23, wait time=0.91 ms
    at java.lang.Object.wait(Native Method)
    at java.util.TimerThread.mainLoop(Timer.java:509)
    at java.util.TimerThread.run(Timer.java:462)

"ScannerThread" id=42 in TIMED_WAITING
  total cpu time=0.00 ms, user time=0.00 ms
  blocked count=49, blocked time=0.00 ms, wait count=252, wait time=0.96 ms
    at java.lang.Thread.sleep(Native Method)
    at org.jboss.deployment.scanner.AbstractDeploymentScanner$ScannerThread.loop
(AbstractDeploymentScanner.java:280)
    at org.jboss.deployment.scanner.AbstractDeploymentScanner$ScannerThread.run
(AbstractDeploymentScanner.java:225)

```

## キャッシュ管理

ページ・キャッシングまたはアセット・キャッシング、あるいはその両方のために inCache フレームワークが設定されている場合、「**キャッシュ管理**」ツールで、WebCenter Sites クラスタ・メンバーおよびそれらの共存 Satellite Server 上のキャッシング・プロセスを監視できます。機能としては、キャッシュの検索、ディスクへの強制書込み、個別ページ、アセット、依存性、およびキャッシュ全体のフラッシュがあります。inCache フレームワークの設定の詳細は、[第 26 章「inCache によるページのキャッシング」](#)（ページ・キャッシングについて）および [第 27 章「inCache によるアセットのキャッシング」](#) を参照してください。

### 注意

「**キャッシュ管理**」ツールは、WebCenter Sites クラスタ・メンバーおよびそれらの共存 Satellite Server に対してのみキャッシング情報を提供します。リモート Satellite Server のキャッシュ情報にアクセスするには、次の URL を使用してください。

```

http://<server>:<port>/<application_context_path>/
  Inventory?username=SatelliteServer&password=password&
  detail=debug

```

「**キャッシュ管理**」ツールには、次の画面があります。

- 「概要」画面
- 「ページ」画面
- 「依存性」画面
- 「アセット・キャッシュ」画面
- 「クラスタ情報」画面

## 「概要」画面

この画面には、各キャッシュの次の基本データ (値は推定) がリストされます。

- 合計数 (キャッシュされたエレメントの合計数)
- メモリー格納数 (メモリー内のキャッシュされたエレメントの数)
- ディスク格納数 (ディスク上のキャッシュされたエレメントの数)
- キャッシュ・ヒット (メモリーとディスクの両方から取得されたキャッシュ済エレメントの数)
- メモリー・ヒット (メモリーから取得されたキャッシュ済エレメントの数)
- ディスク・ヒット (ディスクから取得されたキャッシュ済エレメントの数)
- キャッシュ・ミス (キャッシュ内でエレメントが見つからなかった回数)
- 削除件数 (キャッシュから削除したエレメントの数)
- 平均取得時間 (エレメントの取得にかかったミリ秒数の平均)
- メモリーの最大エレメント (メモリー内で許容されるエレメントの最大数)
- ディスクの最大エレメント (ディスク上で許容されるエレメントの最大数)
- ディスクへのオーバーフロー (メモリーがいっぱいになったときにエレメントがディスクに書き込まれるかどうか)

この画面には、次のオプションもあります。特に配信システムではサイトのパフォーマンスに影響を与えることがあるため、これらは注意深く使用する必要があります。

- ディスクへのキャッシュのメモリー・ストア全体の書込み: このオプションは、WebCenter Sites がシャットダウンの前にキャッシュのメモリー・ストアをディスクに自動的に書き込むように設定されていない場合に特に役立つことがあります。

- キャッシュのメモリー・ストアおよびディスク・ストア全体のフラッシュ

**Summary**

Node:http://localhost:8280 on Tuesday, March 06, 2012 19:06:20 PM PST

Name	Page Cache	Cache Dependencies	Asset Cache
Total Count	1	5	4
Memory Store Count	1	5	4
Disk Store Count	1	5	4
Cache Hits	0	6	1
In Memory Hits	0	6	1
On Disk Hits	0	0	0
Cache Misses	2	5	4
Eviction Count	0	0	0
Average Get Time	0.0	0.0	47.0
Max Elements In Memory	1000	1000	5000
Max Elements On Disk	1000	1000	5000
Overflow To Disk	true	true	true
<b>Write To Disk</b>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<b>Flush Cache</b>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

ディスクへの  
キャッシュの  
メモリー・スト  
アの書込みを強  
制するには、  
そのチェック・  
ボックスを  
選択し、  
「ディスクへの書  
込み」をクリッ  
クします。

キャッシュの  
メモリー・  
ストアおよび  
ディスク・ストアをフラッ  
シュするには、そのチェッ  
ク・ボックスを選択し、  
「キャッシュのフラッシュ」  
をクリックします。

## 「ページ」画面

この画面には、キャッシュされたページごとに、ヒット数、作成時間、最終アクセス時間、有効期限、依存性などの統計がリストされます。表の凡例は、追跡される情報のタイプを特定しています。(無効化されたページ、依存性の更新、依存性の生成数に対する変更。)画面には、次のオプションも用意されています。

- キャッシュでの特定のページの検索: 検索は CPU に負荷がかかるため、配信システムでは注意して使用する必要があります。
- キャッシュからのページのフラッシュ
- ページの HTML 情報の表示
- ページ依存性の参照

キー、有効期限、または依存性でページを検索します。  
有効期限で検索する場合は、mm/dd/yyyy または mm/dd/yyyy hh:mm:ss 形式で情報を入力します。

Pages

Items Per Page: 10 Search: Key

Table Legend

- pagename=FirstSiteII/Page Invalidated Page
- asset-123:Content\_G Updated Dependency
- asset-123:Page Superscript<sup>5</sup> Dependency Generation Count

Number of items in cache = 1 1 of 1 page

Flash Cache Page LookUp

Key	Hit Count	Created Time	Last Access Time	Expire Time	Dependency
<input type="checkbox"/> pagename=fatwire/wem/ui/Ping&ft_ss=false <a href="#">view page details</a>	0	Tuesday, March 06, 2012 19:02:25 PM PST	Tuesday, March 06, 2012 19:02:25 PM PST	Friday, March 04, 2022 19:02:24 PM PST	<input type="checkbox"/> _NODEP <sup>8</sup>

ページをフラッシュするには、そのチェック・ボックスを選択し、「キャッシュのフラッシュ」をクリックします。  
画面上のすべてのページをフラッシュするには、ヘッダーにあるそのチェック・ボックスを選択し、「キャッシュのフラッシュ」をクリックします。

ページの HTML 情報を表示するには、「ページの詳細の表示」をクリックします。

特定の依存性のページを表示するには、そのチェック・ボックスを選択し、「ページ参照」をクリックします。

画面にすべてのページの依存性を表示するには、ヘッダーのチェック・ボックスを選択し、「ページ参照」をクリックします。

### 注意

WebCenter Sites を再起動した後、キャッシュ・エンジンが初期化されるまでこの画面にはページ・キャッシュ情報は表示されません。キャッシュ・エンジンは、最初のページまたはアセットがリクエストされると初期化されます。

## 「依存性」画面

この画面には、依存性キャッシュの内容と、依存性ごとの生成数がリストされます。さらに、次のオプションがあります。

- キャッシュでの特定の依存性の検索: 検索は CPU に負荷がかかるため、配信システムでは注意して使用する必要があります。
- キャッシュからの依存性のフラッシュ
- ページ依存性の参照

Dependencies

Items Per Page: 10

Search

Current System Generation Count is 0

Number of items in cache = 5

1 of 1 page

Flush Cache

Page LookUp

Key	Generation Count	Valid	
<input type="checkbox"/> FW_View:1262707329009	0	true	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> FW_Application:1283176967302	0	true	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> FW_Application:1262707329030	0	true	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> _NODEP_	0	true	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> FW_Application:1253211458856	0	true	<input type="checkbox"/>

画面にすべてのページの依存性を表示するには、ヘッダーのチェック・ボックスを選択し、「ページ参照」をクリックします。

特定の依存性のページを表示するには、そのチェック・ボックスを選択し、「ページ参照」をクリックします。

依存性をフラッシュするには、そのチェック・ボックスを選択し、「キャッシュのフラッシュ」をクリックします。

画面上のすべての依存性をフラッシュするには、ヘッダーにあるチェック・ボックスを選択し、「キャッシュのフラッシュ」をクリックします。

### 注意

WebCenter Sites を再起動した後、キャッシュ・エンジンが初期化されるまでこの画面には依存性キャッシュ情報は表示されません。キャッシュ・エンジンは、最初のページまたはアセットがリクエストされると初期化されます。

## 「アセット・キャッシュ」画面

この画面には、キャッシュされたアセットごとに、ヒット数、作成時間、最終アクセス時間、依存性などの統計がリストされます。表の凡例は、追跡される情報のタイプを特定しています。無効化されたアセット、依存性の更新、依存性の生成数に対する変更。画面には、次のオプションも用意されています。

- キャッシュでの特定のアセットの検索：検索は CPU に負荷がかかるため、配信システムでは注意して使用する必要があります。
- キャッシュからのアセットのフラッシュ
- アセットの依存性の参照

キーまたは依存性でアセットを検索します。

Assets

Items Per Page: 10 Search: Key By: Search

Table Legend

- Product\_C:123:2 Invalidated Page
- asset-123:Content-G Updated Dependency
- asset-123:Page Superscript<sup>3</sup> Dependency Generation Count

Number of items in cache = 4 1 of 1 page

Flush Cache Asset Lookup

Key	Hit Count	Created Time	Last Access Time	Dependency
<input type="checkbox"/> FW_Application:1283176967302:3	0	Tuesday, March 06, 2012 19:02:25 PM PST	Tuesday, March 06, 2012 19:02:25 PM PST	FW_Application:1283176967302 <input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> FW_Application:1262707329030:3	1	Tuesday, March 06, 2012 19:02:25 PM PST	Tuesday, March 06, 2012 19:02:25 PM PST	FW_Application:1262707329030 <input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> FW_Application:1253211458856:3	0	Tuesday, March 06, 2012 19:02:25 PM PST	Tuesday, March 06, 2012 19:02:25 PM PST	FW_Application:1253211458856 <input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> FW_View:1262707329009:3	0	Tuesday, March 06, 2012 19:02:26 PM PST	Tuesday, March 06, 2012 19:02:26 PM PST	FW_View:1262707329009 <input type="checkbox"/>

アセットをフラッシュするには、そのチェック・ボックスを選択し、「キャッシュのフラッシュ」をクリックします。

画面上のすべてのアセットをフラッシュするには、ヘッダーにあるそのチェック・ボックスを選択し、「キャッシュのフラッシュ」をクリックします。

特定の依存性についてアセットを表示するには、そのチェック・ボックスを選択し、「ページ参照」をクリックします。

画面上のすべてのアセットの依存性を表示するには、ヘッダーにあるそのチェック・ボックスを選択し、「ページ参照」をクリックします。

### 注意

WebCenter Sites を再起動した後、キャッシュ・エンジンが初期化されるまでこの画面にはアセット・キャッシュ情報は表示されません。キャッシュ・エンジンは、最初のページまたはアセットがリクエストされると初期化されます。

## 「クラスタ情報」画面

Sigar が構成されている場合、この画面には、追加の各 WebCenter Sites クラスター・メンバーの名前、URL、ポート、および GUID がリストされます。

Cluster Info			
Number of remote cluster peer = 1			
Name	Url	Port	Guid
notifier	192.0.2.201	54014	oracle-desk/192.0.2.201-3a43be2d:136c6d640a2

## ログ・ビューア

「ログ・ビューア」ツールによって、WebCenter Sites 管理者のインタフェースから log4j.properties ファイルに指定されている WebCenter Sites ログの内容を表示、末尾を表示、ダウンロード、および検索できます。ログの合計サイズがツールのパフォーマンスに影響するため、ログ・サイズが 100 MB を超える場合、管理者にはこれが通知され、続行するか取り消すかを選択できます。

この項は、次のトピックで構成されています。

- [ログの表示](#)
- [ログの末尾の表示](#)
- [ログのダウンロード](#)
- [ログの検索](#)

### 注意

「ログ・ビューア」ツールは、WebCenter Sites が Apache log4j ロギング・システムを使用するように設定されており、log4j.properties ファイルにファイル・アペンダ FWDefaultAppender が含まれている場合にのみ使用可能です。log4j の設定の詳細は、[558 ページの「Apache log4j の設定」](#)を参照してください。

## ログの表示

WebCenter Sites ログの内容全体を、最新の文または特定の時点に書き込まれた文から表示することができます。

ログの内容を表示するには：

1. 「管理」タブで「システム・ツール」を開き、「ログ・ビューア」をダブルクリックします。

「ログ・ビューア」画面に、ログの最新の 100 行が表示されます。

The screenshot shows the 'Log Viewer: View, Search and Export Oracle WebCenter Sites Logs' window. Annotations include:

- An arrow pointing to the 'Lines per page' dropdown (set to 100) with the text: '表示する行数を変更できます。' (You can change the number of lines to display).
- An arrow pointing to the 'View Log' button with the text: '「ログの表示」をクリックすると表示をリフレッシュできます。' (Clicking 'View Log' refreshes the display).
- An arrow pointing to the 'Scroll to Bottom' link with the text: '「下」をクリックすると、現在のページの下または先頭に移動します。' (Clicking '下' moves to the bottom of the current page or to the top).
- An arrow pointing to the 'Next' link with the text: '「次」および「前」をクリックすると、後続のページまたは前のページに移動します。' (Clicking '次' and '前' moves to the next or previous page).

The log content displayed is as follows:

```

Log Read At: Tue Mar 06 19:33:53 PST 2012.

<< Previous
[2012-03-02 11:00:17,936] [INFO] [main] [springframework.web.context.ContextLoader] Root
[2012-03-02 11:00:17,936] [INFO] [main] [fatwire.logging.cs.event] CSShutdownListener is
[2012-03-02 11:00:17,983] [INFO] [main] [springframework.context.support.ClassPathXmlAppl
[2012-03-02 11:00:17,983] [INFO] [main] [beans.factory.xml.XmlBeanDefinitionReader] Loadi
[2012-03-02 11:00:18,576] [INFO] [main] [springframework.context.support.ClassPathXmlAppl
[2012-03-02 11:00:18,592] [INFO] [main] [beans.factory.support.DefaultListableBeanFactory
[2012-03-02 11:00:22,544] [INFO] [main] [fatwire.logging.cs.filelock] ftFileLock using ni
[2012-03-02 11:00:26,137] [INFO] [main] [beans.factory.xml.XmlBeanDefinitionReader] Loadi
[2012-03-02 11:00:27,543] [INFO] [main] [beans.factory.xml.XmlBeanDefinitionReader] Loadi
[2012-03-02 11:00:27,606] [INFO] [main] [beans.factory.xml.XmlBeanDefinitionReader] Loadi
[2012-03-02 11:00:30,527] [INFO] [main] [logging.cs.satellite.host] Remote Host: http://l
  
```

2. 特定の時点に書き込まれた文に移動するには、次のように実行します。

- a. カレンダー (📅) アイコンをクリックして日付と時刻を選択するか、yyyy-mm-dd hh:mm:ss 形式で日付と時刻を手動で入力します。

### 注意

この機能は、log4j.properties ファイルで現在指定されているタイムスタンプ・パターンで書き込まれたログ文のみを対象にしています。



- b. 「ログの表示」をクリックします。

「ログ・ビューア」画面に、指定した日付と時刻に、またはその後あるいはその両方に書き込まれた文が表示されます。

## ログの末尾の表示

別のウィンドウに WebCenter Sites ログの末尾を表示できます。このオプションは、特に、例外を発生させるアクションの実行中にログに書き込まれる文を追跡する場合に役立ちます。

**ログの内容の末尾を表示するには：**

1. 「管理」タブで「システム・ツール」を開き、「ログ・ビューア」をダブルクリックします。
2. 「ログの末尾」をクリックします。

ログ内の最新の 100 行が新しいウィンドウに表示され、5 秒ごとにリフレッシュされます。

## ログのダウンロード

WebCenter Sites ログの内容全体を含む圧縮ファイルをダウンロードできます。

**ログの内容のダウンロードするには：**

1. 「管理」タブで「システム・ツール」を開き、「ログ・ビューア」をダブルクリックします。
2. 「ログのダウンロード」をクリックします。
3. WebCenter Sites ログを含む圧縮ファイルを開くか保存します。ログが複数のファイルに渡る場合は、各ファイルを含めます。

## ログの検索

WebCenter Sites ログの内容を特定の情報について検索できます。

**ログの内容を検索するには：**

1. 「管理」タブで「システム・ツール」を開き、「ログ・ビューア」をダブルクリックします。

「ログ・ビューア」画面に、ログの最新の 100 行が表示されます。

The screenshot shows the 'Log Viewer: View, Search and Export Oracle WebCenter Sites Logs' interface. It includes a search bar with a placeholder 'Type search expression here...', a 'Move to timestamp' field, a 'Lines per page' dropdown set to 100, and a 'View Log' button. Below the search bar are checkboxes for 'Case Sensitive' and 'Regular Expression'. A 'Results per page' dropdown is set to 2, with a 'Search Log' button. At the bottom, there are 'Download Log' and 'Tail Log' buttons. The log content area shows a timestamp 'Log Read At: Tue Mar 06 19:33:53 PST 2012.' and a list of log entries with timestamps, log levels, and messages. Navigation links like 'Previous', 'Scroll to Bottom', and 'Next' are also visible.

2. 大文字小文字を区別する場合は、「大/小文字の区別」チェック・ボックスを選択します。デフォルトでは、大文字小文字の区別は US-ASCII 文字のみを対象としています。大文字小文字の区別を Unicode 文字にも適用する場合は、「Unicode Case」チェック・ボックスも選択します。「Unicode Case」チェック・ボックスは、「大/小文字の区別」チェック・ボックスを選択した後に表示されます。
3. 検索で Java 正規表現を使用できるようにする場合は、「正規表現」チェック・ボックスを選択します。「正規表現」チェック・ボックスを選択すると、「すべてにドット」および「複数行」チェック・ボックスが表示されます。これらを使用して、正規表現設定を調整します。
  - ドット (.) を任意の文字および行の終了文字と一致させる場合は、「すべてにドット」チェック・ボックスを選択します。このチェック・ボックスの選択が解除されている場合、ドットは文字にのみ一致します。
  - カレット (^) を行の先頭と、ドル記号 (\$) を行の終わりと一致させるには、「複数行」チェック・ボックスを選択します。

### 注意

正規表現を使用して検索する場合、1 つの検索結果のログの行数は、最大 40 行に制限されます。

4. 検索フォームに、ログで検索する表現を入力します。
5. 「ページ当たりの結果数」フィールドで、各ページにリストする結果の数を選択します。
6. 「ログの検索」をクリックします。

「ログ・ビューア」画面に、検索に一致するログの行が表示されます。

The screenshot shows the 'Log Viewer: View, Search and Export Oracle WebCenter Sites Logs' interface. At the top, there is a search bar with the text 'remote host' and a 'View Log' button. Below the search bar, there are checkboxes for 'Case Sensitive' and 'Regular Expression'. A 'Results per page' dropdown is set to '2'. Below the search results, there are buttons for 'Download Log' and 'Tail Log'. The log entries are displayed in a table format, showing timestamps, log levels, and messages. The first entry is '[2012-03-02 11:00:30,527] [INFO] [main] [logging.cs.satellite.host] Remote Host: http://localhost:8280'. Below each entry is a 'View log' link. At the bottom right, there is a 'Next' link with a right arrow.

「次」をクリックすると、結果の次のページに移動します。

7. より大きなコンテキストで検索結果を表示するには、結果行の下「ログの表示」をクリックします。

検索に一致する行から始めて 100 行のログが、新しいウィンドウに表示されます。

## ファイル・システムのテスト

「ファイル・システムのテスト」ツールによって、ローカル・アプリケーション・サーバー・ディレクトリと共有ファイル・システム(<cs\_install\_dir>/Shared)の中央ディレクトリをテストし、提供されているベンチマークとそれらのパフォーマンスを比較できます。

**表 10: テストされるファイル・システム**

ファイル・システム	説明
spc	すべての WebCenter Sites クラスタ・メンバーの共有ページ・キャッシュ・ディレクトリ。 サンプル・パス: ¥cs76¥Shared¥SystemPageCache¥
local	サーブレット・コンテキスト情報の一時ディレクトリ。 サンプル・パス: ¥apache-tomcat-6.0.16¥work¥Catalina¥localhost¥cs
data	すべての WebCenter Sites クラスタ・メンバーの共有 BLOB データ・ディレクトリ。 サンプル・パス: ¥cs76¥Shared¥ccurl
sync	すべての WebCenter Sites クラスタ・メンバーの共有同期ディレクトリ。 サンプル・パス: /cs76/Shared/clustersync

テスト・スイートは、ローカル・アプリケーション・サーバー・ディレクトリおよび共有ファイル・システム・ディレクトリで実行されるいくつかの固有のテストで構成されています。これらのテストのそれぞれによって複数のスレッドが実行されます。各スレッドによって、空のファイルが作成され、そのファイルへの書込み、そのファイルの読取り、そのファイルの削除が実行されます。使用可能なテスト・スイートは次のとおりです。

- **小規模のテスト**: 合計 16 個のテストが実行されます (4 個のテストが表 10 にリストされているディレクトリそれぞれに対して実行されます)。
- **中規模のテスト**: 合計 64 個のテストが実行されます (16 個のテストが表 10 にリストされているディレクトリそれぞれに対して実行されます)。
- **大規模のテスト**: 合計 384 個のテストが実行されます (96 個のテストが表 10 にリストされているディレクトリそれぞれに対して実行されます)。

**ファイル・システムをテストするには:**

1. 「管理」タブで、「システム・ツール」を開き、「ファイル・システムのテスト」をダブルクリックします。

2. 「ファイル・システムのテスト」画面で、実行するテストのタイプを選択し、「テストの開始」をクリックします。

### File System Test

This tool tests the performance of the file systems and compares the results with benchmark data. The graph refreshes every 10 tests (20 for IE running an extensive test).

☐ Short Test
 ☒ Medium Test
 ☐ Extensive Test

テストは、手順 3 に示す「パフォーマンスの概要」表に記載されているディレクトリに対して実行されます。ファイル・システム・テストの結果を、その進行に従って追跡できます。

### 注意

テストに時間がかかりすぎたり、パフォーマンスへの影響が許容範囲を超える場合は、「テストの停止」をクリックできます。ファイル・システム・テストの結果は、テストが完了したときにのみ、提供されているベンチマークと比較できます。

3. テストが完了したら、「パフォーマンスの概要」表の全体的な結果を確認します。

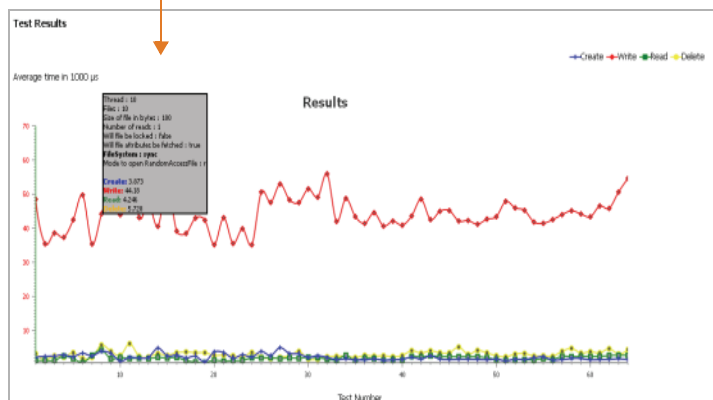
File System Test					
This tool tests the performance of the file systems and compares the results with benchmark data. The graph refreshes every 10 tests (20 for IE running an extensive test).					
<input type="button" value="Start Test"/> <input type="button" value="Download"/> <input type="radio"/> Short Test <input checked="" type="radio"/> Medium Test <input type="radio"/> Extensive Test					
Performance Summary					
FileSystem	Path	Create, µs	Write, µs	Read, µs	Delete, µs
spc - SystemPageCache	C:\FatWire\JSK\JSK_030212-FSII\AVI-8280\ContentServer\11.1.1.6.0\Shared\SystemPageCache\	2172	45547	1800	2845
		<b>1141</b>	<b>5207</b>	<b>1202</b>	<b>1017</b>
local - Servlet Context Temp Folder	C:\FatWire\JSK\JSK_030212-FSII\AVI-8280\App_Server\apache-tomcat-6.0.32\work\Catalina\localhost\cs	2185	45287	1792	3236
		<b>48</b>	<b>73</b>	<b>34</b>	<b>54</b>
data - MungoBlobs or ccurl	C:\FatWire\JSK\JSK_030212-FSII\AVI-8280\ContentServer\11.1.1.6.0\Shared\ccurl\	2105	43938	1773	2915
		<b>1113</b>	<b>5250</b>	<b>1159</b>	<b>1220</b>
sync - Usedsksync property (futuretense.ini)	C:\FatWire\JSK\JSK_030212-FSII\AVI-8280\ContentServer\11.1.1.6.0\Shared\clustersync	2144	43308	2097	3226
		<b>1139</b>	<b>5225</b>	<b>1172</b>	<b>958</b>

次の情報が、ディレクトリごとに表示されます。

- 太字で表示されている数字はベンチマークです。このベンチマークは、NFS バージョン 4 を介して 10K RPM SAS300 HD に接続されている Oracle Secure Linux 5.4 システム上で標準テストを実行することで計算されました。クライアントとサーバーの両方が同じネットワーク・スイッチ上にあり、テスト時に他のトラフィックはありませんでした。
- 「ファイル・システム」は、テストが実行されたディレクトリを示します。
- 「パス」は、ファイル・システム・テストが実行されたディレクトリのパスを示します。
- 「作成」は、作成操作の実行にかかったミリ秒数の平均を示します。

- 「書込み」は、書込み操作の実行にかかったミリ秒数の平均を示します。
  - 「読取り」は、読取り操作の実行にかかったミリ秒数の平均を示します。
  - 「削除」は、削除操作の実行にかかったミリ秒数の平均を示します。
4. 各テストの詳細は、グラフ (「パフォーマンスの概要」表の下にある) およびテスト結果表 (グラフの下にある) を確認してください。
- a. 単一テストの結果を表示するには、グラフ上のポイントにマウスを置くと、テスト結果表の目的の行に移動します。

グラフ上のポイントにマウスを置くと、指定したテストの結果が表示されます。



表内の行を開くと、指定したテストに関する詳細情報が表示されます。

このアイコンにマウスを置くと、表の結果に関する情報が表示されます。

Detailed information														
	Test	Threads	Files	Size	Reads	Lock	Attributes	Mode	Filesystem	Create,µs	Write,µs	Read,µs	Delete,µs	Total Test Time
	@ 1	10	10	100	1	true	true	r	local	340/3830/2162	37797/55368/48462	478/5224/1251	929/14889/3201	654848
	@ 2	10	10	100	1	true	true	r	data	296/9118/2406	18094/43997/35409	470/4195/1189	924/3049/1463	619339
	@ 3	10	10	100	1	true	true	r	spc	312/8471/2520	19672/53419/38562	474/4476/1218	969/9617/2567	614270
	@ 4	10	10	100	1	true	true	r	sync	323/8852/2813	23805/48112/37309	488/5781/2474	955/4583/2169	652715
	@ 5	10	10	100	1	false	true	r	local	323/9167/2359	29832/48885/42461	477/5736/1774	942/10805/3494	597318
	@ 6	10	10	100	1	false	true	r	data	366/8646/3332	38329/59113/49711	460/1084/545	919/5518/1769	722482
	@ 7	10	10	100	1	false	true	r	spc	309/8754/2519	24345/47127/35353	477/8468/2702	956/5622/2107	577370
	@ 8	10	10	100	1	false	true	r	sync	403/9634/3873	20691/59561/44180	478/11751/4246	1039/18798/5728	793196
	@ 9	10	10	100	50	true	true	r	local	294/6466/3268	24998/91358/53298	1239/2276/1721	924/16552/3884	1755555

### 注意

グラフ上の各ポイントおよび表内の行には、単一テストに関する情報が表示されます。ただし、グラフのポイントにマウスを置いて単一テストの詳細を表示するには、*Internet Explorer* 以外のブラウザを使用する必要があります。

次の情報が、テストごとに表に表示されます。

- 「テスト」は、各テストのシリアル番号を示します。
- 「スレッド」は、テスト中に作成されたスレッドの数を示します。
- 「ファイル」は、スレッド1つ当たりに対して作成されたファイルの数を示します。
- 「サイズ」は、ファイル1つ当たりのバイト数を示します。
- 「読取り」は、テストによって各ファイルが読取られた回数を示します。
- 「ロック」は、各ファイルがロックされたかどうかを示します(ランダム・アクセス・ロック操作)。
- 「属性」は、テスト中に各ファイルの属性が読み取られたかどうかを示します。
- 「モード」は、スレッド中にファイルにアクセスするための Java I/O ランダム・アクセス・モードを示します。
- 「ファイル・システム」は、テストが実行されたディレクトリを示します。
- 「作成」は、テストによる作成操作の実行にかかったミリ秒数の最小、最大および平均を示します。
- 「書込み」は、テストによる書込み操作の実行にかかったミリ秒数の最小、最大および平均を示します。
- 「読取り」は、テストによる読取り操作の実行にかかったミリ秒数の最小、最大および平均を示します。
- 「削除」は、テストによる削除操作の実行にかかったミリ秒数の最小、最大および平均を示します。
- 「合計テスト時間」は、テストの完了にかかったミリ秒数の合計を示します。

- b. テスト結果表で、行を開き、特定のテスト中に作成された各スレッドに関する詳細を表示します。

メインの表のスラッシュで区切られた値は、テストの最小値、最大値および平均値を示します。

Detailed information ⓘ

Test	Threads	Files	Size	Reads	Lock	Attributes	Mode	Filesystem	Create, µs	Write, µs	Read, µs	Delete, µs	Total Test Time, µs
1	10	10	100	1	true	true	r	local	340/3830/2162	37797/55368/48465	478/5224/1251	929/14889/3201	654848
2	10	10	100	1	true	true	r	data	295/9118/2406	18094/43897/35409	470/4195/1189	924/3049/1463	619339

Thread	Create, µs	Write, µs	Read, µs	Delete, µs
1	1018	40205	484	1170
2	1030	29342	1205	937
3	296	18094	4195	926
4	917	43190	481	959
5	9118	35323	1902	3049
6	4326	33712	470	1647
7	1203	38929	471	924
8	3465	37584	477	1636
9	2338	33819	1715	2438
10	355	43897	490	947

次の情報が、スレッド詳細表に表示されます。

- 「スレッド」は、各スレッドのシリアル番号を示します。
  - 「作成」は、スレッドが空のファイルの作成にかかったミリ秒数の合計を示します。
  - 「書込み」は、スレッドがファイルへの書込みの終了にかかったミリ秒数の合計を示します。
  - 「読取り」は、スレッドが、それが作成したファイルの読取りにかかったミリ秒数の合計を示します。
  - 「削除」は、スレッドがファイルの削除にかかったミリ秒数の合計を示します。
5. テスト結果をスプレッド・シートとしてダウンロードするには、「ファイル・システムのテスト」画面の上部に移動し、「ダウンロード」をクリックします。



## 結果セットのキャッシュ

Oracle WebCenter Sites によって、システム・パフォーマンスの最適化に役立つように結果セットがキャッシュされます。キャッシングにより、同じ情報に対して問合せを繰り返すことによるデータベースの過負荷が防止され、さらに、キャッシュから提供すると、別のデータベースの参照を実行するよりも常に高速です。

デフォルトでは、Oracle WebCenter Sites は、結果セットをハッシュ表のかわりに inCache フレームワークに格納します。どちらのキャッシング・フレームワークでも Java メモリが使用されます。futuretense.ini の rsCacheOverinCache プロパティを true または false に設定することで、これらのフレームワーク間で切り替えることができます。

inCache を使用した結果セットのキャッシングが有効化されている場合、「システム・ツール」ノードに「結果セットのキャッシュ」ツールが表示されます。これは、この項で説明しているようにキャッシュとそれらの内容に関する統計情報を提供します。結果セットのキャッシングの追加情報は、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』に記載されています。

### inCache を使用した結果セットのキャッシングの有効化と構成

inCache を使用した結果セットのキャッシングを有効化しない場合、デフォルトでハッシュ表でのキャッシングが有効化されます。

**結果セットのキャッシュを有効化および構成するには：**

1. 次のように結果セットのキャッシングを有効化します。
  - a. linked-cache.xml 構成ファイルがアプリケーション・サーバーのクラスパス (WEB-INF/classes ディレクトリ) に存在していることを確認します。
  - b. futuretense\_xcel.ini ファイルで、rsCacheOverinCache プロパティを true に設定します。
2. 次のように結果セットのキャッシングを構成します。

futuretense.ini ファイルで、次の結果セットのキャッシングのプロパティの値を設定します。

  - cc.cacheResults: キャッシュする結果セットのデフォルトの数を指定します。
  - cc.cacheResultsTimeout: キャッシュされた結果セットを保持する分数を指定します。
  - cc.cacheResultsAbs: キャッシュされた結果セットに対して有効期限を計算する方法を指定します。

結果セットのキャッシングのプロパティの構成の詳細は、Oracle WebCenter Sites プロパティ・ファイル・リファレンスを参照してください。

## キャッシュ情報の表示

結果セットのキャッシュの概要表示には、すべてのキャッシュの統計情報が表示されます。概要表からキャッシュを選択して、それに含まれるデータベース問合せを表示できます。さらに、キャッシュに含まれるデータベース問合せの結果セット・エレメントを表示できます。

キャッシュ情報を表示するには：

1. 「管理」タブで、「システム・ツール」→「キャッシュ管理」→「結果セットのキャッシュ」を開き、「概要」をダブルクリックします。

概要表には次の情報が表示されます。

Resultset Cache Overview

Statistics in the table below are not presented in real time. They are provided to help you estimate the status of the caches.

Refresh

Filter Clear Invalidate

Cache	Count	MaxCount	Hit Ratio	Hits	Misses	Hit Ratio	Phases Exp.	Get Size	Publ.	Updates	Expired	Released	Unlocked	Shrunk?	TTL	FTL
fw_invalidationMemory	0	500	0%	0	0	0%	0	0.0	0	0	0	0	0	False	300	300
SystemCL	1	25	0%	1	1	50%	0	0.0	1	0	0	0	0	False	31536000	31536000
SystemCLO	3	500	0%	0	3	0%	0	0.0	3	0	0	0	0	False	31536000	31536000
SystemCacheStringLocale	1	500	0%	357	6	98%	2	0.0	6	0	5	0	0	False	300	300
SystemCacheKlt	2	500	0%	210	20	89%	6	0.0	20	0	24	0	0	False	300	300
SystemUsers	12	100	12%	131	12	91%	0	0.0	12	0	0	0	0	False	31536000	31536000
ResultSetElements	23	1000	2%	1905	86	94%	1	0.01	98	447	77	0	0	False	300	300
ad-actash	12	25	40%	7103	11	99%	0	0.0048	12	0	0	0	0	False	31536000	31536000
cachedCatalog	10	1000000	0%	19538	1004	95%	25	0.01	89	45	71	0	0	False	1000	1000
com.fatwire.assetapi.def.assetTypeOfManager	2	1000	0%	9	2	81%	0	0.0	2	0	0	0	0	False	31536000	31536000
com.opera.market.assetmaker.asset.AMAsset	2	1000	0%	7	2	77%	0	0.0	2	0	0	0	0	False	31536000	31536000
cdDataSourceApprovalQueue	0	500	0%	0	20	0%	0	0.0	20	0	0	0	0	False	300	300
cdDataSourceApprovalPublication	0	500	0%	0	4	0%	0	0.0	4	0	4	0	0	False	300	300
cdDataSourceApprovalQueues	0	500	0%	0	839	0%	0	0.0	0	0	0	0	0	False	300	300
cdDataSourceApprovalRelationTree	0	500	0%	0	7	0%	0	0.0	7	0	7	0	0	False	300	300
cdDataSourceApprovalType	0	50	0%	152	44	77%	0	0.0	44	0	44	0	0	False	300	300

表 11: 概要表の列の説明

列名	説明
キャッシュ	キャッシュの名前。
数	キャッシュ内の結果セット・エレメントの数。結果セット・エレメントは、キーと値のペアです。ここでキーは問合せであり、値はその問合せによって戻される結果です。
最大数	キャッシュの容量 (キャッシュで許容される結果セット・エレメントの最大数)。
フィル率	キャッシュ容量の使用率: (数 / 最大数) x 100
ヒット	すべての結果セット・エレメントがキャッシュから読み取られた回数の合計。
ミス	キャッシュで結果セット・エレメントが見つからなかった回数。
ヒット率	ヒットの割合: [ ヒット / ( ヒット + ミス ) ] x 100

表 11: 概要表の列の説明 ( 続き )

列名	説明
期限切れミス	期限切れになったが削除されていない結果セット・エレメントが原因のミスの数。
取得時間	get 操作にかかった平均時間 ( ミリ秒単位 )。
プット	データベースの問合せに続いて、キャッシュに結果セット・エレメントが入れられた回数。
更新	キャッシュ内の個々の結果セット・エレメントが更新された回数。
期限切れ	期限切れ結果セット・エレメントの数。これらは、バックグラウンドで定期的に行われるクリーニング・スレッドによって削除されます。
除去済	いずれかの理由 ( 手動によるクリア操作またはクリーニング・スレッドなど ) で削除された結果セット・エレメントの数。
削除済	削除済結果セット・エレメントの数。削除は、キャッシュの容量を超えたときに実行されます。
不変	キャッシュ内のすべての結果セット・エレメントの有効期限が無期限になっているかどうかを示します。
TTL	有効時間。結果セット・エレメントがキャッシュ内に留まる時間の長さ ( 秒数 )。
TTI	アイドル時間。この時間内に結果セット・エレメントがヒット ( キャッシュから読取り ) されなかった場合、それがアイドルとしてマークされます。

2. キャッシュの内容の詳細を表示するには、概要表のキャッシュ名をクリックします。

詳細ビューが開き、キー (問合せ)、それらに関連する統計と、キー、有効期限、および依存性によってキャッシュの内容を検索するための検索フィールドが表示されます。

画面をリフレッシュするには、「検索」をクリックします。

Cache : XMLElements

Size	Capacity	Fill Ratio	Hits	Misses	Hit Ratio	Misses Exp	Get time	Puts	Updates	Expired	Removed	Evicted	Eternal?	TTL	TTI
21	1000	<div><div></div></div> 2%	1542	86	94%	1	0.01	98	447	77	0	0	false	3600	3600

Items Per Page  Search By

Search

Number of items in cache = 21 1 2 3 of 3 pages [last](#)

Key	Dependencies	Created Time	Last accessed time	Expired time
fatwire/systemtools/logs/logViewer	XMLElements	Tue Mar 06 19:55:14 PST 2012	Tue Mar 06 20:22:10 PST 2012	Tue Mar 06 20:55:14 PST 2012
OpenMarket/Xcelerate/Search/Event	XMLElements	Tue Mar 06 20:01:00 PST 2012	Tue Mar 06 20:22:10 PST 2012	Tue Mar 06 21:01:00 PST 2012
OpenMarket/Gator/UIFramework/LoadAdminTree	XMLElements	Tue Mar 06 20:18:43 PST 2012	Tue Mar 06 20:22:10 PST 2012	Tue Mar 06 21:18:43 PST 2012
OpenMarket/Xcelerate/Util/SetLocale	XMLElements	Tue Mar 06 20:19:12 PST 2012	Tue Mar 06 20:22:10 PST 2012	Tue Mar 06 21:19:12 PST 2012
OpenMarket/Gator/UIFramework/Admin/LoadLinkedCacheDetails	XMLElements	Tue Mar 06 20:18:43 PST 2012	Tue Mar 06 20:22:10 PST 2012	Tue Mar 06 21:18:43 PST 2012
fatwire/systemtools/FSTest/TestFS	XMLElements	Tue Mar 06 19:55:46 PST 2012	Tue Mar 06 20:22:10 PST 2012	Tue Mar 06 20:55:46 PST 2012
fatwire/systemtools/logs/logTailViewer	XMLElements	Tue Mar 06 19:43:44 PST 2012	Tue Mar 06 20:22:10 PST 2012	Tue Mar 06 20:43:44 PST 2012
OpenMarket/Gator/UIFramework/BuildTreeNodeID	XMLElements	Tue Mar 06 20:18:44 PST 2012	Tue Mar 06 20:22:10 PST 2012	Tue Mar 06 21:18:44 PST 2012
OpenMarket/Xcelerate/Scripts/DateTimeWidget	XMLElements	Tue Mar 06 19:33:53 PST 2012	Tue Mar 06 20:22:10 PST 2012	Tue Mar 06 20:33:53 PST 2012
OpenMarket/Gator/UIFramework/UITimeOutPopup	XMLElements	Tue Mar 06 19:43:45 PST 2012	Tue Mar 06 20:22:10 PST 2012	Tue Mar 06 20:43:45 PST 2012

Table Legend

Key=csDataSource- Invalidated Page

Content\_C-\*id=1114083739888 Updated

csDataSourceContent\_G Dependency

表 12: キャッシュ詳細表の列の説明

列名	説明
キー	結果セット・エレメントのキー ( 問合せ )
依存性	問合せの実行対象の表のリスト
作成時間	結果セット・エレメントがキャッシュ内に入れられたタイミング。
最終アクセス時間	このキャッシュされた結果セット・エレメントが最後にアクセスされたタイミング。
期限切れ時間	この結果セット・エレメントの期限が切れるタイミング。

3. キーの結果セット・エレメントを表示するには、目的のキー ( 問合せ ) をクリックします。

表内で開く列は、動的であり、サイトのデータ・モデルおよび問合せの設定方法によって異なります。

Result Set	
csDataSource-SELECT TBLNAME, ACL FROM SYSTEMINFO WHERE TBLNAME IN ('ELEMENTCATALOG', 'SITECATALOG')[Number of positions=0] data [	
acl	tblname
SiteGod,ElementEditor,ElementReader	ElementCatalog
SiteGod,PageEditor,PageReader	SiteCatalog

## キャッシュの操作

概要表ビューでは、表にリストされたキャッシュ内に含まれる結果セット・エレメントをリフレッシュ、フィルタ、消去、および無効化できます。

キャッシュを操作するには：

- 概要表に移動します。「システム・ツール」→「キャッシュ管理」→「結果セットのキャッシュ」を開き、「概要」をダブルクリックします。
- 概要表の上部にある次のオプションの 1 つをクリックします。
  - リフレッシュ：概要表の結果をリフレッシュします。
  - フィルタ ( キャッシュ )：概要表に表示する結果を、選択したキャッシュのみに絞り込みます。
  - クリア：選択したキャッシュを消去します。
  - 無効化：選択したキャッシュを無効化します。すべての無効化された結果セット・エレメントは、定期的に行われる消去スレッドによって消去されます。

各結果セット・エレメントには、それが依存する表のリストが含まれています。無効化された結果セット・エレメントが要求されたときは、データベースから読み取られ、キャッシュにリロードされます。

## 付録

この部には、WebCenter Sites のシステム・デフォルトとサンプル・サイトに関する情報が含まれています。ここでは、LDAP の構成手順を示し、LDAP オプションがインストールされているときにユーザーおよびサイト管理操作の実行結果として生じるシステム動作について説明します。

この部は、次の付録で構成されています。

- 付録 A 「システム・デフォルト」
- 付録 B 「システム・データ : WebCenter Sites データベース」
- 付録 C 「LDAP-統合 Sites システムでのユーザー、サイト、およびロールの管理」





## 付録 A

# システム・デフォルト

この付録では、日常的に使用することになる WebCenter Sites のシステム・デフォルトについて説明します。

この付録は、次の項で構成されています。

- [ACL](#)
- システム ACL
- デフォルト・ユーザーの ACL
- カスタム・ユーザー用の必須の ACL
- システム・ロール
- システム・アセット・タイプ
- デフォルトのツリー・タブ

## ACL

WebCenter Sites とそのアプリケーションは、複数のデフォルト ACL を使用して、各機能に対するユーザー・アクセスを制御します。この項では、ACL で指定できる権限をまとめ、WebCenter Sites のデフォルトのシステム ACL について説明します。

## 権限

ACL によって一連の権限を指定します。ACL をデータベース表に割り当てると、データベース表では ACL で指定された権限のみを行使できるようになります。これらの権限を行使できるのは、表と同じ ACL を持つユーザーのみです。

表 A-1 には、ACL で指定できるすべての権限がリストされています。

**表 A-1: WebCenter Sites によってサポートされる権限**

権限	ビット・マスク <sup>1</sup>	アクション
読取り	1	表からデータを読み取ります。
取得	16	URL 列 ( アップロード・フィールドとも呼ばれている ) のコンテンツを取得します。URL 列の詳細は、『Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド』を参照してください。
書込み	2	表に情報を書き込みます。
作成	4	表を作成します。
削除	8	表から情報を削除します。
リビジョン追跡 監査	32	追跡される表の行 ( レコード ) のすべてのリビジョン追跡情報にアクセスします。
リビジョン追跡 管理	64	表に対してリビジョン追跡を割り当てるか削除します。

1. ACL が作成されると、ACL に割り当てられている各権限のビット・マスク番号が相互に加算され、その合計が SystemACL 表に ACL とともに表示されます。

## ACL へのアクセス

WebCenter Sites の ACL とその権限は、リストまたは個別のエントリとしてアクセスできます。

- ACL とその権限のリストを取得するには、SystemACL 表を直接開きます。
  - 個別の ACL とその権限を取得するには、次のように管理者インタフェースを使用します。
1. 「管理」タブで、「管理ツール」を開き、「ACL」をダブルクリックします。
  2. ドロップダウン・リストで、作業対象の ACL を選択します。
  3. 「ACL の修正」を選択し、「OK」をクリックします。

### 注意

デフォルトのシステム ACL は変更できません。システム表に割り当てられている ACL は変更できません。

システム ACL の詳細は、[600 ページの「システム ACL」](#)を参照してください。

## システム ACL

表 A-2 には、システム ACL とその権限がリストされています。各システム ACL は、データベース表の特定の部分や、さらに、これらの表を使用する製品機能へのアクセスを制御するために存在しています。デフォルト ACL の多くは同じ権限のセットを持っていますが、これらの ACL は別々の表に割り当てられるものなので、すべてが必要です。

表 A-3 では、各 ACL の機能と、WebCenter Sites および Sites コンテンツ・アプリケーションによる各 ACL の使用方法について説明しています。

**表 A-2: システム ACL とその権限**

ACL 名	権限						
	読取り	取得	書込み	作成	削除	リビジョン 追跡監査	リビジョン 追跡管理
Browser	○						
ContentEditor	○	○	○	○	○	○	
ElementEditor	○	○	○	○	○	○	
ElementReader	○						
PageEditor	○	○	○	○	○	○	
PageReader	○						
RemoteClient	○	○	○	○	○	○	○
SiteGod	○	○	○	○	○	○	○
TableEditor	○	○	○	○	○	○	
UserEditor	○	○	○	○	○	○	
UserReader	○						
Visitor	○	○	○	○	○	○	
VisitorAdmin	○	○	○	○	○	○	○
WSAdmin							
WSEditor							
WSUser							
xceladmin	○	○	○	○	○	○	○
xceleeditor	○	○	○	○	○	○	
xcelpublish	○	○	○	○	○	○	

表 A-3: システム ACL とその説明

ACL 名	説明
Browser	<p>WebCenter Sites データベース内のコンテンツに対して読取り専用アクセスを許可します。システム・デフォルトとサンプル・サイトのユーザーのほとんどのに割り当てられます。</p> <p>WebCenter Sites では、管理するオンライン・サイトへのすべての訪問者にユーザー・アカウントが必要です。このため、WebCenter Sites は DefaultReader という名前のデフォルトのユーザー・アカウント付きで配信されます。これはすべての認証されていないユーザー、つまり独自のユーザー・アカウントを持たないユーザーに割り当てられます。</p> <p>Browser ACL は DefaultReader ユーザー・アカウントに割り当てられます。このユーザー・アカウントによって、認証されていない訪問者には WebCenter Sites データベースのコンテンツに対する読取り専用アクセス権が付与されます。</p>
ContentEditor	<p>サンプルの WebCenter Sites サイトで使用されます。</p> <p>この ACL は、サンプル・サイトをサポートする表に割り当てられます。</p>
ElementEditor	<p>ユーザーが ElementCatalog 表と SystemSQL 表にデータを書き込めるようになります。</p> <p>サイト・デザイナーや、テンプレート、CSElement および SiteEntry アセットの作成者には、この ACL が必要です。</p>
ElementReader	<p>ユーザーが ElementCatalog 表と SystemSQL 表のデータを読み取れるようになります。</p> <p>WebCenter Sites ユーザーが、そのアセットに割り当てられたテンプレートを調査できるようにするには、この ACL が必要です。</p>
PageEditor	<p>ユーザーが SiteCatalog 表にページ・エントリを作成できるようになります。</p> <p>サイト・デザイナーや、テンプレート、CSElement または SiteEntry アセットの作成者には、この ACL が必要です。</p>
PageReader	<p>ユーザーが SiteCatalog 表からエントリを読み取れるようになります。</p> <p>WebCenter Sites ユーザーが、そのアセットに割り当てられたテンプレートを調査できるようにするには、この ACL が必要です。</p>
RemoteClient	<p>サイト・デスクトップなどのリモート・クライアントを介して、ユーザーが WebCenter Sites 管理システムにログインできるようになります。</p> <p>サイト・デスクトップのすべてのユーザーには、この ACL が必要です。</p>
SiteGod	<p>WebCenter Sites データベースのすべての表に完全にアクセスできるようになります。</p> <p>管理システムの少なくとも 1 人のユーザー (通常は管理者) に、SiteGod ACL が必要です。</p>

表 A-3: システム ACL とその説明 ( 続き )

ACL 名	説明
TableEditor	<p>ユーザーが WebCenter Sites データベースの表を作成および削除できるようになります。</p> <p>データベース表を作成したり、(新しい表の作成を引き起こす)新しいアセット・タイプ作成するサイト・デザイナーには、この ACL が必要です。</p> <p>管理者や、ミラーリング先の初期化機能を使用するその他のユーザーにも、この ACL が必要です。</p>
UserEditor	<p>ユーザーがユーザー・アカウントを管理できるようになります。</p> <p>管理者にはこの ACL が必要です。</p>
UserReader	<p>WebCenter Sites によってユーザー・アカウント情報を認識できるようにします。WebCenter Sites はこの ACL を使用して、どのユーザーがどのサイト上でどのロールを持っているのか確認します。割当て先のコンテンツ管理サイトにアクセスできるようにするため、すべてのユーザーにこの ACL が必要です。</p>
Visitor	<p>ユーザーが、訪問者データが格納されている Oracle WebCenter Sites: Engage 表にデータを書き込んで、推奨アセットを作成できるようにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>推奨アセットを作成する必要がある Engage ユーザーはすべて、この ACL が必要です。</li> <li>配信システム上でそのデータが収集されている (Engage アセットの) 認可された訪問者は、この ACL がユーザー・アカウントに割り当てられている必要があります。</li> <li>オンライン・サイトの認可されていない訪問者にはすべて、Engage のインストール時にこの ACL が (DefaultReader ユーザー・アカウントで) 自動的に割り当てられます。DefaultReader アカウントの詳細は、111 ページの「DefaultReader、secure.CatalogManager および secure.TreeManager」を参照してください。</li> </ul>
VisitorAdmin	<p>ユーザーが訪問者属性、履歴属性、履歴タイプを作成できるようにします。これらのタイプのアセットを作成する必要がある Engage ユーザーはすべて、この ACL が必要です。</p>
WSUser	<p>Web サービス機能の SiteCatalog ページ・エントリに割り当てられます。ユーザーが WebCenter Sites の Web サービスにより WebCenter Sites にアクセスできるようにします。</p>
WSEditor	<p>Web サービス機能の SiteCatalog ページ・エントリに割り当てられます。ユーザーが WebCenter Sites の Web サービスにより WebCenter Sites にアクセスできるようにします。</p>
WSAdmin	<p>Web サービス機能の SiteCatalog ページ・エントリに割り当てられます。ユーザーが WebCenter Sites の Web サービスにより WebCenter Sites にアクセスできるようにします。</p>

表 A-3: システム ACL とその説明 ( 続き )

ACL 名	説明
xceladmin	<p>ユーザーがユーザー・プロファイル、ロール、サイト、アセット・タイプなどを作成できるようにします。つまり、「<b>管理</b>」、「<b>サイト管理者</b>」、「<b>ワークフロー</b>」タブのすべての機能を使用できるようにします。</p> <p>システム管理者、サイト管理者およびワークフロー管理者にはこの ACL が必要です。また、「<b>管理</b>」タブには管理機能とサイト設計機能の両方が含まれているので、サイト・デザイナーにもこの ACL が必要です。</p>
xceleeditor	<p>ユーザーが Sites コンテンツ・アプリケーションにログインできるようになります。ログイン・リクエスト・コードによって、ユーザーがこの ACL を持っているかどうかを検証されます。</p> <p>管理システムのすべてのユーザーに、この ACL が必要です。</p>
xcelpublish	<p>ユーザーがパブリッシュ・コンソールを表示できるようにします。</p>

## デフォルト・ユーザーの ACL

表 A-4: デフォルト・ユーザーとその ACL

ユーザー名	ACL	説明
fwadmin	Browser ElementEditor PageEditor PageReader RemoteClient TableEditor UserEditor UserReader Visitor VisitorAdmin xceladmin xceleeditor xcelpublish wsadmin wseditor wsuser	Sites コンテンツ・アプリケーションの構成を開始できるようにするために WebCenter Sites に よって作成される基本的な管理者ユーザー。  同一の ACL を持つ別のユーザーがすでに存在する状態になるまで、このユーザーを削除しないでください。
WebCenter Sites (インストールのユーザー・アカウント)	Browser ContentEditor ElementEditor ElementReader PageEditor PageReader SiteGod TableEditor UserEditor UserReader	製品のインストール時にインストール・プログラムによって作成されるユーザー・アカウント。  このアカウントの名前は、インストールによって選択されている任意の名前です。
DefaultReader	Browser Visitor (Engage がインストールされている場合)	Browser は、配信システム上の認証されていないサイト訪問者に対して、WebCenter Sites によって割り当てられる ACL です。  Engage がインストールされている場合は、Visitor ACL も自動的に割り当てられます。



## カスタム・ユーザー用の必須の ACL

表 A-5: ユーザーによって必要とされるシステム ACL

ユーザー	必須の ACL
すべてのユーザー	Browser、Element Reader、PageReader、UserReader、xceleeditor
ワークフロー管理者、サイト管理者	xceladmin
全体管理者	xceladmin、TableEditor、UserEditor、VisitorAdmin (Engage 用)
サイト・デザイナー	xceladmin、ElementEditor、PageEditor、TableEditor、Visitor (Engage がインストールされている場合)、Visitor Admin (Engage 用)
Engage ユーザー	Visitor
Contributor インタフェースの Web モードのユーザー	Browser、ElementReader、PageReader、RemoteClient、UserReader、Visitor (Engage 用)、xceleeditor
サイト・デスクトップ、サイト DocLink	RemoteClient、Visitor (Engage 用)

## システム・ロール

表 A-6: システム・ロール

ロール	説明
GeneralAdmin	<p>グローバルな WebCenter Sites 管理者のデフォルトのシステム・ロール。</p> <p>ツリーの「管理」タブ ( およびその他の可能な機能すべて ) にアクセスする必要があるユーザーに必須のロールです。</p> <p><b>注意 :</b> GeneralAdmin ロールのユーザーが「管理」タブの機能を使用するためには、xceladmin ACL も必要です。</p>
SiteAdmin	<p>サイト管理者のデフォルトのシステム・ロール。</p> <p>選択されたサイトの管理者で、「サイト管理者」タブ ( 「管理」タブの機能のサブセットが表示される ) にアクセスする必要があるユーザーに必須のロールです。</p> <p>SiteAdmin ロールは、他のサイト・ユーザーを管理する ( ただし作成しない ) ユーザーに割り当てます。</p> <p><b>注意 :</b> SiteAdmin ロールのユーザーが「サイト管理者」タブの機能を使用するためには、xceladmin ACL も必要です。</p>
WorkflowAdmin	<p>ワークフロー管理者のデフォルトのシステム・ロール。</p> <p>ツリーの「ワークフロー」タブにアクセスする必要があるユーザーに必須のロールです。</p> <p><b>注意 :</b> WorkflowAdmin ロールのユーザーが「ワークフロー」タブの機能を使用するためには、xceladmin ACL も必要です。</p>
AdvancedUser	<p>WebCenter Sites ユーザーが管理者のインタフェースにアクセスできるようにします。</p>
SitesUser	<p>WebCenter Sites ユーザーがコンテンツ・コントリビュータのインタフェースにアクセスできるようにします。</p>

## システム・アセット・タイプ

表 A-7 には、デフォルトのアセット・タイプがリストされています。カスタム・アセット・タイプと異なり、システム・アセット・タイプは削除できません。

**表 A-7: システム・アセット・タイプ**

アセット・タイプ	説明
属性エディタ	属性エディタは、フレックス・アセットまたはフレックス親アセットに対してフレックス属性が「新規」フォームまたは「編集」フォームに表示されるときに、その属性に対してデータ入力方法を指定します。これはテンプレート・アセットに類似しています。ただし、テンプレート・アセットとは異なり、属性値をオンライン・サイトに表示するときではなく、Sites インタフェースに属性を表示するときに WebCenter Sites で使用するコードを特定する場合に使われます。
CSElement	アセットをレンダリングしないコード (XML または JSP および Java) を格納します。通常は、複数のテンプレート (バナーなど) からコールする共通のコードに対して CSElement を使用します。また、CSElement は、Engage で DynamicList 推奨の作成に必要な問合せを提供する場合にも使用します。
コレクション	1 つのタイプのアセットの順序付けリストを格納します。コレクションの構築は、1 つ以上の問合せを実行し、その結果セットからアイテムを選択し、選択したアイテムをランキングする (順序付ける) ことによって行います。このランキングされ、順序付けられたリストがコレクションです。たとえば、前夜の選挙結果に関する記事が 1 位になるように政治関連記事のコレクションをランキングできます。
ディメンション	サイト内のロケールを表現しています。ディメンション・アセットは、管理システム上で有効にするロケールごとに作成する必要があります。特定のロケールでコンテンツをパブリッシュできるようにするには、対応するディメンション・アセットを配信システムにパブリッシュして、サイトのディメンション・セットでそのロケールを有効にする必要があります。
ディメンション・セット	オンライン・サイトで有効にするロケールとロケール・フィルタを定義します。配信システムでロケール・フィルタが動作するようにするには、配信システムに対して少なくとも 1 つのディメンション・セット・アセットを作成してパブリッシュする必要があります。管理システムには何も影響しません。
履歴属性	Engage で単一レコードとして扱われる情報のベクターを作成するためにグループ化した個々の情報タイプです。データのこのベクターが履歴定義です。たとえば、購買という履歴タイプは、Engage で使用可能な SKU、アイテム名、数量および価格という履歴属性で構成できます。

表 A-7: システム・アセット・タイプ ( 続き )

アセット・タイプ	説明
履歴定義	履歴属性内のデータのベクター。データのこのベクターが履歴定義です。たとえば、購買という履歴タイプは、Engage で使用可能な SKU、アイテム名、数量および価格という履歴属性で構成できます。
リンク	外部 Web サイトの URL を格納します。このアセットは、外部リンクを別のアセット内に埋め込むために使用します。
ページ	他のアセットに対する参照を格納します。ページ・アセットの配置と設計によって、組織の表示方法やサイトのデザインが決まります。ページ・アセットの設計は、適切なコレクション、記事、イメージ・ファイル、問合せなどをページ・アセット用に選択して行います。さらに、WebCenter Sites インタフェースの左側にサイトをツリー表示する「サイト・プラン」タブにページ・アセットを配置します。
プロモーション	サイト訪問者が購入しようとしているフレックス・アセット ( 製品など ) と訪問者が資格を有するセグメントに基づいて、ある種の価値または割引を訪問者に提供するマーチャンダイジング・アセットです。Engage で使用可能です。
問合せ	選択したパラメータまたは基準に基づいてアセットのリストを取得する問合せが格納されます。問合せアセットはページ・アセット、コレクション、および推奨で使用します。データベース問合せは、問合せアセットに対して SQL 問合せとして「新規」フォームまたは「編集」フォームに直接書き込むか、「新規」フォームまたは「編集」フォームで特定されたエレメント (WebCenter Sites の問合せタグが付いているもの、または検索エンジン問合せ) に書き込むことができます。
推奨	これはコレクションの拡張版と考えられます。これは、フレックス・アセット ( 製品や記事など ) を収集、評価、ソートし、現在の訪問者が属するセグメントに基づいて、その訪問者に最適なものを推奨します。Engage で使用可能です。
セグメント	共通の特性 ( 訪問者属性および履歴タイプ ) に基づいて訪問者をグループに分けるアセットです。セグメントの作成は、セグメントの基となる訪問者データ・アセットを決定し、その基準に対して適格値を設定することによって行います。たとえば、アラスカの住民でフライ・フィッシングの道具一式を所有している人々や、過去 6 か月以内にパソコンを購入した人々などをセグメントで定義できます。Engage で使用可能です。
SiteEntry	WebCenter Sites のページまたはページレットを表すものであり、そのページを生成したルート・エレメントとして CSElement が割り当てられています。テンプレート・アセットは、エレメントと WebCenter Sites のページの両方を表すため、SiteEntry アセットは関連付けられていません。

表 A-7: システム・アセット・タイプ ( 続き )

アセット・タイプ	説明
テンプレート	他のアセットを WebCenter Sites のページおよびページレットにレンダリングするコード (XML または JSP および Java) を格納します。開発者は、同一タイプのアセットがすべて同じように書式設定されるように、テンプレートの標準セットを (CSElement および SiteEntry 以外の ) アセット・タイプごとにコーディングします。コンテンツ・プロバイダは、コード自体にアクセスしたりコーディングする必要もなく、テンプレートを選択してコンテンツ・アセットをプレビューできます。
訪問者属性	1 つの特性のみ ( スカラー値 ) を指定する情報のタイプを保持します。たとえば、経験年数、肩書き、子供の数のような名前の訪問者属性を作成できます。Engage で使用可能です。

## デフォルトのツリー・タブ

表 A-8 には、WebCenter Sites のツリーのデフォルトのタブがリストされています。これらのタブは WebCenter Site にとって重要です。WebCenter Sites によって提供されるすべての機能に、これらのタブを介してアクセスできます。デフォルト・タブはインストール時に自動的に作成されます。

**表 A-8: WebCenter Sites のデフォルト・タブ**

タブ	説明
アクティブ・リスト	WebCenter Sites で作成中または編集集中のプロセス内のアイテムを表示します。
管理	システム内のすべての CM サイトに影響する管理機能が表示されます。デフォルトでは、GeneralAdmin というデフォルトのシステム・ロールのあるユーザーのみが、このタブにアクセスできます。
デザイン	サイトでページを作成するためのソースです。これらのソースには、テンプレート、製品定義、コンテンツ定義、およびページ作成のためのその他のソースがあります。
履歴	現在のセッションで使用したアセットが表示されます。このタブは、すべてのユーザーに対して、最初のアセットの作成、調査、編集またはコピー直後に表示されます。
問合せ	ユーザーが特定のタイプの記事を問い合わせ、その方法で構成できるようにします。これは SQL 問合せを使用して実行されます。
サイト管理者	システム規模の管理機能のサブセットを保持します。このサブセットは、SiteAdmin がログインしている CM サイトのみに適用されます。デフォルトでは、SiteAdmin というデフォルトのシステム・ロールのあるユーザーのみが、このタブにアクセスできます。このタブは、個々の CM サイトへのアクセス権限は管理するが、新規ユーザーまたは新規サイトを作成する必要のないユーザーにとって役立ちます。
サイト・プラン	サイトのレイアウトと概要を表現します。このタブには、WebCenter Sites によって制御される各サイトが表示されます。ここには配置済ページと未配置ページがリストされます。配置済ページとは、作成されてライブ・サイトに統合されたページのことです。未配置ページとは、完成しているがライブ・サイトに統合されていないページのことです。
ワークフロー	ワークフロー構成機能がリストされます。デフォルトでは、Workflow Admin ロールのあるユーザーのみが、このタブにアクセスできます。

## 付録 B

# システム・データ : WebCenter Sites データベース

この付録では、WebCenter Sites データベース内の動的な表と、その拡大の仕組みについて説明します。DBA はこの情報を使用して、WebCenter Sites データベースのサイズを適切に設定する方法を決定できます。

この付録は、次の項で構成されています。

- [キャッシュ管理の表](#)
- [承認システムの表](#)
- [パブリッシュ・システムの表](#)
- [ワークフローの表](#)
- [フレックス・アセットの表](#)
- [訪問者の表 \(Oracle WebCenter Sites: Engage\)](#)

この付録には、訪問者の表から非アクティブなデータを消去する方法に関する情報も含まれています。

## キャッシュ管理の表

WebCenter Sites では CacheManager が提供されます。これは、WebCenter Sites のページ・キャッシュと Satellite Server のキャッシュの両方を管理するページ・キャッシング・ユーティリティです。

キャッシュされたページを期限切れにする必要があるのは、有効期限が切れた場合となんらかの方法でそのページが参照するアセットが変更された場合の両方なので、CacheManager は、有効期限だけでなく、キャッシュ内に格納されているページとページレットの間に存在する依存性を追跡する必要があります。この情報は、SystemPageCache 表と SystemItemCache 表に格納されます。

どの Sites システムも CacheManager を使用します。つまり、これらの表はシステムの開発時、管理時、配信時に動的に拡大するのです。キャッシュ追跡表は、次の比率で拡大します。

表	行数
SystemPageCache	キャッシュされたページごとに 1 行。 ページの有効期限が切れたら、行は削除されます。
SystemItemCache	SystemPageCache 表にあるキャッシュされたページによって参照されるアセット、ページレット、その他のアイテムごとに 1 行。たとえば、キャッシュされたページが、3 つの記事アセットに対するアソシエーションを持つページ・アセットから作成されたものである場合、そのキャッシュされたページに対して 4 行が存在することになります。

## 承認システムの表

WebCenter Sites の承認システムは、承認された各アセット、その承認されたセットの他のアセットに対する依存性、アセットの承認ターゲットを追跡します。この情報は、ApprovedAssets 表と ApprovedAssetDeps 表に格納されます。

これらの表は、管理システム上で非常に大きくなる可能性があります。配信システムでは使用されません。承認システム表は、次の比率で拡大します。

表	行数
ApprovedAssets	承認ターゲットのそれぞれについて、承認されたアセットごとに 1 行。つまり、1 つのアセットが 2 つのターゲットに対して承認された場合、表にはこのアセットに対して 2 行が存在することになります。
ApprovedAssetDeps	承認ターゲットのそれぞれについて、承認された各アセットの依存性ごとに 1 行。  たとえば、承認されたアセットが他の 4 つのアセットに依存している場合、この表には 4 行が存在することになります。その同じアセットが 2 つのターゲットに対して承認された場合、各ターゲットの各依存性ごとに 1 行が存在することになります。



## パブリッシュ・システムの表

WebCenter Sites のパブリッシュ・システムは、アセットのパブリッシュされた日時とパブリッシュ先を追跡します。この情報は、PubKey 表と PublishedAssets 表に格納されます。

Sites 管理システムのアセット数が増加すると、これらの表の行数も増加します。これらの表は、次の比率で拡大します。

表	行数
PubKey	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミラー・パブリッシュの場合：ターゲット宛先のそれぞれについて、ミラーリングされるアセットごとに 1 行。</li> <li>エクスポート・パブリッシュの場合：エクスポート時に作成されるページごとに 1 行。つまり、14 のアセットが 1 ページにレンダリングされた場合、この表には、(14 行ではなく) アセットのグループ全体に対する 1 行のみが存在することになります。</li> </ul>
PublishedAssets	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミラー・パブリッシュの場合：ターゲット宛先のそれぞれについて、ミラーリングされるアセットごとに 1 行。</li> <li>エクスポート・パブリッシュの場合：エクスポートされるアセットごとに 1 行。前述の例を続けるなら、14 アセットが 1 ページにレンダリングされた場合、表にはそのページについてアセットごとに 1 行が存在することになります。</li> </ul>

## ワークフローの表

ワークフロー・システムは、あらゆる時点でワークフロー・プロセスに関与したすべてのアセットを追跡します。この情報は、Assignment 表と WorkflowObject 表に格納されます。

ワークフロー・プロセスに配置されたアセット数が増加すると、これらの表の行数も増加します。これらの表は、次の比率で拡大します。

表	行数
Assignment	<p>ワークフローの割当てごとに 1 行。たとえば、ワークフロー・プロセスの過程で 1 つのアセットが 4 人のユーザーに割り当てられた場合、表にはそのアセットについて 4 行が存在することになります。</p> <p>これらの行は、そのアセットに対してワークフロー・プロセスが完了しても削除されません。</p>
WorkflowObjects	<p>ワークフロー内のアセットごとに 1 行。</p> <p>アセットがワークフローを離れると、この行は削除されます。</p>

## ベーシック・アセットの行

ベーシック・アセット・タイプには、1つのプライマリ・ストレージ表があります。たとえば、記事 (article) アセット・タイプのプライマリ・ストレージ表の名前は Article で、HelloArticle アセット・タイプのプライマリ・ストレージ表の名前は HelloArticle になります。

1つのタイプのアセットの数が増加すると、そのタイプのアセットを保持している表のサイズも増大します。ベーシック・アセットのプライマリ・ストレージ表には、そのタイプのアセットごとに1行が存在しています。

## フレックス・アセットの表

フレックス・ファミリ内のアセット・タイプには、それぞれ複数のデータベース表があります。非常に大きくなる可能性のあるフレックス・ファミリ内の3つのタイプの表は次のとおりです。

- フレックス・アセット・タイプのプライマリ・ストレージ表。たとえば、avisports サンプル・サイトで、記事という名前のアセット・タイプのプライマリ・ストレージ表の名前は AVIArticle になります。
- フレックス・アセットまたはフレックス親アセット・タイプの \_AMap 表。(例: AVIArticle\_AMap。)
- フレックス親アセット・タイプの \_Group 表。(例: ArticleCategory\_Group。)
- フレックス・アセット・タイプの \_Mungo 表。(例: AVIArticle\_Mungo。)
- フレックス親アセット・タイプの \_Mungo 表。(例: ArticleCategory\_Mungo。)
- Mungo\_Blobs 表。

これらのタイプの表は、次の比率で拡大します。

表	行数
<b><i>FlexAssetType</i></b> (例: AVIArticle)	このタイプのすべてのアセットに対してアセットごとに1行。
<b><i>FlexAssetType_AMap</i></b> (例: AVIArticle_AMap)	そのタイプのアセットそれぞれについて、(属性値が継承されたものでも、直接割り当てられたものでも) 属性値ごとに1行。
<b><i>FlexAssetType_Group</i></b> (例: ArticleCategory_Group)	フレックス親アセットとフレックス・アセットの間の親子関係ごとに1行(親の親、さらにその親などの関係を含む)。
<b><i>FlexAssetType_Mungo</i></b> (例: AVIArticle_Mungo)	このタイプの各アセットのすべての属性値に対して属性値ごとに1行。 場合によっては、この等式の結果が 1000 万行を超えることもあります。

表	行数
FlexParent_Mungo (例: ArticleCategory_Mungo)	このタイプのすべての親アセットのすべての属性値に対して属性値ごとに 1 行。
Mungo_Blobs	BLOB タイプの 1 つの属性に対して保存されたすべての属性値に対して属性値ごとに 1 行。

## 訪問者の表 (Oracle WebCenter Sites: Engage)

Oracle WebCenter Sites: Engage は訪問者情報をキャプチャして、訪問者データ表に格納します。これらの表には訪問者のセッション ID などの情報が格納されており、これによって、以前のセッションや、収集しているデータを表す属性の値にリンクすることができます。

オンライン・サイトを訪問する訪問者の数が増加すれば、これらの表の行数も増加します。これらの表は、次の比率で拡大します。

表	行数
scratch	訪問者に対して作成される訪問者コンテキスト・セッション・オブジェクトごとに 1 行。  訪問者コンテキスト・セッション・オブジェクトとは、プロモーション・リスト、セグメント・リスト、ショッピング・カートなどのようなものです。各セッションの各訪問者に対して、少なくとも 5 行がこの表に追加されます。
VMVISITOR	各ブラウザ・セッションの訪問者ごとに 1 行。 <b>Engage</b> では、各セッションの各訪問者に対して一意の訪問者 ID が作成されます。
VMVISITORALIAS	データベース中心の訪問者追跡では、返される訪問者についても、各ブラウザ・セッションの訪問者ごとに 1 行が作成されます。この方法では、訪問ごとに 1 行が作成されます。  メモリー中心の訪問者追跡では、返される訪問数に関係なく、訪問者ごとに 1 行が作成されます。 <b>注意:</b> 1 行の中には、別名の名前 / 値のペアと、セッションをマークする訪問者 ID (VMVISITOR にもリストされているもの) が保持されています。
VMVISITORSCALARVALUE	保存されている訪問者の属性値 (バイナリ・タイプの属性を除く) ごとに 1 行。 <b>注意:</b> メモリーベースの訪問者追跡が有効である場合は、この表には値が移入されません。

表	行数
VMVISTORSCALARBLOB	保存されているバイナリ・タイプの訪問者属性値 (スカラー・オブジェクトとも言われる) ごとに 1 行。 <b>注意:</b> メモリーベースの訪問者追跡が有効である場合は、この表には値が移入されません。
VMz -----	動的に生成される表で、履歴属性の値が保存されたときに作成されます。 <b>Engage</b> によって履歴タイプごとに 1 つの表が作成され、この表には履歴タイプのレコードが保存されるたびに 1 行ずつ追加されます。

## 属性の表の管理

属性値を保持している表は急速に拡大する可能性があるため、非アクティブなデータを定期的にこの表から消去する必要があります。

これらの表から非アクティブなデータを削除するには、次に示す Engage XML オブジェクト・メソッドか、これと同等の JSP を使用します。

```
<VDM.FLUSHINACTIVE STARTDATE="cutoffDate" />
```

非アクティブな訪問者データとは、最新と考えられるデータに別名を介して接続されていない訪問者 ID でマークされているデータのことで、使用する Engage に対してカットオフ日付 (STARTDATE) を設定します。その日付より前の訪問者レコードはすべて、その日付より後に記録されたデータと別名を介してリンクされていないかぎり、以前リストされた訪問者表から削除されます。

VDM.FLUSHINACTIVE タグの使用方法は複数あります。次に例を示します。

- タグを呼び出してカットオフ日付の入力を求める管理エレメントを作成できます。
- なんらかのパラメータに基づいてカットオフ日付を計算する等式をこのエレメントに指定して、このエレメントを定期的にスケジュールされた時間に自動的にイベントとして実行するように設定できます。自動的にイベントとして設定するには、WebCenter Sites の APPEVENT タグ (kron ジョブのように機能する) を使用します。このタグの詳細は、*Oracle WebCenter Sites 開発者タグ・リファレンス*と、『*Oracle WebCenter Sites 開発者ガイド*』のコーディングの基本事項に関する項を参照してください。

STARTDATE パラメータに渡す値はイベント内の時間にする必要があります。WebCenter Sites の DATE.CONVERT タグを使用して、使用するイベント日付の値を取得できます。次に例を示します。

```
<DATE.CONVERT VARNAME="flushtime"
  YEAR="four digit year" MONTH="number in the range 1-12"
  DAY="number in the range 1-31"
  [HOURL="number in the range 0-11 where 0 is midnight" AMPM="am
or pm" MINUTE="number in the range 0-59"
  TIMEZONE="timezone" ] />
<VDM.FLUSHINACTIVE STARTDATE="Variables.flushtime" />
```

このタグの詳細は、*Oracle WebCenter Sites 開発者タグ・リファレンス*を参照してください。

## セッション・オブジェクトの表の管理 (scratch)

各セッションの各訪問者に対して少なくとも 5 つのセッション・オブジェクトが格納されているため、scratch 表は急速に拡大する可能性があります。各オブジェクトにはタイムスタンプがあるので、それぞれのタイムスタンプに基づいて、古いオブジェクトを定期的に消去する必要があります。

scratch 表から古いセッション・オブジェクトを削除するには、次に示す Engage XML オブジェクト・メソッドか、これと同等の JSP を使用します。

```
<SESSIONOBJECTS.FLUSH TIMESTAMP="cutoffTime" />
```

セッション・オブジェクトにはカートが含まれているので、そのカートが放棄されたと見なされる時点を表すカットオフ時刻を設定する必要があります。

### 注意

このオブジェクト・メソッドは VMSCALARBLOB 表には影響しません。つまり、バイナリ・タイプの訪問者属性 (スカラー・オブジェクト) として格納したカートは削除されません。

STARTDATE パラメータに渡す値はイベント内の時間にする必要があります。WebCenter Sites の DATE.CONVERT タグを使用して、使用するイベント日付の値を取得できます。たとえば、次の項に示す VDM.FLUSHINACTIVE タグのコード例を参照してください。

このタグの詳細は、*Oracle WebCenter Sites 開発者タグ・リファレンス*を参照してください。

## 不要な .class ファイルの削除

Oracle WebCenter Sites: Engage は Java ベースのアプリケーションなので、次のいずれかのイベントが発生するたびに Java の .class ファイルが生成されます。

- セグメント、推奨またはプロモーションが作成されたとき。
- 関連アイテムの推奨用に製品が構成されたとき。
- セグメント、推奨またはプロモーションが Engage によって計算または起動されたとき。

通常、古い .class ファイルは、セグメント、推奨、プロモーションまたは製品が更新されて新しい .class ファイルによって置き換えられたときに削除されます。ただし、更新済バージョンがパブリッシュされたときに、セグメント、推奨、製品またはプロモーションが使用中の場合、古い .class ファイルはロックされているために自動削除されません。

古い .class ファイルが積み重なってディスクを満たし、メモリーを占拠する可能性があります。したがって、実行中の開発作業の量と配信システムのパブリッシュ頻度に基づいて、これらの .class ファイルを定期的にスケジュールされた時間に手動で削除する必要があります。

古い .class ファイルを削除するには、次の手順を実行します。

1. プロパティ・エディタを使用して、vis.genclasspath プロパティを調べ、パラメータによって指定されているディレクトリ名をメモします。これは、.class ファイルが格納されているディレクトリです。
2. サイトに動きがないときに、実行中の JRE ランタイムの各インスタンスをシャットダウンして再起動します。このプロセスによって、JRE ランタイムによってロックされた古い .class ファイルが解放されます。
3. 任意のファイル管理ツールを使用して、.class ファイルを保持しているディレクトリに移動し、このディレクトリのコンテンツを削除します。

これで、必要なときに必要な .class ファイルが再生成されます。

## 付録 C

# LDAP-統合 Sites システムでのユーザー、サイト、およびロールの管理

この付録は、ユーザー、ACL、サイトおよびロールを LDAP 統合 Sites システムの管理者のインタフェースから管理し、その操作が Sites データベースと LDAP サーバーの両方にどのように影響するのかを把握する必要がある WebCenter Sites 管理者を対象としています。この付録は、次の点についてまとめられています。

- どの操作が LDAP サーバーに伝播されるのか (LDAP サーバーのタイプ、操作、および読取り専用権限と読取り / 書込み権限のどちらを持つユーザーとして接続しているのかで分けて記載)
- どの操作によってエラーが生成されるのか
- エラーの修正方法

この付録は、次の項で構成されています。

- [概要](#)
- [ユーザー管理操作](#)
- [サイトおよびロールの管理操作](#)

## 概要

WebCenter Sites は、LDAP-2 プロトコルまたは他の任意のプロトコルを使用する LDAP サーバーと統合できます (ただし、後者の場合、管理者のインタフェースから LDAP サーバーへの書き込み操作はサポートされていません)。

この概要では、次について示します。

- WebCenter Sites によってサポートされる LDAP スキーマのタイプ。
- 各タイプのスキーマがデプロイされているときに Sites インタフェースから実行できる操作。
- 操作の結果 (LDAP サーバーに対する WebCenter Sites 管理者の権限および LDAP サーバーの性質で分けて記載)

## LDAP スキーマ

この付録では、フラットスキーマ LDAP と階層スキーマ LDAP の LDAP スキーマ・シナリオについて説明します。次のように、各スキーマでは選択された操作とインストールがサポートされています。

- フラットスキーマおよび階層スキーマのどちらの LDAP も、WebCenter Sites における ACL およびユーザー (ユーザー・アカウント、ユーザー・プロフィール、およびユーザー属性) に対する操作がサポートされています。
- フラットスキーマ LDAP では、WebCenter Sites におけるサイトおよびロールに対する操作がサポートされており、サイトおよびロールがフラット化され、それらの間に階層が存在しないようになります。
- 階層スキーマ LDAP では、WebCenter Sites におけるサイトおよびロールに対する操作がサポートされています。このスキーマでは、LDAP ユーザーが、LDAP サーバー内にロールがそれらの関連サイトに従属する必要があるサイト組織単位を定義する必要があります (例については、[図 C-1 「LDAP 階層」](#)を参照してください)。

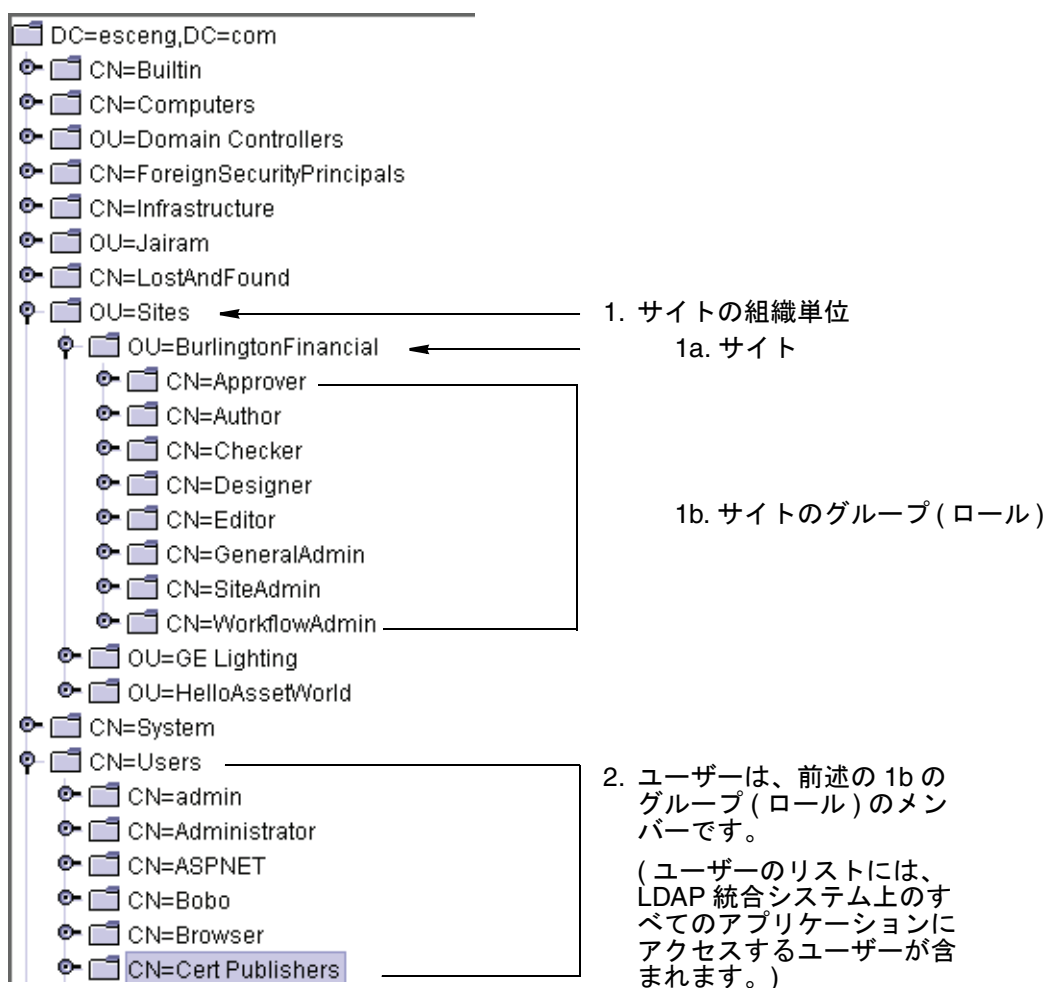
[表 C-1](#) は、LDAP スキーマおよび使用可能な操作についてまとめられています。適切なスキーマを使用することで、[621 ページの「サイトおよびロール管理に対する LDAP の接続性」](#)に要約されている条件に応じて、Sites 管理者は、Sites インタフェースで操作を実行し、それらを WebCenter Sites データベースまたは LDAP サーバー、あるいはその両方に伝播させることができます。

**表 C-1: LDAP の統合シナリオ**

作成 / 変更 / 削除操作の対象	フラットスキーマ LDAP	階層スキーマ LDAP
ACL、ユーザー、ユーザー・プロフィール、ユーザー属性	<a href="#">表 C-2</a>	<a href="#">表 C-2</a>
サイトおよびロール	<a href="#">表 C-3</a>	<a href="#">表 C-4</a>



図 C-1: LDAP 階層



## サイトおよびロール管理に対する LDAP の接続性

ロールおよびサイトに対する操作が、この付録に記載されているとおりに機能するには、futuretense\_xcel.ini ファイルで次の 2 つのプロパティの値を設定することで LDAP の接続性が有効化されている必要があります。

```
xcelerate.usermanagerclass
```

```
xcelerate.rolemanagerclass
```

これらのプロパティによって、サイトおよびロールを LDAP サーバーで直接 (この付録で示すとおりに) 管理するか、WebCenter Sites データベースのみで管理できます。

- このプロパティ値で LDAP が指定されている場合、LDAP の接続性が確立されています。サイトおよびロールは LDAP サーバー (および WebCenter Sites データベース) で管理できます。

- 階層スキーマ LDAP の場合、`xcelerate.usermanagerclass` プロパティでのみ LDAP が指定されている必要があります。  
`xcelerate.rolemanagerclass` プロパティではデフォルト値が使用されます。次に例を示します。

```
xcelerate.usermanagerclass=com.openmarket.xcelerate.  
user.LDAPSchemaUserManager  
  
xcelerate.rolemanagerclass=com.openmarket.xcelerate.  
roles.RoleManager
```

- フラットスキーマ LDAP の場合、両方のプロパティで LDAP が指定されている必要があります。次に例を示します。

```
xcelerate.usermanagerclass=com.openmarket.xcelerate.  
user.FlatLDAPSchemaUserManager  
  
xcelerate.rolemanagerclass=com.openmarket.xcelerate.  
roles.FlatLDAPSchemaRoleManager
```

- それらのプロパティ値で LDAP が指定されていない場合 (たとえば、`xcelerate.usermanagerclass=com.openmarket.xcelerate.user.usermanager`)、サイトおよびロールは、WebCenter Sites データベースでのみ管理できます。

## LDAP ユーザーと LDAP サーバーに対する彼らの権限

LDAP 統合 Sites システムでは、`dir.ini` ファイルの `jndi.connectAsUser` プロパティの値に応じて、WebCenter Sites システムの管理者が LDAP サーバーの管理ユーザーである場合とない場合があります。この値によって、WebCenter Sites 管理者が LDAP サーバーにどのように接続されているかが決まり、したがって LDAP ユーザーが定義されます。

- `jndi.connectAsUser` が `true` に設定されている場合、WebCenter Sites では、LDAP ユーザーは WebCenter Sites にログインしているユーザーと同じであると定義され、そのユーザーが LDAP サーバーに接続されます。
- `jndi.connectAsUser` が `false` に設定されている場合、WebCenter Sites では、LDAP ユーザーは (`dir.ini` の) `jndi.login` プロパティで指定されているユーザーであると定義され、そのユーザーが LDAP サーバーに接続されます。

接続が行われるには、そのユーザーと彼の権限が LDAP サーバーでも定義されている必要があります。そのユーザーが LDAP サーバーに対して読取り専用権限を持っている場合、彼は管理 LDAP ユーザーではありません。そのユーザーが LDAP サーバーに対して読取り / 書込み権限を持っている場合、彼は管理 LDAP ユーザー (簡単に言えば LDAP 管理者) です。

### 注意

LDAP 関連プロパティの詳細は、Oracle WebCenter Sites プロパティ・ファイル・リファレンスを参照してください。

## LDAP 統合操作

WebCenter Sites 管理者が、操作 (WebCenter Sites データベースと LDAP サーバーの両方での ACL の作成など) を正常に実行するには、WebCenter Sites が適切に LDAP サーバーと統合されていることが重要です。統合に問題がない場合は、操作の結果は次の要因に応じて異なります。

1. `jndi.connectAsUser` プロパティで定義されている LDAP ユーザー (前の項を参照)。
2. LDAP サーバーで定義されている LDAP ユーザーの権限。  
Sites 管理者が、管理権限を持たないユーザーとして LDAP サーバーに接続している場合、その操作 (WebCenter Sites データベースからの ACL の削除など) は、LDAP サーバーに書き込まれません。その操作は WebCenter Sites データベースに書き込まれるか、何も実行されません。操作は管理者のインタフェースで繰り返す必要があり、LDAP 管理者によって LDAP サーバーで手動で実行する必要があります。
3. 操作の性質。  
管理者のインタフェースで実行される作成操作 (ACL の編集など) は、WebCenter Sites 管理者が書き込み権限を持って接続している場合でも、LDAP サーバーに書き込まれません。
4. LDAP サーバーで LDAP-2 プロトコルがサポートされているかどうか。  
LDAP サーバーで LDAP-2 プロトコルがサポートされていない場合、管理者のインタフェースから LDAP サーバーへの書き込み操作はサポートされず、操作の結果は予測不能です。

表 C-2 から C-4 には、読取り専用権限および読取り / 書き込み権限を持つユーザーとして LDAP サーバーに接続している WebCenter Sites 管理者が実行できる操作の結果がまとめてあります。

## ユーザー管理操作

624 ページの表 C-2 には、フラットスキーマと階層スキーマの LDAP Web 環境に適用され、ユーザー管理操作に対するシステム・レスポンスがまとめてあります。この操作は、それぞれ次の LDAP オプションのいずれかと統合されている 3 つの WebCenter Sites システムのインタフェースを使用して、WebCenter Sites 管理者によって行われます。

- LDAP ユーザーに対して読取り専用権限のある LDAP-2 サーバー (621 ページで定義)
- LDAP ユーザーに対して書き込み権限のある LDAP-2 サーバー
- LDAP-2 以外の LDAP サーバー (この場合、書き込み操作はサポートされていません)

各ユーザー管理操作の結果は、表 C-2 の左側の列に記載したページで説明しています。

**注意**

この付録でのユーザー管理という用語には、ACL、ユーザー・アカウント、ユーザー・プロファイル、およびユーザー属性の管理が含まれます。

**表 C-2: WebCenter Sites でのユーザー管理操作に対する  
システム・レスポンス**

WebCenter Sites での 操作	結果	システム・レスポンス		
		LDAP-2: ユーザーは 読取り専用権限を 持つ <sup>1</sup>	LDAP-2: ユーザーが書き込み 権限を持つ <sup>2</sup>	LDAP-2 以外: 書き込みサポート なし <sup>3</sup>
ACL の作成 (625 ページ)	ACL が作成される	エラーが返される <sup>4</sup>	LDAP + Sites データベース	予測不能
ACL の編集 (626 ページ)	ACL が変更される	Sites データベース	Sites データベース	Sites データ ベース
ACL の削除 (626 ページ)	ACL が削除される	エラーが返される	LDAP + Sites データベース	予測不能
表への ACL の割当て (626 ページ)	ACL が割り当てられる	Sites データベース	Sites データベース	Sites データ ベース
WebCenter Sites ページ (SiteCatalog ページ・エントリ) へ の ACL の割当て (627 ページ)	ACL が割り当てられる	Sites データベース	Sites データベース	Sites データ ベース
ユーザーの作成 (アクセス権限のた めの ACL の付与) (628 ページ)	ユーザーが作成される	エラーが返される	LDAP	予測不能
ユーザーの編集 (628 ページ)	ユーザーが変更される	エラーが返される	LDAP	予測不能
ユーザーの削除 (629 ページ)	ユーザーが削除される	エラーが返される	LDAP	予測不能
ユーザー・プロファイルの作成 / 編集 (630 ページ)	ユーザー・プロファイルが 作成 / 編集される	エラーが返される	LDAP	予測不能
ユーザー・プロファイルの削除 (630 ページ)	ユーザー・プロファイルが 削除される	エラーが返される	LDAP	予測不能
ユーザー属性の作成 (631 ページ)	ユーザー・プロファイルが 作成される	エラーが返される	LDAP	予測不能

**表 C-2: WebCenter Sites でのユーザー管理操作に対する  
システム・レスポンス ( 続き )**

WebCenter Sites での 操作	結果	システム・レスポンス		
		LDAP-2: ユーザーは 読取り専用権限を 持つ <sup>1</sup>	LDAP-2: ユーザーが書込み 権限を持つ <sup>2</sup>	LDAP-2 以外 : 書込みサポート なし <sup>3</sup>
ユーザー属性の編集 / 削除 (631 ページ) ユーザー・プロファイルが 削除される		エラーが返される	LDAP	予測不能

1. ACL およびユーザーを LDAP サーバーに格納することはできません (WebCenter Sites 管理者は、書込み権限のないユーザーとして LDAP サーバーに接続されます)。
2. ACL およびユーザーは LDAP サーバーに格納できます (WebCenter Sites 管理者は書込み権限を持つユーザーとして LDAP サーバーに接続されています)。
3. LDAP サーバーは LDAP-2 プロトコルをサポートしません (Netscape サーバーなど)。非標準 LDAP サーバーの場合、管理者のインタフェースからその LDAP サーバーへの書込み操作はサポートされません。
4. エラーが返されるとは、その操作が実行されない (システムがエラーを返す) ことを意味します。

## ACL の作成

### 操作

WebCenter Sites 管理者が、「管理」タブの「管理ツール」ノードを使用して ACL の作成を試みます。

### システム・レスポンス

1. 読取り専用権限の LDAP-2 サーバー: エラー・メッセージが返され、ACL を作成できません。LDAP 管理者は、最初に LDAP サーバーに次に WebCenter Sites データベースに、ACL を手動で作成する必要があります。
2. 書込み権限のある LDAP-2 サーバー: LDAP サーバーと WebCenter Sites データベースの両方に ACL が作成されます。
3. LDAP-2 以外 (書込みサポートなし): レスポンスは予測できません。LDAP 管理者は、最初に LDAP サーバーに次に WebCenter Sites に、ACL を作成する必要があります。

## ACL の編集

### 操作

WebCenter Sites 管理者が、「管理」タブの「管理ツール」ノードを使用して ACL の変更を試みます。

#### 注意

WebCenter Sites 管理者は、ACL の記述と ACL と関連付けられた権限のどちらも変更できますが、ACL の名前は変更できません。

### システム・レスポンス

1. 読取り専用権限の LDAP-2 サーバー : WebCenter Sites データベースの ACL が変更されます。LDAP と統合されていても、変更はデータベースにのみ格納されます。
2. 書込み権限のある LDAP-2 サーバー : 前述 (シナリオ 1) のとおり応答します。
3. LDAP-2 以外 (書込みサポートなし) : 前述 (シナリオ 1) のとおり応答します。

## ACL の削除

### 操作

WebCenter Sites 管理者が、「管理」タブの「管理ツール」ノードを使用して ACL の削除を試みます。

### システム・レスポンス

1. 読取り専用権限の LDAP-2 サーバー : エラー・メッセージが返され、ACL を削除できません。LDAP 管理者は、最初に LDAP サーバーから次に WebCenter Sites データベースから、ACL を削除する必要があります。
2. 書込み権限のある LDAP-2 サーバー : LDAP サーバーと WebCenter Sites データベースから ACL が削除されます。
3. LDAP-2 以外 (書込みサポートなし) : 動作は予測できません。LDAP 管理者は、WebCenter Sites からの ACL の削除を試みる前に最初に LDAP サーバーから ACL を削除する必要があります。

## 表への ACL の割当て

### 操作

WebCenter Sites 管理者が、「管理」タブの「管理ツール」ノードを使用してシステム表への ACL の割当てを試みます。

## システム・レスポンス

1. 読取り専用権限の LDAP-2 サーバー: データベース表に ACL が割り当てられます。ACL が割り当てられない場合、エラー・メッセージが返されます。
2. 書込み権限のある LDAP-2 サーバー: 前述 (シナリオ 1) のとおり応答します。
3. LDAP-2 以外 (書込みサポートなし): 前述 (シナリオ 1) のとおり応答します。

## WebCenter Sites ページ (SiteCatalog ページ・エントリ) への ACL の割当て

### 操作

WebCenter Sites 管理者が、「管理」タブの「管理ツール」ノードを使用して WebCenter Sites ページへの ACL の割当てを試みます。

## システム・レスポンス

1. 読取り専用権限の LDAP-2 サーバー: 指定された WebCenter Sites ページに対して選択されている ACL が追加されます。ACL が割り当てられない場合、エラー・メッセージが返されます。
2. 書込み権限のある LDAP-2 サーバー: 前述 (シナリオ 1) のとおり応答します。
3. LDAP-2 以外 (書込みサポートなし): 前述 (シナリオ 1) のとおり応答します。

## ユーザーの作成 ( アクセス権限のための ACL の付与 )

### 操作

WebCenter Sites 管理者が、「管理」タブの「管理ツール」ノードを使用してユーザーの作成を試みます。

#### 注意

WebCenter Sites には、そのデータベースに格納されている ACL のみが表示されます。

### システム・レスポンス

1. 読取り専用権限の LDAP-2 サーバー : エラー・メッセージが返され、ユーザーおよびそのユーザーに割り当てられた ACL は追加できません。LDAP 管理者は、LDAP サーバーを使用して、手動でその LDAP サーバーにユーザーを追加し、そのユーザーに ACL を割り当てる必要があります。
2. 書込み権限のある LDAP-2 サーバー : LDAP サーバーにユーザーが作成され、そのユーザーに ACL が割り当てられます。
3. LDAP-2 以外 ( 書込みサポートなし ) : 動作は予測できません。LDAP 管理者は、LDAP サーバーを使用して、手動でその LDAP サーバーにユーザーを追加し、そのユーザーに ACL を割り当てる必要があります。

## ユーザーの編集

### 操作

WebCenter Sites 管理者が、「管理」タブの「管理ツール」ノードを使用して、ユーザーに割り当てられている ACL の変更または、ユーザーのパスワードの変更を試みます。

#### 注意

「ユーザーの修正」操作では、ユーザー・パスワードおよびそのユーザーに関連付けられている ACL のみ変更できます。

「ユーザー属性の修正」操作では、データベースおよび LDAP サーバーに格納されているすべての属性を変更できます。

### システム・レスポンス

1. 読取り専用権限の LDAP-2 サーバー : エラー・メッセージが返され、ユーザーのパスワードまたは ACL、あるいはその両方を変更できません。LDAP 管理者は手動で LDAP サーバー内のユーザーを変更する必要があります。
2. 書込み権限のある LDAP-2 サーバー : LDAP サーバー内のユーザーのパスワードまたは割当て済 ACL、あるいはその両方が変更されます。



3. LDAP-2 以外 ( 書込みサポートなし ): 動作は予測できません。LDAP 管理者は手動で LDAP サーバー内のユーザーを変更する必要があります。

## ユーザーの削除

### 操作

WebCenter Sites 管理者が、「管理」タブの「管理ツール」ノードを使用してユーザーの削除を試みます。

ユーザーを削除する前に、管理者はそのユーザー・プロファイルを削除する必要があります。ユーザー・プロファイルが存在する場合、エラー・メッセージがトリガーされます。削除対象のユーザーのユーザー・プロファイルが存在しない場合は、次に説明する動作が予想されます。

### システム・レスポンス

1. 読取り専用権限の LDAP-2 サーバー : エラー・メッセージが返され、ユーザーを削除できません。LDAP 管理者は、LDAP サーバーからユーザーを手動で削除する必要があります。
2. 書込み権限のある LDAP-2 サーバー : LDAP サーバーからユーザーが削除されます。
3. LDAP-2 以外 ( 書込みサポートなし ): 動作は予測できません。LDAP 管理者は、LDAP サーバーからユーザーを手動で削除する必要があります。

## ユーザー・プロファイルの作成 / 編集

### 操作

WebCenter Sites 管理者が、「管理」タブの「ユーザー・プロファイル」ノードを使用してユーザー・プロファイルの作成または変更を試みます。

### システム・レスポンス

1. 読取り専用権限の LDAP-2 サーバー: エラー・メッセージが返され、ユーザーのプロファイルまたはロケール設定、あるいはその両方を作成または変更できません。LDAP 管理者は手動で LDAP サーバー内のユーザー・プロファイルを作成または変更する必要があります。
2. 書き込み権限のある LDAP-2 サーバー: LDAP サーバーでユーザーのプロファイルまたはロケール設定、あるいはその両方が作成または変更されます。
3. LDAP-2 以外 (書き込みサポートなし): 動作は予測できません。LDAP 管理者は手動で LDAP サーバー内のユーザー・プロファイルを作成または変更する必要があります。

## ユーザー・プロファイルの削除

### 操作

WebCenter Sites 管理者が、「管理」タブの「ユーザー・プロファイル」ノードを使用してユーザー・プロファイルの削除を試みます。

### システム・レスポンス

1. 読取り専用権限の LDAP-2 サーバー: エラー・メッセージが返され、ユーザーのプロファイルを削除できません。LDAP 管理者は、LDAP サーバーからユーザー・プロファイルを手動で削除する必要があります。
2. 書き込み権限のある LDAP-2 サーバー: LDAP サーバーからユーザーのプロファイルが削除されます。
3. LDAP-2 以外 (書き込みサポートなし): 動作は予測できません。LDAP 管理者は、LDAP サーバーからユーザー・プロファイルを手動で削除する必要があります。

## ユーザー属性の作成

### 注意

ユーザー属性は、データベースか LDAP のどちらか 1 箇所にのみ格納されています。

### 操作

WebCenter Sites 管理者が、「管理」タブの「管理ツール」ノードから、ユーザーの新しい属性の作成を試みます。

### システム・レスポンス

1. 読取り専用権限の LDAP-2 サーバー: エラー・メッセージが返され、新しい属性を LDAP サーバーに追加できません。LDAP 管理者は、手動でユーザーを LDAP サーバーに追加する必要があります。
2. 書き込み権限のある LDAP-2 サーバー: LDAP サーバーにユーザーの新しい属性が追加されます。
3. LDAP-2 以外 (書き込みサポートなし): 動作は予測できません。LDAP 管理者は、手動でユーザーを LDAP サーバーに追加する必要があります。

## ユーザー属性の編集 / 削除

WebCenter Sites 管理者が、「管理」タブの「管理ツール」ノードから、ユーザー属性の変更を試みます。

### システム・レスポンス

1. 読取り専用権限の LDAP-2 サーバー: エラー・メッセージが返され、LDAP サーバーからユーザーの属性を変更または削除できません。LDAP 管理者は、手動で LDAP サーバーでユーザー属性を変更し、LDAP サーバーからユーザー属性を削除する必要があります。
2. 書き込み権限のある LDAP-2 サーバー: LDAP サーバーのユーザー属性は変更され、LDAP サーバーから削除されます。
3. LDAP-2 以外 (書き込みサポートなし): 動作は予測できません。LDAP 管理者は、手動で LDAP サーバーでユーザー属性を変更し、手動で LDAP サーバーからユーザー属性を削除する必要があります。

## サイトおよびロールの管理操作

この項では、フラットスキーマおよび階層スキーマの LDAP サーバーでのサイトおよびロールの管理操作について説明します。

### フラットスキーマ LDAP サーバーでの操作

表 C-3 には、サイトおよびロールの管理操作に対するシステム・レスポンスがまとめられています。この操作は、それぞれ次の LDAP オプションのいずれかと統合されている 3 つの WebCenter Sites システムのインタフェースを使用して、WebCenter Sites 管理者によって行われます。

- LDAP ユーザーに対して読取り専用権限のある LDAP-2 サーバー (621 ページで定義)
- LDAP ユーザーに対して書き込み権限のある LDAP-2 サーバー
- LDAP-2 以外の LDAP サーバー (この場合、書き込み操作はサポートされていません)

各操作の結果は、表 C-3 の左側の列に記載したページで説明しています。

**表 C-3: フラットスキーマ LDAP でのサイトおよびロールの管理操作に対するシステム・レスポンス**

WebCenter Sites での 操作	結果	フラットスキーマ LDAP でのシステム・レスポンス		
		LDAP-2: ユーザーは 読取り専用権限を 持つ <sup>1</sup>	LDAP-2: ユーザー は書き込み権限を 持つ <sup>2</sup>	LDAP-2 以外: 書き込み サポートなし <sup>3</sup>
サイトの作成 (634 ページ) サイトが作成される		Sites データベース	Sites データベース	Sites データベース
サイトの編集 (635 ページ) サイトが編集される		Sites データベース	Sites データベース	Sites データベース
サイトの削除 (635 ページ) サイトが削除される		Sites データベース	Sites データベース	Sites データベース
ロールの作成 (638 ページ) ロールが作成される		エラーが返される <sup>4</sup>	LDAP + Sites データベース <sup>5</sup>	予測不能
ロールの編集 (639 ページ) ロールが編集される		Sites データベース	Sites データベース	Sites データベース
ロールの削除 (639 ページ) ロールが削除される		エラーが返される	LDAP + Sites データベース	予測不能
サイトのアクセス権のユーザーへの付与 (636 ページ) アクセス権限が付与される		エラーが返される	LDAP	予測不能
サイトへのユーザーのアクセス権の削除 (637 ページ) アクセス権限が削除される		エラーが返される	LDAP	予測不能

1. サイトおよびロールを LDAP サーバーに格納することはできません (WebCenter Sites 管理者は、書き込み権限のないユーザーとして LDAP サーバーに接続されます)。
2. サイトおよびロールを LDAP サーバーに格納できます (WebCenter Sites 管理者は、書き込み権限のあるユーザーとして LDAP サーバーに接続されます)。
3. LDAP サーバーは LDAP-2 プロトコルをサポートしません (Netscape サーバーなど)。非標準 LDAP サーバーの場合、管理者のインタフェースからその LDAP サーバーへの書き込み操作はサポートされません。

- エラーが返されるとは、その操作が実行されない (システムがエラーを返す) ことを意味します。
- LDAP サーバーと Sites データベースの両方でロールが作成されるには、LDAP サーバーに 1 つ以上のサイトが存在している必要があります。サイトが存在しない場合、ロールは Sites データベースでのみ作成されます。

## 階層スキーマ LDAP サーバーでの操作

表 C-4 には、サイトおよびロールの管理操作に対するシステム・レスポンスがまとめられています。この操作は、それぞれ次の LDAP オプションのいずれかと統合されている 3 つの WebCenter Sites システムのインタフェースを使用して、WebCenter Sites 管理者によって行われます。

- LDAP ユーザーに対して読取り専用権限のある LDAP-2 サーバー (621 ページで定義)
- LDAP ユーザーに対して書き込み権限のある LDAP-2 サーバー
- LDAP-2 以外の LDAP サーバー (この場合、書き込み操作はサポートされていません)

各操作の結果は、表 C-4 の左側の列に記載したページで説明しています。

**表 C-4: 階層スキーマ LDAP (WebCenter Sites Web アプリケーション) でのサイトおよびロールの管理操作に対するシステム・レスポンス**

WebCenter Sites での操作	結果	階層スキーマ LDAP でのシステム・レスポンス		
		LDAP-2: ユーザーは 読取り専用権限を 持つ <sup>1</sup>	LDAP-2: ユーザーは 書き込み権限を持つ <sup>2</sup>	LDAP-2 以外: 書き込み サポートなし <sup>3</sup>
サイトの作成 (634 ページ) サイトが作成される		Sites データベース	Sites データベース	Sites データベース
サイトの編集 (635 ページ) サイトが編集される		Sites データベース	Sites データベース	Sites データベース
サイトの削除 (635 ページ) サイトが削除される		Sites データベース	Sites データベース	Sites データベース
ロールの作成 (638 ページ) ロールが作成される		Sites データベース	Sites データベース	Sites データベース
ロールの編集 (639 ページ) ロールが編集される		Sites データベース	Sites データベース	Sites データベース
ロールの削除 (639 ページ) ロールが削除される		Sites データベース	Sites データベース	Sites データベース
サイトのアクセス権のユーザーへの付与 (636 ページ) アクセス権限が付与される		エラーが返される <sup>4</sup>	LDAP	予測不能
サイトへのユーザーのアクセス権の削除 (637 ページ) アクセス権限が削除される		Sites データベースも LDAP サーバーも応答なし	Sites データベースも LDAP サーバーも応答なし	Sites データベースも LDAP サーバーも応答なし

- サイトおよびロールを LDAP サーバーに格納することはできません (WebCenter Sites 管理者は、書き込み権限のないユーザーとして LDAP サーバーに接続されます)。
- サイトおよびロールを LDAP サーバーに格納できます (WebCenter Sites 管理者は、書き込み権限のあるユーザーとして LDAP サーバーに接続されます)。

- LDAP サーバーは LDAP-2 プロトコルをサポートしません (Netscape サーバーなど)。非標準 LDAP サーバーの場合、管理者のインタフェースからその LDAP サーバーへの書き込み操作はサポートされません。
- エラーが返されるとは、その操作が実行されない (システムがエラーを返す) ことを意味します。

## サイトの作成

### 操作

WebCenter Sites 管理者が、「管理」タブの「サイト」ノードを使用してサイトの作成を試みます。

#### 注意

LDAP 統合システムでサイトを手動で作成する場合、データベースと LDAP サーバーが同期していることを確認する必要があります。同期していない場合、サイトは WebCenter Sites インタフェースに適切にリストされません。

## システム・レスポンス

### 階層スキーマ

- 読取り専用権限の LDAP-2 サーバー: WebCenter Sites データベースにサイトが作成されます。LDAP 管理者は、LDAP サーバーにサイト・エントリを作成する必要があります。
- 書き込み権限のある LDAP-2 サーバー: 前述 (シナリオ 1) のとおり応答します。
- LDAP-2 以外 (書き込みサポートなし): 前述 (シナリオ 1) のとおり応答します。

### フラット・スキーマ

- 読取り専用権限の LDAP サーバー: WebCenter Sites データベースにサイトが作成されます。管理者は、LDAP サーバーでロール名の前に各サイト名を付けることで、使用可能なロールすべてのエントリを作成する必要があります。
- 書き込み権限のある LDAP-2 サーバー: 前述 (シナリオ 1) のとおり応答します。
- LDAP-2 以外 (書き込みサポートなし): 前述 (シナリオ 1) のとおり応答します。

## サイトの編集

### 操作

WebCenter Sites 管理者が、「管理」タブのサイトの編集オプションを使用してサイトの説明の編集を試みます。

### システム・レスポンス

#### 階層スキーマ

1. 読取り専用権限の LDAP-2 サーバー : WebCenter Sites データベースでサイトが編集されます。(LDAP と統合されていても、サイトの説明は WebCenter Sites データベースにのみ格納されます。)
2. 書込み権限のある LDAP-2 サーバー : 前述 (シナリオ 1) のとおり応答します。
3. LDAP-2 以外 (書込みサポートなし) : 前述 (シナリオ 1) のとおり応答します。

#### フラット・スキーマ

1. 読取り専用権限の LDAP-2 サーバー : WebCenter Sites データベースでサイトが編集されます。(LDAP と統合されていても、サイトの説明は WebCenter Sites データベースにのみ格納されます。)
2. 書込み権限のある LDAP-2 サーバー : 前述 (シナリオ 1) のとおり応答します。
3. LDAP-2 以外 (書込みサポートなし) : 前述 (シナリオ 1) のとおり応答します。

## サイトの削除

### 操作

WebCenter Sites 管理者が、「管理」タブのサイトの編集ノードを使用してサイトの説明の削除を試みます。

#### 注意

LDAP が統合されている場合にサイトを手動で削除する際は、データベースと LDAP サーバーが同期していることを確認する必要があります。同期していない場合、サイトは WebCenter Sites インタフェースに適切にリストされません。

## システム・レスポンス

### 階層スキーマ

1. 読取り専用権限の LDAP-2 サーバー : WebCenter Sites データベースからサイトが削除されます。LDAP 管理者は、LDAP サーバーからサイト・エントリを手動で削除する必要があります。
2. 書込み権限のある LDAP-2 サーバー : 前述 (シナリオ 1) のとおり応答します。
3. LDAP-2 以外 (書込みサポートなし) : 前述 (シナリオ 1) のとおり応答します。

### フラット・スキーマ

1. 読取り専用権限の LDAP-2 サーバー : WebCenter Sites データベースからサイトが削除されます。LDAP 管理者は、LDAP サーバーからサイト・エントリを手動で削除する必要があります。
2. 書込み権限のある LDAP-2 サーバー : 前述 (シナリオ 1) のとおり応答します。
3. LDAP-2 以外 (書込みサポートなし) : 前述 (シナリオ 1) のとおり応答します。

## サイトのアクセス権のユーザーへの付与

### 操作

WebCenter Sites 管理者が、「管理」タブの「サイト」→「ユーザー」ノードを使用してユーザーにサイトへのアクセス権を付与することを試みます。

#### 注意

WebCenter Sites には、そのデータベースに格納されているロールのみが表示されます。

## システム・レスポンス

### 階層スキーマ

1. 読取り専用権限の LDAP-2 サーバー : LDAP サーバーでは選択されたサイトの指定されたユーザーにロールを割り当てることはできないため、エラー・メッセージが返されます。LDAP 管理者が手動でロールを割り当てる必要があります。
2. 書込み権限のある LDAP-2 サーバー : LDAP サーバー内で、選択されたサイトの指定されたユーザーにロールが割り当てられます。
3. LDAP-2 以外 (書込みサポートなし) : 動作は予測できません。



### フラット・スキーマ

1. 読取り専用権限の LDAP-2 サーバー : LDAP サーバーでは選択されたサイトの指定されたユーザーにロールを割り当てることはできないため、エラー・メッセージが返されます。LDAP 管理者が手動でロールを割り当てる必要があります。
2. 書込み権限のある LDAP-2 サーバー : LDAP サーバー内で、選択されたサイトの指定されたユーザーにロールが割り当てられます。
3. LDAP-2 以外 ( 書込みサポートなし ) : 動作は予測できません。

## サイトへのユーザーのアクセス権の削除

### 操作

WebCenter Sites 管理者が、「管理」タブの「サイト」→「ユーザー」ノードを使用してサイトへのユーザーのアクセス権を削除することを試みます。

#### 注意

WebCenter Sites には、そのインタフェースに格納されているサイトのみが表示されます。

## システム・レスポンス

### 階層スキーマ

1. 読取り専用権限の LDAP-2 サーバー : LDAP 管理者は、サイトに対するユーザーの権限を LDAP サーバーで直接手動で削除する必要があります。
2. 書込み権限のある LDAP-2 サーバー : 前述 ( シナリオ 1 ) のとおり応答します。
3. LDAP-2 以外 ( 書込みサポートなし ) : 動作は予測できません。

### フラット・スキーマ

1. 読取り専用権限の LDAP-2 サーバー : エラー・メッセージが返されます。LDAP 管理者は、サイトに対するユーザーの権限を LDAP サーバーで直接手動で削除する必要があります。
2. 書込み権限のある LDAP-2 サーバー : LDAP サーバーでサイトに対するユーザーの権限が直接削除されます。
3. LDAP-2 以外 ( 書込みサポートなし ) : 動作は予測できません。

## ロールの作成

### 操作

WebCenter Sites 管理者が、「管理」タブの「ロール」ノードを使用してロールの作成を試みます。

## システム・レスポンス

### 階層スキーマ

1. 読取り専用権限の LDAP-2 サーバー : WebCenter Sites データベースにロールが作成されます。LDAP 管理者は、LDAP サーバーでロールを手動で作成する必要があります。
2. 書込み権限のある LDAP-2 サーバー : 前述 (シナリオ 1) のとおり応答します。
3. LDAP-2 以外 (書込みサポートなし) : 前述 (シナリオ 1) のとおり応答します。

### フラット・スキーマ

1. 読取り専用権限の LDAP-2 サーバー : エラー・メッセージが返され、LDAP サーバーでも WebCenter Sites データベースでもロールを作成できません。LDAP 管理者は、LDAP サーバーでロールを作成する必要があります。同じロールを、WebCenter Sites データベースで再作成する必要があります。
2. 書込み権限のある LDAP-2 サーバー : WebCenter Sites データベースにロールが作成されます。ロールの名前の前に各既存サイトの名前が付けられて (*SiteA-Role*、*SiteB-Role* など)、LDAP サーバーに、使用可能なすべてのサイトのロールも作成されます。

### 注意

LDAP サーバーと Sites データベースの両方でロールが作成されるには、LDAP サーバーに 1 つ以上のサイトが存在している必要があります。サイトが存在しない場合、ロールは Sites データベースでのみ作成されます。

3. LDAP-2 以外 (書込みサポートなし) : 動作は予測できません。エラー・メッセージが返されることがあります。

## ロールの編集

### 操作

WebCenter Sites 管理者が、「管理」タブの「ロール」ノードを使用してロールの説明の変更を試みます。

### システム・レスポンス

#### 階層スキーマ

1. 読取り専用権限の LDAP-2 サーバー : WebCenter Sites データベースでロールの説明が編集されます。(LDAP と統合されていても、ロールの説明は WebCenter Sites データベースにのみ格納されます。)
2. 書込み権限のある LDAP-2 サーバー : 前述 (シナリオ 1) のとおり応答します。
3. LDAP-2 以外 (書込みサポートなし) : 前述 (シナリオ 1) のとおり応答します。

#### フラット・スキーマ

1. 読取り専用権限の LDAP-2 サーバー : WebCenter Sites データベースでロールの説明が編集されます。(LDAP と統合されていても、ロールの説明は WebCenter Sites データベースにのみ格納されます。)
2. 読取り専用権限の LDAP-2 サーバー : 前述 (シナリオ 1) のとおり応答します。
3. LDAP-2 以外 (書込みサポートなし) : 前述 (シナリオ 1) のとおり応答します。

## ロールの削除

### 操作

WebCenter Sites 管理者が、「管理」タブの「ロール」ノードを使用してロールの削除を試みます。

### システム・レスポンス

#### 階層スキーマ

1. 読取り専用権限の LDAP-2 サーバー : WebCenter Sites データベースからロールが削除されます。LDAP 管理者は、LDAP サーバーからこのロールを手動で削除する必要があります。
2. 書込み権限のある LDAP-2 サーバー : 前述 (シナリオ 1) のとおり応答します。
3. LDAP-2 以外 (書込みサポートなし) : 前述 (シナリオ 1) のとおり応答します。

### フラット・スキーマ

1. 読取り専用権限の LDAP サーバー : エラー・メッセージが返され、LDAP サーバーでも WebCenter Sites データベースでもロールを削除できません。LDAP 管理者は、LDAP サーバーでサイトとロールを作成する必要があります。同じサイトとロールを、WebCenter Sites データベースで再作成する必要があります。
2. 読取り専用権限の LDAP-2 サーバー : WebCenter Sites データベースと LDAP サーバーの両方からロールが削除されます。
3. LDAP-2 以外 ( 書込みサポートなし ) : 動作は予測できません。エラー・メッセージが返されることがあります。

## 手順の索引

「検索」スタート・メニュー・アイテムを作成するには:.....	146
検索索引に新しいアセット・タイプを追加するには:.....	493
「新規」スタート・メニュー・アイテムを作成するには:.....	142
特定のサイトのユーザーとそれらのロールのリストを表示し、ロールを 再割当てするには:.....	130
結果セットのキャッシュを有効化および構成するには:.....	589
新規ツリー・タブを作成するには:.....	163
作成後の手順を完了するには:.....	98
承認済アセットを即時パブリッシュで選択するには:.....	444
承認済アセットでテスト・パブリッシュ・セッションを実行するには:.....	414
承認問合せを実行するには:.....	348
「ワークフロー・グループ」タブを作成するには:.....	165
索引からデータを削除するには:.....	505
索引を再作成するには:.....	503
新しいログ出力を追加するには:.....	563
新しいロールを作成するには:.....	89
新しい ACL を作成するには:.....	80
「パブリッシュ・コンソール」からパブリッシュ・セッションを 取り消すには:.....	427
「ステータスのパブリッシュ」画面からパブリッシュ・セッションを 取り消すには:.....	428
索引付けを再開するには:.....	502
索引付けを停止するには:.....	499
索引付けを一時停止するには:.....	500
機能権限を削除するには:.....	224
機能権限を構成するには:.....	219
機能権限を編集するには:.....	221
全体管理者として Oracle WebCenter Sites にログインするには:.....	49

選択されたアセット・タイプの属性を構成するには:.....	495
サイト構成データをミラーリングするには:.....	411
サイト・ランチャを構成するには:.....	235
サイト・デスクトップ・クライアントをインストールするには:.....	472
サイト・デスクトップに対してアセット・タイプを有効にするには:.....	466
サイト・デスクトップのアセット・タイプを構成するには:.....	466
サイト・デスクトップのスタート・メニュー・アイテムを作成するには:...	470
サイト DocLink を使用してそのタイプのアセットを作成または編集する コンテンツ・プロバイダが使用できるアセット・タイプのフィールドを 指定するには:.....	478
サイト DocLink の構成をテストするには:.....	483
サイト DocLink に対してアセット・タイプを有効にするには:.....	476
サイト DocLink アセット・タイプを構成するには:.....	476
サイト DocLink のスタート・メニュー・アイテムを作成するには:.....	480
サイト DocLink のクライアントをインストールするには:.....	482
サイトからアセット・タイプを削除するには:.....	134
サイトの説明を編集するには:.....	125
サイトを削除するには:.....	125
サイトの構成情報を取得するには:.....	123
サイトを作成するには:.....	120
サイトに対してアセット・タイプを有効化するには:.....	131
サイトへのアクセス権限をユーザーに付与するには:.....	127
ログ出力レベルを変更するには:.....	561
ログ出力を表示するには:.....	559
ロールの説明を編集するには:.....	90
ロールを削除するには:.....	91
ローカル・プロキシ・サーバーをソース・システムで宛先ごとに 識別するには:.....	404
ローカル・プロキシをソース・システムで識別するには:.....	335
ログの内容を検索するには:.....	581
ログの内容を表示するには:.....	580
ログの内容のダウンロードするには:.....	581
ログの内容の末尾を表示するには:.....	581
ACL を既存の表に割り当てするには:.....	84
futuretense_xcel.ini からアクセス権限を設定するには:.....	158
inCache ページ・キャッシング用にシステムを構成するには:.....	533
log4j を設定するには:.....	558
Lucene エンジンを実行するには:.....	492
MS Word インタフェースの Sites ツールバーに表示される アセット・タイプのフィールドを指定するには:.....	468
SiteEntry またはテンプレート・アセットに関連付けられていない ページ・エントリに ACL を割り当てするには:.....	85

WebCenter Sites 情報をダウンロードまたは表示するには:.....	566
Web モードとプレビューで使用するサードパーティとホストの名前を 構成するには:.....	484
Web モードを有効にするには:.....	484
宛先システムを設定するには:.....	333
宛先システムを設定するには:.....	403
宛先システムを初期化するには:.....	340
宛先を削除するには:.....	365
宛先を初期化するには:.....	409
宛先を編集するには:.....	363
管理者インタフェースでアクセス権を設定するには:.....	156
システムのデフォルト・ロケールを設定するには:.....	459
ワークフロー状態を削除するには:.....	211
ワークフロー状態を作成するには:.....	209
ワークフロー状態を編集するには:.....	211
ワークフロー・プロセスを削除するには:.....	223
ワークフロー・プロセスを編集するには:.....	221
ワークフロー・プロセスをテストするには:.....	224
ワークフロー・アクションおよび条件を削除するには:.....	207
ワークフロー・アクションおよび条件を作成するには:.....	204
ワークフロー・アクションおよび条件を編集するには:.....	207
ワークフロー・ステップを削除するには:.....	224
ワークフロー・ステップを編集するには:.....	221
ワークフロー・ステップをコピーするには:.....	223
電子メール・オブジェクトを削除するには:.....	204
電子メール・オブジェクトを作成するには:.....	202
電子メール・オブジェクトを編集するには:.....	203
遅延パブリッシュ・セッションを再開するには:.....	424
以前のパブリッシュ・セッションを表示するには:.....	432
スレッド情報をダウンロードまたは表示するには:.....	571
ユーザー・プロファイルを削除するには:.....	106
ユーザー・プロファイルを作成または編集するには:.....	105
ユーザーの割当てを消去するには:.....	226
ユーザーを作成するには:.....	97
ユーザーをサイトから削除するには:.....	131
ユーザーをシステムから削除するには:.....	103
ユーザーを編集するには:.....	103
ユーザーの属性を変更するには:.....	107
セッション・ログを削除するには:.....	441
セッション・ログをダウンロードするには:.....	439
ページ伝播を有効化するには:.....	543
リビジョンを削除するには:.....	516

ソース・サイトをレプリケートするには:.....	236
バッチ・ユーザー・アカウントを作成するには:.....	314
ミラー・ユーザーをソース・システムで識別するには:.....	335
ツリー・タブの順序を変更するには:.....	167
ツリー・タブを削除するには:.....	166
ツリー・タブを編集するには:.....	166
ツリー・タブのノードに表示されるアイテムの数を構成するには:.....	168
キャッシュ情報を表示するには:.....	590
キャッシュを操作するには:.....	593
すべての構成済宛先のパブリッシュ・スケジュールを表示するには:.....	430
ファイル・システムをテストするには:.....	584
スタート・メニュー・アイテムを編集するには:.....	150
リモート・パブリッシュのロギングを有効にするには:.....	349
アセット・タイプに対してリビジョン追跡を無効にするには:.....	518
バイナリ・ファイルの索引付けを無効化するには:.....	498
バイナリ・ファイルの索引付けを有効化するには:.....	497
カスタム ACL を削除するには:.....	83
カスタム ACL を編集するには:.....	82
すべての宛先についてソース・システムでローカル・プロキシ・サーバーを 識別するには:.....	404
パブリッシュ・ログを表示するには:.....	435
パブリッシュ・システムの構成を完了するには:.....	416
パブリッシュ・セッションを再実行するには:.....	434
パブリッシュ・セッションを監視するには:.....	421
ミラーリング先を作成するには:.....	336
ツリーの表示と表示切替えの権限を構成するには:.....	161
アセットを非承認にするには:.....	449
ホームページの URL を決定し、サイトをテストするには:.....	415
アセット以外の表に対してリビジョン追跡を無効にするには:.....	519
アセット以外の表に対してリビジョン追跡を有効にするには:.....	515
アセットに対してリビジョン追跡を有効にするには:.....	514
アセットに対してチェックアウトを消去するには:.....	520
アセットの無効化を解除するには:.....	417
データベース情報をダウンロードまたは表示するには:.....	569
リアルタイム宛先定義を作成するには:.....	405
エクスポート開始ポイントを作成するには:.....	322
エクスポート先を作成するには:.....	316
アセットのキャッシングを構成するには:.....	552
エクスポートされるファイルのルート・ディレクトリを設定するには:.....	315
エクスポートされるファイルのルート・ディレクトリを設定するには:.....	355
時間指定アクション・イベントを設定するには:.....	208



# 索引

## ACL

バッチ・ユーザー・アカウント 314

## ACL (アクセス制御リスト)

SystemACL 表 598

システムとサンプル・サイトのユーザーへの割当て 604

データベース表 78

デフォルトのシステム ACL 79, 598

バッチ・ユーザー 314

ビット・マスク番号 598

ページ・エントリ 78

ページへの割当て 85

ミラー・ユーザー 334, 380, 403

ユーザー・アカウント 77

ユーザー管理のロール 76

リスト 81

ロール 77, 80

権限 598

作成 80

削除 83

制限メッセージ 88

説明 77

追加 80

表への割当て 84

編集 82

## API

エクスポート 243

ディレクトリ・サービス 94

ミラーリング 243

## assettypes

スタート・メニューの値 142

## BLOB (バイナリ・ラージ・オブジェクト)

エクスポート時のファイル 318

## BlobServer

セキュリティ 112

## CacheManager

Satellite Server の通信 330

サーバーへのミラーリングのパブリッシュ・セッション後にページ・

キャッシュをリフレッシュ 330

## DefaultReader ユーザー

セキュリティ 111

## ID

訪問者 615

## Oracle WebCenter Sites

### Engage

VisitorAdmin ACL 602

必須の ACL 605

## PubSessionID

PubSession 表 379

パブリッシュ履歴ファイル 379

## Satellite Server

正しく構成されていない場合の症状 385

## SiteCatalog 表

ACL 78

## targets

変数 184, 206

## URL

サイトをテストするための決定 345, 414

特定のサブレットの URL のマッピング 115

## WebCenter Sites

- データベース 611
- 電子メール機能 202
- 配信システムの特定のフォームの無効化 115
- Word
  - サイト・デスクトップのテンプレート 474
- XML へのアセットのエクスポートのパブリッシュ
  - パブリッシュの宛先の作成 355
  - ファイル名 354
  - ルート・エクスポート・ディレクトリの指定 355
  - 結果のテスト 357
  - 構成 354
- 「サイト管理者」タブ
  - xceladmin ACL 603
- 「ワークフロー・グループ」タブ
  - 作成 165
- 「ワークフロー」タブ
  - xceladmin ACL 603
- 「管理」タブ
  - xcleadmin ACL 603
- アクション
  - グループ・デッドロック 175, 190
  - ステップ 172, 188
  - デッドロック 174, 189
  - 委任 175, 187
  - 作成 204
  - 削除 207
  - 時間指定 170, 183, 186
  - 編集 207
- アセット
  - チェックアウトの消去 ( 管理者 ) 520
  - パブリッシュの保留 284
  - パブリッシュ後に宛先で変更済とマーク 329
  - パブリッシュ中にロック 250
  - ミラーリング・キューとフレックス・アセット 329
  - ミラーリング・キューとベーシック・アセット 329
- アセット・タイプ
  - サイト DocLink に対する有効化 476
  - サイト・デスクトップに対する有効化 466
  - サイトに対する無効化 134
  - サイトに対する有効化 131
  - リビジョン追跡の無効化 518
  - リビジョン追跡の有効化 514
  - ロケールの決定 461
  - 宛先で欠落している場合 381
- イベント
  - APPEVENT 616
  - パブリッシュ 249
  - 時間指定アクション・イベント 207
- インストール
  - サイト DocLink のクライアント 482
- エクスポート開始ポイント
  - 作成 322
  - 定義 312
  - 必要な数 312
- エラー・メッセージ
  - パブリッシュ 379
- エレメント
  - ワークフロー 183
- キュー
  - エクスポート・パブリッシュ・キュー 301
  - ミラー・パブリッシュ・キュー 329
- グループ、ワークフロー
  - タブ 165
  - 同期ステップ 175
- グループ・デッドロック・アクション
  - デッドロック電子メールの送信 190
  - 計画 190
- コンテンツ・コントリビューター
  - ユーザー 101
- サーバーへのミラーリングのパブリッシュ
  - ターゲット・システムの設定 333
  - ターゲット宛先の初期化 340, 409
  - パブリッシュの宛先の作成 336
  - ミラー・ユーザーの識別 334
  - ミラーリング・キュー 329
  - 結果のテスト 345, 414
- サイト
  - アセット・タイプの無効化 134
  - アセット・タイプの有効化 131
  - ロール 88
  - 作成 120
  - 削除 125
  - 編集 125
- サイト DocLink
  - クライアント・アプリケーションのインストール 482

- スタート・メニュー・アイテムの作成 480
- ドキュメント・タイプ 479
- フィールドの指定 477
- ユーザー 482
- 構成 476
- 構成のテスト 483
- 説明 475
- 必須の ACL 605
- サイト・デザイナー
  - 必要とされる ACL 605
- サイト・デスクトップ
  - .dot ファイル 474
  - RemoteClient ACL 601
  - WebCenter Sites のツールバー 468
  - スタート・メニュー・アイテムの作成 470
  - ユーザー 471
  - 構成 465
  - 構成のテスト 473
  - 必須の ACL 605
- サイト管理者
  - ユーザー 100
- システム構成
  - バッチ・ユーザー 314
- スケジュール
  - パブリッシュ・イベント 249
  - 時間指定アクション・イベント 207
- スタート・メニュー
  - デフォルトの assettype 値 142
- スタート・メニュー・アイテム
  - 「検索」リスト用 146
  - 「新規」リストの作成 141
  - サイト DocLink 480
  - サイト・デスクトップ 470
  - フィールド値の設定 145, 149
  - 設定されるフィールド値 139
  - 定義 139
- ステップ
  - すべて投票ステップ 173
  - アクション 172, 183, 188
  - 開始ステップ 171, 216
  - 計画 192
  - 作成 217
  - 削除 224
  - 終了ステップ 218
  - 条件 172
  - 説明 171
  - 同期ステップ 175
  - 編集 221
- ステップ・アクション
  - パブリッシュの承認 188
  - パブリッシュの承認の構成 206
  - 割当て電子メールの送信 188
  - 拒否電子メールの送信 188
  - 計画 188
- ステップ条件
  - 「サンプル」ステップ条件 189
  - 計画 189
  - 作成 204
  - 説明 189
- セキュリティ
  - ACL 110
  - BlobServer 112
  - cc.security プロパティ 110
  - DefaultReader 111
  - URL 115
  - アセットのアクセス制御 199
  - テスト 117
  - デフォルト・パスワードの変更 114
  - プロパティ 113
  - 機能権限とアセット 176
  - 構成 113
  - 配信システムでの Sites フォームの無効化 115
  - 様々なシステムでの目的 112
- ソース
  - 定義 247
- チェックアウト
  - リビジョン追跡での有効化 510
  - 管理機能による消去 520
  - 消去 510
  - 明示的 512
- チェックイン
  - リビジョン追跡での有効化 510
  - 明示的 512
- ツリー・タブ
  - ソート順序 167
  - デフォルト 162
  - ロール 88
  - ワークフロー・グループ 165
  - 作成 163
  - 削除 166
  - 定義 162
- テスト
  - セキュリティ対策 117

- データベース
  - すぐに大きくなる表 611
- データベース表
  - ACL 78, 84
  - VMVISITOR 615
  - VMVISITORALIAS 615
  - VMVISITORSCALARVALUE 615
  - VMVISTORSCALARBLOB 616
  - VMz 616
  - すぐに大きくなる 611
  - ミラーリングの初期化用の補助表 331
  - リビジョンが追跡される行のロック解除 520
  - リビジョン追跡 512
  - リビジョン追跡の無効化 519
  - リビジョン追跡の有効化 514
- ディスクへのエクスポートのパブリッシュ
  - エクスポート・キュー 301
  - エクスポート開始ポイントの作成 322
  - パブリッシュの宛先の作成 316
  - ルート・エクスポート・ディレクトリの指定 315
  - 結果のテスト 325
  - 構成 313
  - 説明 300
- デッドロック
  - アクション 174
  - グループ・デッドロック 175
  - 解決 173
  - 定義 173
  - 防止 174
- デッドロック・アクション
  - デッドロック電子メールの送信 189
  - 計画 190
- トラブルシューティング
  - パブリッシュ 379
  - ロケール問題 460
- バイナリ訪問者属性値
  - 保存場所 616
- バッチ・ホスト
  - 正しく構成されていない場合のエラー 384
- バッチ・ユーザー
  - ACL 314
  - 正しく構成されていない場合のエラー 384
  - 説明 249
- 必要な ACL 314
- パブリッシュ
  - URL 接頭辞のマッピング 322
  - XML へのアセットのエクスポートの宛先 355
  - XML へのアセットのエクスポート用のエクスポート・ディレクトリ 354, 355
  - すべての承認済アセット、パブリッシュ・ステータスに無関係 378
  - エクスポートされるファイルのディレクトリ・パス 317
  - エクスポート先 316
  - エラー・メッセージ 379
  - サーバーへのミラーリングの宛先 336
  - サイトのテスト 325, 357
  - ディスクへのエクスポートのエクスポート・ディレクトリ 315
  - トラブルシューティング 379
  - ミラー・ユーザーの名前とパスワードの設定 334
  - メッセージ 379
  - 定義 243
  - 履歴 376
  - 履歴ログ・ファイル 379
- パブリッシュ・イベント
  - オーバーライド 371
  - 作成 365
  - 編集 370
  - 例 367
- パブリッシュ・エラー
  - アソシエーションが存在するアセットと DB2 386
  - クリーンアップ失敗 382
  - コンプレックス・アセットまたはフレックス・アセットを宛先で保存できない 383
  - コンプレックス・アセットまたはフレックス・アセットを配信できない 383
  - システムが停止 385
  - セッションが終了しない 384
  - セッション失敗 382
  - パブリッシュ後にページがリフレッシュされない 385
  - ミラー・ユーザーの不適切な ACL 380
  - ミラー・ユーザーの不適切なユーザー名またはパスワード 380

- ミラーリング先が正しくない 381
- 宛先で欠落している表 381
- 宛先に接続できない 382
- パブリッシュ・コンソール
  - パブリッシュ履歴の調査 376
- パブリッシュ・システム
  - エクスポート・キュー 301
  - サーバーへのミラーリングの結果のテスト 345, 414
  - ファイアウォール 335, 404
  - ミラーリング・キュー 329
- パブリッシュ・スケジュール
  - 「パブリッシュ・イベント」も参照。
- パブリッシュ・セッション
  - 「パブリッシュ・コンソール」で表示 374
  - 説明 250
  - 必要なディスク領域の容量 385
- パブリッシュされた参照
  - サーバーへのミラーリング 377
  - ディスクへのエクスポート 377
- パブリッシュの宛先
  - XML へのエクスポート用の作成 355
  - サーバーへのミラーリングの作成 336
  - ディスクへのエクスポート用の作成 316
  - 初期化 340, 409
  - 説明 247
  - 複数アセットの承認 362
  - 編集 363
- パブリッシュの承認ステップ・アクション
  - 構成 206
- ファイル名、ディスクへのエクスポート BLOB 318
- フィールド値の設定
  - スタート・メニュー・アイテム 145, 149
- フラッシュ
  - セッション・オブジェクト (scratch) 表 617
  - 非アクティブ・データ 616
- フレックス・アセット
  - フレックス・アセット用のミラーリング・キューの作成 329
  - 依存性 277
- プレビュー
  - 個別のブラウザ・セッション 485
- プロパティ
  - セキュリティ 113
  - パブリッシュ後に宛先で未承認とマークされているアセット 347
- ベーシック・アセット
  - ミラーリング・キュー 329
  - 依存性 272
- ページ・キャッシュ
  - サーバーへのミラーリング後にリフレッシュ 330
- ミラー・ユーザー
  - エラー・メッセージ 380
- 作成 333
- 識別 334
- 説明 330
- ミラーリング・キュー
  - キューのアイテムの解凍 329
  - フレックス・アセット 329
  - ベーシック・アセット 329
- ミラーリング先の初期化
  - ミラーリング先の設定 340, 409
  - 開発から管理へのサイトの移動 360
  - 配信システムへのサイトの移動 361
- ユーザー
  - ACL 77
  - コンテンツ・コントリビュータにする 101
  - サイトのリスト 130
  - サイト管理者にする 100
  - セキュリティのためのデフォルト・ユーザーの変更 114
  - パブリッシュ用バッチ・ユーザー 314
  - ミラー・ユーザー 333
  - ユーザー・プロファイル 105
  - ユーザーへのサイトのアクセス権限の付与 127
  - ユーザーへのロールの割当て 127
  - ユーザー管理のロール 76
  - ワークフロー管理者にする 100
  - 作成 96, 97
  - 削除 103
  - 全体管理者にする 99
  - 編集 103
  - ユーザー・プロファイル
    - 作成 105
  - ユーザー管理
    - サイト 28
    - 概念の概要 76

- ユーザー属性
  - 追加 106
- リビジョン追跡
  - アセット・タイプに対する無効化 518
  - アセット・タイプに対する有効化 514
  - アセットのロック解除 520
  - アセット以外のデータベース表に対する無効化 519
  - アセット以外のデータベース表に対する有効化 514
  - アセット以外の表 512
  - アセット以外の表の行のロック解除 520
  - ルート・ストレージ・ディレクトリ 515
  - 暗黙的および明示的なチェックアウトとチェックイン 512
  - 格納するバージョン数の変更 515
  - 設定の編集 515
- ルート・エクスポート・ディレクトリ XML へのアセットのエクスポート 355
- ロール
  - ACL との関係 77, 80
  - AdvancedUser 100, 101, 102
  - GeneralAdmin 99
  - SitesUser 102
  - サイトのユーザー 130
  - スタート・メニュー・アイテム 139
  - ユーザーへの割当て 127
  - ワークフローのための決定 182
  - ワークフローの構成に必要 180
  - 管理者に必要 606
  - 作成 89
  - 削除 91
  - 編集 90
- ロールバック
  - 定義 510
- ログ・ファイル
  - futuretense.txt 379
  - パブリッシュ履歴 379
- ロケール
  - Sites インタフェース 458
  - アセット・タイプ 461
  - サイト・デスクトップ 472
  - システム・デフォルトの指定 458
  - プロパティ 459
  - 単一言語の制限 461
- ワークフロー
  - 「アクション」、「条件」、「デッドロック」、「状態」、「ステップ」、「時間指定アクション・イベント」および「ワークフロー・プロセス」も参照。
  - アクション 171, 172
  - エレメント 183
  - グループ 175
  - グループ・デッドロック・アクション 175
  - スタート・メニュー・アイテムによる設定 140
  - ステップ 171
  - デッドロック 173
  - プロセス 170
  - プロセスのテスト 224
  - ロール 88
  - ワークフローへのアセットの配置 176
  - 委任アクション 175
  - 割当て 170
  - 機能権限 176
  - 計画 181
  - 構成 201
  - 構成に必要なロール 180
  - 作業の移動 226
  - 参加者 170
  - 終了 179
  - 条件 172
  - 状態 170
  - 説明 170
  - 電子メール・オブジェクト 183
  - 電子メール変数 185
  - 投票 171
  - 変数 184
- ワークフロー・プロセス
  - 期限 178
  - 作成 212
  - 削除 223
  - 定義 170
  - 編集 221
- ワークフロー管理者
  - ユーザー 100
- 宛先、パブリッシュ
  - 正しくない場合のエラー・メッセージ 381
- 宛先ディレクトリ
  - XML へのアセットのエクスポート 355
  - ディスクへのエクスポート 302
- 依存性、構成

- 不明 301
- 依存性、承認
  - CSElement アセットと SiteEntry アセット 276
  - フレックス・ファミリー 277
  - ベーシック・アセット 275
  - 訪問者データ・アセット 277
- 委任アクション
  - 計画 187
- 移行
  - あるシステムから別のシステムへのサイト 360
- 移動
  - あるシステムから別のシステムへのサイト 360
- 解決
  - デッドロック 173
  - リンク 318
- 開始ステップ
  - 「ステップ」も参照。
  - 作成 216
  - 説明 171
- 開発システム
  - セキュリティの目的 112
- 割当て
  - サイト間 183
  - 委任 175
  - 期限 178
  - 消去 175, 226
  - 説明 170
- 管理システム
  - サイトの移動 360
  - セキュリティの目的 112
- 管理者
  - サイト管理者にする 100
  - ワークフロー管理者にする 100
  - 全体管理者にする 99
  - 必要とされるロール 606
- 期限
  - プロセス 178
  - 割当て 178
- 機能権限
  - 計画 199
  - 削除 224
  - 説明 176
  - 編集 221
- 計画
  - グループ・デッドロック・アクション 190
  - ステップ・アクション 188
  - ステップ条件 189
  - デッドロック・アクション 190
  - ロール 182
  - ワークフロー・ステップ 192
  - ワークフロー・プロセス 181
  - ワークフロー状態 191
  - 委任アクション 187
  - 機能権限 199
  - 時間指定アクション 187
  - 電子メール・オブジェクト 186
- 検索
  - スタート・メニュー・アイテム 146
- 権限
  - ACL 598
- 構成
  - XML へのアセットのエクスポート 354
  - システムのデフォルト・ロケール 458
  - セキュリティ対策 113
  - ディスクへのエクスポート 313
- 作成
  - ACL 80
  - XML へのエクスポートのパブリッシュの宛先 355
  - 「新規」タイプのスタート・メニュー・アイテム 141
  - エクスポート開始ポイント 322
  - サーバーへのミラーリングに対するパブリッシュの宛先 336
  - サイト 120
  - スタート・メニュー・アイテムの検索 146
  - ツリー・タブ 163
  - ディスクへのエクスポートのパブリッシュの宛先 316
  - バッチ・ユーザー 314
  - ユーザー 96, 97
  - ユーザー・プロファイル 105
  - ロール 89
  - ワークフロー・アクション 204
  - ワークフロー・ステップ 217
  - ワークフロー・プロセス 212
  - ワークフロー開始ステップ 216
  - ワークフロー条件 204
  - ワークフロー状態 209
  - 終了ステップ 218
  - 電子メール・オブジェクト 202

## 削除

- ACL 83
- サイト 125
- ステップ 224
- ツリー・タブ 166
- ユーザー 103
- ロール 91
- ワークフロー・アクション 207
- ワークフロー・プロセス 223
- ワークフロー条件 207
- ワークフロー状態 211
- 機能権限 224
- 電子メール・オブジェクト 204

## 参加者

- サイト間 183
- 説明 170
- 選択方法の決定 182

## 参照

- パブリッシュされた参照 377

## 時間指定アクション

- 計画 187
- 説明 186
- 電子メールの送信 187
- 例 170

## 時間指定アクション・イベント

- スケジュール 207

## 終了ステップ

- 作成 218

## 消去

- セッション・オブジェクト (scratch)
  - 表 617
- チェックアウト 510
- デッドロック 173
- ワークフローの割当て 226
- 非アクティブ・データ 616

## 条件

- 「サンプル」ステップ条件 189
- 計画 189
- 作成 204
- 削除 207
- 説明 189

## 状態

- 開始状態 171, 192
- 計画 191
- 作成 209
- 削除 211
- 終了状態 171, 192
- 説明 170

## 編集 211

## 設定値

- スタート・メニュー 142

## 全体管理者

- ユーザー 99

## 属性、ユーザー

- ロケール 105
- 電子メール 105

## 電子メール

- WebCenter Sites 電子メール機能の有効化 202

## 電子メール・オブジェクト

- 割当てメッセージ 185
- 割当て期限リマインダ 185
- 計画 186
- 作成 202
- 削除 204
- 説明 184
- 編集 203

## 投票

- 説明 171

## 配信システム

- サイトの移動 361
- セキュリティの目的 113

## 表

- VMVISITOR 615
- VMVISITORALIAS 615
- VMVISITORSCALARVALUE 615
- VMVISITORSCALARBLOB 616
- VMz 616

## 表記規則

- XML へのアセットのエクスポート・ファイル名 354

## 不明な依存性

- ディスクへのエクスポート 301

## 別名

- 訪問者の別名を格納する表 615

## 変数

- emailname 184
- targets 184, 206
- ワークフロー電子メール・オブジェクト 185

## 編集

- ACL 82
- サイト 125
- パブリッシュ・イベント 370
- パブリッシュの宛先 363
- ユーザー 103



- ユーザー・プロフィール 105
- ロール 90
- ワークフロー・アクション 207
- ワークフロー・ステップ 221
- ワークフロー・プロセス 221
- ワークフロー条件 207
- ワークフロー状態 211
- 機能権限 221
- 電子メール・オブジェクト 203
- 補助表
  - アセット・タイプ 340, 410
  - 例 331
- 訪問者
  - ID 615
  - 訪問者データ
    - 非アクティブ 616
  - 訪問者属性
    - バイナリ 616
    - 保存場所 615
  - 問合せ
    - 承認済アセット 250
  - 履歴
    - パブリッシュ 379
  - 履歴タイプ
    - 保存場所 616

